

目 次

総合教育科目

人文科学関係	3
社会科学関係	3
自然科学関係	4
系列外科目	5

語学科目

英語	15
ドイツ語	33
フランス語	36
中国語	39
スペイン語	43
イタリア語	46
朝鮮語	47
ロシア語	49

専門科目

哲学専攻	51
倫理学専攻	59
哲学・倫理学専攻共通科目	65
美学美術史学専攻	69
日本史学専攻	87
東洋史学専攻	95
西洋史学専攻	103
民族学考古学専攻	111
国文学専攻	117
中国文学専攻	127
英米文学専攻	131
独文学専攻	149
仏文学専攻	157
図書館・情報学専攻	171
社会学専攻	185
心理学専攻	205
教育学専攻	215
人間科学専攻	227

全専攻共通科目	241
---------------	-----

諸研究設置科目

教職課程	271
言語文化研究所特殊講座	272
メディア・コミュニケーション研究所	278
体育研究所設置講座	297
福澤研究センター設置講座	305
慶應義塾大学在学研修プログラム	308
国際センター設置講座	310
保健管理センター設置講座	333
情報処理教育室設置講座	335
アート・センター設置講座	337
知的資産センター設置講座	338
外国語教育研究センター設置講座	340

< 講義要綱の表記について >

1 学則について

今年度の文学部は、2007年度（平成19年度）に制定された【07学則】と2004年度（平成16年度）に制定された【04学則】の2種類の学則があり、同じ授業でも登録番号が異なります。各学則の適用対象者は、以下のとおりです。

【07学則】：文学部2008年度1・2年生在籍者

【04学則】：文学部2008年度3・4年生在籍者

なお、他学部・研究科の学生および科目等履修生・特別聴講生が文学部の科目を履修・聴講する場合は、【07学則】の科目を履修・聴講してください。

2 科目の種類について

【半期科目】

春学期か秋学期に週1コマ独立して開講される科目。半期ごとに履修可能。半期ごとに成績がつきます。

【セット科目（07学則のみ）】（科目名のうしろに（セ）と表記されます）

春学期・秋学期を通して開講される科目。半期のみの履修は不可。春学期・秋学期とも年度末に成績がつきます。なお、セット科目の評語は、春学期・秋学期ともに合格[A・B・C]か、または両方不合格[D・（未受験）]のいずれかです（春が合格で秋が不合格というような成績の組合せはありません）。

【通年科目】

1年間連続して週1コマ開講される科目。年度末に成績がつきます。

【要件科目（07学則のみ）】（科目名のうしろに（要）と表記されます）

春学期科目（ ）を修得しなければ、秋学期科目（ ）の履修が認められない科目。半期ごとに成績がつきます。**秋学期科目（ ）の履修申告も4月（注）に行いますが、春学期科目（ ）が不合格[D・（未受験）]だった場合、秋学期科目（ ）の履修は自動的に削除されます。**

（注）科目等履修生・特別聴講生は、春学期科目（ ）が合格だった場合のみ、秋学期に秋学期科目（ ）を追加登録できます。

【半期集中科目】

半期に週2コマ開講される科目。半期ごとに成績がつきます。

（表記例）

【07】英語（レベル1）（セ）（1）（春学期）	}	・・・07学則	セット科目（春・秋1単位ずつ）
【07】英語（レベル1）（セ）（1）（秋学期）			
【04】英語 A（レベル1）（2）（通年）		・・・04学則	通年科目（2単位）

（表記例）

【07】心理統計（要）（2）（春学期）	}	・・・07学則	要件科目（春・秋2単位ずつ）
【07】心理統計（要）（2）（秋学期）			
【04】心理統計（4）（通年）		・・・04学則	通年科目（4単位）

総合教育科目（系列科目）

人文科学関係

美術（4年生）（4）（通年）
美術（2・3年生）（2）（春学期）
美術（2・3年生）（2）（秋学期）

講師 中島 恵

授業科目の内容：

古代から現代にいたる西洋美術史の基礎的な理解を得ることを目的に、各時代・各地域の美術について、様式・意味解釈・社会的機能の観点から概説します。授業ではスライド（デジタル画像）や映像を使用します。

テキスト：

特に使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書：

『カラー版 西洋美術史』増補新装版，高階秀爾監修，美術出版社編集部・藤原えりみ編，美術出版社，2002年。
『ケンブリッジ 西洋美術の流れ』全8巻，岩波書店，1989年。
『世界美術大全集 西洋編』全29巻，小学館，1992 - 97年。
E.H.ゴンブリッチ『美術の歩み』友部直訳，上・下巻，美術出版社，1972 - 74年；『美術の物語』天野衛ほか訳，ファイドン，2007年。
H.W.ジャンソン・アンソニー・F.ジャンソン『西洋美術の歴史』木村重信・藤田治彦訳，創元社，2001年。
マルシア・ポイントン『はじめての美術史』木下哲夫訳，スカイドア，1995年。
『新潮 世界美術辞典』新潮社，1985年。
『オックスフォード 西洋美術事典』佐々木英也監修，講談社，1989年。

歴史（4年生）（4）（通年）
歴史（2・3年生）（2）（春学期）
歴史（2・3年生）（2）（秋学期）

日本中世の政治と宗教 講師 阿部 能久

授業科目の内容：

日本の中世における政治と宗教の諸相について講じます。中世の日本においては政治と宗教が密接に関連し相互補完的な関係を形成しており、互いに強い影響を及ぼしていました。本講義では特に、室町時代から安土桃山時代にかけての政治史を、宗教勢力の動向を視野に入れながらみることににより、両者の関係についての理解を深めていきたいと思います。

歴史の授業を前提に歴史の授業を行うので、ともに履修することが望ましいです。

テキスト：

授業中に適宜プリントを配付します。

参考書：

授業内で紹介します。

社会科学関係

近代思想史（4年生）（4）（通年）
近代思想史（2・3年生）（2）（春学期）
近代思想史（2・3年生）（2）（秋学期）

ドイツ近代社会思想における自由と共同

講師 針谷 寛

授業科目の内容：

ヨーロッパ社会思想史における「市民社会」概念の変遷を手がかりとしながら、西欧近代社会とその思想の諸問題を検討する。材料

としてはカント、ヘーゲル、マルクスなどドイツ近代の思想家の社会理論を重点的に取り上げる予定。これらの理論を扱う際には歴史的なコンテキストの中で考察することに努める。

テキスト：

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

講義の中で紹介する。

経済学（4年生）（4）（通年）
経済学（2・3年生）（2）（春学期）
経済学（2・3年生）（2）（秋学期）

[春] 経済学部 教授 丸山 徹

[秋] 経済学部 教授 尾崎 裕之

【春学期】

授業科目の内容：

春学期には主としてミクロ経済学の基礎理論とその応用について述べる。

1. 消費者の行動
2. 生産者の行動
3. 市場の均衡
4. 独占と寡占
5. 市場機構と経済の効率

テキスト：

丸山徹『新講・経済原論』第二版，岩波書店 平成18年

【秋学期】

授業科目の内容：

秋学期にはマクロ経済学の講義を行う。特に代表的なアプローチとして新古典派のアプローチとケインズのアプローチの2つを解説する。

法学（憲法を含む）（4年生）（4）（通年）

法学（憲法を含む）（2・3年生）（2）（春学期）

法学（憲法を含む）（2・3年生）（2）（秋学期）

現代社会と法 講師 松浦 聖子

授業科目の内容：

社会構造の複雑化，財の流通の加速化により，我々を取り巻く法的環境は極めて多様化している。一人の人間は，国民として，家族として，個人として，または消費者として，あるいは専門家として様々な形で法と関わる。特に，個人が社会と関わる上で避けることのできない「契約」は，現代社会の諸問題を理解する上でも，重要なシステムである。本講義は，法学入門としての基礎知識の理解を徹底するとともに，現代社会に特徴的な法的問題に対する理解を深めることを目標とする。

テキスト：

- ・石川明編「フレームワーク法学入門」不磨書房
- ・コンパクトタイプの六法（2008年度版）

参考書：

- ・伊藤正巳・加藤一郎編「現代法学入門」有斐閣双書
- ・碧海純一「法と社会」中公新書
- ・田中成明「法的空間」東京大学出版会

自然科学関係

【07】【04】基礎化学（2）（春学期）

化学反応がなぜ起こるのか 教授 大場 茂

授業科目の内容：

周期表をみてわかる通り，この宇宙に存在する元素は高々100種類にしかなりません。そのうち，水素H，炭素C，窒素N，酸素Oなど特定のものが重要な働きをしています。化学物質は単体と化合物とに分類されますが，化合物の基本単位は一般には分子です。分子中

の原子は電子を媒介として結合しています。元素はその電子配置の違いにより、それぞれ個性をもっており、それが化学結合や反応性に反映します。この講義の到達ゴールは、化学の基本的な考え方(概念)がわかるようになることです。

テキスト：

講義では毎回プリントを配布します。

人類学(4年生)(4)(通年)

人類学 (2・3年生)(2)(春学期)

人類学 (2・3年生)(2)(秋学期)

人類の過去・現在・未来 講師 吉田 俊 爾

授業科目の内容：

今、人類を取り巻く問題をざっと挙げてみても、環境破壊・人口増加・食料不足・人種差別・民族紛争・テロリズムなど、枚挙にいとまがない。残念ながらいずれの問題もいわゆるヒトがつくり出している問題なのである。そして、各問題は有機的に関連し合っている。世界の政治・経済機構、研究・教育機関、宗教組織、そして個人までもがこれらの問題の解決を第一の課題におかずして、その解決は遠くおよばないであろう。人類を取り巻く上記の諸問題を解決できなければ、人類は滅亡に至ることは今や明白である。今日、やっと環境に関する世界会議が開催されるようになった。今後の課題としては、これからの諸問題に対して個人個人が何をしなければならぬか、何ができるかということである。そのためには、まず私達が自分自身を知ることである。そのために生物としてのヒトを探求するのが形質人類学である。授業では、基本的な人体構造の理解を軸として、形質人類学の課題(ヒトの起源と進化、変異、日本人の起源など)、日常のトピックスについて解説します。

テキスト：

片山一道、五百部裕他：「人間史をたどる」 自然人類学入門
朝倉書店

参考書：

(1) 中原 泉著：歯の人類学 医歯薬出版

(2) 片山一道著「古人骨は生きている」角川書店

数学(4年生)(4)(通年)

数学 (2・3年生)(2)(春学期)

数学 (2・3年生)(2)(秋学期)

行動科学における数学 講師 松岡 勝 男

授業科目の内容：

数学は、自然科学、工学はもとより、社会科学、人文科学におけるいろいろな現象の解明のための基本的な道具としての役割を果たしている。そこで、テーマとしては、

(1) 現代数学の最も重要な基礎をなし、哲学や論理学の現代化にも著しい影響を与えている「集合論」

(2) 確率論をはじめとして、物理学、工学、統計学、制御理論、学習理論、OR など、非常に広汎な分野に現れる「エントロピーとマルコフ連鎖」

(3) 経済、社会、政治などで現れる競争状態の数学的モデルを扱う「ゲームの理論」

などについて、適宜選択の上、「行動科学における数学」という立場から講義する。

テキスト：

特に指定しません。

【07】【04】生命科学概論(2)(秋学期)

生命科学とはどういった学問か？

教授 金子 洋 之

授業科目の内容：

分子生物学の技術発展に伴い、生物学は大きく変貌を遂げつつある。その実体として、化学、物理学、地球科学などの理学分野のみならず、生物学が医学・薬学・工学・農学などの理系の研究領域と融合した結果、生命科学という呼称が一般化してきている。すなわ

ち、生命を探求するための枠を広げつつ、理系の学問としての再構築が新たになされている状態である。一方、生命科学は理系に限定された学問ではなく、文系を構成する経済学、法学、政治学、商学、そして文学にも深く関わるようになってきている。本講義では、「生命科学とはどういった学問か？」という切り口で、生命科学の基盤をなす多様な学問領域を体系的に紹介する。

テキスト：

使用せず(プリントを配布する)

参考書：

なし

統計学(4年生)(4)(通年)

統計学 (2・3年生)(2)(春学期)

統計学 (2・3年生)(2)(秋学期)

統計的「推定」と「検定」の基礎

理工学部 教授 富田 豊

授業科目の内容：

1. 皆さんの受験時の偏差値はいくらでしたか？ところで偏差値って何ですか？どうやって計算するのですか？
2. 湖にいる魚の数ってどうやって数えるんですか？
3. アンケート調査をしたいのですが、どのように質問用紙を書いたらいいのですか？また集計はどうしたらいいのですか？
こんな質問に答えられるような授業をやりたいと思っています。

テキスト：

Excelによる統計入門：縄田和満、朝倉書店

参考書：

推計学のすすめ：佐藤信、講談社ブルーバックス

系列外科目

【07】【04】基礎情報処理(M)(2)(春学期)

社会学研究科 特別研究助教 石井 拓

授業科目の内容：

コンピュータや各種アプリケーションの操作方法について、入門レベルの講義と実習を行います。同時に、情報を処理する際に必要な考え方やネットワーク上でのコミュニケーションの注意点についても適宜解説します。コンピュータに不慣れな学生を想定していますが、履修者の要望に応じて適宜授業内容を変更します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業中に適宜紹介します。

授業の計画：

次の計画で講義を行います。

1. Windows XP の基礎
 2. Eメールの設定と送受信
 3. インターネットの活用
 4. ファイルの圧縮と解凍
 5. MS Word の基礎
 6. MS Excel の基礎
 7. MS PowerPoint の基礎
 8. ホームページの作成と公開
 9. その他
-

【07】【04】映画演劇論(2)(春学期)

映画(史)入門

講師 藤崎 康

授業科目の内容：

この講座は、「映画演劇論(秋学期)」とは別個の科目であるが、本講座では、フランスのリュミエール兄弟以来の世界映画史をざっと概説しつつ、古今東西の重要作品をビデオやDVDで紹介する(百

聞は一見に如かず・習うより慣れる)。あわせて、「映画の父」D・W・グリフィスが完成させたクローズ・アップ、ロング・ショット、切り返し、移動撮影、アイリス・イン/アウト、カット・バック(並行モンタージュ)などの映画技法を解説しながら、ハリウッド古典映画、ドイツ表現主義、イタリア・ネオレアリズモ、フランス・ヌーヴェルヴァーグ、日本映画の黄金期、中国映画、香港映画、台湾映画、イラン映画、ポルトガル映画などにも微かに言及する。しかし理想的には、「森を見せて森を見せる」のではなく、「森を見せて木を見せる」のでもなく、「木を見せて森を見せる」授業をめざしたい。この場合の森とはむしろ、「映画史」という迷宮であり、木とは1本のフィルムやその断片のことである。

テキスト：

特になし。

参考書：

教室にて指示。

【07】【04】映画演劇論 (2)(秋学期)

世界映画の現在進行形 講師 藤崎 康

授業科目の内容：

この講座は、「映画演劇論 (春学期)」とは別個の科目であるが、本講座では原則的に、映画の現在に焦点を絞りたい。たとえば中国のジャ・ジャンクー、ニ・イン、台湾のホウ・シャオシェン、エドワード・ヤン、日本の黒沢清(明ではない)、青山真治、アメリカのガス・ヴァン・サント、M・ナイト・シャマラン、クリント・イーストウッド……等々。しかし今や、フィルム・センターその他のレトロスペクティブ、サイレント作品をはじめとする多くの古典映画のDVD化などによって(“ツタヤ”は世界映画の贅沢なアーカイブだ!)、古い映画/新しい映画という区別が不可能になったことも事実だ。すなわち、時代の文脈から解放された新旧の映画を、まさに刻々に生起する 現在 として生きることが、われわれには可能になったのである……。何はともあれ、映画を、今この 事件 として体験しようではないか。時間の許すかぎり、ビデオやDVDで新旧さまざまな映画を紹介したいが、本講座における中心的な問いとは、映画の(反テレビ的な)面白さとは何か、である。

テキスト：

特になし。

参考書：

教室にて指示。

【07】【04】映画演劇論 (2)(春学期)

戯曲の面白さを知る 講師 佐野 語郎

授業科目の内容：

「劇的なものとは何か。劇的状況とは…」を考えながら、紀元前の古典劇から現代劇までの代表作数本を対象に、その作品構造を解き明かします。その際、上演された舞台や映画化された作品についてもビデオ上映の機会を設け、より具体的かつ多角的に鑑賞できるようにします。また、創作現場の視点から、映画と演劇のモチーフ・構成・演出の技法の違いを同一の物語を用いて比較対照することでその独自性を考え、さらに、事件史実のドラマ化の例(『アンネの日記』)も紹介します。後半には、戯曲という文学の面白さと実際に演出された作品を深く理解するために、現代劇の名作1本(『夕鶴』)にじっくり取り組み、鑑賞能力を高めます。

【07】【04】映画演劇論 (2)(秋学期)

創造という行為 講師 佐野 語郎

授業科目の内容：

優れた舞台や映画を観た時の強い感動はどこから来るのでしょうか？まず何よりも私たち自身の内奥に潜んでいるもの、そして劇作家や映画監督などのエネルギーや精神、さらに両者が共有する時代や社会状況にその源が在るに違いありません。この講義では、観客と創作者との関係にも着目しながら、創造という行為の実際を探っていきます。まず数人の劇作家や演出家・映画監督の仕事を通して、創

作の苦闘と喜びに触れ、さらに、日本の古典芸能や外国の名作映画のいくつかを選び、その魅力を具体的に味わうために、ビデオ鑑賞もします。また、日本演劇学会/演劇教育プロジェクトにおいて発表した「単位制総合高校における演劇の授業」の実践指導内容を紹介します。

【07】【04】芸術と文明(2)(春学期)

「舞踊の思想」 講師 松澤 慶信

授業科目の内容：

中世ヨーロッパの大学では、基本的な三学(trivium すなわち文法、修辞、論理 trivial という英語の形容詞はここから生まれた)と四学(quadrivium すなわち算術、音楽、幾何学、天文学)を修得すれば、修士号(Magister Artium:現在のM.A.)が与えられた。ところが現代では、学問が「総合から分析へ」と各方面に進歩した結果、領域の専門家とそれによる狭隘化をもたらした。今日では、本塾の文学部を例にとっても、学問は17の専攻に分かれ、専攻内ですらそれぞれの専門分野がより細分化している。そのため、中世のヨーロッパの知識人の目には、学生も教員も狭苦しいタコ壺の中で喘いでいるように見えるかもしれない現状を呈していることも事実であろう。

この閉鎖性を打破する試みがかなり以前から行われてきたことは確かである。比較 学と名付けられた学問の誕生もそのひとつといえよう。また文学部でも、大学の外から一流講師を招いて、「現代芸術」「詩学」と銘打った講座が設けられて来た。本講座も同様の試みとして、学問の名称にこだわることなく、文学、歴史、音楽、美術、演劇、舞踊、映画などの人文学(いや必要に応じて社会科学や自然科学の助けをも借りて)を縦横にクロスオーバーする主題を取り上げることが狙いである。

学問を総合的に見直すことが求められる今、「芸術と文明」という大きな枠組の設置には、少しでも学生、教員双方の視野を広げられればという願いが込められている。

「舞踊の思想」

身体論が注目されているようである。ロゴス中心主義への批判として、感性的でも、暗黙知でもなく、今度は非・知の戦略として「身体」ということらしい。ニーチェ自身は舞踊が好きだったのだろうか。ダンカンが「ツアラトストラ」が愛読書だったという。ベルグソンは舞踊について何も語ってくれていない。身体による芸術的営為である舞踊の思想とは何だろうか。身体論のモデルとしてではなく、舞踊を芸術全般の中でなんとか特化してみたい。

1. ダンスのジャンルと種類
2. テクネーとしての身体/メタの身体の知
3. 感性としての舞踊学/共振性
4. representational / ballet d'action
5. ジャンルに固有の形成法則 / 「牧神の午後」
6. roman 的なもの / 雰囲気 / 「Les Sylphides」
7. expressionism / 近代的自我の苦悩 / 「Affektos Humanos」
8. formalism / pas / Balanchine
9. post modern dance / ポスト・モダンダンス / ポストモダン・ダンス
10. 記号論的戯れ / 「Waltzer」
11. deconstructive / 「The Second Detail」
12. ヌーヴェル・ダンスとフランス国家の文化政策
13. contemporary dance

【07】【04】人の尊厳(社会と人権)(2)(春学期)

教授 安藤 寿康
教授 渡辺 秀樹
名誉教授 関場 武

授業科目の内容：

われわれを取り巻く国内外の情勢を眺めたとき、今日ほど人の尊厳の基盤が危機に瀕している時代はないのではないだろうか。国際情勢においては民族間の葛藤と危機が、国内には少年犯罪や同和問題、性差別や児童虐待、さまざまなハラスメント、いじめなどの諸

問題が、また科学の領域では遺伝子情報や生命操作に絡む倫理的危機が、そしてわが心のうちには自分自身の尊厳を見いだすことができずにさまざまわれわれ一人一人の精神的・思想的危機がある。これらは一見別々の問題のようでありながら、実は互いに連動しあっている。この講義は「知識を得る」ための授業ではない。これら多様な問題に自ら立ち向かっておられるさまざまな分野の専門家に毎回登場いただき、自らの経験や問題状況を語っていただく。学生諸君には、これらの問題について考え、さらにはみずからふり返って自分自身の考え方や生き方を問い直すきっかけをつかんでいただくことが、この講義の目的である。

【07】【04】愛とセクシュアリティ (2)(春学期)

教授 宇 沢 美 子
教授 巽 孝 之
教授 宮 坂 敬 造
准教授 岡 原 正 幸

授業科目の内容：

現代において、セクシュアリティは複雑な問題をはらんでいます。異性愛者、同性愛者、性同一性障害、性転換手術の是非、異性装をめぐる諸問題がニュースや新聞で報道されるようになり、セクシュアリティはより身近な概念になってきました。また科学技術による生殖方法の多様化による家族の概念に修正が求められている時代でもあります。同時に、性的マイノリティと呼ばれる人々に対する差別も浮かび上がってくる危険もはらんでいますし、またそれに伴う現実と法整備の乖離も問題となっています。本講座では、セクシュアリティを多角的・多面的に理解することを目的とし、性的嗜好性や生殖の問題のみならず、心理的な側面、家族問題、年齢問題などを学生のみなさんと一緒に考えていくことを目的とします。さまざまな分野の専門家を塾内外から講師としてお招きするオムニバス形式の授業を通じて、セクシュアリティの問題を総合的に考察していきます。

テキスト：

なし

参考書：

授業内で指示します

【07】【04】愛とセクシュアリティ (2)(秋学期)

教授 宇 沢 美 子
教授 巽 孝 之
教授 宮 坂 敬 造
准教授 岡 原 正 幸

授業科目の内容：

現代において、セクシュアリティは複雑な問題をはらんでいます。異性愛者、同性愛者、性同一性障害、性転換手術の是非、異性装をめぐる諸問題がニュースや新聞で報道されるようになり、セクシュアリティはより身近な概念になってきました。また科学技術による生殖方法の多様化による家族の概念に修正が求められている時代でもあります。同時に、性的マイノリティと呼ばれる人々に対する差別も浮かび上がってくる危険もはらんでいますし、またそれに伴う現実と法整備の乖離も問題となっています。本講座では、セクシュアリティを多角的・多面的に理解することを目的とし、性的嗜好性や生殖の問題のみならず、心理的な側面、家族問題、年齢問題などを学生のみなさんと一緒に考えていくことを目的とします。さまざまな分野の専門家を塾内外から講師としてお招きするオムニバス形式の授業を通じて、セクシュアリティの問題を総合的に考察していきます。

テキスト：

なし

参考書：

授業内で指示します

【04】実践自然科学(2)(秋学期)

実験要素を含む4年生のための自然科学

教授 大 場 茂
商学部 教授 福 澤 利 彦
法学部 准教授 小 林 宏 充

授業科目の内容：

実験やデモンストレーションなど、実験要素を取り入れて、自然科学の考え方や方法論を教えることに重点を置いた授業とします。全体説明のガイダンスの後、化学、物理学、生物学の3分野の教員が、それぞれの分野において、4回ずつ異なるテーマで授業を行います。実験要素を含むことが本科目の特徴であるため、受講生諸君が授業に参加して自ら考えることが必要となります。

テキスト：

特に指定しません。講義時に資料・プリントを配布します。

参考書：

特に指定しません。

【07】ロシア文学 (2)(春学期)

【07】ロシア文学 (2)(秋学期)

【04】ロシア文学(4)(通年)

20世紀のロシア文学 講師 沼 野 恭 子

授業科目の内容：

日露戦争、革命、内戦、社会主義体制、そしてペレストロイカ、ソ連崩壊...とロシアの20世紀は激動の時代だった。ロシア語文学は、国内に残った作家・詩人たちによる文学と、亡命文学のふたつに分かれた。こうした状況の中で作家・詩人たちは、どのような運命を背負わされ、どのような作品を残したのか。20世紀を代表するロシアの作家・詩人たちを取りあげて、社会や権力との関わり、作品の意義等を紹介していく。

テキスト：

とくになし。授業時にプリントを配布する。

参考書：

授業で紹介する。

【07】アラビア語 (セ)(1)(春学期)

【07】アラビア語 (セ)(1)(秋学期)

【04】アラビア語 (2)(通年)

アラビア語の世界とその文化
講師 師岡カリーマ、エルサムニー

授業科目の内容：

アラビア語は、20を超える国、2億人以上の人々が話す国連公用語の一つです。この授業では、アラビア語で文章を読み、自分を表現する力を身に付け、アラブ世界の文化や芸術、常識、メンタリティー、人々の生活などについて幅広い知識を修得してもらう事を目的としています。

テキスト：

特に指定しません。プリントを配付します。

参考書：

- ・「アラビア語入門」本田孝一(白水社)
- ・「恋するアラブ人」師岡カリーマ・エルサムニー(白水社)
- ・「アジア読本/アラブ」大塚和夫編(河出書房新社)

【07】アラビア語 (セ)(1)(春学期)

【07】アラビア語 (セ)(1)(秋学期)

【04】アラビア語 (2)(通年)

アラビア語入門 講師 栗 山 保 之

授業科目の内容：

アラビア語は、西アジアを中心とした諸地域で用いられている言語であり、さらに全世界に広がるイスラーム教徒の聖典コーランの言語でもあります。この授業では、このアラビア語に関して、文字

の読み方、書き方からはじめて、文法（初級）を習得することを目的としています。

テキスト：

佐々木淑子『アラビア語入門』（翔文社）

参考書：

随時、紹介します。

【07】イタリア語中級 A（1）（春学期）

【07】イタリア語中級 A（1）（秋学期）

【04】イタリア語中級 A（2）（通年）

講師 堤 康 徳

授業科目の内容：

対象は「イタリア語」既習者。あるいは、「初級」または「入門」を履修したのち、使用テキストの未習部分を独習した学生で、読解への意欲があれば履修可能です。

文法の知識をさらに深めること、そしてその知識を活かしながら簡単な文献を講読することを授業の目標とします。

春学期は、検定試験の受験希望者のために、過去の問題集を解きながら中級、上級文法の説明をするつもりです。

さらに、簡単なイタリア語の文章を書く練習をします。

テキスト：

プリント

【07】イタリア語中級 B（1）（春学期）

【07】イタリア語中級 B（1）（秋学期）

【04】イタリア語中級 B（2）（通年）

講師 マツジャ、フェデリカ

授業科目の内容：

このクラスでは、基本的な会話全般を習得し、イタリアの文化について知識を深めます。

毎回の授業の目的：A. リスニングを重視しながら話し言葉の理解力をつける。B. 日々の生活のなかのテーマのプレゼンテーションを通じて、会話の演習を行う。C. イタリア語の基礎的語彙と表現の増加と保持を目指す。D. 文法の基礎を固める。

クラスで：a. 2人またはグループでの会話の練習をする。b. テーマに関する表現と語彙を確認する。c. 前に出てきた表現や語彙を、ゲームやロールプレイなどの様々な練習によって定着させる。d. テーマに関連した文法と語彙について、深く掘り下げた練習をする。

教材に関しては、教科書とともに参考資料も使用する予定です。現在のイタリアの音楽と映像（映画、テレビのクイズ、コマーシャル、ドラマなどのビデオ）を使用して日常イタリア語会話を楽しみながら学んでいきます。

テキスト：

「Espresso I」（ALMA）： 6 課 10 課

【07】イタリア語上級（N）（1）（春学期）

【07】イタリア語上級（N）（1）（秋学期）

【04】イタリア語上級（N）（2）（通年）

講師 ビオンディ、マルコ

授業科目の内容：

今年度新たに開講される科目です。07 年度の「イタリア語」「イタリア語中級」修了程度で、さらに会話力、リスニング力をつけた学生が対象です。「イタリア語上級（S）」の履修には自信がないと逡巡する場合には、今年度は「N（Normale）」を履修して、「S（speciale）」へとすすむための実力と自信をつけてください。イタリアの諸相について知識を深めながら、会話と作文およびリスニングに焦点をしばって実践的なイタリア語力を身につけます。

テキスト：

Profilo di storia italiana (Guerra edizioni) + プリント

【07】イタリア語上級（S）（1）（春学期）

【07】イタリア語上級（S）（1）（秋学期）

【04】イタリア語上級（S）（2）（通年）

ルネサンスの文化 講師 ビオンディ、マルコ

授業科目の内容：

上級レベルです。ルネサンス時代の美術や歴史に興味を持つ学生を対象とします。主にルネサンス時代の歴史や文化全般にまつわる知識を深めるとともに、そうした話題での会話をこなせる力をつけること、また、ひとつのテーマについてイタリア語で文章をつくる作文力の増強を目指します。

テキスト：

プリント

【07】英語インテンシブ A（セ）（1）（春学期）

【07】英語インテンシブ A（セ）（1）（秋学期）

【04】英語インテンシブ A（2）（通年）

TOEIC 総合対策 講師 高木 眞佐子

授業科目の内容：

読み、聞くのバランスのとれた授業を目指します。Part から Part までを項目別に演習し、さらに総合練習問題で点数アップを図ります。600 点程度の方が年度終わりには 800 点程度の取得ができるように演習中心となります。

テキスト：

Longman's Preparation for the New TOEIC Test (Intermediate Course)

【07】英語インテンシブ B（セ）（1）（春学期）

【07】英語インテンシブ B（セ）（1）（秋学期）

【04】英語インテンシブ B（2）（通年）

検定英語のリーディングとリスニング

講師 星 美 季

授業科目の内容：

実際に外国で暮らしたり、英語でコミュニケーションを図ろうとする学生を対象に、「使える英語」の習得を目指します。毎回クラスの前半は文科系の学生にも興味の出る科学をテーマにしたビデオ教材を使いテスト形式のリスニングを練習します。後半は TOEFL のリーディングが軸となりますが他技能も伸ばすプラクティスを織り込みながら進める予定です。徐々にインプットの英語とアウトプットの英語の融合を目指します。

テキスト：

『サイエンスシャワー』朝日出版社 1700 円

【07】英語インテンシブ C（セ）（1）（春学期）

【07】英語インテンシブ C（セ）（1）（秋学期）

【04】英語インテンシブ A（2）（通年）

Writing and Thinking in English

講師 ロンベール、ラファエル

授業科目の内容：

This course is designed to help students become proficient thinkers, readers and writers. Students will learn to tackle sophisticated materials, support their ideas with a variety of evidence, and construct a sound argumentation on paper. As this course relies heavily on in-class participation and work, full attendance is required.

テキスト：

Oshima, Alice and Ann Hogue, eds. *Writing Academic English, 4th Edition*. New York: Pearson /

【07】英語インテンシブ D(セ)(1)(春学期)
【07】英語インテンシブ D(セ)(1)(秋学期)
【04】英語インテンシブ B(2)(通年)
Memoirs of America's Premier Japanologist
講師 ウェブスター, ダニエル

授業科目の内容:

この授業では、現在存命のもっとも優れた日本文学の英訳者と言われている Donald Keene の自伝を読み、それについて書きディスカッションをします。日本の文学だけでなく社会や文化について英語で書いたり話したりする力を向上させたい学生には、興味の持てるクラスになるのではないかと思います。

テキスト:

テキストについては、第一回目の授業の時に話します。

【07】古典ギリシア語初級 (セ)(1)(春学期)
【07】古典ギリシア語初級 (セ)(1)(秋学期)
【04】古典ギリシア語初級(2)(通年)
講師 我妻勇樹

授業科目の内容:

古典ギリシア語の文法を学びます。
ギリシア古典作品を読解するための基本的な力を身につけることを目標とします。

テキスト:

田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門』(岩波全書)

参考書:

授業内で指示します。

【07】古典ギリシア語中級 (1)(春学期)
【07】古典ギリシア語中級 (1)(秋学期)
【07】古典ギリシア語文献講読 (1)(春学期)
【07】古典ギリシア語文献講読 (1)(秋学期)
【04】古典ギリシア語中級(2)(通年)
【04】古典ギリシア語文献講読 (2)(通年)
講師 我妻勇樹

授業科目の内容:

古典ギリシア語の原典を時間をかけて読みながら、古代への教養を深めます。

テキストについては履修者と相談の上決定します。

テキスト:

こちらで用意します。

参考書:

授業内で指示します。

【04】古典ギリシア語中級(2)(通年)

休講

【07】現代ギリシア語初級 (セ)(1)(春学期)
【07】現代ギリシア語初級 (セ)(1)(秋学期)
【04】現代ギリシア語初級(2)(通年)
教授 西村太良
講師 ヴォルドカ, ゴイー

授業科目の内容:

現在ギリシアを中心に使用されている現代ギリシア語を初歩から学んでいきます。

東地中海地域の中世以降の複雑な歴史に興味を持つ人、カザンツァキスやセフェリスなどに代表される近現代ギリシア文学に関心のある人、あるいはギリシアを旅してみたい人はぜひ学んでほしいと思います。授業はテサロニキ大学の外国人のための現代ギリシア語の教科書を使って進めていきます。

テキスト:

「外国人のための現代ギリシア語」(テサロニキ大学)

【07】現代ギリシア語中級 (セ)(1)(春学期)
【07】現代ギリシア語中級 (セ)(1)(秋学期)
【04】現代ギリシア語中級(2)(通年)
講師 ヴォルドカ, ゴイー

授業科目の内容:

初級に続いて現代ギリシア語の文法、会話を学んでいきます。教科書は初級と同じものを使用しますが、随時プリントを配布し、生きたギリシア語に接する機会を作りたいと思います。

テキスト:

「外国人のための現代ギリシア語」(テサロニキ大学)

【07】スペイン語中級 (1)(春学期)
【07】スペイン語中級 (1)(秋学期)
【04】スペイン語中級(2)(通年)
ラテンアメリカの文化と社会
助教(有期) 井関睦美

授業科目の内容:

この授業はスペイン語を終了した学生、もしくはそれと同等の読解力を有する学生を対象とします。これまでに学習した文法や講読の知識を活用しながら、ラテンアメリカに関する理解を深めるとともに、さらなる読解力の向上を目指します。おもな作業は、中南米の歴史、文化、社会などに関する新聞・雑誌記事や書籍から抜粋した文章の講読になります。適宜、トピックに関連する視聴覚資料も使用していきます。

テキスト:

特に指定しません。

参考書:

適宜紹介します。授業には辞書を持参すること。

【07】中国語会話 (1)(春学期)
【07】中国語会話 (1)(秋学期)
【04】中国語会話 A(2)(通年)
中国語でしゃべらナイト 講師 小松 嵐

授業科目の内容:

会話中心の初級中国語コースです。
日常生活の様々な場面において、簡単なコミュニケーションが取れることを目指します。聞く・話す力を養うために、中国語を用いて授業を行います。口・耳を使って繰返し練習することにより、中国語の運用能力を身につけさせます。

テキスト:

未定

【07】中国語会話 (1)(春学期)
【07】中国語会話 (1)(秋学期)
【04】中国語会話 B(2)(通年)
講師 王 又民

授業科目の内容:

本课程教学主要目标是提高学生的汉语听说能力，重点在于通过多种形式的听说训练帮助学生熟练掌握汉语常用词汇，基本句型以及中国人习惯用的口语表达方法。让学生练习会话，复述课文和就某一话题进行成段以培养学生运用汉语自由表达，进行交际能力。教材拟选用北京语言大学出版社的《说汉语》。教学具体内容与教学进度将按照学生的实际水平和要求进行安排。

【07】朝鮮語上級 (1)(春学期)

【07】朝鮮語上級 (1)(秋学期)

【04】朝鮮語上級(2)(通年)

[春]講師 李 泰 文

[秋]教授 野 村 伸 一

【春学期】

授業科目の内容：

映画やドラマのシナリオを通して、話し言葉の奥行きを探求していきます。

字幕に圧縮された日本語だけでなく、原文にみられる文化的な意味を語彙、比喩、性差などの観点でみていくつもりです。

今学期予定している作品としては韓国映画『ウェディングキャンペーン』(原題『僕の結婚遠征記』, 2005年), 『グエムル 漢江(ハンガン)の怪物』(2006年)です。

シナリオ原文は授業の際にファイルで渡します。

テキスト：

映画のシナリオ原文

参考書：

・野村伸一“翻訳の世界：朝鮮語と日本語のばあい”，韓国朝鮮の文化と社会，韓国・朝鮮文化研究会，6, 2007. 10, pp. 149-205

・DVD『ウェディングキャンペーン』(ソニー・ピクチャーズエンタテインメント)

・『グエムル 漢江(ハンガン)の怪物』(ハピネット・ピクチャーズ)

【秋学期】

授業科目の内容：

春学期につづいて、映画やドラマのシナリオを通して、話し言葉の奥行きを探求していきます。

字幕に圧縮された日本語だけでなく、原文にみられる文化的な意味を語彙、比喩、性差などの観点でみていくつもりです。

今学期予定している作品としては韓国映画『ウェディングキャンペーン』(原題『僕の結婚遠征記』, 2005年), 『グエムル 漢江(ハンガン)の怪物』(2006年)です。

シナリオ原文は授業の際にファイルで渡します。

参考書：

野村伸一“翻訳の世界：朝鮮語と日本語のばあい”，韓国朝鮮の文化と社会，韓国・朝鮮文化研究会，6, 2007. 10, pp. 149-205

【07】トルコ語 (セ)(1)(春学期)

【07】トルコ語 (セ)(1)(秋学期)

【04】トルコ語 (2)(通年)

初級会話 講師 ヤマンルール, アイドウン

授業科目の内容：

初級文法を学習しながらトルコ語の初級会話を修得する。

テキスト：

プリントを配布します。

【07】トルコ語 (セ)(1)(春学期)

【07】トルコ語 (セ)(1)(秋学期)

【04】トルコ語 (2)(通年) 講師 野 中 恵 子

授業科目の内容：

トルコ語の初級文法全般を学びます。

テキスト：

開講時に配布します。

【07】日本語 A(セ)(1)(春学期)

【07】日本語 A(セ)(1)(秋学期)

【04】日本語 A(2)(通年) 講師 菅 野 高 志

授業科目の内容：

留学生対象の日本語の授業です。

・日本語の文章を正確に読み、内容について議論できるようになること。

・原文の内容を400字に縮約する練習を通して、読む力、書く力を強化すること。

以上の2つが目標です。

テキスト：

新聞の社説を主に使います。初めのうちは、こちらで用意します。

【07】日本語 B(セ)(1)(春学期)

【07】日本語 B(セ)(1)(秋学期)

【04】日本語 B(2)(通年)

留学生のための日本語 講師 戸 所 久 美 子

授業科目の内容：

・文学部の学生として、知っておきたい日本の歴史や社会についての知識を身につける。

・上記内容の理解、発表、討論等を通して、留学生として必要な日本語能力の習得と向上をめざす。

テキスト：

担当者作成教材

参考書：

授業中、適宜指示する。

【07】ペルシア語 (セ)(1)(春学期)

【07】ペルシア語 (セ)(1)(秋学期)

【04】ペルシア語 (2)(通年) 講師 ハギギ, セバンタ

授業科目の内容：

この授業は初めてペルシア語を学ぶ者を対象とし、ペルシア語の文字、発音から入り初歩的なペルシア語会話の習得を目標とします。実用会話ができるようになるには基本的な文法事項の習得も必要であり、授業の前半は文法、後半では会話の練習を考えています。

テキスト：

岡崎正孝著 基礎ペルシア語(大学書林)

その他、プリントを配布します。

【07】ラテン語初級 (セ)(1)(春学期)

【07】ラテン語初級 (セ)(1)(秋学期)

【04】ラテン語初級(2)(通年)

古典期のラテン語文法学習 講師 平 田 真

授業科目の内容：

インド・ヨーロッパ語の一員であると共にロマンス諸語の母体言語でもあるラテン語の基礎文法修得を目標とする。

テキスト：

樋口・藤井共著『詳解ラテン文法』(研究社)

参考書：

・逸身喜一郎著『ラテン語のはなし』(大修館書店)

・小林標著『ラテン語の世界』(中公新書 1833)

授業の計画：

通年で『詳解ラテン文法』を終える。全36章で、35章まで練習問題が付いているので、問題解読を中心に講義を進めていく。1回に1~2章ずつ進む。

成績評価方法：

平常点

質問・相談：

授業時間と終了後。

【07】ラテン語中級 (セ)(1)(春学期)

【07】ラテン語中級 (セ)(1)(秋学期)

【04】ラテン語中級(2)(通年)

言語文化研究所 専任講師 小池和子

授業科目の内容：

初等文法を一通り学び終えた学生を対象に、初等文法の知識を確認しつつ、実際のラテン語作家の作品を読む練習をする授業です。キケロー、カエサル、ネポース、セネカ、小ブリーニウス、スエートニウスなどの散文作家の作品から、比較的読みやすい箇所を選んで読んで行く予定です。

テキスト：

こちらで用意します。

参考書：

初回の授業で紹介します(辞書、文法書など)。

【07】ロシア語中級 (セ)(1)(春学期)

【07】ロシア語中級 (セ)(1)(秋学期)

【04】ロシア語中級(2)(通年)

ロシア語中級 講師 佐野洋子

授業科目の内容：

このクラスはロシア語文法を一年間でひとつおりの終了した方を対象とします。文法を復習しながら 19 世紀ロシア文学から小説の抜粋、詩を精読していき、ロシア語を正確に読む力をつけていきたいと思えます。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

辞書(できれば博友社、岩波書店、研究社のいずれか)を用意して下さい。

語 学 科 目

英語

【07】英語 (レベル1)(セ)(1)(春学期)	月曜1限
【07】英語 (レベル1)(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 A(レベル1)(2)(通年)	

Flash Fiction 助 教 吉 田 恭 子

授業科目の内容：

この授業ではさまざまな flash fiction (超短編) をテキストとして、文法の復習および読解力・語い力の育成、和訳と作文の練習を行います。

専門課程に必要な英語力の基礎を身につけることがこの授業の第一の目標ですが、毎回違った超短編を原文で読み切ることで、着実な達成感と英語を読む楽しみを体験してもらうのも目的です。

前期は短く平易な作品を選び、読解と文法の復習を中心に授業をすすめます。後期は短くても密度の濃い作品を読みすすめる一方で、聞きとりや英文要約の練習などを予定しています。また年間を通じて全文の朗読を必ず行います。

テキスト：

テキストは Web サイト keio.jp よりダウンロードしてください。

参考書：

毎週英和辞典を必ず持参のこと。

【07】英語 (レベル1)(セ)(1)(春学期)	火曜1限
【07】英語 (レベル1)(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 A(レベル1)(2)(通年)	

アメリカ短編小説に挑戦 教 授 宇 沢 美 子

授業科目の内容：

やさしいアメリカ短編小説を、基礎的な英文法の知識を確認しながら、精読します。丁寧に読み進めながら、文法、語彙、表現、訳出の能力の総合的な向上を目指します。なお春学期は特に文法の復習のために、毎回授業の最初に簡単な英文法クイズのプリントも課します。

テキスト：

Greg Costa, *American Short Stories: Exercises in Reading and Writing* (Harcourt, 2000).

参考書：

随時授業のなかで紹介します。

【07】英語 (レベル1)(セ)(1)(春学期)	水曜1限
【07】英語 (レベル1)(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 A(レベル1)(2)(通年)	

英文法基礎と応用読解 教 授 中 村 優 治

授業科目の内容：

年間を通じ英文法の復習と応用読解力の充実を目標とします。春学期には特に文法の復習に力をいれながら、基礎読解の授業をおこない、秋学期には、長めのまとまった英文を読みこなしながら応用力をつけるような授業にしたいと思っています。

テキスト：

英文法の復習には主にプリント教材を用いますが、読解用として次のテキストを使用する予定です。

Pulvers, Roger. (2005). *Setting the Stage: Articles and Essays about the State of our World Today*.

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期)	月曜2限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)	

講 師 赤 江 雄 一

授業科目の内容：

この授業は、語彙、文構造(文法)、パラグラフ、文章全体の4つのレベルにおいて総合的に、英文読解力を伸ばすことを目的とする。この目的に資するために、英文での要約など英語で書く基本的訓練も行う。

授業は、主に日本語で行うが、アクティビティーによって英語で行うこともある。

テキスト：

プリントを配布する。授業でとりあげるテキストは、歴史学・美術史・心理学・科学などの内容を扱った文章、さらに時事問題を論じる英字新聞の時事・論説記事を取りあげる予定である(学生の希望も助案する)。

参考書：

授業中に指示する。

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期)	月曜2限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)	

Sherwood Anderson を読む

講 師 黒 崎 真由美

授業科目の内容：

1920年代のアメリカ文学を代表する重要な作家 Sherwood Anderson の短篇集 *The Triumph of the Egg* を読みます。精読することによって英語読解力を養成することが第一の目的ですが、文学作品の鑑賞をも心がけます。

テキスト：

The Triumph of the Egg (研究社)

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期)	月曜3限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)	

新聞や雑誌の記事を読んで読解力養成

講 師 石 田 名都子

授業科目の内容：

新聞記事や雑誌記事を通して様々なトピックにふれ世界情勢を学びます。同時に、英文を正確に読みとり読解力や語彙力を高める事もこの授業の目的です。補助教材としてプリントも適宜使用します。

テキスト：

World Cross-section (Kaibunsha LTD, 2008)

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期)	月曜4限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)	

米英の高級紙を読む 講 師 石 田 名都子

授業科目の内容：

このクラスでは、英米の高級紙と言われる雑誌や新聞を教材に、世界各地の最新情報に目を向けながら英語力のさらなる向上をめざします。言語表現を正確に読みとるほかに、英語のパラグラフ構成やリーディングストラテジーも同時に学びます。適宜、補助教材のプリントも使用します。

テキスト：

English through the News Media : 2008 edition (Asahi Press)

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期) 月曜4限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)
C. S. ルイスのファンタジー
講師 高木 眞佐子

授業科目の内容:

児童文学を通読することにより、自然な口語表現を体得してもらいます。また、あらすじを自分なりの英語で表現する練習を通じ、表現力の演習にもつなげます。

テキスト:

The Lion, the Witch, and the Wardrobe by C. S. Lewis

参考書:

The Letters for Children by C. S. Lewis

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期) 火曜1限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)
読解からエッセイ作成へ 助教 徳永 聡子

授業科目の内容:

春学期にはさまざまなジャンルの散文で書かれた文章をプリント教材で読み、読解力向上を目指します。また後半には、文法の応用力をつけながらパラグラフ・ライティングの基礎も学習する予定です。秋学期にはアカデミック・ライティングの基礎を学びます。学年末には、自分で選んだテーマに関する資料を各自収集して読み込み、英文エッセイ(5枚程度)を書けるようになることを目指します。

テキスト:

- (1) 読み物用のプリント教材(教室、あるいは keio.jp 上で配布)
- (2) 教科書 Alice Oshima and Ann Hogue, *Introduction to Academic Writing*, 3rd Edition, The Longman Academic Writing Series, Level 3 (2006)

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期) 火曜2限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)
<人種を考える>の講読 准教授 足立 健次

授業科目の内容:

著者はアメリカの高名な文化人類学者ですが、ここに取り上げたテキストは専門的な内容のものではなく、一般向けに書かれた啓蒙書です。決して易しい英文とはいえませんが、これを丹念に読むことが人種問題について考えるための契機になればと思います。

テキスト:

Ashley Montagu, *What We Know About "Race"*(鶴見書店)

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期) 火曜3限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)
<トラの一族>の講読 准教授 足立 健次

授業科目の内容:

カラハリ砂漠を中心に南アフリカの人類学的調査研究を行っている、アメリカの人類学者の文章を精読します。野生動物に向けられた鋭い彼女の観察眼は、犬や猫といった、人間にとって身近な動物にも向けられています。ここではネコ科の動物たちが自然界を覗き込む窓として提供されており、この窓をとおして単にネコに対する理解のみならず、自然界への理解をも深めることができます。テキスト:

Elizabeth Marshall Thomas, *The Tribe of Tiger*(英宝社)

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期) 火曜3限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)
Read and Respond 講師 佐藤 理佳

授業科目の内容:

'Is Your English Dead or Alive?'

The aim of this course is to help the student enliven his/her English which has been neatly memorized and stored in his/her brain but has not had an opportunity to be practised in real life yet. Most of the time, we will be reading short stories and talking about them in small groups. The emphasis will be on developing the skill of reading English. There will, however, be many opportunities to practise and improve other skills, writing, speaking and listening, by writing essays, solving puzzles or making a speech in class.

テキスト:

Photocopies of course materials will be provided by the instructor. Short stories will include simplified versions of 'Liar!' by Isaac Asimov, 'The Wrong Order' by Elizabeth Taylor and 'Stop Thief' by Dan Jacobson.

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期) 火曜4限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)
Readings on Contemporary Topics 講師 松原 美智子

授業科目の内容:

This is an intermediate reading course. By reading articles on various contemporary topics, such as advertising, gender differences in language, and concept of beauty, students will learn to develop critical thinking skills and language proficiency.

テキスト:

Laurie Barton and Carolyn Dupaquier Sardinas. *North Star: Reading and Writing* (Intermediate). 2nd Edition. Longman

参考書:

Students are advised to have an English-English dictionary, such as the *Oxford Advanced Learner's Dictionary*.

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期) 火曜5限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)
講師 藤原 雅子

授業科目の内容:

英国 BBC ニュースのビデオを用いてリスニングの訓練をする。ニュース英語には(1)自然な速度(2)話題の幅広さ(3)語りの多様性(アンカーパーソン、リポーター、当事者や専門家など複数の人間が登場するため)など、英語力の増強をはかるための利点がある。ディクテーションを中心に、内容確認のための練習問題、口頭発表、語彙力の強化などを通して、リスニングの力のみならず総合的に英語力を伸ばすことをめざす。関連インターネット・新聞記事も適宜紹介する。

テキスト:

BBC *Understanding the News in English 5*(金星堂)

参考書:

BBC ニュースウェブサイト <http://news.bbc.co.uk/>

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期)	水曜1限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)	
Academic Reading	講師 小林 亜紀子

授業科目の内容：

この授業では、ただ漫然と与えられた英文を読むのではなく、主体的に読むことのできる力の養成を目指します。英文を主体的に読むことは、すなわち、自分なりの生き生きとした関心を持って英文に向き合い、そこで表現された思考を掴み取っていくことと言ってもよいかもしれません。大学生の知的好奇心を喚起するテーマとして、英字新聞や専門誌に掲載された文章を中心に、文化とアイデンティティ、グローバル化と少数者言語の危機、地球環境保護の問題、若者と食文化、情報通信端末使用の問題など、現代社会に関する興味深い話題を扱った英文を取り上げることを予定しています。実際に英文を読み進めるにあたっては、英文の論理構造の適切な把握（これは未知の単語の意味を文脈から類推して英文の流れに沿って最後まで読みすすめる力に結びつきます）と正確な読解力の向上に、特に重点を置きます。語彙増強にも取り組みながら、それぞれの専門分野で応用できる英文読解力を着実に培っていききたい。

テキスト：

プリント配布予定。

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期)	水曜1限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)	
現代イギリスの名作を読む	講師 高津 昌 宏

授業科目の内容：

John Bayley の *Iris and the Friends* (1999) を読む。Iris とはベイリーの妻であり、卓越した小説家であった Iris Murdoch のことである。彼女は晩年アルツハイマー病にかかり、夫妻は闘病生活を強いられた。その様子はベイリーによって *Iris: A Memoir* (1998) に記録されている。Iris and the Friends はその続編であり、ベイリーが妻の陥ったアルツハイマー病の末期の症状にいかに対処し、妻の死後の喪失感にいかに対処し、その悲しみをいかに克服していったかを記述している。Iris: A Memoir に劣らぬ感動の書である。

本年度はアルツハイマー病末期のアイリスを施設に入れるまでのベイリーの心の葛藤を描いたこの書のクライマックス部分、13章～15章（最終章）までを読み、ここの有るベイリーの文体に触れていきたい。

テキスト：

John Bayley, *Iris and the Friends* (ABACUS)

参考書：

ジョン・ベイリー 『愛のキャラクター』(高津昌宏監訳、南雲堂フェニックス)

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期)	水曜2限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)	
異文化理解を考える	講師 小林 亜紀子

授業科目の内容：

「ことばを通じて意味通じず」ということがあるように、異なる言語文化的背景を持つ人々とのコミュニケーションでは、自他の文化的共通性や差異性といった文化的側面への理解が円滑なコミュニケーション成立の重要な鍵を握るといっても過言ではありません。このような認識を出発点として、この授業では、文化とコミュニケーションの密接な関係について論じたアメリカのすぐれた文化人類学者 Edward T. Hall の著書 *The Hidden Dimension* を読みたいと思います。人類学、社会学、言語学、動物学、心理学などきわめて学際的なアプローチにより、異文化に属する人々がいかに異質の「感覚世界」に住み、異なる文化の型のスクリーンを通じて外界を捉えているかを興味深く論じたホルルの英文による文化論を読みながら、自明視し

ていた自文化を今一度客観的に見つめ直し、自他の文化に対する理解力や比較文化的視点を養っていききたい。授業では英文教材と音声教材を併用し、総合的な英語力向上を念頭に置きながら、英語で読み、思考する力と異文化理解力を磨いていきたい。

テキスト：

Edward T. Hall, *The Hidden Dimension* (松柏社)

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期)	水曜2限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)	
論説文を読む	准教授 坂 本 光

授業科目の内容：

比較的短めの論説文を、その論理的構成にも目を配りながら読み取る訓練を行う。使用テキストは、雑誌記事、新聞記事、書籍からの抜粋が中心。基本的には読解の授業だが、必要に応じて文法や語彙の点検・復習も行う予定。

テキスト：

原則としてプリントとして配付する。

参考書：

文法書、辞典類などについて、必要に応じて初回講義時に紹介する。必ずしも手持ちのものを買わず必要はない。

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期)	水曜3限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)	
ホラー作品の古典を読む	教授 宇 沢 美 子

授業科目の内容：

英米の古典的なホラー作品やサスペンス作品を読みます。書き手の発想の妙と英語を味わいながら、一気に、といたいところですが、一部難しそうところは逐語訳、それ以外は、内容を要約、意訳しながら読み進みます。

テキスト：

The Raven and the Monkey's Paw: Classics of Horror and Suspense from the Modern Library (Modern Library, 1998).

参考書：

随時授業のなかで紹介します。

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期)	水曜4限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)	
リーディング	講師 中 川 千 帆

授業科目の内容：

Earth, Life, Language, Time という四つのテーマについて、雑誌や新聞の記事、学術論文、あるいは文学作品など、理系・文系を問わず幅広いジャンルのテキストを精読していきます。その際、文法や構文を確認するだけでなく、どれだけテキストの内容を理解できたかということにも重点をおいていきます。

テキスト：

前沢浩子他 編注 『Scope』(2001)

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期)	水曜5限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)	
リーディング	講師 中 川 千 帆

授業科目の内容：

Mind, Body, Love, Sexuality という四つのテーマをもとに、雑誌や新聞の記事、学術論文、あるいは文学作品など、理系・文系を問わず幅広いジャンルから集められたテキストを精読していきます。その際、文法や構文を確認するだけでなく、どれだけテキストの内容を理解できたかということにも重点をおいていきます。

テキスト：

前沢浩子他 編注『Prism』研究社（2001）

【07】英語 （レベル2）（セ）（1）（春学期） 木曜1限
【07】英語 （レベル2）（セ）（1）（秋学期）
【04】英語 A（レベル2）（2）（通年）
リーディング・スキルとパラグラフ・ライティングの学習
講師 佐藤光重

授業科目の内容：

論文やエッセイの構造を理解し、正確に内容を把握する練習を積む。春学期は読解練習を中心に進めながら、適宜、短い作文練習を取り入れる。秋学期は、読解練習をもとにさまざまなパラグラフ作文に取り組む。

テキスト：

Breakthrough Comprehension (Learners, 2004).

参考書：

Paragraphs That Communicate (MacMillan, 1990).

【07】英語 （レベル2）（セ）（1）（春学期） 木曜1限
【07】英語 （レベル2）（セ）（1）（秋学期）
【04】英語 A（レベル2）（2）（通年）
講師 白鳥義博

授業科目の内容：

3年次以降、さまざまな専門に関する高度な英語論説文を読むための準備として、この授業ではTOEFL対策のテキスト（リスニングとリーディング）を使って演習を行います。TOEFLのためのテキストは多彩なトピックを扱っていますので、速読などで効果を発揮する分厚く幅広い語彙力を養うにはうってつけの教材です。現在の英語力を最大限に活かして高得点を取る練習を積み重ねれば、読解力にせよ語彙にせよ一段階上のステージへと自然に進めるはず。なお、留学を目指す学生はもちろん大歓迎ですが、しかし単純なTOEFL対策の授業ではないので、TOEFL受験の意思の有無は受講の条件とはなりません。読解力や聞き取りの力を向上させたいすべての学生に役立つ授業にしたいと考えています。

テキスト：

Jim Knudsen・生井健一、『戦略的トーフルテスト対策演習』（南雲堂、2008年）

参考書：

「TOEFL iBT 大戦略シリーズ」（旺文社）など。

【07】英語 （レベル2）（セ）（1）（春学期） 木曜2限
【07】英語 （レベル2）（セ）（1）（秋学期）
【04】英語 A（レベル2）（2）（通年）
多様な分野の英文を読む 講師 有賀明子

授業科目の内容：

中級以上の英文を読み、各種の問題を解きながら読むためのスキルと語彙力を身につけ、読解力の向上を目指すことがこの授業の目的である。

テキスト全12章には、歴史、心理、芸術、科学など多様な分野の英文が論説文、エッセイ、物語、詩などの形式で収められている。（ハイブリッドカー、ベッカム選手の自伝、文化によるジェスチャーの違い、小野小町の和歌、ヘミングウェイの短編、世界の食生活などテーマは盛りだくさんである）CDによる発音確認ののち易しい箇所は要約、難しい部分は精読し、グループ作業なども行いながら、テキストで目標とするストラテジーを身につけ英文を正確に読み取ること慣れていく。毎授業時に前回学習範囲の小テストを実施し、関連記事を別途配布して学習の成果を確認したい。また、季節の行事（ハロウィーン、クリスマスなど）、あるいは注目に値する出来事（昨年度は「麻疹による大学休校」「ゴア元米副大統領のノーベル平和賞受賞」など）に関する読み物を授業の一部を利用して読むほか、必要に応じて音楽・映像も教材として使用する。

さらに、多読を目的とした課外学習として年に5冊程度、英語で書かれた本を読み、簡単なブックリポートを提出してもらおう。詳しくは授業中に指示する。

テキスト：

Brenda Wegmann & Miki Knezevic, *Mosaic 1 Reading* (Silver Edition), McGraw-Hill, 2007

【07】英語 （レベル2）（セ）（1）（春学期） 木曜2限
【07】英語 （レベル2）（セ）（1）（秋学期）
【04】英語 A（レベル2）（2）（通年）
講師 白鳥義博

授業科目の内容：

3年次以降、さまざまなジャンルの authentic な（日本人学習者のための配慮が加えられていない）英文を読むための基礎となる、語彙力や構文分析力を、平易な英語で書かれたエッセイを読みながら高めてゆきます。テキストの英文を単語や文法のレベルからしっかりと分析し、その上で音読や書き取り、さらには暗誦の練習をしますので、英語力にあまり自信はないが原書を着実に読める力を養いたい人向けの授業といえるでしょう。テキストの内容は一言で言えば「日本とアメリカの文化的な相違」ですので、この方面のテーマに関心のある人の受講も大歓迎です。与えられた課題をきちんとこなせば、読解力だけではなく、聞き取りや作文、あるいは会話の能力にも当然プラスになるかと思われます。

テキスト：

Kay Hetherly, *A Taste of Japan: Cross-Cultural Observations of America and Japan*. (アルク, 2007年)

参考書：

テキストの著者 Kay Hetherly はNHK出版からこれまでいくつかのエッセイ集を出しています（『American Pie』など。）彼女の考え方により親しみたい人は読んでみてください。

【07】英語 （レベル2）（セ）（1）（春学期） 木曜3限
【07】英語 （レベル2）（セ）（1）（秋学期）
【04】英語 A（レベル2）（2）（通年）
リーディング・スキルとパラグラフ・ライティングの学習
講師 佐藤光重

授業科目の内容：

論文やエッセイの構造を理解し、正確に内容を把握する練習を積む。春学期は読解練習を中心に進めながら、適宜、短い作文練習を取り入れる。秋学期は、読解練習をもとにさまざまなパラグラフ作文に取り組む。

テキスト：

Breakthrough Comprehension (Learners, 2004).

参考書：

Paragraphs That Communicate (MacMillan, 1990).

【07】英語 （レベル2）（セ）（1）（春学期） 木曜3限
【07】英語 （レベル2）（セ）（1）（秋学期）
【04】英語 A（レベル2）（2）（通年）
ヒップホップ・ミュージックから読み解くアメリカ
講師 波戸岡景太

授業科目の内容：

決して上品はないが、アメリカを理解するうえできわめて重要な文化、ヒップホップ・ミュージック。この授業では、彼（女）らの叩きつけるようなライムを「英語」の響きとして体感しつつ、関連する新聞記事やインタビューを読み込んでいくことで、基礎的かつ実践的な英語の読解力を養っていく。

テキスト：

毎回プリントを配ります。

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期) 木曜4限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)
英文読解力の養成(言語学の文献の精読, 日本文化紹介)
講師 有光奈美

授業科目の内容:

講義の目的: 言語学の文献の精読と, 日本文化紹介に関する英語に取り組むことにより, 英文読解力を養成し, 英語による思考力と理解力の向上を図ります。

講義を通して, 語用論 (Pragmatics) を中心とした言語学の基礎的知識の習得と, 英文読解ができるようにします。

言語学の中でも, 言語の実際の使用を重んじる語用論を中心に, 言語を通して, 人間の発話, 思考, 認識の問題を考察していきます。

語用論を中心とした言語学の基礎的知識を身につけると共に, 日本文化紹介に関する英語に取り組む, 英文読解における精読と速読の力を身につけることが, 本講義の目標です。

テキスト:

George Yule, *Pragmatics* (Oxford University Press)

および, プリント配布

参考書:

必要に応じ, 授業内で紹介します。

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期) 木曜4限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)
ジェンダーを考えるための英語
講師 波戸岡 景太

授業科目の内容:

自分とはなにか, 自分らしさとはなにか。こうした, いわゆるアイデンティティというものを考える上で, 言葉はとても大切な役割を果たします。この授業では, フェミニズム, ゲイ/レズビアン・スタディーズ, そしてクイア理論など, 性をめぐる言葉たちを, あくまでも基本的な英語読解の力を養うことを目的としながら考えていく。

テキスト:

毎回, さまざまな文献をプリント形式で配付します。

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期) 木曜5限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)
『ことばと文化』を英文で読む(精読による読解力の養成)
講師 谷 みゆき

授業科目の内容:

この授業では, 今までに習得した文法・語彙の知識を再確認しながら英文を正確に読むことができるようになることを目標とします。

また, 1973年に出版されて以来, 言語学の入門書として読まれ続けている鈴木孝夫著『ことばと文化』の英文版をテキストに使用し, 言語と文化の関係についても考えます。授業は主に精読をしてもらいながら進めますが, 内容に関する自らの見解や, 原文と英文との比較考察なども同時に発表してもらうことにより, 単なる和訳作業ではない, 内容をしっかり把握した上での読解力の養成を目指します。

テキスト:

鈴木孝夫著, Akira Miura 訳, *Words in Context: A Japanese Perspective in Language and Culture* (講談社)

参考書:

鈴木孝夫著『ことばと文化』(岩波新書)

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期) 金曜1限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)
ミステリーを読もう 講師 小路 邦子

授業科目の内容:

英国の3人のミステリーの女王, アガサ・クリスティ, ナイオ・マーシュ, ドロシー・セイヤーズの短編ミステリーを読みます。文章の難度はこの順に徐々に高くなっていきます。しかし, クリスティの文章は易しいですが, 易しい=わかるとはならないことが理解できるでしょう。

テキスト:

Selected Mysteries by Three Queens 藤木紀男・木村聡雄編注(弓書房)

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期) 金曜1限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)
現代イギリスの短編小説を読む 准教授 高橋 宣也

授業科目の内容:

何気ない日常のうちに, 人間がふと見せる心の闇を巧みに暴いた作家の作品を読みます。英語は比較的平明ながら, 巧妙な筋立てと細部にこめられたウィットが特徴です。文学作品だからこそ味わえる, 英語ならではのニュアンスをとらえましょう。

テキスト:

Muriel Spark, *The Portobello Road and Other Stories* (朝日出版社)

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期) 金曜2限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)
ペーパーバックを読もう 講師 小路 邦子

授業科目の内容:

フランコ政権下のバルセロナ。10歳のぼくは父に「忘れられた本の墓場」に連れて行かれ, そこで1冊の本を選ぶようにと言われる。その本は生涯の本となる。本を選ぶのか, 本に選ばれるのか。しかし, 彼が成長するにつれその本に異様な関心を示す人たちが出てくる。その本の作者の生と死の背後にあったものは何だったのか。

『ダ・ヴィンチ・コード』にも匹敵する複雑な謎解き(スリラー)を楽しみながら, 多読を試みたい。

テキスト:

A Shadow Of the Wind, Carlos Ruiz Zafon (Phoenix, 2004)

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期) 金曜2限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)
英字新聞を読む [春]講師 永野 文香
[秋]講師 井上 美雪

授業科目の内容:

ニューヨーク・タイムズを始めとした英字新聞・雑誌を読み, 英語で情報を取り込む作業に慣れることを目的として授業を進めていきます。

テキストでは「健康問題」「テクノロジー」「人間関係」「老化」「環境」をテーマに関連記事を読んでいきます。テキスト以外にも適宜プリントを配布し, 量を読みこなしていく予定です。

また, ニュース英語に慣れるためにも, 授業開始時に報道記事のリスニングも行います。この報道記事に関しては, 毎週単語テストを行いたいと考えていますが, テスト方法に関しては初回の授業で皆さんと相談のうえ決定したいと思います。

テキスト:

『NEO VISTA (ニューヨーク・タイムズ・セレクション)』英宝社, 2008年, 1900円

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期) 金曜3限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)
< 絵画の見方 > の講読 准教授 足立健次

授業科目の内容:

とかく美術作品は、それについての専門的な知識や深い素養がなければ鑑賞できないものと思われがちである。これとは反対の立場から、多くの実例を挙げて比較しながら、私たち門外漢を絵画の世界へと誘ってくれる文章を読みます。

テキスト:

Susan Woodford, *Looking at Pictures* (松柏社)

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期) 金曜4限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)
リーディング 講師 勝村仁子

授業科目の内容:

通訳の訓練を取り入れたリーディングによって、総合的な読解力をつけることを目的とする。ただし、通訳養成を目的とした授業ではない。

テキスト:

科学、医療、歴史、音楽、美術、時事問題(政治/経済/法律)など幅広い内容のものを学術論文、LSAT(米国ロースクール適性試験)問題集、専門書、新聞・雑誌記事などから抜粋したプリント教材を用いる予定であるが、最終的なテキストの決定については、履修した学生の専攻等を考慮する。

参考書:

必要に応じて授業内に紹介します。

【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(春学期) 土曜2限
【07】英語 (レベル2)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル2)(2)(通年)
Hearnの怪談を読む 英英辞典を使って
講師 千代田友久

授業科目の内容:

この授業では、Lafcadio Hearn の怪談を主に読みます。“Yuki-Onna”をはじめできるだけ多くの作品を読むつもりです。それほど難しい英語ではありませんが、時制や分詞構文などに十分留意して精読しますので、怪談を楽しみながら読解力を高めてほしいと思います。

また、授業中に英英辞典を用います。この授業では特に単語や熟語の意味を正確に把握し、こまかいニュアンス等に注意することで、読解能力を伸ばすことを心がけたいと思います。

テキスト:

プリントを配布します。

参考書:

OXFORD ADVANCED LEARNER'S DICTIONARY(第7版)
略して OALD

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期) 月曜1限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)
アメリカ環境文学の古典を読み、考える
講師 黒崎真由美

授業科目の内容:

アメリカの生物遺伝学者 Rachel Carson (1907-64) の主著 *Silent Spring* (1962) を読みます。この作品は昨今頻りに議論されるようになった環境問題をもっとも早い時期に論じたものです。精読することによって英語読解力を養成することが第一の目的です。それと同時

に、エコロジーや地球環境保護の問題を考え、各自英語でミニ・プレゼンテーションをしてもらいます。

テキスト:

Rachel Carson, *Silent Spring* (英宝社)

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期) 月曜3限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)
英文読解 講師 佐藤達郎

授業科目の内容:

Bertrand Russell, *The Conquest of Happiness* を精読し、英文読解力の向上を図るとともに、より高度な英語表現の修得をめざします。このテキストは、日常の題材をとりあげながら、幸福の追求に関して考察する哲学的エッセイです。

テキスト:

Bertrand Russell, *The Conquest of Happiness*

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期) 月曜4限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)
講師 赤江雄一

授業科目の内容:

この授業の目的は、英文読解力と academic writing の力を伸ばすことである。リーディングでとりあげるテキストは、歴史学・美術史・心理学・科学などの内容を扱った文章、さらに時事問題を論じる英字新聞の時事・論説記事をとりあげる予定である。ライティングでは、サンプルのテキストを分析しつつ、アカデミックな英語の文章を作成するスキルを身につけていく。

また、リーディングとライティングの力を伸ばすにあたって音声を含めた(できれば映像をとまなう)インプットの重要性は非常に高い。したがって授業では、自ら英語に触れつつ総合的に英語力を向上させるための情報提供および訓練を行う。

授業は、主に日本語で行うが、アクティビティによって英語で行うこともある。

テキスト:

プリントを配布する。

参考書:

授業中に指示する。

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期) 月曜5限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)
イギリス小説講読 講師 三馬志伸

授業科目の内容:

Mary Elizabeth Braddon (1835-1915) の傑作ミステリ, *Lady Audley's Secret* (1862) を講読します。

1860年代、イギリスでは Sensation Novels と呼ばれるミステリ小説が大流行しましたが、『白衣の女』『月長石』で有名な Wilkie Collins と並び、Braddon はこのジャンルを代表する作家で、特にデビュー作となった *Lady Audley's Secret* は、当時のベストセラーとなった記念碑的作品です。日本ではほとんど知られていないこの19世紀ミステリの傑作をじっくりと読み進めたいと考えています。

テキスト:

Mary Elizabeth Braddon (David Skilton ed.), *Lady Audley's Secret* (Oxford World's Classics).

参考書:

その都度指示します。

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期) 火曜2限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)
'What did You Think about the Story?'
講師 佐藤理佳

授業科目の内容:

The aim of this course is to give the student an opportunity to express his/her opinions and to listen to what fellow students have to say. We shall try to achieve this aim through group discussion using some short stories from the textbook. Most of the time, we will be talking about the chosen story in small groups, starting with asking each other, 'What did you think about the story?' This will thus necessitate careful preparation, reading each story thoroughly and thinking about what to say in class, before each class.

From time to time, we will use handouts provided by the instructor. The materials include poems, word games and exercises to expand our vocabulary.

テキスト:

Clare West, ed., *From the Cradle to the Grave* (Oxford University Press, 1993)

Additional materials will be provided by the instructor.

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期) 火曜2限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)
Reading Skills Development
講師 ラトリッジ, エラ

授業科目の内容:

Through reading articles, essays and short stories, students will build reading skills and vocabulary. About 20 minutes of class time will be spent on pleasure-reading to build fluency. There will also be group discussions of reading topics.

テキスト:

hand-outs

参考書:

dictionaries you normally use

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期) 火曜3限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)
INTERNATIONAL ENGLISH
講師 ハスケル, デル R.

授業科目の内容:

This course will focus on a variety of topics related to travel and culture in developed and developing countries. Students will improve their English communication skills through speaking, listening, reading and writing activities.

This course will also enable students to develop audiovisual presentation skills, including internet research, data collection, note taking, worksheet preparation, speaking and listening skills.

テキスト:

All material used in the course will be provided by the course instructor.

Course material will include worksheets about travel and culture topics, questionnaires, video comprehension, reading comprehension, and discussion activities.

参考書:

Website references will include <www.atlapedia.com>, <en.wikipedia.org> and <en.wikitravel.org>

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期) 火曜3限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)
Sharing Thoughts on Contemporary Topics
講師 松原美智子

授業科目の内容:

This is a high-intermediate course with special emphasis on listening and speaking. Audio materials on contemporary topics such as philanthropy, conservation, eating styles and technology will be used to develop critical thinking skills and language proficiency.

テキスト:

Tess Ferree and Kim Sanabria. *North Star: Listening and Speaking* (High-Intermediate) 2nd Edition. Longman.

参考書:

Students are advised to have an English-English dictionary, such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary.

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期) 火曜4限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)
『フランケンシュタイン』を読む
講師 藤原雅子

授業科目の内容:

Mary Shelley のゴシック小説 *Frankenstein* を通読する。ストーリーを楽しむとともにアイデンティティ, 科学と生命倫理の問題, 仏革命の影響など, 作品がはらむ社会/歴史/倫理的意味についても考えたい。小説の語彙は質・量的に日常言語のものとはやや異なるが, 物語という文脈の中で言葉を覚えることは, 英語の使い手としての感覚を鋭いものにする。内容理解とともに, 語彙力強化のための訓練, 英語による内容要約を通して基礎的英語力の養成にも充分留意しながら読み進めていく。

テキスト:

Frankenstein (Penguin classics)

参考書:

廣野由美子『批評理論入門 フランケンシュタイン解剖講義』(中公新書)

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期) 火曜4限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)
Reading Skills Development
講師 ラトリッジ, エラ

授業科目の内容:

Through reading articles, essays and short stories, students will build reading skills and vocabulary. About 20 minutes of class time will be spent on pleasure-reading to build fluency. There will also be group discussions of reading topics.

テキスト:

hand-outs

参考書:

dictionaries you normally use

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期) 火曜5限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)
Theme Music
講師 ハスケル, デル R.

授業科目の内容:

The focus of this course will be popular music from the 1960s to the 2000s, including rock, folk, pop, rap and reggae. We will be listening to the music of many composers, and studying social, political and cul-

tural themes expressed in their songs. Class activities will include listening, video viewing, lyrics analysis, discussion, and presenting information and opinions in English. Homework assignments will include background reading about songs and musicians, internet research, and completion of worksheet tasks.

We will also be developing presentation skills, including data collection, note taking, worksheet design, and speaking using brief notes. Student presentations each semester will involve working with partners in song selection, data collection, worksheet preparation, presenting information and opinions in English, and responding to questions from other students.

テキスト :

Herman Bartelen, *The Story of Popular Music*, Macmillan Language House, 2007.

Other course material will be provided by the course instructor, including song worksheets with reading comprehension, vocabulary explanation, lyrics analysis, and discussion activities.

参考書 :

Website references will include <www.allmusic.com> and <en.wikipedia.org>

Other references will be advised during the course

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期)	水曜1限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)	
英米の短編小説を読む	准教授 坂本 光

授業科目の内容 :

英語で書かれた文章にも色々あるが、中でも日常使われる言葉を用い、言葉のポテンシャルを最大限まで駆使してみせるのが小説だろう。この授業では短編小説を取り上げ、思い切り時間を掛けて精読し、また別の機会にはスピードを上げて読み進める。文学の授業ではないので、鑑賞のようなことは行わない。小説を読み慣れている人も、そうでない人も歓迎する。テキストに指定した短編集から、まず Katherine Mansfield の “The Woman at the Store” を読む。それ以降については、同テキストから履修者と相談の上で選んでゆく予定である。

テキスト :

V. S. Pritchett, ed. *The Oxford Book of Short Stories* (Oxford: Oxford UP, 2001)

参考書 :

文法書、辞典類などについて、必要に応じて初回講義時に紹介する。必ずしも手持ちのものを買い直す必要はない。

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期)	水曜2限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)	
20世紀イギリスの名作を読む	講師 高津昌宏

授業科目の内容 :

Modernism 文学の旗手 Ford Madox Ford も書き手としての出発点は伝統的な「物語」にあった。“The Brown Owl” や “The Queen Who Flew” などの fairy tale とともに手がけた Historical Romance “The Fifth Queen” 三部作は Henry 8 世の 5 番目の王妃となる Katharine Howard が宮廷との関わりをもつようになったいきさつから若くして処刑されるまでを取り扱い、壮麗な歴史絵巻を織り成している。Graham Greene はこの作品を “The Good Soldier”, “Parade’s End” とともに、時の腐食作用に耐えうる傑作だと言って推奨している。Tudor 朝風の若干古風な英語で書かれているが、物語自体は難解というわけではないので、広く英国の歴史や文化に関心のある学生の受講を歓迎する。

テキスト :

Ford Madox Ford, *The Fifth Queen* (Penguin Classics)

参考書 :

・グレアム・グリーン全集 21 『神・人・悪魔 八十のエッセイ』 前川祐一訳 (早川書房)

・Ford Madox Ford, *England and the English* (Carcenet Press)

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期)	木曜1限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)	
「ニューヨークタイムズ」と映画で英語を学ぶ	講師 有賀明子

授業科目の内容 :

春学期は『ニューヨークタイムズ』から精選した記事 12 編を読む。「携帯メール」「臓器移植」「結婚」「高齢化」「地球温暖化」といった興味深かつこれからの将来を担う世界人として知っておくべきテーマが洗練された英文で表現されている。CD による発音確認ののち易しい箇所は要約、難しい部分は精読し、グループ作業なども行いながら緻密な英文を正確に読み取ること慣れていく。毎授業時に実施する小テストによって既習部分の理解度を測り、関連記事を読むことによって内容についてより深く考えたい。

秋学期は、春学期の授業の成果を踏まえて各自で毎週一編の英文記事(書籍の一部でも可)を読んでもらいながら、クラス内では傑作映画『カサブランカ』のシナリオを読む。1942 年公開のこの映画は現在も高い評価を得ており、アカデミー賞最優秀脚本賞を得たシナリオは名セリフの宝庫であり精読に値する。単に英文法の点から正しく読んでいくことにとどまらず、歴史、言語、心理、といった各方面の(英語の)文献を調べることによって批評的な読みに挑戦したり、リスニングとスピーキングを一部組み入れたりなどして発展的に英語を学ぶことを目指す。

また、年間を通して、季節の行事(ハロウィーン、クリスマスなど)、あるいは注目に値する出来事(昨年度は「麻疹による大学休校」「ゴア元米副大統領のノーベル平和賞受賞」など)に関する英語記事を授業の一部を利用して読むほか、必要に応じて音楽・映像も教材として使用する。

さらに、多読を目的とした課外学習として年に 5 冊程度、英語で書かれた本を読み、簡単なブックリポートを提出してもらおう。詳しくは授業中に指示する。

テキスト :

- (1) 喜多留女, 細川祐子 編注, 『ニューヨーク・タイムズ・セレクション』(英宝社, 2008 年)
- (2) アメリカ映画文化学会 編著, 『映画シナリオ カサブランカ』(音羽書房鶴見書店, 2008 年)

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期)	木曜2限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)	
	講師 ゲーリング, リューベン M.

授業科目の内容 :

In this course we shall learn to read and recite English poetry. We shall also try to write some poems ourselves. The main text will be one long poem which all students will have to learn, but in between we shall also work with shorter poems of different kinds. We shall not learn so much about poems, we shall actually work with the poems themselves.

テキスト :

I shall bring the text to the class. A good English-English dictionary will help you

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期) 木曜4限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)
言語について考える(読解力・プレゼンテーション能力養成)
講師 谷 みゆき

授業科目の内容:

この授業では、英語の文献を読み、その内容をクラス内で発表することによって、正確な英文読解力と効果的なプレゼンテーション能力の両方を養成することを目的とします。

なお、プレゼンテーションの際には、批判的な視点で文献を読んだ上で自らの見解を提示することが要求され、単なる内容把握にとどまらない総合的な英語力を身につけるためのトレーニングを行います。

また、言語について広く持たれている様々な考えを検証したテキストを使用し、「言語に優劣はあるのか?」、「本当に女性は男性よりもよくしゃべるのか?」など、言語を取り巻く諸問題について考えます。

テキスト:

Laurie Bauer & Peter Trudgill eds., *Language Myths* (Penguin Books)

参考書:

授業中に適宜紹介します。

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期) 木曜5限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)
英文読解力と発信能力の養成
(言語学の文献の精読, 日本文化紹介)
講師 有光奈美

授業科目の内容:

講義の目的: 言語学の文献の精読と、日本文化紹介に関する英語に取り組むことにより、英文読解力と発信能力を養成し、英語による思考力と理解力の向上を図ります。

講義を通して、メタファーを中心とした言語学の基礎的知識の習得と、英文読解ができるようにします。

言語学の中でも、日常言語と認知のメカニズムを中心に、言語を通して、人間の発話、思考、認識の問題を考察していきます。

メタファーを中心とした言語学の基礎的知識を身につけると共に、日本文化紹介に関する英語に取り組み、英文読解力と発信能力を身につけることが、本講義の目標です。

テキスト:

Lakoff and Johnson, *Metaphors We Live By* (University of Chicago Press), および、プリント配布

参考書:

必要に応じ、授業内で紹介します。

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期) 木曜5限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)
Literary Analysis 講師 ルイス, エイミー R.

授業科目の内容:

This primary purpose of this course is to provide the student with the opportunity to study the basic elements of fiction through intensive reading. The selection of international authors and works will provide ample opportunity for discussion and exploration of literary themes, characterization, values, human situations, and moral dilemmas. Emphasis will be placed on literary analysis and writing effectively about literature.

テキスト:

Sudden Fiction: International Edition. Edited by R. Shapiro and J. Thomas.

W.W. Norton & Co.

参考書:

SUGGESTED: *THESAURUS*. PENGUIN PUBLICATION

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期) 金曜1限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)
短編小説を読む [春]講師 永野文香
[秋]講師 井上美雪

授業科目の内容:

イギリス・アメリカの作家による短編小説を読んでいきます。(一部抜粋を扱うこともあります)

ほぼ同時期に執筆されたイギリスとアメリカの短編小説を読み比べたり、似たような登場人物が描かれている英米の短編小説を交互に読んで行く予定です。

当初予定している作家は、20世紀に活躍したヘミングウェイ、グレアム・グリーンなど、ほかに現代作家としてマキューアン、ジュンパ・ラヒリなどを想定していますが、初回授業時に皆さんにアンケートをとってとりあげる作家・作品を一緒に考えていきたいと思えます。(20世紀・現代の作品に限る必要はありません)

テキスト:

毎回プリント配布の予定です。

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期) 金曜2限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)
<人間を考える>の講読 准教授 足立健次

授業科目の内容:

著者はアメリカの高名な文化人類学者ですが、ここに取り上げたテキストは専門的な内容のものではなく、一般向けに書かれた啓蒙書です。決して易しい英文とはいえませんが、これを丹念に読むことで、動物界ばかりでなく人間社会にも働いている競争の原理と協調の原理について考える契機になればと思います。

昨年度はテキストの前半を読みましたので、今年度は後半を読みます。

テキスト:

Ashley Montagu, *On Being Human* (成美堂)

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期) 金曜2限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)
My View 講師 ベデロ, サイモン

授業科目の内容:

My View is an elective English course. The main focus of the course is on learning how one can express personal views. The course is designed to help students further improve their reading ability. The course also involves group discussions, writing of short summaries and individual presentations.

テキスト:

The course has one textbook titled *READY TO START-3* by Tetsuhito Shizuka and Rebecca Calman (2004: SHOHAKUSHA). Additional reading materials are also provided in order to generate a much greater deal of interaction and interest amongst students.

参考書:

Reference 1: *Longman's English-English Dictionary*

Reference 2: *READY TO READ MORE* by Karen Blanchard and Christine Root (2004: LONGMAN)

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期) 金曜5限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)
外国人のカーニバル：朝鮮通信使と江戸の文化
講師 勝村仁子

授業科目の内容：

- ・海外の日本研究者によって書かれた論文の講読。
- ・日本の江戸期を再認識し、また、英語で日本を語ることについての認識を深める機会を提供することを目的とする。

テキスト：

論文のコピーを配布する。(*Monumenta Nipponica*, 1986, vol. 41-4 : 415-456)

参考書：

必要に応じて授業内に紹介の予定。

【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(春学期) 土曜3限
【07】英語 (レベル3)(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 A(レベル3)(2)(通年)
Maughamの短編を読む 英英辞典を使って
講師 千代田友久

授業科目の内容：

この授業では、W. S. Maugham の短編を主に読みます。“The Treasure”をはじめできるだけ多くの作品を読むつもりです。少し難しいかもしれませんが、予習をしっかりとした上で説明をよく聴き高度な読解力を身につけてほしいと思います。

また、作品の中から発信能力を養う上で役立ちそうな英文を選びできるだけたくさん暗記してもらつつもりです。

なお、授業中に英英辞典を用います。この授業では特に単語や熟語の使い方に注意し、類語の比較等を行うことで発信能力の向上に努めたいと思います。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

OXFORD ADVANCED LEARNER'S DICTIONARY (第7版)
略して OALD

【07】英語 上級(セ)(1)(春学期) 月曜1限
【07】英語 上級(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 上級A(2)(通年)
Slavery in the United States
講師 ロンベール、ラファエル

授業科目の内容：

This course will explore the social, cultural, and economic structure of slavery through two major texts. First, *The Narrative of the Life of Frederick Douglass, an American Slave, Written by Himself* (1845) will confront students with the terrors and brutalities of bondage while also discussing the issues of authorship, readership, and censorship typifying slave narratives. Second, novelist Octavia Butler's best-seller *Kindred* (1979), which uses the science fiction technique of time travel, will take the students back to the same dreadful past while also expanding the topic toward issues of American ancestry and racial identity.

テキスト：

1. *Frederick Douglass*: <http://sunsite.berkeley.edu/Literature/Douglass/Autobiography/A1.html>
2. Butler, Octavia. *Kindred* (1979). Boston: Beacon Press, 2004

【07】英語 上級(セ)(1)(春学期) 火曜3限
【07】英語 上級(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 上級A(2)(通年)
Travel Documentary and Travel Writing
講師 ラトリッジ、エラ

授業科目の内容：

The main topic of this class will be travel. Through watching documentaries and reading travel essays, we will explore the world both inside and outside Japan. Class time will also be spent on discussion and writing, and homework assignments will include group “travel” reports.

テキスト：

hand-outs

【07】英語 上級(セ)(1)(春学期) 火曜4限
【07】英語 上級(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 上級A(2)(通年)
ADVANCED DISCUSSION
講師 ハスケル、デル R.

授業科目の内容：

In this advanced communication course, we will be discussing a variety of social, cultural and political topics, which will be selected by students at the start of the course. Class activities will include reading and video comprehension, exchanging information and opinions.

Student presentations each semester will focus on topics chosen by students, and will involve data collection, designing worksheets, presenting relevant information using a variety of media, speaking naturally using brief notes, and expressing opinions.

テキスト：

All material will be provided by the course instructor.

Course material will include reading passages, worksheets with comprehension and discussion tasks, questionnaires, and audio-visual material.

参考書：

Website references will include <en.wikipedia.org>, <www.atlape-dia.com>, <www.allmusic.com> and <www.allmovie.com>

【07】英語 上級(セ)(1)(春学期) 火曜5限
【07】英語 上級(セ)(1)(秋学期)
【04】英語 上級A(2)(通年)
Advanced Discussion on American Multiculturalism
講師 ゴーリンジャー、アダム

授業科目の内容：

The aim of this course is to develop students' awareness for cross-cultural understanding through an examination of diversity and multiculturalism in the United States. Based on a selection of readings, documentaries, and American television programs, we will analyze and discuss issues relating to race, religion, gender, region and class in the United States. Extensive homework preparation will be required as students will be called upon weekly to answer prepared questions and to present their individual interpretations in class. This course is designed for students with advanced speaking and comprehension abilities in English.

テキスト：

All materials will be provided by the instructor.

【07】英語 上級(セ)(1)(春学期)	火曜 5限
【07】英語 上級(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 上級A(2)(通年)	
The World Today 講師 ベデロ, サイモン	

授業科目の内容 :

The World Today is an elective English course designed to help students acquire advanced communication skills. The language components of the course are listening, discussion and presentation. Students improve on these skills through short weekly projects and other in-class exercises. Topics for class activities are carefully selected to generate a great deal of interaction and interest amongst students.

テキスト :

The course has no textbook. Class materials are provided for by the instructor. Students are also encouraged to visit online news sites to keep up with ongoing current world affairs.

参考書 :

Longman's English-English Dictionary

【07】英語 上級(セ)(1)(春学期)	水曜 3限
【07】英語 上級(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 上級A(2)(通年)	
Advanced Communication Skills 講師 ルイス, エイミー R.	

授業科目の内容 :

This course will provides the more advanced student with the opportunity to continue to reinforce good speech habits, to expand his/her active vocabulary, and to improve his/her ability to express himself/herself clearly and concisely. The course aims to improve the student's overall competence in communicative English. Class discussion will center around a variety of timely international, social, political, as well as cultural issues through the use of several medium: printed as well as audio visual. Assignments will include independent as well as small group research projects and presentation.

参考書 :

Suggested: A Thesaurus (Penguin Publication).

【07】英語 上級(セ)(1)(春学期)	木曜 1限
【07】英語 上級(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 上級A(2)(通年)	
講師 ゲーリング, リューベン M.	

授業科目の内容 :

Students in this course will work in pairs. Each pair will receive a subject to investigate. The students will have to come to class with enough material to work on their subject. When each groups will be ready they will have to explain their subject to the rest of the class. The success of each student will depend on the rate at which the class members understood their explanation.

Topics that will be discussed will include literature, education, culture of foreign countries and travel. Students will be encouraged to propose subjects for discussion.

参考書 :

Dictionaries, encyclopaedias and other reference material (including the Internet)

【07】英語 上級(セ)(1)(春学期)	金曜 1限
【07】英語 上級(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 上級A(2)(通年)	
The Japan-Africa Project 講師 ベデロ, サイモン	

授業科目の内容 :

The Africa Project is an elective course for students with an advanced level of English. The aim of the course is to help students further improve their communication skills. This is done as students research and discuss issues of African interest. The language components of the course are listening, short paragraph writing, presentation and discussion.

テキスト :

The course has no textbook. Students are encouraged, however, to consult whenever necessary the books given in the 'Reference Section' of this syllabus.

参考書 :

Reference 1: *Africa* by Martin M. Phyllis and P. O'Meara in 1986

Reference 2: *The State of Africa* by Martin Meredith. Published by The Free Press (2005)

【07】英語 上級(セ)(1)(春学期)	金曜 4限
【07】英語 上級(セ)(1)(秋学期)	
【04】英語 上級A(2)(通年)	
When Cultures Meet : Culture, Adaptation, and Identity Formation 講師 横川 真理子	

授業科目の内容 :

What is culture and how is it acquired? How does it affect the way we act, think, and feel? How does switching cultures affect our identity? By focusing on children reared and educated outside the culture of their parents (Third Culture Kids/ Returnees), we will see how entering or re-adjusting to a culture during the formative years affects us, especially with regards to identity.

Students will also have an opportunity to do original research and learn how to present their findings in oral and written form. Those interested in using qualitative and observational methods for their thesis should find this course useful.

テキスト :

1) David C. Pollock and Ruth E. Van Reken. *Third Culture Kids: The Experience of Growing Up Among Worlds*.

2) Strunk and White, *The Elements of Style*.

参考書 :

1) Faith Eidse and Nina Sichel. (eds.) *Unrooted Childhoods: Memoirs of Growing Up Global*.

2) Harry F. Wolcott. *Writing Up Qualitative Research* (Qualitative Research Methods).

3) Joseph Gibaldi. *MLA Handbook for Writers of Research Papers* (MLA Handbook for Writers of Research Papers).

ドイツ語

【07】ドイツ語 (D)(セ)(1)(春学期)

【07】ドイツ語 (D)(セ)(1)(秋学期)

【07】ドイツ語初級 (セ)(1)(春学期)

【07】ドイツ語初級 (セ)(1)(秋学期)

【04】ドイツ語初級(2)(通年)

【04】ドイツ語 D(2)(通年)

基礎ドイツ語会話と初級ドイツ語文法

講師 山田 史子

授業科目の内容：

易しいドイツ語会話で耳と口(発音)をトレーニングしながら、初級文法を学びます。

テキスト：

Richter / 識名 / 山田 著 Deuschlernen durch Konversation, 同
学社, 2006年, 2500円

【07】ドイツ語 (A)(セ)(1)(春学期)

【07】ドイツ語 (A)(セ)(1)(秋学期)

【04】ドイツ語 A(2)(通年)

ドイツ語で言ってみよう!

講師 三ツ石 祐子

授業科目の内容：

この授業の目標はこれまで習ったことを基に、実際にドイツ語で自分の言いたい事を表現できるようになることです。例えば、自分の好きな食べ物・好きな映画・好きな本や絵画などを紹介する際に「私が好きなのはXXです」で終わらない紹介の仕方を身につけ、そこから会話を展開することを目指します。授業言語は主にドイツ語です。口語表現の練習が中心となりますが、読解・音読・聞き取り・作文の練習も行います。また、ドイツ語圏の国や文化の知識をお互いに深め、かつ新たな視点を得るために、夏休みにドイツ語圏に関する何らかのテーマでレポート(日本語)を作成してもらい、それを後期に日本語で発表してもらいます(発表時間:一人15分程度)。

テキスト：

プリントにして配布します。

参考書：

必要に応じて、授業中に指示します。

【07】ドイツ語 (B)(セ)(1)(春学期)

【07】ドイツ語 (B)(セ)(1)(秋学期)

【04】ドイツ語 B(2)(通年)

中級ドイツ語(読解)

講師 安川 晴基

授業科目の内容：

この授業では、初級文法を終えた学生を対象に、ドイツ語を読むことを中心に練習していきます。今後、みずからドイツ語で必要な情報を収集することができるように、これまでに習った文法知識を定着させ、語彙を増やし、さらなる表現法を学び、読解力を培うことが目標です。

あえて特定のテーマに絞らず、文学的な散文小品や批評、新聞の論説や学術論文からの抜粋、雑誌やウェブ上の記事など、さまざまなジャンルのさまざまな文体のテキストに触れ、ドイツ語の文章に慣れ、読解力を錬磨します。また、音読によって発音の確認をします。取り扱うテキストについて希望・提案があれば歓迎します。語彙やドイツ語構文の知識を増やすことが肝要なので、簡単な作文練習や短文テストを随時行ないます。

テキスト：

毎週プリントを配布します。

参考書：

必要に応じて紹介します。

【07】ドイツ語 (C)(セ)(1)(春学期)

【07】ドイツ語 (C)(セ)(1)(秋学期)

【04】ドイツ語 C(2)(通年)

Erich Kästner “Emil und die Detektive” を読む

講師 山口 祐子

授業科目の内容：

テキストの精読を通して、初級文法を定着させ、基本的な読解技術を習得することが本講座の目的です。春学期には文法事項の復習を兼ね、テキストに関連する文法事項の作文練習も取り入れます。

【07】ドイツ語 (D)(セ)(1)(春学期)

【07】ドイツ語 (D)(セ)(1)(秋学期)

【04】ドイツ語 D(2)(通年)

ドイツに移住するならば

講師 渡邊 徳明

授業科目の内容：

ドイツに移住するとしたら、どのような知識が必要でしょうか。ドイツ社会で生活する際に、常識として知っておかねばならないことを、効率よく体系的に学ぶということは容易なことではないかもしれませんが、しかし、国策として多くの移民を受け入れているドイツの社会にとって、ドイツとは一体どのような国であり、その社会はどのような歴史を持ち、どのようなルールによって運営され、そしてどのような理念の下に人々は社会を発展させようとしているのか、ということを的確な方法で、効率よく教えることは社会的要請であり、そのノウハウには目を見張るべきものがあります。本授業で用いる教科書 Zur Orientierung Deutschland in 30 Stunden (Max Hueber Verlag) はこのような観点から編集されています。ドイツの国制、政治情勢、経済情勢、歴史、文化的多様性、人々の日常生活などの項目について、かなりアクチュアルなテーマが扱われています。この教科書は、ドイツ語を学び始めたドイツ国内の外国出身の人たち(労働者、移民、難民)を念頭に置いて作られているために、日常の習慣など生活上必須の事柄、市民として最低限知っているべきルールや社会の仕組み、保障されている権利と課せられている義務、などが平易なドイツ語文で書かれており、また図表・写真等もビジュアル的に美しく、付録の CD によって聴くことができる会話も、かなりリアルなものとなっています。ドイツ同様に少子高齢化の問題に直面し、急激な若年人口の減少に有効な手を打つこともできず、にもかかわらず移民政策を論ずることすらもタブー視されかねない我が国の実情を思うとき、ドイツが積極的に移民を受け入れるインフラを整備し、確固たる決意と指針に基づき、その政策を社会全体で実行しているということの先進性が、この教科書からより一層鮮烈に感じ取れます。移民を決して社会的弱者にしてはならぬという決意、彼らに対し、法の下での平等、思想信条の自由の保障を社会が実践せねばならない、という決意が随所に読み取れるのです。そしてこの教科書で学ぶうちに、我が国の社会が、既に現実の問題として対処せねばならぬはずの国際化の問題をいかになおざりにしているかを痛感することでしょう。

テキスト：

Zur Orientierung Deutschland in 30 Stunden (Max Hueber Verlag), 2008年1月現在のレートで1900円程度です。

参考書：

授業内で指示します。

【07】ドイツ語 (E)(セ)(1)(春学期)

【07】ドイツ語 (E)(セ)(1)(秋学期)

【04】ドイツ語 E(2)(通年)

講師 シュミット, ウーテ

授業科目の内容：

日吉で習得したドイツ語を基礎に、単語・会話力のアップを目指します。授業中にさまざまなシチュエーションを想定して、会話のパターンを練習し、それに必要な文法も復習します。言うまでもありませんが、単語を知らないと話せませんので、毎回新しい単語を

覚える必要があります。積極的な参加を求めます。宿題も出ます。

テキスト：

Projekte, Dogakusha, ¥2500

【07】ドイツ語 (F)(セ)(1)(春学期)

【07】ドイツ語 (F)(セ)(1)(秋学期)

【04】ドイツ語 F(2)(通年)

講師 ループレヒター、ヴァルター

授業科目の内容：

「Konversation」

Auf der Grundlage von landeskundlichen Materialien (Texte, Fotos, Audiokassetten) werden Übungen zur Ausdrucksfähigkeit, zum Hörverstehen und zur Grammatik angeboten. So sollen mit dem Lernen von Sprache zugleich auch Einblicke in die Alltagskultur, in aktuelle Themen und Probleme der deutschsprachigen Länder (Deutschland, Österreich, Schweiz) vermittelt werden.

テキスト：

プリント

【07】ドイツ語 (G)(セ)(1)(春学期)

【07】ドイツ語 (G)(セ)(1)(秋学期)

【04】ドイツ語 G(2)(通年)

ドイツ語コミュニケーション(口語ドイツ語)

講師 クリーク、ブリギッテ

授業科目の内容：

viel Deutsch sprechen, hören und schreiben!

様々なテーマについての話し合い、パートナー練習、CD、ビデオ等を利用しての聞き取り練習などにより、ドイツ語でのスピーキング・リスニング能力を身につけることを目標とします。

テキスト：

プリント

【07】ドイツ語 (H)(セ)(1)(春学期)

【07】ドイツ語 (H)(セ)(1)(秋学期)

【04】ドイツ語 H(2)(通年)

フランツ・カフカ短編小説集を読む

講師 川島 建太郎

授業科目の内容：

フランツ・カフカの短編小説を読みながら、発音の確認、語彙の拡充、初級文法の復習を図る。文章読解の実践のなかで、ドイツ語で学んだ知識を定着させ、発展させることを目指す。

『変身』などの作品で知られているカフカは、20世紀ドイツ語文学を代表する作家である。カフカが開示する世界はたいへん異質で謎に満ちているが、その文章は比較的読みやすいものである。カフカの美文を楽しみながらドイツ語力をつけていただきたい。着実なペースで進むつもりである。

テキスト：

フランツ・カフカ著・藤戸正二編：カフカ小品集(同学社)

参考書：

授業のなかで紹介する。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価 春学期末、秋学期末にそれぞれ一回
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

【07】ドイツ語 (I)(セ)(1)(春学期)

【07】ドイツ語 (I)(セ)(1)(秋学期)

【04】ドイツ語 I(2)(通年)

ドイツ人の考え方に触れる

講師 吉村 創

授業科目の内容：

お祝い、学校、駅など、日常生活の様々な場面におけるドイツ人と日本人の考え方の違いに触れながら、ドイツ語で情報を手に入れ、

自分の考えを発信する能力を身に付けることを目指します。いわゆる四技能のうち「読む」能力を中心に、「書く」「聞く」「話す」練習も適宜交えてドイツ語学習を進めていきます。

ただし、この教科書で紹介されているドイツ人像是かなりステレオタイプのものなので、そのあたりは割り引いて考えるのが健全だとは思いますが。

テキスト：

大谷弘道『ドイツ人を知る9章+1』(三修社)

【07】ドイツ語 (J)(セ)(1)(春学期)

【07】ドイツ語 (J)(セ)(1)(秋学期)

【04】ドイツ語 J(2)(通年)

ベートーベンの「第九」を学ぶ

講師 鶴殿博喜

授業科目の内容：

テキストを読みながら、シラーの詩「歓喜に寄せて」をベートーベンが第九交響曲の「合唱」にとり入れていくまでをたどる。

本授業が目指すところは、文法を駆使してドイツ語読解力を向上させることであり、合わせて人間、芸術、社会についての考えを深めることである。

テキスト：

アン・ディ・フロイデ 「第9」のすべて 第三書房

【07】ドイツ語 (K)(セ)(1)(春学期)

【07】ドイツ語 (K)(セ)(1)(秋学期)

【04】ドイツ語 K(2)(通年)

ドイツ語を「読む」能力を身につけよう

講師 吉村 創

授業科目の内容：

皆さんは「ドイツ語を読む」ことにどのようなイメージをもっていますか。まずテキストの種類については、小説、詩、エッセイ、実用書、新聞・雑誌記事やメール、ウェブ上の文章、専門書や学術論文から旅行で目にする案内、看板、時刻表、またワインやビールのラベルまで、様々なものがあります。それらのテキストの読み方についても、語句や文法を一つずつ調べて細かく解釈する読み方から、辞書をあまり使わずに内容を楽しむ多読的な読み方、特定の情報を求めて複数のテキストを横断的に調べ読みするやり方まで、様々です。この授業では、様々なテキストに触れ、それぞれのテキストに適した様々な読み方を試みることにより、各自の理想とする「ドイツ語の読者」像に少しでも近づけるよう、そのための学習の場を皆さんとともに築きたいと思えます。

テキスト：

鷲巣由美子『改訂版 ドイツ語を読む』(三修社、2006年)

【07】ドイツ語 (L)(セ)(1)(春学期)

【07】ドイツ語 (L)(セ)(1)(秋学期)

【04】ドイツ語 L(2)(通年)

環境問題を考える

講師 鶴殿博喜

授業科目の内容：

テキストを読みながら現代の環境問題やドイツでの取り組みについて考えていく。本授業が目指すところは、文法を駆使してドイツ語読解力を向上させることであり、合わせて環境問題についての意識を高めることである。

テキスト：

私たちと環境問題 新訂版 郁文堂

- 【07】ドイツ語 (M)(セ)(1)(春学期)
 【07】ドイツ語 (M)(セ)(1)(秋学期)
 【04】ドイツ語 M(2)(通年) 講師 津崎 正行

授業科目の内容：

この授業では、初級文法をひととおり学び終えた学生を対象として、ドイツ語で書かれた文章を読みます。主に、現在のドイツや日本に関する時事的なテキストを扱います。

テキスト：

『Neuigkeiten aus Deutschland '07』(朝日出版社)を使用します。11月ごろにはこのテキストを終えることができると思っていますので、その後は参加者の興味や関心を考慮してテキストを選びます。映画やアニメーションなどの映像資料も利用する予定です。

参考書：

必要に応じて紹介します。

フランス語

- 【07】フランス語 (D)(セ)(1)(春学期)
 【07】フランス語 (D)(セ)(1)(秋学期)
 【04】フランス語 D(2)(通年)
 サイター限のフランス語 教授 荻野 安奈

授業科目の内容：

フランス語の初級です。

学習事項をどこまで切りつめられるか、語学教師としてチャレンジするつもりでいます。

テキスト：

石崎晴己・三宅京子著、『遊んで学ぶフランス語』(朝日出版社)

参考書：

プリント配布

- 【07】フランス語 A(セ)(1)(春学期)
 【07】フランス語 A(セ)(1)(秋学期)
 【04】フランス語 A(2)(通年) 准教授 岑 村 傑
 助教 築 山 和 也
 講師 阿 部 静 子
 講師 岩 崎 洋 介
 講師 稲 垣 正 久
 講師 篠 原 洋 治
 講師 関 幸 太郎
 講師 高 橋 俊 幸
 講師 鳥 居 珠 江
 講師 真 屋 和 子

授業科目の内容：

クラス指定の「フランス語 A・A」(旧学則「フランス語 A」)では、全クラス共通教材を用います。使用教材「オン・ナヴァンス!」は全10課からなっており、各課6頁の構成です。学生の身近な話題から環境問題まで幅広い内容を扱った文章によって読解力を養成すること、一年次に学習した文法項目を豊富な練習問題によって定着させること、それがこの授業の主な目的となります。初級レベルで十分時間が取れなかった事項については、できるだけ詳しく解説していきます。聞き取り問題や語彙力を高めるクイズなども用意されていますから、楽しみながらフランス語を総合的にレベルアップすることができるでしょう。

テキスト：

「オン・ナヴァンス(On avance)!」CD付、阿南婦美代・Odile W. MOLLE 著、駿河台出版社

- 【07】フランス語 B(セ)(1)(春学期) 金曜4限
 【07】フランス語 B(セ)(1)(秋学期)
 【04】フランス語 B(2)(通年) 講師 真屋 和子

授業科目の内容：

コミュニケーションの場で使えるフランス語が身につくことを第一目標とする発話中心の授業です。基本的文法の基礎固めもしながら、できる限り、「読み・書き・聞き・話す」の調和のとれた能力の習得を目指します。

CDや時にDVDを用いて授業をすすめる過程で、フランスの文化により多く触れる機会をもちます。また、時間の許す限り発音矯正も授業時間中に行いますが、自宅で声を出しての反復練習が不可欠となります。

テキスト：

Tokyo・Paris, vol direct 「東京 パリ、直行便」(二訂版)藤田裕二他著(駿河台出版社 1,600円)

- 【07】フランス語 B(セ)(1)(春学期) 水曜2限
 【07】フランス語 B(セ)(1)(秋学期)
 【04】フランス語 B(2)(通年)
 或る青春の軌跡 講師 宮崎 康子

授業科目の内容：

17才で独自の詩法を編み出し、その理想を追って詩作に励んだ後、数年後には詩を捨ててアフリカに渡り武器の商人となった天才詩人、ジャン・アルチュール・ランボーの生涯と作品について、易しいフランス語で書かれた説明文を交えたテキストを使って読むと同時に、プリント教材を用いて、彼の抱いた現実には達成不可能な理想と挫折、そして、その挫折の克服について考えます。

テキスト：

ランボーによるエチュード 篠沢秀夫他著 朝日出版社

参考書：

初回授業時に指示します。

- 【07】フランス語 B(セ)(1)(春学期) 水曜4限
 【07】フランス語 B(セ)(1)(秋学期)
 【04】フランス語 B(2)(通年)
 講師 シャルコフ、スヴェトラナ

授業科目の内容：

フランス語の会話と発音

- 【07】フランス語 B(セ)(1)(春学期) 水曜4限
 【07】フランス語 B(セ)(1)(秋学期)
 【04】フランス語 B(2)(通年)
 コミュニケーションのためのフランス語
 講師 小川 直之

授業科目の内容：

テキストの内容はやさしいものですが、それをたんに理解できるというだけではなく、そこで得た知識を道具として基本的なフランス語によるコミュニケーションができるようになることをめざします。とくに、下記「授業の計画」に挙げたようなことがらについて「発信」できるようになることを目標とします。したがって、授業はもっぱら演習のかたちをとります。

テキスト：

石野好一、松山博文、三木賀雄、中川努、中井珠子、曾我祐典編『フランス語2001』、白水社、2625円(CD付)

他にプリントを配布します。

参考書：

授業において適宜紹介します。購入を求めるものではありません。

【07】フランス語 B(セ)(1)(春学期)	土曜 2 限
【07】フランス語 B(セ)(1)(秋学期)	
【04】フランス語 B(2)(通年)	講師 鳥居 珠江

授業科目の内容：

フランス語テキストの読解力を身につけ、初級文法の再確認をすると同時に、フランスについての理解を高めます。

テキスト：

フランス・地理と歴史の旅 (A La découverte de la France) 白水社

【07】フランス語 B(セ)(1)(春学期)	木曜 5 限
【07】フランス語 B(セ)(1)(秋学期)	
【04】フランス語 B(2)(通年)	講師 ボダン, エマニュエル

授業科目の内容：

Dans ce cours d'expression orale, nous aborderons divers aspects de la culture française à partir de documents authentiques variés (chansons, BD, vidéos...)

L'assiduité aux cours est requise.

L'évaluation reposera sur des tests semestriels et sur un contrôle continu.

【07】フランス語 B(セ)(1)(春学期)	水曜 4 限
【07】フランス語 B(セ)(1)(秋学期)	
【04】フランス語 B(2)(通年)	ニュースを読もう 講師 篠原 洋治

授業科目の内容：

フランスのラジオ情報番組, France info の興味深いトピックをまとめた教科書を用い、フランスのアクセントを広く知ると同時に、基本的な文法事項を復習することを目的とします。

最終的にはネット上の France info をリアルタイムで聞くことができるようになることを目指します。

テキスト：

アンフォ vol. 2 フランス語でニュースを読む (駿河台出版社)

【07】フランス語 B(セ)(1)(春学期)	水曜 5 限
【07】フランス語 B(セ)(1)(秋学期)	
【04】フランス語 B(2)(通年)	フランスの祝祭日フランス語講読 講師 小川 直之

授業科目の内容：

平易なフランス語で書かれた文章をたくさん読むことによって、基本的なフランス語をしっかりと消化することを目指します。特に前期は、初級フランス語で学んだことを丁寧に再確認しながら進みます。

使用テキストは、カトリックの国フランスのお祭りの起源・変遷を、初級を終えた学習者向けに説明したものです。クリスマスとサンタクロース、カーニバルや聖バレンタインデー等々の成立事情は、たんに雑学的な知識を増やすだけでなく、キリスト教文化の重要な側面の理解を深めてくれることと思います。

テキスト：

Hélène HAMANA, *La France en fêtes* (『フランスの祝祭日』), 駿河台出版社, 1200 円

参考書：

・『聖書』

・ヤコブス・デ・ウォラギネ著, 前田敬作・山中知子訳『黄金伝説 1~4』(平凡社ライブラリー)

・松原秀一著『異教としてのキリスト教』(平凡社ライブラリー)

をはじめとして、授業中に多くの参考書を紹介しますが、いずれも購入を求めるものではありません。

【07】フランス語 B(セ)(1)(春学期)	月曜 4 限
【07】フランス語 B(セ)(1)(秋学期)	
【04】フランス語 B(2)(通年)	「地獄の一季節」を読む 講師 高橋 俊幸

授業科目の内容：

天才少年詩人ランボオの散文詩「地獄の一季節」を読みます。

仏文科の授業ではありませんが、文学全般に興味のある方、どうせフランス語を読むなら、美しい文章を読みたいと思う方の履修を歓迎します。

テキスト：

ランボオ「地獄の一季節」(第三書房)

【07】フランス語 B(セ)(1)(春学期)	月曜 3 限・月曜 4 限
【07】フランス語 B(セ)(1)(秋学期)	
【04】フランス語 B(2)(通年)	Pour réviser et progresser! 講師 ベリセロ, クリティアン・アンドレ

授業科目の内容：

Ce cours est destiné aux élèves qui ont suivi à Hiyoshi un cours de français en première année avec un manuel de niveau 1. Cette année, nous n'utiliserons pas de livre mais je donnerai, le premier cours, un ensemble de photocopies que nous travaillerons pendant l'année. Avec ces photocopies, vous réviserez ce que vous avez appris en première année mais vous progresserez aussi. Dans la classe, et grâce à ces photocopies, nous travaillerons : la conversation, l'écrit, la lecture et la compréhension orale. Ce cours sera aussi une bonne pratique pour celles et ceux qui voudraient passer les examens A1 ou A2 du DELF.

テキスト：

Pas de texte à acheter.

【07】フランス語 B(セ)(1)(春学期)	火曜 3 限
【07】フランス語 B(セ)(1)(秋学期)	
【04】フランス語 B(2)(通年)	講師 藤村 均

授業科目の内容：

主要な文法事項の修得と読解力の養成を目指します。

テキスト：

promenades - En France et ailleurs 東京大学出版会

中国語

【07】中国語 (D)(セ)(1)(春学期)	
【07】中国語 (D)(セ)(1)(秋学期)	
【07】中国語初級 (セ)(1)(春学期)	
【07】中国語初級 (セ)(1)(秋学期)	
【04】中国語初級(2)(通年)	
【04】中国語 D(2)(通年)	講師 表野 和江

授業科目の内容：

初級文法を学習します。ナチュラルスピードの中国語を大量に聞き、発音することで、中国語の文型や語順を覚えることに重点を置きます。

テキスト：

『新・聞こえる中国語』(楊達ほか, 南雲堂)

【07】中国語 A(セ)(1)(春学期) 金曜3限・金曜4限
【07】中国語 A(セ)(1)(秋学期)
【04】中国語 A(2)(通年) 講師 山下 一夫

授業科目の内容:

中級のリーダーテキストを用い、ディクテーションや暗唱なども行いながら、中国語の読解能力を養ってゆきます。

テキスト:

相原茂・郭雲輝『中国語ジョークボックス』朝日出版社

参考書:

山下輝彦『中国語の入門』白水社

【07】中国語 A(セ)(1)(春学期) 火曜4限・火曜5限
【07】中国語 A(セ)(1)(秋学期)
【04】中国語 A(2)(通年) 講師 藤井 敦子

授業科目の内容:

初級で学習した文法事項を復習しながら、やや長い文章の読解を通じ、更なる中国語力の向上を目指します。

また、適宜テキストのテーマに関連したプリントを配布し、中国に対する理解をより深めてもらいたいと思います。

テキスト:

『グループ方式で学ぶ中国語 中級編 日本と中国』(馮誼光・王柯・石原享一著, 東方書店)

参考書:

授業時に適宜紹介します。

【07】中国語 A(セ)(1)(春学期) 火曜2限・火曜4限
【07】中国語 A(セ)(1)(秋学期)
【04】中国語 A(2)(通年)

中国語を学ぶと同時に、中国文化を知る

講師 平井 徹

授業科目の内容:

初級中国語を一年間学習した既習者を対象とする。一年間の勉強を通して、ある程度まとまった文章を読めるようになることを目標とする。

基礎的文法事項をチェックしながら語彙を増やす一方で、発音にも絶えず注意し、リスニング能力を訓練することにも重点をおきたい。テキスト付属のCDも活用してほしい。

具体的には、中国の文化と伝統に関する文章を扱う。文章を丁寧に読解することで、基礎的理解を確実に定着させ、応用力を養うのがねらい。また、異国の文化や習慣を知ること、言語の上達にも欠かせない要素であり、学習の楽しみにもなるだろう。授業中は学生を指名し、読みと和文訳をせよ。文脈をしっかりとつかみ、言葉の句切りを意識した読みができるように。

ビデオ準拠の教材なので、関連する映像資料も活用し、また担当者自身の史蹟踏査の経験なども交えて、広汎な知識が深められる授業になるよう心がけたい。背景についての説明もなるべく加えて、読む楽しみを広げたいと考えている。

テキスト:

名和又介著『ビデオで学ぶ中国文化』(金星堂)

参考書:

授業中に適宜紹介する。辞書は今使用しているもので可。

【07】中国語 A(セ)(1)(春学期) 水曜4限
【07】中国語 A(セ)(1)(秋学期)
【04】中国語 A(2)(通年) 講師 伊藤 晋太郎

授業科目の内容:

一年次に学んだ文法や表現法をふまえ、読解を中心とした授業を行ないます。教科書の課文は、いずれも中国人の一般的な生活や習慣を紹介したものです。中国語の勉強と同時に、中国人の生活はど

のようなものが、日本人とはどう違うのかについても理解を深めてもらいたいと思います。

また、中国語の歌を紹介したり、受講生の習熟度に応じて補助教材を使用したりする予定です。

テキスト:

張継濱・小川文昭『中国ってどんな国? 生活風景点描』白水社

【07】中国語 A(セ)(1)(春学期) 月曜2限
【07】中国語 A(セ)(1)(秋学期)
【04】中国語 A(2)(通年) 助教 吉永 壮介

授業科目の内容:

初級で学習した文法事項を確認しつつ、中級に必要な語彙・構文の習得を目指します。テキストの「会話文」「常用表現」によって表現力の向上を図ると同時に、漢詩の「現代中国語訳」「観賞のポイント」によって、ある程度の長さともつ文章の読解力を培います。また課文に沿って中国の著名な詩文や名勝について紹介し、伝統文化への理解を深めることも目指します。

テキスト:

八木章好・吉永壮介・鄭麗娟『中国語で巡る「漢詩」と「三国志」の旅』朝日出版社

【07】中国語 A(セ)(1)(春学期) 水曜5限
【07】中国語 A(セ)(1)(秋学期)
【04】中国語 A(2)(通年) 講師 阿部 順子

授業科目の内容:

中国語の文章読解と文法を学びます。

教科書に収録されている文章の内容は、現代中国社会の風俗・文化、中国の大学生たちの学生生活、また短い物語など多岐にわたっています。これらの文章を日本語に訳していく作業を経て、文章読解の力を養っていきます。

また、各課ごとにやや多めの練習問題が設けられています。ここで初級中国語で学んだ文法を復習すると同時に、新しい文法も学んでいきます。練習問題には聞き取りが多く、少し難度の高いものとなっています。これらの練習問題によって、読解力に加えて、文法に関する知識、またヒヤリング能力、会話能力、作文能力も高めていきます。

テキスト:

『大学生のための現代中国12話』(杉野元子・黄漢青著, 白帝社刊)

参考書:

授業時に適宜指示します。

【07】中国語 B(セ)(1)(春学期) 月曜4限
【07】中国語 B(セ)(1)(秋学期)
【04】中国語 B(2)(通年) 講師 赤平 恵里

授業科目の内容:

本講義では、一年次に学んだ知識を再確認しながら、新たな文法事項や語句を習得し、中級レベルのコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。

テキストの例文は、どれも短い会話文なので、対話練習などを通して、その都度暗記し、実際のコミュニケーションに活用できる力を養う。また、適宜、テキストの内容に従い、中国の文化事情について紹介する。

テキスト中心に授業を行うが、折に触れて中国語の歌や映画などを鑑賞し、リスニング力の向上も図る予定である。

テキスト:

楊凱栄・張麗群著『中国語へのアプローチ』(朝日出版社, 2007年)

参考書:

必要に応じて指示する。

【07】中国語 B(セ)(1)(春学期)	火曜 4 限
【07】中国語 B(セ)(1)(秋学期)	
【04】中国語 B(2)(通年)	
コミュニケーション中国語	講師 陳 淑 梅

授業科目の内容：

中級中国語の第一歩として、文法システムに沿って応用を展開していく。会話形式のテキストを使用する。既習の文法や句型を復習しながら、新たなフレーズを覚え、中国語の円滑なレベルアップをはかる。

また、中国でのホームステイをテーマに、いろいろな場面設定をして、授業の中で多くのグループ会話を行う予定。活発な授業を行いたいので積極的に質問したり、会話練習に取り組んでほしい。

テキスト：

同窓社『メグの中国ホームステイ』守屋・陳・劉

参考書：

授業中に提示

【07】中国語 B(セ)(1)(春学期)	金曜 4 限・金曜 5 限
【07】中国語 B(セ)(1)(秋学期)	
【04】中国語 B(2)(通年)	
もっと自由に中国語を話しましょう	講師 趙 暉

授業科目の内容：

一年次で学習した単語・文法等基本的な知識を復習しながら、中国語表現力の更なる向上を目指す。授業の進め方としては、教科書を中心に実用会話を勉強していると同時に、授業の進み具合に応じて関連資料をプリントで配布する予定である。

テキスト：

守屋宏則・柴森『中国語フィットネスエイト 14』(CD 付)朝日出版社(本体価格 2200 円+税)

参考書：

『日中辞典』か電子辞書

【07】中国語 B(セ)(1)(春学期)	木曜 5 限
【07】中国語 B(セ)(1)(秋学期)	
【04】中国語 B(2)(通年)	講師 吳 敏

授業科目の内容：

中国語の初級学習を終えた学生に対して、会話を中心に授業を行う。中国文化や社会現状に迫りながら、実用的な語彙とセンテンスを増やし、言葉の聞き取る力を育てる。また自分の意思を伝えるため、習った文を活用できるように学習を進めたい。これは本講義の目標です。

「生きた」中国語を気楽に学べるように北京で留学している日本人学生の見聞(ノミの市、映画学院あれこれ...)を教科書にする予定。

授業は主として中国語で行う。時には授業内容に応じるビデオを鑑賞。問答法のほか、グループに分けて対話や討論・ロールプレイといった方法を利用して授業の活発化をはかる。

テキスト：

『話す中国語(北京編 3)』著者：董燕/遠野光暁 朝日出版社 ¥2500(CD 付き)

【07】中国語 B(セ)(1)(春学期)	木曜 4 限・木曜 5 限
【07】中国語 B(セ)(1)(秋学期)	
【04】中国語 B(2)(通年)	講師 黄 漢 青

授業科目の内容：

1 年次の学習内容を復習しながら、中級レベルの会話能力を身につけることを目指します。

授業は会話を中心として、中国映画やドラマによる聞き取りの練習も行う予定です。テキストに沿って授業を進めますが、時間の許す限り、中国事情も紹介します。

テキスト：

プリントを配布します。

【07】中国語 B(セ)(1)(春学期)	木曜 1 限・木曜 2 限
【07】中国語 B(セ)(1)(秋学期)	
【04】中国語 B(2)(通年)	
コミュニケーション中国語	講師 費 燕

授業科目の内容：

すでに学んだ文法を復習しながら、中国語の会話、普通の中国人のスピードで話す中国語が聞き取れる練習を中心に授業を進める。

会話練習は、学生を主体に毎回与えるテーマに応じて、寸劇を作り、発表する。

授業はできるだけ中国語を使い、最終的にはすべて中国語で行う。一年を通して、会話、聞き取り能力アップを目指すことが本講義の目標。

テキスト：

塚本慶一監修、劉穎著『二年生のコミュニケーション中国語』(白水社 2200 円)

参考書：

特に指定なし。必要な資料を随時プリント配布する。

【07】中国語 上級 A(セ)(1)(春学期)	
【07】中国語 上級 A(セ)(1)(秋学期)	
【04】中国語 上級 A(2)(通年)	講師 道上知弘

授業科目の内容：

やや高度な中国語会話のテキストを読みながら「中国語らしい」表現を身につけてゆくことを目指します。会話表現を豊かにするとともに、その骨格となる中国語文法概念も同時に学んでゆきます。

受講者にはあらかじめ基礎的な文法知識や語彙力が求められます。中級以上の実力があることを前提に授業を進めますので、授業初回時に指定する参考書の中から各自適宜に選んで熟読してください。

テキスト：

潘建華編著『漢語口語習慣用語教程』北京語言大学出版社

参考書：

随時指示します。

【07】中国語 上級 A(セ)(1)(春学期)	
【07】中国語 上級 A(セ)(1)(秋学期)	
【04】中国語 上級 A(2)(通年)	
時事中国語	教授 山下輝彦

授業科目の内容：

上級レベルを修了し、中国語の会話力、読解力とも相当レベルの実力のある学生を対象とする授業である。

このような学生でも、ラジオやテレビの中国語が聞き取れない者が多い。マスコミで使っていることばは時事用語が多く、普通の中国語学習と異なる方法で勉強しなければ身につかないものだからである。そこで本授業では、時事中国語を中心に学習を進め、また、ただ聴いて理解するだけでなく、自分の口で言えるよう、テーマを選びそれについて中国語でディスカッションし、学習した知識を確実に身につけてもらう。

テキスト：

プリント使用

参考書：

授業時に指示する

- 【07】中国語 上級 B(セ)(1)(春学期)
 【07】中国語 上級 B(セ)(1)(秋学期)
 【04】中国語 上級 B(2)(通年)
 【04】中国語上級(2)(通年) 講師 陳 浩

授業科目の内容：

本講義はビデオ、オーディオ教材を用いて少し高いレベルの中国語会話を学んでいきます。学習者に中国語の社会状況、文化、風土、人情及び中国人の考え方などについて、中国語で議論出来る能力を身につけ、中国語の世界を作り、豊富な表現力を養成したいです。

テキスト：

開講する時学習者のレベルによって決める。

参考書：

なし

- 【07】中国語 上級 B(セ)(1)(春学期)
 【07】中国語 上級 B(セ)(1)(秋学期)
 【04】中国語 上級 B(2)(通年)
 読解と翻訳 講師 蒋 文明

授業科目の内容：

この講義は中国語の文章の読解と日本語の文章を中国語への翻訳を通じて、中国語の作文力を身につけることを目標にしています。

手紙や日記など身近な文章から、新聞や雑誌の記事、エッセイ、評論といった高度な文章まで、多様な文章の読解と実践的な翻訳の練習によって語彙を増やし、文法をより確かなものにして、中国語らしい文章を書けることを目指します。

また、日本語から中国語への翻訳を通じて、二つの言語を比較しながら、それぞれの特徴と「同と異」についても考えていきたい。

テキスト：

プリントを使用

参考書：

授業中に指定する

スペイン語

- 【07】スペイン語 (D)(セ)(1)(春学期)
 【07】スペイン語 (D)(セ)(1)(秋学期)
 【07】スペイン語初級 (1)(春学期)
 【07】スペイン語初級 (1)(秋学期)
 【04】スペイン語 D(2)(通年)
 【04】スペイン語初級(2)(通年) 講師 菅原昭江

授業科目の内容：

この授業は、既に初級文法を一通り学習した学生及び初めてスペイン語を学ぶ学生を対象として、スペイン語文法の要点を確実に習得することを主な目標とします。既習者にとっては文法事項の総復習となり、また初心者にとってはスペイン語文法の大枠を学ぶとともにスペイン語圏理解の第一歩となる授業になります。いずれの学生にとっても、この科目の履修後に日常的な語彙で書かれた文章の内容を辞書をひきながら把握できるようになることを目指して授業を進めていきます。

テキスト：

初回の授業で指示します。初級文法(接続法まで)を学習できる構成になっている教科書を使用する予定です。

参考書：

初回の授業で指示します。

- 【07】スペイン語 (A)(セ)(1)(春学期)
 【07】スペイン語 (A)(セ)(1)(秋学期)
 【04】スペイン語 A(2)(通年)
 スペイン二都物語 マドリードとバルセロナの芸術家たち
 教授 坂田幸子

授業科目の内容：

スペインを代表する芸術家たち(主に画家)を取り上げ、その伝記や作品解説を読むことによって、スペイン文化への理解を深め、読解力の向上をはかる授業です。今年度は特に、都市と芸術の関わりに注目してみたいと思います。マドリードとバルセロナというふたつの都市に焦点をあて、その都市の歴史と芸術とがどのような関係にあるのか、都市空間のなかで芸術家たちはどのような活動をしたのか、などについて、スペイン語のテキストをとおして考えます。比較的平易なものから、本格的・専門的なものにいたるまで、様々なテキストを読むことによって、1年次に学習した文法事項の確認をしながら、より難しいテキストをより大量に読む力を身につけましょう。

履修者の方には、それぞれ1回ずつ、芸術家の生涯や作品に関する短い発表をしていただく予定です。また、毎回の授業時、予習チェックを兼ねて小テストを行いません。

テキスト：

プリントで配布します。

参考書：

授業中に紹介します。

- 【07】スペイン語 (B)(セ)(1)(春学期)
 【07】スペイン語 (B)(セ)(1)(秋学期)
 【04】スペイン語 B(2)(通年) 講師 佐伯朝彩子

授業科目の内容：

本授業では、初年度に習得したスペイン語の文法知識を応用・発展させて文章を読解する力を鍛錬することを目的に据えています。ですから、結果としてある程度まとまった分量のスペイン語の文章を読むことになるでしょう。講読を通じてスペイン語の持つ言葉のリズムを楽しめるようになってもらえたら理想です。

講読するテキストの内容は、スペインにおいて営まれてきたさまざまな形態の「ヒトと動物の関係」にまつわるものです。スペインの人びとの胃袋を満たし、その食卓に彩りを添えてきた料理や食材の中の肉、競馬、闘牛、動物園、ペットについて書かれた文章などを取り上げる予定です。

スペイン語の文章の文法的な解析に意識を向けることと同時にその時々話題の内容にも関心を持って取り組んでほしいと思います。スペインにおけるヒトと動物の関係のあり方について書かれた文章に触れることで、動物観の探求を目指しましょう。

また、授業では可能ななかぎりオーディオビジュアルも活用します。

テキスト：

適宜プリント教材を配布いたします。

- 【07】スペイン語 (C)(セ)(1)(春学期)
 【07】スペイン語 (C)(セ)(1)(秋学期)
 【04】スペイン語 C(2)(通年)
 スペイン語会話 講師 イサベル・ガラ、カルロス

授業科目の内容：

この授業の目的は、一年次に学習した文法と語彙とを実践に移すことです。現在、過去、未来の時制を復習し、日常生活のさまざまな場面で効果的にコミュニケーションを行なうことができるよう会話練習をします。

テキストのそれぞれの課は、ある場面(例：買い物、食事、旅行など)もしくは、あるテーマ(例：予定、計画、経験など)を設定しており、以下のような構成です。

上記の場面やテーマで使用する文法事項の復習

役に立つ語彙の紹介

リスニング練習

ペアもしくはグループによる会話練習

スペイン語圏の文化に関する短い読み物

テキスト：

Nuevo ELE Inicial 2. Editorial SM

【07】スペイン語 (D)(セ)(1)(春学期)

【07】スペイン語 (D)(セ)(1)(秋学期)

【04】スペイン語 D(2)(通年)

スペイン語会話 講師 イサベル・ガラ, カルロス

授業科目の内容：

この授業の目的は、一年次に学習した文法と語彙とを実践に移すことです。現在、過去、未来の時制を復習し、日常生活のさまざまな場面で効果的にコミュニケーションを行なうことができるよう会話練習をします。

テキストのそれぞれの課は、ある場面（例：買い物、食事、旅行など）もしくは、あるテーマ（例：予定、計画、経験など）を設定しており、以下のような構成です。

上記の場面やテーマで使用する文法事項の復習

役に立つ語彙の紹介

リスニング練習

ペアもしくはグループによる会話練習

スペイン語圏の文化に関する短い読み物

テキスト：

Nuevo ELE Inicial 2. Editorial SM

【07】スペイン語 (E)(セ)(1)(春学期)

【07】スペイン語 (E)(セ)(1)(秋学期)

【04】スペイン語 E(2)(通年)

ラテンアメリカの人と社会 講師 敦賀 公子

授業科目の内容：

スペイン語圏の中でも特にラテンアメリカについての様々な話題の読み物を精読することで、初年度で習得した文法知識を確認・応用し、より実践的な読解力と表現力を高めつつ、ラテンアメリカの人と社会についての理解を深めることを目標とします。

私達の生活には古来、スペイン、ラテンアメリカの様々な文化要素が存在し、また現代では、移民、出稼ぎ労働、自由貿易市場、国際協力など、より身近に接点が見られるようになってきています。この授業では、このような私達の生活の視座から興味深いテーマを取り上げ、可能な限り関連の映像も活用する予定です。

テキスト：

『トピックスで学ぶスペイン語世界 El mundo hispano a través de diecisiete temas』坂東省次, 森直香, D. Q. ガルシア編著 (白水社)

参考書：

授業時に指示します。

【07】スペイン語 (F)(セ)(1)(春学期)

【07】スペイン語 (F)(セ)(1)(秋学期)

【04】スペイン語 F(2)(通年)

助教(有期) 井関 睦美

授業科目の内容：

この授業は、論理的文章の読解力と表現力を高めることを目標に、講読と作文を中心にすすめていきます。これらの作業を通して、スペイン語 日本語、日本語 スペイン語という構文的な置き換えだけでなく、コンテクストを理解し、自分の言葉で説明する訓練をしていきます。講読用のテキストには、スペイン語圏や日本の歴史、文化、社会などに関する短い説明文を数多く取り上げる予定です。

テキスト：

講師がハンドアウトを用意します。

参考書：

- ・西和辞書 (小学館西和中辞典, 白水社現代スペイン語辞典)
- ・和西辞書 (白水社, 三省堂)

【07】スペイン語 (G)(セ)(1)(春学期)

【07】スペイン語 (G)(セ)(1)(秋学期)

【04】スペイン語 G(2)(通年)

スペイン社会と文化・習慣 講師 菅原 昭江

授業科目の内容：

この授業は、まとまった内容の文章を読解していく力を身につけるとともに、スペイン社会と文化・習慣に対する理解を深めていくことを主な目標としています。講読する文章の内容は、スペイン語とスペインの公用語、宗教、食生活、家族のあり方、余暇の過ごし方、礼儀作法、お祭りや祝日などを予定しています。また、読解力の習得と同時に、内容に関連した語彙の練習問題や重要な文法事項の練習問題も適宜行い、語彙力アップと既習の文法事項の定着も目指していきます。

テキスト：

プリント教材を配布します。

参考書：

授業中に適宜紹介します。

【07】スペイン語 (H)(セ)(1)(春学期)

【07】スペイン語 (H)(セ)(1)(秋学期)

【04】スペイン語 H(2)(通年)

紙上旅行を通じて、ラテンアメリカ諸国の現状を理解しましょう。

講師 前田 伸人

授業科目の内容：

この授業は、スペイン語の初級文法を一通り修了した学生を対象に、ラテンアメリカの主要な国々を網羅した教科書を精読することで、スペイン語の読解力や表現力を固め、中級スペイン語の完成を目標とします。

授業の柱は三つあります。一つ目は、修得した文法を読解にどう活用したらよいかを会得すること。二つ目は、スペインのスペイン語とは若干異なる、ラテンアメリカのスペイン語を理解すること。三つ目は、政治・経済・環境・先住民問題、文化といった現代的なトピックを、スペイン語でどう表現するかを学ぶことにあります。

画一化する世界にあって、それでもなお、各地域が際立った個性や魅力を保ち続けているのがラテンアメリカです。授業に熱心に取り組んでスペイン語の発信力・受信力を伸ばし、この地域を好きになってください。

テキスト：

国本伊代「ラテンアメリカ紀行」(弘学社, 2005年, 1600円)

参考書：

授業中適宜紹介します。必要に応じてスペイン語などの新聞記事や地図をプリントして配ります。一年次に使用したスペイン語の教科書も毎回持参してください。

【07】スペイン語 (I)(セ)(1)(春学期)

【07】スペイン語 (I)(セ)(1)(秋学期)

【04】スペイン語 I(2)(通年) 講師 佐伯 朝彩子

授業科目の内容：

本授業では、初年度に学習したスペイン語の文法知識を活用して、2つの方向からスペイン語の世界にアプローチします。

[スペイン語を聞く耳を鍛える]

毎回の授業中にディクテーションを行い、「スペイン語を聞く耳」を鍛えます。聴解力は急激に向上するものではありませんが、地道な練習を繰り返す反復練習を続けていくとコツが分かってきます。と同時に文法の知識がいかに大事であるかということも体感されると思います。聞き取るスペイン語の内容は比較的易しいものから徐々に難度を上げていきます。最終的にはネイティブスピーカーの方

ちが聞くスピードで読み上げられるニュースの聴解を練習するレベルに到達できることを目標に据えています。

[文学作品の講読に挑戦する]

上述 の練習と並行して文学作品の講読も行います。

前期はスペイン語で書かれた文章に慣れるために、映画化された小説のシナリオの一部を読みます。予定しているテキストは Manuel Rivas 作の *La lengua de las mariposas* です。既習のスペイン語文法が実際にどのようにコンテキストの中で活かされているのかを確認しながら読んでいきましょう。

後期からは、おおよそ 2 回の授業で詩 (poesia) もしくは小説 (narrativa) の抜粋を一つ楽しめるようなペースで進めます。作家と作品の選択に関しては、学生の皆さんから特別な要望があれば積極的に取り入れて味読することにしますが、19 世紀末に活躍した作家から現役の作家の作品までを対象にしてテキストを準備しておきます。

特に、取り上げる予定の詩は有名なシンガーソングライターの手により楽曲が付けられているので、スペインの多くの人たちが諳んじているものです。暗誦することは美しいスペイン語のリズムを実際に自分の体に響かせるため、スペイン語の上達にたいへん有用な方法です。これを機会にぜひスペイン語の詩を自分のものにしてください。

テキスト :

適宜プリント教材を配布いたします。

イタリア語

- 【07】イタリア語 (D)(セ)(1)(春学期)
- 【07】イタリア語 (D)(セ)(1)(秋学期)
- 【07】イタリア語初級 A (1)(春学期)
- 【07】イタリア語初級 A (1)(秋学期)
- 【04】イタリア語初級 A (2)(通年)
- 【04】イタリア語 D (2)(通年) 講師 武田 好

授業科目の内容 :

イタリア語の構造を学びながら、1 年間で基本的なコミュニケーションの力をつけることが目標です。文法の各項目にそって発話・聞き取り・作文・翻訳の各作業を反復練習します。新出事項の理解を深め、知識を定着させるために授業では演習形式をとります。

テキスト :

白崎子著「らくらくマスターイタリア語」(郁文堂, 2200 円)

参考書 :

ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典 (小学館)

- 【07】イタリア語 (D)(セ)(1)(春学期)
 - 【07】イタリア語 (D)(セ)(1)(秋学期)
 - 【07】イタリア語初級 B (1)(春学期)
 - 【07】イタリア語初級 B (1)(秋学期)
 - 【04】イタリア語初級 B (2)(通年)
 - 【04】イタリア語 D (2)(通年)
- grammatica e conversazione 文法とやさしい会話
講師 竹内 マテルダ

授業科目の内容 :

文法について説明し、読解とリスニングもします。主に会話練習をします。

テキスト :

ESPRESSO 1 (Ed. Alma)

- 【07】イタリア語 (D)(セ)(1)(春学期)
- 【07】イタリア語 (D)(セ)(1)(秋学期)
- 【07】イタリア語初級 C (1)(春学期)
- 【07】イタリア語初級 C (1)(秋学期)
- 【04】イタリア語初級 C (2)(通年)
- 【04】イタリア語 D (2)(通年)

休講

- 【07】イタリア語 A (セ)(1)(春学期)
 - 【07】イタリア語 A (セ)(1)(秋学期)
 - 【04】イタリア語 A (2)(通年)
 - 【07】イタリア語 B (セ)(1)(春学期)
 - 【07】イタリア語 B (セ)(1)(秋学期)
 - 【04】イタリア語 B (2)(通年)
- [A] 教授 白崎 容子
講師 武田 好
講師 堤 康德
- [B] [春] 訪問講師 ペンナッキア, ダニエーレ
[秋] 未定
[春] [秋] 講師 ビオンディ, マルコ
講師 マッジャ, フェデリカ

授業科目の内容 :

イタリア語 にひきつづき、A 系列では文法を終えたのち主に読解練習を、B 系列では主に会話と作文練習を行います。

テキスト :

- [A] 《Corso d ' italiano》(「イタリア語 」で使用) 後半 + プリント
- [B] 《Espresso 1》(「イタリア語 」で使用) 後半

朝鮮語

- 【07】朝鮮語 (D)(セ)(1)(春学期)
- 【07】朝鮮語 (D)(セ)(1)(秋学期)
- 【07】朝鮮語初級 (セ)(1)(春学期)
- 【07】朝鮮語初級 (セ)(1)(秋学期)
- 【04】朝鮮語初級 (2)(通年)
- 【04】朝鮮語 D (2)(通年) 講師 崔 鶴山

授業科目の内容 :

日常的に使う韓国語のための基礎文法知識を習得する授業です。まず、発音と文字体系、文の仕組みになれるようにします。「ハンゲル」という馴染みのない文字を使う韓国語は一見難しく見えますが、文の構造や語順、漢字語などは日本語のそれととてもよく似ているため、特に日本人には意外と早い上達が期待できる言語です。一年間の学習により、自己紹介、日常の簡単なやりとり、日記などの基本的な口頭表現及び文章表現ができるようになります。平常点、出席を重視します。

テキスト :

「はじめての韓国語」崔鶴山著、白水社

- 【07】朝鮮語 (A)(セ)(1)(春学期)
- 【07】朝鮮語 (A)(セ)(1)(秋学期)
- 【04】朝鮮語 A (2)(通年) [春] 講師 崔 鶴山
[秋] 教授 野村 伸一

授業科目の内容 :

中級レベルのこの授業では 1 学年に続き、日常的な場面をテーマにした各課のシチュエーションを学習することで、状況に応じた表現方法を習得するとともに、韓国人の会話スタイルについても理解を深めていきます。そのほか、時には映画やドラマ、新聞などを素材にして、生きた韓国語に慣れ、韓国の文化や社会事情に対する理解

も高めていきます。これと関連し、授業では受講生の発表の時間を取るようにします。一週間に二回の授業は、講師は変わっても、同一教材を用いて進めます。各課ごとに小テストをして、達成度をはかります。

出席、応用問題の回答提出と小テストは一年時と同様に重要です。

授業進捗の詳細は初回の授業の時にプリントで示します。

テキスト：

慶應義塾外国語学校編『朝鮮語 中級 』

【07】朝鮮語 (B)(セ)(1)(春学期)

【07】朝鮮語 (B)(セ)(1)(秋学期)

【04】朝鮮語 B(2)(通年) 講師 李 泰 文

授業科目の内容：

中級レベルのこの授業では1学年に続き、日常的な場面をテーマにした各課のシチュエーションを学習することで、状況に応じた表現方法を習得するとともに、韓国人の会話スタイルについても理解を深めていきます。そのほか、時には映画やドラマ、新聞などを素材にして、生きた韓国語に慣れ、韓国の文化や社会事情に対する理解も高めていきます。これと関連し、授業では受講生の発表の時間を取るようにします。一週間に二回の授業は、講師は変わっても、同一教材を用いて進めます。各課ごとに小テストをして、達成度をはかります。

出席、応用問題の回答提出と小テストは一年時と同様に重要です。

授業進捗の詳細は初回の授業の時にプリントで示します。

テキスト：

慶應義塾外国語学校編『朝鮮語 中級 』

ロシア語

【07】ロシア語 (D)(セ)(1)(春学期)

【07】ロシア語 (D)(セ)(1)(秋学期)

【07】ロシア語初級 (セ)(1)(春学期)

【07】ロシア語初級 (セ)(1)(秋学期)

【04】ロシア語 D(2)(通年)

【04】ロシア語初級(2)(通年) 講師 佐野 洋子

授業科目の内容：

このクラスは初めてロシア語を学ぶ人を対象とし、一年間で現代文を読む上で必要なロシア語文法をすべて習得します。中級レベルの文を辞書を用いて読む力をつけることを目的とします。最終的には、各自の専門に従って、独学でもロシア語を続けていける基礎学力をつけたいと思います。

テキスト：

教材は、初回の授業で配布します。

参考書：

辞書が必要になりますが、初回の授業で説明します。

【07】ロシア語 (A)(セ)(1)(春学期)

【07】ロシア語 (A)(セ)(1)(秋学期)

【04】ロシア語 A(2)(通年) 講師 金 沢 大 東

授業科目の内容：

初級で学習した語形変化と基礎単語力を足がかりとして、この中級コースでは、句型を扱う。特にロシア語の複文の内の従属複文を重点的に学習する。

テキスト：

《白い金》A. ナコルチェフスキー、金沢大東共著、慶応大学出版

【07】ロシア語 (B)(セ)(1)(春学期)

【07】ロシア語 (B)(セ)(1)(秋学期)

【04】ロシア語 B(2)(通年)

教授 ナコルチェフスキー、アンドリイ

授業科目の内容：

ロシア語の構文論、標準的な表現手段の学習

テキスト：

ナコルチェフスキー・アンドリイ・金沢大東 「白い金」慶應義塾大学出版会

専 門 科 目

哲学専攻

必修科目

【07】哲学概論 (2)(春学期)

【07】哲学概論 (2)(秋学期)

【04】哲学概論(4)(通年) 教授 西脇 与 作

授業科目の内容:

哲学がどのようなものかを概説した上で、哲学の主要なテーマについて具体的に説明していきます。哲学、倫理学専攻の二年生を主に対象にし、哲学全般への入門授業と考えて下さい。この授業で哲学の基本的な事柄を知り、哲学の各論への準備にして下さい。

テキスト:

『現代哲学入門』西脇与作, 慶應義塾大学出版会, 2002

【07】西洋哲学倫理学史 (2)(春学期)

【07】西洋哲学倫理学史 (2)(秋学期)

【04】西洋哲学倫理学史 (4)(通年)

Archaeologyとしての哲学 教授 堀江 聡

授業科目の内容:

日本語で独習できる哲学者は省き、初学者にはアクセスしにくい思想家を採り上げる。「拡大された中世哲学」の建て増し部分に重点を置き、なるべく興味ある話題を提供しようと思う。「拡大された」というのは、従来、西洋中世哲学史のなかに含められなかった、或いは触れることができるほど学問が進歩していなかったという意味である。具体的には、フランスの哲学史家として著名なアラン・ド・リベラの枠組みに沿って、東方イスラーム、西方イスラーム、中世ユダヤ思想、ビザンツ帝国の哲学に踏み込んでみる。その基礎となるのが、思想としては紀元3~6世紀の新プラトン主義であり、道具としては、古代ギリシア語、アラビア語、ヘブライ語、ラテン語である。

テキスト:

『プロティノス エネアデス(抄)』(田中美知太郎・田之頭安彦・水地宗明訳), 中公クラシックス, 2007年。その他、原典などはコピー配布予定。

参考書:

- ・アラン・ド・リベラ『中世哲学史』(阿部一智・永野潤・永野拓也訳), 新評論, 1999年。
- ・『中世思想原典集成 11. イスラーム哲学』(竹下政孝 監訳), 平凡社, 2000年。
- ・伊東俊太郎『12世紀ルネサンス 西欧世界へのアラビア文明の影響』岩波セミナーブックス42, 1993年。
- ・水谷智洋『古典ギリシア語初歩』, 岩波書店, 1990年。
- ・小脇光男『聖書ヘブライ語文法』, 青山社, 2001年。
- ・佐々木淑子『アラビア語入門』, 青山社, 2000年。
- ・内山勝利・中川純男編著『西洋哲学史〔古代・中世編〕』, ミネルヴァ書房, 1996年。

【07】西洋哲学倫理学史 (2)(春学期)

【07】西洋哲学倫理学史 (2)(秋学期)

【04】西洋哲学倫理学史 (4)(通年)

西洋近代の哲学・倫理学 准教授 柘植 尚 則

授業科目の内容:

この講義では、西洋近代の哲学・倫理学の歴史を概説する。哲学専攻・倫理学専攻の2年生を主たる対象とし、学生が専門の研究に必要な基礎を習得することを目標とする。受講者は、3・4年生向けに開講される専門科目に備えて、西洋の哲学・倫理学に関する幅広い知識

識を身につけ、それを自らのテーマに活かせるように努めてもらいたい。

テキスト:

柘植尚則編『西洋哲学史入門 6つの主題』(梓出版社, 2006年, 2500円)

参考書:

授業の中で紹介する。

【07】論理学入門 (2)(春学期)

【07】論理学入門 (2)(秋学期)

【04】論理学入門(4)(通年)

記号論理学の基礎

講師 弓削 隆一

授業科目の内容:

現代の記号論理学の基礎である、命題論理・述語論理について解説する。具体的内容としては、推論の妥当性を前提・結論の真理条件から規定しようとする方法(意味論),「証明」の概念に基づいて規定しようとする方法,およびこの両者の関係(完全性定理)についての解説が含まれる。上記の内容の的確な理解のためには問題演習が不可欠なので、通常の講義科目よりは演習に近い授業形式を取ることになると思われる。

テキスト:

授業時にプリントを配布する。

参考書:

授業時に適宜指示する。

【07】哲学倫理学原典講読 (独)(2)(春学期)

【07】哲学倫理学原典講読 (独)(2)(秋学期)

【04】哲学倫理学原典講読(独)(4)(通年)

[春]講師 吉田 量彦

[秋]教授 樽井 正義

【春学期】

授業科目の内容:

おもにドイツ語の初級文法を終えて間もない学生さん向けの、哲学・倫理学分野のドイツ語の専門書に慣れ親しんでいただくための授業です。吉田が担当する春学期は、ミヒャエル・ハンベ著『偶然のチカラ』から適当な箇所を抜粋して講読します。

テキスト:

Hampe, Michael: *Die Macht des Zufalls*, Berlin (wjs Verlag), 2006. (ISBN3-937989-23-4)

【秋学期】

授業科目の内容:

Hampe, Michael: *Die Macht des Zufalls*, Berlin 2006 を継続して講読します。

【07】哲学倫理学原典講読 (仏)(2)(春学期)

【07】哲学倫理学原典講読 (仏)(2)(秋学期)

【04】哲学倫理学原典講読(仏)(4)(通年)

教授 岡田 光弘

授業科目の内容:

哲学・思想関係のテキストをフランス語で講読する訓練を行う。内容については初回授業の時に説明する。使用するテキストはプリントして配布する。

テキスト:

プリントして配布

参考書:

授業時に指定

-
- 【07】哲学倫理学原典講読 (露)(2)(春学期)
【07】哲学倫理学原典講読 (露)(2)(秋学期)
【04】哲学倫理学原典講読(露)(4)(通年)
教授 谷 寿 美
-

授業科目の内容:

受講者の語学力に応じたテキストを講読します。
受講希望者は必ず初回講義時に出席すること。

テキスト:

語学力に応じて選択します。

-
- 【07】科学の哲学 (2)(春学期)
【07】科学の哲学 (2)(秋学期)
【04】科学の哲学(4)(通年) [春] 講師 安藤道夫
科学哲学入門 [秋] 教授 西脇与作
-

授業科目の内容:

春学期は科学の哲学の基本的な事柄について説明します。使用するテキストの第一部に相当する部分で、必要に応じてプリントも配布します。プリントの内容は主に古典的世界観に関するものです。

秋学期は科学の哲学の各論で、テキストの量子力学、進化生物学を中心に説明する予定です。

テキスト:

『科学の哲学』西脇与作, 慶応義塾大学出版会, 2004

-
- 【07】中級論理学 (2)(春学期)
【07】中級論理学 (2)(秋学期)
【04】中級論理学(4)(通年) [春] 講師 竹村 亮
[秋] 講師 佐々木 昭 則
-

授業科目の内容:

本講義は、論理学入門をすでに終え、記号を用いた論理推論にある程度慣れ親しんでいる人(あるいは同等の知識を持つ人)を対象にした数理論理学の中級コースです。

-
- 【07】知識の哲学 (2)(春学期)
【07】知識の哲学 (2)(秋学期)
【04】知識の哲学(4)(通年)
知覚・記憶・伝聞 教授 飯田 隆
-

授業科目の内容:

さまざまな種類の知識のうち、今回の授業では、知覚による知識と、記憶および伝聞による知識について、集中的に論じたいと考えています。関連する経験的研究もできるだけ取り上げるつもりです。

テキスト:

ありません。

参考書:

その都度、授業のなかで指示します。

-
- 【07】形而上学 (2)(春学期)
【07】形而上学 (2)(秋学期)
【04】形而上学(4)(通年)
古代神哲学の発掘に向けて 教授 堀江 聡
-

授業科目の内容:

チュービンゲン大学図書館蔵の一写本で唯一残存するがゆえに、『チュービンゲン神哲学』の名で呼び習わされるギリシア語神哲学文献は恐らく6世紀に遡るもので、神託などによるエジプト・ペルシア・ギリシアの異教の哲学的宗教的智恵とキリスト教の啓示が一致することを示そうとする点で現代的意義を有している。「テオソフィア」(神智)なる言葉は、3世紀末のポルフェリオス『断肉論』(菜食主義擁護論)において、古代密儀宗教の祭司ならびに、インドの修行者の智恵と関連づけられている。以後古代末期では連綿と、イアンプリコス(俗称『エジプト人の秘儀』)、プロクロス『プラトン神

学』、ダマスキオス『第一始原論』に用例が散見される。この異教哲学の伝統とキリスト教がぶつかり合う接点である6世紀初頭の擬ディオニュシオス文書にごく近い知的ミリューに、最新版の校訂者ベアトリーチェは、『チュービンゲン神哲学』の起源を求めている。エジプト、ギリシア、インド、中東の智恵は調和しつつ、一つの神の実在を果たして開示するのか、文献学的推理の妙味も味わいつつ探らんとする人よ、来たれ。

テキスト:

Anonymi Monophysitae Theosophia. An Attempt at Reconstruction, by Pier Franco Beatrice, Brill, 2001.

参考書:

Theosophorum Graecorum Fragmenta, ed. H. Erbse, Leipzig: Teubner, 1995.

-
- 【07】現代論理学の諸問題 (2)(春学期)
【07】現代論理学の諸問題 (2)(秋学期)
【04】現代論理学の諸問題(4)(通年)
現代論理とその応用 教授 岡田 光 弘
講師 竹村 亮
-

授業科目の内容:

現代論理学の諸問題と修士課程(哲学特殊)との共通線形論理、証明論、ダイナミック論理、状況意味論等を中心とした現代論理学的手法の導入と、論理哲学、情報科学、認知科学、AI等への応用を行う。

又、フッサール論理哲学、現象学的論理学、アリストテレスの論理学等についても現代論理学の観点から検討する。

秋学期にはゲーム論的意味論(対話的論理ともしばしば呼ばれる)についての解説及び検討も加える。

テキスト:

プリントして配布を予定

参考書:

授業時に指定

-
- 【07】心の哲学 (2)(春学期)
【07】心の哲学 (2)(秋学期)
【04】心の哲学(4)(通年) [春] 講師 室田 憲 司
[秋] 講師 木原 弘 行
-

【春学期】

授業科目の内容:

春学期は、室田が心身関係の諸理論(心身二元論、行動主義、心脳同一説、機能主義など)について概説します。存在論的枠組に注意を払いつつ、心的現象と物的現象との関係について考えていきたいと思ひます。

テキスト:

特に指定しません。プリントを配布する予定です。

参考書:

必要に応じて授業中に紹介します。

【秋学期】心と因果性

授業科目の内容:

心が(いわゆる)物に対して、どのように働きかけたり、働きかけられたりするののかという問題について考えていきたいと思ひます。春学期で考察したことをふまえながら、特に心の内容が因果的な効力をどうしてもつのか、また因果関係の連鎖のなかで自由意志はどうなるのかといったことを扱うつもりです。

テキスト:

指定しません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書:

内容にあわせて紹介します。

【07】言語の哲学 (2)(春学期)

【07】言語の哲学 (2)(秋学期)

【04】言語の哲学(4)(通年)

休講

【07】現象学 (2)(春学期)

【07】現象学 (2)(秋学期)

【04】現象学(4)(通年)

『イデー』を読む 教授 斎藤慶典

授業科目の内容:

フッサール『純粹現象学と現象学的哲学のための諸考案・第1巻』(通称『イデー』, 1913年刊)より, 今年度はその第3編「純粹現象学の方法態度と問題探究のために」, 第4章「ノエシス・ノエマ的構造の問題探究のために」を取り上げ, 「現象学」という発想がそもそもいかなるものなのか, その可能性と問題点を徹底して洗い出したいと思います。授業は, あらかじめ分担を定められた担当者によるテキスト当該部分のレジュメと問題提起をもとに, 参加者全員によるディスカッションを中心に行ないます。テキストは以下の邦訳版を使用し, 必要に応じて原著を参照します(ただし, 受講者のドイツ語能力を前提にはしません)。

テキスト:

フッサール『イデー』(渡辺二郎訳, みすず書房, 1979年)から該当部分ならびにそれにかかわる原注, 訳注部分を, 各自何らかの仕方を用意してください。また他に課題図書(「授業の計画」の項参照)として, 斎藤慶典『フッサール 起源への哲学』(講談社・選書メチエ, 2002年)が必要です。

【07】宗教の哲学 (2)(春学期)

【07】宗教の哲学 (2)(秋学期)

【04】宗教の哲学(4)(通年)

信仰と理性 教授 中川純男

授業科目の内容:

宗教への主体的な関わりを信念や倫理の問題であると考え, 形而上学や哲学から追放するのは近世的な理性であるが, この授業においてはこのような近世的理性概念の批判を行う。神の存在論証や世界の永遠性についての論証を取り上げ, それらのもつ哲学的な意味はなにか, それはいかなる意味での論証なのかを考える。

テキスト:

用いない。

参考書:

授業中に指示する。

【07】哲学原典研究 (独)(2)(春学期)

【07】哲学原典研究 (独)(2)(秋学期)

【04】哲学原典研究 (独)(4)(通年)

フィヒテ研究に寄せて 教授 堀江 聡

授業科目の内容:

今年度から数年間, 「知識学」と称する独自の哲学分野を切り拓き, ドイツ観念論を主導したフィヒテ(1762-1814)を読み込みたい。自我と非我および絶対者との関わり, 理論と実践との交錯, 光と像のメタファー等を独逸語原典で正確に辿りつつ, 古代末期アカデメイア最後の学頭ダマスキオスの懐疑的論法並びに, イスラーム神秘哲学の泰斗スフラワルディーの光の形而上学とも突き合わせて, フィヒテに触発されて自我の底を深く深く掘削することが私自身の課題である。

テキスト:

初回に人数を確認のうえ, テキストのコピーを配布する。知識学の構想は, フィヒテ自身の手で幾度も幾度も塗り替えられる。したがって, まず初期のものから着手し, 発展史的相のもとに解読していくことが定石と思われる。

履修者へのコメント:

英語訛りが取れるように, 毎週テキストの当該部分は自宅で繰り返し音読してこよう。

成績評価方法:

平常点による評価なので, 特別の理由なく各学期3回以上欠席したものに単位は与えられない。

【07】哲学原典研究 (仏)(2)(春学期)

【07】哲学原典研究 (仏)(2)(秋学期)

【04】哲学原典研究 (仏)(4)(通年)

ダストゥールのデリダ論

理工学部 専任講師 荒金直人

授業科目の内容:

現象学を主な研究領域とするフランスの哲学者フランソワーズ・ダストゥール Françoise Dastur のデリダについての最近の論文《Derrida et la question de la présence》を精読する。短い論文なので年度中に読み切ることが十分にできる。そこで言及・引用されている様々なテキスト(Derrida, Merleau-Ponty, Husserl, Lévinas, Saussure, Heidegger, Ricœurなどのテキスト)を原典で(原典がドイツ語の場合は仏訳や邦訳で)確認する作業も時間が許す範囲で行う。ダストゥールがデリダを論じた論文はいくつかあるが, デリダの思想を現象学の文脈で捉え直し, 哲学的かつ批判的に問う姿勢を崩さない点にその特徴がある。1967年の『声と現象』以来, デリダはそれ以前の彼の立場を幾分か修正し, フッサール現象学を「現前の形而上学」の一端をなすものと看做すようになった。ダストゥールはこの論文の中で, フッサールやハイデッガーの視点を確認しながら, デリダのこのような立場の正当性を問う。

テキスト:

Françoise Dastur, 《Liminaire》 et 《Derrida et la question de la présence : une relecture de *La voix et le phénomène*》 in *Revue de Métaphysique et de Morale*, janvier 2007, numéro consacré à 《Derrida》, pp. 3-20.

参考書:

ジャック・デリダ『声と現象』林好雄訳, ちくま学芸文庫, 2005年。
Jacques Derrida, *La voix et le phénomène*, Paris, PUF, 1967.

【07】哲学原典研究 (英)(2)(春学期)

【07】哲学原典研究 (英)(2)(秋学期)

【04】哲学原典研究 (英)(4)(通年)

バークレー『人知原理論』を読む 教授 飯田 隆

授業科目の内容:

18世紀アイルランドの哲学者 George Berkeley (1685-1753) の著作 *A Treatise Concerning the Principles of Human Knowledge* (1710) の本文 34 節以下を読むことを通じて, 哲学のテキストを読むとはどういうことかを学びます。この部分で Berkeley は, 物質否定論という自身の主張に対して提起される可能な反論を多数挙げ, それを逐一反駁することを試みています。そうした議論の妥当性を検討することが, 授業の大部分を占めるはずで。

テキスト:

Jonathan Dancy (ed.), *George Berkeley: A Treatise Concerning the Principles of Human Knowledge*. Oxford Philosophical Text.

【07】哲学原典研究 (古典)(2)(春学期)

【07】哲学原典研究 (古典)(2)(秋学期)

【04】哲学原典研究 (古典)(4)(通年)

ライプニッツのテキストを読む 講師 田子山 和歌子

授業科目の内容:

17世紀の哲学者ライプニッツのラテン語で書かれたテキストを講読します。

テキスト:

ゲルハルト版 7 卷(190-193 p.p.)に含まれている「対話(Dialogus)」から読みはじめたいと思います。

参考書：

何でもよいのでラテン語の辞書と文法参考書を持って来て下さい。

- 【07】哲学倫理学特殊 (原典研究 (露))(2)(春学期)
- 【07】哲学倫理学特殊 (原典研究 (露))(2)(秋学期)
- 【04】哲学倫理学特殊(原典研究 (露))(4)(通年)

休講

- 【07】哲学研究会 (1)(春学期)
 - 【07】哲学研究会 (1)(秋学期)
 - 【07】哲学研究会 (1)(春学期)
 - 【07】哲学研究会 (1)(秋学期)
 - 【04】哲学研究会 (2)(通年)
 - 【04】哲学研究会 (2)(通年)
- 知ること, わかること 教授 西脇 与作

授業科目の内容：

何かを知り, わかることの仕組みやわかったことの正しさ等は認識論として, そして最近では認知科学として扱われてきたものです。「知る, わかる」ことについての哲学の基本的な文献を読みながら, 受講者の中で議論し合うのが内容です。

- 【07】哲学研究会 (1)(春学期)
 - 【07】哲学研究会 (1)(秋学期)
 - 【07】哲学研究会 (1)(春学期)
 - 【07】哲学研究会 (1)(秋学期)
 - 【04】哲学研究会 (2)(通年)
 - 【04】哲学研究会 (2)(通年)
- 現象学研究 教授 斎藤 慶典

授業科目の内容：

広い意味で現象学に関わるテキスト(今年度はヘーゲル『精神現象学』の「緒論」以下)を取り上げ, 事前に指定された担当者による報告と問題提起, それに基づく全員によるディスカッションを行ないます。夏休みの終わりに授業の一環としてゼミ合宿を行ない, 四年生に卒論の中間発表を・三年生にはその特定質問者をつとめていただきます。秋学期には三年生にも各自の問題意識にしたがった発表をしていただき, 全員で議論します。また年度末には(例年2月初旬), 提出された卒論に基づく公開の卒論発表会を行ない, こでも3年生に特定質問者をつとめていただきます。

なお, 卒論提出予定者は, 初回授業時にテーマ登録をしていただきます。この登録のない者は履修を認めませんので注意して下さい。テキスト：

ヘーゲル『精神現象学』上, 榎山欽一郎訳, 平凡社ライブラリー

- 【07】哲学研究会 (1)(春学期)
 - 【07】哲学研究会 (1)(秋学期)
 - 【07】哲学研究会 (1)(春学期)
 - 【07】哲学研究会 (1)(秋学期)
 - 【04】哲学研究会 (2)(通年)
 - 【04】哲学研究会 (2)(通年)
- 古代ギリシアの「人間」論 アリストテレス『政治学』を読む 教授 納富 信留

授業科目の内容：

古代ギリシアの哲学は「人間とは何か?」という問をめぐって展開されたが, とりわけ, 共同体をなす人間のあり方が考察の中核となった。「倫理」という名で呼ばれる人間のあり方への探求は, 必然的に人と人との関係とそれを成立させるあり方(政治)の分析に向かった。本演習では, アリストテレスの大著『政治学』を取り上げ, その中心議論を読み解くことで古代ギリシアの中核的問に迫ってみよう。

『政治学』は単なる政体論ではなく, 人間の本質の解明として読まれるべきである。その場合, 一方でプラトン『国家』の理想国家論

が批判的に検討され, 他方でアリストテレス自身の著作『ニコマコス倫理学』が連続性のうちに姿を現す。これら二大著作も射程に入れ(参加者は各自読んでおくことが望ましいが, 授業時にも適宜参照する), より広い視野から議論をしていく。

テキスト：

アリストテレス『政治学』, 牛田徳子訳, 京都大学学術出版会

参考書：

- ・プラトン『国家』, 藤沢令夫訳, 全二巻, 岩波文庫
- ・アリストテレス『ニコマコス倫理学』, 朴一功訳, 京都大学学術出版会

- 【07】哲学研究会 (1)(春学期)
- 【07】哲学研究会 (1)(秋学期)
- 【07】哲学研究会 (1)(春学期)
- 【07】哲学研究会 (1)(秋学期)
- 【04】哲学研究会 (2)(通年)
- 【04】哲学研究会 (2)(通年)

情報と認知の論理と倫理 教授 岡田 光弘

授業科目の内容：

言葉の理解, 知覚, 論理思考, AI 情報倫理, 神経科学倫理等に関わる学際テーマに対して哲学, 思想, 論理等の観点も含めて議論していく。

研究会の詳しい進め方については初回に参加者と話し合って決定する。特に, 研究会参加者に論理的に議論したり, 論理的に思考するスキルを身に付けて頂けるようなディスカッションを進めていきたい。

テキスト：

初回授業時に参加学生の興味やテーマをお聞きした上で, 指定する。

参考書：

授業時に指定する

- 【07】哲学研究会 (1)(春学期)
 - 【07】哲学研究会 (1)(秋学期)
 - 【07】哲学研究会 (1)(春学期)
 - 【07】哲学研究会 (1)(秋学期)
 - 【04】哲学研究会 (2)(通年)
 - 【04】哲学研究会 (2)(通年)
- 教授 飯田 隆

授業科目の内容：

土屋賢二氏による哲学入門書『ツチャ教授の哲学講義』をテキストにして, 哲学の問題について論じるというのはどういうことかを体験することを目標にします。

テキスト：

土屋賢二『ツチャ教授の哲学講義』岩波書店

- 【07】哲学研究会 (1)(春学期)
- 【07】哲学研究会 (1)(秋学期)
- 【07】哲学研究会 (1)(春学期)
- 【07】哲学研究会 (1)(秋学期)
- 【04】哲学研究会 (2)(通年)
- 【04】哲学研究会 (2)(通年)

プロティノスの“白鳥の歌”を読む

教授 堀江 聡

授業科目の内容：

前年度から持ち越しの, ゼミ生による自由研究発表の残りを聴きことから始め, 5月連休明けから, プロティノス最晩年の思索の跡を辿る演習を行う。54 論攷中, 「第一の善と他の諸善について」が絶筆であるが, 原文で僅か3頁弱であるから, 実質的にはその直前に書かれた「生あるものとは何か, 人間とは何か」で, プロティノス哲学の終着点を見届けることができよう。伝染性の病気ゆえにローマ近郊に隔離された状況で, 宇宙における魂の位置を静かに見つめる哲学者の眼差しは, やはり心身の結合と分離の狭間を揺れ動く。

テキスト：

『プロティノス全集』第一巻, 田之頭安彦訳, 中央公論社, 1986年。

参考書：

Plotin. Traité 53, introduction, traduction, commentaire et notes par Gwenaëlle Aubry, Paris: Cerf, 2004; *Plotin. Traité 54*, introduction, traduction, commentaire et notes par Agnès Pigler, Paris: Cerf, 2004; *Plotino. Che cos'è l'essere vivente e che cos'è l'uomo? I 1 [53]*, Introduzione, testo greco, traduzione e commento di Carlo Marzulo. Prefazione di Cristina D'Ancona, Pisa U. P., 2006; G. Aubry, *Dieu sans la puissance. Dunamis et energeia chez Aristote et chez Plotin*, Paris: Vrin, 2006.

- 【07】哲学研究会 (1)(春学期)
- 【07】哲学研究会 (1)(秋学期)
- 【07】哲学研究会 (1)(春学期)
- 【07】哲学研究会 (1)(秋学期)
- 【04】哲学研究会 (2)(通年)
- 【04】哲学研究会 (2)(通年) 教授 中川 純 男

授業科目の内容：

トマス・アキナスの『真理論』をテキストとして分析する。テキストは邦訳を配布する。秋学期は、受講者の研究発表を行う。四年生は、卒論で扱うテーマについて発表することが求められる。

テキスト：

プリントを配布する。ラテン語テキストについても必要があれば配布する。

参考書：

授業中に指示する。

選 択 科 目

- 【07】印度哲学 (2)(春学期)
- 【07】印度哲学 (2)(秋学期)
- 【04】印度哲学 (4)(通年)
- インダの「知」の諸相 講師 齋藤 直樹

授業科目の内容：

西暦紀元前 5000 年ころ南ロシア・黒海北方に定住していた民族の一部が、前 1700 年ころから移住を開始し、一時数世紀間、西トルキスタン（現在のテヘラン周辺）にとどまったのち、前 1300 年頃にヒンドゥークシュ山脈を越えて西北インドに侵入しパンジャーブ地方を占領した。インドまでやってきたものたちはみずからアーリヤとよんだが、この語はのちに「聖なる」という意味をになうようになる。このアーリヤ人は、リグ・ヴェーダを嚆矢とするおびただしい数の典籍を語りついできたが、その膨大な文献群は、われわれがそれを概観することすら容易にはゆるそうとしない。

この講義においてわれわれは、アーリヤ人を中心とするインドの伝統のなかではぐくまれ、かたちづくられてきた思想の核心をかいま見るべく、その思想史において中心的な役割をになってきたとおもわれる、いくつかの文献の一部を取りあげることになる。予備的にいえば、インド古代の諸文献に現れるさまざまな言説を読み解いていくとき、「聖と俗」「有と無」「遍在と局在」「永遠と瞬間」「精神と物質」などといった、人間の生と死にかかわる、もろもろの重大な対立軸が浮かびあがってくることになるだろう。そして、それらの対立を超越することにこそ、インド的な「知」の目標がさだめられていることがあきらかになってくるであろう。

テキスト：

なし

参考書：

授業中に適宜紹介する。

【07】宗教学 (2)(春学期)

【07】宗教学 (2)(秋学期)

【04】宗教学 (4)(通年)

現代社会と宗教

講師 弓山 達也

授業科目の内容：

本講義の目標は、現代宗教をめぐるホットなテーマについて学習し、(人数によるが)議論を通じて、現代人の精神状況や社会・時代について見識を深めていくことにある。宗教教団は学生諸君にとっては縁遠い存在かもしれないが、今流行のスピリチュアルや生命観は私たちの宗教意識と深く結びつき、時代や社会の変化とともにその姿を変えている。こうした「見えざる宗教性」を浮かび上がらせるのが本講義のねらいである。

テキスト：

なし

参考書：

講義中に指示する。

倫理学専攻

必修科目

- 【07】倫理学概論 (2)(春学期)
【07】倫理学概論 (2)(秋学期)
【04】倫理学概論(4)(通年) [春]教授 山内志朗
[春]准教授 エアトル、ヴォルフガング
[春]准教授 柘植尚則
[春]准教授 奈良雅俊
[秋]教授 樽井正義

授業科目の内容:

倫理学とはどのような科学ないし学問であるのかを理解することがこの講義の課題です。この課題を応えるために、倫理学の基本概念である「善い(good)」、「正しい(right)」、そしてとくに「自由(free)」ということの意味を、西欧近代および現代の実践哲学の主要な理論に即して考察します。さらにそうした理論と、現代の医療倫理、環境倫理、情報倫理などにおいて取り組まれている倫理的諸課題とを付き合わせることを行います。

テキスト:

使用しません。

参考書:

小松光彦他編『倫理学案内』、慶應義塾大学出版会、2006年
他は適宜授業中に紹介します。

- 【07】西洋哲学倫理学史 (2)(春学期)
【07】西洋哲学倫理学史 (2)(秋学期)
【04】西洋哲学倫理学史 (4)(通年)
Archaeologyとしての哲学 教授 堀江 聡

授業科目の内容:

日本語で独習できる哲学者は省き、初学者にはアクセスしにくい思想家を採り上げる。「拡大された中世哲学」の建て増し部分に重点を置き、なるべく興味ある話題を提供しようと思う。「拡大された」というのは、従来、西洋中世哲学史のなかに含まれなかった、或いは触れることができるほど学問が進歩していなかったという意味である。具体的には、フランスの哲学史家として著名なアラン・ド・リベラの枠組みに沿って、東方イスラーム、西方イスラーム、中世ユダヤ思想、ビザンツ帝国の哲学に踏み込んでみる。その基礎となるのが、思想としては紀元3~6世紀の新プラトン主義であり、道具としては、古代ギリシア語、アラビア語、ヘブライ語、ラテン語である。

テキスト:

『プロティノス エネアデス(抄)』・(田中美知太郎・田之頭安彦・水地宗明訳)、中公クラシックス、2007年。その他、原典などはコピー配布予定。

参考書:

- ・アラン・ド・リベラ『中世哲学史』(阿部一智・永野潤・永野拓也訳)、新評論、1999年。
- ・『中世思想原典集成 11. イスラーム哲学』(竹下政孝 監訳)、平凡社、2000年。
- ・伊東俊太郎『12世紀ルネサンス 西欧世界へのアラビア文明の影響』岩波セミナーブックス 42、1993年。
- ・水谷智洋『古典ギリシア語初歩』、岩波書店、1990年。
- ・小脇光男『聖書ヘブライ語文法』、青山社、2001年。
- ・佐々木淑子『アラビア語入門』、青山社、2000年。
- ・内山勝利・中川純男編著『西洋哲学史〔古代・中世編〕』、ミネルヴァ書房、1996年。

たいと思っても、“基礎体力”がないと大学院レベルの研究には耐えられないからである。

- 【07】西洋哲学倫理学史 (2)(春学期)
【07】西洋哲学倫理学史 (2)(秋学期)
【04】西洋哲学倫理学史 (4)(通年)
西洋近代の哲学・倫理学 准教授 柘植尚則

授業科目の内容:

この講義では、西洋近代の哲学・倫理学の歴史を概説する。哲学専攻・倫理学専攻の2年生を主たる対象とし、学生が専門の研究に必要な基礎を習得することを目標とする。受講者は、3・4年生向けに開講される専門科目に備えて、西洋の哲学・倫理学に関する幅広い知識を身につけ、それを自らのテーマに活かせるように努めてもらいたい。

テキスト:

柘植尚則編『西洋哲学史入門 6つの主題』(梓出版社、2006年、2500円)

参考書:

授業の中で紹介する。

- 【07】【04】倫理学の基礎 (2)(春学期)
「情念と価値(1) ホッブズ、デカルト、スピノザ」
教授 山内志朗

授業科目の内容:

倫理学で扱われる様々な価値は、人間の理性的行為の対象としてあるだけでなく、人間の情念や感情に連動して、多様な様式で現象する。この授業では、善を目指す人間が、情念によって妨害される枠組みを近世において確認し、スピノザの『エチカ』に代表される近世的倫理学の枠組みを確認したい。

テキスト:

プリントにて配布予定。(文庫本を指示する場合もある)

参考書:

授業中に適宜指示する。

- 【07】【04】倫理学の基礎 (2)(秋学期)
「情念と価値(2) トマス・アクィナス」
教授 山内志朗

授業科目の内容:

倫理学で扱われる様々な価値は、人間の理性的行為の対象としてあるだけでなく、人間の情念や感情に連動して、多様な様式で現象する。この授業では、善を目指す人間が、情念によって妨害される枠組みを中世において確認する。トマス・アクィナス『神学大全』第2部の1の基本概念を学ぶ。デカルトの『情念論』につながる系譜が見出されるはずである。

- 【07】【04】倫理学の課題 (2)(春学期)
原典で読む生命倫理 准教授 奈良雅俊

授業科目の内容:

生命倫理学という学際的領域に倫理学がどのような貢献ができるのかを検討することが、この時間の課題です。この領域が成立した歴史的背景、そこで確認されてきた倫理原則や重要概念について知るために、欧米のリーディングスに収録されている重要な論文を英語あるいは邦訳で読みます。また、論文の背景や意義について解説します。

テキスト:

論文のコピーを配布します。

参考書:

- ・赤林朗編『入門・医療倫理』頸草書房 2005年
- ・Helga Kuhse & Peter Singer (eds), *Bioethics: an anthology* Blackwell, 1999.

【07】【04】倫理学の課題 (2)(秋学期)

原典で読む環境倫理 准教授 奈良 雅 俊

授業科目の内容：

地球環境問題の解決に倫理学がどのような貢献ができるのかを検討することが、この時間の課題です。環境倫理学の考え方や主張について知るために、欧米のリーディングスに収録されている重要な論文を英語あるいは邦訳で読みます。また、論文の背景や意義について解説します。

テキスト：

論文のコピーを配布します。

参考書：

- ・ジョゼフ・R・デ・ジャルダン、新田功 / 生方卓 / 蔵本忍 / 大森正之訳『環境倫理学 環境哲学入門』人間の科学新社、2005年
- ・Robert Elliot (ed.), *Environmental Ethics*, Oxford U.P., 1995.

【07】【04】倫理学の課題 (2)(春学期)

経済と倫理 准教授 柘 植 尚 則

授業科目の内容：

経済倫理は経済のあり方を倫理的に問うものであるが、いまだ一つの学問分野として確立されていない。だが、経済の世界では様々な倫理的な問題が存在し、経済に対する倫理的な考察も数多くなされている。この講義では経済における倫理問題を紹介し、経済のあり方について倫理的に考えることにしたい。

テキスト：

柘植・田中・浅見・柳沢・深貝・福岡『経済倫理のフロンティア』(ナカニシヤ出版、2007年)

参考書：

授業の中で紹介する。

【07】【04】倫理学の課題 (2)(秋学期)

エイズを知る 講師 池 上 千 寿 子

授業科目の内容：

エイズは「社会を映す鏡」といわれます。たかが25年の間に21世紀にもちこされた最大課題となったエイズ。なぜそうなったのかエイズのリアリティとは何かを考えることによって、社会のもつ具体的な倫理的課題についても考察し、エイズと共に生きることはいかなることかを理解することを目標とします。

テキスト：

エイズ&ソサエティ研究会議「エイズを知る」角川書店、2001、600円

【07】日本倫理思想 (2)(春学期)

【07】日本倫理思想 (2)(秋学期)

【04】日本倫理思想(4)(通年)

武士道の倫理思想 講師 菅 野 覚 明

授業科目の内容：

武士の思想の歴史的展開を概観しつつ、「武士道」とよばれる倫理思想の内容・特質について論じる。

テキスト：

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

参考書：

講義時にその都度指示する。

【07】東洋倫理思想 (2)(春学期)

【07】東洋倫理思想 (2)(秋学期)

【04】東洋倫理思想(4)(通年)

中国古代・中世倫理思想史入門

講師 森 由 利 亜

授業科目の内容：

この授業では古代から10世紀頃に至るまでの中国の倫理思想の歴史的展開を概説します。特に、儒教、道教、中国仏教をはじめとする中国の思想的、宗教的伝統における倫理観について、最も基本的な点を平易に解説します。中国の倫理や哲学、宗教に興味ある方にとっては無論のこと、中国以外の地域における倫理思想に関心のある方に対しても役立つような適切な知識を提供する場にしていくことを目指します。

テキスト：

プリントを配付します。

参考書：

溝口雄三・丸山松幸・池田知久編『中国思想文化事典』東京大学出版社。他は授業中にお示しします。

【07】キリスト教概論 (2)(春学期)

【07】キリスト教概論 (2)(秋学期)

【04】キリスト教概論(4)(通年)

キリスト教の全的・統一的な展望に向けての試みとして

教授 谷 寿 美

授業科目の内容：

キリスト教は、二千年を超える歴史を通して、また各地域の風土的な差異を介して、想像以上に豊かな発現形態をとりつつ展開定着を遂げた世界宗教です。そのように優れて多面的な相貌を見せながらも、またキリスト教はその多様性の底に一貫して流れる教えの独自性、唯一性を守り続けてきました。

この講義では、そうした多面性と統一性を、極力全一的に展望することを試み、その方向でのキリスト教理解の広がりや深度の更新を目指します。

基本的には、春学期に、歴史および地理的差異を経ての二千年来の現象としてのキリスト教を、秋学期には、そのようにも世界に浸透し普遍性を獲得するに至ったその宗教現象を支え続ける内的な本質、キリスト教を今もキリスト教として成立させているその独自性、唯一性を、様々な局面から見ていきたいと考えています。しかし、具体的な現象面と本質面が不可分であることは言うまでもなく、実際には春秋にかかわりなく交差する両側面を見ながら追求を進めていくこととなります。

参考書：

授業時に随時指示します。

【07】哲学倫理学原典講読 (英)(2)(春学期)

【07】哲学倫理学原典講読 (英)(2)(秋学期)

【04】哲学倫理学原典講読(英)(4)(通年)

近代イギリスのモラリストたち 准教授 柘 植 尚 則

授業科目の内容：

この授業では、近代イギリスのモラリスト(道徳思想家)のうち著名な人物をいくらか取り上げて、その思想を紹介しながら原典(抜粋)を講読する。

テキスト：

プリントを配布する。

参考書：

寺中・大久保編『イギリス哲学の基本問題』(研究社、2005年) その他、授業の中で紹介する。

【07】哲学倫理学原典講読 (独)(2)(春学期)

【07】哲学倫理学原典講読 (独)(2)(秋学期)

【04】哲学倫理学原典講読(独)(4)(通年)

[春]講師 吉田量彦

[秋]教授 樽井正義

【春学期】

授業科目の内容：

おもにドイツ語の初級文法を終えて間もない学生さん向けの、哲学・倫理学分野のドイツ語の専門書に慣れ親しんでいただくための授業です。吉田が担当する春学期は、ミヒャエル・ハンベ著『偶然のチカラ』から適当な箇所を抜粋して講読します。

テキスト：

Hampe, Michael: *Die Macht des Zufalls*, Berlin (wjs Verlag), 2006. (ISBN3-937989-23-4)

【秋学期】

授業科目の内容：

Hampe, Michael: *Die Macht des Zufalls*, Berlin 2006 を継続して講読します。

【07】哲学倫理学原典講読 (仏)(2)(春学期)

【07】哲学倫理学原典講読 (仏)(2)(秋学期)

【04】哲学倫理学原典講読(仏)(4)(通年)

教授 岡田光弘

授業科目の内容：

哲学・思想関係のテキストをフランス語で講読する訓練を行う。内容については初回授業の時に説明する。使用するテキストはプリントして配布する。

テキスト：

プリントして配布

参考書：

授業時に指定

【07】哲学倫理学原典講読 (露)(2)(春学期)

【07】哲学倫理学原典講読 (露)(2)(秋学期)

【04】哲学倫理学原典講読(露)(4)(通年)

教授 谷 寿美

授業科目の内容：

受講者の語学力に応じたテキストを講読します。

受講希望者は必ず初回講義時に出席すること。

テキスト：

語学力に応じて選択します。

【07】倫理学研究会 (3年)(1)(春学期)

【07】倫理学研究会 (3年)(1)(秋学期)

【07】倫理学研究会 (4年)(1)(春学期)

【07】倫理学研究会 (4年)(1)(秋学期)

【04】倫理学研究会 (3年)(2)(通年)

【04】倫理学研究会 (4年)(2)(通年)

近代イギリス道徳哲学研究 准教授 柘植尚則

授業科目の内容：

この研究会では近代イギリス道徳哲学について考察する(学生による報告と討論という形で進める)。本年度はJ. S. ミル『功利主義』を取り上げる。

また、この研究会は近代イギリス道徳哲学の個人研究を最終の目標とする。受講者は各自でテーマを決めて思想家を選び、原典を読んで研究し、その成果を研究会で発表して論文を作成する(テーマは自由であるが、思想家については原則として近代イギリスに限る)。なお、必要に応じて個別指導も行う。

テキスト：

初回の授業で指示する。

参考書：

寺中・大久保編『イギリス哲学の基本問題』(研究社, 2005年)

その他、授業の中で紹介する。

【07】倫理学研究会 (3年)(1)(春学期)

【07】倫理学研究会 (3年)(1)(秋学期)

【07】倫理学研究会 (4年)(1)(春学期)

【07】倫理学研究会 (4年)(1)(秋学期)

【04】倫理学研究会 (3年)(2)(通年)

【04】倫理学研究会 (4年)(2)(通年)

[通年] 准教授 エアトル, ヴォルフガング

[秋] 教授 樽井正義

授業科目の内容：

We will explore the basic topics of political philosophy such as the justification of the state, the question as to which form of government is best, the problem of liberty in the sphere of the political and the issue of distributive justice.

テキスト：

Wolff, Jonathan: *Introduction to Political Philosophy*. Revised edition. Oxford University Press: New York 2006.

【07】倫理学研究会 (3年)(1)(春学期)

【07】倫理学研究会 (3年)(1)(秋学期)

【07】倫理学研究会 (4年)(1)(春学期)

【07】倫理学研究会 (4年)(1)(秋学期)

【04】倫理学研究会 (3年)(2)(通年)

【04】倫理学研究会 (4年)(2)(通年)

現代フランス道徳哲学研究 准教授 奈良雅俊

授業科目の内容：

この研究会は、現代フランスの道徳哲学に関する個人研究を行うことを最終目標としています。授業では、20世紀以降のフランスの道徳哲学について考察します(テキストの講読と討論という形式で進めます)。本年度はベルクソン「形而上学入門」(『思想と動くもの』所収)を取り上げます。履修者の希望によっては英語版も使用します。

テキスト：

Henri Bergson, *Introduction à la Métaphysique* (1903), in *La pensée et le mouvant*, PUF, p. 177-227.

参考書：

授業の中で紹介する

【07】倫理学研究会 (3年)(1)(春学期)

【07】倫理学研究会 (3年)(1)(秋学期)

【07】倫理学研究会 (4年)(1)(春学期)

【07】倫理学研究会 (4年)(1)(秋学期)

【04】倫理学研究会 (3年)(2)(通年)

【04】倫理学研究会 (4年)(2)(通年)

教授 谷 寿美

授業科目の内容：

ロシアの宗教哲学、倫理思想を手がかりとして、多様性の共存、排他性の超克等の現代の諸問題を考えます。

テキスト：

Vladimir Soloviev: *La Jastification du Bien* Essai de philosophie morale (Aubier, 1939) 英訳, *The Justification of good* (London, 1918)

あるいは、仏訳、英訳のある露語文献の中から、参加者の希望もいれて選択する可能性もあります。

参考書：

授業の中で指示します。

【07】倫理学研究会	(3年)(1)(春学期)	
【07】倫理学研究会	(3年)(1)(秋学期)	
【07】倫理学研究会	(4年)(1)(春学期)	
【07】倫理学研究会	(4年)(1)(秋学期)	
【04】倫理学研究会	(3年)(2)(通年)	
【04】倫理学研究会	(4年)(2)(通年)	
スピノザの倫理学		教授 山内志朗

授業科目の内容：

スピノザの『エチカ』を第二部から，ラテン語とフランス語の対訳を使用して，読解していきます。神について扱った第一部から始まる，壮大な倫理学（エチカ）の体系を解説していく。

テキスト：

Spinoza, *Ethique, Texte et traduction* par Charles Appuhn, Paris : J. Vrin 1983.

参考書：

スピノザ『エチカ(倫理学)』(上下, 畠中尚志訳, 岩波文庫, 1951年)

選 択 科 目

【07】倫理学洋書講読	(2)(春学期)	
【07】倫理学洋書講読	(2)(秋学期)	
【04】倫理学洋書講読	(4)(通年)	
		准教授 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容：

This course is meant to provide an opportunity for reading and discussing passages from some of the major works of the Western ethical tradition in English. In the spring semester we shall focus on normative ethics and take on selections from Plato's *Gorgias*, Aristotle's *Nicomachean Ethics*, Aquinas's *Summa Theologiae*, Kant's *Grundlegung zur Metaphysik der Sitten* and Mill's *Utilitarianism*. These texts provide many different approaches to the ethical key question as to how I should live and therefore they help us understand what normative ethics is about.

In the autumn term we will turn to metaethics. Metaethics tries to solve quite different, rather abstract problems. For example, it tries to determine what a moral property, such as goodness, is and how we can know about it. Is goodness similar to redness or squareness or is it something completely different? How can we know about goodness? If something is good, do we automatically have a reason to pursue it or is there no such connection. Metaethicists also investigate whether morality might be a huge illusion with no place in a world accounted for by natural science.

We shall read texts by Moore, Ayer, Mackie, as well as passages from recent papers by Blackburn and McDowell.

テキスト：

A selection of relevant texts will be distributed in the first class.

参考書：

- ・Beauchamp, Tom L. : *Philosophical Ethics, An Introduction to Moral Philosophy*. McGraw-Hill Book Company: New York 1982.
- ・Miller, Alexander : *An Introduction to Contemporary Metaethics*. Polity: Cambridge 2003.

【07】中国哲学	(2)(春学期)	
【07】中国哲学	(2)(秋学期)	
【04】中国哲学	(4)(通年)	
中国近世哲学史入門		講師 森 由利亜

授業科目の内容：

この授業では，10世紀以降の中国思想の歴史を概説します。日本をはじめ東アジア世界にも大きな影響を与えた朱子学と陽明学を中心としつつ，それらと交渉をもつ近世の様々な宗教思想や倫理思想

を論じます。さらに近世の思想がどのように中国の「近代」へと継承されていったのかを考えます。

テキスト：

プリント教材を配付します。

参考書：

溝口雄三・丸山松幸・池田知久編『中国思想文化事典』東京大学出版会。他は授業中にお示しします。

哲学・倫理学専攻

共通科目

【07】哲学倫理学特殊 (2)(春学期)

【07】哲学倫理学特殊 (2)(秋学期)

【04】哲学倫理学特殊(4)(通年)

創造する哲学 古代ギリシア哲学の「ロゴス」検討

教授 納 富 信 留

授業科目の内容：

哲学とそれを遂行する言語は、既成の枠内における知的営みとしてではなく、問題と探究の枠組みそのものを創造していくものであるはずだ。「哲学」(フィロソフィア)という営みが葛藤のなかで成立した古代ギリシアにおいて、一体どのような言論スタイルが試みられ、それらがどのような新たな思索を切り開いていったのか? 「言葉」(ロゴス)のあり方への自覚的な取り組みを追うことで、ロゴスの可能性を多様性と創造性として明らかにしていきたい。

授業では、まずアリストテレス『形而上学』第4巻とヘラクレイトスを取り上げる予定だが、他のテキストも、議論の展開や参加者の希望によって追加していく。毎回、基本テキストを読み解くことで(ギリシア語原文と日本語または英語の翻訳)、その哲学的含意を議論する。授業は基本的に講義形式だが、議論や学生からの報告といった演習的な要素も取り入れる。

テキスト：

基本テキストはコピーで配布するが、必要に応じて指定の本を買ってもらうことがある。

参考書：

Ch. Kahn, *The Art and Thought of Heraclitus* (Cambridge); Ch. Kirwan, *Aristotle's Metaphysics Books . . . E* (Oxford); アリストテレス『形而上学』(出陣訳)上巻, 岩波文庫

【07】哲学倫理学特殊 (2)(春学期)

【07】哲学倫理学特殊 (2)(秋学期)

【04】哲学倫理学特殊(4)(通年)

超越論的自我論の系譜 講師 湯 浅 正 彦

授業科目の内容：

カントによって創始された超越論的哲学の基礎である超越論的自我論を、その淵源であるデカルト哲学、カント哲学の「精神」を体現したフィヒテ哲学との連関のうちで考察します。併せて、超越論的自我論の現代哲学における継承・展開の様相を、「心の哲学」の或る傾向や、D. ヘンリッヒを領袖とするハイデルベルク学派の自己意識論のうちに探ります。

テキスト：

特に指定しません。資料を配布します。

参考書：

湯浅正彦『存在と自我 カント超越論的哲学からのメッセージ』勁草書房, 2003

【07】哲学倫理学特殊 (2)(春学期)

【07】哲学倫理学特殊 (2)(秋学期)

【04】哲学倫理学特殊(4)(通年)

あるコギトの系譜 講師 北 村 晋

授業科目の内容：

2500年以上にもわたって連綿とその歴史を紡ぎ出してきた西洋の哲学思想は、現在、未曾有の局面を迎えつつあるようにも見える。事実、19世紀末のニーチェによる「神の死」と「ニヒリズムの到来」の宣告に次いで、今世紀に入ると「人間の死」(フーコー)や「哲学の終焉」(ハイデガー)までもが宣せられているのである。ところがその一方で、昨今の思想界では、「ポスト構造主義」「ポストモダン」「ポスト形而上学」といったさまざまなトレンドがファッションのご

とくに喧伝されてもいる。このような状況を引き起こした哲学思想における近代とは、いったい何なのか。その近代の極北にあって、われわれは何を考え何を問題にすべきなのだろうか。そもそもロゴス(ことば・論理)の営むたる哲学は、現代において何を問題としうるのだろうか。

この授業では、一般にデカルトの「コギト・エルゴ・スム(私は考える、ゆえに私は在る)」という原理とともに始まったとされる西洋近代・現代の哲学思想を、主として「弁証法的媒介の論理」と「現象学的方法」という相反する二つの視座から再考してみたい。その際取り上げるのは、デカルトをはじめとしてカント、ヘーゲル、フッサール、ハイデガー、サルトル、レヴィナス、アンリ、デリダ、マリオンなどの思想家たちである。ただし、これらの思想家の全体像を扱う余裕はないので、実際にはいくつかの個別的テーマに即して検討することになる。

テキスト：

特定のテキストは使用せず、適宜、資料プリントを配布する。

参考書：

・D・コリンソン『哲学思想の50人』(青土社)
・D・ジャンニコ『現代フランス現象学 その神学的転回』(文化書房博文社)

【07】哲学倫理学特殊 (2)(春学期)

【07】哲学倫理学特殊 (2)(秋学期)

【04】哲学倫理学特殊(4)(通年)

旧約聖書ヘブル語原典研究 講師 津 村 俊 夫

授業科目の内容：

春学期は、Lambdinの文法書に基づいてヘブル語文法の基礎を復習し、秋学期には、創世記、サムエル記などの散文テキスト(抜粋)を講読し、次年度の詩文テキストの講読につなげて行く。

テキスト：

T. O. Lambdin, *Introduction to Biblical Hebrew* (Scribner, 1971). \$86.

参考書：

・H. G. M. Williamson, *Annotated Key to Lambdin's Introduction to Biblical Hebrew* (Old Testament Guides) (Paperback). \$44.
・Brown-Driver-Briggs *Hebrew and English Lexicon* (Hendrickson, 1996). \$23.

【07】哲学倫理学特殊 (2)(春学期)

【07】哲学倫理学特殊 (2)(秋学期)

【04】哲学倫理学特殊(4)(通年)

「もう一つの現代論理学入門」 講師 串 田 裕 彦

授業科目の内容：

述語論理及びペアノ算術のモデル理論について解説、演習を行なう。また、(公理的)集合論の復習をも並行して行う。理論の安易な応用や定理の意味の理解ばかりを強調することは、ただ要領よくすべてをこなしていく虚無的な態度と紙一重に思われる。この授業では、むしろ具体的な数学的証明に習熟し、それを通じ数学的命題とはいかなるものかについて実感を得ることを第一の眼目としたい。ペアノ算術(自然数論)のモデル論は、そのような数学的現実に触れるのに格好の題材である。従って、受講者には多量の課題をこなしてもらう予定である。

授業では基本的な事項から始めるので、論理学や数学基礎論に興味と意欲をもった学生であれば誰であれ履修することができる。

テキスト：

・R. Kaye, *Models of Peano Arithmetic*, Oxford University Press, 1991.

・H. Enderton, *Elements of set theory*, Academic Press, 1977.

参考書：

C. Chang and H. Keisler, *Model Theory*, Amsterdam, 1973.

【07】哲学倫理学特殊 (2)(春学期)

【07】哲学倫理学特殊 (2)(秋学期)

【04】哲学倫理学特殊(4)(通年)

心の哲学と現代形而上学 講師 小山 虎

授業科目の内容:

心の哲学、特に分析哲学で行われている心の哲学では、現代形而上学に依拠した概念が広く活用されているため、議論の内容を正確に把握するためには現代形而上学について一定の知識を持っていることが不可欠になりつつあります。本講義では、まず心の哲学でよく論じられる議論のなかで現代形而上学と密接な関わりを持つもの(たとえば想定可能性論法や消去主義)について解説し、次にそれと関連する現代形而上学での議論を解説して、現代形而上学での議論が心の哲学にどのような影響を及ぼすのかについて考察します。目標とするのは、心の哲学と現代形而上学の関係を理解すること、特に心の哲学と様相の形而上学の関係について理解することです。

テキスト:

特に指定しません。資料を配布します。

参考書:

講義中で紹介します。

【07】哲学倫理学特殊 (2)(春学期)

【07】哲学倫理学特殊 (2)(秋学期)

【04】哲学倫理学特殊(4)(通年)

「神秘主義」の諸相 講師 鶴岡 賀雄

授業科目の内容:

「神秘主義 mysticism」という言葉は古い歴史をもつが、近代の用法では、宗教の本質をなすものとみなされることが多かった。しかし「神秘主義」はいわゆる宗教以外のさまざまな文化領域にも見出されるだろう。この講義では、「神秘主義」を構成する諸側面の紹介(春学期)、および「神秘主義」をめぐる諸理論の紹介と検討(秋学期)を通じて、「神秘主義」とはそもそも何なのかについて考えてみたい。それによって、現代の状況下で「神秘主義」をどのように捉え、評価しうるかを考えてみたい。春学期の講義は秋学期に引き継がれるが、春学期のみの受講も可能。

テキスト:

用いない。

参考書:

授業中に適宜紹介する。

【07】哲学倫理学特殊 (2)(春学期)

【07】哲学倫理学特殊 (2)(秋学期)

【04】哲学倫理学特殊(4)(通年)

幸福をめぐる問題 商学部 教授 成田 和信

授業科目の内容:

この授業では、現代の英語圏での議論を参照しながら、「幸福」をめぐる問題を検討します。現代の英語圏では、「幸福と何か」をめぐる提出されている理論を、心的状態説、欲求実現説、客観説の3つに分類しています。まずは、この3つの説がどのようなものなのかを、Shelly Kagan や Derek Parfit の文献を読むことで概観し、議論の出発点となる枠組みを獲得します。その後、春学期には、T. M. Scanlon, Amartya Sen や L. W. Sumner の文献を読みながら、客観説を検討します。秋学期には、James Griffin や Stephen Darwall の文献を読みながら欲求実現説を吟味します。さらに、「個人的関係」や「生きがい」や「主観的価値」といった周辺概念へも話を拡大し、考察を深めていければよいと思っています。

テキスト:

プリントを配布します。

【07】哲学倫理学特殊 (2)(春学期)

【07】哲学倫理学特殊 (2)(秋学期)

【04】哲学倫理学特殊(4)(通年)

J. S. ミルとイギリス哲学 講師 大久保 正健

授業科目の内容:

この講義の目的は、19世紀英国の思想家 J. S. ミルの哲学思想を手がかりにして西洋の哲学や倫理学の伝統を考えることです。この作業を通じて、西洋哲学の骨格や論争点を理解します。近景はイギリス哲学、遠景は古代ギリシア以来の西洋哲学です。その際、ローマ帝国以来の宗教であるキリスト教と哲学の関係もお話します。前期は、思想史的な話、後期はテキストの読みとりを重視した講義になります。

教科書:

ミル『自由論』(On Liberty), 『功利主義論』(Utilitarianism)。後期は、英文を参照しながら講義を進めますので、英語版を入手しておいてください。手頃な版として Prometheus Books を推薦します。

参考書:

- ・大久保正健『人称的世界の倫理』(勁草書房)
- ・寺中・大久保編『イギリス哲学の基本問題』(研究社)
- ・グレイ、スミス編(泉谷・大久保訳)『ミル「自由論」再読』(木鐸社)

【07】哲学倫理学特殊 (2)(春学期)

【07】哲学倫理学特殊 (2)(秋学期)

【04】哲学倫理学特殊(4)(通年)

プラトン『国家』中心巻を読む 教授 納富 信留
教授 堀江 聡

授業科目の内容:

プラトンの主著とされる『国家』は、その哲学的射程において西洋哲学でもっとも重要な著作に数えられてきた。本授業では、その『国家』の中心巻(5~7巻)を原文にそくして読み解き議論していく。ここでは、哲人統治論、哲学者教育と「善のイデア」についての三つの比喻(太陽、線分、洞窟)が語られており、古代哲学だけでなく、およそ哲学を学ぶ者には必読の議論である。訳書を自分で読むことは難しくないが、原テキストと向き合いそこでじっくりと徹底的に思索することは、哲学の何よりの訓練となるはずである。

本授業では毎回一定量のギリシア語を正確に読み進めることを目標とするが、ギリシア語未習得でプラトン哲学の内容に関心がある者の参加も歓迎する。その場合、担当者による翻訳をもちいて議論に参加することになる。また、第一巻から五巻前半までの議論は、希望者には相談の上、訳書を使っておさらいする機会を作ることでもできる。

テキスト:

- ・プラトン『国家』、藤沢令夫訳、全二巻、岩波文庫
- ・S. R. Slings, *Platonis Respublica*, Oxford Classical Texts, 2003
- ・J. Adam, *The Republic of Plato*, 2nd ed. Vols.1-2, Cambridge University Press, 1975

参考書:

授業時に紹介する。

【07】哲学倫理学特殊 (2)(春学期)

【07】哲学倫理学特殊 (2)(秋学期)

【04】哲学倫理学特殊(4)(通年)

プラグマティズムの哲学 特別研究准教授 小川 芳範

授業科目の内容:

ローティ、パトナムら現代分析哲学における議論および解釈を踏まえたうえで、プラグマティズムの哲学について考えます。

テキスト:

特に指定しません。

参考書:

- ・『プラグマティズムの帰結』R・ローティ

- ・『哲学の改造』J・デューイ
- ・Mind and the World-order by C. I. Lewis など

【07】哲学倫理学特殊 (2)(春学期)

【07】哲学倫理学特殊 (2)(秋学期)

【04】哲学倫理学特殊(4)(通年)

インド古典文献学入門 講師 齋藤直樹

授業科目の内容：

仏教は中国、朝鮮を経由して日本に伝来したが、日本にもたらされた仏教はほとんどすべて中国語に翻訳されたものであった。それらの原典の大部分はサンスクリット語で記されたものである。発祥の地インドにおいてかたちづくられ展開していった仏教にせまるためには、当然のことながら、サンスクリット原典に直接あたることもとめられる。また、仏教のみならず、インドの多様で豊饒な宗教的思想にかんする知識をえるためにも、サンスクリット語の読解力が不可欠となる。

この授業は、原典講読をつうじてインド古典文献学への案内となることを目指すものである。講読するテキストとして、紀元2世紀から3世紀に活動し、八宗の祖と称されるナーガールジュナ(龍樹)の『中論』を予定している。この典籍は、その後の仏教教理の形成のあらゆる局面に多大な影響をおよぼしたものとみなされている。たとえば、空性という大乘仏教独特の観念に教理的な基盤をあたえた最初の典籍がこれであった。

テキスト：

校訂出版されているサンスクリットテキストとその和訳のコピーを授業中に配布する。

【07】哲学倫理学特殊 (2)(春学期)

【07】哲学倫理学特殊 (2)(秋学期)

【04】哲学倫理学特殊(4)(通年)

東方キリスト教ヘーシュカスト(ヨーガ行者?)の知性観・身体観
教授 堀江 聡

授業科目の内容：

後期ギリシア教父の伝統に連なるグレゴリオス・パラマス(1296-1359年)の『聖なるしかたで静寂修道する人々の擁護論』をギリシア語原典から抜粋して講読する。これまで、擬ディオニュシオス・アレオバギテースの『神名論』『神秘神学』『天上位階論』、マクシモス・コンフェッソール(580-662)の『アンビグア』を採りあげ、神から発し神へと還る動きにうちに万有を洞観し、「超越に貫かれたもの」として人間を捉える思想系譜を辿ってきた。その潮流に掉さすものとして、本年度からしばらくは、訪れる人として稀なこの東方師父の霊性の泉に静かに釣瓶を落としてみたい。同書三部のそれぞれが三章からなるというエンネアディック(9つ組)な構成であり、さらにその各章は順に、(23/12/52)+(44/30/78)+(41/27/16)節を含む総計323節の大著となっている。このパラマスの主著が擁護するギリシアのアトス山の修道士における神を観るための祈りの方法は、顎を胸につけ、呼吸を整え、臍(臍下丹田?)を凝視するといったヨーガを彷彿させる身体的実践を伴う点で、既知のギリシア哲学的知性観・身体観の変革を迫るものであることが予想される。

テキスト：

Grégoire Palamas, *Défense des saints hésychastes*, introduction, texte critique, traduction, et notes, 2 tomes, ed. Jean Meyendorf, Louvain, 1959.

参考書：

大森正樹『エネルギーと光の神学』, 創文社, 2000年。

美学美術史学専攻

必修科目

【07】芸術研究基礎 (セ)(1)(春学期)	
【07】芸術研究基礎 (セ)(1)(秋学期)	
【04】芸術研究基礎(2)(通年)	教授 大石昌史 教授 林温 教授 前田富士男 准教授 内藤正人 アートセンター 准教授(有期) 渡部葉子

授業科目の内容：

この授業は、3年間の専門領域の勉強を開始する2年生に、将来の各自の関心領域の如何を問わず、本専攻学生として必要不可欠な基礎知識、基本的技術を修得してもらう必修科目である。その内容は、以下のような課題にわかれる。専門研究への取り組み方、研究方法、文献の種類と検索、論文作成法。作品資料(絵画・彫刻・工芸)の実際的な調査作業と調査書の作成。作品の時代様式の判別と確認。作品の題材や内容に関するイコノグラフィー(図像学)の理解、作品解釈の方法。「芸術作品とは」、「美しいとは」といった美学的基礎概念の検討。作品の展示や上演に関する実践的知見の習得、など。調査作業時にはクラスを分割して演習形式をとる。

テキスト：

毎時間にプリントを配布する。

参考書：

旧図書館内リザーブブック・コーナー(前田)の本科目該当のもの。

【07】美学美術史学原典講読 (英)A(セ)(1)(春学期)	
【07】美学美術史学原典講読 (英)A(セ)(1)(秋学期)	
【04】美学美術史学原典講読 (英)A(2)(通年)	名著を通して学ぶ17世紀ローマのバロック美術 准教授 金山弘昌

授業科目の内容：

本講義では、英語で著された美学美術史学の基本的著作や論文を読みこなす能力の養成を第一の目的とします。そしてテキストの講読を通じて個々の研究テーマや方法論についての理解を深めることを第二の目的とします。本年度は17世紀ローマのバロック美術をテーマとし、関連する以下のテキストを読んでいきます(実際に使用する版については授業で指示します)。

1) Francis Haskell, *Patrons and Painters. A Study in the Relations Between Italian Art and Society in the Age of the Baroque*, 1st ed., N. Y., 1963.

2) Rudolf Wittkower, *Art and Architecture in Italy 1600-1750*, 1st ed., Harmondsworth, 1958.

テキスト：

特に指定しません。教材はプリントとして配布します。

参考書：

授業中に指示します。

【07】美学美術史学原典講読 (英)B(セ)(1)(春学期)	
【07】美学美術史学原典講読 (英)B(セ)(1)(秋学期)	
【04】美学美術史学原典講読 (英)B(2)(通年)	講師 中島 恵

授業科目の内容：

美術史研究の英語文献を読む演習。講読とともに、参加者による小レポート発表や討論をおこない、少人数の入門ゼミ形式をとる。また適宜スライドや補助資料を用いて基礎概念や時代背景への理解を深める。英語の研究論文の読み方を身につけるとともに、美術史研究の基礎概念、方法論を習得することを目指す。下記のテキストの第一章 *European Primitives* を中心に講読し、キュビズムならびに

その研究についての概要を把握する。

テキスト：

Mark Antliff & Patricia Leighton, *Cubism and Culture*, London, 2001.

【07】美学美術史学原典講読 (英)C(セ)(1)(春学期)	
【07】美学美術史学原典講読 (英)C(セ)(1)(秋学期)	
【04】美学美術史学原典講読 (英)C(2)(通年)	教授 大石昌史

授業科目の内容：

美学あるいは芸術理論に関する文献の講読を通じて、基本的な芸術研究の方法の習得を目的とする。授業形態は、テキストの輪読(翻訳)、注釈的解説、問題点の指摘、それに対する参加者の討論という形をとる。

テキスト：

Wilhelm Dilthey, "The Imagination of the Poet"[英訳版](コピー配付)

【07】美学美術史学原典講読 (英)D(セ)(1)(春学期)	
【07】美学美術史学原典講読 (英)D(セ)(1)(秋学期)	
【04】美学美術史学原典講読 (英)D(2)(通年)	教授 遠山公一

授業科目の内容：

論文の読み方、文献の記述の仕方、註の付け方などを、英文による学術論文を講読することを通じて学ぶ。今年、ジョン・シャーマンによる書物の一部を読む予定。

テキスト：

John Shearman, *Only Connect... Art and the Spectator in the Italian Renaissance*, Washington, 1992.

【07】美学美術史学原典講読 (英)E(セ)(1)(春学期)	
【07】美学美術史学原典講読 (英)E(セ)(1)(秋学期)	
【04】美学美術史学原典講読 (英)E(2)(通年)	准教授 西川尚生

授業科目の内容：

西洋音楽史の基本的な文献を読み、音楽史および音楽学の基本的な概念と方法論を学ぶ。春学期は *The New Harvard Dictionary of Music*, Harvard University Press, 1986 の主要項目("Baroque", "Romantic", "Sonata form", "Symphony", "Opera", "Mass", "Absolute music", "Program music", "Twelve-tone music" など)を読み、音楽史の基礎知識を身につけてもらう。秋学期はそれを踏まえて、音楽通史(*The New Oxford History of Music*)もしくは個別の論文を読む予定である。秋学期のテキストに関しては、履修者と相談の上、決定したい。

参考書：

授業中に指示する。

【07】美学美術史学原典講読 (英)F(セ)(1)(春学期)	
【07】美学美術史学原典講読 (英)F(セ)(1)(秋学期)	
【04】美学美術史学原典講読 (英)F(2)(通年)	講師 藤井孝一

授業科目の内容：

バレエ、ミュージカル、オペラなど近現代の舞台芸術に関する論文の講読をする。

テキスト：

前期は下記の文献を講読する。(初回授業時に指示する。)

Hill, Peter. *Stravinsky: The Rite of Spring*(Cambridge Music Handbooks), Cambridge; New York: Cambridge University Press, 2000.

参考書：

授業中に基本的なリファレンスのリストを配布する。その他、適

宜指示する。

【07】美学美術史学演習 (セ)(1)(春学期)

【07】美学美術史学演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】美学美術史学演習(2)(通年)

音楽学の基礎訓練

教授 三宅幸夫

授業科目の内容：

本演習では、西洋の芸術音楽を研究する際に避けて通れない作品を具体例として、楽譜を読み解く基礎的な能力を養います。作曲技法や時代様式の把握が主たる目的ですが、さらに音楽をその時代の文化のなかに位置づけることも試みます。音楽の基礎知識(「楽典」程度)を有していることが前提となりますので、これが欠けている受講生は遅くとも連休明けまでに「楽典」を自学自習しておく必要があります。

テキスト：

毎回、楽譜資料のプリントを配布します。

参考書：

授業時に適宜指示します。

【07】美学美術史学演習 (セ)(1)(春学期)

【07】美学美術史学演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】美学美術史学演習(2)(通年)

日本美術史に関する基礎演習

教授 林

温

授業科目の内容：

日本美術史を学ぶ上で必要な事項について解説します。現代では近世以前の日本美術に接する機会が極端に減っており、日本美術が制作された社会的・思想的な背景や人々に共有されていた教養・禁忌などが、もはや常識ではなくなっています。それらの知識を抜きにして日本美術を味わうことは美的体験あるいは文学的企図として可能ですが、人文科学ではありません。美術史学は美術がどのようにして生まれ、享受され、維持されてきたのかを作品から読み解く作業です。この授業では、特に日本古代中世の美術を学ぶ上で不可欠な「仏教」と「文学」に注目し、美術作品の中でどのように現れ、関わっているのか具体的に説明します。

テキスト：

適宜、授業中に配布する。

参考書：

・『日本美術館』(小学館)

・『原色図典 日本美術史年表』(1997 集英社)

【07】美学美術史学演習 (セ)(1)(春学期)

【07】美学美術史学演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】美学美術史学演習(2)(通年) 教授 大石昌史

授業科目の内容：

春学期には、カントの『判断力批判』の「美的判断力の批判」について、秋学期には、ヘーゲルの『美学講義』について、翻訳テキストを読み解きつつ、解説する。

テキスト：

・カント『判断力批判』(上)(牧野英二訳、岩波書店『カント全集』第8巻)

・ヘーゲル『美学講義』(上中下)(長谷川宏訳、作品社)

参考書：

授業中に指示する。

【07】美学美術史学演習 (セ)(1)(春学期)

【07】美学美術史学演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】美学美術史学演習(2)(通年)

西洋美術史通史

[春]教授 遠山公一

[秋]准教授 金山弘昌

授業科目の内容：

専門性の高い各論に至る前に必要な西洋美術史の基礎知識(建築・

彫刻・絵画)を一通り身につけることを目的とします。盛期ルネサンスから19世紀近代美術までの通史を、駆け足で見えていくことになります。様式史が基本とはなりますが、図像学の知識、図像解釈学の実例、作品の社会的機能やパトロンについてなど社会的コンテキストにおける美術の役割にも言及します。これによって、各時代についての必要な知識と問題意識が学べるはずです。

テキスト：

毎回、プリントを配布します。

参考書：

・ゴンブリッチ『美術の歩み』美術出版社

・高階・三浦編『西洋美術史ハンドブック』新書館

・『新潮世界美術事典』

・小学館『世界美術大全集』

・ジェームズ・ホール『西洋美術解説事典』河出書房新社

など。その他、毎回指定します。

【07】美学美術史学原典講読 (伊)(セ)(1)(春学期)

【07】美学美術史学原典講読 (伊)(セ)(1)(秋学期)

【04】美学美術史学原典講読 (伊)(2)(通年)

講師 細野喜代

授業科目の内容：

イタリア語で書かれた西洋美術史に関する論文を読み、その内容を理解する力を身につけることを目的とします。下記のテキストを中心に訳読していきますが、その他のイタリア・ルネサンス絵画に関する論文、著作も適宜用います。

テキスト：

A. Gentili, C. Terribile, M. Di Monte, G. Tagliaferro, Veronese. *La pittura profana*, Firenze, 2005.

参考書：

授業中に指示します。

【07】美学美術史学原典講読 (独)(セ)(1)(春学期)

【07】美学美術史学原典講読 (独)(セ)(1)(秋学期)

【04】美学美術史学原典講読 (独)(2)(通年)

教授 大石昌史

授業科目の内容：

ドイツ語で書かれた美学あるいは芸術理論に関する文献の講読を通じて、基本的な芸術研究の方法の習得を目的とする。授業形態は、テキストの輪読(翻訳)、注釈的解説、問題点の指摘、それに対する参加者の討論という形をとる。ドイツ語の読解能力の習得も本授業の目的である故、基本的な文法事項の解説も合わせて行われる。

テキスト：

ガイダンス時に説明する。

【07】美学美術史学原典講読 (日)(セ)(1)(春学期)

【07】美学美術史学原典講読 (日)(セ)(1)(秋学期)

【04】美学美術史学原典講読 (日)(2)(通年)

江戸期の版本を読む

准教授 内藤正人

授業科目の内容：

江戸期に出版された地誌書や文学書、絵本など、美術史と関連の深い史料を講読する。テキストには、当時の変体仮名で書き記された原本(例、歌書や地誌書など)を複製して使用する。したがって、本授業では必ずしも字読解の基礎を身につけると同時に、その内容の理解を図るものである。

テキスト：

随時配布する。

参考書：

随時指示する。

-
- 【07】美学美術史学原典講読 (仏)(セ)(1)(春学期)
【07】美学美術史学原典講読 (仏)(セ)(1)(秋学期)
【04】美学美術史学原典講読 (仏)(2)(通年)
講師 望月典子
-

授業科目の内容：

フランス語で書かれた美術史に関わる文献を読む演習です。美術史研究に欠かすことのできない基本的なレファレンス・ブック、展覧会カタログ、カタログ・レゾネ、研究論文、批評、同時代資料など、様々な文体で書かれたテキストを適宜用いながら、フランス語で文献を読み、内容を理解する力を身に付けます。同時に、卒論に向けて具体的な研究方法と文献の探し方・活用の仕方学びます。主に17世紀～19世紀前半のフランス美術に関連する文章を取り上げます。

テキスト：

プリントで配布します。web サイトからもダウンロードできます (URL は授業中に指示)。

参考書：

F. Giboulet et M. Mengelle-Barilleau, La Peinture, Paris, 1998; D. Lagoutte, Introduction à l'histoire de l'art, Paris, 2001. その他、授業中に指示します。

-
- 【07】美学概論 (セ)(2)(春学期)
【07】美学概論 (セ)(2)(秋学期)
【04】美学概論(4)(通年) 教授 大石昌史
-

授業科目の内容：

春学期には、ニーチェの創造の美学(『悲劇の誕生』、『ツアラトゥストラ』、『偶像の黄昏』他)について説明する。秋学期には、ハイデッガーの芸術作品の存在論(『芸術作品の起源』)、および、ガダマーの芸術作品の解釈学(『真理と方法』)について概説する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業中に指示する。

-
- 【07】【04】芸術学(2)(春学期)
美術作品への基礎的アプローチ 講師 望月典子
-

授業科目の内容：

本講では、芸術学(Kunstwissenschaft)の主要分野である造形芸術に関する原理的、歴史的研究方法、すなわち、美術史学の方法論について概観します。春学期は、美術作品への基礎的アプローチとして、形式分析・様式論、精神史としての美術史、心理学的・精神分析学的方法、社会史的方法および作品の題材と主題・意味内容に関わる図像学(イコノグラフィ)・図像解釈学(イコノロジー)を取り上げ、具体的な作品分析例を参照しつつ、それぞれの方法論の特徴とその成果および限界を検討します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業中に指示します。

-
- 【07】【04】芸術学(2)(秋学期)
美術作品へのアプローチの多元化 講師 望月典子
-

授業科目の内容：

春学期に引き続いて、芸術学(Kunstwissenschaft)の主要分野である美術史学の方法論について概観します。近年、伝統的な美術史学を批判的に乗り越えようとする「新しい美術史学」(ニュー・アート・ヒストリー)が展開し、美術作品へのアプローチがますます多元化していきました。秋学期では、社会史的・社会学的方法の発展と深化と言えるコンテクスト論、視覚文化史、受容研究、作品の機能論、さらには記号論、ジェンダーの視点を取り入れた解釈について紹介し、絵画ジャンルに沿った具体的な作品解釈例の検討を通し

て、新旧それぞれの方法論の有効性と限界を探ります。また、美術制度、パトロネージ、美術市場など、美術と社会の具体的な関わり方に注目し、芸術学のアクチュアルな側面として、美術館での美術教育について考えます。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業中に指示します。

-
- 【07】東洋美術史概説 A(セ)(2)(春学期)
【07】東洋美術史概説 A(セ)(2)(秋学期)
【04】東洋美術史概説 A(4)(通年)
日本美術史 中世 教授 林 温
-

授業科目の内容：

日本美術史を、代表的な項目とそれを代表する作品を中心に大きな流れとして概説する。

テキスト：

特になし

参考書：

適宜、授業中に指示する。

-
- 【07】東洋美術史概説 B(セ)(2)(春学期)
【07】東洋美術史概説 B(セ)(2)(秋学期)
【04】東洋美術史概説 B(4)(通年)
江戸期の個性豊かな絵画世界 准教授 内藤正人
-

授業科目の内容：

日本美術史のうち、近世期、江戸時代に開花した個性的な絵画作品について考察する。昨今、江戸時代の絵画の魅力があらためて見直され、その特異な造形が海外をも含む数多くの人々の関心を集めている。ここでは、江戸時代を象徴する絵画芸術として、二つの断面を設定し、その詳細をみていきたい。

春学期は琳派研究として、江戸初期から幕末まで断続的に活躍した三人の天才絵師、俵屋宗達・尾形光琳・酒井抱一らの、装飾性豊かな芸術について論じる。

秋学期は浮世絵研究として、幕末の鬼才として知られる葛飾北斎の、多様な作品群について論じる。

テキスト：

随時指示する。

参考書：

随時指示する。

-
- 【07】西洋美術史概説 A(セ)(2)(春学期)
【07】西洋美術史概説 A(セ)(2)(秋学期)
【04】西洋美術史概説 A(4)(通年)
北方ルネサンス絵画 教授 遠山公一
-

授業科目の内容：

アルプス以北(フランドル・ドイツ・フランス)における15/16世紀、すなわち北方ルネサンス絵画の概説を行う。北方ルネサンスは、光や質感の再現にたけ、現実を映し出す鏡となった。また、今日の図像解釈学の対象となるほど、象徴表現にも満ちていると考えられる。この授業では特にイタリア人文主義との関わりにも注目する。

-
- 【07】西洋美術史概説 B(セ)(2)(春学期)
【07】西洋美術史概説 B(セ)(2)(秋学期)
【04】西洋美術史概説 B(4)(通年) 教授 前田富士男
-

授業科目の内容：

フランスの印象主義の時代から第二次世界大戦後の1950年代にいたる美術の諸問題を考察する。この時代に、絵画では物語表現や自然主義の否定により、フォーヴ、キュビズム、表現主義、抽象絵画、ダダなどが生まれたほか、彫刻や建築でも現代美術の多様なア

スペクトが浮き彫りにされた。自然把握，生命形態，人間表現はじめ，コンポジションの展開，色彩論など，作品に即して問題を検討してゆく。概説の講義なので，作品解釈，美術史学における基本概念も適宜，解説・紹介する。スライド使用。

参考書：

講談社『名画への旅』第19～24巻ほか。旧図書館内リザーブブック・コーナー（前田）の本科目該当のもの。

【07】西洋音楽史概説 A(セ)(2)(春学期)

【07】西洋音楽史概説 A(セ)(2)(秋学期)

【04】西洋音楽史概説 A(4)(通年)

古典派の音楽 准教授 西川 尚 生

授業科目の内容：

18世紀後半のいわゆる古典派の音楽について概観する。この時代の主要な音楽ジャンルを様式的な観点から考察し，音楽作品を規定していたさまざまな要素（宮廷とパトロン，劇場の上演システムと公開演奏会，楽器と演奏習慣，楽譜出版と写譜販売等）についても併せて検討する。とくにW. A. モーツァルトの作品を中心にとりあげることが，古典派全体を見渡すために，モーツァルトを取り巻く作曲家たち（前古典派の作曲家たち，J. ハイドン，ベートーヴェン）の作品にも触れることになるであろう。

テキスト：

N. ザスロー編（樋口隆一監訳）『啓蒙時代の都市と音楽』音楽之友社，1996年。

西川尚生『モーツァルト』音楽之友社，2005年。

【07】西洋音楽史概説 B(セ)(2)(春学期)

【07】西洋音楽史概説 B(セ)(2)(秋学期)

【04】西洋音楽史概説 B(4)(通年)

ワーグナー《パルジファル》 教授 三宅 幸 夫

授業科目の内容：

リヒャルト・ワーグナー（1813～1883）の舞台神聖祝祭劇《パルジファル》を主たる対象として，台本と音楽の関係を読み解き，音楽が音楽外の思想・文学・美術・演劇等といかに関わっているかを明らかにします。

テキスト：

授業時に対訳を配布します。

参考書：

授業時に適宜指示します。

【07】美学特殊 A(2)(春学期)

【07】美学特殊 A(2)(秋学期)

【04】美学特殊 A(4)(通年)

ディドロの絵画論 講師 佐々木 健 一

授業科目の内容：

ディドロは近代美術評論の先駆者の1人に数えられる。それは主として膨大なサロン評に基づく評価だが，かれにはその批評経験に立脚し，その基礎づけを行なった『絵画論』がある。そこに展開されている思想は，ディドロの哲学全体と深く連関し，更に時代の思潮，その中の美学の位置の問題へとつながる射程をもっている。この授業では，テキストを丹念に読みつつ，そこに含まれる問題を掘りおこし，最後に『絵画論』の美学の総括を試みる。

テキスト：

『ディドロ』『絵画について』（佐々木健一訳，岩波文庫）

参考書：

佐々木健一『フランスを中心とする18世紀美学史の研究 ウォーターからモーツァルトへ』（岩波書店）

【07】美学特殊 B(2)(春学期)

【07】美学特殊 B(2)(秋学期)

【04】美学特殊 B(4)(通年)

現代アートの哲学 講師 西村 清 和

授業科目の内容：

前期 ポストモダンといわれる今日の美的文化状況は，従来の「芸術」という言葉に代表される近代の美的文化とは根本的に異なる。実際われわれは様々な複製技術によって，かつて考えられなかったほど多彩で膨大な量の音やイメージを日々消費している。このような状況のなかで，あらためて「芸術とはなにか」という疑問や，現在の美的多元主義という状況について考察する。

後期 前期とのつながりにおいて，後期ではとくに現代広告をとりあげて，その芸術とのことなり，それに固有の文法や美的戦略，また広告の内部から生じたポップ・アートとの関わりなどの問題を論じる。

テキスト：

西村清和『現代アートの哲学』（産業図書）

参考書：

授業中に指示する。

【07】美学特殊 C(2)(春学期)

【07】美学特殊 C(2)(秋学期)

【04】美学特殊 C(4)(通年)

美学の基礎概念2 講師 藤田 一 美

授業科目の内容：

言葉，美の位相と定義，美をめぐる判断の諸相，藝術的なもの，作品，虚構，ミメシス，想像力，共通感覚，共感，必然性と蓋然性，可能的世界，パラダイムとしての絵画，比喩，文体などの諸概念を，現代を視野にいれつつ，主として古典哲学の文脈において検討します。

テキスト：

必要に応じて配布します。

参考書：

プラトン『国家論』，アリストテレス『詩学』，『弁論術』，カント『判断力批判』など

【07】美学特殊 D(2)(春学期)

【07】美学特殊 D(2)(秋学期)

【04】美学特殊 D(4)(通年) 講師 村山 康 男

授業科目の内容：

春学期は，現代芸術の多様な展開を概観し，その根底にある美学思想を明らかにする。

秋学期は，現代社会の消費社会・情報化社会としての側面に注目し，消費社会，及び情報化社会に特有の様々な現象をピック・アップした上で，それらの現象が芸術の体験をどのように変化させることになるのかを明らかにする。

テキスト：

プリント類はこちらで用意し，随時配布する。

参考書：

授業時に随時指摘する。

【07】美学特殊 E(2)(春学期)

【07】美学特殊 E(2)(秋学期)

【04】美学特殊 E(4)(通年)

舞踏の芸術学 その生成と展開 講師 森 下 隆

授業科目の内容：

戦後の日本に生まれた「舞踏」は，日本で創造された芸術表現として，世界の舞台芸術の一潮流となりました。当初，日本的な身体表現として受け入れられた舞踏ですが，今日では国際化し，舞踏フェスティバルなど舞踏をめぐる活動も，むしろ海外でさかんになり，

舞踏研究も外国人が担うようになっていきます。

授業では、まずアヴァンギャルド芸術としての舞踏が、1950年代から60年代にかけて、どのような社会史的背景と欧米の思潮との葛藤のもとで生成したのかを創始者である土方巽の生の軌跡とともに見てみます。

ついで、土方巽の活動と表現も同時代の前衛美術家たちとの、たんなる交流やコラボレーションを超えて、互いの創造に大きな影響力をもって展開していることから、戦後日本の前衛美術の流れのなかに、アヴァンギャルドとしての舞踏の表現と位相を求め、解説します。

そして、土方巽の舞踏の変遷をたどりながら、舞踏のメソッドとスタイル、そして構造を紹介し、世界の思想史のコンテクストのなかでの、その舞踏の表現と身体思想の特殊性と普遍性について考えます。

以上をふまえて、世界における舞踏の活動と研究の実際を俯瞰しつつ、被爆国としての特殊性や伝統文化の美学の固有性などに端を発する外国人の日本の文化への関心と理解の様相をあわせて考察します。

テキスト：

講義資料としてプリントやDVDを配布します

参考書：

- ・『土方巽全集』普及版・全2巻（河出書房新社）
- ・Stephen Barber 著『HIJIKATA: Revolt of the Body』

【07】美術史特殊 A(2)(春学期)

【07】美術史特殊 A(2)(秋学期)

【04】美術史特殊 A(4)(通年)

17世紀ローマのバロック美術 准教授 金山 弘 昌

授業科目の内容：

本講義では、17世紀ローマにおける絵画・彫刻・建築を、様式史や図像学などの観点から紹介します。本年度は特に、初期バロックを代表するカラヴァッジョ、そして盛期バロックの三巨匠、ベルニーニ、ポッロミーニ、ピエトロ・ダ・コルトーナの業績を中心に概説をおこないます。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

授業で指示します。

【07】美術史特殊 B(2)(春学期)

【07】美術史特殊 B(2)(秋学期)

【04】美術史特殊 B(4)(通年)

建築の歴史 政策・メディア研究科 教授 三宅 理 一

授業科目の内容：

広く「建築」全般を理解するため、建築に関わるさまざまな領域について横断的に講義を行う。建築を理解するためには、時系列で建築の変遷を追う建築史的理解、構造や設備などの技術的な仕組みを知るための工法的理解、都市の成り立ちと実態を掌握するための都市史・都市論的理解、環境との関わりを論ずるための環境論的理解など、さまざまな視点からのアプローチなどがあるが、まずはみずからの眼と身体で建築空間を楽しみ、体験的に理解する姿勢が必要である。今年度は、ヨーロッパと日本（アジア）を対象に建築の発展について講義を行い建築史・都市史的理解を得ることを目的とする。ロマネスク、ゴシックといった様式、パラッツォや茶室といった建築タイプ、ベルニーニや小堀遠州といった建築家（作事方）、パリや北京といった都市について、建築と空間を下敷きにした議論を行う。さらに、遺産保護や建築/デザインをめぐる展覧会についての方法論を検証する。また、建築や都市計画についての用語についても理解を深める。レポートを何回か提出するとともに、春学期と秋学期の終わりに試験を行う。授業に平行して各地で行われている展覧会やイベントを訪れ、また実際の建築を訪れる機会を設ける。また夏季休暇などを利用して、海外等の建築を訪れることも理解をおおいに助ける。

テキスト：

特になし

参考書：

- ・日本建築学会編「日本建築史図集」彰国社
 - ・日本建築学会編「西洋建築史図集」彰国社
 - ・太田博太郎「日本建築史序説」彰国社
 - ・ジョナサン・グランシー「建築の歴史」BL出版
 - ・磯崎新「磯崎新の建築談義」(1 12)六耀社
 - ・辻本敬子ほか「ロマネスクの教会堂」河出書房新社
 - ・マルク・アントワーン・ロージェ「建築試論」中央公論社美術出版
 - ・三宅理一「モノフィジットの僧院世界」TOTO出版
- その他は授業中に指示する。

【07】美術史特殊 C(2)(春学期)

【07】美術史特殊 C(2)(秋学期)

【04】美術史特殊 C(4)(通年)

鎌倉彫刻完成論

講師 山本 勉

授業科目の内容：

実証的な立場からの日本彫刻史の講義です。鎌倉時代、12世紀最末から13世紀20年代頃までの、鎌倉彫刻の完成期を中心に論述します。冒頭には日本彫刻の鑑賞法、日本彫刻史の研究法について概論し、さらに今回の講義の時期までの日本彫刻史の展開について概説します。その後、康慶・運慶によって樹立された鎌倉新様式が、運慶自身によってより高水準の完成にいたる過程、また快慶をはじめとする周辺の仏師によって広がりをもって展開する状況を中心に論述し、さらに次世代の仏師がそれらを継承する状況について展望します。鎌倉時代彫刻史の現在の研究水準を理解することが本講義の目標です。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

- ・水野敬三郎監修『カラー版日本仏像史』(美術出版社)
- ・水野敬三郎他編『運慶と快慶 鎌倉の建築・彫刻』(『日本美術全集』10, 講談社)
- ・水野敬三郎他編『日本彫刻史基礎資料集成』鎌倉時代造像銘記篇1, 2, 3, 4(中央公論美術出版),
- ・山本勉著『仏像のひみつ』(朝日出版社)
- ・山本勉著『続仏像のひみつ』(朝日出版社)

【07】美術史特殊 D(2)(春学期)

【07】美術史特殊 D(2)(秋学期)

【04】美術史特殊 D(4)(通年)

フランス近代絵画における「空間」の問題

講師 宮崎 克己

授業科目の内容：

フランス近代絵画史を概観しながら、二つの「空間」を並行して考える。第一は、絵画の中に表現された「空間」である。西洋ではルネッサンスに遠近法が確立し、それは長いこと厳格な文法として機能した。しかし近代になってその規範性は弱まり、最終的にセザンヌがそれを否定したと言われている。そして第二は、絵画を取り巻く「空間」、すなわち絵画の置かれる「場」である。近代においては美術館、展覧会、そしてブルジョワジーの私室が絵画の主たる「場」になる。講義はときおり比較のため日本美術における「空間」に触れ、特に秋学期においては「空間」のジャポニスム、近代日本への西洋的「空間」の移植についてやや掘り下げて検討する。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

宮崎克己『西洋絵画の到来』(日本経済新聞出版社, 2007年)

【07】美術史特殊 E(2)(春学期)

【07】美術史特殊 E(2)(秋学期)

【04】美術史特殊 E(4)(通年)

中世および近世の日本絵画 名誉教授 河 合 正 朝

授業科目の内容：

ここで言う「中世」とは、13世紀・鎌倉時代から18世紀前半まで、「近世」とは18世紀後半以降19世紀までの室町時代、安土桃山時代および江戸時代を指す。このうち、本講義では、13世紀から17世紀前半までの日本美術史、なかんずく、絵画を中心とした美術の特質と歴史的展開について論述する。

但し、宗教絵画には最低限触れるにとどめ、観賞性を第一義とする、いわゆる世俗画(障子絵・障壁画、絵巻、肖像画、水墨画など)をその検討対象としたい。

テキスト：

とくに無いが、必要に応じて参考になるプリントを配布する。

参考書：

とくに無い。

【07】美術史特殊 F(2)(春学期)

【07】美術史特殊 F(2)(秋学期)

【04】美術史特殊 F(4)(通年)

仏教の図像学 講師 田 中 公 明

授業科目の内容：

インドで成立した仏教は、その長い歴史の中で、多様なイコン(聖像)をつくりだし、仏教の図像とそのシンボリズムは、わが国の文化全般にも大きな影響を与えた。本年は、仏教図像の起源を仏教の故国インドに遡って考察するとともに、アジア各地に遺された作品に基づき、壮大な文化交流の歴史を明らかにする。

参考書：

田中公明著『両界曼荼羅の誕生』(春秋社・2004年)

【07】美術史特殊 G(2)(春学期)

【07】美術史特殊 G(2)(秋学期)

【04】美術史特殊 G(4)(通年)

[春] 講師 布 山 毅

[秋] 講師 内 田 まほろ

〔春学期〕美術と先端技術

授業科目の内容：

美術分野の研究やプロジェクトにおける、デジタルメディアの利用方法の解説と、基礎技術の習得。特にデジタル画像や映像の扱い方についてワークショップ形式の演習を通じて学ぶ。また、時間軸を持つ視覚芸術分野が、デジタル技術の進化に呼応してどのように変容しているかをテーマに、さまざまな作品の事例紹介を行う。

参考書：

- 『イメージリテラシー工場 フランスの新しい美術鑑賞法』ジャン＝クロード・フォザ他著、フィルムアート社刊
- 『デジタル映像制作ガイドブック』デジタル映像制作ガイドブックプロジェクト著、ワークスコーポレーション刊

〔秋学期〕

授業科目の内容：

本講義では新しいメディア、マテリアルがもたらす新しい美術(空間、写真、デザインを含む)の枠組み、作品、アーカイブ方法、キュレーションのあり方を実践的なレベルでとらえる知識、技術、能力を身につけることを目的とする。

講義ではデジタルメディアの基本概念を理解するとともに、それらを利用した作品、扱い方、キュレーション、批評方法を、具体的な例や実践的なワークショップを通して身につける。後半のワークショップでは履修者の専門研究対象をもとにアーカイブの作成、キュレーション、プレゼンテーションを行う。

テキスト：

適宜

参考書：

適宜

【07】美術史特殊 H(2)(春学期)

【07】美術史特殊 H(2)(秋学期)

【04】美術史特殊 H(4)(通年)

13世紀後半～14世紀前半のイタリア美術

名誉教授 末 吉 雄 二

授業科目の内容：

この授業は、ジョットの絵画の成立と展開を出来る限り詳細に検討することを目的としている。まず、13世紀中葉以降のイタリア建築・彫刻を、ニコラ・ピサーノ、ジョヴァンニ・ピサーノ、アルノルフォ・ディ・カンピオ等の作品を取り上げて検討し、彫刻家の工房についても検討する。ついで、アッシジのサン・フランチェスコ聖堂における壁画装飾の展開を中心に13世紀の絵画を検討する。チマブーエによる上堂内陣壁画から始め、新・旧約聖書の若干の場面の検討を行った後で、聖フランチェスコ伝28場面を鑑賞したい。

13世紀最後の4半期は、彫刻も絵画も、急速に「美的」な質を高めていった時代だったが、そのイタリア美術の傾向の中で、アッシジのサン・フランチェスコ聖堂は極めて重要な位置を占めていることを論じる。

ジョットとチマブーエ、ジョットとアルノルフォの師弟関係の検討、ブオン・フレスコ技法の確立にともなって、工房における大規模壁画の制作手順にいかなる変化が生じたか、彫刻家や画家が名声を得ることに伴う依頼者の広域化は工房にどんな変化を生じさせたか、などの問題を考えたい。

テキスト：

特になし。授業では参考資料のプリントを配布する。

参考書：

- 『イタリア・ルネサンスの文化』ブルクハルト著。
 - 『ジョットの芸術』と『聖痕印刻』佐々木英也著、中央公論美術出版社。
 - 『中世末期の図像学』エミール・マール著、国書刊行会。
 - 『ルネサンス画人伝』白水社。
- など。授業時に指示する。

【07】美術史特殊 I(2)(春学期)

【07】美術史特殊 I(2)(秋学期)

【04】美術史特殊 I(4)(通年)

中国陶磁史

[春] 講師 佐 藤 サアラ

[秋] 講師 金 子 賢 治

〔春学期〕

授業科目の内容：

本講義は中国陶磁史をまなびます。作品は多くを語るものであり、作品を理解することはその背後にある歴史や文化の理解につながります。講義の中心は中国陶磁ですが、地域として日本、西アジア、ヨーロッパに、また漆器や金属器などの工芸にも言及していくことになります。本講義の目標とするところは二つあり、一つは講義を通じた作品の歴史的理解であり、もう一つは、レポート課題として展覧会を随時見に行くことを指示しますが、実際の作品を見て、その作品が「長いときを経てなお今に残った意味」を知るといことです。

参考書：

平凡社版 中国の陶磁(1～12)

〔秋学期〕

授業科目の内容：

単なる手工業として出発した近代工芸が、モダンデザインの理論と実践、近代的な意味での個人作家的工芸制作へと発展的に展開していく歴史と、そのなかから出てきた西洋近代の美術概念とは異なる日本の工芸制作理論を考察する。特に陶芸を中心に取り上げ、近

代的な意味での個人作家的工芸制作，言い換えると純粹美術を構成する概念としての絵画，彫刻と同じように工芸制作を行う歴史と理論を，その発生時期である大正後半から昭和初期，そして戦後，現代へと跡付ける。

テキスト：

「近代工芸案内 東京国立近代美術館工芸館所蔵品を中心として」，2005年3月，東京国立近代美術館

参考書：

「現代陶芸の造形志向」，2001年12月，阿部出版

【07】美術史特殊 J(2)(春学期)

【07】美術史特殊 J(2)(秋学期)

【04】美術史特殊 J(4)(通年)

北方ルネサンスから17世紀フランドル，オランダ美術

講師 森 洋子

授業科目の内容：

16世紀ネーデルラント美術，17世紀フランドル，オランダ美術を画像学的な観点から時代分析と作品解釈を行う。両世紀の様式的な特色をも考慮しながら，新しい主題とその画像に対する画家たちの関心および美術マーケットの動向を概説する。

テキスト：

授業中に適宜配布する。

参考書：

- ・森洋子『プリューゲルの諺の世界』(白凰社)
- ・森洋子『シャボン玉の図像学』(未来社)
- ・森洋子『子供とカップルの美術史』(NHK ブックス)

【07】美術史特殊 K(2)(春学期)

【07】美術史特殊 K(2)(秋学期)

【04】美術史特殊 K(4)(通年)

近代日本美術史の諸問題

講師 古田 亮

授業科目の内容：

近代日本美術史のうち絵画を中心に概観し，その学問的方法や実践について解説します。

前期は，幕末から昭和初期までを中心に，具体的な作品の分析から美術史全体の問題が浮かび上がることが理解できるようにします。

後期は，いくつかのテーマを設定し，近代美術史の様々な問題点について解説することで，受講生が近代美術に関してより深い関心をもって接することができるようにします。

適宜，美術館への見学授業もおこなう予定です。

テキスト：

特に指定しません。必要な資料は講義中に配布します。

参考書：

古田亮著『狩野芳崖・高橋由一』(ミネルヴァ書房，2006年，2940円)

【07】美術史特殊 L(2)(春学期)

【07】美術史特殊 L(2)(秋学期)

【04】美術史特殊 L(4)(通年)

戦後日本美術史

理工学部 准教授 近藤 幸夫

授業科目の内容：

第二次世界大戦後の美術の動きについて，アメリカのできごとはある程度知っていても同じ時期に自分の国である日本で何が起きていたか知らない人が多いのではないのでしょうか。本講義は，このような欠落した知識をうめるべく日本の戦後美術の基本的な出来事を学ぶものです。すでに日吉の「現代芸術論」において，ヨーロッパ，アメリカの動きについてはある程度説明していますので，本講義ではそれを聴いていることを前提として進めたいと思います。

テキスト：

特にありません。

参考書：

適宜授業中に挙げます。

【07】音楽史特殊 A(2)(春学期)

【07】音楽史特殊 A(2)(秋学期)

【04】音楽史特殊 A(4)(通年) 教授 美山良夫

授業科目の内容：

19世紀の音楽を，それを受け入れた社会と制度，時代，環境等の面から解説し直すことを内容とする。その例として，春学期はオペラをとりあげ，劇場のシステムと国家統制(検閲)，聴衆行動等のかかわりにおいて，秋学期はピアノ曲を例に，ヴィルトゥオーゾ，サロン，ジャーナリズムとの関係で検証する。なお授業内では個々の作品の詳細な紹介まではできないので，受講生はおりにふれて事例の作品を視聴しておくことが望ましい。

参考書：

授業内で指示します。

【07】音楽史特殊 B(2)(春学期)

【07】音楽史特殊 B(2)(秋学期)

【04】音楽史特殊 B(4)(通年)

バロック時代のドイツ音楽

講師 今谷和徳

授業科目の内容：

17, 18世紀のバロック時代のドイツ音楽について概観する。ヨーロッパの音楽は，一般にバッハから始まり，ドイツを中心に展開したといわれるが，それは誤りで，実際には中世の時代からフランスを中心に展開されてきた。16世紀からはイタリアも重要な音楽活動の中心地となっていたが，ドイツは，そうしたフランスやイタリアの影響を受けながら，徐々に独自の音楽を確立してゆくのである。ここでは，バッハに至るバロック時代のドイツ音楽を，当時の政治的，宗教的，社会的な背景を踏まえながら考えてゆきたい。

テキスト：

使用しない。

参考書：

開講時に紹介する。

【07】音楽史特殊 C(2)(春学期)

【07】音楽史特殊 C(2)(秋学期)

【04】音楽史特殊 C(4)(通年)

日本の近現代音楽史

講師 檜崎洋子

授業科目の内容：

20世紀初頭から20世紀末にかけての日本の洋楽史を解説します。日本の作曲家の作品がどう変遷してきたか(何をモデルとして，どのようなオリジナリティを打ち出そうとしてきたか)を中心に解説しますが，それを取り巻く楽壇の状況や演奏会の動向とのかかわりも対象とします。ほぼ10年から20年を単位として概観しますが，それぞれの同時期の欧米の作曲界の動向をふまえるほか，日本以外の非ヨーロッパ諸国における動向も参照します。普段あまり接する機会のない作品や演奏会だと思いますので，CDを中心にDVDやビデオ等の視聴覚資料を聴く機会を毎回設けます。履修者の関心や要望を考慮して，授業内容や進め方に適宜修正を加えます。

テキスト：

特に指定しません。関連する文献表を配布します。

参考書：

日本戦後音楽史研究会編『日本戦後音楽史』上下巻(平凡社，2007年)ほか

【07】音楽史特殊 D(2)(春学期)

【07】音楽史特殊 D(2)(秋学期)

【04】音楽史特殊 D(4)(通年)

ベートーヴェン作品とそれを生み出した時代背景

講師 平野 昭

授業科目の内容：

今年度の基本コンセプトはベートーヴェン作品論であり，交響曲

や協奏曲、ソナタ、室内楽等をジャンル毎に取り上げながら、その様式特性を明らかにしてゆく。また、ベートーヴェンの様式特性が先人ハイドンやモーツァルト、そして同時代の他の作曲家とどのように異なっているかにも言及してゆく。ベートーヴェン(1770~1827)の活躍した時代は音楽様式の大変換、音楽受容層の大変化、音楽家の社会的地位の変化と市民意識の誕生、楽器の改良発展等々と重なる時代でもあり、音楽史的には古典主義からロマン主義への転換期でもある。この大きな変革の原動力、時代の牽引力となったベートーヴェンを通して18世紀末から19世紀前半の音楽史を見直す。

【07】音楽史特殊 E(2)(春学期)

【07】音楽史特殊 E(2)(秋学期)

【04】音楽史特殊 E(4)(通年)

(春学期)日本の近代音楽 (秋学期)はやり歌の系譜

講師 千葉優子

授業科目の内容:

〔春学期〕

現在、日本人の多くが西洋音楽あるいはそのイデオロムによる音楽を身近なものとし、自国の伝統的な音楽に違和感を持っているが、何故こうした状況となったかについて、日本人の価値観の変化に焦点を当てつつ、その背景にある社会的状況も含めて考察する。さらに、宮城道雄と山田耕筰という後世に多大な影響を与えた二人の作品を分析することで、音楽自体の変容についても検証する。

〔秋学期〕

春学期で考察した価値観の変化が、日本人の音楽感覚・音楽的感性をいかに変容させたかについて、一般民衆が愛好した音楽の視点で論考する。さらに、第二次大戦後の西洋ポピュラー音楽の日本への影響と、そこに見られる日本人としてのアイデンティティーについても検証する。

テキスト:

なし

参考書:

千葉優子著「ドレミを選んだ日本人」(音楽之友社、2007年)

【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)

【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)

【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)

【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)

【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)

【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)

准教授 内藤正人

授業科目の内容:

美術史学の方法論をもとに、作品・作家の研究、あるいは様式研究などをおこなう。

前半は、おもに日本美術史研究の概説と、四年生の発表とを行う予定。後半は、これに加えて三年生が個別の関心事からテーマを選び、関連する先行研究のまとめや史・資料の調査をおこなう。これらを踏まえて両学年ともに口頭発表や討論・指導を重ねることで、最終的に卒業論文へと結実させる。

テキスト:

随時指示する

参考書:

同上

【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)

【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)

【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)

【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)

【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)

【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)

演劇学/演劇史

理工学部 教授 小菅隼人

授業科目の内容:

上演芸術のうち、特に演劇を対象とする研究会。演劇芸術の境界内であれば、各自の関心による対象・テーマの自由度を最大限に認めます。演劇上演の実践に携わる諸君の参加を歓迎しますが、アカデミズムの立場から演劇研究を志す学生諸君のための研究会ですから、資料調査・資料批判・論文作成のための地道な作業を覚悟して参加して下さい。本研究会においては、参加者による報告と討論を通して、問題点を明確にしてゆく作業の積み重ねを授業の中心にします。1回程度、一緒に観劇をします。

テキスト:

・『ベスト・ブレイズ』,(相田書房,2007)。

・ジョゼフ・ジバルディ,原田敬一監修,『MLA 英語論文の手引き(第6版)』,(北星堂,2005)。

参考書:

授業中指示します。

【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)

【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)

【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)

【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)

【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)

【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)

教授 美山良夫

授業科目の内容:

音楽および音楽をともなった舞台芸術諸分野(オペラ、バレエなど)を対象とする研究会。内容が多岐にわたるため、自発的に多くのジャンルについて関心をもち体験を重ねる努力が必要。また上演芸術の研究資料はわが国では検索入手が困難であることも多く、相当の時間と熱意が欠かせない。

参考書:

ウェンジェル『音楽の文章術』春秋社1994

【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)

【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)

【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)

【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)

【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)

【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)

教授 前田富士男

授業科目の内容:

近現代の芸術論・芸術史研究を中心に、卒業論文の指導をおこなう。春学期は4年生の、秋学期は3年生の口頭発表と討論によって授業を進める。秋学期は統一テーマを設け、参加者と相談のうえ各自の発表内容を決める。レポートやグループ発表、美術館見学を随時おこなう。

参考書:

・『美術史を語る言葉』ほか。

・旧図書館内リザーブブック・コーナー(前田)の本科目該当のもの。

- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)
- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)
- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)
- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)
- 【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)
- 【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)

教授 林 温

授業科目の内容：

東洋・日本美術史学を専攻する3,4年生を対象とする研究会。学生の主体的参加により、相互研鑽しつつ研究方法を学びます。授業は小グループによる研究発表と、4年生個人による卒業論文作成の経過報告となります。4年生を対象とする卒業指導では、前期と後期に少なくとも一回は発表してもらいます。

テキスト：

特になし

参考書：

適宜、授業中に指示する。

- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)
- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)
- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)
- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)
- 【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)
- 【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)

准教授 金山 弘 昌

授業科目の内容：

本研究会では、卒業論文作成のために必要な方法を学びます。具体的には、受講者各人が、絵画・彫刻・建築・工芸など造形芸術の歴史や、それに関わる各種の社会・文化的テーマについて研究し、文献紹介、研究発表、質疑応答などをおこないます。各人の研究テーマは、担当者との相談の上、個々の関心に応じて決定します。また併せて原典講読や見学会なども適宜おこないたいと思います。なお担当者の専門は17世紀イタリア美術・建築ですが、専門にとらわれない指導をおこないます。

テキスト：

特に使用しません。

参考書：

授業中に適宜指示します。

- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)
- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)
- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)
- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)
- 【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)
- 【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)

近・現代美術研究 理工学部 准教授 近藤 幸夫

授業科目の内容：

現代美術および20世紀美術を制度的な側面も視野にいれながら美術史的方法論によって研究しようとする学生のための研究会です。卒業論文作成のための指導に主眼をおきますが、また一方で各自が自分のテーマだけではなく近・現代美術研究全体への知見を広げることも目的します。

3年生は戦後美術について基本的知識を確認するため前期は発表をしてもらいます。3年生は1年間を通じて毎時間ごとにレポート提出が義務づけられます。

4年生については、卒業論文のテーマは作家研究が望ましく、時間をかけて丁寧に文献資料を調査する基本的作業を重視したいと思います。卒業論文作成にあたっては、レポート、口頭発表などにより段階的に論点を明確にしていく方法をとります。

サブゼミとして実際に作家と接したり展覧会制作にかかわったりする機会を設けたいと思っていますのでこちらのほうにも積極的に

参加する学生の履修を希望します。

テキスト：

特にありません。

参考書：

授業中に適宜指示します。

- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)
- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)
- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)
- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)
- 【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)
- 【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)

教授 大石 昌史

授業科目の内容：

美ならびに芸術一般に関する原理的研究を主題とする研究会。個々の作品解釈や作家研究ではなく、芸術思想・芸術理論の研究を行う。それ故、哲学者(美学者)や芸術理論家の著作が研究対象の中心となる。

授業形態は、講読および討論演習の形をとり、問題提起となるテキストや参加者の口頭発表に対して、全員で討論する。

- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)
- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)
- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)
- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)
- 【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)
- 【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)

音楽学の方法論 教授 三宅 幸夫

授業科目の内容：

本演習は、音楽学で卒業論文を書くための研究会です。論文の題目は自由ですが、基礎的や方法論を身につけるためには、批判に値する先行研究がある分野が望ましいと思います。また必要な場合は、卒業論文の個別指導もおこないます。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業時に適宜指示します。

- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)
- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)
- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)
- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)
- 【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)
- 【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)

教授 遠山 公一

授業科目の内容：

卒論作成のために必要な知識や方法を学ぶ。

担当者の専門は、ルネサンス美術の特に絵画と彫刻であるが、なるべく専門にとらわれずに指導を行いたい。卒論作成のために発表を4年生だけでなく全員に課す。基本的に、各人が自分で探した欧文論文の内容をもとに発表すること。また、作品のディスクリプション、参考文献表を全員に提出してもらうほか、3年生には学期末レポートを出してもらう。

参考書：

配付資料を参照。

-
- 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)
 - 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)
 - 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(春学期)
 - 【07】美学美術史学研究会 (セ)(1)(秋学期)
 - 【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)
 - 【04】美学美術史学研究会 (2)(通年)

准教授 西川 尚生

授業科目の内容：

西洋音楽を対象とする研究会。音楽研究に必要な調査・研究の方法を学ぶとともに、卒業論文作成のための個別指導を行なう。

履修者には春学期・秋学期に各1回、各自の興味に即したテーマで口頭発表をしてもらう予定であるが、履修者数が多い場合は、3年生に関してはグループ発表になる可能性もある。これらの発表を元に、学生間で討論を重ねることで、音楽作品へのさまざまなアプローチの方法を学んでもらうので、履修者には積極的に発言することが求められる。毎回発表の前には、必ず指導教授の個人面接を受け、研究テーマや楽譜・文書資料の検索・収集の手順について相談してもらいたい。

参考書：

- ・R. J. ウィンジェル(宮沢淳一ほか訳)『音楽の文章術』春秋社, 1994年。
- ・久保田慶一『音楽の文章セミナー』音楽之友社, 2006年。
- ・U. エーコ(谷口勇訳)『論文作法』而立書房, 1991年。
そのほか授業の中で指示する。

日本史学専攻

必修科目

【07】史学概論 (2)(春学期)

【07】史学概論 (2)(秋学期)

【04】史学概論(4)(通年)

[春] 経済学部 教授 矢野 久

[通年] 教授 神田 順司

西洋史学専攻参照

【07】日本史史料講読 A(セ)(1)(春学期)

【07】日本史史料講読 B(セ)(1)(春学期)

【07】日本史史料講読 B(セ)(1)(秋学期)

【07】日本史史料講読 A(セ)(1)(秋学期)

【04】日本史史料講読 A(2)(通年)

【04】日本史史料講読 B(2)(通年)

[春] 教授 井 奥 成 彦

[春] 講師 丸 島 和 洋

[秋] 教授 三 宅 和 朗

[秋] 准教授 浅 見 雅 一

授業科目の内容：

古代・中世・近世・近代の史料(刊本)の講読と、史料解読のための基本ツールの利用法を修得する。

テキスト：

授業の際に配布する。

参考書：

授業の際に指示する。

【07】日本史概説 (2)(春学期)

【07】日本史概説 (2)(秋学期)

【04】日本史概説 (4)(通年)

日本古代国家成立史 教授 三宅和朗

授業科目の内容：

昨年度に引き続き、日本古代国家成立史を講義する。本年度は6世紀から7世紀中ごろの時代について東アジア情勢をふまえて論ずる。『古事記』『日本書紀』の史料批判など、古代史料の扱い方にも言及する。

【07】日本史概説 (2)(春学期)

【07】日本史概説 (2)(秋学期)

【04】日本史概説 (4)(通年)

日本近世・近代の政治・経済・外交を中心に
講師 松尾 正 人

授業科目の内容：

安土桃山時代から明治・大正期まで、主に近世・近代史を講義する。時期区分と基本的特質、中世から近世への転換、近世社会の展開、近代国家の形成を概説する。各時代の政治・外交・経済の分野に関する重要な問題を取り上げ、時代の特質を明らかにし、歴史の変遷が理解できるように概説したい。日本史に対する興味と積極的な関心が深まるようにする。

テキスト：

松尾正人著『維新政権』(日本歴史叢書, 吉川弘文館)

参考書：

・藤木久志著『雑兵たちの戦場』(朝日選書, 朝日新聞社)

・木村 礎著『近世の村』(歴史新書, 教育社)

・岩下哲典著『予告されていたペリー来航と幕末情報戦争』(様泉社)

・佐々木寛司著『地租改正』(中公新書, 中央公論社)

・松尾正人著『木戸孝允』(吉川弘文館)

・松尾正人編『明治維新と文明開化』(吉川弘文館)

【07】古文書学 (2)(春学期)

【07】古文書学 (2)(秋学期)

【04】古文書学(4)(通年)

近世文書を読む

講師 鶴田 啓

授業科目の内容：

近世文書を、その古文書学的特徴に留意しながら読み進んで行くようにすることが、この講義の目標です。

参考書：

『概説古文書学』(吉川弘文館, 1989), 『日本史史料(3)近世』(岩波書店, 2006)

【07】古文書学 (2)(春学期)

【07】古文書学 (2)(秋学期)

【04】古文書学(4)(通年)

講師 高橋 一 樹

授業科目の内容：

多様化する歴史資料のなかで、もっとも基本的な史料は古文書です。日本史の研究を行うためには、この古文書についての基礎知識と読解能力を養う必要があります。本講義では、おもに古代から中世にかけての古文書について、画像を用いつつ、その様式の変遷や機能のあり方を国家・社会の動きと関連づけながら解説します。あわせて、古代・中世のいかなる古文書がどのように伝来してきたのが日本におけるその特質を講じます。

テキスト：

佐藤進一『新版』古文書学入門』(法政大学出版局, 1997年)

参考書：

久留島典子・五味文彦『史料を読み解く1中世文書の流れ』(山川出版社, 2006年)

【07】日本史特殊 (2)(春学期)

【07】日本史特殊 (2)(秋学期)

【04】日本史特殊(4)(通年)

東アジア世界のなかの中世日本

[春] 講師 米 谷 均

[秋] 教授 田 代 和 生

【春学期】

授業科目の内容：

日本と朝鮮半島は、隣国同士特有の「歴史的しがらみ」が複雑にからみあっている。本講義は、そうした複雑な「しがらみ」が生じた背景を理解するため、両国の間に位置した対馬(つしま)を中心に、中世日朝関係史を解説する。この対馬は、貿易や漁業活動の利益を得るため、日朝双方を天秤に掛けた行動を、古来より行い続けていた。日本本土の政権に対しては、外国との窓口としての重要性を強調し、朝鮮の政権に対しては、臣下のごとき言説を表して、その甘んを買ったこともあった。対馬を取り上げることによって、中世日朝関係の光と影の両側面を検討し、東アジア世界における外交の本質とは何かを追究してゆきたい。

テキスト：

特に無し。授業用プリントを適時配布いたします。

参考書：

荒木 和憲『中世対馬宗氏領国と対馬』(山川出版社, 2007年)

【秋学期】

授業科目の内容：

近世日本と朝鮮の交流史を縦軸に、東アジア史の視点から日本史を考える。朝鮮通信使の来日に代表される江戸時代の日朝関係は、実は複雑な構造の上になりたっていた。そのころ「鎖国」時代であったにもかかわらず、日本人は朝鮮釜山の倭館へ渡航し、外交実務および貿易を行っていた。幕府の厳しい対外政策のなかで、それがなぜ可能であったのか。このことを理解するには、豊臣秀吉による文禄・慶長の役、役後の関係修復、対馬宗家の特殊な役割といった

一連の歴史的背景を探らなくてはならない。授業では、日朝関係史にかかわる最新の学説を紹介するとともに、必要に応じて書画カメラによる画像史料を用いて、東アジア世界の中の近世日本をわかりやすく講義する。

テキスト：

田代和生『倭館』(文芸春秋社)

参考書：

田代和生『日朝交易と対馬藩』(創文社), 同『江戸時代朝鮮薬材調査の研究』(慶応大学出版会)

【07】日本史特殊 (2)(春学期)

【07】日本史特殊 (2)(秋学期)

【04】日本史特殊(4)(通年)

近世山村の支配と生業 講師 佐藤 孝之

授業科目の内容：

江戸時代は「村」の時代といわれる。そこで、江戸時代の村について学ぶことを通じて、江戸時代(近世)という時代に対する理解を深めることを講義の目標にしたい。

本年度は、山間地域を取り上げて、近世山村のあり方を見てゆきたい。具体的には、上州山中領(群馬県多野郡)を対象に、そこで支配と生業の変遷について、地域の特長を踏まえつつ検討したい。山村というと、後進的・閉鎖的・低生産的といったイメージで語られる場合が多いが、そうした山村の姿は正しいのであろうか。山村の特長に対応した支配のあり方、生業の展開と林野管理のあり方等の解明を通じて、江戸時代の山村の実態を描き出し、負のイメージを払拭することを試みたい。

テキスト：

特になし。授業時に、適宜プリントを配布します。

【07】日本史特殊 (2)(春学期)

【07】日本史特殊 (2)(秋学期)

【04】日本史特殊(4)(通年)

日本の近代化 講師 鈴木 淳

授業科目の内容：

幕末以来の日本の近代化過程について、新技術の導入と普及という観点から考えたい。春学期は概説書を輪読し、冬学期は鹿児島出身の官僚である三島通庸について講じて理解を深めたい。

テキスト：

鈴木淳『新技術の社会誌』(中央公論社, 日本の近代15, 1999年, 2400円)

【07】日本史特殊 (2)(春学期)

【07】日本史特殊 (2)(秋学期)

【04】日本史特殊(4)(通年)

キリタン史 准教授 浅見 雅一

授業科目の内容：

春学期は、フランシスコ・ザビエルについて取り上げる。秋学期は、キリタン時代の倫理、特に神を敬うことをめぐる倫理を取り上げる。

参考書：

授業中に適宜紹介する。

【07】日本史特殊 (2)(春学期)

【07】日本史特殊 (2)(秋学期)

【04】日本史特殊(4)(通年)

中世東国の熊野信仰 講師 古川 元也

授業科目の内容：

日本中世の宗教世界と社会との関わりを講じます。本講では特に、中世の東国に展開した熊野信仰について扱いたいと思います。熊野信仰は紀伊半島南端の熊野地方に起源をもつ古来からの信仰ですが、さまざまに形を変えて日本各地に伝播します。中世には、東国にお

いて著しい受容の痕跡が残されており、その徴証をたどりながら、各地に信仰がもたらされた理由を考えたいと思います。このような宗教世界へのアプローチは、文献資料のみならず絵画、彫刻、工芸あるいは伝承といった、多角的な視点が必要不可欠となります。それら各資料の可能性や限界などもふまえながら、近年の調査に基づいた成果を講じてゆきます。

なお、講義の内容、計画は昨年度と同様ですが、内容や扱う資料において拡充、追補があります。

テキスト：

授業中に適宜プリントを配布します。

『聖地への憧れ 中世東国の熊野信仰』(神奈川県立歴史博物館特別展図録, 2005年10月)など。

参考書：

授業中に適宜指示します。宮家準『熊野修験』(吉川弘文館)を一読しておくことをお勧めします。

【07】日本史特殊 (2)(春学期)

【07】日本史特殊 (2)(秋学期)

【04】日本史特殊(4)(通年) 教授 長谷山 彰

授業科目の内容：

7世紀以降の日本古代国家の法と制度について講義する。我が国における律令法の成立とその背景を探ると共に中国律令法に対する日本律令法の特色を明らかにしたい。又裁判制度を中心に律令法運用の実態を検討する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

- ・牧 英正・藤原 明久『日本法制史』(青林書院新社)
- ・利光 三津夫・長谷山 彰『新裁判の歴史』(成文堂)
- ・長谷山 彰『日本古代の法と裁判』(創文社)
- ・早川庄八『律令国家』(小学館『日本の歴史』)
- ・吉田孝『古代国家の歩み』(小学館ライブラリー)
- ・吉田孝『日本の誕生』(岩波新書)

【07】日本史特殊 (2)(春学期)

【07】日本史特殊 (2)(秋学期)

【04】日本史特殊(4)(通年)

公文書と公文書館 文書を残す, 選ぶ, 読む

講師 柳下 宙子

授業科目の内容：

「公文書館業務」を、利用者ではなく、文書館専門職員の立場で考え、そのいくつかを授業の中で体験してみようと思います。

併せて、公文書(主に外務省記録文書)の特徴を学び、実際の文書を読み一つの事件を考察することも考えています。したがって、講義だけではなく、調査をしたり、文書を読んだり、と演習も行います。

テキスト：

適宜コピー資料を配付します。

【07】日本史特殊 (2)(春学期)

【07】日本史特殊 (2)(秋学期)

【04】日本史特殊(4)(通年)

古代史学上の諸問題 講師 山口 英男

授業科目の内容：

この講義では、日本古代史料研究の近年の成果を学び、古代史研究の新たな展開の方向を考えることを目指します。日本古代史を研究する材料となる史料は、他の時代に比べて数が限定されている印象が強く、新たな検討の余地は少ないように思われがちです。しかし、木簡のような新史料の発見ばかりでなく、周知の史料でありながら十全な検討がなされていないものや、研究の進展に応じた再調査・再検討が必要となっている史料が意外に多くあります。こうした史料に新たな検討を加えていくことで、古代史研究の地平がさらに広がるのが期待されます。本講義では、古代史料に関する具体

的な検討・調査の事例から、分析の視角と手法を学び、古代史全体の解明への展望について考えます。

テキスト：

(プリントを随時配布します。)

参考書：

- ・佐藤信編『西大寺古絵図の世界』(東京大学出版会, 2005年)
- ・石上英一編『日本の時代史 30 歴史と素材』(吉川弘文館, 2004年)
- ・山口英男『帳簿と木簡』(『木簡研究』22, 2000年)
- ・石上英一ほか編『古代文書論』(東京大学出版会, 1999年)

【07】日本史演習 (セ)(1)(春学期)

【07】日本史演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】日本史演習(2)(通年)

近代史料解説

教授 柳田利夫

授業科目の内容：

近代史の原史料(個人書翰) 解説能力を養成する

テキスト：

授業で配布する。

参考書：

授業で指示する。

【07】日本史演習 (セ)(1)(春学期)

【07】日本史演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】日本史演習(2)(通年)

近世対外関係史

准教授 浅見雅一

授業科目の内容：

近世史料の講読を行なう。

テキスト：

受講者と相談のうえで決めたい。

【07】日本史演習 (セ)(1)(春学期)

【07】日本史演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】日本史演習(2)(通年)

荘園制の構造と国家・社会

講師 高橋一樹

授業科目の内容：

日本中世の土地制度を荘園制といいます。荘園制は中世史研究の基本課題です。本演習では、この荘園制の仕組みを学説史の整理と具体的な史料の読解を通じて理解し、日本中世の国家と社会の関係を考えます。とくに首都に集住する荘園領主が地方の荘園をいかにして支配することができたのか、中世の列島規模における人や物の流れとその特質にも着目します。

テキスト：

永原慶二『荘園』(吉川弘文館, 1998年) その他、資料プリントを適宜配布します。

【07】日本史演習 (セ)(1)(春学期)

【07】日本史演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】日本史演習(2)(通年)

近世古文書講読(初級クラス)

講師 田原昇

授業科目の内容：

近世古文書講読の初級クラスである。初めは「ひらがな」の読み方からはいり、漢字交じりの平易な文章からさらに難度の高いものへと進んでいく。史料はできるだけ書体の異なったものを選び、初心者が古文書に慣れることに主眼をおきたい。この間、解説辞典のひき方を指導し、さらに近世史への関心を深めるために、講読史料と関連するテーマについての、討論や発表をあわせておこなう。第一回目の授業でテキストの配布と使用辞書の説明などをおこなうので、受講希望者は必ず出席すること。

テキスト：

授業中にプリントを配布する。

参考書：

- ・児玉幸多編『くずし字解説辞典』(東京堂出版)
- ・児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版)

【07】日本史演習 (セ)(1)(春学期)

【07】日本史演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】日本史演習(2)(通年)

近代外交史料講読

教授 柳田利夫

授業科目の内容：

近代外交史にかかわる活字史料の講読

テキスト：

授業で配布する

参考書：

授業で指示する

【07】日本史演習 (セ)(1)(春学期)

【07】日本史演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】日本史演習(2)(通年)

教授 長谷山 彰

講師 十川 陽一

授業科目の内容：

弘仁・貞観・延喜の三代の格を集大成した『類聚三代格』を講読する。

特に巻19 禁制事に収められた格を対象として、京内外で起こるさまざまな社会事象について律令国家がどのような対応を示したのかを明らかにすると共に、政策決定の背景について考察してみたい。

テキスト：

新訂増補国史大系『類聚三代格』(コピーを配布する)

参考書：

- ・日本思想大系『律令』(岩波書店)
- ・『国史大系書目解題』上(吉川弘文館)

【07】日本史演習 (セ)(1)(春学期)

【07】日本史演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】日本史演習(2)(通年)

講師 桃崎 有一郎

授業科目の内容：

日本中世史料の講読を行います。中世史料の大部分はいわゆる「くずし字」で書かれているため、その読解には「くずし字」の判読能力が必要となります。中世史の分野ではかなりの部分の史料が史料集などの形で活字化されて共有されているため、比較的閲覧が容易であり、また「くずし字」を判読しなければならない機会もそれほど多くありませんが、この授業では写真版を用いて活字本の元となる原史料に親しみ、活字では再現できない原史料の世界(料紙・筆跡・モノとしての形態や正文・写しの判別など)に浸ってもらうことを主眼とします。同時に1点の文書の背後に広がる中世社会の様相(文書が作られるに至る経緯や文書が意味するもの、中世人のものの考え方など)についても、可能な限り解説していきます。更に授業では必要に応じて読解に必要なツール(工具書)や中世史・古文書学の基礎的知識・関連研究にも言及し、興味を抱いた問題点を自力で調べてゆく力を身に付けてもらうことも目的としています。

テキスト：

適宜プリントを配布しますが、どのような文書群を素材にするか(武家文書・公家文書・寺社文書・日記など)は初回ガイダンス時に受講者と相談して要望を汲み取り決定します。

参考書：

児玉幸多編『くずし字解説辞典』(東京堂出版)、佐藤進一『新版古文書学入門』(法政大学出版局)など(購入は義務ではありません)。

【07】日本史演習 (セ)(1)(春学期)

【07】日本史演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】日本史演習(2)(通年)

『風土記』を読む

教授 三宅和朗

授業科目の内容:

奈良時代のはじめに成立したとされる風土記のうち、『播磨国風土記』を講読する。本史料を読むことによって古代の地域社会像を具体的に検討していきたい。『新編日本古典全集 風土記』や『日本古典文学大系 風土記』の注も参照しながら読み進めていく。

テキスト:

沖森卓也他編著『播磨国風土記』(山川出版社, 2005年)

参考書:

『新編日本古典全集 風土記』(小学館), 『日本古典文学大系 風土記』(岩波書店)

【07】日本史演習 (セ)(1)(春学期)

【07】日本史演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】日本史演習(2)(通年)

近代文書の解読

教授 井奥成彦

授業科目の内容:

比較的やさしいくずし字の史料を通してくずし字に慣れることから始め、しだいに高度な史料も読めるようにトレーニングしていく。素材としては近代の農家, 商家, 企業の文書を用いる。

テキスト:

プリントを配布, あるいは原文書をこちらで用意する。

参考書:

『くずし字用例辞典』(東京堂出版)

【07】日本史演習 (セ)(1)(春学期)

【07】日本史演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】日本史演習(2)(通年)

近世古文書講読(上級クラス) 講師 高山慶子

授業科目の内容:

近世古文書講読の上級クラスである。ある程度古文書が読めることを前提とし, 数多くの文字に触れて応用力をつけることを目標とする。古文書解読能力の向上は何より量である。さらに近世史の理解を深めるため, 講読史料と関連するテーマについての, 討論や発表をあわせておこなう。第一回目の授業でテキストの配布と使用辞書の説明等を行なうので, 受講希望者は必ず出席すること。

テキスト:

授業中にプリントを配布する。

参考書:

『くずし字解読辞典』(東京堂出版), 『くずし字用例辞典』(東京堂出版)

【07】日本史研究会 (A)(セ)(1)(春学期)

【07】日本史研究会 (A)(セ)(1)(秋学期)

【07】日本史研究会 (A)(セ)(1)(春学期)

【07】日本史研究会 (A)(セ)(1)(秋学期)

【04】日本史研究会 (A)(2)(通年)

【04】日本史研究会 (A)(2)(通年)

日本近代の民衆意識研究

教授 柳田利夫

授業科目の内容:

共同研究と卒業論文の作成

【07】日本史研究会 (B)(セ)(1)(春学期)

【07】日本史研究会 (B)(セ)(1)(秋学期)

【07】日本史研究会 (B)(セ)(1)(春学期)

【07】日本史研究会 (B)(セ)(1)(秋学期)

【04】日本史研究会 (B)(2)(通年)

【04】日本史研究会 (B)(2)(通年)

鎖国時代の国際関係

[春]教授 井奥成彦

[春]講師 田原昇

[秋]教授 田代和生

授業科目の内容:

この研究会の目的は, 江戸時代の政治・経済・文化など多方面にわたる課題と取り組みながら, 近世史研究を行なうための基礎能力を養うことにある。具体的な研究方法としては, 年度ごとの共通テーマ(今年度は「鎖国時代の国際関係」)を設定し, グループでの発表・討論を中心に, 専門文献や史料への接近の仕方, あるいはそれらの評価・活用法などを学ぶ。またこれと並行して, 四年生の卒業論文指導, 三年生の個別テーマのレポート作成指導を行なう。なお三年生は, 近世古文書講読の初級クラス(日本史演習)を必ず履修すること。

テキスト:

田代和生『倭館』(文芸春秋社)

【07】日本史研究会 (C)(セ)(1)(春学期)

【07】日本史研究会 (C)(セ)(1)(秋学期)

【07】日本史研究会 (C)(セ)(1)(春学期)

【07】日本史研究会 (C)(セ)(1)(秋学期)

【04】日本史研究会 (C)(2)(通年)

【04】日本史研究会 (C)(2)(通年)

教授 三宅和朗

授業科目の内容:

4年生については, 各自の報告に基づいて卒業論文作成の指導を行なう。3年生は, 春学期を中心に各自のテーマについて報告し, 卒業論文作成に向けて準備をする。

【07】日本史研究会 (D)(セ)(1)(春学期)

【07】日本史研究会 (D)(セ)(1)(秋学期)

【07】日本史研究会 (D)(セ)(1)(春学期)

【07】日本史研究会 (D)(セ)(1)(秋学期)

【04】日本史研究会 (D)(2)(通年)

【04】日本史研究会 (D)(2)(通年)

教授 長谷山 彰

授業科目の内容:

4年生については各自の報告をもとに卒業論文作成の指導を行う。3年生も各自のテーマについて研究報告を行い, 授業の場で討論する。

他に合宿にむけて共通のテーマによる史料講読, 資料の作成も予定している。

【07】日本史研究会 (E)(セ)(1)(春学期)

【07】日本史研究会 (E)(セ)(1)(秋学期)

【07】日本史研究会 (E)(セ)(1)(春学期)

【07】日本史研究会 (E)(セ)(1)(秋学期)

【04】日本史研究会 (E)(2)(通年)

【04】日本史研究会 (E)(2)(通年)

休講

-
- 【07】日本史研究会 (F)(セ)(1)(春学期)
【07】日本史研究会 (F)(セ)(1)(秋学期)
【07】日本史研究会 (F)(セ)(1)(春学期)
【07】日本史研究会 (F)(セ)(1)(秋学期)
【04】日本史研究会 (F)(2)(通年)
【04】日本史研究会 (F)(2)(通年)

准教授 浅見雅一

授業科目の内容：

中世末期から近世にかけての対外関係史を中心としたテーマで、参加者には卒業論文を視野に入れながら各自の関心に沿った研究報告をしてもらう。それと同時に、対外関係史に関する研究論文を参加者と一緒に読み、それを素材としてひとつのテーマについて自由に議論することも考えている。

-
- 【07】日本史研究会 (G)(セ)(1)(春学期)
【07】日本史研究会 (G)(セ)(1)(秋学期)
【07】日本史研究会 (G)(セ)(1)(春学期)
【07】日本史研究会 (G)(セ)(1)(秋学期)
【04】日本史研究会 (G)(2)(通年)
【04】日本史研究会 (G)(2)(通年)

教授 井奥成彦

授業科目の内容：

日本近代史に関する文献・史料の講読、関連施設への見学、史料調査、自由研究発表を内容とする。史料調査は合宿形式で行う。

テキスト：

初回の授業時に提示する。

参考書：

随時紹介する。

-
- 【07】日本史洋書講読 (1)(春学期)
【07】日本史洋書講読 (1)(秋学期)
【04】日本史洋書講読 (2)(通年)

モザイクの国カナダと日本人移民

講師 飯野彩

授業科目の内容：

2008年は日加修好80周年を迎えます。日本とカナダの関係を、主に、多民族・多文化国家カナダの歴史、カナダへ渡った日本人の歴史と、モザイクの国カナダにおける各国からの移民、日系カナダ人などに目を向けながら学びます。これから国内で、または海外で活躍する皆さんに役立つ授業を行います。

テキスト：

Jean R. Burnett, and Howard Palmer. "Coming Canadians": An Introduction to a History of Canadian Peoples. Toronto: McClelland and Stewart, 1988.

参考書：

- ・綾部 恒雄・飯野 正子編著『カナダを知るための60章』(明石書店, 2003年)
- ・J. M. Bumstead. A History of the Canadian Peoples. Oxford University Press, 2007.
- ・Pryke, Kenneth G., and Walter C. Soderlund, eds. Profiles of Canada. Copp Clark Pittman, 1993.
- ・Breton, Raymond, Wsevolod W. Isajiw, Warren E. Kalbach, and Jeffery G. Reitz. Ethnic Identity and Equality: Varieties of Experience in a Canadian City. University of Toronto Press, 1990.

東洋史学専攻

必修科目

- 【07】 史学概論 (2)(春学期)
- 【07】 史学概論 (2)(秋学期)
- 【04】 史学概論 (4)(通年)

[春] 経済学部 教授 矢野 久
[通年] 教授 神田 順司

西洋史学専攻参照

- 【07】 東洋史研究入門 (セ)(1)(春学期)
- 【07】 東洋史研究入門 (セ)(1)(秋学期)
- 【04】 東洋史研究入門 (2)(通年) 教授 桐本 東太
教授 坂本 勉
教授 長谷部 史彦
教授 吉原 和男

授業科目の内容:

東洋史ほど間口が広く、かつ奥行き深い分野は少ないのではないだろうか。それだけにどの地域、どの時代、いかなる方法で歴史を学んでいくかについて思い悩んでいる人も多いはずである。こうしたことを考慮して設けたのがこの授業である。原則としてゼミを持つ教員が担当し、オムニバス形式ですすめられていくが、その蘊蓄を傾けた話のなかから将来の道をさぐるよすがを見つけてもらいたい。講義は、以下のように東アジアから西のイスラーム世界へ、時代は古い方から新しい方へという順で組み立てられている。

東洋史の『組み立て方』

一般に「東洋史」の名前でくられる時代と空間は、想像を絶する深みと広がりを持っているが、本講ではその中から、私の力がおよぶ領域を選択し、「東洋史」に取り組む際の研究方法を具体的に説明しようと思う。こちらがある事例の解析法を示し、それにならって学生諸君に他の事例を同じ視角から分析するとどのようになるかを考えてもらう、といった授業の進め方を予定している。(桐本東太) 華僑華人およびアジア移民の研究史

日本における中国人移民の研究についての主要文献を紹介しながら、アジア移民研究における方法と課題を論じる。(吉原和男)

日本からイスラーム世界の歴史を考える

外国史の研究は、日本との関係をつねに意識していないとその興味、関心を持続させることがなかなかむずかしい。こうしたことを考慮してこのオムニバスの授業ではヴィジュアルな映像資料も活用しながら日本とイスラーム世界との関係について話し、中東イスラーム世界について考えていく目を養っていききたい。

- 【07】 東洋史講読 (A)(セ)(1)(春学期)
- 【07】 東洋史講読 (A)(セ)(1)(秋学期)
- 【04】 東洋史講読 A (2)(通年)

西アジア史関連文献講読 講師 栗山 保之

授業科目の内容:

西アジア地域に関する英語文献を読みます。前期は学術論文、後期はアラビア語史料の英訳を取り上げる予定です。

テキスト:

初回に配布します。

参考書:

随時、紹介します。

- 【07】 東洋史講読 (B)(セ)(1)(春学期)
- 【07】 東洋史講読 (B)(セ)(1)(秋学期)
- 【04】 東洋史講読 B (2)(通年) 講師 石丸 由美

授業科目の内容:

13世紀以降、東地中海世界に君臨したオスマン帝国は、その中に多くの民族集団と宗教集団を抱えることになった。19世紀以降これら集団は国民国家を形成し、オスマン帝国から離反し、その後の自国史においてオスマン時代を暗黒の時代と捉え、否定する傾向にあった。しかし近年、各国の研究者によりこうした偏った歴史観を見直そうとする動きがある。この授業ではそうした動きの成果とも言える英文文献の講読を通して、特にバルカンにおけるオスマン帝国の足跡を見ていきたい。

テキスト:

初回の授業で提示します

参考書:

鈴木重『オスマン帝国』(講談社現代新書)、林佳世子『オスマン帝国の時代』(山川世界史リブレット)

- 【07】 東洋史講読 (C)(セ)(1)(春学期)
- 【07】 東洋史講読 (C)(セ)(1)(秋学期)
- 【04】 東洋史講読 C (2)(通年)

アジア系アメリカ人の歴史 教授 吉原 和男

授業科目の内容:

19世紀以降にアジアからアメリカ大陸へ移住・移民した人々の歴史を概説した英文テキストを使用する。中国人は華僑や華人としてよく知られ、また日本人は日系人として知られるが、他に韓国、南アジア、東南アジアからさまざまな理由と背景をもって北米や南米に移住した人々がいる。グローバルな人の移動を環太平洋地域に注目して考える授業である。前年度に使用したテキストの第6章後半から読み始める。読了後、次のテキストは類似テーマのテキストを相談して決める予定。

テキスト:

Monique Avakian, Atlas of American History. Checkmark Books. 2002 (春学期)

秋学期のテキストは未定です。

参考書:

ロナルド・タカキ、富田訳『多文化社会アメリカの歴史』明石書店、1995年; ロバート・リー、貴堂訳『オリエンタルズ: 大衆文化のなかのアジア系アメリカ人』岩波書店、2007年。

- 【07】 東洋史講読 (D)(セ)(1)(春学期)
- 【07】 東洋史講読 (D)(セ)(1)(秋学期)
- 【04】 東洋史講読 D (2)(通年)

漢文史料の講読 講師 水野 卓

授業科目の内容:

歴史を勉強する上で、史料の読解は欠かすことができません。中国史においては漢文史料が中心となりますので、本講義ではその漢文を読む訓練をしていきます。読む史料は基本的に『史記』や『論語』などの中国古典を取り上げていくつもりですが、履修者とも相談していきたく思います。なお漢文を輪読することが授業の中心となりますが、それに伴う古代中国に関する基礎的な知識も解説していくつもりです。

テキスト:

適宜配布します。

参考書:

特に指定しません。

-
- 【07】東洋史講読 (E)(セ)(1)(春学期)
【07】東洋史講読 (E)(セ)(1)(秋学期)
【04】東洋史講読 E(2)(通年) 講師 熊 遠 報
-

授業科目の内容：

この授業では、16世紀～20世紀における中国農村社会の状況、商業化を伴った都市の拡大、および農村人口の都市流入と都市成長の関係に重点を置いて、中国の伝統社会がどのように近代社会へと変わったのか、という問題を考える。具体的には中国語文献 費孝通『江村経済』、曾國藩『日記』、毛沢東『毛沢東選集』などの講読を通じて当時の人々の生活・行動様式、人間関係、制度（特に家族・親族）、および政治・経済活動の特徴などを理解する。

テキスト：

費孝通『江村経済』、曾國藩『日記』、毛沢東『毛沢東選集』の資料を配布します。

参考書：

熊遠報『清代徽州地域社会史研究』（汲古書院、2003年）

- 【07】東洋史概説 (セ)(2)(春学期)
【07】東洋史概説 (セ)(2)(秋学期)
【04】東洋史概説 (4)(通年)
中国古代史概説 教授 桐 本 東 太
-

授業科目の内容：

中国史の初源の時代である、夏・殷・周・春秋時代史について概説する。基本的には文献史学の立場からの講義であるが、最新の考古学的な成果も、ふんだんに取り入れてゆきたい。

テキスト：

なし

参考書：

適宜指示する

- 【07】東洋史概説 (セ)(2)(春学期)
【07】東洋史概説 (セ)(2)(秋学期)
【04】東洋史概説 (4)(通年)
近現代中国の歴史と社会 [春]講師 岩 間 一 弘
[秋]教授 吉 原 和 男
-

〔春学期〕

授業科目の内容：

中国の20世紀史を概説する。中国史の大まかな流れを論じていくが、本講義ではとくに地域からの視点を重視する。近代以降のグローバル化の潮流が、地域間関係の変容や地域社会の動態にどのような影響を及ぼしたのかを、中国史のなかに問い直していきたい。

テキスト：

特になし。授業中にプリントを配布する予定。

参考書：

池田誠他著『図説 中国近現代史』（法律文化社、第2版、2002年）
松丸道雄他編『世界歴史大系 中国史5 清末～現在』（山川出版社、2002年）

〔秋学期〕伝統中国の成熟と変容

授業科目の内容：

中国における家族と親族の構造的特色がどのように形成され伝えられてきたかを概説し、現代の中国大陸、台湾、香港、そして海外の華人社会における家族・親族組織について考察する。

テキスト：

・吉原和男ほか編『「血縁」の再構築』風響社、2006年再版。他にプリントも配布する。

参考書：

・平田茂樹・遠藤隆俊・岡 元司 編『宋代社会の空間とコミュニケーション』汲古書院、2006年
・井上徹・遠藤隆俊 編『宋 明宗族の研究』汲古書院、2005年
・瀬川昌久『中国社会の人類学』世界思想社、2004年

・吉原和男・鈴木正崇 編『拡大する中国世界と文化創造』弘文堂、2002年

- 【07】東洋史概説 (セ)(2)(春学期)
【07】東洋史概説 (セ)(2)(秋学期)
【04】東洋史概説 (4)(通年)
宗教・民族からみるイスラーム世界史
教授 坂 本 勉
-

授業科目の内容：

イスラーム世界とは多様な民族とエスニック集団からなる広大な歴史的世界である。宗教的にもイスラームのみならずそれと兄弟関係にあるセム的一神教たるユダヤ、キリスト教を内に含みつつ共存をはかってきたところである。この講義ではこうしたイスラーム世界の多様性と複合性を春学期においてはアラブ、トルコ系諸民族の15世紀あたりまでの歴史を軸に焦点をしばりながら話をしていく。ついで秋学期では16世紀から近代の時期にかけてのオスマン帝国の歴史を例にトルコ、アラブ、バルカンの人びとがいかにして民族の意識をもつようになってきたのか、その文化的、政治的ナショナリズムの過程について国際関係を視野に入れながら考えていくことにしたい。他専攻、他学部の学生でも理解できるようできるだけかみくだいて話すつもりである。また、政治史に偏らずに社会史、文化史にも重点をおいていく。イスラーム世界についての知識はこれからますますグローバル化する国際社会で生きていく上で絶対に必要な分野であると思われる。志のある学生を歓迎したい。

テキスト：

坂本勉『トルコ民族の世界史』（慶応義塾大学出版会、2006年）

- 【07】東洋史特殊 (A)(2)(春学期)
【07】東洋史特殊 (A)(2)(秋学期)
【04】東洋史特殊 A(4)(通年)
中国医療社会史 講師 帆 刈 浩 之
-

授業科目の内容：

中国史における医療の問題を社会的に考察する。医学理論の個性も重要であるが、環境や社会との関係において、独自の展開を見せた点に焦点をあてたい。近年の歴史学の最新成果もとり入れながら、様々なアプローチが可能であることをむしろ提起していきたい。

テキスト：

特になし。

参考書：

授業時に紹介する。

- 【07】東洋史特殊 (B)(2)(春学期)
【07】東洋史特殊 (B)(2)(秋学期)
【04】東洋史特殊 B(4)(通年)
[春]教授 吉 原 和 男
[秋]講師 岩 間 一 弘
-

〔春学期〕北米の華人社会 その発達史と社会組織

授業科目の内容：

北米にアジア系移民のコミュニティが形成されてから150年以上が経過したが、20世紀後半以降ではいくつかの大きな変化が生じている。中国からの移民は様々な団体を結成したが、それらの発達史と社会的機能について概説し、現代のアメリカ華人社会の理解につなげたい。現地調査によって明らかにされたカリフォルニア州に関わる事例を主に紹介する。

参考書：

最初の講義で伝えます

〔秋学期〕近代中国の都市中間層と大衆社会

授業科目の内容：

本講義では、上海の20世紀史を概観する。とくに両大戦間期から顕著となった都市中間層の形成と大衆社会の成立、および戦時を経て人民共和国成立後に至る変化と連続の道筋を論じる。さらに、

香港など他の大都市と比較しながら、上海の都市社会史を中国史および東アジア史のなかに位置づけて捉えなおしていきたい。

テキスト：

特になし。授業中にプリントなどを配布する予定。

参考書：

- ・高橋孝助・古厩忠夫編『上海史 巨大都市の形成と人々の営み』（東方書店、1995年）
- ・木之内誠編著『上海 歴史ガイドマップ』（大修館書店、1999年）
- ・菊池敏夫・日本上海史研究会編『上海 職業さまざま』（勉誠出版、2002年）

【07】東洋史特殊 (C)(2)(春学期)

【07】東洋史特殊 (C)(2)(秋学期)

【04】東洋史特殊 C(4)(通年)

東南アジア史の諸問題

言語文化研究所 准教授 嶋尾 稔

授業科目の内容：

東南アジアの歴史について様々な視座から実証的に検討する。マクロなスケールで地域世界の成り立ちを考える一方で、ムラの世界まで降りて具体的に人々の実践に迫ってみる。

前半は、東南アジア全体に関わる概念的な問題を取り扱う。「地域概念」「自然環境」「外文明」など。後半は、ベトナム史に焦点を当てる。「農業・農村から見た歴史」「儒教をめぐる問題（葬礼、女性問題）」「王朝の終焉」など。

テキスト：

特に指定しません。講義中に資料プリントを配布します。

参考書：

上智大学アジア文化研究所編『新版・入門東南アジア研究』（めこん、1999年）

【07】東洋史特殊 (D)(2)(春学期)

【07】東洋史特殊 (D)(2)(秋学期)

【04】東洋史特殊 D(4)(通年)

イスラーム近代とスーフィズム・聖者信仰

講師 高橋 圭

授業科目の内容：

スーフィズムや聖者信仰は、イスラームの神秘的・精神的な側面に関わる現象であり、中世においてはムスリム民衆の日常世界の中で重要な位置を占めてきた。近代になると、迷信やビドア（正統な教義からの逸脱）であるとしてしばしば激しい非難を受けることになったが、現在にいたるまでイスラーム地域に広く見られる現象である。本講義では、近代以降の展開に重点を置きながら、中世から現代までを視野に入れたスーフィズム・聖者信仰の歴史を概説する。アラブ地域を中心に扱うが、トルコや中央アジアなどの事例も可能な限り紹介する予定である。

テキスト：

適宜プリントを配布する

【07】東洋史特殊 (E)(2)(春学期)

【07】東洋史特殊 (E)(2)(秋学期)

【04】東洋史特殊 E(4)(通年)

嗜好品から見るイラン史

講師 山口 昭彦

授業科目の内容：

サファヴィー朝からカージャー朝にかけて、イランでは葡萄酒、阿片、煙草、珈琲など、さまざまな嗜好品が流行しました。これら嗜好品がどのように受け入れられ、定着し、さらには別の嗜好品に取って代わられていったのかを考えることで、近世から近代にかけてのイラン社会の変容を描き出すことをめざします。

テキスト：

特に指定しません。授業中に資料を配布します。

参考書：

主に以下の文献を参照しながら、授業を進めます。

Matthee, Rudi. The Pursuit of Pleasure: Drugs and Stimulants in Iranian History, 1500-1900. Princeton and Oxford: Princeton University Press, 2005.

【07】東洋史特殊 (F)(2)(春学期)

【07】東洋史特殊 (F)(2)(秋学期)

【04】東洋史特殊 F(4)(通年) 講師 松井 真子

授業科目の内容：

オスマン帝国における多宗教共存のシステムおよびパレスチナ問題の歴史的展開について講義します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

講義の内容に即して適宜提示します。

【07】東洋史特殊 (G)(2)(春学期)

【07】東洋史特殊 (G)(2)(秋学期)

【04】東洋史特殊 G(4)(通年)

オスマン帝国アラブ地域史詳説 教授 長谷部 史彦

授業科目の内容：

オスマン帝国治下のアラブ地域の歴史を詳説します。春学期は16世紀初頭から18世紀中葉までを対象とします。カイロ、アレppo、ダマスカス、アッカー、バイルート、エルサレム、モースル、アルジェなどアラブの大都市に注目しながら、政治経済・社会・文化に広く目配りし、要点については掘り下げ、できるだけわかりやすく説明したいと思っています。担当者のエジプト滞在の成果（法廷記録研究）やエジプト社会の現状についての話も織り交ぜながら、講義を進める予定です。秋学期は、オスマン帝国の動揺・再編状況において、アラブ社会が激動した18世紀後半から20世紀初頭までの歴史を講じます。

テキスト：

特に指定しません。講義資料のプリントをほぼ毎回配布します。

参考書：

佐藤次高編『新版世界各国史8 西アジア史1 アラブ』山川出版社、2002年

【07】東洋史特殊 (H)(2)(春学期)

【07】東洋史特殊 (H)(2)(秋学期)

【04】東洋史特殊 H(4)(通年)

唐宋時代社会史研究

講師 大澤 正昭

授業科目の内容：

唐宋時代は中国史上の一大変革期であるが、この変革の内容に関してはさまざまな議論がある。本講義では社会史の諸問題についてとりあげる。とくに農業生産力論から家族論、そして在地社会論へと議論を積みあげてゆく形をとる。社会史の新たな展望が開けることを目標とする。

参考書：

大澤著『唐宋時代の家族・婚姻・女性』（明石書店、2005年）

【07】東洋史特殊 (I)(2)(春学期)

【07】東洋史特殊 (I)(2)(秋学期)

【04】東洋史特殊 I(4)(通年)

中国古代帝国の構造 前漢末～後漢期を中心に

講師 阿部 幸信

授業科目の内容：

前漢末～後漢期を中心に、中国古代帝国の構造的特質について述べます。春学期には特に支配機構の構造の分析を、秋学期には帝国秩序の空間編成を中心に扱いますが、無論、当時の社会状況や思想面の変化といった、時代的背景も視野に含みます。史料としては、文献のみならず、簡牘・碑文・印章などの文学史料、壁画・画像石な

どの非文学史料も用います。多様な史料を扱ううえでの留意点にも言及します。

テキスト：

適宜資料を配布します。

参考書：

特に指定しません。関係する文献は授業中に随時紹介します。

【07】東洋史特殊 (J)(2)(春学期)

【07】東洋史特殊 (J)(2)(秋学期)

【04】東洋史特殊 J(4)(通年)

南アジア近現代史の諸問題 講師 中里成章

授業科目の内容：

南アジア近現代史とは、インド、バングラデシュ、パキスタン、スリランカ、ネパール等の諸国がある地域の18世紀半ば以降の歴史をいいます。この授業は、総花的な概説になるのを避け、研究上の主なテーマを分かりやすく解説し、南アジア近現代史の構造を理解してもらおうことを目標にします。

テキスト：

とくに指定しません。随時講義資料プリントを配布します。

参考書：

スミット・サルカール『新しいインド近代史 下からの歴史の試み』2巻(研文出版、1993年)

【07】東洋史特殊 (K)(2)(春学期)

【07】東洋史特殊 (K)(2)(秋学期)

【04】東洋史特殊 K(4)(通年)

中国華南宗教文化史 講師 志賀市子

授業科目の内容：

この授業では、中国華南地域の地域史という視点から、エスニックグループごとに特色ある宗教文化の歴史と現状、社会的機能や世界観、さらに他地域への伝播と土着化について解説します。対象地域は主として広東省をとりあげますが、福建、台湾、さらには広東や福建からの移民が定着した東南アジアの華人社会についても言及します。前期は宗教文化から見た華南地域の特色について概説し、後期は各地域別に道教、仏教、民間信仰を含むさまざまな事例をとりあげて解説します。

テキスト：

特に指定しません。授業中に講義資料プリントを配布します。

参考書：

授業中に紹介します。

【07】東洋史研究会 (A)(3年)(セ)(1)(春学期)

【07】東洋史研究会 (A)(3年)(セ)(1)(秋学期)

【07】東洋史研究会 (A)(4年)(セ)(1)(春学期)

【07】東洋史研究会 (A)(4年)(セ)(1)(秋学期)

【04】東洋史研究会 A(3年)(2)(通年)

【04】東洋史研究会 A(4年)(2)(通年)

休講

【07】東洋史研究会 (B)(3年)(セ)(1)(春学期)

【07】東洋史研究会 (B)(3年)(セ)(1)(秋学期)

【07】東洋史研究会 (B)(4年)(セ)(1)(春学期)

【07】東洋史研究会 (B)(4年)(セ)(1)(秋学期)

【04】東洋史研究会 B(3年)(2)(通年)

【04】東洋史研究会 B(4年)(2)(通年)

イスラーム社会史への途 教授 坂本 勉

授業科目の内容：

まず最初に共通のテキストとして生活観にあふれた社会史、文化史について扱う本を一緒に読んでいながら中東イスラーム世界についての認識を深めていきたい。これが済んだ後、出席者にそれぞれ自由課題を与え、その結果をレジュメにして発表していくという

形式で授業をすすめていくことにする。このゼミに出席する者は、まず自分が何をやるうとしているのか、徹底的に考えてほしい。そして、しかるのちにやるべき事柄にかんする周到なビブリオグラフィをつくりそれにもとづく意欲的な発表を期待する。

【07】東洋史研究会 (C)(3年)(セ)(1)(春学期)

【07】東洋史研究会 (C)(3年)(セ)(1)(秋学期)

【07】東洋史研究会 (C)(4年)(セ)(1)(春学期)

【07】東洋史研究会 (C)(4年)(セ)(1)(秋学期)

【04】東洋史研究会 C(3年)(2)(通年)

【04】東洋史研究会 C(4年)(2)(通年)

中東・アラブ社会史研究 教授 長谷部 史彦

授業科目の内容：

イスラームの歴史的形成とその多彩な社会的潮流、日々の暮らしのなかのイスラームに注目しながら、現代イスラーム世界において圧倒的な重要性を持ち続けるアラブ諸地域を中心に、中東の社会・政治・文化について考えます。変貌著しいアラブ社会に揉まれてきた講義担当者の滞在経験なども少々語りつつ、「イスラーム」や「民族」をめぐる固定的イメージ、非歴史的な理解に揺さぶりをかけることを目標のひとつとします。また、卒業論文の作成に向け、研究技法の面についても、講義や話し合いのなかで徐々に理解を深めていきます。春学期の途中から、現代と前近代を扱う下記の文献から重要な章節を抜き出し、少しずつ講読し、討論を試みるつもりですが、これについては春学期のはじめに参加者と相談のうえ決定します。秋学期は卒業論文の作成に向けて研究発表や質疑応答に多くの時間を割く予定です。以上のように、今年度は中東理解の鍵となるイスラームの社会史的考察に力点を置く予定ですが、異文化・異宗教間の交流と葛藤、中東のマイノリティ(キリスト教徒、ユダヤ教徒等)など中東・イスラーム世界史の他のテーマに興味を持つ諸君の参加も歓迎します。

テキスト：

・ Dale F. Eickelman & James Piscatori, Muslim Politics, Princeton, N. J.: Princeton University Press, 1996

・ Jonathan P. Berkey, The Formation of Islam: Religion and Society in the Near East, 600-1800, Cambridge: Cambridge University Press, 2003

【07】東洋史研究会 (D)(3年)(セ)(1)(春学期)

【07】東洋史研究会 (D)(3年)(セ)(1)(秋学期)

【07】東洋史研究会 (D)(4年)(セ)(1)(春学期)

【07】東洋史研究会 (D)(4年)(セ)(1)(秋学期)

【04】東洋史研究会 D(3年)(2)(通年)

【04】東洋史研究会 D(4年)(2)(通年)

中国近現代史の諸問題 講師 山本 真

教授 桐本 東太

授業科目の内容：

中国近現代史の諸問題についての先行研究の検討

受講者が関心をもつテーマでの研究報告

卒論に関する指導

テキスト：

受講者と相談して決めます

- 【07】東洋史研究会 (E)(3年)(セ)(1)(春学期)
- 【07】東洋史研究会 (E)(3年)(セ)(1)(秋学期)
- 【07】東洋史研究会 (E)(4年)(セ)(1)(春学期)
- 【07】東洋史研究会 (E)(4年)(セ)(1)(秋学期)
- 【04】東洋史研究会 E(3年)(2)(通年)
- 【04】東洋史研究会 E(4年)(2)(通年)

中国人ならびにアジア人の国際移動

教授 吉原和男

授業科目の内容：

- (1) アジアにおける、あるいはアジアから他地域への国際人口移動の歴史人類学的研究を行う。中国人だけではなく、日本人および日系人、韓国人、東南アジアの人々、インド人なども視野にいれて比較研究する。移民の故郷、移民に関する法制、プロセス、適応と文化変容、エスニシティなどについて総合的に考える。たとえば、グローバリゼーション、トランスナショナリズム、華僑華人、チャイナタウン、移民の宗教、外国人労働者、難民などがキーワードである。
- (2) 中国の近・現代史において中国人の国際移動と関連する事象の研究
- (3) 北米、ヨーロッパ、東南アジア、オーストラリアそして日本などにおける中国系以外のアジア移民の研究。

テキスト：

未定

参考書：

- ・岩波講座文化人類学第7巻『移動の民族誌』岩波書店、1996年
- ・岩波講座世界歴史第19巻『移動と移民』岩波書店、1999年
- ・五十嵐武士編『アメリカの多民族体制』東京大学出版会、2000年
- ・吉原ほか編『血縁の再構築：東アジアにおける父系出自と同姓結合』風響社、2000年
- ・吉原ほか編『アジア移民のエスニシティと宗教』風響社、2001年
- ・吉原ほか編『拡大する中国世界と文化創造』弘文堂、2002年

- 【07】東洋史研究会 (F)(3年)(セ)(1)(春学期)
- 【07】東洋史研究会 (F)(3年)(セ)(1)(秋学期)
- 【07】東洋史研究会 (F)(4年)(セ)(1)(春学期)
- 【07】東洋史研究会 (F)(4年)(セ)(1)(秋学期)
- 【04】東洋史研究会 F(3年)(2)(通年)
- 【04】東洋史研究会 F(4年)(2)(通年)

中国古代史の諸問題

教授 桐本東太

授業科目の内容：

中国古代史で卒論を書きたいと思っている人の研究会。特定のテキストを選んで講読したり、学生諸君に発表してもらったりしながら授業を進めたい。

テキスト：

なし

参考書：

適宜指示する

選 択 科 目

- 【07】東洋史演習 (A)(セ)(1)(春学期)
- 【07】東洋史演習 (A)(セ)(1)(秋学期)
- 【04】東洋史演習 A(2)(通年)

地中海世界における異文化交流 オスマン朝期を中心に

講師 宮武志郎

授業科目の内容：

地中海世界は常に様々な文化の邂逅と融合の歴史を繰り返してきた。その様子をイスラーム、ユダヤ、キリストという三つの文明の観点から、主要な文献を読み解説を加えながら理解することを目的

とする。また、現代の国際情勢の変化に関連する歴史的考察も適宜行う予定である。

テキスト：

適宜プリントとして配布する。

参考書：

授業中に指示する。

- 【07】東洋史演習 (B)(セ)(1)(春学期)

- 【07】東洋史演習 (B)(セ)(1)(秋学期)

- 【04】東洋史演習 B(2)(通年)

アラブ史史料講読入門

講師 高橋 圭

授業科目の内容：

アラビア語初級文法の学習を一応終了した人を対象として、アラビア語史料をはじめとした、アラブ史に関する史料の読解に向けた基礎的なトレーニングをおこなう。アラビア語の学習を始めたばかりであっても、積極的に講義に参加する意欲があれば歓迎する。また、アラブ史史料の性格、史料の調査・収集の方法などについても適宜解説する。

テキスト：

適宜プリントを配布する

参考書：

授業中に紹介する

- 【07】東洋史演習 (C)(セ)(1)(春学期)

- 【07】東洋史演習 (C)(セ)(1)(秋学期)

- 【04】東洋史演習 C(2)(通年)

『史記』孝武本紀の講読

教授 桐本東太

授業科目の内容：

漢の武帝は一般に、匈奴征討などで知られた皇帝であるが、彼には知られざるもう一つの「顔」があった。それは錬金術や不老不死の「まぼろし」を追い求めてやまない、秦の始皇帝にも似た「顔」である。本講では孝武本紀の講読を通してそうした武帝の素顔の一面に迫ってみたい。

テキスト：

『史記』孝武本紀(コピーを配布する)

参考書：

適宜指示する。

西洋史学専攻

必修科目

【07】史学概論 (2)(春学期)

【07】史学概論 (2)(秋学期)

【04】史学概論(4)(通年)

[春] 経済学部 教授 矢野 久

[通年] 教授 神田 順司

授業科目の内容：

歴史の「事実」とは何か。それは揺るぎなき真実として発見されるのか、それとも歴史家の解釈によって作られるのか。もし歴史が歴史家によって作られるとすれば、その「事実」認識の客観性はいったいどこに求められるのか。そして実証研究はどのような意味を持つのか。歴史の個別研究から一步退いて、歴史がどのように認識されるのかを考えてみる時、われわれは様々な理論的な問題に直面する。本講義では、そのような歴史学における認識論の諸問題を取り上げ、それらを実証研究との連関において考察する。

本年度は「アウシュヴィッツと事実認定の問題」を中心に現代社会史(ナチス研究)の立場から矢野が歴史認識をめぐる問題提起をおこない、それを受けて神田が歴史の認識論と客観性の問題について論ずる。

テキスト：

E. H. カー、『歴史とは何か』岩波新書

参考書：

授業の中で指示する。

【07】西洋史学原典講読 (セ)(1)(春学期)

【07】西洋史学原典講読 (セ)(1)(秋学期)

【04】西洋史学原典講読(2)(通年)

アメリカ英語で書かれた二次的研究文献のリーディング・セミナー

教授 大森 雄太郎

授業科目の内容：

Jack P. Greene, *Negotiated Authorities; Essays in Colonial Political and Constitutional History* (Charlottesville and London: University of Virginia Press, 1994) の中から、いくつかの論文を選んで読みます。本書はイギリス領植民地期北米アメリカ史(17・18世紀の初期アメリカ史)の碩学であるジャック・グリーンが、長年にわたって発表してきた多数の論文の中から、影響力の強い論文を選んで3冊の論文集にまとめたうちの1冊です。「原典講読」では、多くの人の関心にとつて公平であるように、概説書ないし総合研究をテキストとすることが多いようです。しかし担当者(大森)は、無味乾燥な概説書ではなく、むしろあえて個別的な問題を扱った文献を用いることで、英語(この場合はアメリカ語)で展開される論理をたどる訓練を行った方が、学生諸君の将来の役に立つと考えております。本書の研究対象はたまたま初期アメリカ史です。しかし授業の目的は、ジャック・グリーンの明晰な論理展開を追跡することを通じて、英語で書かれた歴史のモノグラフを独力で読むための基礎を作ることにあります。ほとんどの学生諸君は初期アメリカ史についての知識がないと思います。実際、初期アメリカ史は日本の教育では全く無視されています。従って、読解に必要な歴史的内容については、そのつど担当者が説明します。

なお、リーディングの技術としては、高校英文解釈的なセンテンス読みから、パラグラフ全体を最小単位とするパラグラフ読みへの転換を目指します。最初の4時間ほどで、そのための特殊な訓練を行います。

出欠はとりません。本来なすべきことの外見だけで何らかの成績が保障されるのは、合理的でないと考えるからです。各学期末にテストを行い、テスト結果のみで成績評価を行います。テストは採点后参加メンバーに必ず返却し、採点に疑問のある場合は担当者にク

レームをつけることができるようにします。クレームを無視して学事センターに成績を提出することはしません。

本書のうちテキストとして用いる論文は、担当者がゼロックス・コピーを作って配布します。特に本書の内容に関心のある人は、ペーパーバック版が\$ 24.50 で入手可能なので、個人で購入して下さい。

テキスト：

上記。第一週の授業時間に配布します。

参考書：

アメリカ革命以前のイギリス領植民地期北米アメリカ史について、留保条件を付けずに読むことを薦められる日本語の文献は、まだ書かれていません。上記のように、歴史的知識の欠落部分については、担当者が授業で説明します。但し、初期アメリカ史を理解するためには、17・18世紀イギリス史の基礎的知識が必要です。その意味で、川北稔編『イギリス史』(山川出版社、新版世界各国史11、1998年、¥3500)を事前に読んでおいて下さい。

【07】西洋史学原典講読 (セ)(1)(春学期)

【07】西洋史学原典講読 (セ)(1)(秋学期)

【04】西洋史学原典講読(2)(通年) 教授 清水 祐司

授業科目の内容：

西洋史研究に不可欠な洋書の読み方を指導する授業です。テキストの講読を通じて、辞書、辞典、事典などの使い方に慣れ、洋書を理解するためには語学力はもとより、その洋書に直接、間接に関わる十分な知識(場合によっては学説史に関わる知識も含みます)がなければ読みこなせないことを認識してもらうことが目標です。

テキスト：

M. Ashley, *England in Seventeenth Century*, new edition, London, 1978.

参考書：

授業中に適宜紹介します。

【07】西洋史学原典講読 (セ)(1)(春学期)

【07】西洋史学原典講読 (セ)(1)(秋学期)

【04】西洋史学原典講読(2)(通年) 教授 吉 武 憲 司

授業科目の内容：

Robin Frame, *The Political Development of the British Isles 1100-1400* (Oxford, 1990)

参考書：

- ・ロバート・パートレット『ヨーロッパの形成 950年～1350年における征服、植民、文化受容』(法政大学出版局2003年)
- ・エドモンド・キング『中世のイギリス』(慶応義塾大学出版会2006年)

【07】西洋史演習 (伊)(セ)(1)(春学期)

【07】西洋史演習 (伊)(セ)(1)(秋学期)

【04】西洋史演習(伊)(2)(通年) 講師 三 森 のぞみ

授業科目の内容：

中世・ルネサンス期のイタリア史に関する文献を講読します。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

授業中に適宜紹介します。

【07】西洋史演習 (西)(セ)(1)(春学期)

【07】西洋史演習 (西)(セ)(1)(秋学期)

【04】西洋史演習(西)(2)(通年)

スペイン近現代史の史料を読む 准教授 山 道 佳 子

授業科目の内容：

19世紀初頭の社会風俗や政治事件を描写した文学作品であるブランコ・ホワイト著『スペインからの手紙』を読んでいきます。史料を読むことを通じて、実際にスペイン語の史料を使ってスペイン史

の勉強ができるようになるための基礎的な訓練を行います。なお、履修者の希望によっては、秋学期に別の史料をとりあげることも可能です。

テキスト：

プリントを配布する。なお各自が使用している辞書を毎回持参すること。

参考書：

授業中に指示する。

【07】西洋史演習 (独)(セ)(1)(春学期)

【07】西洋史演習 (独)(セ)(1)(秋学期)

【04】西洋史演習(独)(2)(通年)

[春]講師 針谷 寛

[秋]教授 神田 順司

授業科目の内容：

以下のテキストの講読を通じてドイツにおける保守主義の成立を啓蒙と自由主義との関係において学ぶ。

テキスト：

Valjavec, Fritz, *Die Entstehung der politischen Strömungen in Deutschland 1770-1815*, Kronberg/Ts., Düsseldorf 1978.

【07】西洋史演習 (仏)(セ)(1)(春学期)

【07】西洋史演習 (仏)(セ)(1)(秋学期)

【04】西洋史演習(仏)(2)(通年)

フランス語文献講読 教授 藤田 苑子

授業科目の内容：

フランスのアンシャン・レジーム社会にかんする基礎的な知識を得ることを目的として、専門の文献を講読します。

テキスト：

コピーを配布します。

参考書：

辞書を指定します。大修館『新スタンダード仏和辞典』

【07】西洋史演習 (露)(セ)(1)(春学期)

【07】西洋史演習 (露)(セ)(1)(秋学期)

【04】西洋史演習(露)(2)(通年)

ロシア史に関するロシア語文献の講読
講師 田辺 三千広

授業科目の内容：

ロシア史に関するロシア語文献の講読を行います。今年度は、
(古代からのロシア史)をテキストとして使用
します。

【07】西洋史概説 (2)(春学期)

【07】西洋史概説 (2)(秋学期)

【04】西洋史概説 (4)(通年)

[春]古代ローマ帝国の形成

[秋]中世ヨーロッパ世界の形成 教授 吉 武 憲 司

授業科目の内容：

春学期は、古代ローマの歴史を、紀元前6世紀末の共和政の成立から紀元前1世紀末の帝政の成立までの時代を概観します。その際、ローマが拡大するにともない、変化・発展していく国制を中心に考察します。

秋学期は、古代ローマ帝国の衰退・変容の時代の後ヨーロッパ世界が形成される過程を、11・12世紀ころの封建社会の形成あたりまで概観します。

参考書：

・服部良久他編著『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』(ミネルヴァ書房2006年)

・古川正人他編『西洋古代史料集』(東京大学出版会1987年)

・ヨーロッパ中世史研究会編『西洋中世史料集』(東京大学出版会2000年)

【07】西洋史概説 (2)(春学期)

【07】西洋史概説 (2)(秋学期)

【04】西洋史概説 (4)(通年) 教授 清 水 祐 司

授業科目の内容：

ヨーロッパ近代前期についての認識を深めることが本講義の目標です。ただし、諸事件を時系列に従って述べることはしません。下記の「授業の計画」に示しているように、この時期の理解にとって重要と思われるいくつかの項目について講義します。

テキスト：

今井宏『世界の歴史、絶対君主の時代』(河出文庫)

参考書：

授業中に項目ごとの文献リストを配布します。

【07】西洋史概説 (2)(春学期)

【07】西洋史概説 (2)(秋学期)

【04】西洋史概説 (4)(通年)

ヨーロッパ近代を考える 准教授 山 道 佳 子

授業科目の内容：

18世紀後半の啓蒙主義改革から20世紀の全体主義の勃興までのヨーロッパ近現代史を概観します。各学期に3つから4つ程度のテーマを設定し、それぞれのテーマに関して、1)テーマの概観および近年の歴史研究で注目されている視点や研究方法の紹介 2)そのテーマに関する必読文献の解説 3)担当者の専門であるスペイン史/政治文化史からの事例の紹介 という順で授業を展開していきます。

これらの全体を通して、ヨーロッパにとって近代とは何か(春学期)、近代化の矛盾を受けて歴史はどのように展開したか(秋学期)を考え、理解することを目標とします。

テキスト：

指定しない。講義資料はプリントを配布。

参考書：

授業の中で紹介する。

【07】西洋史特殊 (A)(2)(春学期)

【07】西洋史特殊 (A)(2)(秋学期)

【04】西洋史特殊 A(4)(通年)

1920年代の欧米諸国 講師 原 信 芳

授業科目の内容：

第一次世界大戦とロシア革命によって、古き良きヨーロッパは終わりを告げる。1920年代には、大量生産と大量消費によって特徴づけられる大衆社会状況が進行した。その影響は政治、経済、文化あらゆる面に及んだ。その意味で1920年代は、現代史の出発点と言える。本講義は20年代のアメリカ合衆国と西ヨーロッパ諸国を取り上げ、現代史の意味を考えることを目的としている。具体的講義内容は、国際経済にまで言及するので、西洋史概説的知識はあらかじめ持っていてほしい。

テキスト：

一冊のテキストにしぼりません。講義の進行に応じて、その都度、参考文献を指示します。とりあえず概説的なものとして、木村靖二『世界大戦と現代文化の開幕』(中央公論社)を上げておきます。

参考書：

・岩田規久男『インフレとデフレ』(講談社現代新書)

・E. H. カー『危機の二十年』(岩波現代文庫)

【07】西洋史特殊 (B)(2)(春学期)

【07】西洋史特殊 (B)(2)(秋学期)

【04】西洋史特殊 B(4)(通年)

フランス、アンシアン・レジーム社会入門

[春]教授 藤田 苑子

[秋]准教授 山道 佳子

【春学期】

授業科目の内容：

17～18世紀のフランス社会にかんする基礎知識を学ぶことを目的とします。

テキスト：

とくになし

参考書：

・世界歴史大系『フランス史2』山川出版社

・グベール『歴史人口学序説』岩波書店

・ルブラン『アンシアン・レジームの結婚生活』慶応大学出版会

【秋学期】

授業科目の内容：

18世紀から20世紀前半までのスペイン近現代史を概観します。スペインの歴史や文化を専門的に勉強したいと考える人に基礎的な知識を提供することを目的としていますが、スペインという一つの国の事例を通してヨーロッパ史を考えたいという履修生にも役立つよう、配慮します。履修者の希望により、授業内容を一部変更する場合があります。

テキスト：

使用する場合には初回の授業で指示する。

参考書：

授業の中で紹介する。

【07】西洋史特殊 (C)(2)(春学期)

【07】西洋史特殊 (C)(2)(秋学期)

【04】西洋史特殊 C(4)(通年)

イタリアの宮廷社会

講師 北田 葉子

授業科目の内容：

近世フィレンツェの宮廷を中心に、宮廷の役職やその機能、宮廷役職者の出自、宮廷役職者の教育、宮廷儀礼、宮廷における食文化など、イタリアの宮廷社会をさまざまな側面から見て行きます。本講座を通して、宮廷が単なる奢侈を消費する機関ではなく、国の中心としてさまざまな重要な役割を担っていたことを理解したうえで、イタリア、とくにフィレンツェの宮廷の特殊性についても学ぶことが本講義の目標です。

テキスト：

なし。講義の際、資料プリントを配布します

【07】西洋史特殊 (D)(2)(春学期)

【07】西洋史特殊 (D)(2)(秋学期)

【04】西洋史特殊 D(4)(通年)

東欧とロシアの宗教と社会

講師 黒川 知文

授業科目の内容：

東欧、特にロシアの宗教と社会について歴史的に考察する。

春学期には、東欧とロシアのユダヤ史について、秋学期にはロシア正教史について扱う。歴史映画や記録フィルムも上映する。

テキスト：

・拙著『ロシア社会とユダヤ人』(ヨルダン社、2003年)春学期

・拙著『ロシア・キリスト教史』(教文館、1999年)秋学期

参考書：

拙著『ユダヤ人迫害史』(教文館、1997年)春学期

【07】西洋史特殊 (E)(2)(春学期)

【07】西洋史特殊 (E)(2)(秋学期)

【04】西洋史特殊 E(4)(通年)

1次史料のリーディングに基づくアメリカ革命論。

教授 大森 雄太郎

授業科目の内容：

アメリカ革命期に出版された新聞やパンフレットなど1次史料を読むことで、アメリカ革命とは何であったかを考えてゆきます。但し、やみくもに史料を読むわけにはいきません。そこで、恐れながら拙著『アメリカ革命とジョン・ロック』(慶應義塾大学出版会、2005年、¥4800)の論理展開に従って、同書が論証に用いている重要な史料をとりあげて丁寧に読んでゆきます。西洋史専攻の学部の授業では1次史料にふれる機会が少ないので、史料を読むことで実際の歴史の「感触」を得ることを、授業の副次的目的とします。18世紀英語を読むためには、かなり確実な英語読解力を必要とします。また、史料が新聞やパンフレットなどの活字メディアではあっても、印刷が非常にわるいので、文脈に合わせて語を類推する想像力も必要です。確実な英語読解力があって、アメリカ革命期の雰囲気の中に飛び込んでみたい人が履修して下さい。

出欠はとりません。本来なすべきことの外見だけで何らかの成績が保障されるのは、合理的でないと考えからず。各学期末に実際に史料を読むことができるか否かを試すテストを行い、テスト結果のみで成績評価を行います。テストは採点后参加メンバーに必ず返却し、採点に疑問のある場合は担当者(大森)にクレームをつけることができるようにします。クレームを無視して学事センターに成績を提出することはしません。

テキスト：

読むべき史料は担当者(大森)が毎回用意してハンドアウトします。慣れてくれば参加メンバーが図書館3階マイクロフィルム・セクションに行き、自力で指定史料をコピーできるようにしたいと考えております。『アメリカ革命とジョン・ロック』のほうは必ず事前に読んでおいて下さい。学部学生でも容易に読むことができるように、平明な日本語で書いたつもりです。

参考書：

E・S・モーガン『合衆国の誕生』三崎敬之訳(南雲堂、1976年)、原著、E. S. Morgan, *The Birth of the Republic, 1763-89* (Chicago and London: the University of Chicago Press, 1956)。同書はアメリカ革命の概説書として、今までに書かれた最良の1冊です。日本語訳のほうは絶版です。図書館を利用して下さい。但し、日本語訳は「翻訳調」で原著の平明な名文が生かされていません。原著のほうは古典的名著として、いまだにペーパーバック版で入手可能です。できれば原著を事前に読んでおいて下さい。

【07】西洋史特殊 (F)(2)(春学期)

【07】西洋史特殊 (F)(2)(秋学期)

【04】西洋史特殊 F(4)(通年)

近代フランスの教育と社会

講師 前田 更子

授業科目の内容：

人間形成にかかわる教育という領域は、あるべき社会像を模索する近代国民国家の指導者たちの理念・思想がもっとも端的に反映される場のひとつであった。政治的指導者たちはどのような社会や国家の創設をめざし、一方で、現代の社会に生きる人々は学校教育制度をどのように受容していったのか。フランス革命後の学校教育をめぐる諸問題を通して近代フランス社会に関する理解を深めることを目的とします。

テキスト：

テキストはありません。

参考書：

講義の進行にあわせて、随時、提示します。

【07】西洋史特殊 (G)(2)(春学期)

【07】西洋史特殊 (G)(2)(秋学期)

【04】西洋史特殊 G(4)(通年)

中世盛期・後期における情報文化 講師 赤江 雄一

授業科目の内容：

本授業は、12世紀から15世紀にかけての中世ヨーロッパ世界を情報文化とコミュニケーションという角度から考察する。

前期は、映画などを使い、中世の人々がどのようにコミュニケーションをおこなっていたのかについての具体的なイメージを共有しつつ、中世における教会および修道院のありかた、身振りと言語、読書と学問の変化、文書作成などについての基本的知識を概説しつつ、中世の情報文化への導入を行う。

後期は、前期の知識を踏まえて、13世紀から15世紀の托鉢修道会の説教を中心的なトピックとして取り上げ、さらに具体的に情報文化の問題を考察する。フランススコ会・ドミニコ会を代表とする托鉢修道会は、パリ大学を頂点とし地方の末端の修道院を底辺とする教育システムの整備、説教者を支援する様々なジャンルの著作の著述・大量筆写、多数の訓練された説教者の養成を通じて、言説の均質的大量流布を可能にしていた。この意味で、説教は15世紀中葉における活版印刷術導入に先立つ中世のマス・メディアだった。これを修道院文化、読書、写本の作成・筆写、図書館、説教執筆形式、ラテン語と俗語、声と文字、聞くことと理解、印刷術との関連など様々な側面から検討していく。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

必要に応じて講義の際に指示する。

【07】西洋史特殊 (H)(2)(春学期)

【07】西洋史特殊 (H)(2)(秋学期)

【04】西洋史特殊 H(4)(通年)

アメリカ合衆国史におけるヴィジランティズム

講師 綾 辺 昌 朋

授業科目の内容：

Richard Maxwell Brown, *Strain of Violence: Historical Studies of American Violence and Vigilantism* (New York: Oxford University Press, 1975) をテキストとして読みながら、アメリカ史の伝統の一つであるヴィジランティズム (vigilantism) について考えてゆきます。ヴィジランティズムは定義の困難な概念ですが、授業では暫定的に大まかな定義をしてできる限り多くの興味深い事例 (主に19世紀～20世紀初め) を取り扱いたいと考えています。

テキスト：

上記。インターネットで新品を購入できますが値段が高いので図書館で必要な部分 (179ページまで) をコピーするとよいでしょう。

【07】西洋史特殊 (I)(2)(春学期)

【07】西洋史特殊 (I)(2)(秋学期)

【04】西洋史特殊 I(4)(通年)

東欧史

講師 川 名 隆 史

授業科目の内容：

ポーランドを中心に、東欧の歴史から興味深い (と思われる) 様々なトピックを拾い出して解説して行きます。東欧は西欧の辺境でもなければ、得体のしれない異界でもありません。東と西の世界が様々な形で交流し合い、混淆して出来上がった独特の雰囲気を持った世界です。本講義では、宗教、民族、政治、その他多様な観点から、この東欧の歴史をひも解いてゆくつもりです。

テキスト：

特定のテキストは使用しません。最低限必要な材料は、配布するか Web 上に公開します。

参考書：

基本的に東欧に関する書物はすべて参考書と考えてください。その他必要があれば講義中に示します。

【07】西洋史特殊 (J)(2)(春学期)

【07】西洋史特殊 (J)(2)(秋学期)

【04】西洋史特殊 J(4)(通年)

ピエティズムスにおける 自意識 の覚醒

講師 森 涼 子

授業科目の内容：

17世紀末ドイツは、三十年戦争の混乱から絶対主義による規律化された社会への移行期にあたる。この転換期、個の敬虔を主張する新宗教運動ピエティズムスがおこってきた。ここで掲げられた敬虔とは非歴史的な宗教理念だったのではなく、危機の時代を生き抜くためのきわめて現実的な処世術だった。その処世術の中核となったのが私という主体である。本講義では、ピエティストたちの自意識がピエティズムス運動のなかでどのように見いだされ、成長していくのか、またその背景にはどのような時代体験があったのかを、一次史料に即して明らかにしていきたい。

テキスト：

特に指定しない。史料を順次配布する。

参考書：

授業中に挙げる

【07】西洋史研究会 (A)(3年)(セ)(1)(春学期)

【07】西洋史研究会 (A)(3年)(セ)(1)(秋学期)

【07】西洋史研究会 (A)(4年)(セ)(1)(春学期)

【07】西洋史研究会 (A)(4年)(セ)(1)(秋学期)

【04】西洋史研究会 (A)(3年)(2)(通年)

【04】西洋史研究会 (A)(4年)(2)(通年)

休講

【07】西洋史研究会 (B)(3年)(セ)(1)(春学期)

【07】西洋史研究会 (B)(3年)(セ)(1)(秋学期)

【04】西洋史研究会 (B)(3年)(2)(通年)

教授 清 水 祐 司

授業科目の内容：

おもに近世以降のイギリス史からテーマを選んで卒業論文を書く学生の指導が目的です。

テキスト：

最初の授業で複数の文献を指定します。

参考書：

授業中に適時紹介します。

【07】西洋史研究会 (C)(3年)(セ)(1)(春学期)

【07】西洋史研究会 (C)(3年)(セ)(1)(秋学期)

【07】西洋史研究会 (C)(4年)(セ)(1)(春学期)

【07】西洋史研究会 (C)(4年)(セ)(1)(秋学期)

【04】西洋史研究会 (C)(3年)(2)(通年)

【04】西洋史研究会 (C)(4年)(2)(通年)

教授 神 崎 忠 昭

授業科目の内容：

よりよい卒業論文が書けることを目的にします。3年生には、テーマを絞って、文献検索のイロハを習い、「読むこと」を学び、発表することを経験してもらいます。それらを基礎にして、4年生には卒業論文を仕上げてもらいます。「青春のモニュメント」になるような卒業論文を期待しています。

- 【07】西洋史研究会 (D)(3年)(セ)(1)(春学期)
 【07】西洋史研究会 (D)(3年)(セ)(1)(秋学期)
 【07】西洋史研究会 (D)(4年)(セ)(1)(春学期)
 【07】西洋史研究会 (D)(4年)(セ)(1)(秋学期)
 【04】西洋史研究会 (D)(3年)(2)(通年)
 【04】西洋史研究会 (D)(4年)(2)(通年)

教授 藤田 苑子

授業科目の内容：

日本語および英語あるいはフランス語の文献や論文を読むかわら、各自が卒論の準備をします。執筆の進捗状況に応じて、数回の報告をします。

テキスト：

そのつど指定します。

- 【07】西洋史研究会 (E)(3年)(セ)(1)(春学期)
 【07】西洋史研究会 (E)(3年)(セ)(1)(秋学期)
 【07】西洋史研究会 (E)(4年)(セ)(1)(春学期)
 【07】西洋史研究会 (E)(4年)(セ)(1)(秋学期)
 【04】西洋史研究会 (E)(3年)(2)(通年)
 【04】西洋史研究会 (E)(4年)(2)(通年)

教授 吉武 憲司

授業科目の内容：

授業中に中世史に関する英語の論文を講読しつつ、卒業論文作成のための指導をおこないます。

- 【07】西洋史研究会 (F)(3年)(セ)(1)(春学期)
 【07】西洋史研究会 (F)(3年)(セ)(1)(秋学期)
 【07】西洋史研究会 (F)(4年)(セ)(1)(春学期)
 【07】西洋史研究会 (F)(4年)(セ)(1)(秋学期)
 【04】西洋史研究会 (F)(3年)(2)(通年)
 【04】西洋史研究会 (F)(4年)(2)(通年)

北米アメリカ史を中心とするリサーチ・セミナー

教授 大森 雄太郎

授業科目の内容：

北米アメリカ史を中心とする、西洋史学専攻・学部上級のリサーチ・セミナーです。セミナー・マネージメントは下記のとおりです。

1)徹底的にリサーチ・セミナーであって、いわゆる「文献講読」は行いません。ゼミから「文献講読」的な要素を完全に排除します。この点が他のゼミとは違っているので注意して下さい。なお、いわゆる「サブゼミ」も行いません。

2)メンバー各自が自分の扱う問題(テーマ)で書いて来るペーパーと、そのペーパーについてのディスカッションによって、セミナーの時間が成り立ちます。各自が自分に固有の勉強を持つことと、ディスカッションでの発言を通じて、他のメンバーの勉強にも貢献することが要求されます。他のメンバーのペーパーを事前に読んでいることを前提に、セミナーはいきなりディスカッションから始まります。

3)(2)のペーパーを書くための下作業として、3年生には各自の扱う問題での文献リストの提出を義務づけます。3年生の1月に、このリストに基づいて個別の口頭試験を行います。

4)(2)のディスカッションを支える方策として、他のメンバーのペーパーに対するコメントの提出を義務づけます。この点での最低限の義務は、全ペーパーの約四分の一程度に対してコメントを書く事です。コメントは事前にペーパー著者と大森を含むメンバー全員に送ることになっております。Eメールを利用します。

5)成績評価基準は前もって大森が示します。この点は完全にガラス張りです。従って、成績はメンバー各自が選び取るものになります(その意味では鏡張り)。更に、学事センターに成績を提出する前に、成績評価案をメンバーに示して、クレームを受け付けます。クレームが正当であれば、成績が変わります。なお、出欠はとりませ

ん。本来なすべきことの外見だけで、なんらかの成績が保障されるのは合理的ではないと考えるからです。

テキスト：

ありません。

参考書：

一定のものはありません。

- 【07】西洋史研究会 (G)(3年)(セ)(1)(春学期)
 【07】西洋史研究会 (G)(3年)(セ)(1)(秋学期)
 【07】西洋史研究会 (G)(4年)(セ)(1)(春学期)
 【07】西洋史研究会 (G)(4年)(セ)(1)(秋学期)
 【04】西洋史研究会 (G)(3年)(2)(通年)
 【04】西洋史研究会 (G)(4年)(2)(通年)

近世ヨーロッパ政治文化史(スペインと周辺諸国)

准教授 山道 佳子

授業科目の内容：

春学期には近代ヨーロッパ政治文化史を学ぶ上での基本文献の講読を行います。

秋学期には各自の卒論のテーマ決定に向けて、個別テーマによる報告とそれをもとにした議論を中心に進めます。

なお、4年生には適宜卒論にむけての研究経過をゼミで発表してもらう他、時間外に個別指導を行います。

テキスト：

開講時に履修者と相談の上決定する

参考書：

授業中に指示する

民族学考古学専攻

必修科目

【07】史学概論 (2)(春学期)

【07】史学概論 (2)(秋学期)

【04】史学概論(4)(通年)

[春] 経済学部 教授 矢野 久

[通年] 教授 神田 順司

西洋史学専攻参照

【07】民族学考古学原典講読 (要)(2)(春学期)

【07】民族学考古学原典講読 (要)(2)(秋学期)

【04】民族学考古学原典講読(2)(通年)

[春] 教授 杉本 智俊

[秋] 准教授 佐藤 孝雄

授業科目の内容:

民族学・考古学に関する英文文献を講読する。春学期はオリエンテーション考古学に関する概説書、秋学期には第四紀学や環境考古学に関する入門書をテキストとし、学術的な英文の読解力向上を図り、考古学と関連諸科学の基本用語を日英両語で習得することを目指す。履修者全員が毎回の分を読んだ上で授業に臨んでもらう。予習に際しては、英和辞典のみならず、考古学事典や、地形学、生物学、生態学など関連諸学の事典にも当て内容の把握に努めて欲しい。

テキスト:

初回の講義時に指示する。

参考書:

講義中に随時指示する。

【07】民族学考古学研究法 (セ)(1)(春学期)

【07】民族学考古学研究法 (セ)(1)(秋学期)

【04】民族学考古学研究法(4)(通年)

[春] 准教授 山口 徹

[秋] 准教授 安藤 広道

授業科目の内容:

【春学期】(山口担当)

文化研究におけるフィールドワークの方法論はB.マリノフスキーにはじまる。現地に長期間滞在し、そこに生きる人々の生活に密着しながら調査を進める参与観察法である。ところが、歴史学のフィールドは、ものごとが起きるまさにその現場ではない。遺跡や遺物といった過去の文化を対象とする考古学は、その痕跡を残した過去の人々との直接的なコミュニケーションを望めないものである。それゆえに、ケンブリッジ大学の高名な考古学者I.ホダーは、「移植ゴテのひとかきから我われの解釈が始まる」と注意をうながす。考古学のフィールドワークに従事するものは、独断的な解釈に陥らないよう文化人類学以上に注意を払わなければならないということだ。

そのためには、発掘現場だけでなく、その現場を取り囲む広い範囲に足を運び、地形や動植物相の観察、古環境を復元するための自然科学的分析、史料の活用、現在そこに生きる人びととの対話を通して、さまざまな情報を蓄積していかねばならない。こうして初めて、自らの研究対象を解釈するための「分厚いコンテキスト」が手に入るのである。本講座では、そのプラクティスとして、三田キャンパス空間を対象にした観察と対話の調査を実施し、歴史学のためのフィールドワーク方法論を受講生とともに構築していきたい。また塾内外で活躍する多様な分野の「フィールドワーカーたち」を招聘し、その力仕事をうかがう回を設ける予定である。

テキスト:

使用しない。

参考書:

適宜、紹介する。

【秋学期】(安藤担当)

授業科目の内容:

考古学・民族学のフィールドワークで得られた、記録や資料(遺物など)は、研究室で整理、分析が行われる。秋学期は、民族学考古学研究室に保管されている考古学資料を用い、発掘調査によって収集された考古学資料の整理・分析の方法を学んでもらう。実物の考古学資料を自ら手に取って、接合・復元から、観察記録や実測図の作成、写真撮影までを行い、その成果を、民族学考古学展示室における展示や図録にまとめる。

参考書:

・鈴木公雄 1988『考古学入門』東京大学出版会

・鈴木公雄 2005『考古学はどんな学問か』東京大学出版会

【07】民族学考古学研究法 (セ)(1)(春学期)

【07】民族学考古学研究法 (セ)(1)(秋学期)

【04】民族学考古学実習(2)(通年) 准教授 安藤 広道

准教授 佐藤 孝雄

准教授 山口 徹

授業科目の内容:

【07】民族学考古学研究法 (セ)(1)(春学期)・(セ)(1)(秋学期)、【04】民族学考古学研究法(4)(通年)と同じ

【07】民族学考古学特殊 (2)(春学期)

【07】民族学考古学特殊 (2)(秋学期)

【04】民族学考古学特殊 A(4)(通年)

講師 小宮 孟

授業科目の内容:

最終氷期末から後氷期にかけての急激な気候変動は、地形や海流、気流、動植物相などに大きな影響を及ぼした。現在までに明らか証拠によれば、完新世初頭の中緯度地域で暮らす人類の多くは、食料調達のために移動をくり返す狩猟採集から栽培植物や家畜をもつ生活に移行し、沿岸部では水産資源を開発することで新しい環境に適応したと考えられている。この時期、日本列島に住んだ人々は広葉樹を中心とする森林生態系に適応したと考えられ、縄文時代早期中葉には貝塚がつくられ、家畜としてのイヌが登場する。しかし、当時の人々の生活の実像はまだ不明な点が多い。講義では、縄文時代の遺跡から発掘採集した動物遺存体をもつ情報性に注目し、そこから復元しうる縄文人の生活について考えてみたい。

【07】民族学考古学特殊 (2)(春学期)

【07】民族学考古学特殊 (2)(秋学期)

【04】民族学考古学特殊 B(4)(通年)

近世考古学概論 准教授(有期) 石神 裕之

授業科目の内容:

本講義では充実した資料的蓄積を持ちつつも、未だ十分に学問的な存在意義を示し得ていない近世考古学に焦点を絞り、その研究領域と方法論について概説する。具体的には陶磁器・玩具などの生活財や出土銭貨、石造遺物といった個々の遺物研究の事例をはじめ、墓制や上水、塵芥処理などの都市論的課題といった多様なテーマを素材として、近年の調査・研究動向を紹介していきたい。近世考古学は、単なる近世風俗史の解明を行う立場にとどまらず、都市史、社会経済史、民間信仰史、村落社会史など、多様な近世史の研究テーマにアプローチ可能な素材と分析手法を備えている。また考古資料の分析・解釈にあたっては、人文科学のみならず自然科学の諸学問との協業を行うことが不可欠であり、そうした考古学における学際的な研究の方法論的な問題点を整理・検証するうえでも、近世考古学は有効な検討作業を行うことができる。以上のような点を踏まえつつ、近世考古学の研究法と幅広い研究可能性を理解してもらうことが、本講義のねらいである。

授業は講義形式を基本とするが、履修者の人数によって現地調査や遺跡見学などを行うことも考えている。

テキスト：

使用しない。

参考書：

必要に応じて講義の中で紹介する。

【07】民族学考古学特殊 (2)(春学期)

【07】民族学考古学特殊 (2)(秋学期)

【04】民族学考古学特殊 C(4)(通年)

『聖書考古学』概説

教授 杉本 智俊

講師 徳永 里砂

授業科目の内容：

南レヴァント(イスラエルなど東地中海沿岸地域)は、その後の世界文化に大きな影響を与えた聖書の発生した地として知られている。本講座では、まずこの地域の考古学的研究の現状を編年的に紹介する。その上で、それらと聖書の文献学的研究、古代近東文書研究の成果を合わせて聖書の背景となった世界の復元を試みる。いわゆる『聖書考古学』である。出エジプト、ダビデ・ソロモンによるイスラエル王国建設、ヤハウェー神教の成立、パピロニア捕囚、死海文書、イエスの墓などのトピックについても適宜取り上げたい。

徳永は、アラビア半島地域の考古学を中心に講義する。前期・後期には分かれているが、継続して授業をとることが望ましい。

テキスト：

杉本智俊『図説：聖書考古学』(河出書房新社)

参考書：

A. マザール『聖書の世界の考古学』(リトン)

【07】民族学考古学特殊 (2)(春学期)

【07】民族学考古学特殊 (2)(秋学期)

【04】民族学考古学特殊 D(4)(通年)

准教授 佐藤 孝雄

講師 姉崎 智子

授業科目の内容：

遺跡から出土する動物遺体から過去の人々の活動や行為、心性を読み解く「動物考古学(Zooarchaeology)」の方法論を概説する。主に前期を資料の採集や同定・分析法の説明に、後期を個別・具体的な調査・研究事例の紹介に当てたい。講義に際しては、実物を含めた標本資料と画像を数多く提示し、また時折、実習的な内容を盛り込むことも考えている。ともすれば、“ゴミ扱い”されかねない骨や貝殻も、扱い方次第では貴重な文化財となり得る。この点を理解してもらうことが本講義の狙いである。

テキスト：

使用しない。

参考書：

講義中に適宜指示する。

【07】民族学考古学特殊 (2)(春学期)

【07】民族学考古学特殊 (2)(秋学期)

【04】民族学考古学特殊 E(4)(通年)

楽園イメージの歴史人類学(春学期)

絡み合う人と自然の歴史学(秋学期)

准教授 山口 徹

授業科目の内容：

オセアニア(南太平洋)の島々はしばしば楽園として語られる。しかし、そのイメージは南太平洋の島嶼世界を楽園として「発見」した西欧の表象に由来することを忘れてはならない。すなわち、コロナアルヒストリーやポストコロナアルヒストリーの文脈のなかでイメージ形成の歴史的過程を理解することが必要となる。同時に、南太平洋の旅先で我々が目にする「楽園」の景観は、島に備わる自然の営力と人間の営みの絡み合いが生み出した歴史的産物である。数千年にわたる絡み合いの歴史を読み解くためには、地形学・気候学・生物学といった自然科学と協働する考古学的視点と、コロナアルな資源開発の歴史を解明する環境史の視点を接続することが求められる。

参考書：

講義にて適宜指示する。

【07】民族学考古学特殊 (2)(春学期)

【07】民族学考古学特殊 (2)(秋学期)

【04】民族学考古学特殊 F(4)(通年)

比べ考える 斯道文庫 教授 大沼 晴暉

授業科目の内容：

日高敏隆の著作の中から何点かを選び読んでゆきます。その中で動物、植物、人間、文化などについて見てゆきたいと思っています。その前にガイダンスとして日本の民俗学の歴史について話すつもりです。

【07】民族学考古学特殊 (2)(春学期)

【07】民族学考古学特殊 (2)(秋学期)

【04】民族学考古学特殊 G(4)(通年)

縄文時代・弥生時代資料の分析方法

准教授 安藤 広道

授業科目の内容：

主に慶應義塾所蔵資料を用いて、縄文時代・弥生時代・古墳時代の土器や石器・金属器などの基礎的な分析方法を解説する。

テキスト：

使用しない。

参考書：

必要に応じて講義の中で紹介する。

【07】民族学考古学特殊 (2)(春学期)

【07】民族学考古学特殊 (2)(秋学期)

【04】民族学考古学特殊 H(4)(通年)

近現代考古学の可能性

講師 櫻井 準也

授業科目の内容：

1990年代から新たな分野として注目されていた近現代考古学であるが、近代化遺産や戦争遺跡がマスコミで取り上げられる一方で近代以降の遺跡の調査事例は近年明らかに減少している。これは我が国の考古学が行政主導であること、そして新たな学問分野としての近現代考古学の位置づけや存在意義がわが国の考古学研究者や発掘担当者に理解されていないことに起因する。今年近現代考古学をとりあげ、具体的な調査事例や研究事例をあげながら、極度に細分化され閉塞状態にある現在のわが国の考古学とは異なる新たな分野としての近現代考古学の可能性について考える。なお、近現代遺跡の発掘現場や博物館展示があれば随時見学に行きたい。

テキスト：

桜井準也 2004 『モノが語る日本の近現代生活』慶應義塾大学出版会

参考書：

メタ・アーケオロジー研究会 2005 『近現代考古学の射程』六一書房

桜井準也 2006 『ガラス瓶の考古学』六一書房、鈴木公雄ゼミナール編 2007 『近世・近現代考古学入門』慶應義塾大学出版会

【07】民族学考古学特殊 (2)(春学期)

【07】民族学考古学特殊 (2)(秋学期)

【04】民族学考古学特殊 I(4)(通年)

物質文化研究～現代における考古学・民族学～

講師 朽木 量

授業科目の内容：

近年、物質文化への注目が高まっている。本講義では人文・社会科学と比較しながら理論考古学の流れを理解し、それらを欧米で注目されてきている物質文化研究という新たな形に発展させていきたいと考えている。より具体的なテーマとしては、近現代考古学や欧米の Material Culture Studies を取りあげ、モノと人の関わりを多角的に論じていく。モノから生活文化をいかに読むかという問題は考

古学・民俗学・民族学・民具学・社会学など様々な学問で論じられてきた。本講義ではこうした諸学の成果を踏まえつつ、我々の身の回りのモノ（植木鉢やランプなどの生活財、家の構造など）の実態を具体的に検討する。ともすれば定式化しがちな考古学や民俗学の解釈を物質文化研究という形で「脱構築」していきたいと考えている。また、考古学が単に掘ればよいという時代でなくなっている現代において文化財の活用する手段と地域の文化政策のあり方についても触れる。

テキスト：
特に指定しない

参考書：
詳細なリストを初回授業時に提示する

-
- 【07】民族学考古学特殊 (2)(春学期)
【07】民族学考古学特殊 (2)(秋学期)
【04】民族学考古学特殊 J(4)(通年)
古代エジプト文明の盛衰 古王国時代から新王国時代まで
講師 山花京子
-

授業科目の内容：

本講義では古代エジプト文明の基礎を作った古王国時代（ピラミッド時代）と、繁栄の頂点を築いた新王国時代を取り上げます。文献資料や考古学資料を用いて、古代エジプト文明全般を網羅的に理解するための講座です。古代エジプト文明がどのように興り、どのような社会制度や政治体制が整えられたのか、また、彼らの宗教や生活がどのようなものだったのか、そしてなぜ衰退したのか、といったトピックについて解説します。

また、この講座では単に古代史を総括するだけではなく、古代エジプト文明がどのような点で現代と違い、またどのような点が現代社会と共通するのか、という問題も考察します。

テキスト：
特に指定しません。

参考書：
参考文献はhttp://www.hum.u-tokai.ac.jp/~yama_egy/list/bunken.htmlよりダウンロードできます。

-
- 【07】民族学考古学特殊 (2)(春学期)
【07】民族学考古学特殊 (2)(秋学期)
【04】民族学考古学特殊 K(4)(通年)
「変化」の研究法：中南米の歴史と文化を通して
助教(有期) 井関睦美
-

授業科目の内容：

中南米の歴史には、一般に先スペイン期（マヤ、アステカ、インカ文明など）、スペインとその他ヨーロッパ諸国による植民地時代、独立後～現代という、大きく分けて3つの時代区分があります。本講義では、先スペイン期をおもなフィールドとし、さまざまな文化・社会現象や制度など（例：宗教、政治、交易、生産・消費活動）における歴史的な変化を考察していきます。近年の認知科学に関連する分野では、「変化」とは、人々がいかに歴史や環境を経験し消費してきたかということの現われである、という考え方があります。そして人々の経験や消費は、言語、図像、物質文化、祝祭などの表現媒体を通して分析できると考えられます。このような方法論に基づき、具体的な事例における「人々の経験と変化の過程」というものに焦点を当てながら、中南米の歴史と文化について考えていきたいと思えます。

参考書：
授業内に適宜指示します。

-
- 【07】考古学 (セ)(2)(春学期)
【07】考古学 (セ)(2)(秋学期)
【04】考古学(4)(通年) 教授 阿部祥人
-

授業科目の内容：

考古学の基礎的な講義を行う。

特に、日本列島における先史考古学な研究の流れや特殊性に触れる。また、自然界におけるヒトの歴史の研究という視点から、この分野の研究の枠組みや方法について述べる。

テキスト：
鈴木公雄「考古学入門」東京大学出版会

-
- 【07】民族学 (セ)(2)(春学期)
【07】民族学 (セ)(2)(秋学期)
【04】民族学(4)(通年) 准教授 山口 徹
-

授業科目の内容：

民族学は、人間や文化の総合的な理解を求める学問である。前期は、民族学と関連諸学とのつながりに目配りしながら、文化研究における「歴史」の取り扱いについて複数のアプローチを解説する。次いで後期は、さまざまな事象の背後にある「目に見えないもの」への視座として「文化の諸理論」を解説する。

参考書：
講義にて適宜指示する。

-
- 【07】人類学概論 (セ)(2)(春学期)
【07】人類学概論 (セ)(2)(秋学期)
【04】人類学概論(4)(通年)
人類進化学概説 教授 高山 博
-

授業科目の内容：

ヒト(Homo sapiens)の進化について、実際の標本(骨格標本、化石模型、生体など)を用いて考えてゆく。講義は隔年で、「人体各器官から見たヒトの成り立ち」と、「化石人類の発見史から見たヒトの進化」とを行っている。本年度は、前者の「人体各器官から見たヒトの成り立ち」をテーマに講義を進める。人体諸器官(頭骨・骨格・歯・脳など)に残された種々の形態・機能を、脊椎動物の進化にしたがって比較・検討し、脊椎動物門、哺乳綱、霊長目、ヒト(科、属、種)の進化の特異性について学ぶ講義としたい。

テキスト：
指定しません。
参考書：
指定しません。適宜プリントを配布します。

-
- 【07】民族学考古学研究会 (A)(3年)(要)(1)(春学期)
【07】民族学考古学研究会 (A)(3年)(要)(1)(秋学期)
【07】民族学考古学研究会 (A)(4年)(要)(1)(春学期)
【07】民族学考古学研究会 (A)(4年)(要)(1)(秋学期)
【04】民族学考古学研究会 (A)(3年)(2)(通年)
【04】民族学考古学研究会 (A)(4年)(2)(通年)
教授 阿部祥人
-

授業科目の内容：

4年生に関しては卒業論文の指導を行う。3年生以下については、各自の目ざす専門分野で特に注目すべき内容や興味のある分析方法などを含む最近の論文を取り上げてもらい、それに対するコメント等を土台として演習を行う。

-
- 【07】民族学考古学研究会 (B)(3年)(要)(1)(春学期)
【07】民族学考古学研究会 (B)(3年)(要)(1)(秋学期)
【07】民族学考古学研究会 (B)(4年)(要)(1)(春学期)
【07】民族学考古学研究会 (B)(4年)(要)(1)(秋学期)
【04】民族学考古学研究会 (B)(3年)(2)(通年)
【04】民族学考古学研究会 (B)(4年)(2)(通年)
准教授 山口 徹
-

授業科目の内容：

卒業論文に向けた実践的な研究指導を軸に据える。受講生にとって文化研究にかかわる多様なテーマの設定が可能だが、研究会における議論のための共通基盤として、フィールドワーク、ブックワーク、調査報告、歴史研究の要素が各人に求められる。報告に際して

は、フィールドで自らが記録した写真等の映像資料を提示することが望ましい。

-
- 【07】民族学考古学研究会 (C)(3年)(要)(1)(春学期)
【07】民族学考古学研究会 (C)(3年)(要)(1)(秋学期)
【07】民族学考古学研究会 (C)(4年)(要)(1)(春学期)
【07】民族学考古学研究会 (C)(4年)(要)(1)(秋学期)
【04】民族学考古学研究会 (C)(3年)(2)(通年)
【04】民族学考古学研究会 (C)(4年)(2)(通年)

准教授 佐藤 孝雄

授業科目の内容：

4年生に対しては、卒業論文の作成指導を行う。3年生以下の諸君には、それぞれ関心のある事象に関する先行研究を整理・批判する作業を課す。履修者には順次自らの調査・研究成果を報告してもらう。毎回各人の発表を受け、皆で討論を行う形をとるので、積極的な発言を期待する。

参考書：

授業中に随時指示する。

-
- 【07】民族学考古学研究会 (D)(3年)(要)(1)(春学期)
【07】民族学考古学研究会 (D)(3年)(要)(1)(秋学期)
【07】民族学考古学研究会 (D)(4年)(要)(1)(春学期)
【07】民族学考古学研究会 (D)(4年)(要)(1)(秋学期)
【04】民族学考古学研究会 (D)(3年)(2)(通年)
【04】民族学考古学研究会 (D)(4年)(2)(通年)

教授 杉本 智俊

授業科目の内容：

古代オリエントおよびヘレニズム・ローマ世界の考古学に関心のある学生を中心に論文作成の指導を行なう。学術論文のめざすもの、資料検索の仕方、論文の構成などに関する解説を行なうとともに、各自の論文を演習形式で育てていく。自分の研究発表のときだけでなく、必ず毎回参加し、積極的に討論に加わることが期待される。

参考書：

杉本智俊『図説：聖書考古学』(河出書房新社)

-
- 【07】民族学考古学研究会 (E)(3年)(要)(1)(春学期)
【07】民族学考古学研究会 (E)(3年)(要)(1)(秋学期)
【07】民族学考古学研究会 (E)(4年)(要)(1)(春学期)
【07】民族学考古学研究会 (E)(4年)(要)(1)(秋学期)
【04】民族学考古学研究会 (E)(3年)(2)(通年)
【04】民族学考古学研究会 (E)(4年)(2)(通年)

准教授 安藤 広道

授業科目の内容：

2年生：それぞれの興味・関心を考慮した課題を与える。1年間その課題に取り組み、成果を発表してもらう。

3年生：それぞれの興味・関心に基づき、卒論を視野に入れた課題を自ら設定して取り組み、やはり成果発表をしてもらう。

4年生：主に卒業論文の指導をする。

テキスト：

使用しない。

参考書：

必要に応じて講義の中で紹介する。

国文学専攻

必修科目

【07】国文学原典講読 (A)(セ)(1)(春学期)

【07】国文学原典講読 (A)(セ)(1)(秋学期)

【04】国文学原典講読 (A)(2)(通年)

[春]教授 藤原茂樹

[秋]教授 佐藤道生

〔春学期〕古事記

授業科目の内容：

古事記は、ふるごとぶみである。文字社会が登場して、何度か書かれた国史の類とは、様相を異にしている、系譜を柱として、それに物語が適宜抜き出されてまとめられている。完成形といえるかどうかは、問題をかかえるが、いまの人の目から物語りを追っていくとなかなか興味深いことが多い。

神話と物語を筋にしたがって追いながら各自分担当で調査していく。

テキスト：

岩波文庫 古事記 など 特に選ばない。授業 2 回目までには、準備しておくこと。

【07】国文学原典講読 (B)(セ)(1)(春学期)

【07】国文学原典講読 (B)(セ)(1)(秋学期)

【04】国文学原典講読 (B)(2)(通年)

[春]教授 佐藤道生

[秋]教授 屋名池 誠

〔春学期〕

授業科目の内容：

平安・鎌倉期の文学作品を取り上げ、古写本を用いて講読する。毎回、翻字の小テストを行うことは例年どおり。

〔秋学期〕明治初期の戯作を読む

授業科目の内容：

明治初期の戯作、仮名垣魯文『安愚楽鍋』の版本を講読する。変体仮名に慣れ親しむとともに、身近な現代語とも、高校までになじんできた古文とも異なる文章に触れ、日本語の多様なあり方に目を開いてもらいたい。

テキスト：

教室で指示する。

参考書：

教室で指示する。

【07】国文学原典講読 (C)(セ)(1)(春学期)

【07】国文学原典講読 (C)(セ)(1)(秋学期)

【04】国文学原典講読 (C)(2)(通年)

[春]教授 屋名池 誠

[秋]教授 石川 透

〔春学期〕明治初期の戯作を読む

授業科目の内容：

明治初期の戯作、仮名垣魯文『安愚楽鍋』の版本を講読する。変体仮名に慣れ親しむとともに、身近な現代語とも、高校までになじんできた古文とも異なる文章に触れ、日本語の多様なあり方に目を開いてもらいたい。

テキスト：

教室で指示する。

参考書：

教室で指示する。

〔秋学期〕短編室町物語講読

授業科目の内容：

室町物語（御伽草子）は、室町時代から江戸時代前期に制作された物語の総称である。そのうちいくつかの作品を取り上げ、写本か刊本かを影印版で講読する。

テキスト：

最初の授業時に指示する。

【07】国文学原典講読 (D)(セ)(1)(春学期)

【07】国文学原典講読 (D)(セ)(1)(秋学期)

【04】国文学原典講読 (D)(2)(通年)

[春]教授 石川 透

[秋]教授 藤原茂樹

〔春学期〕短編室町物語講読

授業科目の内容：

室町物語（御伽草子）は、室町時代から江戸時代前期に制作された物語の総称である。そのうちいくつかの作品を取り上げ、写本か刊本かを影印版で講読する。

テキスト：

最初の授業時に指示する。

〔秋学期〕古事記

授業科目の内容：

古事記は、ふるごとぶみである。文字社会が登場して、何度か書かれた国史の類とは、様相を異にしている、系譜を柱として、それに物語が適宜抜き出されてまとめられている。完成形といえるかどうかは、問題をかかえるが、いまの人の目から物語りを追っていくとなかなか興味深いことが多い。

神話と物語を筋にしたがって追いながら各自分担当で調査していく。

テキスト：

岩波文庫 古事記 など 特に選ばない。授業 2 回目までには、準備しておくこと。

【07】【04】国語学 (2)(春学期)

古代日本語の諸問題

講師 山本真吾

授業科目の内容：

奈良時代から平安時代にかけての日本語の諸問題について、文字・表記、音韻、文法、語彙、文体の各観点から論ずる。その際、当時の社会状況、文化、宗教などとの関わりや文献資料の扱いにも留意したい。

テキスト：

講義資料プリントを配布する。

参考書：

講義の中で随時指示する。

【07】【04】国語学 (2)(秋学期)

中世日本語の諸問題

講師 山本真吾

授業科目の内容：

院政鎌倉時代から室町時代にかけての日本語の諸問題について、文字、表記、音韻、文法、語彙、文体の各観点から論ずる。その際、当時の社会状況、文化、宗教などとの関わりや文献資料の扱いにも留意したい。

テキスト：

講義資料プリントを配布する。

参考書：

講義の中で随時指示する。

【07】国語学 (2)(春学期)

日本語の音声・音韻(現代日本語の音声と音韻体系)

教授 屋名池 誠

授業科目の内容:

われわれは高校までに外国語である英語の発音やアクセントについてははくわしく学ぶのに、自分たちの母語である日本語についてはほとんど学ぶ機会がない。身近なことを新しい側面から見直すことで、われわれにとっては絶対的な存在である母語も人類言語の一つであるにすぎないと相対視できる柔軟な見方を養うことを目標とする。

国語学 とは一連の内容なので、国語学 も続けて受講のこと。国語学 では、音声学の初歩からはじめて、現代日本語(共通語・諸方言)の音声の実態と音韻体系までを概観する。

国語学 ・ は、日本語の音声・音韻 と日本語の文字・表記を隔年で交互にあつかい、同じ担当者の「日本語文法 ・ 」とあわせて、日本語学の主要分野について一通りを概観する予定。日本語学専攻を希望する者は3種とも履修することが望ましい。

テキスト:

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書:

教室で指示する。

【07】国語学 (2)(秋学期)

日本語の音声・音韻(アクセントと音韻史)

教授 屋名池 誠

授業科目の内容:

国語学 で学んだ内容を前提とするので、国語学 から続けて受講のこと。国語学 では、日本語(共通語・諸方言・各時代語)のアクセントを概説するとともに、日本語の発音がどのような経緯を経て現代に至ったか、歴史的な変遷を概観する。

国語学 ・ は日本語の音声・音韻 と日本語の文字・表記を隔年で交互にあつかい、同じ担当者の「日本語文法 ・ 」とあわせて、日本語学の主要分野について一通りを概観する予定である。日本語学専攻を希望する者は3種とも履修することが望ましい。

テキスト:

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書:

教室で指示する。

【07】国文学 (2)(春学期)

【07】国文学 (2)(秋学期)

【04】国文学 (4)(通年)

源氏物語と和歌

講師 高田 祐彦

授業科目の内容:

源氏物語の達成を支える大きな要因の一つは和歌との関わりにあります。それはなぜでしょうか。作品の表現に即した具体的な分析というレベルから、物語と和歌を軸とした平安文学史の把握というレベルに至るまで、さまざまな視点を設定しながら考えてゆきます。

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書:

必要に応じて指示します。

【07】国文学 (2)(春学期)

【07】国文学 (2)(秋学期)

【04】国文学 (4)(通年)

折口古代学の生成(2)

講師 保坂 達雄

授業科目の内容:

折口古代学の生成を問い直す試みの2年目。本年度は折口信夫が慶應の教授に就任した昭和3年から戦後までの軌跡を追う。この時期は

折口古代学を決定づけた『古代研究』全3巻が完成し、そこからさらに独自の学問体系へと大成していった時期といえる。大正時代までの折口とは違って、時代の思想潮流や同時代言説などと競合しつつも学会や文壇など幅広い社会活動へと発展していった時代でもあった。

この授業では、一つ一つの言説を取り上げて学説形成の過程を辿りながら、文学や言語のみに留まらず民俗や宗教、芸能・歴史までもを包括してゆく折口学の広大な宇宙の偉大さに迫ってゆきたい。

テキスト:

プリントを配布する。

参考書:

授業の中でその都度紹介する。

【07】国文学 (2)(春学期)

【07】国文学 (2)(秋学期)

【04】国文学 (4)(通年)

万葉の歌を知る

教授 藤原 茂樹

授業科目の内容:

万葉集はおおよそ4500あまりの歌が集まる歌集で、日本の古い時代の息吹を広く深く宿す最大の存在である。独りで、学習するには、万葉集はあまりに膨大であるため、この授業では、はじめて万葉集をよむひとを想定して、毎週3-5首を選んで、紹介しつつ、万葉びとの恋や自然や風景がどう読まれているかなど等を通して、歌を通してみえるころのありかたや、当時の人々のものの見方について知ろうと思う。

今年は、12月までの一年間、NHKBS テレビハイビジョン番組「日めくり万葉集」(藤原監修)がはじまった(来年はNHK教育でも放映予定)。昨年一年時間をかけ、丁寧に作成してきたその映像を紹介しながら、万葉集を好きだが専門の研究者ではない各界の人の歌の見方を紹介しつつ、正すべきは正し、聞くべきは聞きつつ、日本人の先祖たちが歌にどのような思いをこめていたかを味わっていく。

テキスト:

『万葉集』本文編 塙書房

参考書:

新日本古典文学全集『万葉集』全4巻 小学館 その他多数読み下し、訳、解説のあるものを参考にするとよい。

【07】国文学 (2)(春学期)

【07】国文学 (2)(秋学期)

【04】国文学 (4)(通年)

「和歌」とは何か

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容:

日本「国家」の制度的文芸・文芸の制度の典型が「和歌」である。いわゆる勅撰八代集を基本の材料として、そのしくみ・しかけを、できるだけ体系的・包括的に説明する。

テキスト:

久保田淳・河村晃生編『合本八代集』(三弥井書店)

参考書:

講義初回および以後逐次しめす。

【07】国文学 (2)(春学期)

【07】国文学 (2)(秋学期)

【04】国文学 (4)(通年)

探偵小説を通して文化と社会を読む

講師 吉田 司雄

授業科目の内容:

日本近代文学史と並置する形で、探偵小説の歩みを辿りつつ、テクストとその成立を支えたコンテクストを読み込んでゆく。とりわけ科学と文学の交点に焦点をあてながら、メディアにおける犯罪報道の在り方についても考えてみたい。それゆえ取り上げる作品はいわゆる純文学やジャンル小説としてのミステリーに限定されず、科学小説や恐怖小説、あるいは映画等にも目を向けながら、臨機に講義を進めてゆく予定。下の授業計画もあくまで一案。現代ミステリー

のファンにはあまり面白くない(かも知れない)が。

テキスト：

- ・山前謙編『文豪の探偵小説』(集英社文庫)
- ・『江戸川乱歩傑作選』(新潮文庫)

ほかは教場で指示するが、必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

教場で随時指示する。

【07】国文学 (2)(春学期)

【07】国文学 (2)(秋学期)

【04】国文学 (4)(通年)

絵巻・絵本の世界 教授 石川 透

授業科目の内容：

日本の絵巻と絵本について、その画像を見ながら考察する。

テキスト：

授業時に指示する。

参考書：

授業時に指示する。

【07】国文学 (2)(春学期)

【07】国文学 (2)(秋学期)

【04】国文学 (4)(通年) 教授 川村 晃生

授業科目の内容：

人はどう生きたか。古典文学・近代文学を問わず、日本人を主とする生き方や思想を検討しつつ、それらが今を生きる私たちにどのような意味を持っているのかを考察したい。しばしば文学の域を脱することがあるかもしれないが、あらかじめ了解されたい。

テキスト：

プリントの配布。

参考書：

必要に応じてふれる。

【07】国文学 (2)(春学期)

【07】国文学 (2)(秋学期)

【04】国文学 (4)(通年)

日本近代文学における「狂気」「悪夢」「怪異」の諸相
泉鏡花作品を中心に 講師 鈴木 啓子

授業科目の内容：

急激な社会変化のなかで歪む人間の心模様を、日本近代文学はどのように描いただろうか？

生の基盤や方途を失った社会的敗者の、あるいは近代化の先端を生きる知的エリートの、言語化されない不安や葛藤は、しばしば「狂気」「自死」「殺意」「悪夢」「怪異体験」となって文学作品に表れる。

「悲惨小説」「深刻小説」「観念小説」と称された日清戦争後の短編小説を起点として、明治30年代、日露戦争前後、明治40年代、大正期の小説に登場する「狂気」「悪夢」「怪異」に注目し、その題材・テーマ・表現様式の諸相を、泉鏡花作品を基軸にたどってゆきたい。

鏡花作品と比較しつつ、広津柳浪・川上眉山・樋口一葉・尾崎紅葉・国木田独歩・夏目漱石・谷崎潤一郎・志賀直哉・芥川龍之介らの作品に言及する。

テキスト：

プリントを配布するとともに、適宜文庫本を紹介する。

参考書：

授業の展開に応じて適宜紹介する。

【07】国文学 (2)(春学期)

【07】国文学 (2)(秋学期)

【04】国文学 (4)(通年) 講師 佐藤 悟

授業科目の内容：

近世文学の中の草双紙とよばれるジャンルについて概説する。特に慶應義塾大学所蔵草双紙は多岐にわたる優れたコレクションであ

るので、重点的に扱う予定である。

テキスト：

プリントを配布する。

参考書：

授業中指示する。

【07】国文学 (2)(春学期)

【07】国文学 (2)(秋学期)

【04】国文学 (4)(通年)

近代文学のなかの 想像力 教授 松村 友視

授業科目の内容：

近代日本文学はその出発期から、近代的な知を背景とするリアリズムを基本的な方法として選択しました。しかし他方、文学は、つねにリアルな世界から飛躍する 想像力 をその源泉としてもいます。そのような観点から、いくつかの作品をとりあげながら、リアリズムと合理を前提とする近代のパラダイムの中で文学的な 想像力 が担っていた意味について考えます。

テキスト：

コピー資料を配付します。

参考書：

講義中に示します。

【07】国文学 (2)(春学期)

【07】国文学 (2)(秋学期)

【04】国文学 (4)(通年)

日本漢籍三十講 教授 佐藤 道生

授業科目の内容：

サブタイトルに掲げた「日本漢籍」とは日本で書写或いは刊行された漢籍、及び中国・朝鮮で書写或いは刊行された漢籍で日本に将来され日本人が受容したものを総称して言う。本講義では、慶應義塾図書館の所蔵する日本漢籍三十点(春学期、秋学期各十五点)を取り上げ、それぞれの書の形態・内容に検討を加えながら、日本漢籍の本質を探ってみたい。

【04】国文学 (4)(通年)

休講

【07】【04】国文学史 (2)(春学期)

環境文学史 教授 川村 晃生

授業科目の内容：

古典文学から近代文学に至る各時代の文学作品を検討しつつ、過去の日本人と自然との関係、及び現代の日本人と自然との関係を考え、現在我々が抱えている環境問題への対処の仕方を模索したい。話題はしばしば文学の領域を脱することがあるかもしれないが、あらかじめ了解せられたい。

テキスト：

なし

参考書：

必要に応じてふれる。

【07】【04】国文学史 (2)(秋学期)

教授 川村 晃生

授業科目の内容:

国文学史 (春学期)の続きです。

テキスト:

なし

参考書:

必要に応じてふれる。

【07】【04】国文学史 (2)(春学期)

物語の成長 教授 石川 透

授業科目の内容:

物語が書き写される時、本文や内容を書き変えることがしばしば起る。なぜ、そうなるのかを具体的に考察する。

テキスト:

授業時に指示する。

参考書:

授業時に指示する。

【07】【04】国文学史 (2)(秋学期)

物語文学史 教授 石川 透

授業科目の内容:

物語文学の歴史を概説するとともに作品の特徴について考察する。

テキスト:

授業時に指示する。

参考書:

授業時に指示する。

【07】【04】国文学史 (2)(春学期)

「つはもの」と「いくさ」の文芸史(1) 教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容:

前史と後代とをあわせて、いわゆる軍記物語を中心に、文芸における戦争を通観する。軍器・兵器としての「つはもの」と軍勢もしくはその力能としての「いくさ」とが、どのようにして武者・兵士と合戦・戦争とに変容してきたか、言語表現に即してみてゆく。

テキスト:

講義の中で逐次指示する。

参考書:

講義の中で随時あげてゆく。

【07】【04】国文学史 (2)(秋学期)

「つはもの」と「いくさ」の文芸史(2) 教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容:

春学期()参照。

テキスト:

同上。

参考書:

同上。

【07】国文学史 (2)(春学期)

休講

【07】国文学史 (2)(秋学期)

休講

【07】国文学史 (2)(春学期)

近代文学の成立 教授 松村 友視

授業科目の内容:

明治以降の急激な近代化を様々なレベルで反映することによって成立した近代文学は、同時代の社会状況・文化状況と密接に関わる錯綜した性格をもっています。このような観点に立ち、同時代の状況を視野に入れながら、明治20年前後から明治中期に至る主要な文学作品・事項を概観し、その文化史的な意味を考えます。

テキスト:

コピー資料を配付します。

参考書:

講義中に示します。

【07】国文学史 (2)(秋学期)

近代文学の展開 教授 松村 友視

授業科目の内容:

明治以降の急激な近代化を様々なレベルで反映することによって成立した近代文学は、同時代の社会状況・文化状況と密接に関わる錯綜した性格をもっています。このような観点に立ち、同時代の状況を視野に入れながら、明治中期から大正初期に至る主要な文学作品・事項を概観し、その文化史的な意味を考えます。

テキスト:

コピー資料を配付します。

参考書:

講義中に示します。

【07】国文学演習 (セ)(1)(春学期)

【07】国文学演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】国文学演習 (2)(通年) 教授 藤原 茂樹
万葉歌の素材と信仰の研究

授業科目の内容:

万葉集から各自興味もてる素材をひとつ選び、扱われ方の類型や特徴を見出し、その属性にまつわる文学性や信仰的性格を見極める。

テキスト:

授業内指示。(一例『萬葉集』塙書房。新編日本古典文学全集『万葉集』など)

参考書:

池田弥三郎『日本文学の素材』『日本人の心の傾き』

【07】国文学演習 (セ)(1)(春学期)

【07】国文学演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】国文学演習 (2)(通年) 教授 石川 透
室町物語講読

授業科目の内容:

約四百編現存する室町物語(御伽草子),あるいは、その周辺の作品のうち、二編以上の作品を、影印版で講読する。

テキスト:

最初の授業時に指示する。

【07】国文学演習 (セ)(1)(春学期)

【07】国文学演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】国文学演習 (2)(通年) 教授 岩松 研吉郎
中世文学評論読解

授業科目の内容:

近代以前の文学批評・文芸論は、和歌についてとりわけ蓄積されてきた。いわゆる「歌学」「歌論」である。これを丁寧によみとくことは、古典文芸とその場の理解のためだけでなく、古典研究法の体得にも有益な筈だ。そこで、歌学・歌論史の概観をおこなった上で、

具体的に数種のテキストから適宜の章段をえらんで、調査・分析・発表・討論をゼミナール形式ですすめる。

テキスト：

逐次影印等を配布する。(今年度は『無名抄』『後鳥羽院口伝』を、関連和歌資料を参照してよみすすめる)

参考書：

初回到指示する。

【07】国文学演習 (セ)(1)(春学期)

【07】国文学演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】国文学演習 (2)(通年) 教授 川村 晃生

授業科目の内容：

統一テーマとして「暴力から平和へ」を提示します。ここで言う暴力は、戦争、環境破壊、差別、人権問題などですが、それらをなくするための方法を、各自に考察していただきたい。春学期に問題の提示や状況の説明を行い、秋学期にそれらの解決方法の提案を述べて下さい。またいずれのテーマにおいても、少なくとも一つの文学作品に触れることを条件とします。

テキスト：

なし

参考書：

必要に応じてふれる。

【07】国文学演習 (セ)(1)(春学期)

【07】国文学演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】国文学演習 (2)(通年)

森鷗外の歴史小説 教授 松村 友視

授業科目の内容：

「興津弥五右衛門の遺書」から始まる森鷗外の歴史小説は、それまでの作品群とは明らかに異質な作品世界を形成しています。しかし、それらの作品に託された論理は、従前の作品群とも本質的な領域で関わりを保っており、必ずしも単純ではありません。

本演習では、歴史小説と称される短編小説をいくつか取り上げ、詳細な注釈作業や先行研究の批判的整理、同時代の文化状況・社会状況の調査考察等を通じて、総合的な分析を行います。

テキスト：

新潮文庫『阿部一族・舞姫』『山椒大夫・高瀬舟』

参考書：

開講時に示します。

【07】国文学演習 (セ)(1)(春学期)

【07】国文学演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】国文学演習 (2)(通年) 教授 佐藤 道生

授業科目の内容：

『詩序集』(宮内庁書陵部蔵。平安後期の詩序四十六篇を収める)を講読する。詩序は詩宴開催の趣旨を叙する文体であり、その多くは大学寮の紀伝道に学んだ者が執筆した。絢爛たる四六駢儷文によって書かれ、詩宴に於いては詩の披講に先立って読み上げられた。当時の公家日記、説話集などに関しても明らかのように、その出来映えによっては文人としての名声が得られる絶好の機会であったから、序者は自らの持てる出来得るかぎり駆使してその執筆に当たった。詩序はまさに王朝漢文学の真髄と言っても言い過ぎではない。授業では履修者の会読というかたちで本書を読み進め、詩序の文学的意義を考察する。

【07】国語学演習 (セ)(1)(春学期)

【07】国語学演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】国語学演習 (2)(通年)

現代日本語研究 教授 屋名池 誠

授業科目の内容：

現代の日本語は、われわれにとってあまりに身近な存在であるた

め、客観視することが難しいが、自分自身も使用者であるため内省が利用できたり、他の使用者にアンケート調査ができたりと、さまざまな研究方法が使えるメリットもある。実証的かつ精密に分析することを通して、「自分自身のことば」についての理解を深めたい。

国語学演習は、隔年で現代語と古典語を交互にあつかつてゆく予定。日本語学専攻を希望する者は両年とも履修することが望ましい。

テキスト：

使用しない。

参考書：

必要に応じて教室で指示する。

【07】日本語文法 (1)(春学期)

【07】日本語文法 (1)(秋学期)

【04】日本語文法 (2)(通年)

現代日本語の文法 教授 屋名池 誠

授業科目の内容：

高校までに習った伝統的な国文法を離れて、新しい立場から、現代日本語の文法現象を考える。身のまわりのありふれた表現の中にも、精密で整った規則性が存在することに目を開き、母語を客観視できる力を養うことを目標とする。

同じ担当者の「国語学」は日本語の音声・音韻と日本語の文字・表記を隔年で交互にあつかい、この日本語文法とあわせて、日本語学の主要分野について一通りを概観する予定である。日本語学専攻を希望する者は3種とも履修することが望ましい。

テキスト：

使用しない。

【07】漢文講読 (1)(春学期)

【07】漢文講読 (1)(秋学期)

【04】漢文講読 (2)(通年) 教授 佐藤 道生

授業科目の内容：

中国・日本の漢語文献を読解するために必要な基礎知識を修得することを目的とする。

春学期には『史記』高祖本紀を、秋学期には白居易の「新楽府」を講読する。

【07】国文学研究会 (A)(セ)(1)(春学期)

【07】国文学研究会 (A)(セ)(1)(秋学期)

【04】国文学研究会 (2)(通年)

古代文学・民俗・芸能の研究 教授 藤原 茂樹

授業科目の内容：

万葉集・古事記・風土記を中心とした古代的要素の研究。

テキスト：

万葉集・古事記・風土記(授業内指示)

【07】国文学研究会 (B)(セ)(1)(春学期)

【07】国文学研究会 (B)(セ)(1)(秋学期)

【04】国文学研究会 (2)(通年) 教授 川村 晃生

授業科目の内容：

古典文学、近代文学の別を問わず、文学作品の中に見られる自然環境、人権・差別、戦争・平和といった、いわば人間や社会の根本的な問題をとり上げ、そうした問題に先人たちがどう関わってきたか、またそれについて私たちが何を考えるべきなのか、といった点を中心的なテーマとして論文を書かれることに共感します。

- 【07】国文学研究会 (C)(セ)(1)(春学期)
 【07】国文学研究会 (C)(セ)(1)(秋学期)
 【04】国文学研究会 (2)(通年) 教授 佐藤道生

授業科目の内容：

卒業論文指導。諸芸道を含め、古典文化に関わるテーマで執筆しようとする者を対象とする。論文指導は授業時間外に個別に行ない、授業では文献資料の調査方法について教授する。

- 【07】国文学研究会 (D)(セ)(1)(春学期)
 【07】国文学研究会 (D)(セ)(1)(秋学期)
 【04】国文学研究会 (2)(通年)

卒業論文ゼミナール・日本中世文芸

教授 岩松研吉郎

授業科目の内容：

院政期から、鎌倉・南北朝・室町時代まで、つまり中世の諸作家・諸テキスト・諸テーマについて論文をかこうとおもう学生のための研究会であるが、近現代等のテーマでも、言語文化としての分析をおこなうものならかわない。

はじめの時間に、すでによんだテキスト、参考文献の提示・報告をもとめるから準備しておくこと。

なお、論文の作成のための指導は、何回かの発表・討論をのぞき、原則として時間外の面接ですすめ、授業時間には、中世とその前後のテキストひとつないし数篇の全部または一部を演習形式で、学年末までよみすすめる(何をよむかは、参加者の希望をきいてきめるが、この間の例を順不同であげるなら、『天草本平家物語』『結城戰場物語』『今物語』より、『紅梅千句』より、芭蕉七部集『猿蓑』より、『宝物集』より等々である)。夏の合宿では、他にもひとつテキストをよむ。

- 【07】国文学研究会 (E)(セ)(1)(春学期)
 【07】国文学研究会 (E)(セ)(1)(秋学期)
 【04】国文学研究会 (2)(通年)

卒業論文指導

教授 石川透

授業科目の内容：

古典文学を中心に論文を書こうとする者を対象とする。これら以外では、絵巻物等の絵画資料と文学との関わり、昔話等の伝承資料と文学との関わり、古典と現代文化との関わり、等の異文化と文学との接点について書こうとする者も対象とする。

- 【07】国文学研究会 (F)(セ)(1)(春学期)
 【07】国文学研究会 (F)(セ)(1)(秋学期)
 【04】国文学研究会 (2)(通年) 教授 屋名池誠

授業科目の内容：

卒業研究として、日本語の語学的研究を行おうとする者を対象とする。日本語についてであれば、時代や地域、分野は問わない。

卒業論文として結実する、問題発見、先行研究の探索、研究方法・資料の選択、調査・分析、考察・立論、論文執筆などの能力・技法を、演習形式で実践的に身につけてゆくことを目的とする。

- 【07】国文学研究会 (G)(セ)(1)(春学期)
 【07】国文学研究会 (G)(セ)(1)(秋学期)
 【04】国文学研究会 (2)(通年)

近・現代の文学・文化を対象とする卒業論文指導

教授 松村友視

授業科目の内容：

テーマの決定、資料調査、参考文献の整理、研究方法の選択、論の構築等、卒業論文作成にいたるまでの基本的な手続きについて、各自のテーマや方法を相互に検討しながら学んでいきます。

選択科目

- 【07】【04】日本語学 (2)(春学期)

日本語・日本文化教育センター准教授 木村義之

授業科目の内容：

日本語について考えるための基礎的な知識を学び、日本語を客観的に見つめる態度を養うことを目的とする。そのために、音韻・語彙・文法・表記などの面から日本語を概観し、その特質を理解するようにしたい。必要に応じて、歴史的な変化にも触れることもある。

テキスト：

沖森卓也・木村義之・陳力衛・山本真吾共著『図解 日本語』(三省堂)

参考書：

教場で指示する。

- 【07】【04】日本語学 (2)(春学期)

「学校文法」と日本語教育文法の比較

日本語・日本文化教育センター准教授 大場美穂子

授業科目の内容：

日本の初等・中等教育の国語科で教えられている「学校文法」と、ノン・ネイティブの教育を目的とする場合の日本語文法とでは、若干の違いが見られる。本講義では、両者を比較することによって、一般言語学的な視点を獲得することを目指す。

テキスト：

村田水恵 2007『入門日本語の文法 日本語を一から学び直したい人へ』アルク

参考書：

授業時に、テーマごとに紹介する。

- 【07】【04】日本語教授法 (2)(秋学期)

日本語・日本文化教育センター准教授 木村義之

授業科目の内容：

現代日本語の語彙に関する基本的事項を理解することを目的とする。そのうえで、日本語教育における語彙の扱いについて注意すべき点を考える。

テキスト：

国立国語研究所編『日本語教育指導参考書 12 語彙の研究と教育(上)』(国立印刷局)

参考書：

教場で随時指示する。

- 【07】【04】日本語教授法 (2)(秋学期)

機能語の用法と導入の手順を考える

日本語・日本文化教育センター准教授 大場美穂子

授業科目の内容：

助詞・助動詞(複合辞を含む)は、文中でさまざまな使用方法があり、日本語学習者にとっては修得の難しいものの一つである。本講では、これら機能語を題材にして、(1)用法を広く集めて整理する方法、(2)それらを学習者に分かりやすいように提示する方法について考察する。参加者数によっては、グループ・ディスカッションなどを行うことがある。

テキスト：

村田水恵 2007『入門日本語の文法 日本語を一から学び直したい人へ』アルク

参考書：

授業時に、テーマごとに紹介する。

中国文学専攻

必修科目

- 【07】中国古典文学史 (セ)(2)(春学期)
- 【07】中国古典文学史 (セ)(2)(秋学期)
- 【04】中国文学史 (4)(通年) 教授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容:

中国古典文学について、代表的な作品を取り上げながら、その歴史・形式・内容について、具体的に作品を読みながら概述する。今年度は詩・文・小説・戯曲といったジャンルに基づき、概ね以下の項目を取り上げる予定。

詩経・楚辞・漢代の詩・魏晉の詩・陶淵明・南北朝の詩・初唐・盛唐の詩・杜甫・李白・中晩唐の詩・宋代の以降の詩・文言小説・白話小説・説唱文学・戯曲等々

テキスト:

八木章好編著『中国古典文学二十講』(白帝社, 2003年)

参考書:

全般について初回授業で紹介。その後は個別に授業において紹介する。

- 【07】中国現代文学史 (セ)(2)(春学期)
- 【07】中国現代文学史 (セ)(2)(秋学期)
- 【04】中国文学史 (4)(通年)
20世紀の中国文学を概観する。 教授 関根 謙

授業科目の内容:

清末から21世紀を迎えるまでの中国文学の流れを追っていく。

テキスト:

『中国20世紀文学(解説と資料)』中国文芸研究会編 白帝社

参考書:

『新しい中国文学史(近世から現代まで)』藤井省三, 大木康著 ミネルヴァ書房

- 【07】中国語学概論 (セ)(2)(春学期)
- 【07】中国語学概論 (セ)(2)(秋学期)
- 【04】中国語学概論 (4)(通年)
中国語という言語についての概説 教授 山下 輝彦

授業科目の内容:

声調言語である中国語は、シナチベット語族に属し、皆さんが勉強してきた英語や日本語とかなり異なる性質を持つ言語です。この授業では、中国語の音韻、文法、語彙の三つの面について概説します。音韻については、現代語の音韻体系のみならず、中国語の音韻の歴史についても触れたいと思っています。

参考書:

藤堂明保・相原茂『新訂中国語概論』1985年大修館書店

- 【07】中国文学特殊 (2)(春学期)
- 【07】中国文学特殊 (2)(秋学期)
- 【04】中国文学特殊 (4)(通年)
『訳注聯珠詩格』を読む。 講師 新谷 雅樹

授業科目の内容:

柏木如亭が信州中野の晚晴吟社において門弟たちに教えたテキスト『聯珠詩格』を用いて、中国古典詩を江戸人がどう理解したか探っていくしたいと思います。

テキスト:

講義資料プリントを配布します。

参考書:

『三体詩』をよく読んで下さい。

- 【07】中国語学特殊 (2)(春学期)
- 【07】中国語学特殊 (2)(秋学期)
- 【04】中国語学特殊 (4)(通年)
中国語文法概論 講師 石村 広

授業科目の内容:

現代中国語文法論の基礎を学びます。文献や資料を読みながら、世界の諸言語からみた中国語の言語的特徴は何か、これまでの研究では中国語の文法構造をどのように捉え、記述しようとしてきたか、といった問題を中心に講義を行います。

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書:

北京大学中文系(編)『現代中国語総説』三省堂, 2004年

- 【07】中国語表現演習 (1)(春学期)
- 【07】中国語表現演習 (1)(秋学期)
- 【04】中国語表現演習 (2)(通年)
日中文化比較を楽しもう! 講師 陳 淑梅

授業科目の内容:

ある話題について自分の意思や見解を自由自在に述べることを練習する。コトバのみならず中国文化にも多く触れていく。テキストの日中文化に関する中国語エッセイを聞き、それについて議論を展開していく。またテーマを決め、討論会を行う予定。

ヒアリングと会話を中心とする授業なので積極的に発言したり、質問したり、討論に参加してほしい。

テキスト:

『小点心』NHK出版 陳淑梅著

参考書:

授業中に提示

- 【07】中国語表現演習 (1)(春学期)
- 【07】中国語表現演習 (1)(秋学期)
- 【04】中国語表現演習 (2)(通年) 講師 王 又民

授業科目の内容:

本课程教学主要目标是提高学生的汉语听说能力, 通过词汇学习, 句型操作, 会话练习以及话题讨论, 使学生学会比较得体正确地运用汉语进行表达, 并可以就某一话题展开比较深入的对话和讨论。教材拟选用北京大学出版社出版的《中级汉语口语》。教学具体的内容与教学进度将按照学生的实际水平和要求进行安排。

- 【07】中国語表現演習 (1)(春学期)
- 【07】中国語表現演習 (1)(秋学期)
- 【04】中国語表現演習 (2)(通年)
講師 王 又民

授業科目の内容:

本课程以提高学生的汉语听说能力教学目标, 重点在于通词汇学习, 句型操作, 会话练习以及话题讨论等多种形式的表达训练, 帮助学生提高汉语听说能力。教学中还要教授学生汉语惯用词语以及中国人习惯的口语表达方法, 使学生的口语表达在得体性和正确性方面获得进步。教材拟选用南开大学的《中级汉语口语教程》。教学具体内容与教学进度将按照学生的实际水平和要求进行安排。

- 【07】中国語表現演習 (1)(春学期)
- 【07】中国語表現演習 (1)(秋学期)
- 【04】中国語表現演習 (2)(通年)
中国語研究文献講読 教授 山下 輝彦

授業科目の内容:

中国語の特質や言語と文化との関わりを理解する上で必要と思われる中国語の文献を講読します。今年度は、前期は音韻論に関する

文献を、後期は、文法や中国語の本質について書かれた文献を読みます。順番と範囲を決めて、一人ずつ当ててやってもらいます。

テキスト：

- ・董同和『漢語音韻学』1972年 台湾書局
- ・趙元任『語言問題』1980年 商務印書館

【07】中国文学演習 (1)(春学期)

【07】中国文学演習 (1)(秋学期)

【04】中国文学演習 (2)(通年)

中国古典詩講読 講師 平井 徹

授業科目の内容：

いわゆる「漢詩」の中の代表的な作品を丁寧に読解することを通じて、さまざまな視点から、詩を読むとはどういうことかを考えてみたい。関連する映像資料も活用し、また担当者自身の史蹟踏査の経験なども交えて、広汎な知識が深められる授業になるよう心がけたい。背景についての説明もなるべく加えて、読む楽しみを広げたいと考えている。

テキスト：

開講時に指示する(王力主編『古漢語文選』の中からプリント配布の予定)

参考書：

授業中に適宜紹介する。

【07】中国文学演習 (1)(春学期)

【07】中国文学演習 (1)(秋学期)

【04】中国文学演習 (2)(通年)

斯道文庫 准教授 高橋 智

授業科目の内容：

「論語」の講読を行います。

【07】中国文学演習 (1)(春学期)

【07】中国文学演習 (1)(秋学期)

【04】中国文学演習 (2)(通年) 助教 吉永 壮介

授業科目の内容：

中国の古典小説は、文語体で書かれた文言小説と、口語体に近い白話小説とに大別できます。当演習では、前期は『搜神記』等の志怪小説を、後期は『三国志演義』から幾つかの場面を選んで精読し、文言小説と白話小説の特質について考えます。

授業は本文の読解を中心としつつ、辞書や工具書の紹介も随時行います。

テキスト：

プリント教材を使用します。

参考書：

初回授業時に提示します。

【07】中国文学演習 (1)(春学期)

【07】中国文学演習 (1)(秋学期)

【04】中国文学演習 (2)(通年)

中国筆記小説を読む 教授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容：

中国古典文学の筆記小説から作品を選んで講読します。筆記小説については最初の授業時に概説します。大まかに言えば随筆やエッセイの一種ですが、内容は多岐にわたります。例えば文言小説の志怪小説や伝奇小説も含まれます。

テキスト：

プリント教材

参考書：

初回の授業時に紹介します。

【07】中国文学演習 (1)(春学期)

【07】中国文学演習 (1)(秋学期)

【04】中国文学演習 (2)(通年) 教授 杉野 元子

授業科目の内容：

中国の現代文学作品のなかから、適宜選んで講読する。

テキスト：

プリント使用。

【07】中国文学演習 (1)(春学期)

【07】中国文学演習 (1)(秋学期)

【04】中国文学演習 (2)(通年)

魯迅を読む 『野草』を中心に
経済学部 教授 竹内 良雄

授業科目の内容：

この授業では魯迅の散文詩『野草』を読んでいくことにしたい。作品は数多くの翻訳があるが、受講者はピンインを調べ、発音して訳をつけてもらう。それと同時に、魯迅が『野草』を書いた1920年代中期の時代背景、他の作品なども調べながら授業を進めていきたい。

テキスト：

『野草』(各自、中国専門店へ行き購入しておくこと)とその翻訳書。

参考書：

必要ときに知らせます。

【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(春学期)

【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(春学期)

【04】中国現代文学研究会 (B)(1)(春学期)

【04】中国現代文学研究会 (B)(1)(春学期)

教授 杉野 元子

授業科目の内容：

20世紀の中国文化について多角的に検討する。

小説・詩歌・戯曲などの文学作品を中心とする。

中国に関するものであれば、映像芸術や舞台芸術などの文化現象一般も対象に含める。

授業を通じて口頭発表の仕方、論文作成などを学ぶ。

参加者はそれぞれテーマを見つけて調査・研究し、口頭発表やレポート作成をおこなう。

授業の過程で、卒業論文作成への展望を見出すことが望まれる。

授業内では、口頭発表に対して、積極的な討論が行われる事を期待する。

【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(春学期)

【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(春学期)

【04】中国語学研究会 (1)(春学期)

【04】中国語学研究会 (1)(春学期)

教授 山下 輝彦

授業科目の内容：

中国語という言語について様々な角度からその特質を検討し、次にあげるテーマの中で各々が興味あるものを選択し、さらに理解を深め研究することを希望する場合、資料収集の方法、文献の扱い方などについて指導する。

(1)文法：現代文法、歴史文法、日中対照研究など

(2)語彙：外来語などの特徴や文化と関係の深い問題など

(3)音声：特に現代語の発音の諸問題

(4)方言：豊かな中国の方言に関する諸問題

-
- 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(春学期)
 - 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(春学期)
 - 【04】中国古典文学研究会 (A)(1)(春学期)
 - 【04】中国古典文学研究会 (A)(1)(春学期)
-

休講

-
- 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(春学期)
 - 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(春学期)
 - 【04】中国現代文学研究会 (A)(1)(春学期)
 - 【04】中国現代文学研究会 (A)(1)(春学期)
-

教授 関根 謙

授業科目の内容：

20世紀の中国文化について多角的に検討する。
小説・詩歌・戯曲などの文学作品を中心とする。
中国に関するものであれば、映像芸術や舞台芸術などの文化現象一般も対象に含める。
授業を通じて口頭発表の仕方、論文作成などを学ぶ。

-
- 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(春学期)
 - 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(春学期)
 - 【04】中国古典文学研究会 (C)(1)(春学期)
 - 【04】中国古典文学研究会 (C)(1)(春学期)
-

助教 吉永 壮介

授業科目の内容：

中国古典文学を学ぶ者を対象とした研究会。学生による研究発表と討論を主とし、兼ねて卒業論文指導を行う。

-
- 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(春学期)
 - 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(春学期)
 - 【04】中国古典文学研究会 (B)(1)(春学期)
 - 【04】中国古典文学研究会 (B)(1)(春学期)
-

教授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容：

中国古典文学を学ぶ者を対象とした研究会。学生による研究発表と討論を主とし、兼ねて卒業論文指導を行う。

-
- 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(秋学期)
 - 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(秋学期)
 - 【04】中国現代文学研究会 (A)(1)(秋学期)
 - 【04】中国現代文学研究会 (A)(1)(秋学期)
-

教授 関根 謙

授業科目の内容：

中国現代文学研究会 (A), (A)を参照

-
- 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(秋学期)
 - 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(秋学期)
 - 【04】中国古典文学研究会 (A)(1)(秋学期)
 - 【04】中国古典文学研究会 (A)(1)(秋学期)
-

休講

-
- 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(秋学期)
 - 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(秋学期)
 - 【04】中国語学研究会 (1)(秋学期)
 - 【04】中国語学研究会 (1)(秋学期)
-

教授 山下 輝彦

授業科目の内容：

中国語学研究会 , を参照

-
- 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(秋学期)
 - 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(秋学期)
 - 【04】中国現代文学研究会 (B)(1)(秋学期)
 - 【04】中国現代文学研究会 (B)(1)(秋学期)
-

教授 杉野 元子

授業科目の内容：

中国現代文学研究会 (B), (B)を参照

-
- 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(秋学期)
 - 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(秋学期)
 - 【04】中国古典文学研究会 (B)(1)(秋学期)
 - 【04】中国古典文学研究会 (B)(1)(秋学期)
-

教授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容：

中国古典文学研究会 (B), (B)を参照

-
- 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(秋学期)
 - 【07】中国語学・中国文学研究会 (1)(秋学期)
 - 【04】中国古典文学研究会 (C)(1)(秋学期)
 - 【04】中国古典文学研究会 (C)(1)(秋学期)
-

助教 吉永 壮介

授業科目の内容：

中国古典文学研究会 (C), (C)を参照

英米文学専攻

必修科目

【07】英語史 (要)(2)(春学期)

【07】英語史 (要)(2)(秋学期)

【04】英語史(4)(通年)

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容:

This course will show how the history of English explains features of Present-Day English, and give practice in reading texts from earlier periods.

テキスト:

N. Schmitt & R. Marsden, *Why is English Like That?* (University of Michigan Press)

参考書:

6 class tests + 2 examinations

【07】英文学史 (要)(2)(春学期)

【07】英文学史 (要)(2)(秋学期)

【04】英文学史(4)(通年) [春]教授 高宮利行

[秋]教授 河内恵子

【春学期】

授業科目の内容:

主に英米文学専攻の2年生を対象に、春学期は中世から17世紀までの英文学の歴史の流れを追う。できるだけヴィジュアルな資料を用いて、立体的な講義を心がけたい。

テキスト:

Greenblatt, Stephen ed., *The Norton Anthology of English Literature*, 2 vols., 8th ed., New York: Norton, 2006. (教室で販売する)

参考書:

教室で指示する。

【秋学期】18世紀 20世紀の英文学史

授業科目の内容:

18世紀から20世紀までのイギリス文学史。

イギリス社会や文化を理解したうえで、文学史を具体的に理解してほしい。

テキスト:

Greenblatt, Stephen, ed., *The Norton Anthology of English Literature*, 2 vols., 8th ed. New York: Norton, 2006.

参考書:

教室で指示する。

【07】米文学史 (要)(2)(春学期)

【07】米文学史 (要)(2)(秋学期)

【04】米文学史(4)(通年) 教授 巽 孝之

授業科目の内容:

ピューリタン植民地時代からポストモダニズム文学の時代へ至る「アメリカ文学史の常識」をふまえながら、その準処枠からはこぼれ落ちかねない多様な「非常識の文学史」をも考察していく。

テキスト:

・Peter High, *An Outline of American Literature* (New York: Longman, 1986)

・George McMichael, ed., *Concise Anthology of American Literature* (Upper Saddle River: Prentice Hall, 2006).

参考書:

巽孝之『アメリカ文学史 駆動する物語の時空間』(慶應義塾大学出版会, 2003年)

【07】現代英語学 (要)(2)(春学期)

【07】現代英語学 (要)(2)(秋学期)

【04】現代英語学(4)(通年) 教授 井上逸兵

授業科目の内容:

現代英語の諸相について講義する。

テキスト:

Akmajian *et al. Linguistics*. 5th ed. MIT Press 他

参考書:

授業中および授業のホームページ上で指示する。

【07】英語英米文学基礎講読 (A)~(G)(要)(1)(春学期)

【07】英語英米文学基礎講読 (A)~(G)(要)(1)(秋学期)

【04】英語英米文学基礎講読(A)~(G)(2)(通年)

(A)[春]教授 スカヒル, ジョン・デミエン

[秋]教授 松田隆美

(B)[春]教授 高宮利行

[秋]教授 スカヒル, ジョン・デミエン

(C)[春]教授 井上逸兵

[秋]准教授 高橋 勇

(D)[春]教授 河内恵子

[秋]教授 井上逸兵

(E)[春]教授 巽 孝之

[秋]教授 河内恵子

(F)[春]教授 松田隆美

[秋]教授 巽 孝之

(G)[春] 休講

[秋] 休講

授業科目の内容:

第3学年において、学生は各々が専門とする研究会や特別演習クラスに所属するが、いずれの分野にあっても英語文献を読むことは研究の基本となる。「英語英米文学基礎講読」は基礎的な文献を正確に読み、内容を分析する能力を養うための演習科目として設置されており、担当者によって扱うテキストは異なるものの、その授業目的は同一である。また、秋学期に共通テストが実施される。

なお、本授業のクラス分けは4月初旬に発表されるので、必ずそれに従って履修登録をすること。

テキスト:

((E)[春], (F)[秋]) George McMical, ed., *Concise Anthology of American Literature* (Upper Saddle River: Prentice Hall, 2006). その他追って指示する。

【07】古代中世英語学 (要)(2)(春学期)

【07】古代中世英語学 (要)(2)(秋学期)

【04】古代中世英語学(4)(通年) 教授 松田隆美

授業科目の内容:

この講義の目的は、Old English, Middle English のテキストに実際に触れることで、イギリス中世の文学とその思想的背景について具体的に学ぶことである。春学期には、Old English への導入をするとともに、アングロ・サクソン期のイギリス文学についてテキストを実際に読みつつ解説する。秋学期には、Middle English の特徴を説明し、チョーサーなどの作品を通じて、中世後期イギリス文学とその背景について、さまざまな角度から考察する。

テキスト:

(春)プリントを配布する。

(秋)Chaucer, Geoffrey, *The Canterbury Tales*, selected and ed. by V. A. Kolve and Glending Olson, 2nd edn (New York: W. W. Norton, 2005)

【07】英語音声学 (要)(2)(春学期)
【07】英語音声学 (要)(2)(秋学期)
【04】英語音声学(4)(通年)
教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容:

This course will introduce the fundamental concepts of phonetics and phonology, and analyse the vowels, consonants, stress, rhythm and intonation of English.

テキスト:

ピーター・ローチ著『英語音声学・音韻論』(大修館書店)

【07】英語学演習 (1)(春学期)
【07】英語学演習 (1)(秋学期)
【04】英語学演習 A(2)(通年)
書誌学研究とは何か~中世からシェイクスピアまで~
商学部 教授 英 知 明

授業科目の内容:

文学作品を「物理的な存在としての書物」として捉え、その誕生や印刷工程、出版や流通を研究対象とする「書誌学(Bibliography)」への入門編。中世の目も眩む色彩鮮やかな手書きの写本時代から、手動印刷機の誕生を経て、作品が出版物として文芸の世界へと普及していくエリザベス朝までを扱う。特に作者原稿が劇場用台本へと姿を変え、最終的に書物として出版されるに至ったシェイクスピア時代の演劇作品を中心に、書誌学研究の理論と実践、及び問題点を考察する。論文、研究書の講読とともに、履修者による個人発表も予定している。書物への愛情と精緻な学問への関心を持ち、積極的に授業に取り組む学生を歓迎。

テキスト:

授業時に配布、または指示する。

【07】英語学演習 (1)(春学期)
【07】英語学演習 (1)(秋学期)
【04】英語学演習 B(2)(通年)
Elementary Old English
教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容:

Students will learn the elements of Old English, and read simple texts against the background of Anglo-Saxon culture.

テキスト:

C. Hough & J. Corbett, *Beginning Old English* (Palgrave)

参考書:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
- ・春秋ともに学期末試験を実施する

【07】英語学演習 (1)(春学期)
【07】英語学演習 (1)(秋学期)
【04】英語学演習 C(2)(通年)
社会言語学の諸問題 講師 唐須 教光

授業科目の内容:

テキストに沿いながら社会言語学の諸問題を具体的に考えていきます。

テキスト:

Language in Society. Suzanne Romaine Oxford U. P.

参考書:

随時指示します。

【07】英語学演習 (1)(春学期)
【07】英語学演習 (1)(秋学期)
【04】英語学演習 D(2)(通年)
社会言語学 講師 阿部 圭子

授業科目の内容:

Gumperz によって提唱された相互作用社会言語学は「言語と社会の相関を見るマクロ社会言語学」と「個人レベルのコミュニケーションからその関係性を分析するミクロ社会言語学」の融合を唱えている。

本講ではこの Gumperz の視点から文化の異なる人々(国, 民族, 人種その他性別, 年代, 職業などの下位概念も含む)のミスコミュニケーションの要因をその背景となる社会や文化とのかかわりにおいて考察する。

テキスト:

Gumperz, John J. *Language and Social Identity*. CUP.

参考書:

- ・唐須教光(編)『英語学文献解題 言語学』(研究社, 2000)
- ・小池生夫(編)『応用言語学事典』(研究社, 2003)
- ・John Gumperz(著)井上逸兵 他 訳『認知と相互行為の社会言語学 ディスコース・ストラテジー』(松柏社, 2004)

【07】英語学演習 (1)(春学期)
【07】英語学演習 (1)(秋学期)
【04】英語学演習 E(2)(通年)
文体論基礎文献講読・コーパス文体論研究
講師 奥 聡一郎

授業科目の内容:

春学期は文体論の基本文献である Leech & Short. (2007) *Style in Fiction. second edition.* の改訂された箇所講読から文体論の最新の動向を知る。秋学期には前期の知見を踏まえ、speech and thought presentation がどのような理論的な精緻化を経て、コーパス文体論の枠組に取り込まれるかを概観し、実際にコーパスの作成から、分析ソフトを用いたコロケーション、語彙頻度の分析を行い、各自の研究課題に活用できるところまで演習する。

テキスト:

Geoffrey Leech & Mick Short. *Style in Fiction. second edition.* (Harlow: Pearson Longman, 2007)

参考書:

Elena Semino and Mick Short. *Corpus Stylistics.* (London: Routledge, 2004)

【07】英語学演習 (1)(春学期)
【07】英語学演習 (1)(秋学期)
【04】英語学演習 F(2)(通年)
英語教授法概論 講師 平賀 優子

授業科目の内容:

江戸時代から現代に至るまでに我が国に紹介された英語教授法を歴史的に概観します。

英語教授法について基礎的な知識をつけることが本コースの目標です。

テキスト:

初回の授業で参考文献リストを配布します。テキストは特に指定しません。

【07】英語学演習 (1)(春学期)

【07】英語学演習 (1)(秋学期)

【04】英語学演習 G(2)(通年)

Creative Writing in English.

講師 コネリー, マーティン C.

授業科目の内容:

This is basically a writing course in English, with a focus on creative self-expression. We will study a number of forms: essay, short-story, poem, dialogue and journal. How can we describe people, places and things effectively? How can we get our ideas across effectively? How can we keep the reader's attention?

There will be an emphasis on production: learning by writing. A lot of the contents will be related to students' interests.

テキスト:

No set textbook - handouts will be provided.

参考書:

None.

【07】英語学演習 (1)(春学期)

【07】英語学演習 (1)(秋学期)

【04】英語学演習 H(2)(通年)

英語の変遷と英語英文学の生成・発展で見る英国人の

アイデンティティ発展のドラマ 講師 吉野利弘

授業科目の内容:

英国人を構成する諸民族の己の生き様発展のドラマを、すなわち、それぞれの己個人の、民族の、国民の、identity 確立の過程とその特質を、英語の変遷と英語英文学の生成・発展を通して、さらに我国のそれらも視野に、読み解いてみたい。分担文献の担当部分を精読報告してもらい、全体議論で論点、理解を深めたい。

テキスト:

分担文献所収のもの: Colley, L., *Britons: Forging the Nation, 1707-1837*. (New Haven and London, Yale UP, 1992); Lerer, S., *Inventing English: A Portable History of the Language* (New York: Columbia UP, 2007). Frantzen, A. J. and J. D. Niles, eds., *Anglo-Saxonism and the Construction of Social Identity* (Gainesville, FL: UP of Florida (1997)). 他教室で最初の時間に指示。

参考書:

教室で適宜指示。

【07】英文学演習 (1)(春学期)

【07】英文学演習 (1)(秋学期)

【04】英文学演習 A(2)(通年)

英文学史のパロディ [春] 教授 高宮利行

准教授 高橋勇

[秋] 准教授 高橋勇

授業科目の内容:

英文学史のパロディを用いた演習 (a 宮研究会履修者のみ)

テキスト:

Robert Manson Myers, *From Beowulf to Virginia Woolf*, Chicago: University of Illinois Press, 1984

【07】英文学演習 (1)(春学期)

【07】英文学演習 (1)(秋学期)

【04】英文学演習 B(2)(通年)

イギリス小説を愉しく論じるには?!

教授 河内恵子

授業科目の内容:

この授業では「小説の論じ方」について考える。

中心となる作品は20世紀の問題作のひとつ、*Wide Sargasso Sea* であるがこの他にもさまざまな作品を用いて、時間、空間、語り手、構

造 etc. といった、アスペクトから小説世界の分析を試みる。

テキスト:

Jean Rhys, *Wide Sargasso Sea*. New York: Norton, 1999.

参考書:

教室で指示する。

【07】英文学演習 (1)(春学期)

【07】英文学演習 (1)(秋学期)

【04】英文学演習 C(2)(通年)

イギリス・ルネサンスの詩の世界 教授 松田隆美

授業科目の内容:

Spenser, Shakespeare, Donne, Marvell, Milton など、16-17世紀を代表する詩人の作品を、抒情詩を中心に精読することで、ルネサンス期の詩の主題的特徴、詩的コンベンション、視覚芸術との密接な関連などについて考察します。

テキスト:

プリント配布。

参考書:

Norton Anthology of English Literature, vol. 1.

【07】英文学演習 (1)(春学期)

【07】英文学演習 (1)(秋学期)

【04】英文学演習 D(2)(通年)

18世紀英文学の精読演習を通じて、近・現代の出発点を確認する

講師 原田範行

授業科目の内容:

イギリス18世紀の文学作品の精読・演習を通じて、まず、当時の英文学作品の原典を正確に読みこなせる実力を培うこと、そしてその上で、文学研究の基本的な方法や論点を整理し、作品解釈の可能性についての思考力を養ってもらうことが本演習の目標です。18世紀は、詩、小説、伝記、批評などのさまざまな文学ジャンルが変化、分化、確立して行く時期であり、また印刷出版文化(ジャーナリズムや著作権論争を含む)が今日の相貌を帯び始める時期でもありますから、履修者の皆さんは、本演習を通じて、英語力の向上とともに、近・現代文学と文化の出発点を確認することができると思います。本年度は小説発生の最重要作品の一つであり、世界的名作として知られるジョナサン・スウィフトの『ガリヴァー旅行記』を取り上げます。

テキスト:

Jonathan Swift, *Gulliver's Travels* を教材とします。使用する版については、開講時に指示します。

参考書:

開講時に詳しく説明します。

【07】英文学演習 (1)(春学期)

【07】英文学演習 (1)(秋学期)

【04】英文学演習 E(2)(通年)

[春] 講師 阿部公彦

[秋] 准教授 高橋勇

授業科目の内容:

この授業では英詩を読んだり、英詩について語ったりするコツを勉強します。扱う素材は、比較的英語の平易な英国ロマン派の詩で、ワーズワスとコールリッジおよびその周辺の詩人の作品を読んできます。

授業では、単に英語の詩を日本語に訳すのではなく(英語が読めているかなどはチェックしますが)、なるべく英語の詩を英語のまま読んでもらうようにします。そうすることで詩を扱う方法を知り、実際に議論の練習もしてもらうつもりです。ペースとしては授業一回に作品ひとつ。担当者によるコメント、ディスカッションによる応答などの後、全体でのディスカッションからグループ・ディスカッションへと進みます。評価は平常点とレポートです。扱う作品についてはハンドアウトを配りますが、アンソロジーとして次のものを

手に入れておくくと便利です。

- ・ The Norton Anthology of Poetry, 4th ed., ed. by Margaret Ferguson... etc. (New York: Norton, 1996)
- ・ Romanticism: An Anthology, 2nd ed., ed. by Duncan Wu (Oxford: Blackwell, 1998)

【07】英文学演習 (1)(春学期)

【07】英文学演習 (1)(秋学期)

【04】英文学演習 F(2)(通年)

中世・初期近代の短詩研究 講師 小林 宜子

授業科目の内容：

中世から初期近代にかけて書かれた様々な短詩を、その背景となる文学的伝統や作品が生み出された当時の歴史的状況などを考察しながら原文で精読します。短詩と一口に言っても、その種類は作者不詳の中世詩歌(宗教詩もしくは恋愛詩)、中世後期のバラード、「嘆きの歌」、ソネットなど多岐にわたります。それぞれの詩の形式的特徴を理解したうえで、どのような文学的伝統に則って書かれているのか、どのような形で流布したのか、いかなる意味を伝え、いかなる情緒を表現しているのか、どのような社会的役割を果たしているのか、どのような政治的意図がその裏に隠されているのかなど、二次資料を用いながら多角的な視点から解釈を試みます。

テキスト：

Chaucer to Spenser: An Anthology of Writings in English, 1375-1575, edited by Derek Pearsall (Blackwell, 1999) 等から必要箇所(原文テキストおよび注釈)を抜粋してプリントで配布します。

参考書：

授業内に指示します。

【07】英文学演習 (1)(春学期)

【07】英文学演習 (1)(秋学期)

【04】英文学演習 G(2)(通年)

講師 ティンク, ジェイムズ M.

授業科目の内容：

In this course we will study in depth two plays by Shakespeare and consider the literary and historical contexts of English Renaissance drama. In the spring semester we will examine the genre of tragedy by reading *Macbeth*. During the semester we will compare this play with an earlier English tragedy, Christopher Marlowe's *Dr Faustus*.

In the autumn semester we will study the comedy *Twelfth Night* and compare this with the later seventeenth-century comedy *Bartholomew Fair* by Ben Jonson. In both semesters, students will be encouraged to read the original versions of all plays and to actively use secondary critical materials.

テキスト：

William Shakespeare. *Macbeth*. Ed. A. R. Baumuller. Cambridge: Cambridge U.P., 1997.

Twelfth Night. Ed. Elizabeth Story Donno. Cambridge: Cambridge U.P., 2004.

参考書：

Secondary sources (including any additional plays) will be provided by the course instructor.

【07】英文学演習 (1)(春学期)

【07】英文学演習 (1)(秋学期)

【04】英文学演習 H(2)(通年)

シェイクスピアとワーグナー 准教授 高橋 宣也

授業科目の内容：

シェイクスピアの後世への影響は広範かつ多岐にわたるが、数々の音楽家に与えたインパクトも無視できない。19世紀最大のオペラ作曲家と目されるドイツのリヒャルト・ワーグナーも、シェイクスピアを靈感の源とした一人であった。

ワーグナーのオペラは神話や伝説を土台にしたものがほとんどだ

が、彼は自分の文学観や人間観の範をシェイクスピアの演劇に見ていた。そして彼のオペラは、これもシェイクスピアと同様の長い影響力を後世に及ぼすことになる。

この授業では、この異ジャンルの巨人の影響関係を論じたテキストを読み解きながら、文学と音楽の関係の側面をたどっていきいたい。テキスト：

Margaret Inwood, *The Influence of Shakespeare on Richard Wagner* (Lampeter: The Edwin Mellen Press, 1999)

参考書：

三光長治, 高辻知義, 三宅幸夫監修『ワーグナー事典』(東京書籍)

【07】英文学演習 (1)(春学期)

【07】英文学演習 (1)(秋学期)

【04】英文学演習 I(2)(通年)

第一次大戦とモダニズム文学 講師 遠藤 不比人

授業科目の内容：

第一次大戦とモダニズム文学というテーマを巡って、複数の作品 Woolf, Lawrence, Mansfield など を精読します。またこのテーマについての基礎知識を得るために最新の研究を紹介します。

テキスト：

担当者が用意します。

参考書：

授業中複数を紹介します。

【07】英文学演習 (1)(春学期)

【07】英文学演習 (1)(秋学期)

【04】英文学演習 J(2)(通年) 講師 高橋 和久

授業科目の内容：

春学期は Thomas Hardy, *Under the Greenwood Tree* を通読する。長さも適当なので読了することを目指す。

秋学期は Hardy の代表作, *Tess* についての批評文献を読み、作品批評のコツを学ぶ。

テキスト：

Thomas Hardy, *Under the Greenwood Tree* (Penguin)

【07】英文学演習 (1)(春学期)

【07】英文学演習 (1)(秋学期)

【04】英文学演習 K(2)(通年)

休講

【04】英文学演習 L(2)(通年)

休講

【07】米文学演習 (1)(春学期)

【07】米文学演習 (1)(秋学期)

【04】米文学演習 A(2)(通年)

アメリカン・ルネッサンスの文学 教授 巽 孝之

授業科目の内容：

アメリカン・ルネッサンスはアメリカ文学思想史上、最初の黄金時代であった。その代表的文学者の作品群を1年間かけて読む。

テキスト：

George McMichael, ed., *Concise Anthology of American Literature* (Upper Saddle River: Prentice Hall, 2006). その他追って指示する。

参考書：

・ David Reynolds, *Beneath the American Renaissance* (1988; Cambridge: Harvard UP, 1989)

・ 巽孝之『ニュー・アメリカニズム』(青土社, 1995年)

その他学術雑誌論文多数を追って指示する。

【07】米文学演習 (1)(春学期)

【07】米文学演習 (1)(秋学期)

【04】米文学演習 B(2)(通年)

19世紀アメリカ詩 商学部 教授 朝比奈 緑

授業科目の内容：

19世紀アメリカにおける代表的な詩人である Emily Dickinson と Walt Whitman の詩を精読する。

また、両詩人を論じたエッセイを読み、アメリカの歴史・文化の文脈のなかで、比較検討をする。

テキスト：

・ *Selected Poems of Emily Dickinson* (Kenkyusha)

・ *Selected Poems of Walt Whitman* (kenkyusha)

・ プリント

参考書：

授業時にリストを配布する。

【07】米文学演習 (1)(春学期)

【07】米文学演習 (1)(秋学期)

【04】米文学演習 C(2)(通年)

翻訳実技演習 講師 嶋田 洋一

授業科目の内容：

小説の英日翻訳を実際に体験してもらい、英語読解力と日本語表現力の向上を目指します。前期は長篇を、後期は短篇を題材として扱います。

テキスト：

コピーを配布します。

【07】米文学演習 (1)(春学期)

【07】米文学演習 (1)(秋学期)

【04】米文学演習 D(2)(通年)

休講

【07】米文学演習 (1)(春学期)

【07】米文学演習 (1)(秋学期)

【04】米文学演習 E(2)(通年)

世紀転換期の短編小説を読む 講師 松川 祐子

授業科目の内容：

南北戦争終結から第一次世界大戦にアメリカが参戦するまでの間に活躍した作家の短編小説を読み、ディスカッションを通じて解釈を深めます。リアリズム文学や自然主義文学を通して、この時代に目まぐるしく変化していくアメリカを作家たちはどのように捉え、人種、民族、階級、ジェンダー、宗教、教育、地方やセクシュアリティなどの問題を作品で扱いながらどのように社会を批判したかを考察します。授業形式は基本的にディスカッションや発表を中心とします。1 1.5 回の授業で1つの短編小説を読み進めていきます。教室での活発な討論を期待しています。学生は前期と後期のペーパーを、提出の1週間前のワークショップ(お互いドラフトを読み合い、助言しあう)を経て学期末に提出します。また、学生は夏休み中に授業で読まない作品を教科書から選んで読み、後期の最初に授業でそれらの作品について発表します。

テキスト：

Nagel, James and Tom Quirk, eds. *The Portable American Realism Reader*. New York: Penguin, 1997 を教室で販売します。そのほかに評論、エッセイ、短編小説等のプリントを授業中に配付します。

参考書：

授業中に紹介します。

【07】米文学演習 (1)(春学期)

【07】米文学演習 (1)(秋学期)

【04】米文学演習 F(2)(通年)

アメリカン・ドラマを読む 法学部 教授 常山 菜穂子

授業科目の内容：

アメリカ演劇は、植民地時代から19世紀末までの長い大衆演劇の時代を経て20世紀に開花しました。本演習では、現代アメリカ演劇を代表する戯曲を精読します。演劇の解釈はテキストの精読だけでは足りず、そのテキストがいかなる時代にいかなる条件の下で上演されたのかといった社会的要素も考慮しなければなりません。作品を、制作当時の国家国民、政治経済、思想イデオロギーを考察しながら原文で読み解くことによって、ひいては、舞台に意識的/無意識的に反映されたアメリカの人と社会を浮き彫りにします。

テキスト：

下記の作品をペーパーバックで講読します。使用する版は初回授業で指定します。

参考書：

文献リストを初回授業で配布します。

【07】米文学演習 (1)(春学期)

【07】米文学演習 (1)(秋学期)

【04】米文学演習 G(2)(通年)

19世紀末から20世紀にかけての人種混淆小説

法学部 教授 奥田 暁代

授業科目の内容：

南北戦争後のアメリカ南部において、元奴隷の地位は向上したかのようだった。しかし、十九世紀末から二十世紀初頭にかけて、アフリカ系アメリカ人からさまざまな権利が剥奪されていく。これには、帝国主義の台頭、大衆文化の浸透、人種主義の蔓延、といった理由が考えられる。実際、一八九八年の米西戦争を境に帝国主義が定着するにつれて、人種隔離、投票権剥奪など黒人を二級市民として扱う政策が浸透していった。この過程で、人種主義とくにネガティブな黒人のイメージ形成に加担したのは、新聞や雑誌などのメディアと、小説などの大衆文化だった。前期は、世紀転換期に書かれたベストセラー Thomas Dixon, Jr. の *The Clansman* を通読しながら、この白人至上主義の小説がアメリカのアイデンティティ構築(国家再生)において、いかに重要な役割を果たしたかを考察する。後期は、黒人女性作家 Pauline Elizabeth Hopkins の人種混淆をテーマにした *Of One Blood* を読みながら、黒人社会の人種主義に対する反発を考察する。

テキスト：

前期は Thomas Dixon, Jr. *The Clansman* (University Press of Kentucky, 1970)

後期は Pauline Elizabeth Hopkins, *The Magazine Novels of Pauline Hopkins* (Oxford University Press, 1990)

参考書：

・トマス・ディクソン・ジュニア著『クー・クラックス・クラン 革命とロマンス』(水声社, 2006年)

・C・V・ウッドワード著『アメリカ人種差別の歴史』(福村出版, 1997年)

【07】米文学演習 (1)(春学期)

【07】米文学演習 (1)(秋学期)

【04】米文学演習 H(2)(通年)

トマス・ピンチョンの最新作を読む

講師 波戸岡 景太

授業科目の内容：

2006年に刊行された Thomas Pynchon の *Against the Day* を読む。Pynchon はベトナム戦争を境とするポストモダン小説を理解するうえで最重要作家の一人。本授業では、彼の最新にして最大のメガノヴェルを、大胆に縮約(abbreviation)することで、Pynchon 文学を楽しむ

つつ、現代アメリカ文学の可能性を探っていく。

テキスト：

Pynchon, Thomas. *Against the Day*, 2006. New York: Penguin, 2007.

参考書：

授業内で指示します。

【04】米文学演習Ⅰ(2)(通年)

休講

【07】英語学研究会 (3年)(要)(1)(春学期)
【07】英語学研究会 (3年)(要)(1)(秋学期)
【07】英語学研究会 (4年)(要)(1)(春学期)
【07】英語学研究会 (4年)(要)(1)(秋学期)
【04】英語学研究会 (3年)(2)(通年)
【04】英語学研究会 (4年)(2)(通年)
教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容：

This course will look at change in English by focusing on one genre, recipes.

【07】英語学研究会 (3年)(要)(1)(春学期)
【07】英語学研究会 (3年)(要)(1)(秋学期)
【07】英語学研究会 (4年)(要)(1)(春学期)
【07】英語学研究会 (4年)(要)(1)(秋学期)
【04】英語学研究会 (3年)(2)(通年)
【04】英語学研究会 (4年)(2)(通年)
教授 井上逸兵

授業科目の内容：

英語学・言語学の卒論準備指導

テキスト：

なし

参考書：

適宜授業中に指示する

【07】英文学研究会 (3年)(要)(1)(春学期)
【07】英文学研究会 (3年)(要)(1)(秋学期)
【07】英文学研究会 (4年)(要)(1)(春学期)
【07】英文学研究会 (4年)(要)(1)(秋学期)
【04】英文学研究会 (3年)(2)(通年)
【04】英文学研究会 (4年)(2)(通年)
教授 松田隆美

授業科目の内容：

イギリス文学に関する卒業論文を執筆する学生を対象として、研究発表を主体とした論文指導を行う。授業計画は、学期毎にプリントで知らせる。

テキスト：

アンドルー・アーマー、河内恵子、松田隆美、ウィリアム・スネル『アカデミックライティング応用編 文学・文化研究の英語論文作成法』(慶應義塾大学出版会, 1999年)

【07】英文学研究会 (3年)(要)(1)(春学期)
【07】英文学研究会 (3年)(要)(1)(秋学期)
【07】英文学研究会 (4年)(要)(1)(春学期)
【07】英文学研究会 (4年)(要)(1)(秋学期)
【04】英文学研究会 (3年)(2)(通年)
【04】英文学研究会 (4年)(2)(通年)
卒業論文指導 教授 河内恵子

授業科目の内容：

18世紀から現代にいたるイギリス文学に関連する卒業論文を提出する学生のためのゼミナール演習。

(研究発表, コメントシート作成, 面接が中心。)

参考書：

教室で指示する。

【07】英文学研究会 (3年)(要)(1)(春学期)
【07】英文学研究会 (3年)(要)(1)(秋学期)
【07】英文学研究会 (4年)(要)(1)(春学期)
【07】英文学研究会 (4年)(要)(1)(秋学期)
【04】英文学研究会 (3年)(2)(通年)
【04】英文学研究会 (4年)(2)(通年)
卒業論文指導 教授 高宮利行
准教授 高橋 勇

授業科目の内容：

英文学・イギリス文化関係で卒業論文を執筆するか卒業制作を行う学生のためのゼミナール演習

テキスト：

『MLA 英語論文の書き方』最新版, 北星堂

【07】米文学研究会 (3年)(要)(1)(春学期)
【07】米文学研究会 (3年)(要)(1)(秋学期)
【07】米文学研究会 (4年)(要)(1)(春学期)
【07】米文学研究会 (4年)(要)(1)(秋学期)
【04】米文学研究会 (3年)(2)(通年)
【04】米文学研究会 (4年)(2)(通年)
教授 巽 孝之

授業科目の内容：

春学期はアメリカ文学研究の基礎理論修得に費し, 4年の卒業制作経過報告に重点を置く。米文学演習Aと密接に連動させる。

秋学期より3年の卒業制作準備段階に入る。英語圏学術誌を含め少なからぬ文献を読むことになるため, 相当の覚悟が必要。

テキスト：

Jonathan Culler, *Literary Theory* (New York: Oxford UP, 1997).

参考書：

・巽孝之&渡部桃子編『物語のゆらめき アメリカン・ナラティブの意識史』(南雲堂, 1998年)
・ジョナサン・カラー『文学理論』(岩波書店, 2003年)ほか『MLA 英語論文の手引』など。

【07】米文学研究会 (3年)(要)(1)(春学期)
【07】米文学研究会 (3年)(要)(1)(秋学期)
【07】米文学研究会 (4年)(要)(1)(春学期)
【07】米文学研究会 (4年)(要)(1)(秋学期)
【04】米文学研究会 (3年)(2)(通年)
【04】米文学研究会 (4年)(2)(通年)
教授 宇沢美子
教授 巽 孝之

授業科目の内容：

卒業論文をアメリカ文学・文化で執筆する学生のための研究会です。春学期前半は基礎的な方法論習得, 代表的な論文の読解・議論を中心に, 春学期後半は4年生の論文中間発表を, 秋学期には3年生の論文中間発表の順に進めていきます。参考文献表の配布ならびに年間発表計画の決定は初回授業時に行います。

テキスト：

マスター・コピーを各自コピー

参考書：

・巽孝之, 渡部桃子編著『物語のゆらめき』(南雲堂, 1998年)
・Lois Tyson, *Critical Theory Today: A User-Friendly Guide*, second edition (Routledge, 2006).
・ジョゼフ・ジバルディ著, 『MLA 英語論文の手引き』第六版(北星堂書店, 2005年)他

【04】英語学特別演習 (2)(通年)

休講

【04】英語学特別演習 (4年)(2)(通年)

休講

【04】英文学特別演習 (2)(通年)

休講

【04】英文学特別演習 (4年)(2)(通年)

休講

【04】米文学特別演習 (2)(通年)

休講

【04】米文学特別演習 (4年)(2)(通年)

休講

選 択 科 目

【07】英語学 (2)(春学期)

【07】英語学 (2)(秋学期)

【04】英語学 A (4)(通年)

英語教育における現代英語学・コミュニケーションの英語学
講師 奥 聡一郎

授業科目の内容：

春学期は英語教育の観点から現代英語学の全体像について概観する。言語学、記号学を中心となる概念から英語学の諸相と英語教育への貢献について考察する。秋学期は英語教育の中心的な目標とされるコミュニケーション能力の育成について、英語学の観点から諸分野の成果と展望を踏まえながら講義を行う。英語教育に携わる上で知っておかないといけない専門用語については小テスト(平常点)を頻繁に行うので欠席と遅刻はしないこと。

テキスト：

春学期：特に指定しない。プリントを配布する。

秋学期：唐須教光編「文化とコミュニケーション(仮題)」慶應義塾大学出版会，2008を予定

参考書：

Akmajian et al. *Linguistics: An Introduction to Language and Communication*. (Boston: The MIT Press. 2001)

【07】英語学 (2)(春学期)

【07】英語学 (2)(秋学期)

【04】英語学 B (4)(通年)

社会言語学
講師 阿部 圭子

授業科目の内容：

本講では社会言語学の起源と定義，研究方法，変異研究，言語行動，社会的ステレオタイプ，多言語主義，相互作用社会言語学，言語と文化などに関する諸論文を取り上げ考察する。

テキスト：

Coupland, Nikolas, and Adam Jaworski (eds.). *Sociolinguistics: A Reader and Coursebook*. (Palgrave. 1997)

参考書：

・Ronald Wardhaugh 著『社会言語学入門』(リーベル出版，1994)
・小池生夫(編)『応用言語学事典』(研究社，2003)

【07】英語学 (2)(春学期)

【07】英語学 (2)(秋学期)

【04】英語学 C (4)(通年)

社会言語学(入門)
講師 平賀 優子

授業科目の内容：

1つの言語には、性別・年齢・地域・社会的地位等の要因により、様々な変異(バラエティー)が存在します。また、話し相手や、状況・場面にも影響を受けます。本講義ではこのような言語と社会の関わりについて、基本的な知識を身に付けることを目標とします。はじめて社会言語学を学ぶ人のための概論です。

テキスト：

初回の授業で参考文献リストを配布します。テキストは特に指定しません。

【07】英語学 (2)(春学期)

【07】英語学 (2)(秋学期)

【04】英語学 D (4)(通年)

英語の変遷と英語英文学の生成・発展で見る英国人の
アイデンティティ発展のドラマ
講師 吉野 利弘

授業科目の内容：

英国人を構成する諸民族の己の生き様発展のドラマを、すなわち、それぞれの己個人の、民族の、国民の、identity 確立の過程とその特質を、英語の変遷と英語英文学の生成・発展を通して、さらに我国のそれらも視野に、読み解いてみたい。適宜関連重点テキストを精読してもらい、理解を深めたい。

テキスト：

プリント。

参考書：

参考書 取りあえず，

・Colley, L., *Britons: Forging the Nation, 1707-1837* (New Haven and London, Yale UP, 1992)

・Lerer, S., *Inventing English: A Portable History of the Language* (New York: Columbia UP, 2007)

他教室で指示。

【07】英語学 (2)(春学期)

【07】英語学 (2)(秋学期)

【04】英語学 E (4)(通年)

英語史と言語変化
講師 堀田 隆一

授業科目の内容：

英語という言語の特徴を理解するためには、それがたどってきた歴史を学ぶことが不可欠である。英語の起源はどこにあるのか、英語に見られる不規則性は何に由来するのか、英語は将来どうなっていくのか、などの現代的な問題に歴史的・通時的な視点からアプローチすることで、多面的な英語観を形成することが、本授業の目標である。本授業では、一般的な英語史概論のように通史を記述するのではなく、主にトピック別に英語の歴史を通覧するという形態をとる。

参考書：

初回の授業で指示する。

【07】英語学 (2)(春学期)

【07】英語学 (2)(秋学期)

【04】英語学 F (4)(通年)

英語(言語)の使用と社会的側面 教授 井上 逸兵

授業科目の内容：

英語学全般にふれつつ、語用論(春学期)、社会言語学(秋学期)の基本文献(やさしい、という意味ではない)をテキストとして英語の使用の諸側面を論ずる。

テキスト：

S. Levinson, *Pragmatics*. Cambridge UP.
R. Hudson, *Sociolinguistics*. Cambridge UP.

参考書：

授業中および授業のホームページで指示する。

【07】英語学 (2)(春学期)

【07】英語学 (2)(秋学期)

【04】英語学 G (4)(通年)

認知言語学入門 講師 谷 みゆき

授業科目の内容：

本講義では認知言語学に関する基本的な知識を身につけることを目的とします。具体的には、春学期に入門書を使用して認知言語学の理論を支えるフレームワークを概観し、秋学期は春学期に学習した基礎をもとに、いくつか論文を取り上げ、実際に認知言語学の枠組みを通して言語について考えます。

テキスト：

春学期：David Lee, *Cognitive Linguistics: An Introduction*. (OUP, 2001)

秋学期：プリントを配布します。

参考書：

- ・河上誓作 編著『認知言語学の基礎』(研究社)
 - ・辻幸夫 編『認知言語学キーワード事典』(研究社)
- この他、初回授業で参考文献リストを配布します。

【07】英文学 (2)(春学期)

【07】英文学 (2)(秋学期)

【04】英文学 A (4)(通年)

18, 19世紀の社会思想史と英文学 講師 草 光 俊 雄

授業科目の内容：

「長い18世紀」、「長い19世紀」の社会思想を概観し、とくに古典時代と中世への視点の対立に注目して考えを深めていく。そして英文学がこれらの社会思想をどのように反映しているかを明らかにしていく。また文学批評と同時代の社会思想との関連も考えていきたい。

テキスト：

Paul Langford, *A Polite and Commercial People* (O. U. P)

参考書：

授業中に適宜示す。

【07】英文学 (2)(春学期)

【07】英文学 (2)(秋学期)

【04】英文学 B (4)(通年)

シェイクスピアの受容と変容

商学部 准教授 大 矢 玲 子

授業科目の内容：

400年前のイギリスで活躍した劇作家、ウィリアム・シェイクスピアの作品は、時代と国境を越えて多くの人々に愛されているのみならず、さまざまな批評家や芸術家による再評価、再創造が続いています。この授業ではシェイクスピアの戯曲の登場人物たちに注目し、時代につれて彼らがさまざまに姿を変えては新たな生命を得てきた過程を検討します。それぞれに魅力ある登場人物たちの死後の生(arterlife)を、舞台、絵画、映画、小説など多様な媒体のなかにたどることで、文化のダイナミックスの一側面に光をあてるのが、この授業の目標です。

テキスト：

授業中に配布します。

参考書：

William Shakespeare, *Complete Works*. Gen ed. Richard Proudfoot, Ann Thompson, and David Scott Kastan. The Arden Shakespeare. (London, 2001)

【07】英文学 (2)(春学期)

【07】英文学 (2)(秋学期)

【04】英文学 C (4)(通年)

18世紀, 19世紀イギリス女性作家 講師 中 村 哲 子

授業科目の内容：

Fanny Burney が *Evelina* を出版した1778年からJane Austen が亡くなった1817年までの40年間における女性作家の系譜をたどりま。当時の歴史的, 社会的, 文化的背景を学びながら, 小説を中心に, 女性の文学史について理解を深めます。

春学期 English Women Writers

Fanny Burney, Mary Wollstonecraft, Jane Austen といったイングランドの女性作家を軸として講義を進めます。なお, 鍵となる作品として Jane Austen の *Pride and Prejudice* (1813) を扱います。

秋学期 Anglo-Irish and Anglo-Indian Women Writers

Maria Edgeworth, Sydney Owenson, Elizabeth Hamilton といったアイルランドやインドを描いた作家に目を向け, イングランドの作家とは異なる立場からどのような作品を書いたかを学びます。

テキスト：

授業にて指示する

参考書：

授業にて指示する

【07】英文学 (2)(春学期)

【07】英文学 (2)(秋学期)

【04】英文学 D (4)(通年)

ゴシック小説と旅 准教授 坂 本 光

授業科目の内容：

この授業では, 18世紀のホレス・ウォルポールから20-21世紀のステューブ・キングやアン・ライスまでの主要なゴシック作家を取り上げ, 必要に応じて文学以外の領域にも目を配りながら, そこに描かれた様々な時代の「旅」を考察する。良家の子弟が世に出る前に大陸へと出かけたグランド・ツアー, 観光旅行の始まり, そして大量輸送機関の発達による旅行産業の成立と興隆など, ゴシック文学の発展は時代時代の旅の形と密接に結びついてきた。その意外にして必然的な関係を鳥瞰しながら, 個々の作品を論じてゆく。

参考書：

David Punter, *The Literature of Terror: A History of Gothic Fictions from 1765 to the Present Day*, 2nd ed., 2 vols. (London: Longman, 1996)

【07】英文学 (2)(春学期)

【07】英文学 (2)(秋学期)

【04】英文学 E (4)(通年)

書物史から見た英文学 「一冊の本 その誕生, 受容と影響」

[春] 教授 高 宮 利 行

[秋] 教授 松 田 隆 美

授業科目の内容：

昨今アメリカを中心に, 書物の社会史ともいべき書物史が盛んとなり, 例えばペンシルヴァニア州立大学には書物史学部が誕生し, 書物史学会 (SHARP) や初期書物学会は定期的に国際会議を主催, 研究所の数も増大の一途である。

前期はV官が各回に主題を定めて解説する。できるだけ現物やデジタル画像を用いる。

後期は松田が中心に, 講師を迎えてオムニバス形式で展開する。

参考書：

教室で適宜指示します。

【07】英文学 (2)(春学期)

【07】英文学 (2)(秋学期)

【04】英文学 F(4)(通年)

アーサー王物語の魅力 [春] 教授 高宮利行
[秋] 准教授 高橋 勇

授業科目の内容:

アーサー王伝説の起源と発展, 現代における受容の諸相を, 歴史, 文学, 音楽, 美術, 映画などを通して多角的に扱う。

テキスト:

高宮利行『アーサー王物語の魅力』秀文インターナショナル

参考書:

高宮利行『アーサー王 歴史と伝説』東京書籍, 『アーサー王伝説万華鏡』新中央公論社

【07】英文学 (2)(春学期)

【07】英文学 (2)(秋学期)

【04】英文学 G(4)(通年)

20世紀のイギリス小説 教授 河内 恵子

授業科目の内容:

20世紀のイギリス小説を文学史の重要項目を軸に考察する。

いわゆる「canon の作品」の裏に存在する作品にも触れ, 20世紀のイギリス小説を多角的にとらえるのが目的である。

「歴史のなかの文学」を具体的に考察していきたい。

テキスト:

プリントを配布する。

参考書:

教室で指示する。

【07】英文学 (2)(春学期)

【07】英文学 (2)(秋学期)

【04】英文学 H(4)(通年)

教授 松田 隆美

授業科目の内容:

〔春学期〕イギリス文学と絵画

ルネサンス期には詩と絵画を姉妹芸術とみなす伝統が存在したが, 文学と絵画はしばしば題材やモチーフを共有し, また書物においてテキストと挿絵は相互補完的な関係を保ってきた。この講義では, 中世から19世紀のイギリス文学を対象として, 文学と絵画(写真を含む)との主題の共有, 作品中に登場する美術品の役割, 書物(中世写本を含む)における挿絵とテキストの関係, 図像学的アプローチの文学研究への有効性など, さまざまなトピックについて具体例を挙げつつ考える。文学と絵画との比較研究のための様々な方法論を学ぶことを目的とする, 講義形式の授業。

〔秋学期〕「イギリス文学とイタリア」

中世以来, イギリス文学にとって, イタリアは様々な意味でインスピレーションであり続けてきた。イギリスにとって, 14世紀のイタリアはダンテやペトルルカを輩出した文芸の先進国であったが, 宗教改革の16世紀になると, その爛熟した文化は, カトリシズムやマキャヴェリズムのような「危険思想」の温床ともみなされるようになった。17, 18世紀には, イタリアは「グランド・ツアー」の最終目的地となり, また19世紀のロマン派以降はノルタルジックな憧憬の対象となる。イタリアを舞台としたイギリス文学, イタリア旅行記, 近代イタリアの風景画などを素材として, イタリアがイギリス文学の展開にいかに関与を与え, また受容されてきたかを具体的に考察する講義形式の授業。

テキスト:

プリントを配布。

【04】英文学 I(4)(通年)

休講

【07】米文学 (2)(春学期)

【07】米文学 (2)(秋学期)

【04】米文学 A(4)(通年)

ピューリタン思想とネイチャー・ライティング
講師 佐藤 光重

授業科目の内容:

春学期は, ピューリタン入植史とピューリタン文学を解説する。秋学期は, 魔女狩り, 超絶主義文学, 自然文学を取り上げる。自然文学の講義では H. D. Thoreau の *Walden* (邦訳『森の生活』) を中心に, R. Carson, A. M. Lindbergh, G. White らの作品を扱う予定である。

テキスト:

・プリント配布(春学期)

・H. D. Thoreau, *Walden* (Dover 版)(秋学期)

参考書:

巽孝之『ニューアメリカニズム 米文学思想史の物語学』(青土社, 2005年)

【07】米文学 (2)(春学期)

【07】米文学 (2)(秋学期)

【04】米文学 B(4)(通年)

ハーレム・ルネサンス期の黒人モダニズム文学

講師 新田 啓子

授業科目の内容:

本講は, 1910年代後半から1940年代初頭までのアメリカ黒人芸術動向を現す「ハーレム・ルネサンス」の時代における文芸創作を扱うものである。ハーレム・ルネサンスは, 南北戦争後に開放された黒人奴隷が南部から北部へ大量に移住し, シカゴやハーレムなどで都市文化を築き上げた結果, 花開いた。それは, 近代化を加速させる米国の歴史的・文化的背景を伴って, 広くモダニズム芸術と呼ばれる潮流の一部として, かつまたそれに対する抵抗として進展した。前期の授業ではまず, こうした潮流が必然的に連動させた商業文化・芸術・政治の諸相をテーマ敵に読み解いていく。そして後期の授業では, ハーレム・ルネサンス文芸におけるキーパーソンとかれらの作品を取り上げながら, 前期に得た基礎知識の深層を, さらに具体的に掘り下げて行く。

テキスト:

初回クラスで指示

参考書:

初回クラスで指示

【07】米文学 (2)(春学期)

【07】米文学 (2)(秋学期)

【04】米文学 C(4)(通年)

表象文化: オリエンタリズム再考 講師 村上 由見子

授業科目の内容:

今再び「オリエンタリズム」を考え, 私たちを取り巻く状況を併せて考えていきます。サイードの著書をテキストにし, 授業では特に「アラブ・ムスリムをめぐる表象」について, 文学, 絵画, 写真, ハリウッド映画など欧米の表象文化史から具体的に検証していく予定です。私たちの知らないアラブ・ムスリムを探る機会とし, 9・11以降のアメリカと世界状況にも視線を広げて考えたいと思います。

テキスト:

エドワード・W・サイード『オリエンタリズム(上)(下)』(平凡社ライブラリー, 各1500円)

【07】米文学 (2)(春学期)

【07】米文学 (2)(秋学期)

【04】米文学 D(4)(通年)

休講

【07】米文学 (2)(春学期)

【07】米文学 (2)(秋学期)

【04】米文学 E (4)(通年)

現代アメリカ詩

講師 渡部 桃子

授業科目の内容：

日本におけるアメリカ合衆国の文学が、マイナーな存在であるかどうかについては、様々な意見があるだろうが、日本に「輸入」されるアメリカ文学というものの中で、もっともマイナーなのは、詩ではないかと思われる。この授業では、アメリカ詩の流れと現在のアメリカ詩の状況を概観した後、モダニズム・モダニズム以後の詩人たちの作品を読んでいく。

テキスト：

プリントを配布

参考書：

初回の授業で提示

【07】米文学 (2)(春学期)

【07】米文学 (2)(秋学期)

【04】米文学 F (4)(通年)

アメリカン・ポピュラー・ミュージックの文化史

法学部 准教授 大和田 俊之

授業科目の内容：

ブルース、ジャズ、カントリー、R&B、ロックンロール、ファンク、ヒップホップなど、20世紀ポピュラー音楽の多くはアメリカで誕生した。本講義では、アメリカの音楽文化を社会との関わりにおいて考察し、様々な音楽ジャンルがどのように形成され、発展してきたかをたどる。19世紀の minstrel・show から現代のポピュラー・カルチャーまで概観するが、その際、「アメリカ音楽の歴史」を単に年代順に解説するだけでなく、そのような「音楽史」そのものがどのように構築されてきたかという系譜学的手法を用いて講義する。

ある国の音楽文化は、その国の社会制度や政治形態、さらには産業構造と無縁ではない。特にアメリカにおいては、ブルースやジャズ、それにカントリーなど主に「人種」によって分節化される音楽ジャンルの発展は、各時代の政治的イデオロギーと密接な関係がある。また、女性やアフリカ系アメリカ人、さらにはヒスパニックのミュージシャンの活躍は、フェミニズムやポストコロニアリズムなどの運動/理論と無関係ではあり得ない。

昨今の批評理論の発達により、アメリカのポピュラー音楽文化に関する研究書の刊行も目覚ましい勢いで進んでいる。そうした最新の研究成果を踏まえたうえで、最終的にはアメリカン・ポピュラー・ミュージックの日本への流入にも触れる予定。

講義の性質上、CD、DVD、ビデオ等の資料を頻繁に利用し、実際の音源や映像を通してアメリカのポピュラー音楽に対する理解を深めたい。

テキスト：

プリントを配布する。

【07】アカデミック・ライティング A (要)(1)(春学期)

【07】アカデミック・ライティング A (要)(1)(秋学期)

【04】アカデミック・ライティング A (2)(通年)

Academic Writing A 教授 スネル、ウィリアム J.

授業科目の内容：

The aim of this course is to introduce and develop skills in academic written English for students who are required to complete their graduation thesis in that language.

テキスト：

A. Armour, 河内恵子, 松田隆美, W. Snell 『アカデミックライティング 応用編 文学・文化研究の英語論文作成法』慶應義塾大学出版会

In addition to this text, photocopied materials will be used.

参考書：

To be announced at an early stage in the course.

【07】アカデミック・ライティング B (要)(1)(春学期)

【07】アカデミック・ライティング B (要)(1)(秋学期)

【04】アカデミック・ライティング B (2)(通年)

助教 吉田 恭子

授業科目の内容：

論旨が通りがつ形の整った英語エッセーを書くための技術を習得するのがこの授業の目的です。そのためパラグラフライティングの演習、論文形式の習得、書誌の作成や資料収集など多角的な学習を行うなかで、この授業は自分や人の書いた文章を分析し見直し添削する作業を通して、推敲技術の習得に特に力を入れます。

テキスト：

『MLA 英語論文の手引き』第6版(北星堂, 2005)

参考書：

『アカデミック・ライティング 応用編』(慶應義塾大学出版会, 1999)

【07】アカデミック・ライティング C (要)(1)(春学期)

【07】アカデミック・ライティング C (要)(1)(秋学期)

【04】アカデミック・ライティング C (2)(通年)

講師 松川 祐子

授業科目の内容：

この講座では、どのようにして自分の意見を明確な英語で文章にして読み手を説得するのかを勉強し、練習します。与えられたテーマについての自分の意見や主張を探るためのアイデア引き出し方法から始め、その次に意見と分析方法を示す thesis statement の書き方、段落の構造、論理の組み立て方、結論の書き方等を学びます。その他には読者説得術、引用方法や参考文献リストの作成法、自分の文章の手直し方法なども取り上げます。授業では、ディスカッションに加え、個人及びグループでの作業が行われます。前期はスキル習得、後期はその実践を中心に勉強します。

テキスト：

未定。(履修者と相談の上、適切なものを選び、教室で販売します。) また、授業中に教材のプリントを配付します。

参考書：

ジョゼフ・ジバルディ著 原口敬一監修 樋口昌幸訳編 『MLA 英語論文の手引き』第6版 北星堂書店, 2007年。ISBN:978-4-590-01170-7

【07】アカデミック・ライティング D (要)(1)(春学期)

【07】アカデミック・ライティング D (要)(1)(秋学期)

【04】アカデミック・ライティング D (2)(通年)

講師 白鳥 義博

授業科目の内容：

本授業では英語の学術論文の書き方を練習します。ある論文が academic であると評価されるには三つのポイントがあります。まず、論文のテーマとそのテーマに対する筆者の主張が大学という場所において他者の興味と関心を十分にひきつけるものでなければなりません (relevance)。次に、筆者の主張はそれをサポートする十分な事実やデータなどの素材と共に、合理的なパラグラフの構造で表現されなければなりません (paragraph writing)。最後に、表現されたものは何らかの書式に正しく基づいていなければなりません (style)。以上の三点 学問的に relevant なテーマに関するあなたの意見を、わかりやすいパラグラフおよび正しい書式で書く を、担当講師が与えるさまざまな課題やテーマにしたがって、ゆっくりと時間をかけて十分に練習します。

テキスト：

プリント教材を販売します。

参考書：

『MLA 英語論文の手引き』第6版(北星堂, 2005)

【07】アカデミック・ライティング E (要)(1)(春学期)

【07】アカデミック・ライティング E (要)(1)(秋学期)

【04】アカデミック・ライティング E(2)(通年)

講師 狩野みき

授業科目の内容：

英語で論文を書くための演習クラスです。正しい文法・語彙を使うことはもちろん、日本語の論文と英語の論文の論旨の組み立て方の違い、さらには、どうしたら読者を引きつける書き方ができるか、ということに焦点をあてて授業を進めていきます。受講者の積極的な参加を希望します。

テキスト：

なし

参考書：

なし

独文学専攻

必修科目

【07】テキスト研究中級 (1)(春学期)

【07】テキスト研究中級 (1)(秋学期)

【04】テキスト研究中級(2)(通年)

ドイツ文学の小品を読む 教授 斎藤 太郎

授業科目の内容：

ドイツ文学の作品のなかから、比較的平易で短時間に読了することが可能な文章を選んで精読する。併せて1年次に学んだ文法知識の復習をおこないたい。カフカやヘッセの掌編小説、ゲーテ、ハイネ、リヒテンベルク、ニーチェ等のアフォリズム、グリム兄弟のメルヘンなどを読む予定だが、参加者の希望があれば大いに歓迎したい。

テキスト：

プリントを用意する

【07】ドイツ文学史 (要)(2)(春学期)

【07】ドイツ文学史 (要)(2)(秋学期)

【04】ドイツ文学史(4)(通年) 教授 和泉 雅人

授業科目の内容：

ドイツ文学史を中世から現代まで講義します。文学史は文学知識の基礎であり、またドイツ文学全体を概観する上で欠かせない思考モデルを提供してくれるものです。ただ、文学史はさまざまなイデオロギーや方法論に左右されやすいというのも事実です。本講義では、伝統的な手法を踏襲しつつ、可能な限り最新のデータを使用しながら、中世から現在までのドイツ文学の流れを追っていくとともに、そのなかで登場する専門用語・概念・文学の基礎知識なども学んでいきます。同時にマルクス主義的・民族主義的・伝統批判的な文学史認識もおりにふれて紹介していきます。前期の進度予定は中世から18世紀後半(いわゆる古典主義)までとし、後期のそれは18世紀末(ロマン主義)から現代までとします。

テキスト：

『ドイツ文学史』佐藤晃一他著。明治書院。1972年発行。318頁。2310円(古書の場合は、だいたい400円から500円程度。古書でもかまいません。)

参考書：

開講時、およびそのつど指示します。各講義において資料を配布する。

【07】ドイツ文化史 (2)(春学期)

【07】ドイツ文化史 (2)(秋学期)

【04】ドイツ文化史(4)(通年)

ドイツ中世の文学と思想 教授 香田 芳樹

授業科目の内容：

この授業は、中世ドイツを代表する文学作品を、従来とは違った文化史的な視点から解説していくことを目的としています。とくに中世を「脱神話化の時代」と位置づけ、作家たちが民族固有の神話的素材をどのように文学へと作りかえていったかをみていきます。またそれと平行して、現代の芸術作品(ファンタジー文学・音楽・演劇)に中世の英雄叙事詩、恋愛叙情詩、神秘思想が与えた影響についても考察します。できるだけ多くの原典(翻訳)に当たり、映像資料も使って、ヨーロッパ文化に今も息づく意識の古層に迫りたいと思います。

テキスト：

講義資料のプリントを配布します。

参考書：

ヨアヒム・ブムケ『中世の騎士文化』(平尾浩三他訳)

【07】ドイツ語学研究 (2)(春学期)

【07】ドイツ語学研究 (2)(秋学期)

【04】ドイツ語学研究(4)(通年) 教授 中山 豊

授業科目の内容：

音、語、文、テキストの各レベルにおけるドイツ語のしくみについて理解を深めることをめざします。また言葉の意味の変化、ドイツ語のさまざまな変種なども扱う予定です。演習つきの講義ですので履修者の積極的な参加を期待します。

【07】現代ドイツ研究 (2)(春学期)

【07】現代ドイツ研究 (2)(秋学期)

【04】現代ドイツ研究入門(4)(通年)

現代ドイツとその表象 教授 大宮 勲一郎

授業科目の内容：

ドイツの現代史(ここでは1945年以降とします)は、様々な出来事と、その表現の仕方によっていくつかの画期に分けることができます。敗戦、非ナチ化、戦争裁判、東西ドイツの建国、経済復興、学生運動、「壁」の崩壊、ドイツ統一、さらにオリンピックやワールドカップなどがテーマになります。これらがドイツ・イメージとどのように関係するかを考えてゆく授業です。

テキスト：

追って指示します。

【07】現代ドイツ研究 (2)(春学期)

【07】現代ドイツ研究 (2)(秋学期)

【04】現代ドイツ研究(4)(通年)

Europa—Mythos und Idee im Spiegel der deutschen Literatur

教授 フュルンケース、ヨーゼフ

授業科目の内容：

Europa kann nicht auf Wirtschaft und Politik, kann nicht auf den aktuellen Integrationsprozeß der Europäischen Union reduziert werden. Europa als Mythos und Idee hat eine lange Geschichte, die sich in der Literatur spiegelt. Am Anfang steht der antike Mythos von der Entführung der phönizischen Königstochter Europa durch den griechischen Gott Zeus in Stiersgestalt. Daß Europa aus Asien stammt, hat bis heute nicht wenig zur produktiven Rezeption des Mythos beigetragen. Romantischer Nationalismus und europäische Idee sind ihrerseits Geschwister: Europa spricht viele National-sprachen, und auf der Suche nach der europäischen Identität ist Einheit nur in der Vielfalt zu haben.

Um die Frage nach Europa im Spiegel der deutschem Literatur zu konkretisieren, werden Texte seit dem 19. Jahrhundert ausgewählt: von u.a. Heine, Nietzsche über Hofmannsthal, Zweig, Heinrich und Thomas Mann bis zu Ernst Jünger, Hesse, Heiner Müller, Enzensberger.

テキスト：

Texte: Almut-Barbara Renger (Hg): Mythos Europa. Texte von Ovid bis Heiner Müller.

Reclam Verlag, Leipzig 2003; und: Paul Michael Lützel (Hg): Plädoyers für Europa.

Stellungnahmen deutschsprachiger Schriftsteller 1915–1949. Fischer Taschenbuch Nr.5492, Frankfurt am Main 1987.

Texte und Materialien werden auf Wunsch als Kopien zur Verfügung gestellt, weitere Literature wird zu Beginn angegeben.

【07】テキスト研究上級 (1)(春学期)

【07】テキスト研究上級 (1)(秋学期)

【04】テキスト研究上級 A(2)(通年)

クルツイウスを読む 教授 桑川 麻里生

授業科目の内容:

E.R. クルツイウスはしばしば、「20世紀における最も重要なドイツ人文学研究者である」と呼ばれますが、それは、この世紀におけるドイツとヨーロッパの「精神の危機」を深く感じ取り、ヨーロッパ人文主義の未来を真摯に考察し続けたことによります。本講座では1932年に出版された「Deutscher Geist in Gefahr (危機に立つドイツ精神)」のいくつかの賞を精読することで、クルツイウスの思想の一端に触れたいと思います。

テキスト:

コピーで配布します。

参考書:

『ヨーロッパ文学とラテン中世』(クルツイウス著, 南大路振一訳, みすず書房, 1987年)

【07】テキスト研究上級 (1)(春学期)

【07】テキスト研究上級 (1)(秋学期)

【04】テキスト研究上級 B(2)(通年)

教授 和泉 雅人

授業科目の内容:

今年度前期はテキストとして Das Geheimnis des Fahrradhändlers. Aus dem Französischen übersetzt von Patrick Süskind. Diogenes Verlag, Zürich 1996. (104頁) を選びました。これはフランスのイラストレーター兼作家のサンペが本文と挿絵を書いたものを、現代ドイツ作家でもトップに位置するジュスキントが独訳したものです。ジュスキントのドイツ語は明るく、軽やかなのが特徴で、文法的にも難しい問題はありません。この掌編は挿絵が非常に多く、テキストが少ないので、これを前期中に読み上げて、基礎文法の復習と中級・上級語法・文法の習得を目指しながら、本を一冊読み終わるという感覚を得たいと思います。難易度は中級前半程度です。

今年度後期は週刊誌『シュピーゲル』や代表的なドイツの新聞のなかからの記事をテキストに選び、ドイツの知識人たちが読んでいたテキストに慣れることを目標にします。ここでもまた基礎文法の復習と中級・上級語法・文法の習得の作業は欠かせません。難易度は上級前半ですが、予習しただけの収穫はあると思います。

この授業の終了後には自力でドイツ語の本が読めるようになっていることが目標です。参加者の資格は問いませんが、一年終了時程度のドイツ文法の知識が前提されています。

参考書:

開講時、およびそのつど指示します。

【07】ドイツ語作文初級 (1)(春学期)

【07】ドイツ語作文初級 (1)(秋学期)

【04】ドイツ語作文初級 (2)(通年)

Schreiben für Anfänger

訪問講師 招聘) ドゥッペル - タカヤマ, メヒティルド

授業科目の内容:

In diesem Kurs lernen die Teilnehmer, kurze Texte auf Deutsch zu schreiben: Gedichte, Reportagen, Geschichten, Briefe und E-Mails. Am Ende des Jahres soll eine Zeitschrift veröffentlicht werden.

テキスト:

プリントを配布します。

【07】ドイツ語作文中級 (1)(春学期)

【07】ドイツ語作文中級 (1)(秋学期)

【04】ドイツ語作文中級 (2)(通年)

講師 シュミット, ウーテ

授業科目の内容:

ドイツ語の表現力のアップを目指し、小テキスト作成の練習をします。Zentrale Mittelstufenprüfung のときに試験の一部としてプライベートな手紙・オフィシャルな手紙・読者の意見・小レポートを書くことが要求されます。このテキストの種類を作成するための書き方や表現も練習します。ネタになるドイツ語のテキスト・グラフ・表などはドイツの新聞やインターネットから取りまでするので、時事ドイツ語に役立ちます。テキストを書くことはどうしても時間がかかりますのでテキストの作成は宿題となります。テキストの長さは長い場合 A4 1枚までです。提出した宿題は評価しません。

In diesem Kurs soll das Verfassen von kurzen Texten geübt, wie sie z. B. auch bei der Zentralen Mittelstufenprüfung des Goethe-Instituts verlangt werden. Textformen sind dabei persönlicher Brief, offizieller Brief, Leserbrief oder Referat, worin Sie Ihre Meinung ausdrücken oder einen bestimmten Sachverhalt darstellen müssen. Die dazu notwendigen Formen bzw. Redewendungen werden im Unterricht vermittelt und geübt. Als Material werden aktuelle Texte aus Zeitungen oder dem Internet verwendet. Eine schriftliche Abschlußprüfung mache ich nicht, aber die Teilnehmer müssen als Hausaufgabe Texte erstellen, die ich dann bewerte. Keine Angst, die Texte müssen nicht lang sein (bis A4 1 Seite).

テキスト:

コピー

参考書:

なし

【07】コミュニケーション・ドイツ語中級 (1)(春学期)

【07】コミュニケーション・ドイツ語中級 (1)(秋学期)

【04】コミュニケーション・ドイツ語中級 A(2)(通年)

Deutsche Konversation für fortgeschrittene Anfänger

訪問講師 招聘) ドゥッペル - タカヤマ, メヒティルド

授業科目の内容:

ドイツ語を一通り学習した学生のためのドイツ語会話のコースです。日常生活に必要なドイツ語の復習をしながら、様々なテーマについて自分の意見をドイツ語で表現できるようになるのが目標です。

テキスト:

Projekte (同学社, 2005年, 2,500円)

【07】コミュニケーション・ドイツ語中級 (1)(春学期)

【07】コミュニケーション・ドイツ語中級 (1)(秋学期)

【04】コミュニケーション・ドイツ語中級 B(2)(通年)

Deutsche Konversation für fortgeschrittene Anfänger

訪問講師 招聘) ドゥッペル - タカヤマ, メヒティルド

授業科目の内容:

ドイツ語を一通り学習した学生のためのドイツ語会話のコースです。

テキスト:

Projekte (同学社, 2005年, 2,500円)

【07】コミュニケーション・ドイツ語上級 (1)(春学期)

【07】コミュニケーション・ドイツ語上級 (1)(秋学期)

【04】コミュニケーション・ドイツ語上級 A(2)(通年)

Konversation und Aufsatz für Fortgeschrittene

教授 フュルンケース, ヨーゼフ

授業科目の内容:

Ziel der Übung ist mündliche und schriftliche Kommunikations-

schulung. Ausgehend vom Hörverständnis und Lesevermögen sollen die Sprechfähigkeiten und Schreibfertigkeiten der Teilnehmer verbessert werden.

Durch den produktiven und reproduktiven Umgang mit aktuellen Themen und Texten aus Deutschland sollen auch die Diskursformen der deutschen Bildungssprache, wie sie in Presse und Medien erscheinen, näher gebracht werden. Thematische Anregungen von seiten der Teilnehmer sind willkommen.

テキスト：

Die Ausgangstexte werden als Kopien vor dem / im Unterricht verteilt.

【07】コミュニケーション・ドイツ語上級 (1)(春学期)

【07】コミュニケーション・ドイツ語上級 (1)(秋学期)

【04】コミュニケーション・ドイツ語上級 B(2)(通年)

Kommunikationskurs Mittelstufe

訪問講師(招聘) ドゥッペル・タカヤマ, メヒティルド

授業科目の内容：

ドイツ語の総合的な力を高め、Zertifikat Deutsch (ZD) レベルのドイツ語を身につけることが本講義の目標です。日常生活に即したテーマに関して、ドイツ語の語彙や表現を学び、様々な種類のテキストを読み、自分の考えを相手に伝える練習をしていきます。

テキスト：

プリントを配布します。

【07】ドイツ文法研究 (1)(春学期)

【07】ドイツ文法研究 (1)(秋学期)

【04】ドイツ文法研究(2)(通年)

現代ドイツ語文法入門 理工学部 准教授 横山 由広

授業科目の内容：

現代ドイツ語文法の入門書を講読して、その全体像と基本的な概念に親しむとともに、ドイツ語のテキストを正確に読む能力を高めることを目指します。教科書に予定している Schülerduden Grammatik は、ドイツの高校生向け参考書シリーズ Schülerduden の一冊で、ドイツ語学・ドイツ文学を専攻する諸君が基本的な知識として身につけておくべき現代ドイツ語文法の要諦を、体系的に、かつトピックごとに実例と練習問題を配して分かりやすく記述しています。

テキスト：

Schülerduden Grammatik. Die Schulgrammatik zum Lernen, Nachschlagen und Üben. 5., neu bearbeitete und erweiterte Auflage. Herausgegeben von der Dudenredaktion. Bearbeitet von Peter Gallmann, Horst Sitta und Roman Looser. Mannheim / Leipzig / Wien / Zürich 2006.

参考書：

授業中に随時指示します。

【07】演劇・メディア研究 (2)(春学期)

【07】演劇・メディア研究 (2)(秋学期)

【04】メディア研究(4)(通年)

メディア・スポーツ・身体 教授 桑川 麻里生

授業科目の内容：

スポーツという文化は、現代の大衆社会における最も大規模場「劇場」であるとともに、「メディア」という捉えがたい対象を相手にする際に、いくつもの重要な手がかりを与えてくれるものです。この講座では、ドイツと日本のスポーツを、エンターテインメント、教育、ジャーナリズム、資本主義、大衆心理、身体論といった側面から、時に比較しつつ考察していきたいと思えます。

テキスト：

必要に応じてコピーで配布します。

参考書：

随時教室で紹介します。

【07】ゲーテ時代研究 (2)(春学期)

【07】ゲーテ時代研究 (2)(秋学期)

【04】ゲーテ時代研究(4)(通年)

「恋と冒険」「暴力と恐怖」の文化史

名誉教授 柴田 陽弘

授業科目の内容：

映像資料を多用する「恋と冒険」「暴力と恐怖」の文化史。

小説、映画、マンガ、アニメーション、サブカルチャー、ファンタジー、ユートピア、楽園 etc. を横断的、縦断的に取り扱うテキスト論になるでしょう。

1. 「ゲーテ時代」とは何か 博物学の時代
2. 十八世紀文化史総論
3. ファッションの文化史 かつら, 下着, 靴, 装身具, 化粧 etc.
4. 革命の文化史 ギロチンと処刑
5. ラプストリーの文化史 音楽家, 文学者, 画家たちのラプストリー
6. メルヘンの文化史 シンデレラ, 白雪姫, 眠れる森の美女, 美女と野獣
7. 決闘の文化史
8. 海の冒険, 山の冒険の文化史
9. マンガ, アニメーションの恋と冒険
10. ファンタジーの恋と冒険
11. ドラキュラ, フランケンシュタイン, 狼男の文化史
12. 恐怖の文化史 etc.

テキスト：

『文学のユートピア』(柴田陽弘編著 慶應義塾大学出版会 2008年)

参考書：

- ・『恋の研究』(柴田陽弘編著 慶應義塾大学出版会 2005年)
- ・『風景の研究』(柴田陽弘編著 慶應義塾大学出版会 2006年)
- ・『自然と文学』(柴田陽弘編著 慶應義塾大学出版会 2001年)
- ・『ミッキー・マウス ディズニーとドイツ』(柴田陽弘監訳 現代思潮新社 2002年)

【07】ドイツ文化研究 (2)(春学期)

【07】ドイツ文化研究 (2)(秋学期)

【04】ドイツ文化研究 (4)(通年) 教授 和泉 雅人

授業科目の内容：

本年度前期及び後期の前半(およその目安です)はドイツのメルヘン及び神話・伝説の解釈等について講義します。前期の目標はグリム童話のあらましについての知識を増やすこと、及びそれらをいかに解釈してゆくか、その方法論について検討することに置かれます。当初の講義ではグリム童話に関する基礎的知識が、それ以後は随時、解釈の方法論について講義します。またロマン派の創作童話のあらましについても講義します。これらの基礎的知識を踏まえたうえで、講義の後半では受講者はあらかじめ指定された作品を読んでもらうことが求められ、また指定作品について全員で討議していきます。解釈は多様であり、各個人の知識・感性・読書量によってそれぞれ異なってくるはずですが、なるべく「意外な」解釈が出てくることを期待しています。

後期後半では、それまでに習った方法論を使用しながら、ドイツ・ロマン派絵画および19世紀絵画の解釈を試みることにします。これらの絵画についてはあらかじめ基礎的知識を得るための講義を行ないません。その講義が終了したあとで、各人に絵画の解釈を行なってもらい、それを講義中に検討することにします。本講義には初級程度(大学1年終了程度)のドイツ語の知識が必要です。

参考書：

開講時、およびそのつど指示します。

【07】ドイツ文化研究 (2)(春学期)

【07】ドイツ文法研究 (2)(秋学期)

【04】ドイツ文法研究 (4)(通年)

詩人ゲーテと辿るヨーロッパ近代科学文化史

商学部 教授 石原 あえか

授業科目の内容：

ドイツを代表する詩人ゲーテ(1749-1832)は、ザクセン・ヴァイマル公国のエリート官僚であり、また同時に優れた自然研究者でもありました。彼の文学作品の面白さ・深さは、この「詩人・官僚・自然研究者」の三位一体から生み出されたものです。彼にとって自然科学の知識は、文学と切り離せない重要な要素でした。本講義では、一般読者がもつような「文豪ゲーテ」のイメージを払拭し、当時の最先端の科学分野にある時は公務ゆえ、またある時は好奇心を持って、生涯積極的に自然研究に携わったゲーテ像を紹介します。ゲーテの文学作品はもちろんですが、同時代の作家ジャン・パウルやリヒテンベルグなどの作品解説も行う予定です。

テキスト：

講義資料プリントを配布します。また特定の文学作品を扱う際は、事前に入手しやすい文庫版等を指示します。

参考書：

- ・池内紀『ゲーテさん、こんばんは』(集英社文庫)
 - ・Dieter Borchmeyer: Schnellkurs Goethe. DuMont 社(独文専攻学生向き)
- その他、授業中に指示します。

【07】ドイツ文化研究 (2)(春学期)

【07】ドイツ文化研究 (2)(秋学期)

【04】ドイツ文化研究 (4)(通年)

文学研究と文化研究

教授 大宮 勲一郎

授業科目の内容：

ドイツ文学研究は、ドイツ文化研究、さらには「ドイツ」の枠を超えた「文化研究」へと転換、拡張しようとしています。本授業では、この変化の持つ意義と、それが孕む問題点をまず論じたいうえで、「文化研究」のさまざまな実践に触れてゆきます。

テキスト：

- ・神尾・前田他『纏う 表層の戯れの彼方に』(水声社)
- ・アライダ・アスマン『想起の空間』(同社)

【07】プロゼミナール (要)(2)(春学期)

【07】プロゼミナール (要)(2)(秋学期)

【04】ドイツ文学研究入門(4)(通年)

ドイツ文学の「名作」を読む

教授 大宮 勲一郎

授業科目の内容：

ドイツ文学を学ぶのですから、「名」のある文芸テキストにまずは触れてみましょう。ドイツ文学から20のテキストを選び、参加者に成立と影響史を紹介してもらい、かつ論じてもらう形式をとります。主報告者と副報告者を予め決めますので、初回の授業には必ず出席してください。

【07】ドイツ語学文学ゼミナール (1)(春学期)

【07】ドイツ語学文学ゼミナール (1)(秋学期)

【04】ドイツ語学文学ゼミナール (2)(通年)

Georg Christoph Lichtenberg: „Sudelbücher“

教授 フュルンケース, ヨーゼフ

授業科目の内容：

Georg Christoph Lichtenberg (1742-1799) gilt heute als Vater des deutschen Aphorismus und bedeutender Sprachdenker der Spätaufklärung. Sein literarisches Nachleben ist erstaunlich: Die „Sudelbücher“, in die der Göttinger Universitätsprofessor für Experimentalphysik über 30 Jahre lang witzige Einfälle, Gedanken und

Überlegungen notierte, sind erst im Nachlaß gefunden und annähernd vollständig erst lange nach seinem Tode veröffentlicht worden.

Das gründliche Lesen ausgewählter Aufzeichnungen aus den „Sudelbüchern“ soll zu sachlichem Kommentar und methodisch gesicherter Interpretation veranlassen.

テキスト：

Text: Georg Christoph Lichtenberg: Sudelbücher. Herausgegeben von Franz H.Mautner, Insel Taschenbuch Nr.792, Frankfurt am Main 1984.

Kopien werden auf Wunsch zur Verfügung gestellt.

【07】ドイツ語学文学ゼミナール (1)(春学期)

【07】ドイツ語学文学ゼミナール (1)(秋学期)

【04】ドイツ語学文学ゼミナール (2)(通年)

教授 和泉 雅人

授業科目の内容：

今年度は18世紀末から19世紀前半にかけての短編小説を素材にして、解釈の練習をする予定です。題材としてはさまざまな潮流(古典主義、ロマン主義、ピーターマイアー、三月前期、詩的リアリズムなど)からの短編を選ぶ予定です。これらの短編をドイツ語で、あるいは日本語訳で読みながら、解釈を皆で実践していき、その過程で必要な解釈モデルなどを習得してほしいと思っています。これらの解釈モデルは卒論執筆の際の重要なファクターとなるはずですが、後期の過程では文字テキストに加えて図像テキストも解釈の対象にしていきます。授業を進める方法のひとつとしては、参加者が交代でみずからの解釈を提示して、それを皆で検討するというのも考えています。授業の過程で卒業論文の構成をどう作成していくについても検討していきます。

テキスト：

開講時に指示します。テキストなどはコピーを配布します。

【07】ドイツ語学文学ゼミナール (1)(春学期)

【07】ドイツ語学文学ゼミナール (1)(秋学期)

【04】ドイツ語学文学ゼミナール (2)(通年)

教授 中山 豊

授業科目の内容：

ドイツ語学で卒論を作成する専攻生を主な対象としますが、ドイツ語に興味がある学生も広く歓迎します。ドイツ語文法論が中心なテーマになりますが、参加者の関心に応じて特殊なテーマについても考えていきますので、積極的な提案を期待します。

テキスト：

プリントを使用

【07】ドイツ語学文学ゼミナール (1)(春学期)

【07】ドイツ語学文学ゼミナール (1)(秋学期)

【04】ドイツ語学文学ゼミナール (2)(通年)

シラーの戯曲『ドン・カルロス』と小説『見霊者』

教授 斎藤 太郎

授業科目の内容：

シラーが残した数少ない小説のひとつ『見霊者』は、不可思議な事件の連続・心霊現象の細密な描写・推理小説的謎解きなどの要素がちりばめられ、発表当時には読者の圧倒的支持を受けた作品だった。しかし、同作は、作者シラー自身が低い評価を下して未完のままに放置したことも手伝って、シラー研究においてはさほど重視されてこなかった。一方、同時期に成立した戯曲『ドン・カルロス』は、シラー中期の傑作としてつとに名高く、今日もなおドイツ語圏の劇場で上演される機会が多い作品である。一見するとテーマも舞台設定も大きく異なるように見える『見霊者』と『ドン・カルロス』はしかし、発表当時に社会一般の関心を集めていた政治的・社会的諸問題に対するシラーの文学的回答を示した作品であるという共通点を持っている。この授業では、成立の背景にあった政治的・社会的あるいは思想的な状況(啓蒙対反啓蒙、降霊術師・錬金術師の跋

扈, 秘密結社と政治)を参照することで, 両作品の時事性を明らかにしてみたい。

テキスト:

- ・ Friedrich Schiller: Don Karlos, Text und Kommentar. Frankfurt a. M. (Surkamp BasisBibliothek) 2007
- ・ Friedrich Schiller: Der Geisterseher. Aus den Memoires des Grafen O. Stuttgart. (Reclam UB7435) 2005

参考書:

授業内で適宜紹介する

-
- 【07】ドイツ語学文学ゼミナール (1)(春学期)
 - 【07】ドイツ語学文学ゼミナール (1)(秋学期)
 - 【04】ドイツ語学文学ゼミナール (2)(通年)
-

休講

-
- 【07】ドイツ語学文学ゼミナール (1)(春学期)
 - 【07】ドイツ語学文学ゼミナール (1)(秋学期)
 - 【04】ドイツ語学文学ゼミナール (2)(通年)
- 教授 大宮 勘一郎
-

授業科目の内容:

フランツ・カフカのテキスト群は, 20世紀のドイツ文学を, さらにあらゆる現代文学を考える上で避けて通れないものである。しかし, それらと向き合うためには, 読者の側に求められることがいくつかある。例えば「逐語的に」(=一字一句にこだわりながら)読むこと, などがそうであり, 解釈の自由が得られるのは, この条件を一旦満たした上でのことである。この授業では, 予め幾つかの短いテキストを選び, 皆でまずドイツ語原文を輪読する。そのうえで考える作業を皆で行う。

テキスト:

Franz Kafka: Der Bau (07年度からの継続); Der Jäger Graccus; Das Schweigen der Sirenen ...など。(コピーにて配布)

参考書:

各種翻訳

-
- 【07】ドイツ語学文学ゼミナール (1)(春学期)
 - 【07】ドイツ語学文学ゼミナール (1)(秋学期)
 - 【04】ドイツ語学文学ゼミナール (2)(通年)
- 「戦後」ドイツ思想を考える 教授 桑川 麻里生
-

授業科目の内容:

第二次世界大戦後のドイツ思想は, 「(敗)戦後」という重い十字架を背負いながら, 展開されてきました。このゼミナールでは, 同じく第二次世界大戦の敗戦国である日本の状況とも比較しながら, 国際社会への復帰, 歴史把握の問題, 憲法(基本法), 言語芸術としての文学といった問題を考えていきたいと思えます。

テキスト:

コピーで配布します。

参考書:

随時教室で紹介します。

-
- 【07】ドイツ語学文学ゼミナール (1)(春学期)
 - 【07】ドイツ語学文学ゼミナール (1)(秋学期)
 - 【04】ドイツ語学文学ゼミナール (2)(通年)
- ドイツ騎士道文学の世界 教授 香田 芳樹
-

授業科目の内容:

現代ドイツ語で中世の「英雄伝説」を読みます。ジークフリートの活躍と悲劇や, ヴァルタリウスのロマンや冒険からは, ゲルマンの騎士たちの息づかいが伝わってきます。まずは古代人とともに, いにしへの武勲(いさおし)を楽しんでみましょう。テキストは平易に書かれているので, ドイツ語の勉強にもなるでしょう。

テキスト:

第1回目の授業で指示します。

仏文学専攻

必修科目

【07】【04】フランス語学演習 (X)(1)(春学期)
助教 築山和也

授業科目の内容：

簡単なフランス語で書かれた文章を読みながら、少しずつフランス語の講読に慣れていきましょう。教科書には文法練習問題も含まれていますが、それ以外にもプリント教材を使って初級で学習した文法項目をしっかりと身につけてもらいます。読むためには語彙力を高めることも必要なので、授業中に単語テストを行う予定です。

テキスト：

『素顔のフランス ヴァリアント』、エヴリンヌ中村著、青山社。

【07】【04】フランス語学演習 (Y)(1)(春学期)
仏検2,3級を目指して 教授 川口順二

授業科目の内容：

初級文法の復習と、テキスト講読をします。

テキスト：

高橋秀雄他著『クレ 仏検成功のカギ』駿河台出版社

【07】【04】フランス語学演習 (Z)(1)(春学期)
読みながら覚えよう 准教授 市川 崇

授業科目の内容：

初級文法を学んだ者のために易しくリライトされた、現代フランスの社会に関する雑誌記事を読んで行きます。同時に、テキストの内容を短いフランス語で要約する練習、また学習した語彙を用いて作られた簡単な文章の聞き取りも行います。

フランス語の検定試験受験を考えている履修者にとって格好の練習の機会となるでしょう。

テキスト：

アンフォ vol.2 フランス語でニュースを読む、井上美穂、Vincent Durrenberger 著、駿河台出版社

授業の計画：

第1課「みんなのスポーツ、ベタンク」から第9課「美的選択肢、ミヨ-高架橋」までを授業1.5回で1課のペースで学んで行きます。

履修者へのコメント：

毎回予習が必要になります。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価（小テスト、授業内期末試験）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業の後に随時

【07】【04】フランス語学演習 (X)(1)(秋学期)
フランス語リーディング 助教 築山和也

授業科目の内容：

仏検2級を目指すレベル設定で、講読を中心にフランス語力の底上げを図ります。使用する教材は受講者のレベルを見極めた上で決定しますが、比較的読みやすい新聞・雑誌の記事などに数多く接するつもりです。

テキスト：

プリントを配布する予定。

【07】【04】フランス語学演習 (Y)(1)(秋学期)
仏検2,3級を目指して 教授 川口順二

授業科目の内容：

初級文法の復習と、テキスト講読をします。

テキスト：

高橋秀雄他著『クレ 仏検成功のカギ』駿河台出版社

【07】【04】フランス語学演習 (Z)(1)(秋学期)
読みながら覚えよう 准教授 市川 崇

授業科目の内容：

初級文法を学んだ者のために易しくリライトされた、現代フランスの社会に関する雑誌記事を読んで行きます。同時に、テキストの内容を短いフランス語で要約する練習、また学習した語彙を用いて作られた簡単な文章の聞き取りも行います。

フランス語の検定試験受験を考えている履修者にとって格好の練習の機会となるでしょう。

テキスト：

アンフォ vol.2 フランス語でニュースを読む、井上美穂、Vincent Durrenberger 著、駿河台出版社

【07】【04】フランス語表現演習 (X)(1)(春学期)
教授 片木智年

授業科目の内容：

実用フランス語の基礎づくりを目的にした演習です。急がば回れで、1年次に習ったはずの知識の徹底から始めます。動詞変化の自動化、基礎語彙の知識、聞き取り能力なくしては、当然のことですがコミュニケーションもままなりません。現代フランスの映像、ポップスなどの紹介にも努めて、息抜きのできるようにいたしますが、学生諸氏の積極的参加と努力が要求されます。

テキスト：

プリント

【07】【04】フランス語表現演習 (Y)(1)(春学期)
准教授 喜田浩平

授業科目の内容：

フランス語を書く能力を高める授業です。和文仏訳を中心に、正確なフランス語を書く練習をします。

テキスト：

教室で指示します。

参考書：

- ・『ラールス・やさしい仏和辞典 NIVEAU 1』、『ラールス・やさしい仏和辞典 NIVEAU 2』駿河台出版社
- ・松原秀治、松原秀一『フランス語らしく書く』白水社
- ・原田早苗(他)『コレクション・フランス語7書く』白水社
- ・クロード・ロベルジュ(他)『21世紀フランス語表現辞典』駿河台出版社
- ・『白水社ラールス仏和辞典』白水社

【07】【04】フランス語表現演習 (Z)(1)(春学期)
助教 井上 櫻子

授業科目の内容：

教科書 *Taxi! 2* を用いて、「フランス語表現演習 (Z)」ご担当のプランクール先生とリレー形式で授業を進めてゆきます。

教科書の課題に取り組みやすくするため、必要に応じて、文法事項や語彙を補足するプリントを配布します。

テキスト：

Taxi! 2 Méthode de français, Hachette, 2003

【07】【04】フランス語表現演習 (X)(1)(秋学期)
教授 片木 智年

授業科目の内容：

前期でえた知識をさらに発展させます。

テキスト：
プリント

【07】【04】フランス語表現演習 (Y)(1)(秋学期)
准教授 喜田 浩平

授業科目の内容：

フランス語を書く能力を高める授業です。和文仏訳を中心に、正確なフランス語を書く練習をします。

テキスト：
教室で指示します。

参考書：

- ・『ラルース・やさしい仏辞典 NIVEAU 1』『ラルース・やさしい仏辞典 NIVEAU 2』駿河台出版社
- ・松原秀治, 松原秀一『フランス語らしく書く』白水社
- ・原田早苗(他)『コレクション・フランス語7書く』白水社
- ・クロード・ロベルジュ(他)『21世紀フランス語表現辞典』駿河台出版社
- ・『白水社ラルース仏和辞典』白水社

【07】【04】フランス語表現演習 (Z)(1)(秋学期)
助教 井上 櫻子

授業科目の内容：

春学期にひきつづいて、教科書 *Taxi ! 2* を用いて、「フランス語表現演習 (Z)」ご担当のブランクール先生とリレー形式で授業を進めてゆきます。

教科書の課題に取り組みやすくするため、必要に応じて、文法事項や語彙を補足するプリントを配布します。

テキスト：
Taxi ! 2 Méthode de français, Hachette, 2003

参考書：

初回授業時に紹介します。

【07】【04】フランス語表現演習 (X)(1)(春学期)
Parlons et écrivons!
講師 ペリセロ, クリスティアン・アンドレ

授業科目の内容：

Ce cours vous permettra de pratiquer la communication orale et écrite en faisant des conversations françaises avec un Français, c'est-à-dire moi!

De plus vous pourrez écrire de petites rédactions sur des sujets divers.

Chaque semaine le sujet de la conversation et de la rédaction seront différents et chaque mois nous regarderons un film qui sera aussi un sujet de conversation!

Ce cours est aussi utile pour celles et ceux qui voudront passer les épreuves du DELF A1 et A2.

テキスト：
Pas de texte, mais des photocopies.

【07】【04】フランス語表現演習 (Y)(1)(春学期)
講師 ボダン, エマニュエル

授業科目の内容：

Dans ce cours d'expression orale, nous aborderons divers aspects de la culture française à partir de documents authentiques variés (chansons, BD, vidéos...)

L'assiduité aux cours est requise

L'évaluation reposera sur des tests semestriels et sur un contrôle continu.

【07】【04】フランス語表現演習 (Z)(1)(春学期)
Pratique du français écrit et oral
訪問准教授 招聘) ブランクール, ヴァンサン

授業科目の内容：

Entraînement à l'expression orale et écrite. Conversation, exercices grammaticaux, rédaction...

Ce cours vous aidera à mettre en pratique vos connaissances linguistiques afin d'améliorer vos compétences orales et écrites.

Le cours sera mené conjointement avec celui de Melle Inoue (フランス語表現演習 (Z)) où le même manuel sera utilisé.

テキスト：
TAXI! 2 Méthode de français, Hachette, 2003

【07】【04】フランス語表現演習 (X)(1)(秋学期)
Parlons et écrivons!
講師 ペリセロ, クリスティアン・アンドレ

授業科目の内容：

Ce cours vous permettra de pratiquer la communication orale et écrite en faisant des conversations françaises avec un Français, c'est-à-dire moi!

De plus vous pourrez écrire de petites rédactions sur des sujets divers. Chaque semaine le sujet de la conversation et de la rédaction seront différents et chaque mois nous regarderons un film qui sera aussi un sujet de conversation! Ce cours est aussi utile pour celles et ceux qui voudront passer les épreuves du DELF A1 et A2.

テキスト：
Pas de texte, mais des photocopies.

【07】【04】フランス語表現演習 (Y)(1)(秋学期)
講師 ボダン, エマニュエル

授業科目の内容：

Dans ce cours d'expression orale, nous aborderons divers aspects de la culture française à partir de documents authentiques variés (chansons, BD, vidéos...)

L'assiduité aux cours est requise.

L'évaluation reposera sur des tests semestriels et sur un contrôle continu.

【07】【04】フランス語表現演習 (Z)(1)(秋学期)
Pratique du français écrit et oral
訪問准教授 招聘) ブランクール, ヴァンサン

授業科目の内容：

Entraînement à l'expression orale et écrite. Conversation, exercices grammaticaux, rédaction...

Ce cours vous aidera à mettre en pratique vos connaissances linguistiques afin d'améliorer vos compétences orales et écrites.

Le cours sera mené conjointement avec celui de Melle Inoue (フランス語表現演習 (Z)) où le même manuel sera utilisé.

テキスト：
TAXI! 2 Méthode de français, Hachette, 2003

【07】【04】フランスの文化と歴史 (2)(春学期)
フランスの過去と現在をよりよく知るために
教授 小倉 孝誠

授業科目の内容：

フランスの文化、歴史、社会について、過去から現代までを概観

する授業です。どのような分野であれフランスに興味がある、フランスのことを勉強している（あるいはしたい）という人のために、フランスに関する一通りの知識を身につけてもらうことを目的とします。必要に応じてビデオ、DVD、絵画、映画などを見ます。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

- ・都立大学フランス文学研究室編『フランスを知る』（法政大学出版局、2003年）
- ・クゥルツィウス『フランス文化論』（みすず書房、1976年）

【07】【04】フランスの文化と歴史（2）(秋学期)
教授 小倉 孝 誠

授業科目の内容：
春学期の続き。

【07】【04】フランス文学史（2）(春学期)
教授 荻野 安奈
教授 片木 智年

授業科目の内容：
中世から18世紀までの通史です。

テキスト：
『新版フランス文学史』（白水社）

【07】【04】フランス文学史（2）(秋学期)
はじめてのフランス文学史 准教授 市川 崇
助教 築山 和也

授業科目の内容：
秋学期は19世紀から20世紀のフランス文学史を時代順にたどって行きます。

テキスト：
『新版フランス文学史』（白水社）

【07】【04】フランス文学と近代（2）(春学期)
教授 牛場 暁夫

授業科目の内容：
現代フランスの基盤を作っているものを話してゆきます。たとえば、大学の成立、フランス語の成立、印刷術、翻訳などです。

【07】【04】フランス文学と近代（2）(秋学期)
教授 牛場 暁夫

授業科目の内容：
「小説の歴史」()
・「近代小説」以降（フロベール、プルースト）
・20世紀の小説
20世紀小説の多彩さはまだよく知られていないのでくわしく語りたい。たとえば、人物像の変化や多言語・多文化への視点などです。

【07】【04】フランス文学と近代（2）(春学期)
「68年5月革命」の文化と思想 講師 阿部 静子

授業科目の内容：
2008年は5月革命40周年の年に当たる。昨年、サルコジ大統領の発言が物議をかもしたことに象徴されるように、5月革命は現在も左翼・右翼いずれの陣営においても肯定・否定両面から論議される重要な問題であり続けている。5月革命が歴史上どのような意味を持っているのか、そして現代におけるその意義を、文学テキスト、思想書、映像を通じて探っていく。

テキスト：
プリントを配布する予定。

- 参考書：
- ・キース・リーダー『フランス現代思想』（1996年、講談社選書メチエ）
 - ・リュック・フェリー、アラン・ルノー『68年の思想』（1998年、法政大学出版局）
 - ・Patrick Combes, La littérature & le mouvement de mai 68, Seghers, 1984.

- (その他)
- ・L. アルチュセール『マルクスのために』
 - ・M. フーコー『言葉と物』
 - ・G. ドウボール『スペクタクルの社会』
 - ・J. デリダ『エクリチュールと差異』
 - ・P. ブルデュー『遺産相続者たち』
 - ・H. マルクーゼ『一次元的人間』
 - ・Margaret Attack, May 68 in French fiction and film
 - ・Cahiers du cinema
 - ・M. ヴィノック『知識人の時代』
 - ・Ph. ガレル『恋人たちの失われた革命』
 - ・J=L・ゴダール『映画史』、『愛の世紀』

【07】【04】フランス文学と近代（2）(秋学期)
「68年5月革命」の文化と思想 講師 阿部 静子

授業科目の内容：
2008年は5月革命40周年の年に当たる。昨年、サルコジ大統領の発言が物議をかもしたことに象徴されるように、5月革命は現在も左翼・右翼いずれの陣営においても肯定・否定両面から論議される重要な問題であり続けている。5月革命が歴史上どのような意味を持っているのか、そして現代におけるその意義を、文学テキスト、思想書、映像を通じて探っていく。

テキスト：
プリントを配布する予定。

- 参考書：
- ・キース・リーダー『フランス現代思想』（1996年、講談社）
 - ・Patrick Combes, La littérature & le mouvement de mai 68, Seghers, 1984.
 - ・Philippe Forest, Histoire de Tel Quel, Seuil, 1995.
 - ・Tel Quel, Seuil, 1960-1982.

- (その他)
- ・M. フーコー『知の考古学』
 - ・J. デリダ『ポジション』
 - ・R. バルト『作家ソレルス』
 - ・Ph. ソレルス『数』
 - ・J. クリスティヴァ『サムライたち』
 - ・J=L・ゴダール『映画史』、『愛の世紀』他。

【07】【04】フランス文学と現代（2）(春学期)
1930～40年代の文学と思想 准教授 市川 崇

授業科目の内容：
1930～40年代のフランスにおける社会と文学との関係を考察することを目的とした授業です。当時の社会、文化の諸側面をできるだけ忠実に検証することと同時に、現代の哲学者の解釈を手助けに、社会、文化現象の背後を流れる思想潮流を探ることも試みます。授業は以下の4つの柱から構成されます。

- 1) 歴史家の考証を参考にした政治、社会的事件の紹介。
- 2) 当時の政治思想家、哲学者、社会学者による人間と社会の関係についての論考の確認。
- 3) プルトン、パタイユ、マルロー、ブランショらの作品に見る同時代の政治、社会的事件の表象、および彼らによる解釈の検証。
- 4) ナンシー、ブランショ、デリダ、パディウらによる「共同体」論に照らした当時の文人たちにとっての理想社会の意義の考察。

テキスト：

授業中にプリントを配布

参考書：

- ・フランス文学講座5「思想」大修館
- ・Serges Berstein, La France des années 30, Armand Colin
- ・ジャン＝ポール・サルトル『嘔吐』人文書院
- ・モーリス・ブランショ『踏み外し』、『謎の男トマ』筑摩書房、『明かしえぬ共同体』朝日出版
- ・ジャン＝リュック・ナンシー『無為の共同体』朝日出版
- ・ジョルジュ・バタイユ『ドキュマン』二見書房，
- ・アンドレ・ブルトン『シュルレアリスム宣言』現代思潮社

【07】【04】フランス文学と現代 (2)(秋学期)

1930～40年代の文学と思想 准教授 市川 崇

授業科目の内容：

1930～40年代のフランスにおける社会と文学との関係を考察することを目的とした授業です。当時の社会、文化の諸側面をできるだけ忠実に検証することと同時に、現代の哲学者の解釈を手助けに、社会、文化現象の背後を流れる思想潮流を探ることも試みます。授業は以下の4つの柱から構成されます。

- 1) 歴史家の考証を参考にした政治、社会的事件の紹介。
- 2) 当時の政治思想家、哲学者、社会学者による人間と社会の関係についての論考の確認。
- 3) ブルトン、バタイユ、マルロー、ブランショらの作品に見る同時代の政治、社会的事件の表象、および彼らによる解釈の検証。
- 4) ナンシー、ブランショ、デリダ、パディウらによる「共同体」論に照らした当時の文人たちにとっての理想社会の意義の考察。

テキスト：

授業中にプリントを配布

参考書：

- ・フランス文学講座5「思想」大修館
- ・Serges Berstein, La France des années 30, Armand Colin
- ・ジャン＝ポール・サルトル『嘔吐』人文書院
- ・モーリス・ブランショ『踏み外し』、『謎の男トマ』筑摩書房、『明かしえぬ共同体』朝日出版
- ・ジャン＝リュック・ナンシー『無為の共同体』朝日出版
- ・ジョルジュ・バタイユ『ドキュマン』二見書房，
- ・アンドレ・ブルトン『シュルレアリスム宣言』現代思潮社

【07】【04】フランス文学史 (2)(春学期)

ベルギーのフランス語文学 (1885-1914) 教授 宮林 寛

授業科目の内容：

ベルギーはワロン地域(公用語はフランス語、一部ドイツ語圏を含む)、フランドル地域(公用語はオランダ語)、そしてブリュッセル首都圏(フランス語・オランダ語併用)に分かれた連邦国家です。政治化した言語問題に揺れる現在の状況からは考えにくいことですが、かつてのベルギーにはフランス語による「ベルギー文学」の創生に全力を注ぐ文学者集団がありました。彼らの夢と幻滅を、ベルギーの文芸復興期と言われる1885年前後から、国内でフランス語の覇権がゆるぐ第1次世界大戦までの期間に限って、できるだけ具体的にあとづけてみたいと思います。

テキスト：

指定せず。

参考書：

授業中に指示します。

【07】【04】フランス文学史 (2)(秋学期)

フランス近代詩入門 教授 宮林 寛

授業科目の内容：

ロマン派からシャルル・ボードレーールまでのフランス詩の流れをたどりながら、定型詩の理解に欠かせない詩法を概説します。

テキスト：

指定せず。

参考書：

授業中に紹介します。

【07】【04】フランス語学 (2)(春学期)

准教授 喜田 浩平

授業科目の内容：

フランス語を言語学的に研究するための入門的授業です。一般言語学のような方法論、操作概念などをフランス語の具体例をあげながら紹介します。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

教室で指示します。

【07】【04】フランス語学 (2)(秋学期)

准教授 喜田 浩平

授業科目の内容：

フランス語を言語学的に研究するための入門的授業です。一般言語学のような方法論、操作概念などをフランス語の具体例をあげながら紹介します。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

教室で指示します。

【07】【04】フランス語学演習 (1)(春学期)

教授 小倉 孝誠

授業科目の内容：

フランス語で書かれたテキストを徹底的に読む訓練をします。受講者には、毎回教室で一つのテキストを辞書参照で日本語に訳してもらい、それを教員(小倉)が添削して翌週に返却し、解説します。おもに大学院をめざす学生を対象とする授業です。

テキスト：

プリント配布

参考書：

授業中に指示します。

【07】【04】フランス語学演習 (1)(秋学期)

《出会い》を読む 教授 小倉 孝誠

授業科目の内容：

文学の中の出会い：男と女の出会いは、文学においてしばしばきわめて感動的な場面です。そこではいきなり恋に落ちたり、二人の運命が決まったり、新たなドラマが展開したりします。文学で語られる出会いのシーンの主題と変奏を味わってみます。教科書は昨年と同じですが、異なるテキストを取り上げます。

テキスト：

《Leurs yeux se rencontrèrent...》, Folio (生協で各自購入のこと)

参考書：

授業中に指示します。

【07】【04】フランス語学演習 (1)(春学期)

現代作家講読 教授 川口 順二

授業科目の内容：

現代作家の小説の抜粋を講読しながら、フランス語の文法・語彙の知識の向上を目指します。また映画などを用いて話し言葉の実際を学習してもらいます。

テキスト：

プリントで配布します。

【07】【04】フランス語学演習 (1)(秋学期)
現代作家講読 教授 川口 順二

授業科目の内容：

春学期のフランス語学演習・と同様、現代作家の小説の抜粋を講読しながら、フランス語の文法・語彙の知識の向上を目指します。映画などを使った話し言葉の学習も春学期の継続です。

テキスト：

プリントで配布します。

【07】【04】フランス語学演習 (1)(春学期)
Lecture et analyse de textes littéraires et théâtraux
Lire, comprendre, écrire, jouer
訪問准教授(招聘) ブランクール, ヴァンサン

授業科目の内容：

A travers la lecture de textes littéraires et théâtraux du XIXème et XXème siècles, les étudiants auront la possibilité de pratiquer et d'enrichir leur français.

Une initiation aux techniques d'analyse littéraire sera proposée.

Les textes étudiés donneront aussi l'occasion à la pratique d'exercices d'écriture.

Les textes théâtraux feront l'objet de petites mises en scène durant la classe.

Parallèlement, de façon régulière, nous regardons des très courts métrages qui serviront de support à des travaux oraux et écrits.

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

【07】【04】フランス語学演習 (1)(秋学期)
Lecture et analyse de textes littéraires et théâtraux
Lire, comprendre, écrire, jouer
訪問准教授(招聘) ブランクール, ヴァンサン

授業科目の内容：

A travers la lecture de textes littéraires et théâtraux du XIXème et XXème siècles, les étudiants auront la possibilité de pratiquer et d'enrichir leur français.

Une initiation aux techniques d'analyse littéraire sera proposée.

Les textes étudiés donneront aussi l'occasion à la pratique d'exercices d'écriture.

Les textes théâtraux feront l'objet de petites mises en scène durant la classe.

Parallèlement, de façon régulière, nous regardons des très courts métrages qui serviront de support à des travaux oraux et écrits.

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

【07】【04】フランス語表現演習 A(1)(春学期)
講師 シャルコフ, スヴェトラナ

授業科目の内容：

会話と発表を行う。(発表は年2回)

コミュニケーションスキルを上げるため。

【07】【04】フランス語表現演習 B(1)(春学期)
教授 片木 智年

授業科目の内容：

専門コースに分類されていますが、二年生のうちに集中的に力をつけたい学生を想定した「二次インテンシヴ」科目です(もちろん、基礎を徹底的に復習したい上級生も履修可能)

演習は前期集中で週2回、現時点では火3、木3を予定しています。

ヒアリングの集中特訓と同時に、基礎語彙、動詞変化、基本構文

を反動的に理解することを目的とした練習をします。本年は初級修了者を対象にした平易な文学テキスト(星の王子さま他)も取り入れます。映像資料、マルチメディア教材も多用しますが、基本的には千本ノックのような演習です。目的意識がなければ辛いです。

【07】【04】フランス語表現演習 A(1)(秋学期)
講師 シャルコフ, スヴェトラナ

授業科目の内容：

会話と発表を行う。(発表は年2回)

コミュニケーションスキルを上げるため。

【07】【04】フランス語表現演習 B(1)(春学期)
教授 片木 智年

授業科目の内容：

専門コースに分類されていますが、二年生のうちに集中的に力をつけたい学生を想定した「二次インテンシヴ」科目です(もちろん、基礎を徹底的に復習したい上級生も履修可能)

演習は前期集中で週2回、現時点では火2、木3を予定しています。

ヒアリングの集中特訓と同時に、基礎語彙、動詞変化、基本構文を反動的に理解することを目的とした練習をします。本年は初級修了者を対象にした平易な文学テキスト(星の王子さま他)も取り入れます。映像資料、マルチメディア教材も多用しますが、基本的には千本ノックのような演習です。目的意識がなければ辛いです。

【07】【04】フランス語表現演習 A(1)(春学期)
Pratique de l'oral et de l'écrit
A la découverte de la société française contemporaine
訪問准教授(招聘) ブランクール, ヴァンサン

授業科目の内容：

Le but de ce cours est double :

- pratiquer et améliorer son français à l'écrit et à l'oral

- mieux connaître et comprendre la société et la culture françaises

Les documents proposés seront très divers : articles de journaux, vidéos extraits de film ou d'émission télévisées, chanson, extraits de bande dessinée. Ils feront l'objet d'une analyse précise pour mieux en comprendre le sens et leur étude sera suivie d'exercices afin de mieux maîtriser les expressions nouvelles rencontrées.

Durant le semestre, un ou deux intervenants extérieurs (romanciers, auteurs de bande dessinée français ou francophones, ...) viendront en classe pour discuter de leur œuvre avec les étudiants.

La pratique de l'écrit passera par la rédaction régulière de devoirs à la maison.

Des activités extérieures au cours pourront être envisagées (visite du lycée franco-japonais de Tokyo, ...)

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

【07】【04】フランス語表現演習 B(1)(春学期)
准教授 喜田 浩平

授業科目の内容：

高いレベルのフランス語の文章を書くための技法を学びます。

テキスト：

プリントを使用します。

参考書：

仏仏辞典(類義語, シソーラス, コロケーション)

【07】【04】フランス語表現演習 A(1)(秋学期)

Pratique de l'oral et de l'écrit

A la découverte de la société française contemporaine

訪問准教授(招聘) ブランクール, ヴァンサン

授業科目の内容:

Le but de ce cours est double:

- pratiquer et améliorer son français à l'écrit et à l'oral
- mieux connaître et comprendre la société et la culture françaises

Les documents proposés seront très divers : articles de journaux, vidéos extraits de film ou d'émission télévisées, chanson, extraits de bande dessinée. Ils feront l'objet d'une analyse précise pour mieux en comprendre le sens et leur étude sera suivie d'exercices afin de mieux maîtriser les expressions nouvelles rencontrées.

Durant le semestre, un ou deux intervenants extérieurs (romanciers, auteurs de bande dessinée français ou francophones, ...) viendront en classe pour discuter de leur œuvre avec les étudiants.

La pratique de l'écrit passera par la rédaction régulière de devoirs à la maison.

Des activités extérieures au cours pourront être envisagées (visite du lycée franco-japonais de Tokyo, ...)

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

【07】【04】フランス語表現演習 B(1)(秋学期)

准教授 喜田 浩平

授業科目の内容:

高いレベルのフランス語の文章を書くための技法を学びます。

テキスト:

プリントを使用します。

参考書:

仏仏辞典(類義語, シソーラス, コロケーション)

【07】【04】フランス文学演習 A(1)(春学期)

教授 荻野 安奈

授業科目の内容:

「フランス文学史」に具体性を与えるための授業ですので、同時に履修されることをお勧めします。各時代のコレという名文を原文で味わい、同時に文庫本で入手可能な作品を和訳で読みます。

テキスト:

授業中に随時指摘

【07】【04】フランス文学演習 B(1)(春学期)

ラクロ『危険な関係』講読 講師 稲垣 正久

授業科目の内容:

上記テキストを講読します。

文学作品を精読する作業を通して、その魅力を十分に味わってもらおう一方、フランス語の読解力の向上を目指します。特に辞書を引き方を徹底的に訓練します。

尚、この小説の映画化作品を部分的に観賞する機会を設ける予定です。

テキスト:

プリントにて配布します。

参考書:

授業中に指示します。

【07】【04】フランス文学演習 A(1)(秋学期)

教授 荻野 安奈

授業科目の内容:

前期の続きですが、後期のみの参加も可能です。

テキスト:

授業中に随時指摘

【07】【04】フランス文学演習 B(1)(秋学期)

ラクロ『危険な関係』講読 講師 稲垣 正久

授業科目の内容:

春学期, フランス文学演習 (B) に準じます。

テキスト:

プリントにて配布します。

参考書:

授業中に指示します。

【07】【04】フランス文学演習 A(1)(春学期)

帰還の文学 准教授 岑村 傑

授業科目の内容:

たとえば大学にいるわたしは、これから家へ帰ろうとしているのだし、家に着いてしまえば、すでに大学に戻る途上にあるとあってよい。わたしたちは皆、いつもどこかに帰ろうとしている。

フランス文学には、放浪から故郷に、戦地から平和に、監獄から自由に、あるいは死の淵から生の歓喜と倦怠に、帰還する主人公たちがいます。19世紀, 20世紀の小説を中心に取り上げて、そこに描かれた帰還の諸相を分析します。

演習授業ですから、講義のみの授業にはなりません。フランス文学読解の実践力養成にも重点を置いて、訳文作成, 要約, 論述などの訓練を多く行います。

テキスト:

授業時にプリントで配布します。

参考書:

授業時に適宜紹介し、必要に応じてプリントを配布します。

【07】【04】フランス文学演習 B(1)(春学期)

短編小説の愉しみ 講師 平松 尚子

授業科目の内容:

20世紀・21世紀の短編小説を精読しながらフランス語の基礎的な読解力をつけることがこの授業の目標です。M>Yourcenar, R.Grenier, M.Tournier, J.M.G. Le Clézio, D.Daenainx, M.NDiayeなどの作品を扱う予定で、比較的簡単な短編から難易度の高い短編へと読み進めていきます。

テキストは日本語に訳していきませんが、授業の主眼は構文をきちんと把握して原文の意味を正確に理解する作業にあるため、構文や文法事項の確認に時間をかけながら基礎的な読解力をつけるための練習を行います。また短編小説のスピード感や作家独自の文体を体感するためにテキストの音読練習も行います。短編を読み終えた後はまとめとして、授業で扱った作品や作家あるいは主題などからテーマを選び、2, 3人のグループでプレゼンテーションをしてもらいます。

テキスト:

プリントを配布します。

参考書:

授業中に適宜指示します。

【07】【04】フランス文学演習 A(1)(秋学期)

ジュネの20世紀 准教授 岑村 傑

授業科目の内容:

1910年に生まれ1986年に没した作家ジャン・ジュネの生涯は、20世紀全体を覆っています。エドモンド・ホワイต์によるジュネの伝記に導かれながら、ジュネという特異な存在を織りなす20世紀の社会、風俗、芸術、思想、政治における諸問題と向き合うことを目指します。ジュネ自身の作品のみならず、他の多くの文学者、芸術家、思想家の文章を参照することになるでしょう。

テキスト：

Edmund White, *Jean Genet*, Paris, Gallimard, 1993 (授業時に必要箇所をプリントで配布します)

参考書：

授業時に適宜紹介し、必要に応じてプリントを配布します。

【07】【04】フランス文学演習 B(1)(秋学期)

短編小説の愉しみ 講師 平松 尚子

授業科目の内容：

春学期のフランス文学演習 B(1)と同様に、20世紀・21世紀の短編小説を精読します。フランス語の基礎的な読解力をつけることがこの授業の目標です。M.Yourcenar, R.Grenier, M.Tournier, J.M.G. Le Clézio, D.Daenainx, M.NDiaye などの作品を扱う予定で、比較的簡単な短編から難易度の高い短編へと読み進めていきます。

テキストは日本語に訳していきませんが、授業の主眼は構文をきちんと把握して原文の意味を正確に理解する作業にあるため、構文や文法事項の確認に時間をかけながら基礎的な読解力をつけるための練習を行います。また短編小説のスピード感や作家独自の文体を体感するためにテキストの音読練習も行います。短編を読み終えた後はまとめとして、授業で扱った作品や作家あるいは主題などからテーマを選び、2,3人のグループでプレゼンテーションをしてもらいます。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

授業中に適宜指示します。

【07】【04】フランス文学演習 A(1)(春学期)

マルグリット・デュラスを読む・見る 教授 牛場 暁夫

授業科目の内容：

映画シナリオ「広島、わが愛」を読み、その延長で展開される他の小説を読みます。新しいエクリチュールの魅力に迫りたい。

テキスト：

教科書版を使用する予定です。

【07】【04】フランス文学演習 B(1)(春学期)

講師 岩崎 洋介

授業科目の内容：

フランスの代表的な映画学者 Christian METZ (1931-93) の著作を読もうと思います。メッツはその活動時期と相俟って言語学、記号学、または精神分析を援用し、映画学を確立することを試み、その著作は現在この分野における基本文献となっています。

当授業では、自らの研究に関するインタビュー (Sur mon travail (1974)) を先ず読み、それから L'Enonciation impersonnelle ou le Site du film (1991) の適当な箇所を抜粋しみなさんと検討していこうと思います。

テキスト：

上記参照

【07】【04】フランス文学演習 A(1)(秋学期)

ロラン・バルトを読む・味う 教授 牛場 暁夫

授業科目の内容：

すぐれた日本論でもあり、文学的エッセーでもある。「表彰表徴の帝国」を読み、彼の俳句論なども考えてみたいと思っています。

テキスト：

教科書版が入手できれば、これを使用します。

【07】【04】フランス文学演習 B(1)(秋学期)

講師 岩崎 洋介

授業科目の内容：

基本的に春学期に準じます。

(ただ読むテキストが同著者の *Le Signifiant imaginaire* になる可能性あり)

【07】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【07】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

教授 牛場 暁夫

授業科目の内容：

「19世紀から現代までの文学・文化・芸術」

時代の特徴をコピーなどを使って説明します。各自の発表(秋学期に予定)のためのヒントや資料を与えてゆきます。

春学期末は通常のテストを行なう。

参考書：

その都度指示してゆきます。

【07】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【07】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

准教授 岑村 傑

授業科目の内容：

フランス第三共和政期から20世紀、21世紀にいたるまでの小説を対象とした研究会です。受講者は、各自選択した小説を読み、そこから研究の主題たりうる問題を「発見」し、それについての資料を「調査」し、自分独自の見解を提出すべく「思考」し、最終的には第三者を説得する「論述」(=卒業論文)をまとめ上げることを目指します。音楽でも絵画でも思想でも政治でも歴史でもなく、しかし音楽も絵画も思想も政治も歴史も包含しうる巨大で柔軟な器としての小説に、どっぷりとつかりましょう。

テキスト：

授業時にプリントで配布します。

参考書：

授業時に適宜紹介し、必要に応じてプリントを配布します。

【07】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【07】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

フランス語学、フランス文化と中世仏語と仏文学

教授 川口 順二

授業科目の内容：

フランス語とフランス文化を学ぶ研究会ですが、中世に興味を持つ方にも開かれています。

フランス語については、単語や熟語の意味、冠詞・時制・モダリティなどの文法や語用論の問題、話し言葉、若者ことば英語からの借用語・識字など社会と言語の関係、フランス語教育などフランス語に関わることなら何でも扱います。

他に衣食住その他のフランス文化をカヴァーします。

また、中世に興味のある方も歓迎します。

- 【07】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)
 【07】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)
 【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)
 【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

教授 荻野安奈

授業科目の内容：

私の表の専門は16世紀文学です。裏で「文学」をどこまで拡大解釈できるか、模索しています。履修者が興味の対象を絞りつつ自己発見していくための「産婆術」に徹します。

- 【07】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)
 【07】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)
 【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)
 【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

准教授 喜田浩平

授業科目の内容：

主に言語の運用に関する様々な問題をフランス語を中心に考える研究会です。例えば次のようなテーマを扱います。

- ・接続詞や副詞の語用論的側面の分析
 - ・非文学的テキスト(広告、新聞、雑誌、笑い話、マンガ・BD、絵本など)の分析
 - ・文体論、レトリック
 - ・フランス語教育
 - ・翻訳論
- 今年度は卒論指導が中心になります。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

授業中に指示します。

- 【07】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)
 【07】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)
 【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)
 【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

准教授 市川 崇

授業科目の内容：

20世紀のフランス文化、文学、思想に関心のある人たちのための研究会です。僕自身はジョルジュ・バタイユの思想を主な研究対象にしていますが、実存主義からポスト構造主義にいたる現代思想の流れに関心のある履修者や、30年代以降のフランス文化、社会現象に関心のある履修者も歓迎します。他方、バタイユ、ブランショ、バルト、デリダらによる「書くこと」を巡るの論考への関心を受講者全員が共有し、活発な議論の場を持ちたいと願っています。

テキスト：

授業中にプリントを配布します。

参考書：

- ・サルトル『文学とは何か』人文書院
- ・バタイユ『文学と悪』ちくま学芸文庫
- ・ブランショ『踏み外し』筑摩書房
- ・デリダ『エクリチュールと差異』『哲学の余白』法政大学出版

- 【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
 【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
 【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
 【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)

研究と論文へのイニシエーション 教授 片木 智年

授業科目の内容：

わたくしの現在の関心からいって、以下の分野に興味をもつ方は特に歓迎いたしますが、実際には様々な学生諸君をメンバーとした研究会です。

- (1) 演劇的なもの、役者論、マルチメディア芸術、メディアと文化摩擦
 (2) 16世紀末から17世紀にかけてのテキストと歴史
 (3) 民話、民間伝承、おとぎばなし、妖精譚、幽霊譚
 なお、就職活動・留学に配慮し、本ゼミは後期集中で週2回開かれます。

- 【07】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)
 【07】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)
 【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)
 【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

教授 宮林 寛

授業科目の内容：

私の目標はたったひとつ。履修者が「自分で納得のいく卒論」を完成させるまで気長に見守ることです。たかが卒論、されど卒論、です。初めて「論文」を書く学生諸君は何から手をつければよいのかわからないはず。資料の調査、口頭発表の組み立て方、論文独特の文章……。身につけてもらわなければならない技術はたくさんあります。だからその研究会。教員は学生生活最後の難関を突破するための相談役だと思ってください。

詩を中心にした19世紀フランス文学、絵画、映画などに関心のある学生諸君を歓迎します。

テキスト：

指定せず。

参考書：

授業中に指示します。

- 【07】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)
 【07】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)
 【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)
 【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

教授 小倉 孝誠

授業科目の内容：

近代(とくに19世紀から20世紀前半)の文学と文化史を学びたい人のためのゼミです。文学はそれが書かれた時代と社会を映し出すという側面をもっているため、文学(とりわけ小説)をつうじて歴史、社会、文化を全体的に読み解こうというのがねらいです。身体、ジェンダー、メディア、歴史、風景、絵画と文学などの問題を考えたいと思いますが、受講生には各自の関心におうじて自由にテーマを見つけてもらいたいと思います。ときにビデオ、DVDなどの映像資料を用いている予定です。

テキスト：

- ・バルザック『谷間の百合』(新潮文庫)
- ・ゾラ『獲物の分け前』(ちくま文庫)
- ・デュラス『愛人』(河出文庫)

参考書：

- ・都立大学仏文研究室編『フランスを知る』(法政大学出版局、2003年)
 - ・平島正郎ほか『19世紀の文学・芸術』(青土社、2000年)
- これ以外は授業時に指示する。

- 【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
 【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
 【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
 【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)

教授 宮林 寛

授業科目の内容：

春学期と同じ。

テキスト：

指定せず。

参考書：

個別に指示します。

【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
教授 小倉 孝 誠

授業科目の内容：
春学期の続き。

【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
准教授 岑 村 傑

授業科目の内容：
フランス語学文学研究会 ・ を参照。

テキスト：
授業時にプリントで配布します。

参考書：
授業時に適宜紹介し、必要に応じてプリントを配布します。

【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
教授 牛 場 暁 夫

授業科目の内容：
「19世紀から現代までの文学・文化・芸術」
春学期に与えた知識をふまえたうえでの発表。プレゼンテーションの仕方やコメントにも指導します。ディスカッションの場も設けたい。
参考書：
その都度指示してゆきます。

【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
准教授 喜 田 浩 平

授業科目の内容：
主に言語の運用に関する様々な問題をフランス語を中心に考える研究会です。例えば次のようなテーマを扱います。
・接続詞や副詞の語用論的側面の分析
・非文学的テキスト(広告、新聞、雑誌、笑い話、マンガ・BD、絵本など)の分析
・文体論、レトリック
・フランス語教育
・翻訳論
今年度は卒論指導が中心になります。
テキスト：
プリントを配布します。
参考書：
授業中に指示します。

【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
准教授 市 川 崇

授業科目の内容：
20世紀のフランス文化、文学、思想に関心のある人たちのための研究会です。僕自身はジョルジュ・バタイユの思想を主な研究対象にしていますが、実存主義からポスト構造主義にいたる現代思想の流れに関心のある履修者や、30年代以降のフランス文化、社会現象に関心のある履修者も歓迎します。他方、バタイユ、ブランショ、バルト、デリダらによる「書くこと」を巡っての論考への関心を受講者全員が共有し、活発な議論の場を持ちたいと願っています。

テキスト：
授業中にプリントを配布します。

参考書：
・サルトル『文学とは何か』人文書院
・バタイユ『文学と悪』ちくま学芸文庫
・ブランショ『踏み外し』筑摩書房
・デリダ『エクリチュールと差異』『哲学の余白』法政大学出版

【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
研究と論文へのイニシエーション 教授 片 木 智 年

授業科目の内容：
わたくしの現在の関心からいって、以下の分野に興味をもつ方は特に歓迎いたしますが、実際には様々な学生諸君をメンバーとした研究会です。
(1) 演劇的なもの、役者論、マルチメディア芸術、メディアと文化摩擦
(2) 16世紀末から17世紀にかけてのテキストと歴史
(3) 民話、民間伝承、おとぎばなし、妖精譚、幽霊譚
なお、就職活動・留学に配慮し、本ゼミは後期集中で週2回開かれます。

【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
教授 川 口 順 二

授業科目の内容：
フランス語とフランス文化を学ぶ研究会ですが、中世に興味を持つ方にも開かれています。
フランス語については、単語や熟語の意味、冠詞・時制・モダリティなどの文法や語用論の問題、話し言葉、若者ことば英語からの借用語・識字など社会と言語の関係、フランス語教育などフランス語に関わることなら何でも扱います。
他に衣食住その他のフランス文化をカヴァーします。
また、中世に興味のある方も歓迎します。

【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【07】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
教授 荻 野 安 奈

授業科目の内容：
発表が中心となります。

テキスト：
プリント配布

図書館・情報学専攻

必修科目

【07】【04】図書館・情報学基礎(2)(春学期)

教授 上田 修一

授業科目の内容:

図書館・情報学専攻では、「情報という角度から問題を見つけて解決できる人材」の養成を目指しています。この科目は、受講者が「情報」について考えること、情報を伝達するための情報メディア、蓄積された情報にアクセスするための情報検索、情報メディアの収集、提供、保存のための社会制度である図書館について基礎的な知識を得ることを目的としています。

テキスト:

毎回、プリントを配布します。

日本図書館情報学会『図書館情報学用語辞典第2版』丸善

【07】図書館・情報学文献講読 (A)(1)(春学期)

【07】図書館・情報学文献講読 (A)(1)(秋学期)

【04】図書館・情報学原典講読(A)(2)(通年)

休講

【07】図書館・情報学文献講読 (B)(1)(春学期)

【07】図書館・情報学文献講読 (B)(1)(秋学期)

【04】図書館・情報学原典講読 (B)(2)(通年)

【07】図書館・情報学文献講読 (C)(1)(春学期)

【07】図書館・情報学文献講読 (C)(1)(秋学期)

【04】図書館・情報学原典講読 (C)(2)(通年)

(B) 講師 越塚 美加

(C) 講師 須賀 千絵

授業科目の内容:

各クラス少人数で、図書館・情報学分野におけるトピックをとりあげた英語文献を講読します。図書館・情報学分野の基礎的な用語や概念の理解と、専門的な文献を読みこなせる英語力の習得を目指します。基本的に、毎回履修者が発表を行い、適宜必要な補足を行う形で授業を進めていきます。

(B)(C)の2クラスでは、同じテキストを使い、ほぼ同じ進度で授業を進めます。試験も共通問題です。各クラスへの振り分けは4月の専攻別ガイダンスの時に発表しますので、各自確認のうえ、必ず指示されたクラスを履修してください。また、専攻別ガイダンスの時に初回のテキスト(下記の1)を配布しますので、初回の授業までに予習してきてください。

履修は原則として図書館・情報学専攻の学生に限ります。

テキスト:

Levy, Steven. "The future of reading" Newsweek. Nov. 26, 2007, p.52-59.

これ以降の文献に関しては、授業において指示します。

【07】【04】情報サービス基礎(2)(春学期)

社会における図書館の存在意義とその役割

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容:

この科目は、原則として図書館・情報学専攻2年生の必修科目であり、基礎科目の一つとして各種の図書館における情報サービスの概要と意義を学びます。そして、秋学期に開講される「情報サービス基礎」と一体となって、3年次以降に設置される図書館コースへの入門科目となるように位置づけられています。

テキスト:

授業の進行に応じて、読むべき文献を順次指定しますので、事前

にしっかり読んできてください。事前に読んでこないことには、授業が面白いわけではありません。

参考書:

- ・千野信浩『図書館を使い倒す!』(新潮新書), 2005年
- ・井上真琴『図書館に訊け!』(ちくま新書) 筑摩書房, 2004年
- ・菅谷明子『未来をつくる図書館 ニューヨークからの報告』(岩波新書) 岩波書店, 2003年
- ・辻由美『図書館であそぼう』(講談社現代新書) 講談社, 1999年
- ・まちの図書館でしらべる編集委員会『まちの図書館でしらべる』柏書房, 2002年

【07】【04】情報サービス基礎(2)(秋学期)

教授(有期) 三浦 逸雄

授業科目の内容:

本科目は「情報サービス基礎」を踏まえた図書館情報学全体への入門的役割を果たす科目として位置づけられる。図書館及びその他の情報サービス提供機関をひとつの社会的システムとして捉え、記録された情報・知識の生産・流通、選択・収集、組織・蓄積、提供・利用システムといった広いコンテキストにおいて図書館・情報サービスの諸問題を論じる。

テキスト:

授業においてプリント資料を適宜配布する。

参考書:

最初の授業で参考文献を指示する。

【07】【04】情報検索基礎(2)(秋学期)

教授 岸田 和明

授業科目の内容:

情報と情報システム、情報検索の過程、検索手法、検索のしくみ、検索評価、データベース、索引、情報検索関連用語、さらに図書館目録、分類など書誌コントロールについての基礎的理解を得ることを目的とした授業内容です。

テキスト:

授業時にプリントを適宜、配布します。

参考書:

情報科学技術協会編『情報検索の基礎知識 新訂版』2006

【07】【04】情報検索基礎(A)(2)(春学期)

休講

【07】【04】情報検索基礎(B)(2)(春学期)

【07】【04】情報検索基礎(C)(2)(春学期)

(B) 講師 石田 栄美

(C) 講師 中島 玲子

授業科目の内容:

図書館・情報学の研究に必要な基本技能であるコンピュータの操作及び倫理について習熟することを目標として、各種アプリケーションとネットワークの利用を中心に講義と演習を並行して行います。

【07】【04】情報メディア基礎(2)(秋学期)

教授 田村 俊作

授業科目の内容:

図書、雑誌、新聞等の印刷メディアを中心に、情報メディアの特性、生産・流通のプロセスについて概説します。

テキスト:

プリントを配布します。

【07】【04】情報メディア基礎(A)(2)(春学期)

休講

【07】【04】情報メディア基礎 (2)(春学期)
(B)講師 菅野育子
(C)講師 杉江典子

授業科目の内容:

目録, 書誌, 索引とかたちで実現されている資料組織の基本的考え方を学ぶため, 目録, 主要な書誌・索引類, 書誌データベース, 参考図書概説を行うと共に, それらを使った基礎的な資料探索の方法の修得を目指します。

テキスト:

プリントを配布します。

参考書:

長澤雅男・石黒祐子『情報源としてのレファレンスブックス 新版』日本図書館協会 2004

【07】【04】図書館・情報学研究法(2)(秋学期)

教授 上田修一
教授 田村俊作
教授 糸賀雅児
教授 岸田和明
准教授 原田隆史
教授(有期) 三浦逸雄

授業科目の内容:

各担当者が, 別個に授業を行います。それぞれの担当者の内容については, 6月に説明をし, 6月末に志望票を提出して頂きます。7月はじめに, 発表しますので, それに従って下さい。なお, 4年次の図書館・情報学研究会にと継続します。

【07】図書館・情報学研究会 (A)(セ)(1)(春学期)

【07】図書館・情報学研究会 (A)(セ)(1)(秋学期)

【04】図書館・情報学研究会(A)(2)(通年)

教授 上田修一

授業科目の内容:

図書館・情報学分野の課題に関する研究および卒業論文執筆のための指導を行いません。

【07】図書館・情報学研究会 (B)(セ)(1)(春学期)

【07】図書館・情報学研究会 (B)(セ)(1)(秋学期)

【04】図書館・情報学研究会(B)(2)(通年)

卒業論文の研究指導 教授 糸賀雅児

授業科目の内容:

卒業論文の執筆に向けて, テーマの選択, 研究の進め方, 論文執筆の技術的な助言などを, 逐次行っていきます。

【07】図書館・情報学研究会 (C)(セ)(1)(春学期)

【07】図書館・情報学研究会 (C)(セ)(1)(秋学期)

【04】図書館・情報学研究会(C)(2)(通年)

休講

【07】図書館・情報学研究会 (D)(セ)(1)(春学期)

【07】図書館・情報学研究会 (D)(セ)(1)(秋学期)

【04】図書館・情報学研究会(D)(2)(通年)

教授 岸田和明

授業科目の内容:

卒業論文の指導を行います。テーマの選択, 先行研究の調べ方, 調査や実験の計画, データの分析, 論文執筆など, 順次, 指導していきます。

【07】図書館・情報学研究会 (E)(セ)(1)(春学期)

【07】図書館・情報学研究会 (E)(セ)(1)(秋学期)

【04】図書館・情報学研究会(E)(2)(通年)

教授 田村俊作

授業科目の内容:

図書館におけるレファレンス・サービスやその他の利用者サービス, 図書館史などの図書館に係わる問題, 読書・情報探索行動など図書館利用者・利用に関連する諸問題をテーマとする学生のための卒論指導を行います。

【07】図書館・情報学研究会 (F)(セ)(1)(春学期)

【07】図書館・情報学研究会 (F)(セ)(1)(秋学期)

【04】図書館・情報学研究会(F)(2)(通年)

准教授 原田隆史

授業科目の内容:

卒業論文の指導のための研究会です。テーマの設定, 調査・実験, 論文執筆といった卒業論文の作成の各過程での助言を行っていきま。情報検索や情報システムに関わるテーマを中心と考えていますが, 学生諸君の興味にできるだけ応じたいと思っています。

【07】図書館・情報学研究会 (H)(セ)(1)(春学期)

【07】図書館・情報学研究会 (H)(セ)(1)(秋学期)

【04】図書館・情報学研究会(H)(2)(通年)

教授(有期) 三浦逸雄

授業科目の内容:

論文テーマの選択, 研究・調査の進め方, 資料・データの処理・分析, 論文の構成, 文章の書き方など, 卒業論文の執筆に向けての指導を行う。

テキスト:

なし

参考書:

なし

選 択 科 目

【04】図書館概論(2)(秋学期)

情報サービス提供のための図書館経営のあり方

名誉教授 高山正也

授業科目の内容:

図書館とは一つの社会的な組織であり, その組織は「ヒト」, 「モノ」, 「カネ」といった多くの要素や資源の適切な結合により機能し, 存続し, 発展します。存在するコミュニティーに提供されるサービスは検索ベースの情報サービスの中核となる図書館サービスであり, この図書館サービスは人類社会の知的文化的基盤をなすものです。このような図書館が永続し, 絶えざる発展を目指すために, その組織の運営とその結果としての図書館サービスが現代社会においてどのようにあるべきかについて講義したいと考えます。

テキスト:

高山正也編, 改訂図書館経営論. 樹村房, 2004, 184 p.

参考書:

Buckland, M. K, 図書館・情報サービスの理論. 高山正也訳. 勁草書房, 1990, 324 p.

【07】【04】図書館の計画と経営(2)(春学期)

教授(有期) 三浦逸雄

授業科目の内容:

利用者の多種多様な要求に応じて情報や資料を提供する機関の中で, 特に図書館に焦点をあて, その使命や役割を遂行するための経

管理機能について基本的な理解を目指す。講義においては大学図書館および公共図書館を中心に管理運営、計画策定、人的資源、財政といった側面を取り上げる。

テキスト：

授業においてプリント資料を適宜配布する。

参考書：

授業で適宜指示する。

【07】【04】レファレンス・サービス論(2)(春学期)

教授 田村俊作

授業科目の内容：

図書館のレファレンス・サービスについて、理論と実際を学びます。レファレンス・サービスの基本的な考え方、歴史、サービス内容、技術を概観します。講義で得た知識をもとに、レファレンス・サービスの実態の分析を各人が試みます。また、講義と並行して、事例問題によって、問題発生から解決までの調査法の実際を演習し、それを通して調査手順の修得をめざします。

参考書：

- ・長澤雅男『レファレンス・サービス』丸善 1995
- ・長澤雅男、石黒祐子『問題解決のためのレファレンスサービス 新版』日本図書館協会 2007
- ・伊藤松彦編『新図書館学教育資料集成 4：参考業務』教育史料出版会 1989
- ・阪田蓉子編『新編図書館学教育資料集成 4：情報サービス論 補訂版』教育史料出版会 2003

【07】【04】図書館資料論(2)(春学期)

教授(有期) 三浦逸雄

授業科目の内容：

図書館のコレクション形成・管理の視点から資料の生産・流通、選択・収集、コレクション評価・保存などを一つのプロセスとして捉えて講義をすすめる。また現在、情報技術の進展に伴って急速に増大している電子情報源(あるいは電子図書館)についてもコレクション形成・管理およびアクセス提供の側面から取り上げる。

テキスト：

三浦逸雄・根本彰著『コレクションの形成と管理』1999年(再版)雄山閣

参考書：

三浦逸雄・野末俊比古編『専門資料論』日本図書館協会 2005年、その他の関連文献は授業で適宜指示する。

【07】【04】資料組織論(2)(春学期)

教授 上田修一

授業科目の内容：

この科目では、図書館目録の意義を述べ、目録規則、目録法、分類、件名、目録機械化、MARC、書誌ユーティリティ、オンライン目録など図書館目録の基本について講じます。

テキスト：

初回にテキストを頒布します。

【07】【04】コミュニケーション史(2)(春学期)

英国ヴィクトリア時代の書物と社会

講師 武者小路 信和

授業科目の内容：

19世紀の英国では、人口の増大・識字率の上昇などの要因によって、読書人口が急激に拡大していきました。この急激に拡大するマーケットを狙って、印刷・出版・製本などの分野でさまざまな企画・新機軸や書物・読書に関わる新しいビジネス・組織が生み出されました。この授業では、書物・読書をめぐってダイナミックな動きの見たれたヴィクトリア時代のイギリスを対象に、書物と社会との関わり、コミュニケーション事情について解説します。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

その都度、授業時に紹介します。

【07】児童サービス論(2)(秋学期)

【04】児童資料論(2)(秋学期) 講師 汐崎順子

授業科目の内容：

本講義では、子どもに本を提供する最も基本的な機関である公共図書館の児童サービスについて考えていきます。児童サービスの意義と目的を理解するとともに、利用者である子どもに提供する本(=児童資料)の実質的な理解を深めること、子どもと本を結びつける効果的な方法について学ぶことを目指します。上記の児童資料は、個々の子どもの能力や興味に対応する形で存在し、その内容や分野は多岐に渡っています。子ども時代の読書はそれぞれの人格形成に深く関わるものであり、子どもに本を手渡す立場である児童図書館員には、まず各種児童資料に精通していることが求められます。授業では様々な分野の児童資料を実際に数多く紹介し、受講生にも実際に本を手にとって「読む・比較する・検討する」作業を求めます。

テキスト：

特になし。授業の時に適宜資料を配布します。

参考書：

中多泰子・穴戸宏・汐崎順子共著「改訂版 児童サービス論」樹村房(2004)

【07】図書館実習(セ)(1)(春学期)

【07】図書館実習(セ)(1)(秋学期)

【04】図書館実習(2)(通年)

図書館・情報学におけるインターンシップ科目

教授 岸田和明

授業科目の内容：

図書館・情報学専攻の学生で、司書資格を取得し、図書館への就職を希望する者のみを対象としたインターンシップ科目です。インターンシップとは「学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」とされています。したがって、この科目では各種の図書館や資料室、メディアセンター等においてインターンとして実務を経験することになります。

実習ガイダンスを3~4回開催(第1回は4月10日)しますので、履修者はすべてのガイダンスに必ず出席してください。

【07】【04】図書館活動論(公共図書館)(2)(秋学期)

公共図書館の活動・サービス・法制度

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

「地域の情報拠点」「生涯学習の拠点」としての公共図書館の活動やサービス、そしてそれらを支える法制や基準、政策などを学びます。なお、事例集やスライド、ビデオを教材として併用することで、国内外の公立図書館活動の実態について理解が深まるよう配慮します。

テキスト：

町村図書館活動推進委員会編『図書館による町村ルネサンス Lプラン 21』日本図書館協会、2001年。

参考書：

『これからの図書館像～地域を支える情報拠点をめざして～(報告)』文部科学省、2006年。(http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/04/06032701/009.pdf)

【07】【04】図書館活動論(大学図書館)(2)(秋学期)

教授 上田修一

講師 酒井由紀子

授業科目の内容：

大学図書館の運営と実務に関する基礎的知識について解説します。

参考書：

- ・岩猿敏生, 大城善盛, 浅野次郎. 大学図書館の管理と運営. 東京, 日本図書館協会, 1992. 247p.
- ・逸村裕, 竹内比呂也編. 変わりゆく大学図書館. 東京, 勁草書房, 2005. 232p.
- ・B. L. ホーキンス, P. バッティン編. デジタル時代の大学と図書館：21世紀における学術情報資源マネジメント. 町田, 玉川大学出版部, 2002. 370p.
- ・Budd, J. M. The changing academic library. Englewood, Libraries Unlimited, 2005. 323p.
- ・Brophy, Peter. The academic library. 2nd ed. London, Library Association, 2005. 233p.

【07】【04】図書館活動論 (学校図書館)(2)(秋学期)

学校図書館の果たす役割とは - 学校図書館活用の実際を学ぶ
講師 小林 路子

授業科目の内容：

情報技術の進展著しい現代社会において、学校教育で求められているのは、子どもたちに、自ら新たな知識を求めて学ぶ姿勢を培うことであり、確かな言語能力を養うことである。今後の社会を形成していく、こうした人材の育成に、学校図書館の果たす役割は大きいと言える。

この講義では、学校図書館の理念や現在の施策を知り、学校図書館を活用した学習の読書活動の実際について学びながら、学校図書館活性化の方策を探る。

テキスト：

特に使用しない

参考書：

- ・「新学校図書館通論」改訂版(学芸図書) 図書館教育研究会
- ・「学習社会・情報社会における学校図書館」(風間書房) 塩見昇他著
- ・「インターネット時代の学校図書館」(東京電機大学出版局) 根本彰監修 堀川照代・中村百合子編著

【07】【04】図書館活動論 (国立図書館)(2)(秋学期)

講師 平野 美恵子

授業科目の内容：

諸外国の国立図書館と対比させつつ、わが国の国立国会図書館の特徴を理解し、国立図書館としての課題と今後を考える。

テキスト：

授業において配布する。

【07】情報メディア概説(2)(春学期)

【04】情報メディア概説 (2)(春学期)

教授 上田 修一

授業科目の内容：

情報メディア概説 では、メディアを利用する人々について扱います。情報メディアについて基本的な解説をしたあと、各種のメディア利用調査を取り上げ、さらに受講者自身が集めたデータを分析します。これにより、現代人が以下に多くの時間をメディアとの接触に費やし、さらにその強い影響を受けているのかを明らかにします。

テキスト：

毎回プリントを配布します

【04】情報メディア概説 (2)(秋学期)

教授 上田 修一

授業科目の内容：

情報メディア概説 では、情報メディアの提供する側からメディアについて扱います。情報メディアについての歴史とメディア論、メディアについての基本概念を扱った後、新聞社、テレビ局、通信業、出版流通業、音楽産業、映画産業、ウェブを取り上げます。

テキスト：

毎回プリントを配布します。

【07】情報メディアの構造と分析(2)(秋学期)

【04】情報メディアの構造と分析 (2)(秋学期)

情報メディアの構造と分析方法 助教 安形 麻理

授業科目の内容：

情報メディアは、独自の物理的・技術的特性および社会的場としての機能を持ち、さらにそのメディアに特定のな方法で情報を伝達しています。個々の情報メディアが固有に持つその形式的・構造的な特性についてまとめるとともに、その特性を具体的に分析する方法を概説します。具体的には「新聞および新聞記事」、「図書」、「マンガ」を扱います。分析方法の概説の後、実際に新聞記事や写真やマンガ作品を分析してもらいます。

【04】情報メディアの構造と分析 (2)(春学期)

情報メディアの機能 講師 菅野 育子

授業科目の内容：

情報メディアの機能に関する基礎的な知識を学ぶために、学術情報だけでなく一般社会における情報の流通に関係する各種情報メディアについて概説します。

具体的には、新聞(新聞記事)、雑誌(雑誌記事)、図書、特許資料、絵画(美術作品)などを取り上げ、その特徴を概観します。

さらに、各情報メディアの分析を行ないながら、分析結果からどのような情報を得ることができるのかについて議論します。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

【07】【04】情報認識の基礎(2)(春学期)

人間にとって心地よい情報環境をデザインするために

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

現代社会には情報が洪水のようにあふれていると言われますが、あふれているのは単に電気的な信号や物理的な記号だけではないのでしょうか？

いまあなたが手にしているこの「講義要綱」にしても、たくさんの情報が載っているように見えますが、よく考えてみると、炭素と水素の化合物である紙の上に、ところどころ黒いインクのシミで何かが描かれているだけにすぎません。それを前にして、あれこれ悩んだりしているのは、ある意味ではきわめて不思議な現象なのです。

人間が信号や記号を入手し、利用し、理解してはじめて、そうしたモノたちは意味をもった情報になります。そう考えると、情報の存在と人間の存在の間には相互作用がはたらくこととなります。では、人間にとって記号と情報、メディアの相互関係は、どのように捉えたらよいのでしょうか。さらには、メッセージの意味はどこから生まれてくるのでしょうか、同じメッセージを受け取っても人によって異なった情報を受け取るのはなぜでしょうか、小説や絵画、音楽は本当に情報と呼べるのでしょうか、.....？

この科目では、こうした人間の情報認識に関わる基本的な問題を提起しながら、学生とともにヒューマンサイズの情報を扱うための本質的な視点を探っていきます。こうした過程を経て、これからの時代にふさわしい、人間の情報環境デザインができる人間を育てたいと考えています。

ですから、単なる note-taking や教科書の理解よりも、常識に対する批判的なまなざしと深い思索、そして何よりもディスカッションへの積極的参加が求められます。

テキスト：

池上嘉彦『記号論への招待』(岩波新書) 岩波書店, 1984年

他に、授業の進行に応じて、読むべき文献を順次指定しますので、事前に読んでください。事前に読んでこないことには、ディスカッションへ積極的に参加できません。1回の授業で論点を2つずつ、それも事前に示していく予定です。

参考書：

- ・渡辺保史『情報デザイン入門』平凡社, 2001年
- ・西垣通『聖なるヴァーチャル・リアリティ』岩波書店, 1995年
- ・西垣通『こころの情報学』筑摩書房, 1999年
- ・日高敏隆『動物と人間の世界認識』筑摩書房, 2003年

【07】印刷メディア(2)(秋学期)

【04】情報メディア特殊 (本)(2)(秋学期)

「モノ」としての書物がもつ表現可能性

講師 武者小路 信和

授業科目の内容：

私たちは本を読んでいるとき、印刷された文章の意味だけを読みとっている訳ではなく、意識してるか否かは別にして、書体、文字組み、紙質、造本構造などからも同時に「読みとっている」はず。この授業では、物理的な「モノ」としての書物がもつ表現可能性について、タイポグラフィ、ブック・デザイン、造本構造などの面から解説します。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

その都度、授業時に紹介します。

【07】デジタルメディア(2)(春学期)

【04】情報メディア特殊 (電子媒体)(2)(春学期)

WWWの情報共有のための基礎技術と応用

講師 神崎 正英

授業科目の内容：

WWWの普及によって、誰もがかつて無い規模の情報にアクセスできるようになったものの、その中から本当に必要な情報資源を見つけたのは簡単ではありません。また、利用者環境の多様化や国際化が進む中で、情報の多面的な利用や相互関連を考慮しないコンテンツが氾濫し、有益な活用の妨げになっています。

WWWは本来、異なる環境での情報共有、さらにコンピュータの力を利用した効率的で的確な情報探索・活用を目指していました。これを実現するためには、コンテンツの記述、データの表現と交換に関する基本ルールを踏まえることが重要です。この講座では、こうした観点で、WWWの基礎からRDFによるデータの記述方法とその応用までを取り上げます。

テキスト：

授業資料はウェブ上で配布します。また各技術仕様書の原典(英文)からエッセンスとなる部分を指定し、授業中に読解します。

参考書：

神崎正英『セマンティック・ウェブのためのRDF/OWL入門』(2005, 森北出版)

【07】学術情報メディア論(2)(春学期)

【04】情報メディア特殊 (科学コミュニケーションⅡ)(春学期)

教授 上田 修一

講師 松林 麻実子

授業科目の内容：

学術コミュニケーションは、送り手も受け手も研究者という閉鎖的な集団内におけるコミュニケーションであり、一般のコミュニケーションとは異なる特性を持っています。ここでは研究者達が科学研究という社会的行為を、学術コミュニケーションを通じていかに実現されているかを検討します。特に現在、学術コミュニケーションにおいては、「電子化」が非常に注目されています。電子化によって、学術コミュニケーションのあり方が、根本的に変容する可能性があります。電子化については、いまだ全貌が見えたとはいえませんが、技術の電子化がいかなる社会的変化を引き起こしているのか、最新の事例をできるだけ交えながら検討していきます。

テキスト：

倉田敬子『学術情報流通とオープンアクセス』勁草書房, 2007

【07】社会情報論(2)(秋学期)

【04】情報メディア特殊 (社会と情報)(2)(秋学期)

休講

【07】【04】情報検索概説 (2)(春学期)

教授 岸田 和明

授業科目の内容：

この講義は情報検索に関する基本的なことがらを概説することを目的とし、図書や雑誌論文を収録したデータベースに対する検索を実現・実行するための伝統的な手法を中心に、基礎・中級レベルの内容を解説しています。さらに、このようないわゆるテキスト検索の特徴をよりよく理解するために、関係データベースを利用したデータ管理・検索の方法についても学びます。また、最近のインターネットのサーチエンジンでは、伝統的な検索方式とは異なる原理が使用されており、これについても説明します。

テキスト：

授業時にプリントを適宜、配布します。

参考書：

岸田和明『情報検索の理論と技術』勁草書房 1998

【07】【04】情報検索概説 (2)(秋学期)

名誉教授 細野 公男

授業科目の内容：

情報検索は、人間の介在する部分が非常に重要な役割を演じる情報処理といえます。そこで本講義では、人間が情報検索にどのように関わっているかの観点を中心に、情報検索の特徴を論じます。

【07】【04】情報探索行動(2)(秋学期)

教授 田村 俊作

授業科目の内容：

人々がどんなときに、どのようにして情報を求め、利用するのか、それがこの講義のテーマとなります。人々が情報を求める社会的文脈および情報探索・利用の過程についての検討を中心に、情報リテラシーや探索のスキル等について考えてみます。

テキスト：

特に使用しません。適宜プリントを配布します。

参考書：

- ・Varlejs, J. ed. 『情報の要求と探索』勁草書房 1993
- ・田村俊作編『情報探索と情報利用』勁草書房 2001
- ・Case, D. O. Looking for Information. 2nd ed. Academic Press, 2007
- ・Fisher, K. E. et. al., ed Theories of Information Behavior. Information Today, 2005
- ・Choo, C. W. The Knowing Organization. 2nd ed. Oxford University Press, 2005

【07】データベース論(2)(秋学期)

【04】情報探索研究(2)(秋学期) 教授 岸田 和明

授業科目の内容：

インターネットの発達や電子文書の増加に伴って、情報検索の研究はますます盛んになっています。この講義では、情報検索の基礎的な理論を解説するとともに、情報検索およびその関連領域における研究の動向・特徴・方法について考えていきます。授業の前半部分では、情報検索の理論における基本的なものをその初歩的な事項から説明します。これらの基礎的な知識に基づいて、後半では、現在進められている情報検索研究の動向・特徴・方法、あるいはその研究課題について解説し、さらに、関連領域として、テキスト処理に関する問題・技法について紹介します。

テキスト：

授業時にプリントを適宜、配布します。

参考書：

岸田和明『情報検索の理論と技術』勁草書房 1998

【04】データベース検索(2)(春学期)

講師 安形 輝

授業科目の内容：

卒業論文や各種レポートなどを作成していくなかで、過去の研究を参照するために、各種のデータベースを検索していく必要があります。この授業では、自分でデータベース検索を行うことができる知識と技術の習得を目的とします。パソコン教室で有料データベース検索サービスやインターネット上の情報検索サービスを使った実習を行います。

テキスト：

特に指定しません

参考書：

特に指定しません

【07】デジタルアーカイブ論(2)(秋学期)

【04】情報検索システム(2)(秋学期)

助教 安形 麻理

授業科目の内容：

書誌データベースの作成と資料のデジタル化を中心に情報検索システムを扱います。具体的には、データベースと情報検索システムの基本的な問題から、簡単な文字処理を行ったり、データベースソフトを用いた書誌データベース、画像・テキストアーカイブを作成する演習を行います。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

【07】【04】情報処理技術(2)(春学期)

准教授 原田 隆史

授業科目の内容：

図書館・情報学分野の学習や研究に必要な基礎技術であるコンピュータを少し高めのレベルで使いこなせるようになることを目標とし、例題をもとに学習します。とりあげるテーマはWebページによる情報発信に関わるものが中心ですが、一般的なコンピュータの利用にも応用できるように心がけるつもりです。講義に加えて、PCを用いた演習を行い、単なる知識だけではなく実践的な能力を身につけることを目指します。

テキスト：

必要に応じて、適宜プリントを配布します。

【07】【04】自然言語処理の基礎(2)(春学期)

教授 岸田 和明

授業科目の内容：

情報の検索・分類・抽出・要約を効果的かつ効率的におこなうための自然言語処理の理論や技法の基礎を学ぶことがこの講義の目標です。例えば、大規模な文献データベースを効果的に検索するには、検索質問や各文献の標題・抄録(または全文)に対する的確な解析が必要ですが、これにはさまざまな自然言語処理の技法を応用することができます。この講義では、このような目的で文献のテキストを解析するための統計的な方法や、形態素解析・構文解析・意味解析・文脈解析の方法を解説します。さらには、テキストの自動分類、テキストからの情報の自動抽出、テキストの自動要約などにも焦点を当て、そのなかでどのように自然言語処理の方法(統計的方法を含む)が活用されているのかを学んでいきます。なお、講義においては、統計学や言語学などのごく初歩的な知識から解説していくので、これらについての予備的な知識がなくとも受講することは可能です。

テキスト：

授業中にプリントを適宜、配布します。

参考書：

長尾真編『自然言語処理』岩波書店 1996(岩波講座ソフトウェア15)

【07】【04】画像・映像処理の基礎(2)(秋学期)

准教授 原田 隆史

授業科目の内容：

近年、コンピュータを用いて画像や映像を加工していくことが非常に容易になってきました。この授業では、身近にある素材を用いて様々な加工を行う演習を通じて画像・映像処理の基礎的な技法について学びます。さらに、画像・映像データベースに関する理論と技術についても説明していきます。授業では講義に加えてPCを用いた演習も行い、単なる知識だけではなく実践的な能力を身につけることを目指します。

テキスト：

必要に応じて、適宜プリントを配布 または Web 上で公開します。

【07】【04】書誌学(東洋)(2)(秋学期)

古書・古地図・錦絵を読む 講師 白石 克

授業科目の内容：

毎回、日本や東洋の古書類を手にとり、各々の特性、更に整理法を探究いたします。古典類を身近に感じるようになることも、目標の一つです。

参考書：

『図書学事典(長澤規矩也著)』(汲古書店)

【07】【04】書誌学(西洋)(2)(春学期)

助教 安形 麻理

授業科目の内容：

物理的な「モノ」としての書物の研究および文献伝達の研究である、分析書誌学(analytical bibliography)の基礎について概説します。西洋の印刷本を主な対象として、書物の形態、材料、活字、挿絵、製本などの特徴と、本造りの各工程を説明します。さらに、そうした造本工程によって意図的・非意図的に生じる本文の異同についても取り上げます。授業中に、実例として慶應義塾大学図書館所蔵の貴重書の実物やデジタル画像、活字などの「モノ」の回覧や、ビデオ鑑賞を行って、理解の助けとします。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

授業に持って来たり買ったりする必要はありませんが、できれば適宜参照してください。

- ・Carter, John. 西洋書誌学入門. 横山千晶訳. 東京, 図書出版社, 1994, 428 p. (こちらは残念ながら品切れ中です)
- ・高野彰. 洋書の話(増補版). 東京, 丸善, 1995, 225 p.

【04】図書館・情報学特殊(A)(2)(春学期)

休講

社会学専攻

必修科目

【07】社会学概論 (セ)(2)(春学期)				
【07】社会学概論 (セ)(2)(秋学期)				
【04】社会学概論(4)(通年)	教授	浜	日出夫	
	教授	平野	敏政	
	教授	藤田	弘夫	
	准教授	岡原	正幸	
教職課程センター	准教授	竹村	英樹	
	准教授	長尾	真理	

授業科目の内容：

見えない社会を見るためのレッスン(浜)

1. 電車のなかで社会学(1)
2. 電車のなかで社会学(2)
3. 電車のなかで社会学(3)
4. 電車のなかで社会学(4)

家族・親族論(平野)

1. 家族・親族論(1)
2. 家族・親族論(2)
3. 家族・親族論(3)
4. 家族・親族論(4)

都市・国家・公共性(藤田)

1. 近代化と都市化
2. 都市の比較社会学
3. 伝統国家と近代国家
4. 公共性の比較社会学

社会的な不平等・差別論(他者を見ること,自己を見ること)(岡原)

1. 制度として「見る」社会学/制度としての社会学
2. 調査することの倫理性(観察と介入)
3. 新しい潮流(障害学/ゲイ・スタディーズ/ポストコロナリズムなど)の立ち位置
4. スティグマの社会学

発達と教育の社会学(竹村)

1. 教育拡大の理論(1)
2. 教育拡大の理論(2)
3. 学歴社会論
4. 発達と社会化

現代社会と医療(長尾)

1. 患者の権利
2. 先端医療(1)
3. 先端医療(2)
4. 科学技術と人間

テキスト：

各担当者が指示します。

参考書：

ギデンズ『社会学』而立書房 他

【07】社会心理学概論 (セ)(2)(春学期)				
【07】社会心理学概論 (セ)(2)(秋学期)				
【04】社会心理学概論(4)(通年)				
個人と個人,個人と集団,個人と社会の関係および集合行動について論じる	教授	榊	博文	

授業科目の内容：

まず,社会心理学の対象と方法,歴史,心理学的社会心理学,社会学的社会心理学について触れ,対人認知,対人魅力,社会的態度,集団と個人,社会的相互作用,集団の構造と機能,群集,流行,デマ,パニック,マスコミ,広告効果,模倣行動など集合現象等の,社会心理学の低位分野における主要な概念や理論,及び個々の実証的研究を講義する。

更に,「説得」,集合現象の一部である「普及」,それを説明する「異文化間屈折」理論,「再発明」概念,「あらかじめ屈折」理論等についても言及する。

テキスト：

青池・榊編著「現代社会心理学」慶應大学出版会

参考書：

榊博文「説得と影響 交渉のための社会心理学」ブレーン出版

【07】文化人類学概論 (セ)(2)(春学期)				
【07】文化人類学概論 (セ)(2)(秋学期)				
【04】文化人類学概論(4)(春学期集中)				
	教授	鈴木	正崇	

授業科目の内容：

文化人類学(民族学)の基本的な概念や考え方について述べる概論である。最初に文化や民族の概念について検討し,主要な学説や重要な人類学者の学説の検討を行って,各論に入る。個別の主題としては,親族,ジェンダー,宗教,経済,開発などを取り上げる。日本民俗学への目配りもする。一・二限連続の前期集中の講義なので履修に注意すること。

テキスト：

綾部恒雄編『文化人類学20の理論』弘文堂,2006。

参考書：

- ・関一敏・大塚和夫編『宗教人類学入門』弘文堂,2004。
- ・『文化人類学文献事典』弘文堂,2004。
- ・山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード』有斐閣,1997。
- ・綾部恒雄編『文化人類学最新述語100』弘文堂,2002。
- ・山下晋司編『文化人類学入門』弘文堂,2005。

【07】社会学史 (セ)(2)(春学期)				
【07】社会学史 (セ)(2)(秋学期)				
【04】社会学史(4)(通年)	教授	浜	日出夫	
	教授	平野	敏政	
	教授	藤田	弘夫	
	准教授	岡原	正幸	
	准教授	長尾	真理	

授業科目の内容：

19世紀の社会と社会学(藤田)

1. 社会概念化と社会学の誕生 社会主義・社会科学・社会学
2. 社会思想と社会の概念 社会有機体説とマルクス
3. 社会調査と社会の概念 ブース,ル・プレー,ゲテス
4. 日本における欧米の社会思想の受容

5.(付論)アンソニー・ギデンズとイギリス社会学

デュルケム,ウェーバー,ジンメル(浜)

1. 1890年代の世代

2. 理解社会学 M. ウェーバー

3. 社会学主義 E. デュルケム

4. 形式社会学 G. ジンメル

5. 官僚制・アノミー・文化の悲劇

機能主義(平野)

1. 社会有機体説・規範主義と機能主義

2. 初期機能主義理論 マリノフスキー,ラドリック=ブラウン

3. 構造・機能主義 パーソンズ(システム・パターン変数・AGIL)

4. 構造機能主義批判 マートン・ダーレンドルフ

5. 社会システムとシステム概念

フランクフルト学派・ルーマン(長尾)

1. 批判理論の成立 M. ホルクハイマー W. ベンヤミン

2. 近代合理性の行方 Th. アドルノ H. マルクューゼ E. フロム

3. 批判的理性とコミュニケーション J. ハーバーマス

4. 社会秩序とシステム N. ルーマン

5. 精神医学は社会科学に何をもたらしたか。

象徴的相互作用論・ブルデュー(岡原)

1. シカゴ学派と自我論 クーリー,トマス,ミード

2. 象徴的相互作用論 現実構成・レイベリング・参与観察
3. ゴフマン 印象管理・自己呈示・アイデンティティの政治
4. ブルデュー 文化資本・象徴暴力・ホモアカデミクス
5. 現代思想と社会学 フーコー、イリイチ、サイード

参考書：

- ・コリンズ『社会学の歴史』有斐閣
- ・那須寿編『クロニクル社会学』有斐閣
- ・土井他編『はじめて学ぶ社会学』ミネルヴァ書房

-
- 【07】社会調査 (セ)(1)(春学期)
 - 【07】社会調査 (セ)(1)(秋学期)
 - 【04】社会調査 (2)(通年) 教授 李 光 鎬
-

授業科目の内容：

この授業では社会現象や人間行動を計量的な方法で実証的に把握、検証するための諸技法について、適宜演習を交えながら、講義を行う。春学期においては、サーベイ法を中心に調査の企画・デザインから、調査票の作成、調査対象者の抽出、調査の実施、データの収集にいたる一連の過程において必要となる知識や技法について学習する。また社会調査における倫理的問題についても理解を深める。秋学期においては、調査によって集められたデータを集計・分析する統計的な技法とそれらの技法の背後にある論理について学ぶ。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

授業中に示す

-
- 【07】社会調査 (セ)(1)(春学期)
 - 【07】社会調査 (セ)(1)(秋学期)
 - 【04】社会調査 (2)(通年) フィールドワーク演習 准教授 榎 尾 直 樹
-

授業科目の内容：

本講義は、社会調査の中でも聞き書きや参与観察を主たる方法とする質的調査の実習を行う。しかし、みんなで野外調査に出かけることはできないので、授業の中で実習を行う。全部で14の実習を予定している。

テキスト：

特に無し

参考書：

- ・渡辺康彦『セルフカウンセリング』ミネルヴァ書房、1993年
- ・伊藤・榎尾・弓山編『スピリチュアリティの社会学』、世界思想社、2004年
- ・好井裕明他編『フィールドワークの経験』せりか書房
- ・榎尾直樹編『スピリチュアリティを生きる』、せりか書房、2002年
その他授業の中で適宜指示する。

-
- 【07】医療社会学 (セ)(2)(春学期)
 - 【07】医療社会学 (セ)(2)(秋学期)
 - 【04】医療社会学 (4)(通年) 現代社会と医療 准教授 長 尾 真 理
-

授業科目の内容：

今日先端医療技術は、バイオテクノロジーや情報処理技術の発達に支えられ飛躍的な発展を遂げている。しかし同時に、生命の誕生や死をめぐる問題を含め、従来の社会通念からは予測できない多くの難問が引き起こされている。また先進諸国での高齢化問題は、「医療資源の運用と配分」とも絡んで深刻さを増している。講義では、こうした現代医療に関わる様々な問題を取り上げ検討する。また秋学期には、各々の問題関心に基づくグループ・ワーク、研究発表を行う。受講者は、以上の講義形式を了承のうえ受講すること。なお、受講は文学部所属の学生に限ります。

テキスト：

講義資料・プリントを使用する。

参考書：

- ・岩波講座 現代社会学 14『病と医療の社会学』岩波書店 1996年
- ・進藤・黒田編『医療社会学を学ぶ人のために』世界思想社 1999年
- ・加藤・加茂編『生命倫理学を学ぶ人のために』世界思想社 1998年
- ・市野川容孝編『生命倫理学とは何か』平凡社 2002年

-
- 【07】家族・親族論 (セ)(2)(春学期)
 - 【07】家族・親族論 (セ)(2)(秋学期)
 - 【04】家族・親族論 (4)(通年) 教授 平 野 敏 政
-

授業科目の内容：

家族社会学の基本理論と基本概念の理解をもとに、現代日本におけるさまざまな家族問題にアプローチする。前期においては、主に構造・機能主義理論を中心に、世帯経済学や歴史人口学、アナル学派の家族史研究などといった家族研究の変遷を学説的にたどり、家族研究の基本的視点についての理解を作り上げる。後期においては、前期で構築した視点に立って家族における性差別問題を中心に、ジェンダー論やフェミニズム論などを取り上げ、具体的な家族問題を考察する。

-
- 【07】教育社会学 (セ)(2)(春学期)
 - 【07】教育社会学 (セ)(2)(秋学期)
 - 【04】教育社会学 (4)(通年)
-

休講

-
- 【07】現代社会学 (セ)(2)(春学期)
 - 【07】現代社会学 (セ)(2)(秋学期)
 - 【04】現代社会学 (4)(通年) 社会それ自体を構築する作業 准教授 岡 原 正 幸
-

授業科目の内容：

【目的】「現代社会」を感情社会学的に記述・分析すること・・・、およびこの作業（感情社会学という営み、感情社会学者というアイデンティティ構築）それ自体を再帰的に捉え返し、「ポストモダン」「ポストコロナリズム」「フェミニズム」「主体の消失と復帰」「表象・代弁の危機」「構築主義」といった主題系の中で自己批判と自己超越をめざすこと・・・、この二つを参加者に理解してもらおうのが基本の目的ですが、それ以上に、その理解を身体化しそれを言語的かつ非言語的に表現することをみんなでやりたいと思います。

【内容】感情社会学概説（以下に掲載）をはさみつつ、「感情」をテーマにした映像・映画を製作します。企画、コンセプト、シナリオから、スタッフ、キャスト、撮影、編集、上映までを、参加者全員の共同作業として行います。企画案やコンセプト案のプレゼンおよび決定は、夏休み前に行います（掲示や岡原研究会のHP <http://oka.web.infoseek.co.jp> に注意してください）。制作費用は参加者による折半です。機材などは可能な限り学内のものを使用します。参加人数により、採用企画数や製作本数は変わりますが、チーム単位の制作だとしても各チーム最低10名の構成にします。従って、一人もしくは数名での制作はできません。チームの協働過程そのものが現代社会の構築そのものだからです。また演技、デザイン、サウンドなどの専門スタッフとして設置されたすべての製作チームに関わり、アドヴァイスや素材、作品を提供する役割を果たすこともできます。

テキスト：

- ・岡原・山田・安川・石川『感情の社会学 - エモーション・コンシヤスな時代』世界思想社
- ・岡原正幸『ホモ・アフェクトス - 感情社会学的に自己表現する』世界思想社

参考書：

- ・安積・岡原・尾中・立岩『生の技法』藤原書店
- ・S. ネッケル（岡原訳）『地位と羞恥 - 社会的不平等の象徴的再生産』法政大学出版局
- ・Ellis/Bochner (ed) Composing Ethnography :Alternative Forms of Qualitative Writing. Altamira

・A. ホックシールド(石川訳)『管理される心 - 感情が商品になる
とき』世界思想社

【07】コミュニケーション学 (セ)(2)(春学期)

【07】コミュニケーション学 (セ)(2)(秋学期)

【04】コミュニケーション学(4)(通年)

教授 李 光 鎬

授業科目の内容:

この授業では、我々の社会を織り成しているコミュニケーション過程の諸側面について講義を行う。春学期においては、対人コミュニケーションを中心にコミュニケーションと対人関係の形成、コミュニケーション・ネットワーク、小集団状況におけるコミュニケーションなどを取り上げ、これまでの研究で明らかにされた知見を学んで行く。さらにインターネット上で展開される様々なタイプのCMC (computer mediated communication) についても検討して行く。秋学期においては、マス・コミュニケーションを中心テーマとし、マスメディアによるメッセージの生産過程、メッセージにおける傾向的特性、マス・コミュニケーションの影響・効果過程などについて理解して行く。

テキスト:

特に指定しない

参考書:

授業中に示す

【07】宗教社会学 (セ)(2)(春学期)

【07】宗教社会学 (セ)(2)(秋学期)

【04】宗教社会学(4)(通年)

スピリチュアリティと精神分析 准教授 榎 尾 直 樹

授業科目の内容:

今年度の本講義は、宗教社会学の現代的な問題系である「スピリチュアリティ」あるいは「霊性」という語によって指示される現代的宗教性を、その一般的使用範囲を超えて宗教性の核心と位置づけ、その内的諸構造関係性を現代における宗教の代替知のひとつである「精神分析」、特にフロイトとラカンのそれに関する考察を通して明らかにすることを目的としている。

テキスト:

- ・榎尾直樹編『スピリチュアリティを生きる』せりか書房、2002年
- ・榎尾直樹他編『スピリチュアリティの社会学』世界思想社、2004年
- ・榎尾直樹編『アジアのスピリチュアリティ』(『アジア遊学』84) 勉誠出版、2007年

参考書:

- ・井上順孝編『現代日本の宗教社会学』世界思想社、
 - ・井上順孝他編『宗教学を学ぶ』有斐閣、
 - ・橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』筑摩書房、
 - ・島園進『現代救済宗教論』青弓社、
 - ・島園進『精神世界のゆくえ』東京堂出版など。
- その他は授業の中で適宜指示する。

【07】対人影響論 (セ)(2)(春学期)

【07】対人影響論 (セ)(2)(秋学期)

【04】対人影響論(4)(通年) 教授 榎 博文

授業科目の内容:

説得的コミュニケーションの効果に関する研究は独自の研究の系譜を持っており、まず、その流れに基づいて授業をすすめていく。次に、集団、マスコミ効果、広告、宣伝、大衆操作、流行、普及、模倣犯罪などの集団的・社会的影響に関する問題を扱う。その過程で、従来の諸研究によって既に明らかにされている部分と、未だ解明されていない部分を十分理解する。又、自由討議の時間を設けるので積極的に参加して下さい。

テキスト:

榎 博文『説得と影響 交渉のための社会心理学』ブレーン出版。

参考書:

榎 博文『トップ営業が使う説得学』ダイヤモンド社。

【07】知識社会学 (セ)(2)(春学期)

【07】知識社会学 (セ)(2)(秋学期)

【04】知識社会学(4)(通年)

記憶と歴史の社会学 教授 浜 日出夫

授業科目の内容:

人間にとって過去とはなんであるのか、社会にとって歴史とはなんであるのか、人間と時間のかかわり、社会と歴史のかかわりについて社会的に考察する。春学期は人間と時間の関係について理論的に考察する。秋学期は博物館の展示などを題材として、社会と歴史のかかわりについて具体的に検討する。

参考書:

講義時間内に紹介する。

【07】都市社会学 (セ)(2)(春学期)

【07】都市社会学 (セ)(2)(秋学期)

【04】都市社会学(4)(通年) 教授 藤 田 弘 夫

授業科目の内容:

都市は言語とともに、人間が創り出したもっとも複雑で偉大な作品である。都市は人間が生み出した最大の便益を、最小の空間に納めるよう文明の産物を凝縮し、時蔵して伝達しようとしたものである。この点で、都市は人びとにとって、未来に向けて汲み尽くすことができないほどの「意味」が記号化されている“小宇宙”なのである。都市はさまざまな秩序を隠し持っている。本講義は社会の多様な姿を都市に焦点をあてて析出するとともに、都市の社会的分析について基本的な力を身につけることを目的としています。

テキスト:

藤田弘夫・浦野正樹編『都市社会とリスク』東信堂 2006年

参考書:

- ・藤田弘夫『奥井復太郎 都市社会学と生活論の創始者』東信堂 2000年
- ・藤田弘夫『路上の国柄 「ゆらく官尊民卑」』文藝春秋2006年

【07】日本社会論 (セ)(2)(春学期)

【07】日本社会論 (セ)(2)(秋学期)

【04】日本社会論(4)(通年) 教授 平 野 敏 政

授業科目の内容:

日本社会論、日本文化論ではヨーロッパ社会との相違を強調し、日本社会、文化の特殊性を強調する視点がしばしば採用されている。本講義では、なぜそうした特殊性が近代日本社会においても再生産されているのか、という問いに立ち返って、そうした再生産過程の基礎に日本社会におけるイエ的原理の作用が存在しているとの視点に立ち、有賀喜左衛門の「イエ」理論を援用し「全体的相互給付」原理との関連の下に日本社会について考察する。

【07】比較文化論 (セ)(2)(春学期)

【07】比較文化論 (セ)(2)(秋学期)

【04】比較文化論(4)(通年) 教授 鈴 木 正 崇

授業科目の内容:

東アジアでのフィールドワークの成果を中心として民族・宗教・国家の問題を考える。対象地域は中国の少数民族で、1980年代から歩き続けてきた成果に基づいた事例研究を主体とする。極めてミクロな事例を通じて普遍性に至る道筋を求める人に履修を勧める。出席を重視する。

テキスト:

『アジア読本 中国』河出書房新社、1995。

参考書:

- ・『民族で読む中国』朝日新聞社、1998。
- ・『拡大する中国世界と文化創造』弘文堂、2002。

- ・『東アジアの女神信仰と女性生活』慶應義塾大学出版会，2004。
- ・『東アジアの近代と日本』慶應義塾大学出版会，2007。

【07】普及学 (セ)(2)(春学期)

【07】普及学 (セ)(2)(秋学期)

【04】普及学(4)(通年) 名誉教授 青池 慎一

授業科目の内容：

あらゆる時代や社会において普遍的に存在しているコミュニケーション・プロセスの一つがイノベーションの普及である。イノベーション(新製品,新しいスタイル,新知識など)が発明,創造され,その源泉やエージェントから人々に送り出され普及しているのである。そして,人々の生活や社会,文化はイノベーションの普及によって変容していくのである。いうまでもなく送り出されたイノベーションの全てが普及していくものではないが,このようなイノベーション普及過程がどのようなものであり,いかなる要因がかかわりあっているかを明らかにしていくものである。

テキスト：

青池慎一著「イノベーション普及過程論」慶應義塾大学出版会,2007年

参考書：

授業時に適宜示します。

【07】文化社会学 (セ)(2)(春学期)

【07】文化社会学 (セ)(2)(秋学期)

【04】文化社会学(4)(通年)

文化と権力と社会学 教授 藤田 弘夫

授業科目の内容：

本講義の目的は,われわれが社会生活のなかで生み出すとともに,その社会生活を背後から秩序づけている文化の多様な形態を析出することである。この作業を通じて,文化社会学のダイナミックな分析と論理を教授できればと考えています。

テキスト：

藤田弘夫・西原和久編『現代人の社会学入門』(増補版)有斐閣2000年

参考書：

- ・藤田弘夫『都市の論理』中公新書1151番1993年
- ・藤田弘夫『路上の国柄「ゆらく官尊民卑」』(文藝春秋社)

【07】社会学特殊 (セ)(2)(春学期)

【07】社会学特殊 (セ)(2)(秋学期)

【04】社会学特殊 (4)(通年)

環境社会学の勃興と制度化 講師 堀川 三郎

授業科目の内容：

この講義は,日本における環境問題の展開を踏まえながら,「環境社会学」という学問領域の現段階について概説することを目的としています。内容と対象が広範にわたるため,前期の「社会学特殊」では,「環境問題の社会学」に焦点をあてて,環境破壊や健康被害をめぐって深刻な対立・紛争が起こっている状況をとらえてゆきます。水俣病や足尾講読事件といった具体例を取り上げて検討することになるでしょう。後期の「社会学特殊」では「環境共存の社会学」を取り扱います。これは,人々の環境との上手な折り合いの付け方・作法といった共存の文化を,具体的な空間の中に見出してゆく指向をもった領域です。具体的な事例や問題としては,古い町家の保存問題の国際比較などを予定しています。「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」の両者が合わさって,環境社会学が成り立っています。

本講義の特徴は,先ず詳細な事例研究を行って「環境問題」の内実をよく理解しようとする点にあるでしょう。その上で,そうした「環境問題」を学問的に把握・分析しようとして産み出されてきた諸理論(被害構造論,社会的ディレンマ論,生活環境主義,歴史的環境の社会学)を詳しく検討してゆきます。このように,事例研究の基盤の上に理論の検討が為されるという講義の構成は,いわば,問

題の発生に促されて形成されてきた環境社会学の成立過程を追体験するという隠れた意図を体現したものでもあります。未曾有の公害に直面した時,既存の知の枠組みが対応できずにいたのはなぜか,そこにどのような人と言葉(概念)が集まって新たな学問を創り上げてきたのか 講義ではこうした重要な問いを,受講生と一緒に考えてゆきたいと考えています。

テキスト：

特に指定しません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書：

講義中に適宜指示しますが,差し当たり,下記を挙げておきます。いずれにせよ多数の文献を読破することが必須です：

- ・飯島伸子(1993)『環境問題と被害者運動』(改訂版)学文社。
- ・緒方正人・辻信一(1996)『常世の舟を漕ぎて:水俣病私史』世織書房。
- ・船橋晴俊・飯島伸子編(1998)『環境』(講座社会学第12巻)東京大学出版会。
- ・片桐新自編(2000)『歴史的環境の社会学』(シリーズ環境社会学第3巻)新曜社。
- ・栗原彬編(2000)『証言 水俣病』(岩波新書新赤版658)岩波書店。
- ・飯島・鳥越・長谷川・船橋編(2001)『環境社会学の視点』(講座環境社会学第1巻)有斐閣。
- ・鳥越皓之編(2001)『自然環境と環境文化』(講座環境社会学第3巻)有斐閣。
- ・George, Timothy S. (2001) *Minamata: Pollution and the Struggle for Democracy in Postwar Japan* (Harvard East Asian Monographs 194). Cambridge, MA: Harvard University Asia Center.
- ・原田正純・花田昌宣編(2004)『水俣学研究序説』藤原書店。

【07】社会学特殊 (セ)(2)(春学期)

【07】社会学特殊 (セ)(2)(秋学期)

【04】社会学特殊 (4)(通年) 講師 佐藤 典子

授業科目の内容：

ブルデューは,日常性の中にこそ権力や差別の問題が潜んでいると指摘しました。本講義では,ブルデューをはじめとしたフランスの社会学者や思想家などの理論をたどりながら,家族や現代医療に関する問題,職業選択とジェンダーの関係について考えます。

テキスト：

- ・佐藤典子著『看護職の社会学』専修大学出版局2007年
- ・荻野昌弘編『日仏社会学叢書第3巻 ブルデュー社会学への挑戦』恒星社厚生閣2005年

参考書：

宇都宮京子編『よくわかる社会学』ミネルヴァ書房2006年

【07】社会学特殊 (セ)(2)(春学期)

【07】社会学特殊 (セ)(2)(秋学期)

【04】社会学特殊 (4)(通年)

社会福祉学入門 講師 田澤 あけみ

授業科目の内容：

かつて社会福祉は社会事業と呼ばれ対象を社会的弱者に限定し,貧困救済が中心であった。第二次世界大戦後の社会変化はしだいに社会福祉概念にも大きな変化をもたらし,理念的には福祉ニーズのあるすべての人々が生涯を通じて社会参加,自己実現を達成できることを目指す社会的施策や専門サービスとなった。さらに20世紀末の「ポスト福祉国家」以降にはエコロジーやエスニシティ,ジェンダー概念を入れたコミュニティ基盤のあらたな「福祉」の枠組みが模索されている。

本講義では広くこれらの現代社会における社会福祉の意義・とらえ方を踏まえ社会福祉学全体の特徴やその機能を理解することを目的とする。とくにわれわれを取り巻く生活問題の存在形態やその広がりへの洞察を深める手がかりとする。

テキスト：

田澤あけみ編著 法律文化社『社会福祉学の实践と理論』(07)

参考書：

『社会福祉小六法』2008年度版

【07】社会学特殊 (セ)(2)(春学期)

【07】社会学特殊 (セ)(2)(秋学期)

【04】社会学特殊 (4)(通年)

ことばの文化人類学 講師 棚橋 訓

授業科目の内容：

本年度は、ことばをめぐる諸問題について文化人類学の立場からこれを講じる。ことばをめぐる総合的知見、ことばと文化の関係、資源としてのことば、ことばと環境、等々、なるべく広い視点と素材からことばの問題をとりあげ、21世紀の今と将来を考えるうえでの重要な鍵としてのことばの存在を問題化したい。

テキスト：

鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書、1973年(700円+税)

参考書：

講義時に適宜指示する。

【07】社会学特殊 (セ)(2)(春学期)

【07】社会学特殊 (セ)(2)(秋学期)

【04】社会学特殊 (4)(通年)

アニメ作品から読み解く現代社会の諸問題とその対策

講師 正木 晃

授業科目の内容：

この講義では、「千と千尋の神隠し」・『もののけ姫』「風の谷のナウシカ」などの宮崎アニメ、庵野秀明『エヴァンゲリオン』や押井守『GHOST IN THE SHELL』大友克洋『AKIRA』をはじめ、話題のアニメを、現代社会のさまざまな問題を象徴的かつ的確に表現している媒体として把握し、その内実を読み解いて行きます。キーワードは、自然と人間(アニミズム)・生と死・心と体・人間の条件(脳・魂・身体)を設定しています。

また増加する不可解な犯罪、あるいはうつ病の激増、ニートや不登校・引きこもりなど、現代社会の難問を正しく把握するためには、従来の社会的な知見では十分ではなく、精神医学的な知見が欠かせません。そこでごく初歩的ながらも、知っておきたい精神医学上の知識と情報を提供したいと考えています。

そして問題をただ単に指摘するだけでなく、解決に導く可能性をはらむ視点やコンセプトを伝統的な智恵、とりわけ宗教的な智恵から学ぼうと思います。その一環として、私自身が開発し普及につとめてきた「マンダラ塗り絵」を使って、自分の内面をのぞくことも試みます。

テキスト：

正木晃『はじめての宗教学』(春秋社、2002年、1890円)

参考書：

・正木晃『マンダラとは何か』(NHK出版、2007年、1123円)

・正木晃『密教的生活のすすめ』(幻冬舎、2007年、7560円)

【07】社会学特殊 (セ)(2)(春学期)

【07】社会学特殊 (セ)(2)(秋学期)

【04】社会学特殊 (4)(通年)

演劇人類学 [Theatre Anthropology]

講師 宮尾 慈 良

授業科目の内容：

演劇を人類学の視点から考察をしてみる。とくにアジア民族が伝承する演劇・舞踊・映画の表現形態を理解するには隠れた世界観の文化解読が必要である。演劇を研究していくのに必要なフィールドワークの方法、文献資料の解読、図像学からの分析、映像人類学としての記録法、身体動作の記譜法などから探求してみる。

テキスト：

テキストは授業時に指示する。

参考書：

・宮尾慈良『舞踊の民族誌』『比較芸能論』彩流社。『世界の民族舞踊』新書館。

・インド演劇理論書『ナーチャシャーストラNatyasastra』、Brandon "Theatre in Southeast Asia"

【07】社会学特殊 (セ)(2)(春学期)

【07】社会学特殊 (セ)(2)(秋学期)

【04】社会学特殊 (4)(通年)

現代中国論

講師 西園寺 一 晃

授業科目の内容：

中国が存在感を増している。21世紀後半は「米中の時代」になるかもしれない。日本は中国とどのような関係を構築するのか、選択を迫られるだろう。中国は目覚ましい勢いで生成・発展しているが、一方で格差の拡大、エネルギー不足、環境の悪化など「歪み」に悩まされている。本講義では、急成長する中国の光と陰の部分を探り、全体像に迫ることによって、今後の日中関係のあり方を考える。

テキスト：

特に指定しない。毎回講義資料を配布する。

参考書：

特になし。必要に応じて指定。

【07】社会学特殊 (セ)(2)(春学期)

【07】社会学特殊 (セ)(2)(秋学期)

【04】社会学特殊 (4)(通年)

地域社会とイエ・ムラの現代史 講師 原山 浩 介

授業科目の内容：

本講義では、地域社会、それもとりわけ農村社会の近代化過程を、理論と実態の推移の両面から捉えていく。

農村社会に関する理論枠組みとして、「イエ・ムラ論」がある。これは、農村社会を理解するために蓄積されたものであると同時に、とりわけ太平洋戦争後、日本の社会をどう捉え、方向づけるのかという問題関心に支えられて議論された。「イエ・ムラ論」を捉えなおすことは、とりもなおさず、戦後の日本社会をどのように方向づけるのか、あるいは日本社会そのものをどう理解するのかという当時の議論を見直す作業でもある。これら観点を規定にしなから「イエ・ムラ論」の講義を進めていく。

また本講義では、地域社会、とりわけ農村社会の現代史も扱う。戦後の農村社会の変容、そこで起こった様々な出来事や社会運動をめぐり、今に至るまでの同時代史を紐解きながら地域社会の形成過程を垣間見ようと考えている。

「現代史」への関心が、今日的な問題を解きほぐそうとする問題意識に支えられることが多い。この講義で扱う事柄は、必ずしも今日の話ではないが、今日の地域社会のありようを理解するための糸口を探るひとつの試みである。

テキスト：

講義資料を適宜配布する。

【07】社会学特殊 (セ)(2)(春学期)

【07】社会学特殊 (セ)(2)(秋学期)

【04】社会学特殊 (4)(通年)

国際コミュニケーション論(グローバル化とメディア)

講師 鈴木 雄 雅

授業科目の内容：

<http://pweb.cc.sophia.ac.jp/s-yuga/keio/guide08.html>

【春学期】マス・メディアを介した国際間の情報流通の諸問題を手がかりにして、国際間のコミュニケーションの諸問題を考える。異なる政治経済体制国々、歴史や文化を異にする国々のなかで南北問題や開発問題など、さまざまな局面にみられる国際間のコミュニケーションの問題を扱う。そのなかで、国際間のコミュニケーションのあり方、マス・メディアのあり方、マス・メディアへの接し方を学ぶ場とする。オリエンテーション後はまず、グローバル化シ

ンの歴史的側面をおさえ、国連やユネスコで論じられた「新世界情報コミュニケーション秩序」をめぐる論争をとりあげる。続いて20世紀後半から進展速度がはやまったメディアの技術革新がハード、ソフト面で国際間のコミュニケーションにどのような影響を与えているか考えるために、いくつかのケーススタディを講義する。

【秋学期】国際間に流れるニュース報道（情報）はメディアの急速な進展がボーダレス社会（グローバル化）を生じているなか、国内報道、国際報道であろうがなかろうが、容易に受信することが可能となった。そのような中で、多様に発信されるメッセージを、旧来のマス・メディア発信の国際報道のみならずどのように解釈し、的確に判断するかの受信能力が問われている。受講者は積極的に国際報道にアクセスし、メディアの選別、メッセージの読み取りを行うことが第一の出席条件となる。

テキスト：

武市英雄・原寿雄責任編集『グローバル社会とメディア』（ミネルヴァ書房、2003、3,500円） ISBN 4-623-03618-9

参考書：

講義中に紹介するが、H.H. フレデリック、武市英雄ほか（訳）『グローバル・コミュニケーション』（松柏社、1996、2,700円）は必読書 ISBN 4-88198-851-4

【07】社会学特殊 (セ)(2)(春学期)

【07】社会学特殊 (セ)(2)(秋学期)

【04】社会学特殊 (4)(通年)

広告論 講師 広瀬 盛一

授業科目の内容：

広告の基礎知識から広告管理の考え方を理解する。広告を行う広告主の立場だけでなく、媒体社や広告会社の関わり、広告の受け手である消費者の立場など幅広い視点から広告について考える。

テキスト：

嶋村和恵監修『新しい広告』（電通、2000円）

参考書：

授業中に参考資料一覧を配布する。

【07】社会学特殊 (セ)(2)(春学期)

【07】社会学特殊 (セ)(2)(秋学期)

【04】社会学特殊 (4)(通年)

“自我・自己”の理解 講師 土屋 明夫

授業科目の内容：

“Man is mortal.”、我々人間は、この限りある自分の人生を自分が納得できる状態で送れるか否かは、この世に生を受けた人々に課せられた課題である。

ところで、この課題を考える上で大切なことの一つは、その主役である“自分自身（自己・自我）”についての理解を深めることである。そこで本講義では、“自我・自己”の問題を、発達心理学、認知心理学や比較文化的視点、さらにWell-beingの視点なども考慮しながら解説してみることにする。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

・田之内、土屋、和田、伊坂、鎌田共著「ガイド・社会心理学」（北樹出版、2006、1900円）

・南 博著「日本的自我」（岩波新書、1983、）

・必要に応じ、授業時に指示します。

【07】社会学特殊 (セ)(2)(春学期)

【07】社会学特殊 (セ)(2)(秋学期)

【04】社会学特殊 (4)(通年)

高齢化社会と日本人の生き方 講師 小倉 康嗣

授業科目の内容：

高齢化社会という現実が、その実われわれに問いかけているものはなんなのか 私たちはこの問いに十分向き合ってきたでしょうか？「老い」とは、若い私たちにとって、しょせん他人事なのでしょうか？

この授業では、高齢化社会を私たち一人ひとりの「生き方/ものの見方/人間観」が根本的に問われてくる歴史の変革期として理解し、そういった歴史的社会的状況のなかで岐路に立っている日本人の生き方を見据えながら、一人ひとりの生き方の問い直しをつぎなる社会への展望につなげていく術を模索します。

テキスト：

小倉康嗣『高齢化社会と日本人の生き方 岐路に立つ現代中年のライフストーリー』（慶応義塾大学出版会、2006年）

参考書：

授業のなかで適宜紹介します。

【07】【04】社会学特講 (2)(秋学期)

データ分析の概要とSPSS演習 講師 金 鐵 鎔

授業科目の内容：

本講義は、調査や実験などで得られたデータを分析する一連の過程について解説します。データ分析技法の概要を学習するとともに、データを使った実際の演習を通じてデータ分析方法を身につけることが本講義の目標です。すなわち、主に実際の統計解析に関わる分析技法を習得することが目的です。適切なデータ分析のための準備作業、データ分布の全体的な傾向の把握、統計解析の理論に基づいたデータ分析に至るまでのデータ処理を行うことによって、分析結果の解釈や予測を導くことができます。本講義では、主に社会科学分野で広く使われている統計解析ソフトウェアSPSSの使い方、その分析結果の解釈について理解できるようにします。具体的には、データの整理、ファイルの取り扱い、調査データの集計（度数分布表）、平均値、分散、標準偏差などの基礎統計量、各種グラフの作成、変数間の関連性の検定（カイ二乗検定、相関分析）、平均値の比較（t検定、分散分析）多変量解析（因子分析、主成分分析、重回帰分析、判別分析、数量化理論）など具体的にデータを使用し紹介します。

テキスト：

特に指定しない。講義資料を適宜配布する。

【07】【04】社会学特講 (2)(春学期)

民族音楽学 講師 伏 木 香 織

授業科目の内容：

ある芸能が、ある地域の特定の時代に成立するのはなぜか。本講義は、芸能を行う人々とそれをとりまく社会、特に地域との関係に注目し、なぜその地にその芸能が生まれたのかを探る。また芸能そのものやそれを行う人々、またその集団とその社会、歴史などとの関連性を探り、それが芸能そのものに与えた影響について考えたい。

題材としてとりあげようと考えている地域と芸能は以下のとおりである。
インドネシア（バリ島のガムラン、ポピュラー音楽）
シンガポール（チャイニーズ・ストリート・オペラ）
アルジェリア（ライ）
トリニダード・トバゴ（スティール・パン）etc.

テキスト：

授業中に指示する

参考書：

授業中に指示する

【07】【04】社会学特講 (2)(春学期)
都市社会と民俗文化 講師 八木橋 伸 浩

授業科目の内容:

狭い島国とされる日本ではあるが、異なる環境や風土のもとで育まれてきた社会や文化は画一的なものではない。近代化の波をくぐり、都市化の影響を受けることで、ともすれば均質的な社会や文化を安易に想定しがちだが、現実とはそれほど単純ではない。

本講義では民俗学的アプローチを中心に、都市社会、都市と対置される農村社会、都市社会で認められる民俗文化の諸相について具体的な事例を交えて講述します。

テキスト:

特に指定しません。必要に応じて講義資料プリントを配布します。

参考書:

八木橋伸浩『都市周縁の考現学』(言叢社、1995年)
その他、必要に応じて講義時に指示します。

【07】【04】社会学特講 (2)(春学期)
現代アフリカ世界への人類学的アプローチ 講師 坂本 邦彦

授業科目の内容:

文化人類学・社会人類学の研究のなかで蓄積されてきた民族誌のなかから主にアフリカをフィールドとするものをとりあげ、文化のコンテキストにそってさまざまなものの考え方を理解していくとはどういうことかを考えていく。これを通じて、多様な様相を呈している現代世界を読み解くための人類学的発想法に触れていきたい。

講義の中心はアフリカに関係することになるが、アフリカに限らずどこかでフィールドワークをやってみたいと考えている学生の受講を期待する。視聴覚資料をできるだけ使用していく予定である。

テキスト:

使用せず。講義資料プリントを配布。

参考書:

・川田順造編著『アフリカ入門』(新書館、1999年、2400円)
・宮本正興編著『新書アフリカ史』(講談社、1997年、1400円)

【07】【04】社会学特講 (2)(秋学期)
民族音楽 講師 山本 宏子

授業科目の内容:

世界のさまざまな地域・民族の音楽から、社会と文化の相互関係を学ぶ。

テキスト:

プリントを配布

参考書:

山本宏子『日本の太鼓、アジアの太鼓』(青弓社2002、1600円)

【07】【04】社会学特講 (2)(春学期)
戦後日本社会の公共性を問い直す 講師 大谷 栄一

授業科目の内容:

私たちの生きる現代日本社会はどのような社会なのだろうか? この授業では、戦後日本社会の形成と変容を、「公共性(publicness)」をキーワードとして問い直してみたい。

「多文化主義」「戦争と平和」「ナショナリズム」「リージョナリズム」というテーマを設定し、具体的なトピックを取り上げ、戦後日本社会の公共性がいかに形成され(あるいは形成されずに)現在に至ったのかを検討する。

さまざまな人々の多様な価値観を前提にして、他者を排除せず、協働していく社会関係の形成は、現代日本において可能なのだろうか。こうした現代的な問題関心をもとに、授業を進める予定である。

テキスト:

なし。毎回、資料を配布する。

参考書:

授業中にテーマごとの参考文献一覧を配布する。

【07】【04】社会学特講 (2)(秋学期)
家族・親族研究の基礎 講師 吉野 晃

授業科目の内容:

この授業は、文化人類学における家族・親族研究の基礎的な知識と見方を習得することを目的とし、そのための講義とトレーニングを行う。もう少し具体的にいえば、文化人類学の専門論文の、少なくとも家族・親族組織に関する部分は十分に理解できるレベルの能力を受講生各自が身につけることを目的とする。そのためには、講義のほかにも専門論文や民族誌の読解が不可欠であり、それを授業を通じて行ってゆく。

産業化が進んだ社会でも、家族や親族といった関係は民俗社会の社会組織の骨格となっている。人間が出生後に文化を学習するのは、まず家族・親族の中においてである。文化の身体化の現場は、そのような集団や組織である。いわば家族・親族といった民俗社会の組織は文化習得の鑄型であるが、この鑄型自体が文化の産物でもあるため、常に化する。さらに、こうした組織は大幅な多様性を示している。本講義では、この厄介な、人類の多様な家族・親族組織を分析するための基本的な概念と調査・分析・研究の方法を説明する。家族とか親族組織といった話題は、難しそうな漢字用語やカタカナ用語が頻出し、且つやの親族関係図が複雑そうで、取っつきにくい印象があるようだが、そのようなことはない。順を追って理解してゆけば、非常に分かりやすい分野である。

講義のほかに、課題論文を予め読んで質問・コメントを提出して貰う宿題を課し、その質問・コメントに基づく解説を行う。社会組織についての知識・視点・分析の習得のトレーニングを行うとともに、専門論文の読み方と、論文・レポートの書き方のトレーニングも兼ねる。受講生の学習歴や研究関心の在り方などを最初にアンケートをとり、それに合わせて課題を設定して、無理なく課題をこなせるように工夫してゆくつもりである。

テキスト:

特に指定無し。授業中にプリントを配布する。

参考書:

・原ひろ子(編)『家族の文化誌:さまざまなカタチと変化』弘文堂
・綾部恒雄(編)『女の文化人類学』弘文堂
・綾部恒雄(編)『女の民族誌1:アジア篇』弘文堂
・綾部恒雄(編)『女の民族誌2:欧・米・中東・アフリカ・オセアニア篇』弘文堂
・フォックス,R.『親族と婚姻:社会人類学入門』思索社
・前田成文『東南アジアの組織原理』勁草書房
・村武精一『家族の社会人類学』弘文堂
・伊藤亜人ほか(編)『現代の社会人類学1:親族と社会の構造』東京大学出版会
・清水昭俊『家・身体・社会:家族の社会人類学』弘文堂
・清水昭俊(編)『家族の自然と文化』弘文堂
・福井勝義(編)『近所づきあいの風景:つながりを再考する』昭和堂
・吉原一男・鈴木正崇・末成道男(編)『<血縁>の再構築:東アジアにおける父系出自と同姓結合』風響社
・レヴィ=ストロース,C.『親族の基本構造』青弓社
・田中雅一・中谷文美(編)『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
その他多数。おって授業中に指示する。

選 択 科 目

【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(春学期)

【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(秋学期)

【04】社会学研究会 (3年)(2)(通年)

時計の社会学

教授 浜

日出夫

授業科目の内容:

(1) 共通テーマ

今年度の共通テーマは「時計」である。

(2) サブゼミ

3~4のサブゼミを設け、共同研究を行なう。

(3) 個人研究

自分のテーマについて各自研究を行ない、3年生はゼミ論文(12000字以上)、4年生は卒業論文(40000字以上)を作成する。

テキスト:

開講時に指示する。

参考書:

講義時間内に紹介する。

【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(春学期)

【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(秋学期)

【04】社会学研究会 (3年)(2)(通年)

K-Bros. 准教授 榎尾直樹

授業科目の内容:

本研究会は文化人類学や宗教社会学をベースとしたスピリチュアリティの社会科学の領域で研究を行う。ここでいうスピリチュアリティとは、「自分を越えた何ものかにつながっている感覚、あるいはその何ものかが自分の中で働いている感覚」を意味する。現代社会の共同性のあり方をいっしょに考え、実践しよう。

テキスト:

榎尾直樹他編『スピリチュアリティの社会学』せりか書房、2002年
その他は授業の中で適宜指示する。

参考書:

授業の中で適宜指示する。

【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(春学期)

【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(秋学期)

【04】社会学研究会 (3年)(2)(通年)

[春]教授 鈴木正崇

[秋]教授 野村伸一

授業科目の内容:

【春学期】

東アジアを中心とする地域研究のゼミである。3年生は個人のテーマによる発表、4年生は卒業論文指導を行なう。

【秋学期】

前期につづいて、3年生、4年生を含めた研究会をおこないます。日時を決めて、順次、卒業論文に向けた報告、発表をしてもらいます。各人25分以内で口頭発表をし、15分間質疑をおこないます。なお、4年生は卒業論文の目次、章立てを作成して最初の授業時に提出してください。

【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(春学期)

【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(秋学期)

【04】社会学研究会 (3年)(2)(通年)

教授 平野敏政

授業科目の内容:

家族および家の理論の理解を深め、わが国の近・現代社会における諸問題を家族、および家の視点から分析、考察することを中心的テーマとしています。

【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(春学期)

【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(秋学期)

【04】社会学研究会 (3年)(2)(通年)

都市と観光の比較社会学 教授 藤田弘夫

授業科目の内容:

テキストの論議

各人の研究テーマの深化

フィールド調査

テキスト:

マルク・ボワイエ『観光のラピンス』法政大学出版会 2006年

参考書:

友枝敏雄・山田真茂賢編『Do! ソシオロジー』有斐閣 2007年

【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(春学期)

【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(秋学期)

【04】社会学研究会 (3年)(2)(通年)

教授 榎博文

授業科目の内容:

態度変容、説得、对人的影響、社会的影響、又、広告・普及などの集合現象を主たる研究テーマとするゼミですが、社会心理学と関連するテーマなら幅広く取り扱いますので、対人魅力、援助行動、マスコミ、流行などのテーマを研究することも可能です。研究方法としては、実験、調査などの量的データによる方法を主としますが、観察、インタビュー、文献研究、その他の質的データによる研究方法を用いても構いません。又、質的データを量的データに変換して分析することも自由です。

テキスト:

榎博文『説得と影響 交渉のための社会心理学』ブレーン出版

参考書:

適宜指示します。

【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(春学期)

【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(秋学期)

【04】社会学研究会 (3年)(2)(通年)

教授 李光鎬

授業科目の内容:

春学期には、メディアとコミュニケーションに関する研究書を輪読・発表しながら基礎的な概念や理論について学ぶ。またグループワークの形で調査、実験、内容分析などの実証的な研究を行い、その成果を発表する。秋学期には、専門的な研究論文を読みながら、4年次の卒業論文のテーマについて考えて行く。

テキスト:

授業の中で適宜指定する

参考書:

授業の中で適宜示す

【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(春学期)

【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(秋学期)

【04】社会学研究会 (3年)(2)(通年)

教育社会学研究

教職課程センター 准教授 竹村英樹

授業科目の内容:

3年生の研究会は、教育に関する社会学的研究を行なう。本年度は「非行問題・青少年問題」をテーマとする。まずは、文献研究を中心に進めるが、各自が関心ある研究テーマを見つけ、フィールドを持ち、4年時の卒業論文執筆に向けてスタートができるように、支援していきたい。理論的研究と経験的研究をバランスよく取り上げ、教室だけの勉強にとどまらず、各種の見学・観察を取り入れ、進めていきたい。また、共同研究を課し、三田祭で発表する。

テキスト:

別途指示します。

参考書:

別途指示します。

【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(春学期)
【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(秋学期)
【04】社会学研究会 (3年)(2)(通年)
《アート》と《社会学》 准教授 岡原正幸

授業科目の内容:

team Oka による実験的社會プロジェクトあるいは社会彫刻の
実践です。ゼミのWEB, <http://oka.web.infoseek.co.jp> を参考にし
てください。

【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(春学期)
【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(秋学期)
【04】社会学研究会 (3年)(2)(通年)
現代社会とところをめぐる諸問題 准教授 長尾真理

授業科目の内容:

現代社会は、心理的・社会的なストレス要因にあふれている。こ
れらの中には深刻な心的障害を引き起こすケースも少なくない。こ
のように、現代人が日常生活の中で避けることのできない ところ
の問題を取り上げ、多角的に検討することがこの研究会の中心テ
ーマである。

秋学期以降は、受講者の研究テーマ別にグループ・ワークを行い、
更に卒業論文の完成をめざして指導する。

受講者には明確な問題意識と共に、自らの研究テーマに主体的
に取り組む姿勢が望まれる。

【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(春学期)
【07】社会学研究会 (3年)(セ)(1)(秋学期)
【04】社会学研究会 (3年)(2)(通年)
教授 鈴木正崇

授業科目の内容:

文化人類学を専門とするゼミである。宗教学や日本研究(民俗学
を主体とする)も取り込んで構成する。半期ごとに特定の主題を設
定して、専門書や論文を報告し討論を行なう。4年生は数度の中
間発表を行い卒業論文作成の指導を行なう。

【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(春学期)
【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(秋学期)
【04】社会学研究会 (4年)(2)(通年)
教授 平野敏政

授業科目の内容:

家族および家の理論の理解を深め、わが国の近・現代社会にお
ける諸問題を家族、および家の視点から分析、考察することを中心
のテーマとしています。

【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(春学期)
【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(秋学期)
【04】社会学研究会 (4年)(2)(通年)
都市と観光の比較社会学 教授 藤田弘夫

授業科目の内容:

テキストの輪読
各人の研究発表
画像資料論

テキスト:

マルク・ボワイエ『観光のラビンス』法政大学出版会 2006年

【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(春学期)
【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(秋学期)
【04】社会学研究会 (4年)(2)(通年)
K-Bros. 准教授 櫻尾直樹

授業科目の内容:

本研究会は文化人類学や宗教社会学をベースとしたスピリチュ
アリティの社会科学の領域で研究を行う。ここでいう スピリチュ
アリティ とは、「自分を越えた何ものかにつながっている感覚、あ
るいはその何ものかが自分の中で働いている感覚」を意味する。現
代社会の共同性のあり方をいっしょに考え、実践しよう。

テキスト:

櫻尾直樹編『スピリチュアリティの社会学』せりか書房、2002年
その他は授業の中で適宜指示する。

参考書:

授業の中で適宜指示する。

【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(春学期)
【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(秋学期)
【04】社会学研究会 (4年)(2)(通年)
時計の社会学 教授 浜日出夫

授業科目の内容:

(1) 共通テーマ

今年度の共通テーマは「時計」である。

(2) サブゼミ

3~4のサブゼミを設け、共同研究を行なう。

(3) 個人研究

自分のテーマについて各自研究を行ない、3年生はゼミ論文(1200
字以上)、4年生は卒業論文(40000字以上)を作成する。

テキスト:

開講時に指示する。

参考書:

講義時間内に紹介する。

【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(春学期)
【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(秋学期)
【04】社会学研究会 (4年)(2)(通年)
[春]教授 鈴木正崇
[秋]教授 野村伸一

【春学期】

授業科目の内容:

東アジアを中心とする地域研究のゼミである。3年生は個人テ
ーマによる発表、4年生は卒業論文指導を行なう。

【秋学期】

前期につづいて、三年生、四年生を含めた研究会をおこないます。
日時を決めて、順次、卒業論文に向けた報告、発表をしてもらいま
す。各人 25分以内で口頭発表をし、15分間質疑をおこないます。
なお、四年生は卒業論文の目次、章立てを作成して最初の授業時に
提出してください。

【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(春学期)
【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(秋学期)
【04】社会学研究会 (4年)(2)(通年)
教授 李光鎬

授業科目の内容:

メディアとコミュニケーションに関する実証研究を行い、卒業論
文としてまとめる。

テキスト:

特になし

参考書：
授業の中で適宜示す

- 【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(春学期)
- 【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(秋学期)
- 【04】社会学研究会 (4年)(2)(通年)

教授 鈴木 正 崇

授業科目の内容：

文化人類学を専門とするゼミである。宗教学や日本研究(民俗学を主体とする)も取り込んで構成する。半期ごとに特定の主題を設定して、専門書や論文を報告し討論を行なう。4年生は数度の中間発表を行い卒業論文作成の指導を行なう。

- 【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(春学期)
- 【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(秋学期)
- 【04】社会学研究会 (4年)(2)(通年)

卒業論文指導 教職課程センター 准教授 竹 村 英 樹

授業科目の内容：

12月までに最低4回の発表を行なう。

- 【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(春学期)
- 【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(秋学期)
- 【04】社会学研究会 (4年)(2)(通年)

准教授 岡 原 正 幸

授業科目の内容：

team Oka による実験的社会プロジェクトあるいは社会彫刻の実践です。ゼミのWEB, <http://oka.web.infoseek.co.jp> を参考にしてください。

- 【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(春学期)
- 【07】社会学研究会 (4年)(セ)(1)(秋学期)
- 【04】社会学研究会 (4年)(2)(通年)

現代社会とところをめぐる諸問題 准教授 長 尾 真 理

授業科目の内容：

現代社会は、心理的・社会的なストレス要因にあふれている。これらの中には深刻な心的障害を引き起こすケースも少なくない。このように、現代人が日常生活の中で避けることのできない ところの問題を取り上げ、多角的に検討することがこの研究会の中心テーマである。

秋学期以降は、受講者の研究テーマ別にグループ・ワークを行い、更に卒業論文の完成をめざして指導する。

受講者には明確な問題意識と共に、自らの研究テーマに主体的に取り組む姿勢が望まれる。

- 【07】社会学原典講読 (英)(セ)(1)(春学期)
- 【07】社会学原典講読 (英)(セ)(1)(秋学期)
- 【04】社会学原典講読 (英)(2)(通年)

講師 田 中 正 隆

授業科目の内容：

社会学、人類学関連の論稿を輪読します。テーマは90年代以降、現在にいたるまで活発に議論が交わされている、地域社会(周辺社会)における近代性 modernity やグローバル化 globalization をめぐる問題です。具体的には「トランスナショナル」「都市」「移民」「メディア」「記憶」「リスク」などがキーワードとなります。ウォーラーズテイン Wallerstein、ベック Beck、ギデンズ Giddens、ハーバースマス Habermas、ブルデュ Bourdieu、パットナム Putnam、ホール Hall、ギンズバーク Ginsburg、アパデュライ Appaduraiらの論文、およびそれらをレビューした論文にあたる。

また、輪読だけではなく、受講者の要望に応じて、随時、購読論文の周辺知識や背景となる議論についての、視聴覚資料を用いた講

義形式もとりたい。学部学生は社会科学で常識的な訳語や論旨などの理解が不足しているように感じています。したがって、社会学-人類学についての基礎知識の復習、確認としても有効でしょう。

- 【07】社会学原典講読 (英)(セ)(1)(春学期)
- 【07】社会学原典講読 (英)(セ)(1)(秋学期)
- 【04】社会学原典講読 (英)(2)(通年)

グローバル化時代のシチズンシップとアイデンティティ

講師 望 月 要 子

授業科目の内容：

テキストには、「シチズンシップ」と「アイデンティティ」という概念の批判的検討を通して、社会学ならびにグローバル化に関する論考における重要な議論を理解することを狙った入門書を使用します。グローバル化が進行する現代社会において、「多文化共生」に直接的に寄与する学問や実践として、「異文化間コミュニケーション」や「異文化間教育」が注目を集めていますが、近年、これらの分野では「文化」の捉え方が拡張しており、文化を「国民文化(national culture)」や「民族文化(ethnic culture)」には限定しなくなっています。国連・持続可能な開発のための10年(2005-2014年)を受けて、私が国連大学で取り組んでいる持続可能な社会構築に向けての教育の理論と実践にも随時触れながら、「多文化共生」への模索の一環として「シチズンシップ」と「アイデンティティ」を語る語彙を習得することを目指します。

テキスト：

Engin F. Isin & Patricia K. Wood (1999). *Citizenship and Identity*. London: SAGE Publications (in association with Theory, Culture & Society) (ペーパーバック)

- 【07】社会学原典講読 (英)(セ)(1)(春学期)
- 【07】社会学原典講読 (英)(セ)(1)(秋学期)
- 【04】社会学原典講読 (英)(2)(通年)

マス・コミュニケーション研究の主要理論を言語で学ぶ

講師 大 坪 寛 子

授業科目の内容：

この授業では、毎回、担当者による発表と、全員による議論という形式で、1年間をかけて1冊のテキストを読み進めていきます。全受講生が、発表に向けて各担当部分をじっくりと読み込み、さらに毎回の議論に参加することで、内容の理解を深めていくことを狙いとしています。各受講生がマス・コミュニケーション研究の主要理論についてしっかりと理解し、原語で研究論文を読みこなせるようになることが、この授業の最終的な目標です。

テキスト：

Perry, D. K. (2002) *Theory and Research in Mass Communication: Context and Consequences*, Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.

参考書：

スタンリー・J・バラン, デニス・K・デイビス, 宮崎寿子監訳 (2007)『マス・コミュニケーション理論(上)(下)』新曜社

- 【07】社会学原典講読 (独)(セ)(1)(春学期)
- 【07】社会学原典講読 (独)(セ)(1)(秋学期)
- 【04】社会学原典講読 (独)(2)(通年)

ドイツ語圏における社会学分野の著作を日本語で読む

准教授 岡 原 正 幸

授業科目の内容：

【目的】社会学およびその周辺領域に関するドイツ語圏の古典/原典を、翻訳文献をつかって緻密に読解します。学術的内容の日本語による理解を至上とし、その限りで場合によってドイツ語原語についての解説を行います。

【内容】ドイツ語圏のみならず、社会学にとっても古典として必須文献であるような書物、たとえば、マルクス、ヴェーバー、ジンメ

ルの文献を読み進めたいと思います。文献の選択に際しては翻訳本の手に入れやすさも考慮します。

【07】社会学洋書講読 (英)(セ)(1)(春学期)

【07】社会学洋書講読 (英)(セ)(1)(秋学期)

【04】社会学洋書講読(英)(2)(通年)

准教授 長尾真理

授業科目の内容：

英語の学術文献を直接読み解くことによって、英文の読解力向上と、的確な論旨の把握をめざす。講義では、あらかじめ割り当てられた担当部分を訳出・要約する。テキスト等については、初回の講義で指示する。

【07】社会学洋書講読 (仏)(セ)(1)(春学期)

【07】社会学洋書講読 (仏)(セ)(1)(秋学期)

【04】社会学洋書講読(仏)(2)(通年)

ポルドーの社会学

准教授 榎尾直樹

授業科目の内容：

本授業は、社会学、人類学に関するフランス語文献の講読を通して、1 フランス語文献の読解の能力の向上、2 フランス語圏の社会学・人類学に関する基本的知識の獲得、3 フランス語圏の社会学・人類学の近年の動向に関する情報の獲得、の3点を目的としている。

テキスト：

Émile Victor 2007 Sociologie de Bordeaux

参考書：

授業の中で適宜指示する

心理学専攻

必修科目

- 【07】知覚心理学 (要)(2)(春学期)
【07】知覚心理学 (要)(2)(秋学期)
【04】知覚心理学 (4)(通年) 教授 増田直衛

授業科目の内容:

知覚心理学における基本的な概念, 方法論, 事実を紹介しながら, 心理学としての知覚研究を理解することにあります。春学期は基礎編として, 知覚心理学の基本的な方法論について学びます。秋学期は具体的な事実に触れながら, 知覚心理学における様々なアプローチを紹介します。

供覧実験や, AV機器をできるだけ多く用いて, 知覚心理学における具体的な事実を体験しながら理解を得られるようにします。

テキスト:

授業で使用するスライドはpdfにしてkeio.jp教育支援システムにアップロードします。

参考書:

その都度紹介しますが, 一般的に参考になるものを以下に挙げておきます

- ・大山 正(編)「講座心理学4 知覚」東京大学出版会
- ・柿崎祐一・牧野達郎(編)「心理学1 知覚・認知」有斐閣
- ・松田隆夫(著)「知覚心理学の基礎」培風館

- 【07】発達心理学 (要)(2)(春学期)

- 【07】発達心理学 (要)(2)(秋学期)

- 【04】発達心理学 (4)(通年)

発達科学の基礎と臨床 [春] 講師 松澤正子

[秋] 教授 山本淳一

【春学期】

授業科目の内容:

春学期には, 発達心理学の代表的な実験研究を系統的に紹介し, 精神機能の獲得過程とそのメカニズムについて理解することを目的とする。おもに, 乳幼児期の知覚, 運動, 認知, 社会的認知の発達を扱っていく。

テキスト:

特に指定しない

【秋学期】

授業科目の内容:

(1) 発達心理学と発達臨床についての広範囲の知識を得ることを目的とする。まず, 「理論」および, それを支えている「事実(実験, 観察, 事例)」を理解していく。

(2) ヒトの心的機能の発達を生み出している要因を, 「環境と個体の相互作用」という観点から詳細に検討する。知覚, 運動, 音声, 言語, 認知, 社会的行動, 動機づけ, 情動, などの発達を分析していく。そのことで, 発達科学(developmental science)という領域への展開を探っていく。

(3) 発達過程の中で子どもたちがもつ様々な問題に対して, その原因を「環境と個体の相互作用」という観点から考究する。発達臨床の現場での事例を詳細に分析していくことで, 具体的な支援方法を検討していく。

テキスト:

バッターワース, G. & ハリス, M. 「発達心理学の基本を学ぶ」ミネルヴァ書房

参考書:

「発達心理学辞典」ミネルヴァ書房

- 【07】行動分析学 (要)(2)(春学期)

- 【07】行動分析学 (要)(2)(秋学期)

- 【04】行動分析学 (4)(通年)

行動の科学的制御とは 教授 坂上貴之

授業科目の内容:

行動分析学 (behavior analysis) の方法論的特徴と概念的枠組み, および実験的行動分析によって明らかにされた実験的事実とそれをめぐる最近の理論的展望を中心に講義を行う。

テキスト:

メイザー(著)磯ら(訳)「メイザーの学習と行動 日本語第2版」二瓶社

参考書:

- ・広田ら(著)「心理学が描くリスクの世界 行動的意志決定入門」慶應義塾大学出版会
- ・佐藤(著)「行動理論への招待」大修館書店
- ・レイノルズ(著)浅野(訳)「オペラント心理学入門」サイエンス社
- ・スキナー(著)岩本(監訳)「人間と社会の省察」勁草書房
- ・スキナー(著)河合ら(訳)「科学と人間行動」二瓶社
- ・オドノヒューら(著)佐久間(監訳)「スキナーの心理学 応用行動分析学(ABA)の誕生」二瓶社

- 【07】認知心理学 (2)(春学期)

- 【07】認知心理学 (2)(秋学期)

- 【04】認知心理学 (4)(通年)

記憶研究の最前線 [春] 教授 伊東裕司

[秋] 准教授 梅田 聡

【春学期】

授業科目の内容:

本講義では, 1年を通して, 認知心理学の考え方, および研究方法の理解を目指し, 認知のさまざまな視点からの研究に焦点を当てる。

春学期は, 人間の記憶, 知識, 論理的推理に関する基礎的な研究と, それらの応用研究としての目撃証言研究, ブランド知識研究について論じる。

テキスト:

市川, 伊東(編)(1996) 認知心理学を知る. プレーン出版

参考書:

初回の授業時にリストを配布します。

【秋学期】

授業科目の内容:

春学期に引き続き, 認知の基礎的な研究に焦点を当てる。秋学期は, 主に記憶と意識, 感情, 学習, 問題解決, 社会的認知, 認知発達などに焦点を当て, やや専門的な視点からこれまでの研究を概観する。

テキスト:

授業中に指定する。

- 【07】生物心理学 (2)(春学期)

- 【07】生物心理学 (2)(秋学期)

- 【04】生物心理学 (4)(通年)

[春] 教授 渡辺 茂

[秋] 教授 小嶋 祥三

【春学期】

授業科目の内容:

生物心理学では心を1) 神経系の機能として, 2) 進化の産物として, 捉えます。そのため最初の何時間かは神経科学の基礎を学びます。その後, 前期は主として動物に関する講義を行います。このなかで, 聴覚に関することがらと運動系に関することがらは後期に学ぶこととして前記ではほとんど取り上げません。

参考書:

カールソン「神経科学テキスト」丸善・渡辺茂「ヒト型脳とトリ型脳」文藝春秋社

【秋学期】

授業科目の内容：

ヒトの脳の研究を中心に行う。行動研究，脳機能画像，脳損傷の研究を通して，認知機能と脳との関係を理解する。

テキスト：

なし

参考書：

Gazzaniga et al. (eds.) Cognitive Neuroscience (2nd ed.) Norton, 2002.

【07】【04】心理測定論(2)(春学期)

「心」の数値化の考え方と方法 教授 伊東裕司

授業科目の内容：

心理学で用いられる測定の中で，心理的側面を直接数値化する方法について学ぶ。測定の対象としては，感覚，知能，好ましさ，記憶，などを取り上げるが，測定方法はこれら以外の対象についても応用可能なものである。

【07】【04】心理学史(2)(春学期) 教授 渡辺 茂

授業科目の内容：

心理学には長い過去と短い歴史がある，というのが心理学史の講義の枕の定番であるが，僕に可能な範囲で過去についても言及したい。とはいつても，やはり実験心理学の成立を中心に，1960年くらいまでの心理学の歴史を勉強することになる。できる限り原典の一部を読んで一次資料から歴史を考えてみたい。実験科学としての心理学の勉強と歴史科学としての心理学史の勉強は大変異なるもので，僕自身歴史科学の正規教育を受けていないが，これまた僕のできる範囲で単なる学説の変遷ではなく，歴史科学としての心理学史の授業を目指してみたい。

参考書：

最初に一覧表を渡します。

【07】心理統計 (要)(2)(春学期)

【07】心理統計 (要)(2)(秋学期)

【04】心理統計(4)(通年) 助教 大森貴秀

授業科目の内容：

心理学実験や調査に最低限必要と考えられる統計学の論理，技法を習得することを目標とします。春学期は記述統計，秋学期は推測統計を中心に授業を進めていく予定です。

テキスト：

山内光哉 1998 心理・教育のための統計法 第2版，サイエンス社 2500円

参考書：

授業内で随時紹介します。

【07】心理学原典講読 (1)(春学期)

【07】心理学原典講読 (1)(秋学期)

【04】心理学原典講読(2)(通年)

[春] 助教 大森貴秀

[秋] 准教授 梅田 聡

【春学期】

授業科目の内容：

心理学を学ぶ上で必要となる英文文献の読解力習得を目的とする。春学期は主に学術書の精読を通して，心理学英語文献の論理，専門用語，特有の表現について基礎的な知識を学ぶ。

テキスト：

学期開始時の授業内で指示する。

【秋学期】

授業科目の内容：

春学期に引き続き，心理学の研究を進める上で必要とされる専門用語の基礎知識や論文構成の理解などを目的として，英語で書かれた論文および専門書を精読する。

テキスト：

初回授業時に指定する。

【07】心理学実験 (要)(2)(春学期集中)

【07】心理学実験 (要)(2)(秋学期集中)

【04】心理学実験 (2)(通年)

【04】心理学実験 (2)(通年) 准教授 梅田 聡

助教 大森貴秀

講師 新井哲也

講師 篠塚一貴

講師 丹野貴行

授業科目の内容：

心理学の基礎的実験法と実験心理学で研究された基礎的事実についての実験実習を行う。この授業は実験心理学の根幹をなし，且つ卒業実験を行うために必須の知識・技術の習得を計るものであるから，受講者はそれなりの覚悟を持って授業に臨みたい。心理学専攻の学生以外は履修できない。

【07】心理学研究会 (要)(1)(春学期)

【07】心理学研究会 (要)(1)(秋学期)

【04】心理学研究会 (2)(通年)

知覚の心理学 教授 増田直衛

授業科目の内容：

知覚心理学研究における基本的考え方を身につけることを目的とする。

参考書：

・柿崎祐一「心理学的知覚論序説」培風館

・Goldstein, E. B. Sensation and Perception. Brooks/Cole Publishing Company

・Fineman, M. The Inquisitive Eye. Oxford University Press.

【07】心理学研究会 (要)(1)(春学期)

【07】心理学研究会 (要)(1)(秋学期)

【04】心理学研究会 (2)(通年) 教授 渡辺 茂

授業科目の内容：

前期はテキストの講読，後期は雑誌論文の講読を行う。

テキスト：

相談の上決定する。

【07】心理学研究会 (要)(1)(春学期)

【07】心理学研究会 (要)(1)(秋学期)

【04】心理学研究会 (2)(通年) 教授 坂上貴之

授業科目の内容：

実験的行動分析を中心とした論文の発表と，それについての議論を中心に展開する。この授業を受講する者は，心理学研究会 を続けて受講することが求められる。

テキスト：

Iversen, I.H., & Lattal, K.A. (Eds.) (1991). Experimental analysis of behavior. (vol.1 & 2). Amsterdam: Elsevier.

【07】心理学研究会 (要)(1)(春学期)
【07】心理学研究会 (要)(1)(秋学期)
【04】心理学研究会 (2)(通年)
人間の認知・記憶研究 教授 伊東裕司

授業科目の内容:

人間の認知・記憶に関する最近の文献を読み、討論する。受講者は各自リサーチエスチョンを設定し、文献を検索し読み、その内容を他の受講者に紹介し、討論をリードすることを求められる。

【07】心理学研究会 (要)(1)(春学期)
【07】心理学研究会 (要)(1)(秋学期)
【04】心理学研究会 (2)(通年)
発達心理学の研究 [春]助教 大森貴秀
[秋]教授 山本淳一

授業科目の内容:

(1)発達心理学に関する広い範囲での基礎知識を得るために、まず日本語で書かれたテキストを読み、発表し、討議する。その際、特に学術的なレポートの作成、プレゼンテーション、ディスカッションの方法を学んでいく。

(2)実験的手法を用いた発達研究、および発達(障害)臨床研究の英語論文を読み、自らの研究に生かせるように、それぞれの研究のレビュー、手続、結果の解析方法、を詳細に検討していく。

(3)実際に、子どもたちの発達評価の実習を行う。また、子どもたちを対象にした実験を計画、実施し、その成果を発表し、検討する。

テキスト:
資料を配布します。
参考書:
資料を配布します。

【07】心理学研究会 (要)(1)(春学期)
【07】心理学研究会 (要)(1)(秋学期)
【04】心理学研究会 (2)(通年) 准教授 梅田 聡

授業科目の内容:

卒業論文に向けて、研究テーマを特定し、関連論文の精読、およびそれに関する討議を行う。必要な実験装置の操作方法や解析方法についても学ぶ。「心理学研究会」とともに履修されたい。

【07】心理学研究会 (要)(1)(春学期)
【07】心理学研究会 (要)(1)(秋学期)
【04】心理学研究会 (2)(通年) 教授 小嶋祥三

授業科目の内容:

ヒトを対象とした認知精神科学の基礎を作ることを目指す。主に近赤外分光法(NIRS, 光トポグラフィ)の測定法を習得し、予備的な研究を行う。卒業研究のテーマの指導を行う。

【07】心理学研究会 (要)(1)(春学期)
【07】心理学研究会 (要)(1)(秋学期)
【04】心理学研究会 (2)(通年)
発達心理学の研究 [春]助教 大森貴秀
[秋]教授 山本淳一

授業科目の内容:

発達心理学の卒業論文作成のための研究のデザイン発表、中間報告を行い、討議する。また、テーマに関連する論文をレビューし、研究テーマに関する最新の研究動向の発表も行う。

テキスト:
資料を配布します。
参考書:
資料を配布します。

【07】心理学研究会 (要)(1)(春学期)
【07】心理学研究会 (要)(1)(秋学期)
【04】心理学研究会 (2)(通年) 教授 渡辺 茂

授業科目の内容:

実験データの分析を通じて、1)文献検索、2)研究目的、3)実験計画、4)実験技法、5)データ解析、6)論文のまとめ方を学ぶ

【07】心理学研究会 (要)(1)(春学期)
【07】心理学研究会 (要)(1)(秋学期)
【04】心理学研究会 (2)(通年) 教授 坂上 貴之

授業科目の内容:

卒業論文の完成を目指し、関連する論文の発表、ならびに研究経過の報告をする。この授業を受講する者は、心理学研究会と続けて受講することが求められる。

【07】心理学研究会 (要)(1)(春学期)
【07】心理学研究会 (要)(1)(秋学期)
【04】心理学研究会 (2)(通年)
知覚の心理学 教授 増田直衛

授業科目の内容:

受講生の卒論テーマを中心とした研究論文を精読し、知覚心理学研究としての問題の所在を確かめる。

【07】心理学研究会 (要)(1)(春学期)
【07】心理学研究会 (要)(1)(秋学期)
【04】心理学研究会 (2)(通年)
人間の認知・記憶研究の実践 教授 伊東裕司

授業科目の内容:

人間の認知・記憶に関する最近の文献を読み、自分自身の研究テーマと関連付けて討論する。各受講者の卒業論文の研究について、随時進行状況を報告し、全員で討論を行う。

【07】心理学研究会 (要)(1)(春学期)
【07】心理学研究会 (要)(1)(秋学期)
【04】心理学研究会 (2)(通年) 教授 小嶋祥三

授業科目の内容:

卒業論文の実験、とりまとめの指導を中心に行う。

テキスト:
特になし
参考書:
特になし

【07】心理学研究会 (要)(1)(春学期)
【07】心理学研究会 (要)(1)(秋学期)
【04】心理学研究会 (2)(通年) 准教授 梅田 聡

授業科目の内容:

卒業論文に向けて、研究テーマを特定し、関連論文の精読、およびそれに関する討議を行う。必要な実験装置の操作方法や解析方法についても学ぶ。「心理学研究会」とともに履修されたい。

選 択 科 目

【07】知覚心理学特殊(2)(秋学期)

【04】知覚心理学(2)(秋学期)

ギブソンとヘルソンの理論から見た行動と知覚の心理学

講師 堤 敦史

授業科目の内容:

20世紀を代表する二人の知覚心理学者、J. J. ギブソンとH. ヘルソンの理論について、その哲学的・歴史的背景にふれながら解説する。

テキスト:

指定しない

参考書:

堤 敦史・曾我重司・小松英海著『ギブソン心理学の核心』(勁草書房)

【07】発達心理学特殊(2)(春学期)

【04】発達心理学(2)(春学期)

発達障害の理解と支援

講師 竹内 康二

授業科目の内容:

次のような目的をもって本講義を実施する。

1. 乳幼児期から学齢期、そして成人期までの間に見られる発達上の問題について理解する。
2. 自閉症障害、知覚障害、注意欠陥多動性障害、学習障害などの発達障害、いじめや不登校などの学校問題、虐待などの家庭問題について理解する。
3. 様々な臨床事例の検討を通して、発達臨床の実際を理解し、支援計画の立案と面接の技法について学ぶ。

【07】行動分析学特殊(2)(春学期)

【04】行動分析学(2)(春学期)

人間の実験的行動分析

講師 小野 浩一

授業科目の内容:

行動分析学における行動の原理は、基本的に生物種の違いを超えたものである。従って、論文にはしばしば動物を被験体とした研究と人間を対象とした研究が並んでいる。しかしながら、動物の行動と人間の行動が多くの方で異なっていることも確かである。

本講義では、実験的行動分析学と呼ばれる領域について解説するが、その主な内容としては、(1)人間行動の特徴、(2)人間行動を実験的に研究する方法、(3)特に人間において発達している言語、社会、文化に関する行動分析的アプローチ、などが中心となる。

テキスト:

小野浩一著『行動の基礎 = 豊かな人間理解のために』培風館(2005年)

参考書:

授業の中で適宜紹介する。

【07】認知心理学特殊(2)(春学期)

【04】認知心理学(2)(春学期)

思考の認知メカニズム

講師 鈴木 宏昭

授業科目の内容:

思考が論理規則の適用過程ではないこと、言語とは独立したものであること、頭の中だけで完結するものではないこと、そうした考えを皆さんと共有したい。

参考書:

鈴木宏昭「類似と思考」、稲垣他「認知過程研究07」、鈴木宏昭「知性の創造と起源」

【07】生物心理学特殊(2)(春学期)

【04】生物心理学(2)(春学期)

行動神経科学による記憶研究

講師 菅

理 江

授業科目の内容:

主に動物を対象とした、行動の変容と脳の可塑性に着目した記憶研究について講義する。

テキスト:

特になし

参考書:

Squire, LR and Kandel, ER (1999) "Memory from mind to molecules", Scientific American Library, New York.

【07】心理学特殊(2)(春学期)

【07】心理学特殊(2)(秋学期)

【04】心理学特殊(4)(通年)

行動薬理学(こころとくすり)

講師 高田 孝二

授業科目の内容:

行動薬理学は、薬物の作用機序をヒトや動物の行動を通して捉えようとする一方、薬物効果を通して脳の機能(こころのはたらき)を探る学問領域です。こころのはたらきに影響を与える物質(向精神物質)は治療薬として広く用いられているほか、酒などの嗜好品を介して日常的に摂取され、また乱用など社会問題を生じるものもあります。さらに、われわれは向精神物質を含め、毎日様々な化学物質にさらされており、これら化学物質が生体機能に様々な影響を与えることや、母体を介して次世代の機能にも影響しうることが知られています。本講義ではこれらについて、最新の知見を含め、解説します。

テキスト:

講義資料プリントを配布します。

【07】心理学特殊(2)(秋学期)

【04】心理学特殊(2)(秋学期)

色彩心理学;色とは何か、その働きは

法学部 教授 鈴木 恒男

授業科目の内容:

色とは何か、非常に身近でこれほど答えに難しいテーマはない。この色に関する、問題を歴史的な考え方の変遷、現在の問題を、生理学、心理学、測色学から扱うが、主に心理学的な立場で解説する。その色彩心理学の問題を、感覚、知覚、認知の問題として解説し、更に色の効用までも論じる。

テキスト:

使用しない

参考書:

随時、授業で紹介する

【07】心理学特殊(2)(春学期)

【04】心理学特殊(2)(春学期)

司法における認知心理学的諸問題

教授 伊東 裕司

授業科目の内容:

犯罪の捜査や裁判においては、人間の認知的な側面がさまざまな形でかわりを持ってくる。この授業では、司法における認知的な問題に対して、認知心理学的な研究がどのようにしてどのような解決を提供しているか、しうるのかについて論じる。具体的な問題としては、目撃者の記憶の正確さ、目撃証言の信頼性に関する問題、裁判員の思考や判断に関する問題を中心に取り上げるが、嘘の検出、自白の信頼性の問題などにも簡単に触れる。

参考書:

・伊東・仲(編)特集 司法における心理学的問題。心理学評論 48(4), 2005.

・一瀬・巖島・仲・浜田(編)目撃証言の研究。北大路書房。

・ Sporer. Malpass. Koehnken (編) 箱田・伊東 (監訳) 目撃者の心理学. プレーン出版.

【07】心理学特殊 (2)(秋学期)

【04】数理心理学(2)(秋学期)

心理現象の数理解析 環境情報学部 教授 渡辺利夫

授業科目の内容:

数理心理学は、数理モデルを構成することによって、心理現象を解明しようとする分野である。本講義では、学習、記憶、性格、知覚の分野をもとに数理モデルがどのように構成され、そして数理モデル構成によってどのようなことがわかっていくのかについて考えてゆく。

テキスト:

なし

参考書:

渡辺利夫著 フレッシュマンから大学院生までのデータ解析・R言語 ナカニシヤ出版 2005

【07】臨床心理学 (2)(春学期)

【07】臨床心理学 (2)(秋学期)

【04】クリニカルワーク概説(4)(通年)

〔春学期〕学校現場における心理臨床実践

〔秋学期〕パーソナリティ

[春]教職課程センター教授 伊藤美奈子

[秋]講師 伊藤隆一

【春学期】

授業科目の内容:

近年、ますます複雑化・深刻化する子どもの心の問題。学校現場では、そういう問題行動をどのようにとらえ、対処しているのだろうか。本年度は、とくに不登校問題に注目して、学校現場での実情や対応策について講義する。スクールカウンセラー制度についても紹介しながら「学校」における教育臨床の現状と課題について考えていきたい。

テキスト:

伊藤美奈子著『思春期の心さがしと学びの現場』(北樹出版, 2000年, 1800円)

参考書:

- ・伊藤美奈子著『スクールカウンセラーの仕事』(岩波アクティブ新書, 2002年, 700円)
- ・伊藤美奈子・平野直己編『学校臨床心理学・入門』(有斐閣, 2003年, 1800円)

【秋学期】

授業科目の内容:

トータル・パーソナリティの内容や、その把握に関する諸理論について概説する。

具体的には、以下のような内容である。

1. トータル・パーソナリティの内容と諸側面(環境・身体・能力・性格・指向)
2. トータル・パーソナリティの形成
3. トータル・パーソナリティに関する諸学説
4. トータル・パーソナリティの把握に関する諸技法

ビデオを用いた授業、複数の心理テストによる自己診断なども行う予定でいる。

テキスト:

伊藤隆一・千田茂博・渡部昭彦 2003 『現代の心理学』金子書房(¥2,625)

参考書:

講義資料プリントを配布する。

【04】パーソナリティ理論概説(4)(通年)

休講

【04】認知臨床心理学(4)(通年)

休講

【04】発達臨床心理学(4)(通年)

休講

【04】言語障害臨床(4)(通年)

休講

教育学専攻

必修科目

【07】教育学概論 (2)(春学期)

【07】教育学概論 (2)(秋学期)

【04】教育学概論(4)(通年)

教育の生物学的基盤 [春]教授 安藤 寿康

[秋]教授 舟山 俊明

【春学期】

授業科目の内容：

なぜ「人間は教育されなければならない唯一の被造物」(カント『教育学講義』)なのでしょう。それは「教育」が進化的に獲得したヒトという種に特有な環境へ適応戦略だったからと考えられます。教育とは生物としての人間がその生存と繁殖のために必要な資源(食料や配偶者だけでなく文化的知識・技能まで)をコントロールするために、生活史に対応して創り出した、ヒトとヒトと対象との間の三項関係の成立に起源を持つ互恵的利他行動システムと位置づけられます。またヒトは一人一人異なる遺伝的資源をもって生まれ、その内的な資源と外的資源を調整させて、できるだけ最適な適応戦略をとろうとしており、その活動に関与する互恵的利他行動システムでもあります。このような視点から、進化生物学と行動遺伝学に依拠して教育の理論的再構築を試み、古今東西の教育思想や教育制度を見直してみたいと思います。特に進化生物学的な視点を確かなものにするため、ふさわしいゲストスピーカーに最新の知見を紹介していただきながら、パネル討論を行うのも、本講義の特色の一つです。

予定されているゲストスピーカー：友永雅己(チンパンジーの「教育」について、京都大学霊長類研究所)、岡ノ谷一夫(鳥のさえずりの「教育」について、理化学研究所生物言語研究チーム)、平石界(進化心理学について、京都大学こころの未来研究センター)

参考書：

ブレマック&ブレマック『心の発生と進化』(紀伊国屋書店)、ギアリー『心の起源』培風館、松沢哲郎『おかあさんになったアイ』(講談社)、岡ノ谷一夫『小鳥の歌からヒトの言葉へ』(岩波書店)、安藤寿康『心はどのように遺伝するか』(講談社)、スプレイグ『サル』の生涯、ヒトの生涯』(京都大学学術出版会)、Moore & Dunham『ジョイント・アテンション』(ナカニシヤ書店)

【秋学期】

授業科目の内容：

本講義の目的とするところは、これから教育学研究ないし教職の道に進みゆく諸君に対して、「教育問題の科学としての教育学」という考え方、そしてその基礎となる「教育学的な視座」を理解してもらうことを中核にして、教育学研究への導入を行うところにあります。

現代の教育学の基礎は、17、18世紀における近代ヨーロッパ社会の成立と発展の中で成立したと言われます。したがってまずは、近代教育理論ないし近代教育思想を構成する理論的な枠組みの批判的な検討を、概念史研究や社会史研究の成果を顧慮しながら分析することが講義の焦点となります。その上で、現代に生きる教育の考え方を提示し、検討を加えることとなります。

テキスト：

田中克佳『教育学』(通信教育テキスト)慶應義塾大学出版会 1993
参考文献：

授業の中で適宜指示します。

【07】教育学原典講読 (1)(春学期)

【07】教育学原典講読 (1)(秋学期)

【04】教育学原典講読(2)(通年) 助教 藤澤 啓子

授業科目の内容：

本講義では、発達心理学に関する本(英文)を発表形式で輪読し、ディスカッションをおこないます。英語文献を読み進めるとともに、発達心理学に関する理解を深めることを目指します。

テキスト：

初回の授業時に指定します。

【07】教育学原典講読 (1)(春学期)

【07】教育学原典講読 (1)(秋学期)

【04】教育学原典講読(2)(通年) 助教 山梨 あや

授業科目の内容：

教育史に関する英語文献を読みます。

テキストを正確に読み、著者の意図を把握した上で、討論を行います。

テキスト：

初回の授業時に指定します。

【07】教育学原典講読 (1)(春学期)

【07】教育学原典講読 (1)(秋学期)

【04】教育学原典講読(2)(通年) 講師 佐々木 掌子

授業科目の内容：

自己形成に関する心理学英語文献の購読をします。目標は、英語文献を正確に読みこなせるようになることです。また、文献を踏まえ、教育的視座からディスカッションをします。

テキスト：

初回の授業時に指定します。

【07】教育学原典講読 (1)(春学期)

【07】教育学原典講読 (1)(秋学期)

【04】教育学原典講読(2)(通年) 講師 朴 順南

授業科目の内容：

「人間形成論」に関わる英語文献を購読します。

授業は毎回数名の担当者の発表形式で進めていきますが、適宜ディスカッションを交えて全員の内容理解を深めていきます。ほかの出席者も積極的に議論に参加してください。英文テキストを表面的に読み進めるのではなく、一つ一つの概念を丁寧に理解していくことを重視します。

テキスト：

初回の授業時に指定します。

参考書：

授業の中で適宜紹介します。

【07】教育史 (2)(春学期)

【07】教育史 (2)(秋学期)

【04】教育史(4)(通年)

日本の「近代教育」を考える 教授 山本 正身

授業科目の内容：

「教育」を広く人間の成長を促す働きかけとしてとらえるならば、学校を中心として行われている組織的・計画的な教育は教育全体の一部にすぎず、またその歴史も人類史の中のほんの僅かな期間に認められるだけのものであるにすぎない。だが、今日において教育は学校教育を中心に展開され、学校の問題を抜きに教育を語ることはあり得ないような状況にさえなっている。

本講義では、学校を中心とする組織的・計画的な教育を国家が主導し、またそれを国家的規模において展開しているもののことを「近

代教育」としてとらえ、この「近代教育」をめぐる諸問題を日本の事例を通して考察する。

春学期においては、「近代教育」の発足・確立の諸動向を主に明治期の事例を通して考察する。その際、「近代教育」とは異なる歴史文脈から形成された江戸時代の教育との対比に着目し、教育史における近世と近代とを画期する諸要因の分析に努める。

秋学期においては、「近代教育」確立後の日本教育史の諸動向について概説する。「近代教育」見直しの気運が兆した大正期、国家による教育統制が最も徹底された（その意味で「近代教育」の負の側面が最も露わになった）昭和戦前期、「近代教育」の見直しとともにその起点を迎えつつも、やがて「近代教育」のより強固な再興を遂げた昭和戦後期などの歴史の流れを読み解くことで、日本近代教育の特質ないし問題性の把握に努める。

ただし、本講義は教育を題材とする史資料の精密な解読に基づく実証研究の成果を紹介することを主たる目的とするものではない。あるいは、日本の歴史の中に探られた教育に関する事実そのものの確実な把握を受講者に求めることを主眼とするものでもない。受講者には、組織的・計画的な教育（操作的に人間を形成していこうとする認識を前提とする）をもって唯一絶対の教育と見なす発想を相対化し、それを克服するための視点を確保することを目指して、日本教育史の事例に思想的格闘を挑まれることを期待したい。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業時に適宜指示する。

【07】教育学史 (2)(春学期)

【07】教育学史 (2)(秋学期)

【04】教育学史(4)(通年) 講師 今井 康雄

授業科目の内容：

西洋的な伝統の中で人間形成に関するアイデアがどのように展開されてきたかを講述します。古代ギリシア・中世を序論的に触れた後、近代の教育思想がどのように形成され、変容していったのかを中心に扱う予定です。西洋的な教育観についての基本的な理解を得ることがこの講義の目的です。

テキスト：

テキストはプリントとして配布する予定。

参考書：

参考文献については講義の中で指示します。

【07】比較教育学 (2)(春学期)

【07】比較教育学 (2)(秋学期)

【04】比較教育学(4)(通年) 教授 松浦 良充

授業科目の内容：

「教育」は、個性性と具体性の強い活動である。したがって、教育現象を理論化（一般化）して把握しようとする作業には大きな困難が伴う。それどころか、捉え方によっては、そのような教育を、一般化・法則化しようと試みると自体が大きな矛盾である、と言えるかもしれない。

ただしたとえ完璧な客観化が不可能だとしても、教育にかかわる現象や問題を、学問的により正確に把握し検討するための有効な手段はないのか。その一つが、「比較」の方法である。異なる文化や社会・国家あるいは時代（歴史）における教育と比較することで、私たちが現在直面している教育にかかわる現象や問題を「相対化」し、これまで「あたりまえ」と思いこんできたことを見直すための視座を獲得することが出来るはずである。とりわけ国際化・グローバル化が指摘される現代では、教育は、他のさまざまな文化や社会・国家からの影響を受けながら、相互に変貌してきている。その意味では、日本の「教育」のなりたちそのものが「比較教育」的なダイナミクスの産物である。

この授業では、こうした背景をふまえて、比較研究の手法と視点をを用いた「教育」の再検討や再定義の作業を試みる。世界の教育を

知ることによって、教育の世界の特徴と可能性および限界を考え、日本の教育への政策提言を試みたい。

春学期では、「比較教育学の方法」を知ること重点を置いて、比較教育学の基礎的諸理論・方法論を検討する。それを通して、西洋近代に発生した歴史的事象である「教育」がグローバル化するプロセスを、主として日本を事例として考えることになるであろう。

秋学期には「比較教育学の問題圏」というテーマのもとで、教育に関する諸問題・領域を国際比較の観点から検討したり、地域別の教育事象の特徴に関して議論する。その際、履修者による発表と討論を中心に進める。個々の事例研究を通して、日本の教育を再認識する視点を身につけることができるだろう。

秋学期の履修者は、初回の授業時に履修の前提となるレポートを提出しなければならない。具体的な指示は、夏休み前に掲示によって行うので極力注意しておくこと。

なお、【テキスト】【参考書】【授業の計画】【履修者へのコメント】【成績評価方法】【質問・相談】の各事項については、以下の Web Site に掲載する（「授業（塾内）」のページ）。

<http://matsusemi.jpn.org>

【07】教育心理学概論 (2)(春学期)

【07】教育心理学概論 (2)(秋学期)

【04】教育心理学概論(4)(通年) 教授 安藤 寿康

授業科目の内容：

人間の成長に関連するさまざまな心理学的に基本となる知見や研究方法論を紹介する。特に個人差と発達に焦点を当て、生命科学との関連を重視した心理学的教育学を描きたい。

【07】教育学演習 (3年)(要)(1)(春学期)

【07】教育学演習 (3年)(要)(1)(秋学期)

【07】教育学演習 (4年)(要)(1)(春学期)

【07】教育学演習 (4年)(要)(1)(秋学期)

【04】教育学演習 (3年)(2)(通年)

【04】教育学演習 (4年)(2)(通年)

言語文化研究所 教授 大津 由紀雄

授業科目の内容：

言語の認知科学について、文献を読んだり、議論したりする。どの文献を取り上げるかは未定である。言語教育や科学教育に関する担当者の考えについても議論する。議論好き、あるいは、議論好きになりたい学生をとくに歓迎する。

第一回目の講義の際に、このコースの運営の仕方などについてくわしい説明をするので、受講予定者は必ず出席のこと。やむをえない理由で都合で出席できない場合は、必ず事前に担当者に連絡のこと。

テキスト：

第1回目講義時に提示する。

参考書：

第1回目講義時に提示する。

【07】教育学演習 (3年)(要)(1)(春学期)

【07】教育学演習 (3年)(要)(1)(秋学期)

【07】教育学演習 (4年)(要)(1)(春学期)

【07】教育学演習 (4年)(要)(1)(秋学期)

【04】教育学演習 (3年)(2)(通年)

【04】教育学演習 (4年)(2)(通年)

教授 舟山 俊明

授業科目の内容：

本年度は「教育の人間学的基礎」というテーマで、一方で「心の哲学」「心理学の哲学」を、他方で「哲学史」や「心理学史」を参考にしながら、19世紀後半から現代までの人間の自己理解の展開を追跡し、それが教育理論（教育学史）上いかなる影響を与え、今日いかなる意味を持っているのかを考えます。授業は講義と聴講者によるレポートと適宜織り交ぜて展開します。

テキスト：

授業内で適宜指示する。

参考書：

授業内で適宜指示する。

【07】教育学演習	(3年)(要)(1)(春学期)	
【07】教育学演習	(3年)(要)(1)(秋学期)	
【07】教育学演習	(4年)(要)(1)(春学期)	
【07】教育学演習	(4年)(要)(1)(秋学期)	
【04】教育学演習	(3年)(2)(通年)	
【04】教育学演習	(4年)(2)(通年)	

教育史研究の技法を学ぶ 教授 山本正身

授業科目の内容：

本演習は、日本の歴史(近世以降)の中からある教育上のテーマを探り出し、そのテーマに関わる共同研究を推進することを主要な活動としている。

今年度のテーマについては、「旧植民地教育政策に関する比較史的考察」というものを考えている。その大雑把なスケジュールを挙げると、春学期においては当該テーマに関する主要な先行研究の講義を行う(ゼミ員の分担報告に基づく)。その上で、「旧満州」「朝鮮」「台湾」の三つの研究グループに分け(南洋群島および樺太は取り扱わない)、各自の担当グループを決定する。秋学期には各グループから数度にわたる研究報告を行ってもらい、それを通して各植民地教育政策の全体的傾向の把握とそれぞれの比較分析を行う。そして最終的には、その成果を小冊子もしくはCDの形にしてまとめ上げる予定である。

ただし、共同研究のテーマは基本的にゼミ員との協議の上決定したいと考えているので、上記のテーマが変更になる可能性もある。従って、履修者には第一回目の授業時に共同研究テーマに関する各自の構想を発表してもらうことになる(それゆえ各自には十分な準備を踏まえて第一回目の授業に臨んでいただきたい。参加者に異存がなければ上記のテーマで協同研究を進めていく)。

なお、より具体的な研究方法やスケジュールなどの詳細については、参加者と相談の上決定する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業時に適宜指示する。

【07】教育学演習	(3年)(要)(1)(春学期)	
【07】教育学演習	(3年)(要)(1)(秋学期)	
【07】教育学演習	(4年)(要)(1)(春学期)	
【07】教育学演習	(4年)(要)(1)(秋学期)	
【04】教育学演習	(3年)(2)(通年)	
【04】教育学演習	(4年)(2)(通年)	

休講

【07】教育学演習	(3年)(要)(1)(春学期)	
【07】教育学演習	(3年)(要)(1)(秋学期)	
【07】教育学演習	(4年)(要)(1)(春学期)	
【07】教育学演習	(4年)(要)(1)(秋学期)	
【04】教育学演習	(3年)(2)(通年)	
【04】教育学演習	(4年)(2)(通年)	

教授 安藤寿康

授業科目の内容：

各自の関心に従いテーマを設定して心理学的な実証研究を行い、すぐれた卒業論文を作成することを最終的な目的とします。そのために内外のさまざまな文献(特に英語で書かれたもの)にあたり、担当者および他の演習履修者と活発なディスカッションを行い、実験や調査、フィールド・リサーチなどによって一次資料を収集します。履修者はこうした活動を通じて自分の問題意識を深め、その過程で人間の発達と教育に関して証拠に基づいて(evidence based)論理

的・科学的に考えることを学んでほしいと思います。

【07】教育学演習	(3年)(要)(1)(春学期)	
【07】教育学演習	(3年)(要)(1)(秋学期)	
【07】教育学演習	(4年)(要)(1)(春学期)	
【07】教育学演習	(4年)(要)(1)(秋学期)	
【04】教育学演習	(3年)(2)(通年)	
【04】教育学演習	(4年)(2)(通年)	

教職課程センター 教授 鹿毛雅治

授業科目の内容：

教育心理学に関する内外の文献を講読し、討論します。基本的に発表形式で進めていく予定です。使用する文献については、履修者諸君と相談しながら決めていきたいと思います。

常に教育的な問題関心を抱きながら、自らの研究対象を選び取りつつ、それに対する探究を協同的に深めていこうとする姿勢を履修者諸君に期待しています。

【07】教育学演習	(3年)(要)(1)(春学期)	
【07】教育学演習	(3年)(要)(1)(秋学期)	
【07】教育学演習	(4年)(要)(1)(春学期)	
【07】教育学演習	(4年)(要)(1)(秋学期)	
【04】教育学演習	(3年)(2)(通年)	
【04】教育学演習	(4年)(2)(通年)	

教授 松浦良充

授業科目の内容：

この演習では、さまざまな教育問題を、主として国際・異文化間比較の観点から研究する。日本をはじめとする世界各地の教育事象や教育システムの成立要因や構造を、「比較」研究の手法を用いて捉えることによって、各自にとって<あたりまえ>となっている「教育」概念を相対化し、再定義する視座や研究態度の習得をめざす。

なお、【テキスト】【参考書】【授業の計画】【履修者へのコメント】【成績評価方法】【質問・相談】の各事項については、以下の Web Site(「授業(塾内)」のページ)に掲載する。

<http://matsusemi.jp.org>

【07】教育学特殊 A	(2)(春学期)	
【07】教育学特殊 B	(2)(秋学期)	
【04】教育学特殊	(4)(通年)	

[春]講師 杉下文子
[秋]講師 東敏徳

【春学期】

授業科目の内容：

人文主義教育思想とことばの学びというテーマで、ルネサンス時代の教育論を検討します。古代ギリシャ・ローマの遺産をキリスト教の思想に統べて評価した再生』運動の旗手エラスムスを中心に、出来る限り多くの原典翻訳に触れますが、作業を通じて現代の言語教育問題に考察を広げることが目標とします。

【秋学期】

授業科目の内容：

古代ギリシアの教育思想の検討を通じて、今日の現実の教育問題を考える理論的枠組みを考える。

テキスト：

『アリストテレスと生き方の教育』(ユージン伝, 2004) 東敏徳

参考書：

授業中に指示する。

【07】教育学特殊 C(2)(春学期)

【07】教育学特殊 D(2)(秋学期)

【04】教育学特殊 (4)(通年)

[春]教授 舟山 俊明

[秋]講師 山内 淳子

〔春学期〕

授業科目の内容：

この授業では、教育問題としての「文化・歴史・アイデンティティ」近現代日本およびドイツにおける「教養」論史を手がかりとしてという表題の下に、19世紀後半から20世紀末にかけての人文科学（歴史的精神諸科学）と教養＝人間形成との関係をめぐるさまざまな理論的営為を、「教育」という視座から読み直すことを目的としています。周知のように、19世紀後半から急速に興隆をみた自然科学/技術にたいして、もうひとつ知の半球をなす非自然科学分野すなわち人文科学の自律性や固有性をめぐって今日まで多くの様々な議論が展開されてきています。したがってこの講義では、そうした議論の展開を追いながら、そこに内在する人間形成上の意義を取り出し吟味します。また併せて近代日本における「教養」問題を検討します。

テキスト：

使用しない

参考書：

適宜指示するか、授業担当者がコピーを配布する。

〔秋学期〕

授業科目の内容：

本講義では、「幼児教育の実践」を焦点にあてて、皆さんと共に語り、考えていきたいと思っています。

経験主義対本質主義の議論からみても、義務教育前の幼児教育現場は、学習指導要領等、いわゆる伝達すべきもののしぼりが少なく、経験主義的な教育を思う存分試みていくことのできる魅力的な場です。いわば、日々が総合的な学習の時間であり、人生の最初の時期に、子どもたちが自分なりに観察したり、探求したり、発見したり、工夫したり、表現したり等、学ぶ楽しさを経験できるという意味では、幼児教育は、非常に重要でやりがいのあるものです。

しかしながら、今日の幼児教育現場では、ときに「子どもの目が輝いていた」等が評価基準となるなど、教師たちは子どもや幼児教育について語るすべてを十分に持ち合わせていないというのも実態です。

では、どのようにしたら、私たちは、子どもという存在の、また幼児教育という営みの、これまで見落としてきたもの、見えずにきたものを可視化し、語りえなかったものを語っていくことができるのでしょうか。対象をかえ、切り口をかえ、着眼点をかえ、手法をかえながら、様々な幼児教育の営みにアプローチしていけたらと思っています。

幼児教育実践に焦点をあてたこれらの試みによって、幼児教育のみならず、教育という営みそのものを何かしら新たなまなざしを向けることができると考えています。

なお、本講義では、関係の深い分野として、初等教育の実践や児童福祉の実践についても取り上げていきたいと思っています。

テキスト：

適宜プリントを配布します。

参考書：

磯部裕子・山内紀幸「ナラティブとしての保育学」萌文書林2007
その他、講義内に適宜紹介します。

【07】教育学特殊 E(2)(春学期)

【07】教育学特殊 F(2)(秋学期)

【04】教育学特殊 (4)(通年)

[春]助教 山梨 あや

[秋]講師 佐々木 啓子

〔春学期〕近代日本における読書行為と教育

授業科目の内容：

本講義では、読書という行為が近代日本の教育にどのように位置付けられていったのかを考察します。

読書は学校教育の普及、印刷技術の向上、メディアの発達に根差したものであり、この意味において近代化の所産の一つであるといえます。さらに読書は教育と同様、人々が新たな知識や価値観と出会う契機となるものでした。

1900(明治30)年代以降、読書の人間形成作用に対する関心が高まりを見せ、読書は「教育」の範疇にあるものとして捉えられるようになります。読書行為は、学校教育、さらには社会教育の成立と密接に関わりながら普及して行きました。本講義では読書行為の普及という視点から、近代日本の教育やその問題を歴史的に問い直したいと考えています。

テキスト：

講義時に適宜指示します。

参考書：

講義時に適宜指示します。

〔秋学期〕近代日本における教育の歴史社会学

授業科目の内容：

日本の教育の史的研究は、制度史あるいは思想史を中心に展開されてきた。しかし、明治維新により近代化の道を歩み始めた日本が急速な発展を遂げたのは、政府主導による近代学校の組織化と制度的確立のみならず、人々の教育に対する強い期待があったからに他ならない。特に第一次世界大戦後に形成された都市の新中間層(官公吏、医師、弁護士、教員、銀行・会社員など)は、学歴や資格によってその地位を獲得した学歴エリートであった。身分制が崩壊し職業の世襲が事実上不可能なこれら新中間層は、しかし、巧みにしかも正当な手段、すなわち教育を介在させて、その地位を再生産してきた。今日の教育拡大の初期的形態が戦間期(1920-30年代)における都市新中間層の教育要求にみることのできるのである。

本講義の目的は、戦前期日本の社会経済構造の変化といったマクロな視点の中に教育を位置づけるとともに、教育を受けた側の学生・生徒およびその家族の思いといったミクロな視点を取り入れ、その接合を企図する。当時の学生・生徒の就学状況が生き生きと再現されるような文献を紹介しながら、教育の歴史社会学とは何かを考える講義としたい。

テキスト：

資料を配布するとともに講義時に適宜指示。

参考書：

文献リストを第1回講義時に配布しますが、主な文献は以下。

- ・天野郁夫『教育と近代化』玉川大学出版部、1997年
- ・佐々木啓子『戦前期女子高等教育の量的拡大過程』東京大学出版会、2002年
- ・天野郁夫『試験の社会史』東京大学出版会、1983年
- ・E. H. キンモンズ、広田照幸他訳『立身出世の社会史』玉川大学出版部、1995年
- ・ブルデュー&パスロン、石井洋一訳『遺産相続者たち 学生と文化』藤原書店、1997年
- ・教育学年報6『教育史像の再構築』世織書房、1997年
- ・産む・育てる・教える 匿名の教育史1『教育 誕生と終焉』藤原書店、1990年
- ・NIRA 政策研究『生活水準の歴史的研究』1988年 vol. 1. No. 2

【07】教育学特殊 G (2)(春学期)

【07】教育学特殊 H (2)(秋学期)

【04】教育学特殊 (4)(通年)

休講

【07】教育学特殊 I (2)(春学期)

【07】教育学特殊 J (2)(秋学期)

【04】教育学特殊 (4)(通年)

[春]講師 長嶺 宏 作

[秋]講師 西村 史 子

【春学期】アメリカにおける「効果的な学校」の理論の展開

授業科目の内容：

本講義の目的は、「効果的な学校」の理論を検討することにある。「効果的な学校」の理論とは、アメリカにおいて R. エドモンズによって提案された理論である。エドモンズはコールマンらの社会学的研究が明らかにした家庭環境決定論的な立場を強く批判し、公立学校が貧困家庭の子どもにも効果ある教育が行えると主張した。エドモンズは、社会学研究の限界を指摘し、学校の教育的な営為も否定しかねないことを問題にしていた。今日、日本においても公立学校の批判の中で、ややもすると学校や教育の存在意義の足場まで崩しかねない議論がある。本講義は、アメリカの「効果的な学校」理論を中心に、真に教育的な議論を設定するパラダイムとは何かを考えたい。

テキスト：

授業にて配布する。

参考書：

随時、紹介する。

【秋学期】アメリカにおける教育機会の平等化メカニズムの形成

授業科目の内容：

本講義の目的は、アメリカ合衆国における教育機会の平等化メカニズムの形成を、教育行財政システムの改革をとおして理解することにある。具体的には、1970年代以降の公立学校教育制度(k-12学年)における学区間格差の解消や各家庭の所得格差に伴う教育機会の不平等の改善をめざした政策がどのように展開し、制度として定着したかをたどる。

テキスト：

特に指定しない。適宜、講義資料を配布する。

参考書：

Allan Odden & Lawrence Picus, "School Finance: A policy Perspective," 4th ed., McGraw-Hill, 2007.

【07】教育学特殊 K (2)(春学期)

【07】教育学特殊 L (2)(秋学期)

【04】教育学特殊 (4)(通年)

[春学期] アメリカ合衆国大学史

[秋学期] アメリカ進歩主義教育思想と児童中心主義

[春]講師 坂本 辰 朗

[秋]講師 古屋 恵 太

【春学期】

授業科目の内容：

春学期はアメリカ大学史を取り上げる。1636年のハーバード大学の成立から19世紀末の「ユニバシティの時代」へ、さらには、世界のcenter of excellenceへと、アメリカの大学は350年余の歴史の中で大きく変貌する中、日本を含む各国の高等教育へ理念的にも制度的にも大きな影響をあたえてきた。本コースでは、比較教育史的な視点をも含め、アメリカにおけるhigher learningの歴史を辿ってゆくことにしたい。

なお、このコースでは、講義と同時に、履修者によるプレゼンテーションを併用してゆく。

テキスト：

John R. Thelin. *A History of American Higher Education*. (Johns Hopkins University Press, 2004). を使用するが、この他にハンドアウトを配付する。

参考書：

レファレンスリストを配付する。

【秋学期】

授業科目の内容：

日本のいわゆる「ゆとり教育」の背景には、児童中心主義(新教育)の思想があったと言われていています。子どもの主体的な活動を重視する児童中心主義の思想は特定の文化・歴史的な脈から生じたものですが、今日でも教育改革の理念として影響力を持っています。この授業では、1. 児童中心主義の思想がアメリカの進歩主義教育(新教育)運動においてどのように生まれ展開したか、2. それが教育改革の理念として今日どのように流通しているか、その意義と問題点は何かを考察することを課題とします。

演習形式を採用するなど、授業の形式は柔軟に対応する予定です。

テキスト：

ジョン・デューイ『経験と教育』市村尚久訳 講談社 2004年

参考書：

ジョン・デューイ『学校と社会 子どもとカリキュラム』市村尚久訳 講談社 1998年

【07】教育学特殊 M (2)(春学期)

【07】教育学特殊 N (2)(秋学期)

【04】教育学特殊 (4)(通年)

[春]講師 榊原 彩 子

[秋]講師 安治 陽 子

【春学期】

授業科目の内容：

「創造性」というキーワードをもとに、認知心理学における主要なトピックである、知覚、記憶、問題解決等を中心に、過去の具体的研究例を交えつつ、基礎的な理論を講義形式で解説する。心の働きとしての認知的活動を理解するにあたり特に、新たなものを生み出す創造的思考や、美術や音楽といった芸術の理解など、新奇なトピックについて、認知的理論を紹介する。

基本的には講義形式であるが、認知課題や質問紙を体験したり、グループで模擬実験を実施したり、演習的な内容も適宜もりこみたいと考えている。

テキスト：

テキストは用いず、授業時に配布するプリントを教材とする。

参考書：

授業時に適宜指示する。

【秋学期】

授業科目の内容：

社会情緒の発達について、乳幼児期を中心に概説する。人生の最早期から、他者との関係性がどのように構築されるのか、そこで人はどのような社会的発達を遂げていくのか、またその中で自己はどのように発達するのか、情動(感情)はどのような役割を持ち、いかに発達するのか、社会的認知能力はいかに機能しているのか、といった内容について、発達心理学の知見を紹介する。また、子どもの発達を追った映像を通して、子どもの実際の行動や生活の一端に触れ、具体的に理解を深めることができるようにしたい。

参考書：

特に指定しないが、適宜参考文献を紹介し、プリントを配布する。

【07】教育学特殊 O(2)(春学期)

【07】教育学特殊 P(2)(秋学期)

【04】教育学特殊 (4)(通年)

言語教育の諸問題 言語文化研究所 教授 大津 由紀雄

授業科目の内容：

言語教育・「国語」教育・外国語教育について多角的に検討する。受講者は毎回かなりの量の作業を求められる。言語学・教育学・心理学などの知識は前提としない。本コースは本年度のみ開講する。受講希望者は必ず第一回目の講義に出席のこと。やむをえない都合で出席できない場合は、必ず事前に電子メール(oyukio@sfc.keio.ac.jp宛)で担当者に連絡のこと。

テキスト：

文献リストを第1回講義にて配布する。英語の文献もあるので、ある程度の英語運用能力が必要である。

参考書：

文献リストを第1回講義にて配布する。

【07】教育学研究会 (要)(1)(春学期)

【07】教育学研究会 (要)(1)(秋学期)

【07】教育学研究会 (要)(1)(春学期)

【07】教育学研究会 (要)(1)(秋学期)

【04】教育学研究会 (2)(通年)

【04】教育学研究会 (2)(通年)

言語文化研究所 教授 大津 由紀雄

授業科目の内容：

卒業論文の準備作業および作成指導を行う。言語理論、言語獲得(第一言語、第二言語)、言語理解、言語の脳科学、言語教育(母語教育、外国語教育)、科学教育、認知発達などに関心を持つ、意欲的な学生を歓迎する。

第一回目の講義の際に、このコースの運営の仕方などについてくわしい説明をするので、受講予定者は必ず出席のこと。やむをえない理由で都合で出席できない場合は、必ず事前に担当者に連絡のこと。

テキスト：

第1回目講義時に提示する。

参考書：

第1回目講義時に提示する。

【07】教育学研究会 (要)(1)(春学期)

【07】教育学研究会 (要)(1)(秋学期)

【07】教育学研究会 (要)(1)(春学期)

【07】教育学研究会 (要)(1)(秋学期)

【04】教育学研究会 (2)(通年)

【04】教育学研究会 (2)(通年)

休講

【07】教育学研究会 (要)(1)(春学期)

【07】教育学研究会 (要)(1)(秋学期)

【07】教育学研究会 (要)(1)(春学期)

【07】教育学研究会 (要)(1)(秋学期)

【04】教育学研究会 (2)(通年)

【04】教育学研究会 (2)(通年)

卒業論文指導(日本教育史) 教授 山本 正身

授業科目の内容：

卒業論文作成に向けての指導を行う。

本研究会として卒業論文作成の要件としていることは、少なくとも、研究テーマに客観的意義が認められる(単に主観的に「知りたい」というだけではだめ)、当該分野の先行研究調査が十分になされている、当該分野の研究課題(未だに明らかにされていないことは何か)を指摘することができている、研究において独自の視点や論点(内容や方法にまで独自性があれば申し分ない)が提示

されている、表現や記述が論理的かつ体系的になされている、の五点である。参加者には、最低限、春・秋学期二度の研究報告と、二度のレポート提出が課せられる。

なお、本研究会は、日本教育史、日本教育思想史に関心のある学生の参加を歓迎するが、広く日本の教育問題を考えたいと希望する学生も受け入れる。ただし、研究方法はあくまでも文献研究を中心とするものに限られる(いわゆる調査研究や実験研究の指導はできない)ことを付言しておく。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業時に適宜指示する。

【07】教育学研究会 (要)(1)(春学期)

【07】教育学研究会 (要)(1)(秋学期)

【07】教育学研究会 (要)(1)(春学期)

【07】教育学研究会 (要)(1)(秋学期)

【04】教育学研究会 (2)(通年)

【04】教育学研究会 (2)(通年) 教授 舟山 俊明

授業科目の内容：

卒業論文指導。3年生は年度末にレポート(400字×50以上)を、4年生には卒論(400字×100以上)を提出するための様々な準備指導を行います。参加者には各自の作業につき年に2回の報告をしてもらい、相互に検討を行います。

【07】教育学研究会 (要)(1)(春学期)

【07】教育学研究会 (要)(1)(秋学期)

【07】教育学研究会 (要)(1)(春学期)

【07】教育学研究会 (要)(1)(秋学期)

【04】教育学研究会 (2)(通年)

【04】教育学研究会 (2)(通年) 教授 松浦 良充

授業科目の内容：

卒業論文の完成を最終目標として、論文作成・執筆に必要な、テーマ設定の方法、先行研究の検討の仕方、資料の検索・収集・整理・批判、論拠や根拠および証拠にもとづいた議論の展開など、(比較)教育学研究の手法について学ぶ。具体的には、グループによる共同プロジェクト研究および各自の個人研究の報告と相互検討・討論を行うことで、上記の手法を身につけることになる。

教育の国際・異文化間比較研究、多文化状況における教育問題、大学・高等教育研究、英米語圏における教育の現状および歴史研究、比較教育思想(史)研究のいずれかの領域に関心のある学生を対象とする。

なお、【テキスト】【参考書】【授業の計画】【履修者へのコメント】【成績評価方法】【質問・相談】の各事項については、随時、以下のWeb Site(「学部ゼミ」のページ)に掲載する。

<http://matsusemi.jpn.org>

【07】教育学研究会 (要)(1)(春学期)

【07】教育学研究会 (要)(1)(秋学期)

【07】教育学研究会 (要)(1)(春学期)

【07】教育学研究会 (要)(1)(秋学期)

【04】教育学研究会 (2)(通年)

【04】教育学研究会 (2)(通年) 教授 安藤 寿康

授業科目の内容：

教育学演習とあわせて、卒論指導を行います。

- 【07】教育学研究会 (要)(1)(春学期)
- 【07】教育学研究会 (要)(1)(秋学期)
- 【07】教育学研究会 (要)(1)(春学期)
- 【07】教育学研究会 (要)(1)(秋学期)
- 【04】教育学研究会 (2)(通年)
- 【04】教育学研究会 (2)(通年)

教職課程センター 教授 鹿毛雅治

授業科目の内容：

卒業論文に向けての指導を行います。具体的には、自らの研究テーマを設定し、先行研究を調べ、適切な研究方法を選択し、結果を分析、考察する一連のプロセスについて、履修者全員が適宜、報告し、相互に意見交換、討論することが中心になります。

選 択 科 目

- 【07】教育学文献研究 A (2)(春学期)
- 【07】教育学文献研究 B (2)(秋学期)
- 【04】教育学文献講読 (4)(通年) 教授 舟山俊明

授業科目の内容：

この授業は、発展的な教育学研究をするためには欠くことのできない先行研究調査の一環として、ドイツ語研究文献を調査し読解する技能を高める目的で設置された科目です。取り上げる具体的な文献は、履修者の関心に応じて選択します。基本的なドイツ語文法の知識があり辞書の使用法を心得ているならば履修は可能です。使用しない

テキスト：

適宜指示するか、授業担当者がコピーを配布する。

- 【07】教育学文献研究 C (2)(春学期)
- 【07】教育学文献研究 D (2)(秋学期)
- 【04】教育学文献講読 (4)(通年)
心理学の英語論文の講読 講師 中邑啓子

授業科目の内容：

心理学の様々な分野（発達心理学、教育心理学、認知心理学、社会心理学、臨床心理学、カウンセリングなど）に関連する英語論文を講読します。実証的な研究論文の読み取り方を論文の形式、解析方法、データの解釈の仕方等の異なる視点から学習します。論文は、現代の心理学の基礎となる必読文献や最近書かれた心理学の注目すべき論文などの中から選択します。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

- 【07】教育学文献研究 E (2)(春学期)
- 【07】教育学文献研究 F (2)(秋学期)
- 【04】教育学文献講読 (4)(通年) 講師 吉野剛弘

授業科目の内容：

この授業では、日本教育史に関心をもつ学生を対象に、日本教育史に関わるさまざまな史料の講読を通して、日本教育史に関する見識を深めていくとともに、各種史料を読み進めていく能力を培うことにする。

取り上げる史料については、基本的には受講者の希望に応じていく。しかし、特に要求がないという場合は、近代日本教育史上初の本格的な教育会議である高等教育会議（1896—1913）のうち『高等教育会議議事速記録』（第3回と第7回の議事録が現存するのみ）の中等教育、高等教育関係の諮問案の議事録を読み進めていくことを考えている。上記史料は活字体であるので、旧漢字・旧かなづかいに慣れていない初学者でも、辞書をひきつつ読めば何とか読みこなすことは可能である。時間的、能力的に余力がある、あるいは受

講者の希望があれば、一次史料（手書きによるもの）を読む機会も設け、実際の教育史研究の現場を体感することも試みたい。

テキスト：

授業で講読する史料はコピーしたものを配布する。

参考書：

必要に応じて適宜指示する。

- 【07】教育測定実験 (要)(2)(春学期)
- 【07】教育測定実験 (要)(2)(秋学期)
- 【04】教育測定実験 (4)(通年) 助教 藤澤啓子
講師 小川万理子

授業科目の内容：

この講義は、教育科学的研究を実証的におこなうための方法を習得することを目的とします。講義内容は、1.教育心理学の研究法・理論、2.実験・調査の2つから成り立っています。具体的には、心理検査法、行動観察法、質問紙調査法の理論的背景および実施方法、実施後のレポートの作成法を学びます。また、実験および調査の結果をコンピューター（SPSS, Excel など）をもちいて統計的に分析する実習をおこないます。

参考書：

適宜、講義中に紹介します。

- 【07】教育研究法 (要)(2)(春学期)
- 【04】教育研究法 (2)(春学期)
社会科学研究のための基礎統計学 講師 尾崎幸謙

授業科目の内容：

教育学・心理学等、社会科学全般における量的研究に統計学は欠かせることができません。

量的研究とは、アンケート調査など、数で表すことの可能なデータを収集し、データ分析の結果に基づいて知見を述べる研究のことです。

本講義では、平均・標準偏差という統計学の基礎から授業を行います。最終的には、最も重要な分析方法の1つである分散分析を独力で分析可能なレベルに到達することを目標とします。分散分析を学ぶことにより、複数の教授法の効果の違い、男性と女性ではどちらが他者からの評価を気にする程度が高いかなど、因果の存在を客観的に探求することが可能になります。

講義を聞いてノートをとるだけでは統計学は身につかないので、統計ソフト SPSS や EXCEL を使った実習を適宜組み入れます。実際に履修者に対してアンケート調査を実施し、分析実習に用いることも考えています。

テキスト：

配布資料

参考書：

- ・よくわかる心理統計 山田 剛史(著), 村井 潤一郎(著) ミネルヴァ書房 2004
- ・南風原 朝和(著) 心理統計学の基礎 統計的理解のために 有斐閣 2002

- 【07】教育研究法 (要)(2)(秋学期)
- 【04】教育研究法 (2)(秋学期)
社会科学研究のための多変量解析 講師 尾崎幸謙

授業科目の内容：

前期開講の教育研究法 に引き続き、社会科学研究のための統計学の講義を行います。

後期は特に、多変量解析と呼ばれる手法についての講義になります。多変量解析は数々の手法の総称であり、そこには因子分析・クラスター分析などが含まれます。因子分析を学ぶことで、例えば、アンケート調査の項目がいくつのまとまりも持っているのかを知ることが可能となります。また、クラスター分析を学ぶことで、例えば、教科の好き嫌いによって生徒を分類することが可能になります。

前期同様，講義を聞いてノートをとるだけでは統計学は身につかないので，統計ソフト SPSS や EXCEL を使った実習を適宜組み入れます。実際に履修者に対してアンケート調査を実施し，分析実習に用いることも考えています。

テキスト：

配布資料

参考書：

- ・足立 浩平（著）多変量データ解析法 心理・教育・社会系のための入門 ナカニシヤ出版 2006
- ・南風原 朝和（著）心理統計学の基礎 統計的理解のために 有斐閣 2002

人間科学専攻

必修科目

【07】【04】人間科学基礎(2)(春学期)

准教授 小林 ポオル

授業科目の内容:

現代の都市生活者たる私たちのものの考え方や行動パターンには、どのような特徴があるのだろうか。

私たちはまわりの環境と相互作用を行うことで生活しているから、私たちがつくってきた社会・環境は逆に私たちの行動を構造的に規制してものの考えかたに大きな影響を与え、また人間関係のありかたにも影響を与えてきたはずである。

そこで、まず私たちが当然視することで暗黙のうちに私たちの行動を方向づけているものを考察することから始める。そして、それらが生活環境のどのようなメカニズムによってもたらされてきたのかを考える。具体的には、高度産業社会と規定される現代社会が、科学・技術に支えられたその生産システムをどのように作りあげ、私たちの行動をも組み込みながらどのように精緻化してきたのかを見、その中で人間のイメージがどのように変容してきたのかを考える。

しかし見方を変えれば、環境は自己の構造の投影と考えることもできる。それなら、自己の認識構造の基にある言語構造が自己のイメージを形づくりながらどのように成立し、環境世界をどう成立させているのかを考察する必要があるだろう。そこで次に、このプロセスが現代社会のイメージをどのように構造化したのかという経路も考察したい。

これらを通じて現代社会のさまざまなイメージと自己のそれとの相互性を認識することで、視点の取り方による人間像・世界像の違い、いくつかの視点を総合することの難しさ面白さを経験してほしい。そして各自が人間を理解する道筋を考える出発点としてほしい。

参考書:

随時配布する資料に明示する。

【07】【04】人間科学研究法基礎(2)(秋学期)

准教授 織田 輝 哉

授業科目の内容:

人間をその諸活動から総合的に理解しようとするれば、研究手法に応じて異なる相を見せる人間像を統合する努力が不可欠である。現実の人間行動・人間性に対する洞察は、この複数の視点からの分析を統合する過程を通じて可能になる。

したがって、人間科学における研究法とは、それに依拠すれば自動的に研究が進行する便利な手順集ではない。問題解決のためのさまざまな種であり、ひな形である。人間科学を専攻する者は自らの関心・問題認識に応じてそれらを組み合わせ、改変し新たな研究スタイルを産み出しながら、戦略的に研究を進めていかなばならない。

本講義では、これへ向けての履修者の具体的研究の出発点を整備したい。そのために、現代のわれわれの生活を分析する上で有効であろうと思われるいくつかの概念や枠組みについて、また、資料分析技法の基礎概念について学んでもらう。授業は、講義とグループ討議・実習を組み合わせで行う。履修者が課題に関する討議に積極的に参加することで、単に知識や技術の習得に終わることなく、それらに具体的なイメージを持ち、手法の特質や限界・相対性を理解した上で、自分の問題意識の整理に役立てられるようになることを目的とする。

参考書:

随時紹介する

【07】【04】人間科学諸領域 (2)(秋学期)

准教授 北 中 淳 子

授業科目の内容:

この授業では、現代社会における「心の病」について多角的な視点から考察する。

第一に「心の病」の歴史的形成をたどり、近代社会において正常・異常の境界線がどのように引きなおされ、精神病として心理学・精神医学の対象となったのかを考える。

第二に、現代社会のさまざまな「心の病」(鬱、ひきこもり、摂食障害、人格障害、自殺等)をとりあげ、個人病理の次元を超えた文化現象としてどのように理解できるのかを探る。また、治療を受け、医学的視点を内面化することによって、実際に人々の経験がどのように変容していくのかについても考察する。「心の病」の分析を通じて、個人・社会・文化の異なるレベルから総合人間科学的に考えることの面白さを学んでもらいたい。

この科目は、第2学年次に履修することを原則とする。

テキスト:

医療人類学研究会編『文化現象としての医療』メディカ出版1992年

【07】【04】人間科学諸領域 (2)(春学期)

社会心理学を通して学問の仕方を学ぶ

教授 三井 宏 隆

授業科目の内容:

今日的テーマである「宗教(カルト・回心)」「イイズム(ism)」を取りあげ、社会心理学の立場から行われた研究を紹介する。社会心理学の物の見方、考え方、研究の進め方についての理解を深めることが目的である。

テキスト:

- ・「カルト・回心・アイデンティティの心理学」(三井著、ナカニシヤ出版、2002年、2500円)
- ・「イイズムの心理学」(三井・篠田共編、ナカニシヤ出版、2006年、2200円)

【07】【04】人間科学諸領域 (2)(春学期)

教授 渡 辺 秀 樹

授業科目の内容:

社会学の基本概念・枠組を紹介し、“Sociological way of thinking”になじむことを目的とする。

テキスト:

とくになし。

参考書:

講義のなかで紹介する。

【07】【04】人間科学諸領域 (2)(秋学期)

教授 宮 坂 敬 造

授業科目の内容:

四つの人間科学諸領域コースのなかのひとつとして、文化要因に係わる人間行動と価値観、文化的相互作用・象徴表現行動と言説・心理特性を扱う。これらに関する諸問題群を理論的・経験観察的・言説分析的にとらえる基本的見方を検討する。文化心理人類学、文化心理学、文化精神医学などにまたがる学際的統合的接近、全体人間科学的理解への基本姿勢を解説する。講義の流れとしては以下となるが、半年コースのかたちなので、一部をとりあげながら全体を示唆するというやりかたになる。

(1) 序論 グローバリズム状況下、変革期にある現代社会・世界の問題群と学問の関係、(2) パラダイムと方法論 比較法、構造的動態理解、(3) エスノセントリズムと「異文化」、(4) 非言語的文化的コミュニケーション・認知と文化、(5) 経済と文化 越境する移民動態、(6) 社会組織と文化、(7) 文化的自己とアイデンティティ、(8) 宗教と医療、(9) 多文化社会とエスニシティ・適応をめぐる医

療人類学的問題、(10) 芸術と文化。

参考文献等は講義時にも指示するが、三田哲学雑誌『別冊・文献案内』2007年版に、旧コース名「人間科学諸領域D」を詳しく掲載してあるので参照してほしい。また、面接調査法に関しても、同書の人間科学専攻の欄に、文献もふくめて解説したので参照してほしい。学期なかばに一回もちかえりの宿題提出の課題(レポート用紙数枚程度:HP)にも掲示予定、基本用語理解度を問う小テストなどがあり、その意味で100人以上の履修者がいる講義とはいえ結果的に平常点が重視される性格の科目である。講義のほか、番外の補講として、土曜日等の時間帯に、「映像をとしてみる文化の分析」と題して、稀少な価値をもつ映画鑑賞の教養講座機会を二回程度もうける予定。

【07】【04】人間科学研究法(観察・実験)(4)(秋学期集中)
講師 篠田潤子

授業科目の内容:

この講義では、具体的な研究方法を学びます。キーワードをもとに先行研究を検索し、

観察・実験の計画書を練り、データ収集を行います。

テキスト:

授業中に適宜紹介します

参考書:

三井宏隆 1992 「データのとり方・まとめ方」垣内出版

【07】【04】人間科学研究法(測定と記述)(4)(春学期集中)
准教授 小林ポオル

授業科目の内容:

意識調査など質問紙による調査を行うことは多い。しかし、これにより得られたデータを解析し、その内容を的確に把握する、ということには必ずしも容易ではない。本講義では、秋学期に開講する「人間科学研究法(データ解析)」とあわせ、調査結果の解析を行うために必要な基本概念を解説する。また、実際にそれらの基本概念を用いた解析を演習することにより、卒論等の研究上実施した調査を解析する技術を履修者が習得することを目的とする。

質問紙により得られたデータは、便宜的に数値として表現されることが多い。しかし、これらの数値の使い方は名目的であり、一般的な意味での尺度を構成しない。つまり、通常行われている統計的手法の適用はかなり制約を受ける。しかし、最終的には、それらカテゴリカルなデータから意味のある数量を構成し、項目間の関係を把握することが目的になる。

本講義では、ふたつの項目間の関係につき、その関係の記述・関係の強さの表現の方法を検討する。また、これらの方法を多くの項目間の関係にまで一般化するための基礎概念についても学習する。

【07】【04】人間科学研究法(データ解析)(4)(秋学期集中)
准教授 小林ポオル

授業科目の内容:

春学期講義「人間科学研究法(測定と記述)」で得られた知識から出発し、多くの項目から成る調査データの全体像を明らかにすることを目的とする。これを達成するために、単項目の分析・2項目間の関係の分析を繰り返し行うのは現実的ではない。解析作業が膨大になり、複雑な関係を見誤って間違った解析になる危険がある。このため、解析手段を拡張し、多くの項目から成るデータを一括して視覚的に表現し、全体的構造の把握を容易にする方策を考える。

【07】【04】人間科学研究法(調査)(4)(春学期集中)
調査・データ収集・データ解析、研究方法・研究戦略。
教授 南隆男

授業科目の内容:

まず、「研究」とは何か?について「確認」の作業をします。
つぎに、「研究方法」とは何か?について、在り得る「方法」

を相互に比較をしながら「理解」する試みを実行します。

既存の調査研究(の報告書や論文)を数多く読んで、考えていく作業を実行していきます。

テキスト:

最初の授業時に案内します。

参考書:

授業の進展に応じて、随時に紹介します。

【07】【04】人間科学研究法(調査)(4)(秋学期集中)
質問票による調査、その計画・実行・分析、そして報告。
教授 南隆男

授業科目の内容:

秋学期の「調査」では、質問票を援用しての調査研究を計画し、実行します。

「研究の戦略」および「資料の分析」について実践的に学習します。

テキスト:

最初の授業時に案内します。

参考書:

授業の進展に応じて随時に紹介します。

【07】人間科学研究法(計量と解析)(セ)(2)(春学期)
【07】人間科学研究法(計量と解析)(セ)(2)(秋学期)
【04】人間科学研究法(計量と解析)(4)(通年)

准教授 織田輝哉

授業科目の内容:

この授業では、主として社会学的研究で必要となる社会調査の実施方法・統計分析の技法を身につけることを目標とする。具体的な内容は次のようなものを予定している。

- ・表計算ソフトの使い方
- ・社会調査の基礎
- ・統計処理の基礎
- ・データ処理とプレゼンテーション
- ・簡単なシミュレーション

なお、授業の性格上出席は必須であり、また人数も制限する場合がある。詳しくは初回の授業で説明する

テキスト:

- ・西平重喜『統計調査法』培風館
- ・馬場浩也『SPSSで学ぶ統計分析入門』東洋経済新報社

【07】人間科学演習(原書講読)(セ)(1)(春学期)
【07】人間科学演習(原書講読)(セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学演習(原書講読)(2)(通年)

准教授 北中淳子

授業科目の内容:

この授業では、主として医療人類学・文化人類学の英語文献を用いて、社会科学論文の読み方を学んでいく。科学論文の基本的な構成を理解することで、英語論文を効率よく読むための読解法を身につけることを目標とする。

テキスト:

最初の授業時に案内・説明する。

【07】人間科学演習(事例研究)(セ)(1)(春学期)
【07】人間科学演習(事例研究)(セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学演習(事例研究)(2)(通年)

教授 三井宏隆

授業科目の内容:

人間科学研究会(三井担当)の履修者を対象とした授業である。社会心理学の主要な研究を事例として取りあげ、社会心理学の物の見方・考え方を習得する。

テキスト：

- ・「キーワード検索による心理学研究案内」(三井・中島編, ナカニシヤ出版, 2001年, 1800円)
- ・「キーワード検索による社会心理学研究案内」(三井・中島編, ナカニシヤ出版, 2002年, 1700円)

【07】人間科学演習 (洋書講読)(セ)(1)(春学期)

【07】人間科学演習 (洋書講読)(セ)(1)(秋学期)

【04】人間科学演習(洋書講読)(2)(通年)

教授 宮坂敬造

授業科目の内容：

人間もつ認知・感情, 表現行動, 言説を文化社会要因から研究する分野(文化・心理人類学を中心とする文化研究地平にたつ人間科学)に関わる洋書講読。あつかう内容は, 人間科学専攻の科目では2年生の必修科目のほか, 人間科学特殊(比較文化関係論), 人間科学特殊(開発と文化)に直接関係し, また, アメリカの多民族社会と文化, 文化と技術, 開発と文化, 精神分析, 臨床心理学, コミュニティ心理学, 都市と景観などを扱う人間科学特殊諸科目に関連する。教材とする洋書は, 文化心理人類学の標準的な教科書の一部, 文化と感情の関連を研究する研究書の一部の章, 文化人類学・比較文化心理学・医療人類学・文化精神医学関係の学会誌掲載論文の一部, カルチュラル・スタディーズや文化社会的パラダイム批判関係論文の一部から選択。それらの論文を参加者全員で講読するやりかたが主。春学期で基礎力をつけ, 秋学期では, 専門研究の論文にもつたなれていく方向に誘導し, 学部生レベルの範囲内ではあるが, 専門用語理解をふくむ学術研究英語論文の読解訓練がねらい。具体的教材等は, 初回のガイダンスで説明する。単位取得のためには, 討論など普通以上の参加度が要求される科目。

【07】人間科学演習(文献講読)(2)(春学期集中)

【04】人間科学演習(文献講読)(2)(春学期集中)

講師 篠田潤子

授業科目の内容：

社会心理学においては, 身の回りの出来事, 経験したすべてが研究の対象になり得ます。しかし, 単なる思い付きを「研究」にするためには, まず先行研究に目を通すことが求められます。

この講義では, 「同じ事象を, どのような切り口で研究に結びつけていくことができるのか」を主眼に, 複数の文献を講読します。

テキスト：

三井宏隆・篠田潤子 2007 「人間科学セミナー」ナカニシヤ出版

【07】【04】人間科学特殊(比較文化関係論)(2)(春学期)

教授 宮坂敬造

授業科目の内容：

グローバル時代, 文化が相互に関係交錯する事態とそれに呼応して現れた文化的価値観(象徴行動に通じる表象・言説)を社会文化象徴分析的に検討する。総論, グローバル化にともなう小規模・伝統社会の変化, 象徴的儀礼行動の変化の諸相, 民族・人種問題の再構成, メディアに媒介される文化, 多民族多文化社会, ディアスポラ移民のアイデンティティ, シャーマン医療の変化, 文化結合症候群再検討, 多元的医療文化, 戦争と人間の非合理性, 映像人類学の諸問題などの話題を扱い, まとめと展望を検討する。分野としては, 象徴文化(心理・認知)人類学, 文化心理学を基底にし, トランスナショナル人類学の最新動向検討をまじえて一部医療人類学の話題を加えるという授業計画にそって展開。人間諸科学が扱う現代的諸問題を文化の次元に焦点をあわせて検討していく科目で, 人間科学諸領域の科目を基礎とした次の段階の科目。2年生対象の前で扱った話題をさらに詳しく検討していくというやりかたをとる。

参考書：

三田哲学別冊『文献案内』人間科学諸領域(D)の項目別参考書を参照。また, 適宜, 講義時に指示。

【07】【04】人間科学特殊(精神病理学)(2)(秋学期)

精神医学の基礎

講師 古茶大樹

授業科目の内容：

精神病理学・精神症候学を中心に, 精神医学の基礎について学びます。

テキスト：

特に指定しません。講義プリントを配布します。

参考書：

濱田秀伯著「精神症候学」弘文堂 ¥8,000-

【07】【04】人間科学特殊(精神分析学)(2)(秋学期)

「僕たちは僕たち自身を知らない」ことを知る

医学部 専任講師 白波瀬 丈一郎

授業科目の内容：

精神分析学では, 私たちの思考や行動は, それは私たち自身のことでありながら, 自分でもよく判らない「無意識」というところの領域から多大な影響を受けていると考えます。日々の生活において, 実は私たちは自分でもよく判らないままに, 考えそして行動しているというわけです。

こうした考え方は, おそらくみなさんの感覚には馴染まないものだと思います。今回の講義では, 精神分析学の基本的概念を説明しながら, このユニークな考え方やその有用性について実感し, 馴染みをもってもらうことを目的としています。

テキスト：

講義資料プリントは web サイトからダウンロードできるようにする予定です

参考書：

- ・フロイト著作集, 人文書院
- ・精神分析セミナー, 岩崎学術出版社

【07】【04】人間科学特殊(社会システム論)(2)(春学期)

相互連関のシステムとしての社会

講師 杉野 勇

授業科目の内容：

行為・予期・規範・制度などの相互連関を重視しつつ, 様々な社会学的テーマをオムニバス形式で学習し, 社会学の基本的な考え方を習得する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業中適宜紹介する。

【07】【04】人間科学特殊(芸術と人間)(2)(春学期)

世界史から見た喫茶芸術

講師 田中秀隆

授業科目の内容：

本年度は, 日本だけが喫茶行為を芸術と位置づけているのは何かを, 中国, イギリスの喫茶習慣の形成と比較し, かつ, 戦間期における茶道文化評価に働いた力は何かと問いかけることで理解出来るようにします。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

- ・田中秀隆 『近代茶道の歴史社会学』思文閣出版。
- ・中村修也監修『よくわかる伝統文化の歴史 ~』淡交社
- ・ハリー・ハルトゥーニアン『近代による超克 上・下』岩波書店

【07】【04】人間科学特殊(スポーツ社会心理学)(2)(春学期)
講師 篠田 潤子

授業科目の内容:

スポーツを研究する学問領域は広範囲に及びます。この講義は、「スポーツ社会心理学」の立場から、スポーツを通して現代社会の有り様を考察することを目的としています。

テキスト:

三井宏隆・篠田潤子「スポーツ・テレビ・ファンの心理学」ナカニシヤ出版

参考書:

最初の授業で紹介します。

【07】【04】人間科学特殊(スポーツメディア論)(2)(秋学期)
講師 篠田 潤子

授業科目の内容:

スポーツ産業はマスメディアとの二人三脚で発展しました。本講義では、メディアにより発展したスポーツ“メディアスポーツ”の現場で働く人々の言説をもとに、フィールドにおける事象を多角的な視点でとらえ、理解を深めることを目的とします。実際にマスメディアの現場や、スポーツビジネスの現場で活躍されている方の話を直接伺う機会も設けます。

スポーツ普及に寄与したメディアの有用性、スポーツファンの視聴態度、報道にみられる人種問題、ジェンダー問題を取り上げる「スポーツ社会心理学(春学期)」を受講された上で本講義を受けることが望まれます。

テキスト:

篠田潤子「スポーツとメディア」ブレイン出版

参考書:

授業中に適宜紹介します。

【07】【04】人間科学特殊(意思決定論)(2)(秋学期)

休講

【07】【04】人間科学特殊(現代日本人のライフスタイル Ⅱ)(春学期)
講師 林 光

授業科目の内容:

企業が生活者とコミュニケーションを図ろうとするとき、生活者の価値観やライフスタイルなどを把握していれば有効なコミュニケーションを果たすことが出来る。広告コミュニケーションも、いまや一方的な情報発信ではこと足らず、マルチな手段と多角的な内容が求められている。生活研究者を20年続けてきた立場から、生活者把握の多様な方法とその分析手段から表現方法まで、具体的な例を交えながら考察していきたい。

テキスト:

特になし

参考書:

特になし

【07】【04】人間科学特殊(現代日本人のライフスタイル Ⅱ)(秋学期)
ライフスタイルの多様化

講師 本庄 美佳

授業科目の内容:

本講義では、女性の社会進出によるライフスタイルの変容と、若い世代のライフスタイルの動向に焦点を当てて、ライフスタイルの多様化について考えます。就職・結婚・出産・育児など若い世代のライフスタイルに大きな影響を与えるトピックについて、子どもを育てつつ、両立支援関連の業務もしている自分自身の経験も生かし、さまざまな素材を提供していきたいと思ひます。また、そういうラ

イフスタイルの多様化がもたらす、社会全体の変化の潮流も一緒に考えたいと思ひます。

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書:

特に指定しません。講義の際に随時紹介します。

【07】【04】人間科学特殊(都市生活と景観)(2)(春学期)
自然・人間・都市(人間と自然との相互作用としての景観について)
講師 高山 啓子

授業科目の内容:

「都市の時代」といわれる現代において「景観」は大変重要な課題となっているが、人間にとって景観は、文明の発展、社会の形成などの面で、大変重要な意味を持っていた。

景観建築(Landscape Architecture)、景観計画(Landscape Planning)、景観工学(Landscape Engineering)など景観にかかわる学問は、自然科学、社会・人文科学、芸術、工学などさまざまな分野と関連した「境界領域」(interdisciplinary field)の学問であり、総合的あるいは包括的な(holistic)分野として注目されている。現代の世界は、高度な文明の発達段階にあるものの、私たちの住む都市の環境に目をやると、このような文明が私たちの幸福や福祉の増進にかならずしも貢献しているとは限らないということに気づく。「景観とは何か」、「人間はどのようにして景観を造ってきたか」、「未来の景観づくりはどうあるべきか」について人間と環境との相互作用としての景観という視点から、欧米などの都市景観の変遷、東京都内のフィールドスタディなどを行いながら都市の環境・景観について実践的に学び、考えていく。

テキスト:

アーバンエコシステム(自然と共生する都市): A. スパーン著、高山啓子訳、(環境コミュニケーションズ刊 4,300円)

参考書:

- ・ヒューマニティ&エンヴァイロメント: I. G. シモンズ著、高山啓子監訳、信山者サイテック刊。
- ・I. マックハーグ著、下川辺淳監訳、デザインウィズネイチャー。
- ・I. マックハーグ: 共生への哲学、緑の読本 Vol. 56 環境コミュニケーションズ刊。他(授業の進行に合わせて紹介)

【07】【04】人間科学特殊(都市生活と景観)(2)(秋学期)

21世紀の景観創造と新たなライフスタイルの構築

自然との共生、快適性、歴史性・文化性に配慮した都市環境の創造

講師 高山 啓子

授業科目の内容:

現在の都市景観は、さまざまな気候風土を舞台とした人間と自然との相互作用の結果であるが、文明のパラダイムが大きく変化する中、都市景観形成の思想、目標の見直しが迫られている。このような状況下での都市環境ならびに景観形成のあり方について、水と緑など都市の自然環境、市街地、郊外、近郊の田園及び自然地域の景観の保全と形成など、具体的な事例を取り上げながら、時間・空間など様々な角度から考えていく。さらに、これとともに社会・文化的環境と景観、安全性・健康性・快適性と景観などについて、新しい都市づくりの視点を取り上げて検討する。テーマ: 「都市の森と広場」「市街地」「郊外」「都市近郊林」など。2回程度のフィールドスタディ(大名庭園、都市再開発など)を実施する予定。後半4回は、ゼミ形式で。

テキスト:

ヒューマニティ&エンヴァイロメント: I. G. シモンズ著、高山啓子監訳環境コミュニケーションズ刊

参考書:

社会文化史に見る都市の自然と公園緑地(連載)「緑の読本」: 高山啓子著、環境コミュニケーションズ刊 Vol 49, 51, 52, 53, 55, 57, 58, 60, 61。アーバンエコシステム(自然と共生する都市): A. スパーン著、高山啓子訳、環境コミュニケーションズ刊。The Language of Landscape: A. W. Spirn 著、イェール大学出版会ほか

【07】【04】人間科学特殊(ライフスパン発達論/青年期)Ⅳ(春学期集中)

講師 須田 誠
教授 南 隆 男

授業科目の内容:

まず、「注意」を この授業は、「春学期(青年期)と秋学期(成人期)とを併せて履修する」ことが原則です。春学期だけ...というのはありません。ましてや、秋学期だけ...ということはあり(え)ません。了解されましたか? われわれ「人間」が生まれてから死ぬまでの発達の「過程」がどのようになっているか、について検討・吟味してゆきます。そうは言っても、乳幼児や学童期にある人間の発達や問題にはほとんど触れません。かわって、思春期や青年期以降(春学期)の、そして成人期以降(秋学期)のその「発達」と、その「発達環境」に、「アツク」視線を向けていきます。授業は、「アクティブ・ラーニング」履修される各人がアクティブに参加して、事例(ケース)を分析したり、グループ・ワークを行ったり、ゲスト・スピーカーの話を聞き質問したり、しての「場」となります。講義を「パッセイブ」なかたちで聴いて、そして、覚えたことを教師が「チェック」する、といった(かたちの通常の)授業ではありません。「(自分を含めて)人間に関心が強く興味つきない」、出来たら、そういうアレコレを小説や芝居や映画につくってみたい」との傾きが在る、そういうひとにはオモシロイ授業でしょう。

テキスト:

最初の授業時に案内・説明します。

参考書:

授業の進展に応じて、随時に紹介します。

【07】【04】人間科学特殊(ライフスパン発達論/成人期)Ⅳ(秋学期集中)

講師 須田 誠
教授 南 隆 男

授業科目の内容:

秋学期の「ライフスパン発達論(成人期)」は、春学期でのアクティブ・ラーニングをさらに濃密に実行・進展させ、成人期発達における諸問題を深く考察していくということですが、その内容やテーマがどのようなもの、どのようなこととなるか、は、いま現在(これを記している2007年12月の時点では)未決定です。

参画されている学生諸君の興味のある現象・事象へと視線をさらに「アツク」してゆくか、あるいは、より現代的なトピック(ス)をとりあげて集中的に討議してゆくか、いずれにしる秋学期の授業展開はそのようになります。なっていくはずです。

最終的には、各人が、一年間のアクティブ・ラーニング(の内容)を評価・点検し、「レポート」のかたちで総括をします。

テキスト:

春学期の最終授業において指定・案内します。

参考書:

授業の進展に応じて、その都度、随時に紹介します。

【07】【04】人間科学特殊(組織行動論)(4)(春学期集中)

休講

【07】【04】人間科学特殊(組織行動論)(4)(秋学期集中)

休講

【07】【04】人間科学特殊(開発と文化)(2)(春学期)

開発と文化の人類学:その理論と実践

講師 関谷 雄一

授業科目の内容:

主として発展途上国の、人類学のフィールドに見出される、開発と文化を巡る諸問題を取り上げる。そのアプローチは、人類学の文化相対主義的立場を中心として、理論と実践の双方から検討してみる。参加学生の意欲と能力により、発表や討論方式も取り入れる予定。学生の積極的参加を期待している。

テキスト:

適宜プリントを配布する。

参考書:

Marc Edelman & Angelique Haugerud eds. The Anthropology of Development and Globalization Blackwell [2005]

【07】【04】人間科学特殊(文化と技術)(2)(秋学期)

コミュニケーション技術と社会文化

講師 木村 忠正

授業科目の内容:

1990年代以降、情報メディアネットワーク技術の革新が現代社会に大きな変革をもたらしてきた。では、それはどのようなベクトルをもち、今後どのような方向に進もうとしているのか?本授業は、こうした問いに対して、人類社会におけるコミュニケーション技術と社会・文化との関係という文化人類学的観点からアプローチする。

人類の最も大きな生物学的特徴の一つは、シンボル操作能力とシンボルを介したコミュニケーションにある。さらに、人間社会にとって重要な役割を果たしてきたのは、シンボルを媒介するメディアの発明、開発とメディアコミュニケーションである。音声言語、図像表現、文字言語、印刷術などのメディアコミュニケーション技術は、人間社会に革命的变化をもたらした。そしてここ百数十年の間に、電話、映画(動画記憶・再生)、蓄音機、ラジオ、テレビと様々な電子的メディアが生み出され、1990年代から、デジタル、モバイル、ネットワーク技術における相乗的な技術革新を中核とし、インターネット、移動体通信メディアが爆発的に普及した。そこで本授業は、音声言語と文字言語、印刷術、電子メディア、デジタルネットワークといった情報メディアコミュニケーション技術と社会・文化との関係を探究しながら、現代社会を情報メディア社会として捉えることの意味について考える。

テキスト:

適宜プリントを配布する予定。

参考書:

・木村忠正(2000)『デジタルデバイドとは何か』(岩波書店)
・木村忠正(2004)『ネットワークリアリティ』(岩波書店)

【07】【04】人間科学特殊(インタフェース論)(2)(秋学期)

准教授 小林 ポオル

授業科目の内容:

本講義では、われわれが外界の事物・システムに対して持っている環境イメージと、人間環境の相互作用の場であるインタフェースとを分析対象として考察を進める。

情報機器がブラックボックス化・高機能化するに伴い、機器が情報を一方的に送って使用者の論理的理解により作業達成を促進し、使用者は形式化された記号操作の系列で意志を効率的に転送するというインタフェースデザインは行詰まり、使用者の作業意欲を低下させている。機器の操作を、わけのわかった動きだけで構成すると、明確な目的が定まっている場合にはそれに効率的に近づける。しかし、「わけがわかる」ことは言語ないし言語代替の抽象記号の系列で表現できることだから、これを志向するインタフェースは正しい操作と間違いの対比が明確で、無駄のない整合的な論理応答が可能だが、遊びがなく、面白くない。操作を他の状況と結び付けて有機的関係を作る契機がなく、使用者はイメージの広げようがないので、機

器操作は単なる義務的手続きになってしまう。これは安直であるが無味乾燥な環境の出来をもたらしめている。

また制御の自動化によりさまざまな作業から不安・危険を取り除けば、日常生活の面白さも同時に消滅する。これは同時に、記号的に整除されない実環境の先の見えないことに対抗してリアルタイムに何とかする訓練の機会の消失でもある。機器操作とは本来人間が環境に働きかけ、その結果に応じてその場でさらにやり方を考えるという相互作用それ自体の心地よさ・面白さに基盤を置くものではなく、その本来の多様性を尊重し、実環境の両義性に積極的に対処するリアルタイムの相互作用をインタフェースデザインにどう結実させるかを考察しながら、履修者が『快適な』『豊かな』環境を考えることの広がりを実感し、さらに現代環境に対する自らの問題意識を明確化することを本講義の目的とする。

【07】人間科学特殊 (現代家族論)(セ)(2)(春学期)

【07】人間科学特殊 (現代家族論)(セ)(2)(秋学期)

【04】人間科学特殊(現代家族論)(4)(通年)

[春]何が育児を支えるのか?

[秋]ジェンダー論の視点から

[春]講師 松田茂樹

[秋]講師 大貫拳学

【春学期】

授業科目の内容:

家族の主要な営みのひとつが子育てであるが、現代の子育ては少子化、共働化、格差社会、男女の役割分担の変容等、家族をとりまくさまざまな社会現象の交差点である。逆にいえば、子育ての現状とその背景をみていくと、現代社会がそして家族が抱えている問題を深く知ることができる。本講義では、実証研究の結果をもとに、現代の子育ての問題を通して、社会の問題をみていく。

テキスト:

松田茂樹, 2008, 『何が育児を支えるのか? 中庸なネットワークの強さ』勁草書房

【秋学期】

授業科目の内容:

私たちの多くが「家族」と呼んでいるものは、時代や地域を超えて普遍的に存在するものではない。「家族」と名づけられる集団や生活の形態は、歴史・文化・政治・経済等の社会的文脈に規定される。家族社会学は、近代に生きる私たちが自明視している「家族」のあり方を、「近代家族」と呼び、その歴史的相対化を行ってきた。またフェミニズムなどの思想/運動は、近代家族内部における女性への抑圧や、近代家族を前提とした社会のあり方のさまざまな問題点を批判する。

本講義では、現在私たちが「家族」と呼んでいるものがどのように成立してきたのか、また、いかなる変容の過程にあるのかを考えたい。その際、とくに「ジェンダー」の視点を重視する。

テキスト:

特定のテキストは使用しない。

参考書:

参考文献等は適宜紹介するが、さしあたり以下をあげておく。

- ・落合恵美子, 2004, 『21世紀家族へ(第3版)』有斐閣。
- ・加藤秀一・石田仁・海老原暁子, 2005, 『図解雑学 ジェンダー』ナツメ社。

【07】人間科学特殊 (パーソナリティ研究)(セ)(2)(春学期)

【07】人間科学特殊 (パーソナリティ研究)(セ)(2)(秋学期)

【04】人間科学特殊(パーソナリティ研究)(4)(通年)

パーソナリティ心理学の理論と方法

講師 岩熊史朗

授業科目の内容:

われわれは、家族や知人のそれぞれを他の誰とも違う唯一無二の個人として認知し、それぞれの“人となり”を多少なりとも理解した上で生活をともにしています。このような個人の「人となり」「個性」「性格」などは、心理学において「パーソナリティ」という概念のもとに研究されてきました。この講義では、パーソナリティに関する主要な理論、研究方法、診断・評価技法を概観し、パーソナリティを把握するための視点についての理解を深めます。また、「人間が人間を理解する」ということの意味についても、社会心理学的な視点あるいは認識論的な視点から言及していく予定です。

テキスト:

指定しません。適宜ハンドアウトを配布します。

参考書:

- ・本明寛(編)「性格心理学新講座1性格の理論」(金子書房, 1989年)
- ・杉山憲司・堀毛一也(編集)「性格研究の技法」(福村出版, 1999年)
- ・クラウエ, B.(堀毛一也編訳)「社会的状況とパーソナリティ」(北大路書房, 1996年)
- ・ミッシェル, W.(詫摩武俊監訳)「パーソナリティの理論 状況主義的アプローチ」(誠信書房, 1992年)
- ・バー, V.(田中一彦訳)「社会的構築主義への招待 言説分析とは何か」(川島書店, 1997年)

【07】人間科学特殊 (臨床心理学)(セ)(2)(春学期)

【07】人間科学特殊 (臨床心理学)(セ)(2)(秋学期)

【04】人間科学特殊(臨床心理学)(4)(通年)

個人援助と家族援助の視点から 講師 若島孔文

授業科目の内容:

臨床心理学の中でもとりわけ心理援助と問題解消のためのアプローチについて論じる。具体的に事例を提示し、心理援助とは何であるのかを学んでいただく。心理援助の視点から人間について学び、また、他の学問領域のパラダイム(例えば社会学・言語学など)から臨床心理学的援助について解説を加える。

テキスト:

若島孔文 2006 「社会構成主義のプラグマティズム」(金子書房)

【07】人間科学特殊 (コミュニティ心理学)(セ)(2)(春学期)

【07】人間科学特殊 (コミュニティ心理学)(セ)(2)(秋学期)

【04】人間科学特殊(コミュニティ心理学)(4)(通年)

講師 久田 満

授業科目の内容:

コミュニティ心理学は、伝統的臨床心理学に対するアンチテーゼとして誕生した。わが国では臨床心理学の下位分野として位置づけられてはいるが、近年欧米では、独立した1分野として、産業・組織心理学、公衆衛生学、精神腫瘍学、医療人類学等との連携を深めながら、その地位を確立しつつある。この授業では、「一つの見方」としてのコミュニティ・アプローチの実践例をできるだけ多く紹介し、このアプローチのわが国における応用可能性について論議したい。取り上げる例は、スクールカウンセリング、企業の風土改革、ドメスティック・バイオレンス、ホスピス病棟での終末期医療、中高年の自殺などである。

テキスト:

植村勝彦ほか編「よくわかるコミュニティ心理学」ミネルヴァ書房

参考書:

授業中に適宜、紹介する。

- 【07】人間科学特殊 (米国の多民族社会と文化)セⅡⅠ(春学期)
【07】人間科学特殊 (米国の多民族社会と文化)セⅡⅡ(秋学期)
【04】人間科学特殊(米国の多民族社会と文化)(4)(通年)
米国におけるアフリカ系およびカリブ系アメリカ人の
表現文化にみる多文化的状況 講師 三吉 美 加

授業科目の内容:

米国において「黒人」とされる人びとを対象に、彼/女らの表現文化にみる社会的文化的多様性を理解しながら、エスニシティや人種に関する問題を考察していきます。

テキスト:

資料プリントを配布します。

- 【07】人間科学研究会 (セ)(1)(春学期)
【07】人間科学研究会 (セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学研究会 (2)(通年)

休講

- 【07】人間科学研究会 (セ)(1)(春学期)
【07】人間科学研究会 (セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学研究会 (2)(通年)教授 渡 辺 秀 樹

授業科目の内容:

家族社会学・教育社会学の文献を中心に購読する。参加者はサブゼミで基礎文献を購読し、学習した上で、研究会では、関心、テーマに基づく文献を取りあげる。

- 【07】人間科学研究会 (セ)(1)(春学期)
【07】人間科学研究会 (セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学研究会 (2)(通年)教授 三 井 宏 隆

授業科目の内容:

卒論作成に向けて、社会心理学を中心とした研究の仕方を学ぶ。

テキスト:

「人間科学セミナー」(三井著,ナカニシヤ出版,2007年,2000円)

- 【07】人間科学研究会 (セ)(1)(春学期)
【07】人間科学研究会 (セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学研究会 (2)(通年)教授 南 隆 男

授業科目の内容:

わたくしの担当するこの「研究会」は、旧来の「学問の区分け」上の用語に照らせば、広くは「行動科学」と呼ばれていた領域、より限定的には「社会行動論」「組織行動論」「ライフコース論/生涯キャリア発達論」(その「中核的」イシューのひとつでもある「セックス・セクシュアリティ」をも含みます)と呼ばれる研究領域をカバーするべく「位置付けられて」います。ですが、そのなかで、どのような事象・問題を具体的にとりあげるかは、履修する学生諸君の意向・興味・関心との関係もあり、「これを」というふうには、現時点(2007年12月時点)では、決めていません。「決めている」のは、『研究会』を、教師のわたくしを含めて、「われ疑う、ゆえに、われ在り」の『時空間』へと近づけて行こう!ということ。

蛇足ですが: よっぽど気をつけないと(教師はもちろんだが学生の諸君も気張らないと)「研究会」(“ゼミ”)って呼ばれる授業は「アタマもダレて来てカラダもナエてくるだけの“ナレアイ”時空間」に成りがちだ。ゆえに、共に頑張りヤルコトをやり抜きましょう!いつもの通り、一年間の「研究会」活動を通して、三年生は「自己の研究課題」を明確にしてゆくことに、四年生は「卒業論文」を完成させることに、努力を傾注・集中させていきます。

- 【07】人間科学研究会 (セ)(1)(春学期)
【07】人間科学研究会 (セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学研究会 (2)(通年)
メディア・コミュニケーション研究所 教授 萩 原 滋

授業科目の内容:

本研究会では、2年間の研究活動を通じて各自が選んだテーマの理解を深め、その成果を卒業論文に結実させることを目的としている。春学期に社会心理学のテキストを講読して基礎的な知識を習得した後、秋学期には各自が関心のあるテーマを選んで、関連する文献を選んで発表を繰り返し、それに関する議論を通じて卒業論文の準備を進める。

テキスト:

社会心理学のテキストを指定する

参考書:

研究法に関する文献を指定する

- 【07】人間科学研究会 (セ)(1)(春学期)
【07】人間科学研究会 (セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学研究会 (2)(通年)

休講

- 【07】人間科学研究会 (セ)(1)(春学期)
【07】人間科学研究会 (セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学研究会 (2)(通年)教授 宮 坂 敬 造

授業科目の内容:

人間科学としての比較文化研究(文化人類学・心理人類学・記号論・医療人類学・20世紀末のパラダイムのゆらぎを念頭に置きながら)に関係した諸問題を扱い、ゼミ討論し、問題の見つけ方、発想の立て方、記号・分析総合の方法の一部を相互に訓練する。ある文化における小規模集団の象徴行動やそれが表象されたものをどう観察収集するのか、それに基づいてその文化的価値観、心情、アイデンティティを社会関係と関連させながらどう理解していくか、人々の言行を観察すると言ったが、それは「観察者」と「観察される人々」の間に進んでいく関係性に条件づけられるのではないか(更にいえば、社会経済的關係にも影響されながら前者後者の文化同士を背負った間文化的關係の場の中で互いに接触している そのことを考えねばならぬのでは?)。このような問題意識を中心にもち、また構造論・現象学的視点・全体システム論の立場をからませた視点と、相互作用分析(象徴的コミュニケーション分析)、文化テキスト・ディスコース内容分析の方法意識を背景に置く。具体的には、比較文化に関連するサブテーマ(他者のイメージ・異文化理解・文化とアイデンティティ・文化と認知・感情・危機と通過儀礼・危機における象徴的行動・文化摩擦・文化と精神病理・身振りや空間の象徴的意味・芸能・絵画・舞踏と文化・サブカルチャー・大衆文化・小規模社会・ポスト現代の多民族複合社会・医療人類学など)等の問題領域の一部を取り上げてゆく。参考書はその都度指示。

- 【07】人間科学研究会 (セ)(1)(春学期)
【07】人間科学研究会 (セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学研究会 (2)(通年)准教授 織 田 輝 哉

授業科目の内容:

この研究会では、社会学的な視点から、人間にかかわる様々な事象を分析的・科学的にとらえていく方法を身につけていくことを、ゆるやかな目標として設定しておきたいと思う。

研究会では、社会学における合理的選択アプローチの基礎と応用について、相互的行為理論・ゲーム理論・社会的ジレンマ研究・ミクロ・マクロ問題・秩序問題等の課題を取り上げながら学習していく。

研究会では、各自の卒業論文に向けての研究を、発表し、議論をする。

また、社会学の基礎的な文献について、定期的な読書課題を与える。

【07】人間科学研究会 (セ)(1)(春学期)
【07】人間科学研究会 (セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学研究会 (2)(通年) 准教授 北 中 淳 子

授業科目の内容：

この研究会では、現代社会における健康と病(特に「こころの病」)に関連した事象を、医療人類学的視点から分析していく。前半では医療人類学の基本的な文献を取り上げ、その報告と討論を中心に行う。後半では、各自が選んだテーマについて文献・フィールド調査を行い、発表・討論を重ねていきたい。

テキスト：

授業で指示する

【07】人間科学研究会 (セ)(1)(春学期)
【07】人間科学研究会 (セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学研究会 (2)(通年) 准教授 小 林 ポオル

授業科目の内容：

我々を取りまく様々な事物はその表面的な現れ・機能とは別の働きかけを人間に対して行っている。もちろんそれらの事物 現代の環境 を作ってきたのは人間の側であるが、当初想定された機能と環境に組み込まれた現実のそれとは往々にして一致していない。現実には、ほとんどの環境は結果として形成されたものであって、比較的小さな個別的な変化が集積されることにより全く異質の機能を獲得したものである。

このような環境は単に科学技術のみの力によって形成されて来たわけではない。むしろ現代に至る科学技術の発展の原動力となったものが、この環境の変化をも支えてきたと考えるのが妥当であろう。そこでこれがどのような機制によって変遷を遂げて来たのか、またこの過程でおこった人間の側の反発・抵抗がどのような形で現れたかということを探ることからこの原動力と科学技術・現代の環境の間の関係を認識し、その上で我々にとっての人間的な環境を追求することを課題とする。

【07】人間科学研究会 (セ)(1)(春学期)
【07】人間科学研究会 (セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学研究会 (2)(通年) 教 授 南 隆 男

授業科目の内容：

人間科学研究会 (南)と、基本的には同じ、です。

この「研究会」のほうは、四年生用 「卒業論文」完成への対応・指導 ということですが、三年生諸君も同席し、「つき合います」。

【07】人間科学研究会 (セ)(1)(春学期)
【07】人間科学研究会 (セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学研究会 (2)(通年) 准教授 小 林 ポオル

授業科目の内容：

現代環境変化を総合的に理解するにあたって、その根底の原動力である我々の言語認識、およびそれを推し進める力について考察を進める。そのうえで、履修者各自が問題認識を深化させ、卒論を完成させるための支援を行う。

【07】人間科学研究会 (セ)(1)(春学期)
【07】人間科学研究会 (セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学研究会 (2)(通年) 教 授 渡 辺 秀 樹

授業科目の内容：

4年生の卒業論文作成指導を中心に行う。s

【07】人間科学研究会 (セ)(1)(春学期)
【07】人間科学研究会 (セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学研究会 (2)(通年)
身体文化論 理工学部 教授 石 井 達 朗

授業科目の内容：

1) セクシュアリティ 2) 身体 3) パフォーマンスという大枠のテーマから、ゼミ参加者は自分が関心のある具体的な研究テーマを設定し、探求する。ゼミは発表と討論により進行する。ゼミは互いの研究テーマを交換し、自由に意見を言いあう生き生きとして場でありたい。研究テーマの例として、以下のようなものが考えられる。

- 1) セクシュアリティ：トランスジェンダーの文化、ゲイ・レズビアンズム
- 2) 身体：刺青、身体変工、化粧、ファッション、去勢、フェミニズムと身体論
- 3) パフォーマンス：舞踊論、演技論、非言語コミュニケーション、パフォーマンスアート

テキスト：

共通のテキストはない。各人が自分の研究にとって良いテキスト、役に立つ情報、適切な方法論とは何かを探求するために、時間を費やしてほしい。

参考書：

- ・石井達朗『異装のセクシュアリティ』『サーカスのフィルモロジー』(以上、新宿書房)
- ・石井達朗『アウラを放つ間』(パルコ出版)
- ・石井達朗『男装論』『アジア、旅と身体のコスモス』『ポリセクシュアル・ラブ』『アクロバットとダンス』(以上、青弓社)
- ・ラリィ・マキャフリィ『アヴァン・ポップ』(筑摩書房)
- ・ジュディス・パトラー『ジェンダー・トラブル』(青土社)
- ・市川雅『行為と肉体』(田端書店)、『シリーズ 性を問う』全5巻 専修大学出版局
- ・雑誌『化粧文化』

【07】人間科学研究会 (セ)(1)(春学期)
【07】人間科学研究会 (セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学研究会 (2)(通年)
メディア・コミュニケーション研究所 教授 萩 原 滋

授業科目の内容：

本研究会では、2年間の研究活動を通じて各自が選んだテーマの理解を深め、その成果を卒業論文に結実させることを目的としている。春学期には、3年生を中心に社会心理学のテキストを講読することになるが、4年生は、昨年度からの研究テーマを掘り下げて、卒業論文制作の準備を具体的に進め、適宜、進行状況を発表する。

テキスト：

社会心理学のテキストを指定する

参考書：

研究法に関する文献を指定する

【07】人間科学研究会 (セ)(1)(春学期)
【07】人間科学研究会 (セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学研究会 (2)(通年)

休講

【07】人間科学研究会 (セ)(1)(春学期)
【07】人間科学研究会 (セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学研究会 (2)(通年) 准教授 北 中 淳 子

授業科目の内容：

この研究会では、医療人類学の最先端の研究からより専門的な論文をとりあげ、その報告と討論を中心に行う。後半は、卒業論文研究の発表を中心に進める予定である。

授業の計画：

最初の授業で提示する

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

【07】人間科学研究会 (セ)(1)(春学期)
【07】人間科学研究会 (セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学研究会 (2)(通年)准教授 織田輝哉

授業科目の内容：

この研究会では、社会学的な視点から、人間にかかわる様々な事象を分析的・科学的にとらえていく方法を身につけていくことを、ゆるやかな目標として設定しておきたいと思う。

研究会では、社会学における合理的選択アプローチの基礎と応用について、相互的行為理論・ゲーム理論・社会的ジレンマ研究・ミクロ マクロ問題・秩序問題等の課題を取り上げながら学習していく。

研究会では、各自の卒業論文に向けての研究を、発表し、議論をする。

また、社会学の基礎的な文献について、定期的な読書課題を与える。

【07】人間科学研究会 (セ)(1)(春学期)
【07】人間科学研究会 (セ)(1)(秋学期)
【04】人間科学研究会 (2)(通年)教授 宮坂敬造

授業科目の内容：

人間科学研究会 (宮坂担当)と、基本的には共通の内容ですが、春学期は主として英語文献を使いながら報告・討論の訓練をおこないます。

さらに、この「研究会」は、四年生の卒論の構想、中間展開、完成にむけて、随時、発表・討論・指導もあわせておこないます。三年生は自身の三年生論文の展開・完成への参考にするため、「研究会」も同時に履修すること。

【07】【04】人間科学卒業研究(2)(秋学期)
准教授 織田輝哉
准教授 北中淳子

授業科目の内容：

この科目は、コースB「人間科学研究会の履修と卒業論文提出」を卒業要件としないコース)を選択した人間科学専攻4年生の必修科目である。

具体的な内容・評価の基準等を説明するので、第1回目の授業に必ず出席すること。また、この科目に関する掲示は必ず確認すること。

全専攻共通科目

現在、文学部は5学科17専攻を擁する。そのため、そのいずれかに所属する学生諸君はともすれば狭い専門分野にとらわれて、知識や学問に対する広い展望を見失いがちである。そうした不足を補い、学生諸君がより自由で柔軟な知的態度を身につけることができるようにと文学部が考え設置したのが全専攻共通科目である。特定の専攻分野に属さないもの、あるテーマを専攻横断的に扱うもの、諸種の語学、記念・寄附講座として設置されているものなど内容は多岐にわたるが、この多様と混沌にこそ、ある意味では文学部の真骨頂があり、さらには人間そのものの本質があると言えるのではないだろうか。学生諸君はどうかアンテナの数を増やし、感度を高めて、これらの科目の中からこれとはどのような発見や出会いや感動を拾い出していきたいと思う。

【07】【04】教育学概論(学芸員)(2)(春学期)
 学校外における教育とは何か 助教 山梨 あや

授業科目の内容：

「教育」についての基礎的な理解(教育とは何か/人間の成長と発達/教育の歴史の変遷)を踏まえた上で、博物館や美術館等における教育について考察する。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

講義中に適宜指示します。

【07】【04】生涯学習概論(2)(秋学期)
 生涯学習を拓く 講師 白石 克己

授業科目の内容：

生涯にわたる学習をライフワイド(生活)、ライフタイム(一生涯)、ライフウェイ(生き方)という三つの視点で分析できる。生涯にわたる学習機会を通学方式、遠隔方式、寄宿方式、広場方式に分け、その支援のあり方がわかる。

生涯にわたる発達を青少年期、成人期、高齢期に分け、その特徴に応じた支援のあり方がわかる。

生涯にわたって「善く生きる」ための支援のあり方がわかる

参考書：

- ・白石克己編著『生涯学習を拓く』ぎょうせい 2001
- ・白石克己著『生涯学習と通信教育』玉川大学出版部 1990
- ・白石克己編著『生涯学習論 自立と共生』実務教育出版 1997
- ・白石克己編著『ITで広がる学びの世界』ぎょうせい 2001

【07】【04】視聴覚教育メディア論(2)(秋学期)
 画像ドキュメンテーションからメディア・リテラシーまで
 講師 波多野 宏之

授業科目の内容：

本講義では、写真、ビデオ、CD-ROM等の視聴覚資料を見て感じることを重要視する。まず情報伝達手段、視聴覚資料・機材の歴史と現状を概観した後、画像の収集から利用に至る一連の過程、すなわち画像ドキュメンテーションの主要課題について検討する。第一に写真を中心とした画像資料の管理から画像データベースの構築に至る諸問題、Visual Resourcesキュレーターの任務を考える。第二に画像の記述や分類、インターネットなどによる画像へのアクセス、デジタル画像の複製・表示や知的財産権について考察する。第三に画像情報の利用を容易にする画像索引からビジュアル・カルチャーの分析に至る方法としての画像の諸問題を考え、音声情報・音声メディアについての考察、メディアの理解と活用を図るメディア・リテラシーの検討でまとめとする。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

- ・波多野宏之『画像ドキュメンテーションの世界』(第2刷)勁草書房、1995
- ・波多野宏之編著『デジタル技術とミュージアム』勉誠出版、2002
- ・松岡正剛監修『増補 情報の歴史』NTT出版、1996

【07】博物館学 (セ)(2)(春学期)
 【07】博物館学 (セ)(2)(秋学期)
 【04】博物館学(4)(通年) 講師 渡辺 妙子
 講師 坪井 則子

授業科目の内容：

博物館の基礎的理解力をつけるのがこの講座の目的です。バーチャルな世界が蔓延している現代、実物を見たり触れたりして、体験できる施設が博物館です。人類は有史以来自然から「もの」の本質を学び、人類に必要な諸々の「もの」を作ってきました。「ものづくり」は人に叡智をもたらしました。今、「ものづくり」は大きな転換期を迎えています。私たち地球人はどこへ行くのか、振り返ることにより未来が見えてくるでしょう。博物館・美術館の社会的意義を実践的立場から解き明かしていきます。

東京は国公立・私立の各種博物館・美術館が林立しています。ほぼ週一回、テーマに沿って博物館・美術館を見学し、レポートを提出することになります。

【07】博物館学実習 A(セ)(2)(春学期)
 【07】博物館学実習 A(セ)(2)(秋学期)
 【04】博物館学実習 A(3)(通年) 教授 阿部 祥人
 准教授(有期) 石神 裕之
 講師 西田 宏子

授業科目の内容：

博物館の学芸員の資格を得ようとする人のために置かれた博物館学講座の必修科目である。将来、学芸員として要求される博物館業務に関する知識、資料の扱い方などを現物を用いて実習を行う。従って、既に博物館学の講義を履修していることが望ましい。実習は毎時間連続した内容であるため、欠席はもちろん、遅刻も絶対にしないことが要求される。

なお、この講義は履修者の調整を行い、博物館学実習Aを履修する者と同Cを履修する者に分ける。この振り分けの詳細な説明は4月の最初の授業で行うため、希望者はこれに必ず出席すること。そこで振り分けられた者以外は履修は認められない。

【07】博物館学実習 B(セ)(2)(春学期)
 【07】博物館学実習 B(セ)(2)(秋学期)
 【04】博物館学実習 B(3)(通年) 教授 杉本 智俊
 准教授(有期) 石神 裕之
 講師 西田 宏子

授業科目の内容：

博物館学実習 Aに同じ

【07】博物館学実習	C(セ)(2)(春学期)		
【07】博物館学実習	C(セ)(2)(秋学期)		
【04】博物館学実習	C(3)(通年)	准教授	山口 徹
		准教授(有期)	石神 裕之
		講師	西田 宏子

授業科目の内容：

博物館学実習 Aに同じ

【07】博物館学実習	D(セ)(2)(春学期)		
【07】博物館学実習	D(セ)(2)(秋学期)		
【04】博物館学実習	D(3)(通年)	准教授	佐藤 孝雄
		准教授(有期)	石神 裕之
		講師	西田 宏子

授業科目の内容：

【07】博物館実習 A(セ)(2)(春学期)・博物館実習 A(セ)(2)(秋学期),【04】博物館学実習 A(3)(通年)と同じ

【07】博物館学実習	A(セ)(2)(春学期)		
【07】博物館学実習	A(セ)(2)(秋学期)		
【04】博物館学実習	A(3)(通年)	教授	前田 富士男
		アート・センター 准教授(有期)	渡部 葉子
		講師	名児耶 明
		講師	平塚 泰三
		講師	吉岡 明美

授業科目の内容：

博物館学の学芸員の資格を得ようとする人のために置かれた博物館学講座の必修科目である。将来、学芸員として要求される博物館・美術館業務に関する知識、資料の扱い方など現物の美術品を用いて実習を行う。

なお、この博物館学実習 A・Bは、平成16年度より開設され、本年度の新2年生および3年生の必修科目となる。平成15年度以前に2年生に進級した者は履修する必要がない。この博物館学実習は、履修者の調整を行い、Aを履修する者とBを履修する者とに分ける。博物館学実習と同様の履修の仕方や振り分けの説明は、4月の最初の授業で行うので、希望者はこれに必ず出席すること。そこで振り分けられた者以外の履修は認められない。

参考書：

- ・『美術館と語る』日比野秀男編著、ペリかん社、1999年。
- ・『現代美術館学』並木誠士・吉中充代・米屋優、昭和堂、1999年。
- ・『版画の技法と表現』町田市立国際版画美術館編、改訂版、町田市立国際版画美術館、1991年。
- ・K.ニコラウス『絵画学入門』黒江・大原訳、美術出版社、1985年。

【07】博物館学実習	B(セ)(2)(春学期)		
【07】博物館学実習	B(セ)(2)(秋学期)		
【04】博物館学実習	B(3)(通年)	教授	林 温
		講師	名児耶 明
		講師	平塚 泰三
		講師	福士 理
		講師	吉岡 明美

博物館学実習[04] A / 博物館学実習 A・Aに同じ

【07】博物館学特殊	(資料論・有形)(セ)(2)(春学期)		
【07】博物館学特殊	(資料論・有形)(セ)(2)(秋学期)		
【04】博物館学特殊	(資料論・有形)(4)(通年)	准教授(有期)	石神 裕之

授業科目の内容：

近年、博物館施設・展示内容の多角化の中で、博物館資料もまた多様化しつつある。それらの博物館資料のうち、特に考古資料や民族(民俗)資料など物質資料を中心として、その性質や特性を理解するとともに、分類・収集・登録・管理といった整理法や理化学分析や保存処理のあり方などについて解説する。またそうした結果を企画や展示に活かすための方法についても、特に地域の文化遺産活用の観点から実例を挙げつつ紹介したい。

テキスト：

使用しない。

参考書：

必要に応じて講義の中で紹介する。

【07】博物館学特殊	(資料論・展示・運営)(セ)(2)(春学期)		
【07】博物館学特殊	(資料論・展示・運営)(セ)(2)(秋学期)		
【04】博物館学特殊	(資料論・展示・運営)(4)(通年)	日本の博物館・美術館をめぐる諸問題	
			准教授 安藤 広道

授業科目の内容：

日本の博物館・美術館は、現在、さまざまな問題を抱えています。本講義では、博物館・美術館における、資料、研究、展示、普及活動、運営などをめぐる問題点を取り上げ、それについて受講者とともに考えてみたいと思っています。私自身の横浜市歴史博物館、東京国立博物館の経験をお話するほか、東京近郊の博物館・美術館の学芸員、または博物館・美術館に関連した仕事をしている方々から、直接現場の声を聞く機会もできるだけたくさん取りたいと考えています。また、全員に、ある博物館・美術館の展示を見学してもらい、それについて討論することも、数回行う予定です。受講者には、是非、見学者・利用者の立場からも、博物館・美術館の問題を積極的に論じていただきたい。それによって、受講者だけでなく、私自身も勉強するという、文字通り特殊な講義にしたいと思っています。

テキスト：

使用しません。

参考書：

必要に応じて講義の中で紹介します。

【07】博物館学特殊	(展示・普及)(セ)(2)(春学期)		
【07】博物館学特殊	(展示・普及)(セ)(2)(秋学期)		
【04】博物館学特殊	(展示・普及)(4)(通年)		講師 足立 拓朗

授業科目の内容：

考古学系博物館学の展示に関する以下の技術を解説。

1. 作品(発掘出土品・美術・工芸品)の展示ケースへの配置・設置
2. 作品の梱包・開梱、運搬
3. 解説パネルや図版パネルの作成・設置
4. 報告書・展示図録の作成
5. ポスター・チラシの作成
6. 企画展示の作業工程
7. 博物館広報活動
8. 講演会・展示解説の実施
9. 小中学校の課題学習との連携
10. 地域博物館としての活動

テキスト：

必要があれば授業中に指示

参考書：

『新版博物館学講座9 博物館展示法』雄山閣出版。

- 【07】博物館学特殊 (企画・運営・教育)(セ)(2)(春学期)
 【07】博物館学特殊 (企画・運営・教育)(セ)(2)(秋学期)
 【04】博物館学特殊 (企画・運営・教育)(4)(通年)
 現代の美術と美術館 [春]講師 平野千枝子
 [秋]講師 平塚泰三

【春学期】

授業科目の内容:

美術館の歴史と美術の歴史とは、さまざまに絡み合ってきました。転換期にある今日の美術館において、どのような活動が可能かを考えるために、近現代美術と美術館の関係を振り返って検討します。

テキスト:

特に指定しません。

参考書:

松宮秀治『ミュージアムの思想』白水社、2003年。

【秋学期】

授業科目の内容:

美術館・博物館の設立の理念や活動の諸相を具体的事例に基づいて検討します。

常設展・企画展などの展示活動と教育普及活動に関しては、東洋・日本の古美術の事例を採り上げて考察します。

また、学芸員にとって必須の技能である作品記述の基本を身につけてもらうため、作品の種類別に解説例を示し、その書き方のポイントを学びます。

参考書:

並木誠士・吉中充代・米屋優編『現代美術館学』昭和堂 1998年

【07】漢文講読 (1)(春学期)

【07】漢文講読 (1)(秋学期)

【04】漢文講読 (2)(通年)

伝記や批評を読み、唐詩について考える

講師 今原和正

授業科目の内容:

すでに英語を学んでいる皆さんにとって、漢文の語法はそれほど難しいものではありません。漢文読解の難しさは、ひとつひとつの語の意味を吟味することにあります。授業では、返り点のうってない文章に「語釈」を付け、それにもとづいて文意を読みとり、自分で返り点をつつ練習をします。また、あわせて唐詩全般についての知識を身につけるとともに、通説にとらわれずに詩の解釈をするおもしろさを味わってもらおうと思っています。伝記資料としては「全唐詩小伝」、批評資料としては「唐詩鏡」の評語が主となります。とりあげる作品は初唐から晩唐までの比較的有名なものとししました。

テキスト:

講義資料プリントを配布します。

参考書:

- ・『唐詩鑑賞辞典』(前野直彬編)
- ・『漢文まとめと要点』(森野繁夫等・白帝社)
- ・『唐代の詩人 その伝記』(小川環樹編・大修館書店)

【07】漢文講読 (1)(春学期)

【07】漢文講読 (1)(秋学期)

【04】漢文講読 (2)(通年)

講師 阿部順子

授業科目の内容:

中国の歴代の文学作品の中から一定の評価のある文章を選び、訓読を経て現代日本語に訳していきます。訓読の技術(返り点の打ち方、送り仮名〔旧仮名づかい〕の付け方、読み下し文への変換)や読解力を身に付けることと同時に、古代漢語の文章自体とその内容の面白さを味わうことを目的とします。

教材はなるべくジャンルが多岐にわたるように配慮します。哲学書、歴史書から小説まで、幅広い内容の文章を読んでいきます。また、比較的平易な文章を選びたいと思います。

最終的には、白文(句読点、返り点、送り仮名のないテキスト)に、自分で句読点、返り点、送り仮名を付けて読み下し文に直せるまでになることが目標です。

ただし、受講者の漢文学習歴の有無や素養の程度は問いません。みなさんの状況やペースとうまく折り合いをつけながら、授業を進めていきます。

テキスト:

講師のほうで教材プリントを用意します。

参考書:

- ・コンパクトな漢和辞典(特に指定しない)
- ・『大漢和辞典』(諸橋轍次著、大修館書店刊) 図書館にあります。大部で高額なので個人では購入しないこと。

【07】【04】応用情報処理 (テキスト処理)(2)(秋学期)

講師 中島玲子

授業科目の内容:

私たちは日々当たり前のようにコンピュータや携帯電話などでテキスト(文字列)を読み書きしていますが、その仕組みや処理方法についてはあまり理解されていません。この授業では、コンピュータおよびインターネットでテキストを扱うことに関する様々な問題を扱い、テキスト処理の方法やツールについて理解を深めることを目的とします。前半は文字コードおよびフォント、漢字コード、特殊文字や文字化けなどのさまざまな問題について学びます。後半は演習を通して各種のアプリケーションソフトやツールを用いた文字列処理を習得します。Perl プログラミングの基礎を含め、単語の切り出しや出現頻度の集計、分析などを行います。ほぼ毎回課題を出題します。

受講者は「基礎情報処理」を履修済または同等の知識を持つものとします。Windows およびメールソフトの基本操作に慣れていないと授業への参加は困難です。Word や Excel などのアプリケーションソフトの初歩的な使い方を学ぶ講義ではないので注意して下さい。

テキスト:

Web 上で資料を配布します。URL・パスワードは授業初回に提示します。

参考書:

授業中に適宜紹介します。

【07】【04】応用情報処理 (Excel)(2)(秋学期)

Excel を使ったデータ処理と Word を使った論文作成

講師 新居雅行

授業科目の内容:

基礎情報処理を履修したレベルの学生を対象に、データ処理や論文作成につながる表計算ソフトやワープロ利用について説明します。特に、Excel を利用したデータ処理や統計的な処理について、全体の7割近くの時間を割く予定です。Excel についての基本的なワークシート作成ができることと、統計の知識を前提とします。Excel の基本操作の復習、データの扱いの基本、関数を利用した統計処理、グラフ作成、相関、検定について説明します。また、応用的な事例としてアンケートの集計やシミュレーションのようなものも扱います。ワープロは論文を書くということに絞って操作方法等を説明します。ワープロや表計算の基本操作ができ、統計についてある程度は知っているか勉強をする意志があることが望ましいでしょう。

テキスト:

Web ページで用意します。

参考書:

講義中に示します。

【07】【04】応用情報処理 (情報社会の光と影)(2)(春学期)

教授(有期) 三浦逸雄

授業科目の内容:

情報技術(IT)の進展は社会・経済環境に大きな影響を及ぼし、情報や知識が社会の様々な側面において重要な役割を果たしている。

例えば、大学や研究機関の教育・研究活動、企業のグローバルな経済活動、国・地方レベルの行政サービス、さらには人々の日常生活においても情報は不可欠の要素になっている。しかし、コンピュータ犯罪やプライバシー侵害など情報社会の進展に伴う弊害も強く指摘されている。そこで情報社会のプラス面とマイナス面の両方に光をあてて、現代社会がどのような方向に進むのかについて考える。

テキスト：

なし

参考書：

講義の中で随時紹介する。

【07】【04】応用情報処理（情報技術）(2)(春学期)
(情報技術) 准教授 原田 隆 史

授業科目の内容：

コンピュータとネットワークの動作と仕組みを理解し、幅広い知識を身に付けることを目的として、様々なトピックについて解説します。たとえば、ハードウェアとソフトウェア、インターネットとWWWの基礎的な理論などについて、基本的なことから説明していく予定です。実際にコンピュータの内部を見るなど、できるだけ現物を見ることが出来る機会を設定して理解しやすいようにしていきたいと思っています。また、情報技術に関わる最近のトピックについても、できるだけとりあげて解説していく予定です。

テキスト：

指定しません。必要に応じて資料プリントを配布 または Web 上で公開します。

参考書：

授業で適宜指示します。

【07】【04】応用情報処理（プログラム言語）(2)(秋学期)
Java によるプログラミングの基礎 講師 新居 雅 行

授業科目の内容：

コンピュータを動かすために必要なソフトウェアを作成することをプログラミングと呼んでいます。この講義では、Java という言語を使ってソフトウェアを作成する方法を解説します。パソコンについての基本的な知識や、ファイルの作成や一般的な操作ができるという前提で、講義は進めます。また、インターネットを含むネットワーク利用についての基本知識もあるものとして解説を行いません。特にテキストファイルを含めた、ファイル処理については、きちんと理解した上で受講してください。ただし、プログラミングそのものについては、初歩から解説します。

まず、プログラミングの概念と、知っておきたいことをまとめます。そして、プログラミングに必要なパソコンの操作を説明します。その後、実際にいろいろなプログラムを作成するといった流れで講義を進めます。テキストは以下のものを利用しますが、Web ページでのレジュメや補足も利用します。

テキスト：

Web ページで用意します。

参考書：

講義中に示します。

【07】【04】応用情報処理（ネットワーク技術）(2)(秋学期)
(ネットワーク技術) 准教授 原田 隆 史

授業科目の内容：

ネットワークについて、その基盤技術から順を追って説明を行います。インターネットの基本技術である TCP/IP やネットワークサービス、ネットワークセキュリティについて学ぶことを目的としています。また、インターネットの発達にともなううまれてきたサービスについても概観します。

テキスト：

必要に応じて、適宜プリントを配布・または Web 上で公開します。

参考書：

必要に応じて、授業で適宜指示します。

【07】【04】応用情報処理（WWW 技術）(2)(春学期)
講師 安形 輝

授業科目の内容：

この授業では、膨大な情報量を背景として急速に普及してきたメディアである World Wide Web（以下ウェブ）における、サーバ側のさまざまな知識と技術について、演習を通じながら取得することを目的としています。ただし、膨大なウェブサーバ側の技術について限られた時間のなかで扱うのは困難であるため、個人あるいはグループごとに、実際のウェブサービスを作成し、運用する演習を行います。そのなかで、ウェブに関する知識や技術を自ら積極的に学んでいくことを期待します

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

特に指定しません。

【07】【04】情報と職業（2）(秋学期)
准教授 原田 隆 史

授業科目の内容：

現在の企業活動では「情報」が重要な役割を果たしていると言われます。これは、いわゆる「情報産業」において重要であるだけでなく、すべての産業分野において「情報」を効果的に利用することが必要不可欠となってきています。この科目では、情報産業に従事される方を中心に、各種の産業で「情報」を取り扱っておられる方々をお呼びして、「情報化」の実態をお話していただく予定です。

本年度に実際に塾外から招く講師の方々はまだ未定ですが、2007 年度はハーティネス、NTT レゾナント、松下電器産業、角川クロスメディア、横浜銀行、ソニーテクノクリエイト、三菱総合研究所、CISCO システムズ、音楽プロデューサーの方々においていただきました。

テキスト：

特に指定しません。必要に応じて、適宜プリントを配布 または Web 上で公開します。

参考書：

必要に応じて、授業で適宜指示します。

【07】【04】情報と倫理（2）(春学期)
現代情報化社会を生きる上での倫理学 講師 福間 聡

授業科目の内容：

21 世紀の情報化社会を生きる上で必要とされる倫理的知識・判断能力の涵養を目指します。現代社会は情報通信技術が偏在化しており、私たちがどのような行為をするにしても、既に何らかの情動的な制約・監視下におかれています。また他方では、このような社会にあっては私たちは意図せずして情報の「発信者」となっており、それがどのように他の人たちや社会、そして環境といった「受信者・受信体」に対して影響を与えているのが分明では無くなっています。これらのことを踏まえて、21 世紀の道徳的行為主体として必要とされる基礎的な能力とは何かについて本講義では考察します。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

- ・西垣通・竹之内禎編著『情報倫理の思想』（NTT 出版、2007 年、2625 円）
- ・水谷雅彦著『情報の倫理学』（丸善、2003 年、1995 年）
- ・Tavani, H. T. 著 *Ethics and Technology: Ethical Issues in an Age of Information and Communication Technology, new ed.* (John Wiley & Sons Inc, 2007 年、\$50.24)

【07】【04】情報と倫理 (2)(秋学期)

休講

【07】中国語会話特殊 (1)(春学期)

【07】中国語会話特殊 (1)(秋学期)

【04】中国語会話特殊 (2)(通年)

広東語初級

講師 道上 知 弘

授業科目の内容：

現在の香港で使われている発音、文法に準拠した広東語を学ぶ上での基礎知識を身につけることを目的としたクラスです。声調言語である広東語を使いこなすためにはまずその発音をしっかりと習得するのが肝要ですので、最初のうちは必然的に発音の練習に割く時間が多くなりますが、受講者の希望に応じて香港の映画や音楽なども積極的に紹介して、広東語の世界に親しんでいってもらいたいと思います。一年の講義を通じて、簡単な自己紹介のしかたや、香港に旅行した時などに必要な実用的な表現をひとりマスターすることを目標にします。

テキスト：

プリントを使用します。クラスの状況を見て途中からテキストを指定する場合があります。

参考書：

- ・吉川雅之『香港粵語〔発音〕』(白帝社, 2001)
 - ・吉川雅之『香港粵語〔語彙とリスニング〕』(白帝社, 2002)
 - ・吉川雅之『香港粵語〔応用会話〕』(白帝社, 2003)
 - ・吉川雅之『香港粵語〔基礎文法〕』(白帝社, 2004)
-

【07】中国語会話特殊 (1)(春学期)

【07】中国語会話特殊 (1)(秋学期)

【04】中国語会話特殊 (2)(通年)

D南語(台湾語)

講師 小 松 嵐

授業科目の内容：

入門・初心者向けのD南語(台湾語)会話クラスです。「D」は福建省の古名で、D地方東南部に分布する言語はD南語と称されます。同系のD南語が福建省外及び東南アジア、台湾にも分布しております。台湾では住民の60%以上がD南語を話すことができることから、台湾第二の公用語とも言われます。本授業はD南語の音声体系をはじめ、教会ローマ字表記法及び簡単な日常会話をおぼえ、D南語のことわざや歌も取り入れたいと思います。

【07】西洋古典学 (2)(春学期)

【07】西洋古典学 (2)(秋学期)

【04】西洋古典学(4)(通年)

言語文化研究所 専任講師 小 池 和 子

授業科目の内容：

ギリシア・ラテン文学の主な作家とその作品について学びます。各作家やその作品の内容を紹介するだけでなく、ギリシア・ラテン文学を読む時に必要な基礎的な知識(韻文・散文の違い、ジャンルの問題、作品の伝承など)についても適宜触れて行きたいと思います。

テキスト：

こちらで用意します。

【07】西洋古典研究会 (1)(春学期)

【07】西洋古典研究会 (1)(秋学期)

【04】西洋古典研究会(2)(通年) 教授 西村 太 良

経済学部 教授 パティエー, ロジャー

授業科目の内容：

ギリシア・ローマの文化を歴史、文学、宗教、美術、地理など様々な分野を総合する視点から考えていくことを目的とする研究会。担当者からの問題提起に対して受講者の側から積極的に議論に参加し

ていくことが望まれる。内容、テーマについては受講者の希望・関心にも応えていきたい。

テキスト：

主としてプリントを配布。

参考書：

授業中に紹介する。

【07】古典ギリシア語文献講読 (1)(春学期)

【07】古典ギリシア語文献講読 (1)(秋学期)

【04】古典ギリシア語文献講読 (2)(通年)

言語文化研究所 専任講師 小 池 和 子

授業科目の内容：

トゥーキュディデース『戦史』第一巻を読みます。

テキスト：

こちらで用意します。

【07】現代ギリシア語文献講読 (1)(春学期)

【07】現代ギリシア語文献講読 (1)(秋学期)

【04】現代ギリシア語文献講読 (2)(通年)

講師 ヴォルドカ, ゴイ

授業科目の内容：

現代ギリシア語の文章を読みながら、文法的な説明を加え、ギリシアの文化についての理解を深めることを目的とします。

テキスト：

受講者の希望と関心に添って決めます。

参考書：

D. N. Stavropoulos: Oxford Greek-English Learner's Dictionary

【07】ラテン語文献講読 (1)(春学期)

【07】ラテン語文献講読 (1)(秋学期)

【04】ラテン語文献講読 (2)(通年)

講師 平 田 真

授業科目の内容：

初等文法を終えた人のための原典講読クラス。年度によって、散文か詩文を読む。

散文の場合は、キケロ、カエサル、タキトゥス等から、詩文の場合は、オウィディウス等から一作品を選んで原典講読。本年は、散文を予定。

テキスト：

テキストはこちらで用意する。

参考書：

- ・久保正彰著『OVIDIANA ギリシア・ローマ神話の周辺』(青土社)
 - ・島田 誠『コロッセウムからよむローマ帝国』(講談社)
-

【07】ラテン語文献講読 (1)(春学期)

【07】ラテン語文献講読 (1)(秋学期)

【04】ラテン語文献講読 (2)(通年)

休講

【07】ロシア語文献講読 (1)(春学期)

【07】ロシア語文献講読 (1)(秋学期)

【04】ロシア語文献講読(2)(通年)

教授 ナコルチェフスキー, アンドリイ

授業科目の内容：

専攻科目に関連するロシア語の文章の講読

テキスト：

未定

【07】イタリア語文献講読 (1)(春学期)

【07】イタリア語文献講読 (1)(秋学期)

【04】イタリア語文献講読(2)(通年)

教授 白崎 容子

授業科目の内容:

読解力をつけることを目的とします。

必修語学「イタリア語」を履修した3,4年生,系列外科目「イタリア語中級」履修者およびそれに準ずる学生が対象です。「初級」で文法を学んだばかりの学生でも,たとえば他のロマンス系言語の知識があり,イタリア語読解への熱意と気力を備えていれば,受講可能です。

テキスト:

開講時に教室で指示します。

【07】イタリア文学演習 (セ)(1)(春学期)

【07】イタリア文学演習 (セ)(1)(秋学期)

【04】イタリア文学演習(2)(通年) 教授 白崎 容子

授業科目の内容:

イタリア文学の流れの概要を把握することを目指しながら,イタリア語原文と日本語訳を併用しつつ作品そのものにも部分的にふれていきます。今年はジャコモ・ブッチーニ生誕150周年。ブッチーニのオペラと文学作品の関わりに,特に目を向ける予定です。

テキスト:

プリント

参考書:

『イタリア文学史』東京大学出版会

【07】スペイン語圏文化研究 (セ)(1)(春学期)

【07】スペイン語圏文化研究 (セ)(1)(秋学期)

【04】スペイン語圏文化研究(2)(通年)

スペイン現代文化 教授 坂田 幸子

授業科目の内容:

20世紀初頭から現在に至るまでのスペインを主な対象として,社会と文化に関する資料を読み,様々な作品に接することによって,現代スペイン文化の豊かさに触れ,その特質について考えます。

テキスト:

プリントで配布します。

参考書:

授業中に紹介します。

【04】ライフサイエンス(4)(通年)

休講

【07】自然科学研究会 (セ)(1)(春学期)

【07】自然科学研究会 (セ)(1)(秋学期)

【04】自然科学研究会 (2)(通年) 教授 高山 博

授業科目の内容:

人類学(自然人類学,化石人類学),進化学(形態レベル),自然史分野に関わる卒論補助または卒論作成に役立つような演習形式の講義。初年度なので,具体的には人類学,進化学の基礎知識の習得,基礎的文献の探索と講読を行う予定。

テキスト:

指定しません。

参考書:

指定しません。

【07】自然科学研究会 (セ)(1)(春学期)

【07】自然科学研究会 (セ)(1)(秋学期)

【04】自然科学研究会 (2)(通年) 教授 高山 博

授業科目の内容:

人類学(自然人類学,化石人類学),進化学(形態レベル),自然史分野に関わる卒論補助または卒論作成に役立つような演習形式の講義。自然科学研究会 既習者および学部4年生のために開講するので,人類学,進化学の方法論,研究成果等の吟味,検証を通じて報告・論文作成の一助としたい。

テキスト:

指定しません。

参考書:

指定しません。

【07】自然科学研究会 (セ)(1)(春学期)

【07】自然科学研究会 (セ)(1)(秋学期)

【04】自然科学研究会 (2)(通年)

細胞行動データベースを用いた教材作成をとおして生命科学を学ぶ
教授 金子 洋之

授業科目の内容:

本塾で作成された「高次生命現象理解のための細胞行動データベース(Cell Behavior Database: CBDB)を基盤に,種々の文献や成書を紐解きながら,文系学生に多様な生命に対する興味を喚起する教材の作成を試行する。現在,「細胞占い」のプロトタイプを作成しているが,これを発展させる以外に,「細胞双六」や「細胞間違い探し」なども新規に作成していく。この作業過程で,生命科学が明らかにしてきた高次生命現象を理解することを目的とする。

テキスト:

なし

参考書:

なし

【07】自然科学研究会 (セ)(1)(春学期)

【07】自然科学研究会 (セ)(1)(秋学期)

【04】自然科学研究会 (2)(通年)

休講

【07】自然科学研究会 (セ)(1)(春学期)

【07】自然科学研究会 (セ)(1)(秋学期)

【04】自然科学研究会 (2)(通年)

化学物質と人間社会との関わり 教授 大場 茂

授業科目の内容:

物質の概念あるいは化学物質に関連した問題を研究します。課題として取上げるテーマは履修者の希望にそって設定しますが,例えば次のような分野が考えられます。科学史における転機とその時代背景,化学物質と環境問題,自然科学でまだ未解決な問題など。

テキスト:

必要に応じてプリントコピーを配布します。

【07】自然科学研究会 (セ)(1)(春学期)

【07】自然科学研究会 (セ)(1)(秋学期)

【04】自然科学研究会 (2)(通年)

休講

【07】カウンセリング概論 (セ)(2)(春学期)

【07】カウンセリング概論 (セ)(2)(秋学期)

【04】カウンセリング概論(4)(通年)

講師 平野 学

授業科目の内容：

心の時代と言われる現代、カウンセリングは様々な点から注目されている。本講では先ず、(1)カウンセリングがどのようなものなのか、歴史的な流れも踏まえつつ、具体的にお話しした後、(2)その訓練手法としてよく用いられている“ロールプレイ”も交えて、話を聴く練習を若干試みたい。そして、(3)実際に病院や保健所、学生相談、教育相談等でカウンセラー(臨床心理士)として働いている方々、及び精神科医や HIV・エイズ関係者、脱カルト関係者等もゲストとしてお招きし、現場に即したカウンセリングのあり方や資格・訓練等の問題についても考えてみたい(VTR 等も多く使用したい)。尚、全体を通し“臨床心理学入門”といった趣きもあるが、受講者自身が自らを見つめ、各々の成長に役立つ時間になるよう心がけたい。同時に、カウンセリングという視点から現代社会のあり方や人間としての生き方等についても考えるきっかけとしたい。

参考書：

- ・乾吉佑・平野学編『臨床心理士になるには』(ベリかん社)
- ・河合隼雄『カウンセリングを語る(上・下)』『カウンセリングを考える(上・下)』(共に創元社)『心理療法序説』(岩波書店)
- ・佐治守夫他編『カウンセリングを学ぶ』(東京大学出版会)
- ・小此木啓吾他編『精神分析セミナー(巻)精神療法の基礎』(岩崎学術出版社)

【07】カウンセリングワークショップ (セ)(2)(春学期)

【07】カウンセリングワークショップ (セ)(2)(秋学期)

【04】カウンセリングワークショップ(4)(通年)

講師 平野 学

授業科目の内容：

現代社会にあっては、知的なものが重視・評価されやすく、何かとアタマでっかちになりやすい風潮がある。我々自身も、とかく自らの心や身体、そして体験をぞんざいにして過ぎがちではなからうか。ここではこうした認識のもと、『カウンセリング概論』単位取得者(状況によっては履修中の者も認める可能性あり)に限定して、実習や体験学習を中心とするワークショップを行いたい。具体的には(1)カウンセリングの実際をデモンストレーションやVTRで見たり、小グループに分かれてロールプレイを行いつつ、じっくり自由な討議を重ねたい(特に秋学期にはロールプレイの逐語記録の詳細な検討等をいくつか試みたい)。加えて(2)自己理解を深めるための様々なエクササイズ(描画、感受性訓練、心理アセスメント、ヨーガ、サイコドラマ、箱庭、コラージュ他)を体験してもらおう中、自らをバランス良く高めるきっかけを提供したい。本講は内容的にカウンセラーや臨床心理士、福祉職、教師等、人とかかわる仕事に関心を有する学生諸君向けのものとなるが、それ以外の諸君にとっても“対人コミュニケーション”のあり方等を、学び考えるきっかけにしてもらえたらと思っている。

参考書：

- ・佐治守夫他編『カウンセリングを学ぶ』(東京大学出版会)
- ・乾吉佑・平野学編『臨床心理士になるには』(ベリかん社)

【07】仏教学概論 (2)(春学期)

【07】仏教学概論 (2)(秋学期)

【04】仏教学概論(4)(通年)

休講

【07】ドイツ語名著研究 (セ)(1)(春学期)

【07】ドイツ語名著研究 (セ)(1)(秋学期)

【04】名著研究 (独)(2)(通年) 講師 針谷 寛

授業科目の内容：

1830~40年代ドイツの初期社会主義の理論的文献を読む。今年度は昨年度に続き、K. Marx, Oekonomisch-philosophische Manuskripteを所有概念を軸にして読む。一方ではカント、ヘーゲルなど近代社会理論の所有論、他方ではヴァイトリングやヘスなどの初期社会主義理論の所有論と比較しながらその歴史的、理論的特殊性を見ていきたい。

そこで使われている言葉がその時代の中でもっていた意味を手繰りながら読むことに留意する。

【07】フランス語名著研究 (セ)(1)(春学期)

【07】フランス語名著研究 (セ)(1)(秋学期)

【04】名著研究 (仏)(2)(通年)

休講

【07】【04】比較文学 (2)(春学期)

小説はどのように書かれているか

講師 菅原 克也

授業科目の内容：

比較文学研究のひとつのありかたとして、文学作品を広く一般的な立場から分析、考察するという態度がある。本講義では、欧米の小説や日本の小説を小説の書き方 一般的な技法という観点から横断的に考察する。すなわち、小説という文学形式について、その思想やメッセージの側からではなく、「かたち」の側から読んでゆくと、どのようなことが分かるか、あるいは小説という文学ジャンルはどのような書かれ方をしているのかも考えてみる。様々な批評理論を参照しつつ、具体的な例に即して解説する。

テキスト：

指定しない。

参考書：

講義中に紹介する。

【07】【04】比較文学 (2)(秋学期)

小説はどのように書かれているか

講師 菅原 克也

授業科目の内容：

春学期に続いて、小説の「かたち」についての考察を行う。秋学期には、小説の技法に加えて、一般的な修辞技法についても講義する。

テキスト：

指定しない。

参考書：

講義中に紹介する。

【07】【04】演劇の歴史 (2)(春学期)

日本演劇の歴史

教授 石川 透

授業科目の内容：

現在、世界各地には、さまざまな種類の演劇が伝えられ、演じられている。しかし、これまでの歴史の中で、埋もれてしまい、現在演じられていない演劇も数多く存在している。本講義では、それらを含めた日本の古典の作品を取り上げ、いかに作られ、いかに受け継がれたのかを、現存する演劇や資料と関わらせて考えてみたい。

【07】【04】演劇の歴史 (2)(秋学期)

西洋演劇の流れ 理工学部 教授 小菅隼人

授業科目の内容:

演劇の世界では日々新しい上演が生み出されつつ、同時に、各地域に過去の文化的財産として戯曲や上演伝統が残されています。しかし、どのようなものであっても劇が演じられる時は、常に、目の前に繰り広げられるイベントとして「観客」は舞台の構成要素となります。劇場には、戯曲と俳優と観客が常に同時に存在しているのです。また、演劇においては、言語芸術の要素が舞踊・音楽・美術の要素と半ば整然と、半ば乱雑に混じりつつ総合芸術となります。したがって、演劇史は劇文学の歴史であると同時に、上演と鑑賞の歴史ともなります。この考え方に立って、秋学期の講義では、主として西洋演劇の流れを言語や地域の枠に限定せず、総合的に扱います。演劇のドラマとしての側面は、映画・テレビ・オペラ・ミュージカルなど様々な芸術と理念を共有するはずですし、パフォーマンスとしての側面は政治・経済・法律・社会・スポーツにおいても見出せるでしょう。その意味では、演劇を知ることは、世界の見方を知ることでもあります。狭い意味での演劇に限らず、広く演劇的な現象に興味を持つ学生諸君の受講を歓迎します。

テキスト:

プリントを配布します。

参考書:

講義中指示します。

【07】英書講読 (1)(春学期)

【07】英書講読 (1)(秋学期)

【04】英書講読 (2)(通年)

中世アイルランドの「神話」とファンタジー

准教授 辺見葉子

授業科目の内容:

『アイルランド来寇の書』は12世紀に編纂された、中世アイルランド語の神話的擬似歴史書ですが、これを現代英語でファンタジー仕立てに再話した作品を読みます。作品理解のために、関連する作品・論考などもあわせて読み、さまざまな視点から中世ケルト語で書かれた「神話」と、それにまつわるファンタジーへの理解を深めます。

テキスト:

Keio.jp から各自でダウンロード・プリントアウトして下さい。

参考書:

授業中に紹介します。

【07】デジタル書物学 (2)(春学期)

教授 高宮利行

教授 松田隆美

新教育組織創造支援室 檜村雅章

授業科目の内容:

本講座は、文献・画像資料を扱う人文科学分野における情報処理の基本手法を、講義と実習を通じて習得できることを目的としている。思想、芸術、文学、歴史などの分野における網羅的な専門情報を収集して整理・分析し、わかりやすい形で公開することは、文学部が社会から要請されている活動であるという認識のもとに、実際にHUMIプロジェクトで貴重書を対象としてそうした活動を続けている担当者らが、書物史の分野で具体的な課題を設定して、人文科学的な基礎知識や技術的背景に関する講義、ディスカッション、パソコンやデジタル画像入力機器などを用いたデジタル・コンテンツの制作実習、発表会(プレゼンテーション)などさまざまな形での授業によって、実践的に指導を進めて行く。

なお、本講座の前身英文学で上記の手法を体得して、博士論文にまで結実させた若手研究者も複数いるので、適宜経験談を披露してもらう予定である。

実習は次のような内容で行う予定である。

- ・ワープロを用いたテキスト(文書)情報の整理や、持論の展開(Microsoft Word や Adobe Acrobat を使用)
- ・デジタル画像やグラフィクスと、専用ツールを用いたオンスクリーン・プレゼンテーション(Adobe Photoshop や Microsoft PowerPoint などを使用)
- ・データベースソフトを用いた情報のより高度な整理や、Webコンテンツの制作とインターネットを利用した公開(Filemaker Pro や Web ページ制作用ソフトを使用)

授業の計画や実習課題など、本講座に関する情報は以下の URL を参照のこと。

<http://www.humi.keio.ac.jp/workshop/2008/>

教室は新図書館地下1階の「HUMI プロジェクト稀観書研究室」とし、HUMI プロジェクトの持つ画像入出力機器やワークステーションを用いて授業を進めるため、8名程度を定員とする(状況に応じては他のパソコン教室を用いるかもしれない)。履修希望者多数の場合には、ガイダンス(初回の授業)で説明する方法(レポート・面接など)で、履修者の選抜を行う。なお、履修者はパソコン上でワープロによる文書作成、電子メールの送受信、Webブラウザの利用といった程度のことです。また、ガイダンスを受けない者の履修の申請は認めない。

人文科学分野での情報の生産を自ら行い、それを社会に対して発信・公開したいという意欲を持つ諸君の参加を期待する。

この授業は通年で行うので、事情により秋学期のみ履修する者は、できるだけ早い段階に事前に担当者に連絡してガイダンスを受けて欲しい。

【07】デジタル書物学 (2)(秋学期)

教授 アーマー, アンドルー

教授 松田隆美

新教育組織創造支援室 檜村雅章

授業科目の内容:

本講座は、文献・画像資料を扱う人文科学分野における情報処理の基本手法を、講義と実習を通じて習得できることを目的としている。思想、芸術、文学、歴史などの分野における網羅的な専門情報を収集して整理・分析し、わかりやすい形で公開することは、文学部が社会から要請されている活動であるという認識のもとに、実際にHUMIプロジェクトで貴重書を対象としてそうした活動を続けている担当者らが、書物史の分野で具体的な課題を設定して、人文科学的な基礎知識や技術的背景に関する講義、ディスカッション、パソコンやデジタル画像入力機器などを用いたデジタル・コンテンツの制作実習、発表会(プレゼンテーション)などさまざまな形での授業によって、実践的に指導を進めて行く。

なお、本講座の前身英文学で上記の手法を体得して、博士論文にまで結実させた若手研究者も複数いるので、適宜経験談を披露してもらう予定である。

実習は次のような内容で行う予定である。

- ・ワープロを用いたテキスト(文書)情報の整理や、持論の展開(Microsoft Word や Adobe Acrobat を使用)
- ・デジタル画像やグラフィクスと、専用ツールを用いたオンスクリーン・プレゼンテーション(Adobe Photoshop や Microsoft PowerPoint などを使用)
- ・データベースソフトを用いた情報のより高度な整理や、Webコンテンツの制作とインターネットを利用した公開(Filemaker Pro や Web ページ制作用ソフトを使用)

授業の計画や実習課題など、本講座に関する情報は以下の URL を参照のこと。

<http://www.humi.keio.ac.jp/workshop/2008/>

教室は新図書館地下1階の「HUMI プロジェクト稀観書研究室」とし、HUMI プロジェクトの持つ画像入出力機器やワークステーションを用いて授業を進めるため、8名程度を定員とする(状況に応じては他のパソコン教室を用いるかもしれない)。履修希望者多数の場合には、ガイダンス(初回の授業)で説明する方法(レポート・面接など)で、履修者の選抜を行う。なお、履修者はパソコン上でワープロによる文書作成、電子メールの送受信、Webブラウザの利用

といった程度の方がすでにできることを前提とする。また、ガイダンスを受けない者の履修の申請は認めない。

人文科学分野での情報の生産を自ら行い、それを社会に対して発信・公開したいという意欲を持つ諸君の参加を期待する。

この授業は通年で行うので、事情により秋学期のみ履修する者は、できるだけ早い段階に事前に担当者に連絡してガイダンスを受けて欲しい。

【07】論文フランス語 (初級)(セ)(1)(春学期)

【07】論文フランス語 (初級)(セ)(1)(秋学期)

【04】論文フランス語(初級)(2)(通年)

教授 宮林 寛

授業科目の内容：

初学者を対象にしたフランス語の授業です。

文法、会話、作文、読解、語彙……。外国語学習で身につけるべき知識はあまりにも多いのですが、週1回の授業ですべてをカバーすることはできません。

そこで「論文フランス語」では目標を「読解力の養成」にしぼり、平易な文章が読めるようになることを目指します。ただし、「論文フランス語」で読むテキストは「論説文」に限られますので、詩や小説を読みたい人は履修しないほうがよいかもしれません。

春学期は指定教科書を使いながら、初級文法で求められる項目の約3/5を学び、それぞれの段階で得た文法知識でじゅうぶんに読める文章の読解にも挑戦してみるつもりです。

秋学期は指定教科書を終わるとともに、リーディングにあてる時間を増やしたいと思っています。

テキスト：

『読むための基礎フランス語文法』(恒川邦夫著、芸林書房)

参考書：

必要に応じて授業中に指示します。

【07】論文フランス語 (中級)(セ)(1)(春学期)

【07】論文フランス語 (中級)(セ)(1)(秋学期)

【04】論文フランス語(中級)(2)(通年)

教授 荻野 安奈

授業科目の内容：

履修者の専門分野で必要とされるフランス語文献が読めるよう、お手伝いします。

文体やレベルの異なるテキストを少量ずつ、と考えています。

テキスト：

プリント配布

【07】比較精神史 (セ)(2)(春学期)

【07】比較精神史 (セ)(2)(秋学期)

【04】比較精神史(4)(通年) 教授 宇沢 美子

准教授 エアトル、ヴォルフガング

准教授 北中 淳子

准教授 高橋 勇

授業科目の内容：

授業では英語のみを用いますが、帰国子女ではない学生を対象とします。自分たちの問題意識を英語で表明し(プレゼンテーション)、討論を行なうことによって、英語の能力を鍛えることを目指します。必ずしも英語が得意でなくても、英語の運用と英語による意見の発信に関心のある方の参加を期待します。哲学、人間科学、アメリカ文学、イギリス文学を専門とする各教員が、それぞれ関心のあるテーマを設定するので、種々の問題について多角的に考えるよい機会となるでしょう。

テキスト：

授業のガイダンス時に指定します。

【07】【04】環境問題と大学(2)(秋学期)

休講

【07】文章と表現 (2)(春学期)

【07】文章と表現 (2)(秋学期)

【04】文章と表現(4)(通年)

文学の現場からの報告

講師 加藤 宗哉

授業科目の内容：

プロの文章とアマチュアの文章には違いがある。プロの書き手たちは暗黙の約束ごとに従って文章を書いている。その約束ごとを本講では説明する。文章は才能で書くのではなくテクニックで書く。具体的には「漢語・和語・外来語の使い分け」「オノマトペ・常套語・記号の危険性」に始まり、「いかに書き隠すか」まで、文学の現場でつねに問われる問題を紹介したい。

テキスト：

コピーを配布します。

参考書：

・季刊芸誌「三田文学」

・「三田文学名作選」

言語学関係講座について

本塾文学部には、現在のところ言語学専攻科はないが、文学部共通科目の枠内で、以下のように、言語学関係の科目が設置されている。それは、講座の種類・質・講師陣といった角度からみて、他大学の言語学専攻科に十分に匹敵する（あるいは、それ以上に充実した）内容をもっているといえる。したがって、専攻の如何にかかわらず、言語学に関心をもつ学生は、これらの講座を履修することによって、言語学の専門的な知識を身につけることができるであろう。なお、ここでいう「言語学」は、言語の諸相をあるがままに記述することばかりでなく、「なぜ言語はかくあるのか」という問いに対する解答を与える説明的理論（例えば生成文法理論）の構築をも目標としている学問であることを強調しておきたい。それは言語をめぐる隣接諸科学（心理学、哲学、論理学、コンピュータ・サイエンス、認知科学など）と密接にかかわりをもつものであり、その意味で学問に対する現代的要請に応えるものである。言語学関係の講座は次のようなカリキュラムのもとに構成されている。

・ 日吉設置講座：いずれも言語科学入門の役割を果たしている

「言語学」(春学期)

「言語学」(秋学期)

・ 三田設置講座

2年次での履修が望ましい

3,4年次での履修が望ましい

言語学概論 ・
言語学概論 ・
言語学概論 ・

言語学特殊 ・
(生成文法初級)

言語学特殊 ・
(記述言語学)

言語学特殊 ・ (生成文法中級) 言語学特殊 ・ (生成文法上級)
言語学特殊 ・ (意味論・語用論)
言語学特殊 ・ (形態論)
言語学特殊 ・ (音韻論)
言語学特殊 ・ (言語心理学)
言語学特殊 ・ (通時言語学)

科目名は [07学則] で統一させて表示していますのでご注意ください。また言語学関係講座は全専攻共通科目です。

なお、言語学関連科目として、英米英文学、仏文学、国文学、独文学、中国文学の各専攻科目に設置されている個別言語の研究（たとえば、英語学、フランス語学、国語学など）、および、哲学専攻・倫理学専攻の「哲学倫理学特殊」などもあわせて履修されたい。言語学に関して、履修上の問題をはじめ、さまざまな問題が生じた際には、遠慮なく以下の講座の担当者に相談されたい。

【07】言語学概論 (セ)(2)(春学期)
【07】言語学概論 (セ)(2)(秋学期)
【04】言語学概論 (4)(通年)
言語学への招待 経済学部 教授 星 浩 司

授業科目の内容:

この授業では、我々人間を人間たらしめている重要な属性の一つである「言語」とは何かという問題を科学的に考えていく。具体的には、「言語学」とは何か、また、「言語」とは何か、という根本的な問題から出発し、自然言語に共通して観察される諸特徴を概観した後、各論へと進む。各論では、前期に、音声学、音韻論、形態論の基礎を学び、後期に、統語論、意味論、語用論の基礎を学んでいく。全体を通じて、是非、科学的な言語観を理解してもらいたい。

テキスト:

星浩司 著「言語学への扉」(慶應義塾大学出版会, 2006)

参考書:

- ・井上和子, 原田かづ子, 阿部泰明 共著「生成言語学入門」(大修館書店, 1999)
- ・大津由紀雄 他 編著「言語研究入門: 生成文法を学ぶ人のために」(研究社, 2002)

【07】言語学概論 (セ)(2)(秋学期)
【07】言語学概論 (セ)(2)(秋学期)
【04】言語学概論 (4)(秋学期)
生成文法入門 講師 外池 滋生

授業科目の内容:

生成文法理論の基本的な考え方と枠組みを英語を中心に見ていきますが、後半は日本語との比較にも触れます。

テキスト:

Andrew Radford (2004) *English Syntax* (Cambridge University Press)

参考書:

外池滋生 (監訳)「新版入門ミニマリスト統語論」(研究社)

【07】言語学概論 (セ)(2)(春学期)
【07】言語学概論 (セ)(2)(秋学期)
【04】言語学概論 (4)(通年)
ことばの仕組みとことばの発達
経済学部 教授 松岡 和美

授業科目の内容:

このクラスは初学者を対象に、言語学では「言語の何を」「どう扱うのか」についておおまかな理解が得られるように構成されている。前期のクラスでは、言語の研究のツールとして提案されている概念や方法論を紹介し、それがもたらす新しい知見を、世界の様々な言語データの分析を通して理解することを目的とする。後期クラスでは、前期クラスの内容を踏まえて、母語の発達過程と言語理論との関係についての理解を深める。学期末試験や課題においては、知識だけでなく、授業で扱った考え方をういてデータや問題を「どう説明するか」という能力の評価に重点を置く。

テキスト:

『ことばの科学ハンドブック』郡司隆男・西垣内泰介(編著)研究社 三田メディアセンターリザーブブック(図書館旧館3階)に配架予定の資料を予習文献として使用する。

参考書:

順次、授業支援用ホームページ(URL後述)に掲載。

【07】言語学特殊 (セ)(2)(春学期)
【07】言語学特殊 (セ)(2)(秋学期)
【04】言語学特殊 (4)(通年)
生成文法入門 言語文化研究所 教授 大津 由紀雄

授業科目の内容:

生成文法と呼ばれる認知科学理論の基本的考え方について講じたあと、現代英語を主たる対象として言語分析の訓練を行なう。現代英語を対象とするのは、客体化しやすい外国語であり、かつ、受講者のほとんどの者になじみが深い言語であるからである。現代英語についての知識は中学校卒業程度でよい。

テキスト:

Nigel Fabb. 2005. *Sentence Structure* (2nd ed.) Routledge.
一括注文はしないので、各自購入しておくこと。

【07】言語学特殊 (セ)(2)(春学期)
【07】言語学特殊 (セ)(2)(秋学期)
【04】言語学特殊 (4)(通年)
東南アジアの言語 言語文化研究所 教授 三上 直光

授業科目の内容:

東南アジア諸言語の諸相を一般的な見地から観察、分析する。取り上げるテーマとしては、系統と分布、文字、音韻・形態・統語などの特徴、言語と文化、言語問題、言語政策などを予定している。授業は、講義と履修者の発表を交えながら進めていく。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

その都度指示する。

【07】言語学特殊 (セ)(2)(春学期)
【07】言語学特殊 (セ)(2)(秋学期)
【04】言語学特殊 (4)(通年)
生成文法中級 講師 内堀 朝子

授業科目の内容:

生成文法研究は、近年、ミニマリスト・プログラムと呼ばれる研究プログラムの下で進められてきた。それによると、人間の脳内にはいわば言語器官とも言うべき独立した機構が存在すると考えられ、特に、その機構には、言語使用を可能にするために言語以外の領域(例えば、音声の調音・知覚に関わる領域など)から必然的に課される条件を最適な形で満たしながら、文を原則的には無限にかつ最も経済的に、生成し得る仕組みが備わっているとされる。本講義では、このような言語器官としての言語の諸特性を明らかにすることを目的とした最近の生成文法理論の枠組みについて、詳しく取上げる。

テキスト:

開講時に指示する。

参考書:

開講時に指示する。

【07】言語学特殊 (セ)(2)(春学期)
【07】言語学特殊 (セ)(2)(秋学期)
【04】言語学特殊 (4)(通年)

休講

【07】言語学特殊 (セ)(2)(春学期)
【07】言語学特殊 (セ)(2)(秋学期)
【04】言語学特殊 (4)(通年)

休講

【07】言語学特殊 (セ)(2)(春学期)

【07】言語学特殊 (セ)(2)(秋学期)

【04】言語学特殊 (4)(通年)

音声と音韻

講師 本間 猛

授業科目の内容：

日本語と英語の音声構造と音韻構造の相違点および共通点を探ることを通して、音声学・音韻論の基本概念を学ぶ。また、分析方法の基礎を理解し、応用できることを目指す。言語研究における音声・音韻の研究の位置付けを概観した後、言語音の産出のしくみを学ぶ。さらに、音素、音節、モーラ、語アクセント、文アクセント、リズム、イントネーションなどの音韻現象とその理論的側面について考察する。また、最近の理論である最適性理論 (Optimality Theory) についても解説する。

授業方法：講義にて基礎的な知識や基本概念を扱い、さらに、練習問題で理解を深めるようにする。

テキスト：

窪園晴夫著 日英語対照による英語学演習シリーズ『音声学・音韻論』くろしお出版

参考書：

- ・窪園晴夫著『語形成と音韻構造』くろしお出版
- ・窪園晴夫・太田聡著『音韻構造とアクセント』研究社
- ・窪園晴夫・本間猛著『音節とモーラ』研究社

【07】言語学特殊 (セ)(2)(春学期)

【07】言語学特殊 (セ)(2)(秋学期)

【04】言語学特殊 (4)(通年)

言語心理学

講師 磯部 美和

授業科目の内容：

子どもがなぜ、生後わずか数年のうちに、抽象的で複雑な母語を身につけることができるのか、という問題を取り上げる。「生成文法理論」という言語理論では、言語は、生まれながらにヒトに備わっている言語の知識と、生後受け取る言語経験の相互作用により獲得されると仮定されている。本授業では、英語や日本語の獲得を中心に、生成文法理論に基づく様々な言語獲得研究の成果を概観し、議論していく。

テキスト：

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

参考書：

適宜指示する。

【07】言語学特殊 (セ)(2)(春学期)

【07】言語学特殊 (セ)(2)(秋学期)

【04】言語学特殊 (4)(通年)

生成文法上級：GB 理論からミニマリスト・プログラム

講師 今西 典子

授業科目の内容：

普遍文法と言語間変異・言語獲得という問題に焦点をあてながら、1980年代以降に展開している原理とパラメータのアプローチ (P&P) の基本的な考え方を概観し、P&P による GB 理論の各モジュール (X-bar 理論、理論、格理論、束縛理論、有界理論) がどのように働き合っている言語事象の様々な特徴が説明されるかをまず考察する。次に、最近の理論の進展であるミニマリスト・プログラム (MP) の基本的な考え方を概観し、MP に基づく言語事象の分析を検討する。

テキスト：

講義資料プリントを配布する。

参考書：

講義の進度に即して、適宜指定する

【07】言語学特殊 (セ)(2)(春学期)

【07】言語学特殊 (セ)(2)(秋学期)

【04】言語学特殊 (4)(通年)

通時言語学

医学部 教授 児馬 修

授業科目の内容：

生成文法理論の基本的思考法を学びながら、言語(文法)がなぜ、そして、どのように変化するのか、という問題を中心に考察する。

テキスト：

Diachronic Syntax (by Ian Roberts) 2007 年 Oxford University Press

参考書：

適宜指示する。

遠山記念音楽学講座について

1985年、音楽評論家で(財)日本近代音楽館(元遠山音楽財団)理事長であるとともに、東京文化会館館長、新国立劇場副理事長などを歴任された遠山一行氏から、当時の遠山音楽財団付属図書館に蒐集された中世・ルネサンス、現代の音楽に関する資料が寄贈された。資料には、図書ばかりでなく楽譜、レコード、マイクロフィルム等が含まれ、慶應義塾図書館(旧館)で「遠山音楽文庫」の名のもとに公開されている。また遠山記念音楽研究基金も慶應義塾に寄贈された。それを記念して開講されたのがこの講座である。

欧米においては、音楽学は総合大学で研究教育されており、遠山氏の寄贈は、我が国においても音楽学の研究教育が総合大学を中心におこなわれるべきとの信念にもとづいたものであった。氏は、慶應義塾こそそれに最もふさわしい大学であると判断された。遠山音楽文庫の開設によって、我が国の総合大学のなかで最大の音楽資料を有することになった慶應義塾は、音楽学に関する講座を充実するために、本講座を設置した。美学美術史学専攻には、すでに西洋音楽史を中心にした一連の講座が開設されているが、それを拡充するものとともに、音楽学および関連諸学を専門とするための基礎的スキル獲得のための内容も盛り込まれている。

【07】音楽学 (2)(春学期)

【07】音楽学 (2)(秋学期)

【04】音楽学 (4)(通年)

和声を主体とする楽曲分析の基礎 講師 二宮 洋

授業科目の内容：

クラシック音楽と言われる西洋古典芸術音楽の基盤である調性と、それを確立させる機能と和声を理解することが本講義の目的です。それは音楽全体の組み立てを見極めるのに不可欠な視点であり、我々の生活の周辺にある音楽全体に渡る理解の基礎ともなります。そして、それが楽曲全体の形式を含めた分析と理解につながる基礎となるのです。したがって、これらの学習に基礎知識の習得から始め、その展開として実際の楽曲を対象とした分析実習へと進めます。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

- ・島岡譲著「和声と形式のアナリゼ」
- ・同著「総合和声」(音楽之友社)など。

【07】音楽学 (2)(春学期) 商学部 教授 佐藤 望

【07】音楽学 (2)(秋学期) 准教授 西川 尚生

【04】音楽学 (4)(通年) 講師 藤井 孝一

授業科目の内容：

音楽で卒業論文を書こうと考える人のための(1)音楽研究のさまざまな領域と研究方法の包括的な紹介、(2)西洋音楽史を中心にした個別領域の事例紹介と研究の現在、(3)音楽資料・文献の検索法の習得を軸にしています。(3)に関しては、三田メディアセンター・レファレンスの職員が担当し、授業内で実習をおこなう予定です。これまで音楽学について学んだことのない人も履修可能ですが、実習で使うパソコン台数の関係上、履修者は音楽で卒業論文を書くことを視野に入れている学生に限定します。

参考書：

授業内で指示します。

文化財科学

昭和 54 年財団法人松永記念館は、慶應義塾に文化財研究の振興と普及を計る目的で、松永記念文化財研究基金を寄贈された。本講座は、その主旨を記念し、義塾における文化財研究の普及と発達に資するために、昭和 62 年度より開設されたものである。

【07】文化財科学 (セ)(2)(春学期)

【07】文化財科学 (セ)(2)(秋学期)

【04】文化財科学 (4)(通年)

文化財資料を科学の目で見ると 講師 富沢 威

授業科目の内容：

考古遺物や美術資料の化学組成の特徴や、製造の歴史や技法について講義する。また、鉛同位体分析法などの最近の研究で得られた成果について紹介する。授業では、自然科学の手法を応用する際の背景となる考え方や原理、適用範囲や留意点などについて述べる。

テキスト：

テキストは、特に指定しない。

参考書：

授業の際に紹介する。

【07】文化財科学 (セ)(2)(春学期)

【07】文化財科学 (セ)(2)(秋学期)

【04】文化財科学 (4)(通年)

文化財資料を科学の目で見ると 講師 富沢 威

授業科目の内容：

年代測定法や DNA 解析法、アイソトープ食性解析法など、最近の進歩のなかから得られた成果について紹介する。

授業では、自然科学の手法を応用する際の背景となる考え方や原理、適用範囲や留意点などについても述べる。

テキスト：

テキストは特に指定しない。

参考書：

授業の際に紹介する。

芸術の現在

戦後の我が国で、学問の学際化の必要が叫ばれて久しい。

中世ヨーロッパの大学では、基本的な三学（trivium すなわち文法、修辞、論理 trivial という英語の形容詞はここから生まれた）と四学（quadrivium すなわち算術、音楽、幾何学、天文学）を修得すれば、修士号（Magister Artium：現在の M.A.）が与えられた。ところが現代では、学問が「総合から分析へ」と各方面に進歩した結果、領域の専門家とそれによる狭隘化をもたらした。今日では、本塾の文学部を例にとっても、学問は17の専攻に分かれ、専攻内ですらそれぞれの専門分野がより細分化している。そのため、中世のヨーロッパの知識人の目には、学生も教員も狭苦しいタコ壺の中で喘いでいるように見えるかもしれない現状を呈していることも事実であろう。

この閉鎖性を打破する試みがかなり以前から行われてきたことは確かである。比較 学と名付けられた学問の誕生もそのひとつといえよう。本講座も同様の試みとして、学問の名称にこだわることなく、文学部共通の専門科目として、設置されている。文学部の美学・芸術学領域の専任教員を中心に、場合によってはテーマを絞り、しかも扱う分野としては文学、歴史、音楽、美術、映画などの人文学（いや必要に応じて社会科学や自然科学の助けをも借りて）を縦横にクロスオーバーする主題を取り上げることが狙いである。

学問を総合的に見直すことが求められる今、「芸術の現在」という大きな枠組の設置には、少しでも学生、教員双方の視野を広げられればという願いが込められている。

【07】芸術の現在（セ）（2）（春学期）

【07】芸術の現在（セ）（2）（秋学期）

【04】芸術の現在（4）（通年）

感性と創造的グループプロセス考

DMC 機構 特別研究専任講師 坂倉 杏介

授業科目の内容：

日常生活や芸術的な創造の場において、私たちはどのように世界を感じ、意識や価値を創造しているのでしょうか。本講義では、複数の学術分野にまたがる「感性」と「創造性」の問題について俯瞰するとともに、受講者それぞれの専門・関心領域からの問題も積極的に取り上げ、共に議論したいと考えています。それゆえ、知識の量的な習得よりも、身体の「いま・ここ」で起こっている様々な感覚について、ディスカッションやワークショップを通して吟味していくことに重きを置きます。また、現代美術、認知科学、ファシリテーションなどの現場で活躍する講師によるレクチャーを予定しています。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

- ・ H. ベルクソン 『意識に直接与えられたものについての試論』（ちくま学芸文庫）
 - ・ E. ミンコフスキー 『生きられる時間』（みすず書房）
 - ・ J. J. ギブソン 『生態学的視覚論』（サイエンス社）
 - ・ H. マトゥラーナ, F. ヴァレラ 『知恵の樹』（ちくま学芸文庫）
 - ・ 坂部恵 『「ふれる」ことの哲学』（岩波書店）
 - ・ 木村敏 『あいだ』（弘文堂）
 - ・ 中野民夫 『ワークショップ』（岩波新書）
- ほか、適宜紹介します。

久保田万太郎記念講座

久保田万太郎記念講座は慶應義塾出身で劇作家・俳人・小説家として活躍した久保田万太郎を記念する講座であり、万太郎の死後に遺贈された著作権を基金として昭和39年に設置された。本講座は「詩学」と「現代芸術」の二科目にわかれ、両科目とも、アカデミズムの枠を越えて、塾内だけにとどまらず広く塾外の有識者たちを招聘して塾生諸君を啓発しようという趣旨で開設されている。

「詩学」の第一回講師は、春学期が佐藤春夫、秋学期が西脇順三郎だった。爾来、土岐善麿、小泉信三、河上徹太郎、村野四郎、山本健吉、河盛好蔵、高津春繁、水原秋桜子、吉川幸次郎、五所平之助、篠田一士、田久保英夫、饗庭孝男、吉増剛造、林光、辻井喬、種村季弘等々の諸氏を迎えた。まことに絢爛豪華たる顔ぶれといえよう。

「現代芸術」は昭和40年に開設された。第一回講師は江藤淳、西義之、二宮孝顕、楠本健吉の四人である。さらに浅利慶太、中村真一郎、小田島雄志、中野孝次、原卓也、中村雄二郎、フランキー堺、米倉斉加年、大岡玲、桂文珍、辻仁成、島田雅彦、ねじめ正一、高橋源一郎、馳星周、泉麻人等々、多士済々の講師陣を迎えている。

昨年は千住明、加藤幸子、林えり子、高橋順子、車谷長吉、林望の諸氏が講筵に連なった。本年度は作家・映画監督・作詞家の秋元康、『赤毛のアン』の翻訳者で作家の松本侑子、博物学・幻想文学研究者で作家の荒俣宏の諸氏をお招きしている。本講座は文学部設置科目であるが受講に在籍学部を問うものではない。何学部にあっても基本となるのは哲学である。現代日本において優れた業績をあげている人々の警咳に接し教養と人格識見を涵養することこそが、いま塾生に求められている。文学芸術を愛好する塾生諸君の来聴を衷心より歓迎するものである。

【07】【04】現代芸術 (2)(春学期)

「聴きながら見ること」はどこまで可能か？
(エンゼンシュタインの論文を元に)

講師 菊地成孔

授業科目の内容：

エイゼンシュタインの、映像と音楽についての挫折した統一理論「映画における第四次元(1927)」を再読することを手がかりに、視聴覚のミックスメディア、中でも「映画」および「ファッションショー」で生じている諸現象を構造分析し、映像と音楽の齟齬と融和、両者のシンクロナ率について現代的な視点によって再考察する。

テキスト：

なし。

参考書：

- ・「服は何故、音楽を必要とするのか？」菊地成孔著(インファス刊)
- ・「ブルーノートと調性」濱瀬元彦著(全音学譜出版社刊)
- ・「映画にとって音とは何か？」ミッシェル・シオン著・川竹英克＋ジョジアーヌ・ピノン訳(勁草書房刊)

【07】【04】現代芸術 (2)(秋学期)

講師 菊地成孔

授業科目の内容：

エイゼンシュタインの、映像と音楽についての挫折した統一理論「映画における第四次元(1927)」を再読することを手がかりに、視聴覚のミックスメディア、中でも「映画」および「ファッションショー」で生じている諸現象を構造分析し、映像と音楽の齟齬と融和、両者のシンクロナ率について現代的な視点によって再考察する。

テキスト：

なし。

参考書：

- ・「服は何故、音楽を必要とするのか？」菊地成孔著(インファス刊)
- ・「ブルーノートと調性」濱瀬元彦著(全音学譜出版社刊)
- ・「映画にとって音とは何か？」ミッシェル・シオン著・川竹英克＋ジョジアーヌ・ピノン訳(勁草書房刊)

【07】【04】詩学 (2)(春学期)

言葉の機能から詩を考える 講師 田中和生

授業科目の内容：

言葉が詩・物語・批評として機能するとき、わたしたちはそれを文学と呼んでいます。たとえば現在の資本主義社会で支配的な小説という作品形式は、そのいずれをも含むことができますが、逆に言えばそのいずれをも自覚的に含まない場合、それを文学と呼ぶことはできません。とくに現代では詩が衰弱しつつありますが、物語と批評という他の文学的な言葉の機能との比較から、詩について考えていきます。

テキスト：

特に指定しません。必要に応じてプリントを配布します。

【07】【04】詩学 (2)(秋学期)

文学と科学の間で 講師 鈴木光司

授業科目の内容：

日本的な情緒で湛えられた小説の中に、科学の論理をいかに取り入れ、世界に通用する表現を作り上げていくのか、その過程を論じる。現代版「学問のすすめ」

参考書：

「なぜ勉強するのか」鈴木光司、ソフトバンク新書

文学部アート・マネジメント講座 DNP 基金

福沢諭吉は、「国光発於美術」と書いたことがある。国の光は芸術によって発するというわけである。現在、日本では芸術が大量に消費されている。だが、自由な創造活動をとりにくく状況は厳しい。この矛盾を解決して、芸術創造を社会に解放してゆくためには、アーティスト、行政、企業、そして大学などの教育研究機関が、新しいパートナーシップを構築しなくてはならない。そのなかから、新しいアート・シーンを築き、本当に価値のあるものを後世に残すことを、実践的に考えるのが、この講座の目標である。

そのために、講師の他に、芸術とかかわりながら、各セクターで多くの問題を抱えつつも第一線で活躍中の人々がゲストとして登場、いま現在の問題を語る。それは講師との討論に発展することもある。

この種の講座が日本の大学に開設されたのは、慶應義塾が最初である。平成3年、本講座が開講されるや、企業、行政等も含め多くの人がこの講座に強い関心をよせた。なかでも大日本印刷株式会社(DNP)は、慶應義塾におけるアート・マネジメントの研究と教育の発展のために「慶應義塾大学文学部アート・マネジメント講座 DNP 基金」を寄贈された。本講座はこの基金を活用して運営されている。

履修しようとするものは、最初の授業時に年間授業計画、レポート、受講についての詳しい説明をおこなうので必ず出席すること。

【07】アート・マネジメント (セ)(2)(春学期)

【07】アート・マネジメント (セ)(2)(秋学期)

【04】アート・マネジメント(4)(通年)

教授 美山良夫
DMC 機構 特別研究教授 岩淵潤子
講師 南條史生

授業科目の内容：

展示系のアートを軸にしたアート・マネジメントの概説。以下の4つのフレームで構成される。履修上の諸注意は、最初の授業時に配布するので、それらをふまえて履修登録を検討すること。

第1部：変貌する文化装置：制度としての「美術館」と脱美術館
文化展示の多様な様態（日本および欧米における多様な文化展示とその目的）、美術館という「制度」の成立、空間の文化装置化：その多様な仕掛け（オルタナティブ・スペースなど）

第2部：美術品の流通と交流
美術品の特性と画廊の仕事、最近の美術市場・美術館の問題点、オークションの仕組みと社会的役割、アート・フェアの役割・仕組み、古美術品の流通システムなど

第3部：美術展の企画と諸制度
美術をめぐる文化政策、芸術支援（企業による事例の紹介と基本的な考え方）、美術展の企画から開催まで、美術品と著作権、保険

第4部：美術をめぐる活動のひろがりと市民
美術館の活動のひろがり 研究・情報・修復・美術館教育・ボランティア、市民による活動事例

参考書：

初回の授業で指示する。

【07】アート・プロデュース (セ)(2)(春学期)

【07】アート・プロデュース (セ)(2)(秋学期)

【04】アート・プロデュース(4)(通年)

教授 美山良夫
DMC機構 特別研究教授 金子哲理

授業科目の内容：

上演系のアートを軸にしたアート・マネジメントの概説。以下の4つのフレームで構成される。履修上の諸注意は、最初の授業時に配布するので、それらをふまえて履修登録を検討すること。

第1部：変貌する文化装置：制度としての「劇場」と脱劇場
日本のホール その歴史と現状、劇場運営の基本、空間の文化装置化：その多様な仕掛けなど

第2部：文化装置のマネジメント
公立ホールの運営、民間のホール運営、劇団の運営とマーケティング、舞台芸術の国際交流

第3部：芸術及び芸術家（団体）をめぐる制度と支援
日本の文化政策と芸術支援・概説、財団の芸術支援とその課題、舞台芸術の市場規模と今後、イベントと保険

第4部：上演芸術をめぐる活動のひろがりと市民
企画づくりの実際：コンサート・ホールを例に、アートとNPO、ボランティアなど

極東証券寄附講座

本年度は極東証券の寄附により、以下の2科目が開講されることになった。

【07】【04】辞書・事典(2)(春学期)

辞書・事典万華鏡

教授 山下輝彦

授業科目の内容：

辞書・事典はその時々のことばや文化を如実に写す鏡であり、また言葉や事柄の意味・用法を教えてくれる規範性を持った鑑である。今回、文学部の学生諸君を対象にオムニバス形式で行うこの講座は、語学辞書を中心に、文化史や藝術等の面を含めて、辞書編纂の歴史や内容を眺めようとするもので、各国語や情報処理のスペシャリスト、書誌学者、辞書史研究者らがガイド役を務める。印刷された書物形式のものが中心となるが、電子辞書・シソーラス等も取上げる。本講座を聴き、奥行きが深く幅も広い辞書の世界を知り、辞書・事典に親しみ有効に使いこなせるようになってほしい。

テキスト：

なし。コピー、映像等を適宜使用する。

参考書：

各講師が授業時に紹介する。

【07】【04】文献学の世界(2)(秋学期)

教授 佐藤道生

授業科目の内容：

歴史学、文学、書誌学の各分野で文献学的方法を以て研究に従事する研究者12～13名がオムニバス形式で授業を担当し、各自の最新の研究成果を講ずる。履修者はこれによってさまざまな分野に於ける新知見を得るとともに、学問領域の広汎性、方法論の多様性を知ることができるであろう。

今年度のテーマ、講師の顔ぶれなどは年度初めに掲示する。

尚、本講座は定員を20名とする。履修希望者が定員を超えた場合には、選抜試験を行なう。

諸 研 究 所

教職課程センター

言語文化研究所

メディア・コミュニケーション研究所

体育研究所

福澤研究センター

国際センター

保健管理センター

情報処理教育室

アート・センター

知的資産センター

外国語教育研究センター

教 職 課 程

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

言語文化研究所特殊講座

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

平成 20 年度言語文化研究所特殊講座

科目名	講 師	単位数
サンスクリット初級 (春)	土田龍太郎	半期 1 単位
サンスクリット初級 (秋)	土田龍太郎	
サンスクリット中級 (春)	土田龍太郎	
サンスクリット中級 (秋)	土田龍太郎	
アラビア語基礎 (春)	榮谷温子	
アラビア語基礎 (秋)	榮谷温子	
アラビア語現代文講読 (春)	榮谷温子	
アラビア語現代文講読 (秋)	榮谷温子	
アラビア語古典 (春)	岩見 隆	
アラビア語古典 (秋)	岩見 隆	
アラビア語文献講読 (春)	岩見 隆	
アラビア語文献講読 (秋)	岩見 隆	
ヴェトナム語初級 (春)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語初級 (秋)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語中級 (春)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語中級 (秋)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読 (春)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読 (秋)	嶋尾 稔	
ペルシア語初級 (春)	関 喜房	
ペルシア語初級 (秋)	関 喜房	
ペルシア語中級 (春)	岩見 隆	
ペルシア語中級 (秋)	岩見 隆	
タイ語初級 (春)	三上直光	
タイ語初級 (秋)	三上直光	
タイ語中級 (春)	ボンシー, ライト	
タイ語中級 (秋)	ボンシー, ライト	
トルコ語初級 (春)	ヤマンラール, アイドウン	
トルコ語初級 (秋)	ヤマンラール, アイドウン	
トルコ語中級 (春)	ヤマンラール, アイドウン	
トルコ語中級 (秋)	ヤマンラール, アイドウン	
朝鮮語文献講読 (春)	李 美江	
朝鮮語文献講読 (秋)	野村伸一	
カンボジア語初級 (春)	三上直光	
カンボジア語初級 (秋)	三上直光	
ヘブライ語初級 (春)	笈川博一	
ヘブライ語初級 (秋)	笈川博一	
ヘブライ語中級 (春)	笈川博一	
ヘブライ語中級 (秋)	笈川博一	
古代エジプト語初級 (春)	笈川博一	
古代エジプト語初級 (秋)	笈川博一	
古代エジプト語中級 (春)	笈川博一	
古代エジプト語中級 (秋)	笈川博一	
アッカド語初級 (春)	徳井啓介	
アッカド語初級 (秋)	徳井啓介	
アッカド語中級 (春)	徳井啓介	
アッカド語中級 (秋)	徳井啓介	

サンスクリット初級 (春)
サンスクリット初級 (秋)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて、サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。

参加者は、練習問題の予習が必要となる。

テキスト:

- ・ヤン・ホンダ著 鎧淳 訳「サンスクリット語初等文法(春秋社)
- ・辻 直四郎著「サンスクリット文法」(岩波書店)

授業の計画:

- ・サンスクリット語とはなにか
- ・アオリスト活用
- ・子音と母音
- ・完了活用
- ・名詞変化の基礎
- ・その他の動詞形
- ・動詞変化の基礎
- ・複合語等
- ・母音曲用
- ・子音曲用
- ・動詞現在組織
- ・未来及受動変化

随時、宗教・神話・歴史についても解説する。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

サンスクリット中級 (春)
サンスクリット中級 (秋)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語の初歩をすでに一通り修得したもののための授業である。

テキスト:

参加者の希望で決める。

授業の計画:

サンスクリット中級では、参加者と相談して決めたテキストを講読、文化史宗教史的事項と文法解説を行う。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語基礎 (春)
アラビア語基礎 (秋)

言語文化研究所 講師 榮谷 温子

授業科目の内容:

正則アラビア語(フスハー)のアラビア文字の読み方、綴り方からはじめ、一年間で基礎文法を習得することを目的とします。また正則アラビア語による簡単な日常会話フレーズも練習します。

テキスト:

佐々木淑子著『アラビア語入門』(翔文社)
必要に応じてプリントや練習問題を配布します。

参考書:

参考書 黒柳恒男・飯森嘉助『現代アラビア語入門』(大学書林)

授業の計画:

- (春) 第1回 第6回 アラビア文字のつづり方、名詞の性・格・複数、人称代名詞と前置詞
- 第7回 第13回 指示代名詞・形容詞・疑問詞および名詞文の構造
- (秋) 第1回 第7回 動詞完了形・未完了形および受動態・分詞・動名詞・場所名詞
- 第8回 第13回 不規則動詞および派生形

履修者へのコメント:

アラビア語の文法はテキストでの独習のみでは理解がむずかしい部分が多々あります。一回でも授業を欠席すると継続が困難になります。毎回の出席を心がけてください。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語現代文講読 (春)
アラビア語現代文講読 (秋)

言語文化研究所 講師 榮谷 温子

授業科目の内容:

基礎文法の習得を終えた人を対象として現代文の講読を行います。講読を通して、アラビア語の基本的な文章構造の理解、さらには母音記号などの補助記号がついていない文章にたいする読解力の養成を目的とします。

テキスト:

プリントを配布します。

辞書は、Hans Wehr, A Dictionary of Modern Written Arabic-Englishを使用します。

参考書:

- ・佐々木淑子著『アラビア語入門』(翔文社)
- ・黒柳恒男・飯森嘉助『現代アラビア語入門』(大学書林)

授業の計画:

初回には、辞書や文法書、授業の進め方を説明します。最初は母音記号のついた平易な文章からはじめます。その過程で既習の基礎文法や辞書による単語の調べ方を再確認していきます。順次程度の高い文章の講読をしていき、最終的には母音記号のついていない文章を、自らの文法知識を用いて読解できるようにしたいと思います。

(春) 第1回 第6回 母音記号がついた平易な短い物語の講読。

第7回 第13回 母音記号がついた長い文章を講読。

(秋) 第1回 第13回 要所のみ母音記号がついた文章から、最終的には母音記号がつかない文章の講読。

履修者へのコメント:

文法の復習を繰り返しながら文章をよみます。辞書と文法書を必ずもってきてください。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語古典 (春)
アラビア語古典 (秋)

アラビア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

母音符号のついていない普通のアラビア語テキストを読めるようになるための演習です。文法の知識をテキスト読みにどう生かすかを課題としてやります。

テキスト:

Brünnow-Fischer: Arabische Chrestomathie

プリントで配ります

参考書:

井筒俊彦: アラビア語入門, 慶應出版社 1950.

授業の計画:

最初の日、参考書や辞書の紹介などガイダンスをします。

春学期の間は母音符号が全部ついているテキストを読みます。秋学期から少しずつ白文に近いものを読み始め学年末には全くの白文を読むようにしたいと思います。

なお、受講者は毎時必ず自分の勉強した文法書を持参して下さい。常に文法との対比でテキスト読みを進めてゆくつもりです。

履修者へのコメント:

少くとも規則動詞原型の完了、未完了の変化は完全に頭へたたきこんでくること。文字も満足に読めないなどは論外です。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席者は毎回必ずあてます。テストがわりです。)

アラビア語文献講読 (春)
アラビア語文献講読 (秋)
アラビア語演習 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

アラビア語の定評ある古典の中、平易な散文(叙事の文)をあたりまえに読めるようになることを目指します。

テキスト:

受講者と相談して決めます。

参考書:

Wright: Arabic grammar. Cambridge Univ. Press, 1962

授業の計画:

第1回はガイダンスで、参考文献、辞書の使い分けのやり方などを話します。

2回目以降はもっぱらテキスト読みに専念します。

なお、対象が古典ですから、単に文法的に調べるだけでは問題が解決しない場合が多々あります。そういう時に何を調べるかというようなことも考えてゆきたいと思います。

履修者へのコメント:

初等文法の諸規則や用語に慣れていることが必要です。動詞変化の基本をマスターしていること。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席者は毎回必ずあてますから、そのつもりで来て下さい。)

ヴェトナム語初級 (春)
ヴェトナム語初級 (秋)
言語文化研究所 准教授 嶋尾 稔

授業科目の内容:

簡単なヴェトナム語が読めるようになることを目指します。前期は、下記の教科書を用いて、発音、基礎文法、基礎会話を学びます。後期から基礎表現の練習と平行して、簡単な文章を読んでいきます。

テキスト:

三上直光『ニューエクスプレス ベトナム語』(白水社, 2007年)

参考書:

Nguyen Dinh Hoa, *Ntc's Vietnamese English Dictionary*.

授業の計画:

初回のガイダンスで知らせます。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

ヴェトナム語中級 (春)
ヴェトナム語中級 (秋)
言語文化研究所 准教授 嶋尾 稔

授業科目の内容:

新聞記事程度のヴェトナム語が読めるようになることを目指します。前期は基礎的な文章を読みます。後期は、ウェブ上のヴェトナム語の新聞から面白そうな記事を拾って読みます。

テキスト:

初回到受講者と相談して決めます。

参考書:

小高泰・Nguyen Thi Mai Hoa『会話で覚えるベトナム語 666』(東洋書店, 2005年)

授業の計画:

初回のガイダンスで知らせます。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

ヴェトナム語文献講読 (春)
ヴェトナム語文献講読 (秋)
言語文化研究所 准教授 嶋尾 稔

授業科目の内容:

ヴェトナム語で書かれた学術論文を読みます。あるいは、もし希望者がいればチュノムで書かれたヴェトナム語の文章に挑戦します。

テキスト:

初回到受講者と相談して決めます。

参考書:

富田健次『ヴェトナム語の世界: ヴェトナム語基本文典』(大学書林, 2000年)

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

ペルシア語初級 (春)
ペルシア語初級 (秋)
ペルシア語文法 言語文化研究所 講師 関 喜房

授業科目の内容:

現代ペルシア語文法を全くの初歩から講義します。教科書の文法が終わり次第、易しい文章を読むつもりです。その際、文法書には記されていない文法上の例外事項などについて詳しく説明するつもりです。

テキスト:

岡崎正孝著『基礎ペルシア語』(大学書林)

参考書:

黒柳恒男著『ペルシア語の話』(大学書林)

授業の計画:

講義計画は以下の通りです。

- 1 - ガイダンス
- 2 - 文字の習得
- 3 - 教科書を用いた文法の学習(計16回)
- 4 - 易しい現代文を読む練習(計7回)
- 5 - テスト

履修者へのコメント:

教科書の練習問題を必ず予習すること。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

ペルシア語中級 (春)
ペルシア語中級 (秋)
ペルシア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

ペルシア語の文の流れをつかみとれるように、平易なペルシア語散文をできるだけたくさん読みます。

テキスト:

受講する人と相談して決めます。

参考書:

Lambton: Persian grammar. Cambridge Univ. Press, 1974

授業の計画:

最初の日にテキストを相談して決めるなどガイダンスをやります。2回目以後はひたすらテキストを読みます。

履修者へのコメント:

文法は理解しているものと考えてやります。だから動詞の変化など慣れておいて下さい。発音にはとくに気をつけて下さい。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席者は毎回あてますから、毎回テストを受けているようなものだと思って来て下さい。)

タイ語初級 (春)
タイ語初級 (秋)

言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容:

タイ語入門講座。発音, 文字の読み書き, 初級文法, 基本表現の修得を目標とします。

テキスト:

開講時に指示します。

授業の計画:

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え, 後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント:

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

授業中・授業後に受け付けます。

タイ語中級 (春)
タイ語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 ポンシー, ライト

授業科目の内容:

タイの小学校二年生の教科書より短編ストーリーを用いて, タイ語の運用能力向上を目指します。

テキスト:

プリント使用。

授業の計画:

前期は文章表現と読解力, 後期は会話表現と聞き取りに重点を置きます。

履修者へのコメント:

あらかじめ単語の意味を調べてきて下さい

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

トルコ語初級 (春)
トルコ語初級 (秋)
トルコ語初級

言語文化研究所 講師 ヤマンルール, アイドウン

授業科目の内容:

トルコ共和国の現代トルコ語初級文法を講義します。基礎的な文法事項を学習しますが, 簡単な講読も行います。

テキスト:

プリント使用

授業の計画:

- (春) 第1 - 2回 トルコ語の特色, 母音・子音の調和。
- 第3 - 7回 “～は です”の構文, 助詞(格), 副詞, 形容詞
- 第8 - 13回 動詞(現在・単純過去・超越などの時制)
- (秋) 第1 - 4回 動詞(伝聞過去・未来などの時制と複合時制)
- 第5 - 8回 分詞
- 第9 - 11回 動名詞
- 第12 - 13回 条件文, 仮定法など

以上は初級文法の主要な学習事項と予定です。授業の進行に応じて順番などが変わるので, 一応の目安と考えてください。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

トルコ語中級 (春)
トルコ語中級 (秋)

トルコ語中級

言語文化研究所 講師 ヤマンルール, アイドウン

授業科目の内容:

初級文法を学んだ人を対象に講読を行います。文法事項の復習にも重点を置くつもりです。

テキスト:

プリント使用

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

朝鮮語文献講読 (春)

朝鮮語文献講読 (秋) 言語文化研究所 講師 李美江
文学部 教授 野村伸一

授業科目の内容:

大韓民国という国家, 社会と現状を知るためのテキストを講読します。

文学作品は同時代の社会を強く反映しているといえます。1920年代から1980年代にかけての韓国を代表する文学作品に数多く接し, その時代の社会の有様と, 韓国人のものの見方や考え方を探ることを目的とします。

テキスト:

イ・ナムホ編『今日の韓国小説』民音社, 2000年

イ・ナムホ編『韓国短編文学選』民音社, 1998年

各自, 韓国書籍を扱う書店(例, 三中堂, 高麗書林)もしくはソウルの大型書店に注文して入手してください。

授業の計画:

毎回, 原文で4, 5頁の講読をします。受講者は翻訳してきてください。

履修者へのコメント:

受講者は朝鮮語を読む準備ができていないことが前提となります。口頭での会話能力は必要ありません。ひとまず日本語にした上で, なお, それをよく吟味してみてください。なかなか日本語にならないところ, 明らかに違ってもおもしろい表現に出会うことがたいせつです。

この授業に関連することがらは随時, <http://web.hc.keio.ac.jp/~shnomura/kougi.html> に掲載します。

前期と後期で担当者は代わりませんが, 教材は同じです。

成績評価方法:

出席すること, 翻訳の難しさ・妙味についてのレポートを学期末に提出することで評価します。

カンボジア語初級 (春)

カンボジア語初級 (秋)

言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容:

カンボジア語入門講座。発音, 文字の読み書き, 初級文法, 基本表現の習得を目標とします。

テキスト:

開講時に指示します。

授業の計画:

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え, 後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント:

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

授業中・授業後に受け付けます。

ヘブライ語初級 (春)

ヘブライ語初級 (秋)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

旧約聖書ヘブライ語の初歩。まったくの初心者を想定している。

テキスト:

テキストは比較的繰り返しの多い創世記を用いるが、プリントを授業で配布する。

参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500 ~ ¥10000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、辞書の助けを借りて散文をある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問, 相談があれば, hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

ヘブライ語中級 (春)

ヘブライ語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

旧約聖書サムエル記の講読。

テキスト:

テキストはプリントを授業で配布する。

参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500 ~ ¥10000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画:

初級でプラクティカルに習得した文法を体系的に復習する。さらにヘブライ語の理解を深め、散文は自由に読めるようにする。後期には詩文にも挑戦したい。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問, 相談があれば, hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語初級 (春)

古代エジプト語初級 (秋)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

文法体系が比較的よく分かっている後期エジプト語の初歩。まったくの初心者も想定している。

テキスト:

テキストは「ヴェナモン」を用いるが、プリントを授業で配布する。

参考書:

5月ごろから辞書(約¥9000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、後期エジプト語を辞書の助けを借りてある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問, 相談があれば, hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語中級 (春)

古代エジプト語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

中期エジプト語の初歩。

テキスト:

テキストは「難破した水夫」であるが、プリントを授業で配布する。

参考書:

辞書は Raymond O. Faulkner "A Concise Dictionary of Middle Egyptian" Oxford (Amazon JP で ¥3542), あるいはその日本語訳が必要となる。

授業の計画:

初級でやった後期エジプト語と対比しつつ、より困難な中期エジプト語を学ぶ。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問, 相談があれば, hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

アッカド語初級 (春)

アッカド語初級 (秋)

言語文化研究所 講師 高井啓介

授業科目の内容:

アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Babylonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。下記に指定した教科書を使いますが、足りないところは適宜プリントによって補っていく予定です。文法事項を学び進めながら、アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には、ハンムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。

テキスト:

Richard Caplice, *Introduction to Akkadian* (Biblical Institute Press)

参考書:

開講時に指示します。

授業の計画:

以下のようなスケジュールを予定していますが、授業の進み具合に応じて変更することもあります

前後期を通じて

1. ガイダンス
2. アッカド語及びその文字表記システムの概観
3. 音韻論
4. 名詞 (計三回) コンストラクト形を中心に
5. 動詞 G 語幹 (計五回, 語根の判別, 変化, 叙法など) とその派生形
6. 動詞 D 語幹とその派生形 (計三回)
7. 動詞 S 語幹とその派生形 (計三回)
8. 動詞 N 語幹とその派生形 (計三回)
9. アッカド文学の概観
10. ハンムラビ法典, イシュタルの冥界下りなど テキストを読みつつ文法事項を確認します (計五回)

履修者へのコメント:

古代メソポタミアの文化, 歴史, 宗教についても適宜紹介していくつもりです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば anisinin@gmail.com まで連絡してください。

アッカド語中級 (春)

アッカド語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 高井 啓介

授業科目の内容：

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら、簡単なものからはじめていろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

テキスト：

テキストはプリントを準備します。

授業の計画：

講義計画

読むテキストについては、初回に受講者と相談の上決定するつもりですが、以下のような内容のテキストを取り上げることになるでしょう。

(春): 王碑文, 書簡, 法律文書, 契約文書など (計十三回)

(秋): 神話・叙事詩, 祈り文学, 占い文書など (計十三回)

履修者へのコメント：

楔形文字を読み解いて行く面白さを味わっていただきたいです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば anisinin@gmail.com まで連絡してください。

メディア・コミュニケーション研究所

所長（法学部教授） 大石 裕

慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所について

メディア・コミュニケーション研究所は、1946年に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。新聞研究室は、後に新聞研究所と名称を改め、1996年に創立50周年を迎えました。それを機に、名称もメディア・コミュニケーション研究所となりました。その背景には、放送が急速に発展し、新聞とともにマス・メディアの中心に位置するようになったこと、そしてインターネット時代を迎えるようになったことがあげられます。

新聞研究所は、第二次世界大戦前と戦争中、新聞報道を中心とする日本のマス・メディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合国占領軍が、戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して、その遂行に貢献しうる人材の育成とともに、マス・メディア研究を行いうる研究機関の設置を幾つかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾であり、後に法学部の学部長になった米山桂三教授に研究所の運営が任されることになったというのがその発端であると伝えられております。

この目的は現在も継承されており、メディア・コミュニケーション研究所は、新聞、放送、通信社、出版、広告などのマス・メディア業界に就職を希望する学生のための教育機関として大きな役割を果たしてきました。また、メディアやコミュニケーションについて、教員と学生（この研究所では研究生と呼ばれています）が研究を進める機関でもあります。

実は、私も1979年にこの研究所（新聞研究所）を修了しました。私の研究生時代、研究所の規模は小さく、専任や非常勤の先生方に公私にわたって大変お世話になりました。文章作法では自分の作文力のなさを、研究会では基礎概念の理解不足を実感させられました。でも、そうした経験は、今貴重な財産になっています。現在の研究生も、私と同じような経験をしていることでしょう。

この研究所は、名前をあげれば誰でも知っているような著名なジャーナリストやメディア業界で活躍する人材を数多く輩出してきました。また、それほど目立たなくても個性的で優れた仕事をしているジャーナリスト、そしてマス・メディア企業の経営者になった修了生も多数います。こうした伝統は脈々と受け継がれています。もちろん、すべての修了生が、マス・メディアやその関連業界に進むわけではありません。しかし、この研究所で学んだこと、そして人とのつながりは、必ずやマス・メディア業界以外でも様々な形で生かされていくはずです。

研究生たちは今、従来型のマス・メディアだけでなく、様々なメディアを通じて情報を入手し、それを処理・加工し、情報発信をしています。でもその基本はやはり、入手した情報をもとに「考え」、そして「表現する」ことだと思います。特に、批判的に「考える」ことの重要性は、高度情報社会の今でも変わらないのは当然です。その力をぜひ、この研究所で磨くようにしてください。そして、その成果を社会に還元するようにして下さい。それが私の心からの期待であり、希望です。

カリキュラム

1. 設置科目について

研究所には、基礎科目、研究会、特殊研究、基礎演習の4つの講義群がある。

このうち、基礎科目は研究生以外（2年生以上）でも履修可能なオープン科目となっている。但し、2年生以上で、三田設置科目を含めて履修可能であるが、学部によっては履修できない場合もあるので、学部履修要項等で確認すること。また、学部での単位の取扱いは、学部履修要項を熟読すること。

- ・基礎科目（オープン科目）
メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。
- ・研究会（研究生のみ対象）
研究所における学習の中心となる科目で、2年生より履修できる。
- ・特殊研究（研究生のみ対象）
少人数の講義で、実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。
- ・基礎演習（研究生のみ対象）
メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

2. 研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は、メディア・コミュニケーションの研究、あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い、同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年12月中旬に行われる入所選考に合格し、研究生となることを許可された者は、修了までに合計28単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが、それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならない、それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

- (1) 入所説明会（入所申込書配布）10月下旬～11月中旬に三田、日吉、藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。
- (2) 入所試験（選考）12月上旬に三田で行う。

3. 修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには、以下の各群から所定の単位を合計28単位以上取得しなければならない。

- ・基礎科目 10単位以上
- ・研究会 8単位以上
- ・特殊研究 4単位以上
- ・基礎演習 2単位以上
- 合計 28単位以上

2～4年の春学期までに研究会 ～ を順番に履修し6単位以上取得する。4年秋学期には必ず研究会（論文指導）を履修すること。すなわち、「研究会 ～ と研究会 は全員が履修するが、研究会 と は必修ではない。」

3～4年では原則として同一研究会を履修すること。

平成 20 年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所開設科目一覧

* 基礎科目（オープン科目） 研究生以外も履修可能

設置場所	科目名	単位数	講師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論 ・（法学部併設）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史 ・（法学部併設）	春2/秋2	大井 眞二
三田設置科目	国際コミュニケーション論 ・（法学部併設）	春2/秋2	奥野 昌宏
三田設置科目	メディア社会論（法学部併設）	春2	遠藤 薫
三田設置科目	メディア法制	春2	宿南達志郎
三田設置科目	メディア法制	秋2	大石 泰彦
三田設置科目	ジャーナリズム論	春2	烏谷 昌之
三田設置科目	ジャーナリズム論	秋2	伊藤 高史
三田設置科目	世論	春2	小川 恒夫
三田設置科目	情報行動論	春2	小城 英子
三田設置科目	異文化間コミュニケーション	春2	白水 繁彦
三田設置科目	異文化間コミュニケーション	秋2	藤田 結子
三田設置科目	メディア文化論 ・	春2/秋2	小川 葉子
三田設置科目	メディア産業と政策	春2	菅谷 実
三田設置科目	メディア産業と政策	秋2	豊嶋 基暢
三田設置科目	情報産業論 ・	春2/秋2	宿南達志郎
三田設置科目	ジャーナリズム総合講座 ・（朝日新聞寄附講座）	春2/秋2	大石・伊藤高・和泉
三田設置科目	コミュニケーション調査法 ・	春2/秋2	伊藤 陽一
三田設置科目	フジテレビ寄附講座 テレビメディア論 ・	春2/秋2	石丸・菅谷・豊嶋
三田設置科目	毎日コミュニケーションズ寄附講座 ・ メディアの再編	春2/秋2	河内 孝

* 研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	萩原 滋
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	菅谷 実
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	金山 智子
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	小川 葉子
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	李 光鎬
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	金 正勲
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	豊嶋 基暢
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	藤田 結子

* 特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義	春2	鈴木 祐司
三田設置科目	放送特殊講義	秋2	村尾 尚子
三田設置科目	フジテレビ寄附講座 特殊研究 ・（テレビ・ジャーナリズム）	春2/秋2	安倍 宏行
三田設置科目	新聞特殊講義 ・	春2/秋2	岡田 直敏
三田設置科目	広告特殊講義 ・	春2/秋2	升野 龍男
三田設置科目	メディア特殊講義	春2	坪田 知己
三田設置科目	メディア特殊講義	秋2	堀 主知ロバート
三田設置科目	特殊研究 ・（日本の近代化とマス・メディア）	春2/秋2	小川 浩一
三田設置科目	特殊研究（市民とメディア）	秋2	金山 智子
三田設置科目	特殊研究（若者文化とメディア）	春2	藤田 結子
三田設置科目	メディア産業実習 ・	春2/秋2	豊嶋・菅谷・小川・藤田

* 基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語 ・	春2/秋2	宮川美樹子
三田設置科目	文章作法 ・	春2/秋2	稲井田 茂
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習	春2	金山 智子
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習	秋2	渡辺真由子
三田設置科目	映像コンテンツ制作 ・	春2/秋2	大久保 成
三田設置科目	メディア・ネットワーク実習 ・	春2/秋2	田辺 浩介

【基礎科目】

マス・コミュニケーション論 (春)

マス・コミュニケーションと政治 大石 裕

授業科目の内容:

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト:

・大石裕『コミュニケーション研究(第2版)』慶應義塾大学出版会

参考書:

・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房
・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

授業の計画:

- 1回 コミュニケーションの類型
- 2-3回 大衆社会モデル:弾丸効果モデル
- 4-5回 限定効果モデル
- 6-7回 強力効果モデル
- 8-9回 強力影響・機能モデル
- 10回 批判モデル
- 11-12回 ジャーナリズム論再考

履修者へのコメント:

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接していることが望ましい。

成績評価方法:

・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
・レポートによる評価

マス・コミュニケーション論 (秋)

ジャーナリズムとメディア言説 大石 裕

授業科目の内容:

ジャーナリズムに関する理論的考察(ニュース論や客観報道論など)、言説分析によるニュース分析、メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

テキスト:

・大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』勁草書房
・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

参考書:

・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房
・大石裕・山本信人編『メディア・ナショナリズムのゆくえ』朝日新聞社
・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社
・小林直毅編『「水俣」の言説と表象』藤原書店

授業の計画:

- 1-2回 マス・コミュニケーション論の中のジャーナリズム論
- 3回 アジェンダ設定メディアとしての新聞
- 4回 日本のジャーナリズム論の理論的課題
- 5-6回 ニュース分析の視点
- 7-8回 客観報道論再考
- 9-10回 集合的記憶とマス・メディア
- 11-12回 メディア・イベントの政治学

履修者へのコメント:

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接することが望ましい。

成績評価方法:

・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
・レポートによる評価

マス・コミュニケーション発達史 (春)

歴史(過去)との対話 大井 眞二

授業科目の内容:

以下の項目を「日本」をコンテキストにおいて講ずる。

1. 近代社会とジャーナリズム
2. 近代都市空間とメディア
3. 政治とジャーナリズム
4. 言論出版の自由
5. ジャーナリズムの機能
6. 不偏不党の「日本型」ジャーナリズム

テキスト:

特に指定しません。適宜講義資料プリントを配布します。

参考書:

・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』(世界思想社)
・大井眞二責任編集『メディアの変貌と未来』(八千代出版社)

授業の計画:

次の講義計画で講義を行います。

1. ガイダンス(1回)
2. 研究文献、先行研究の解題(1回)
3. 幕末維新期の新聞(計3回)
4. 明治政府の言論政策(計3回)
5. 政治ジャーナリズム(計3回)
6. 不偏不党のジャーナリズム(計2回)

履修者へのコメント:

テキストを使用しないため、ノートテーキングの仕方を工夫してください

成績評価方法:

・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
・平常点(出席状況および授業態度による評価)

質問・相談:

授業の折に、受け付ける。また、適宜、機会を設ける。

マス・コミュニケーション発達史 (秋)

歴史(過去)との対話 大井 眞二

授業科目の内容:

以下の項目を「外国」をコンテキストにおいて講ずる。

1. 近代社会とジャーナリズム
2. 近代都市空間とメディア
3. 政治とジャーナリズム
4. 言論出版の自由
5. ジャーナリズムの機能
6. 比較ジャーナリズム史

テキスト:

特に指定しません。適宜講義資料プリントを配布します。

参考書:

・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』(世界思想社)
・大井眞二責任編集『メディアの変貌と未来』(八千代出版社)

授業の計画:

次の講義計画で講義を行います。

1. ガイダンス(1回)
2. 研究文献、先行研究の解題(1回)
3. ヨーロッパ近代と新聞(計3回)
4. 党派的ジャーナリズムの位相(計3回)
5. 商業ジャーナリズムと公共圏(計3回)
6. 客観性とジャーナリズム(計2回)

履修者へのコメント:

テキストを使用しないため、ノートテーキングの仕方を工夫してください。

成績評価方法:

・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）
- 質問・相談：
授業の折に、受け付ける。また、適宜、機会を設ける。

国際コミュニケーション論（春）

メディアと国際関係

奥野昌宏

授業科目の内容：

コミュニケーション・メディアを媒介にした国際間の情報・文化の流通にかかわる諸問題を考えていきます。メディアの発達には私たちが関係する世界を拡大してきましたが、一方でさまざまな問題も惹起させており、時として国際的な紛争を生じさせてきました。

この授業では、コミュニケーションとは何か、メディアとは何か、といった基本的な点から出発して、国際コミュニケーションとは何かという論題に至り、このテーマに関連する諸問題を考察していきます。マス・メディアを中心とするコミュニケーション・メディアと国際的な情報や文化のかかわり、すなわちメディア・コミュニケーションをめぐる国際関係を考えることがこの授業の中心です。

テキスト：

特に定めません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書：

武市英雄・原寿雄 責任編集『グローバル社会とメディア』（叢書現代のメディアとジャーナリズム1）、ミネルヴァ書房、2003年。その他、適宜紹介します。

授業の計画：

1. コミュニケーション，メディア，そして国際コミュニケーション
2. メディアの発達と国際的進展
3. マス・メディアの国際化と新世界情報コミュニケーション秩序論争
4. メディアのグローバル化と国際的再編成
5. メディアと国際関係：情報と文化の諸相

それぞれについて2～3回の授業を行います。
上記のほか、国際コミュニケーションに関連する時宜に応じた話題も取り上げたいと思います。そのため授業の進行が多少変更になることがあります。

また必要に応じてビデオ等の視聴覚素材も使用したいと考えています。

履修者へのコメント：

授業は基本的に講義形式で進めますが、授業中に小テストやエッセイなどを課します。これらの課題も成績に反映させます。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
- ・授業内試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

質問・相談：

授業時に受けます。

国際コミュニケーション論（秋）

東アジアのメディア・情報・文化

奥野昌宏

授業科目の内容：

東アジアにおけるメディア状況とメディアを介した情報・文化の流通にかかわる諸問題について考えていきます。メディアの発達によって近隣諸国との関係はより緊密になってきましたが、それと同時にさまざまな軋轢も拡大させています。メディアは国際理解の促進役となりますが、時として国際間の紛争を増幅する装置としても働いています。

この授業では、韓国と中国を中心に、東アジアのメディア状況を概観した上でそれらの国々と日本との関係を、国際コミュニケーションの視点から考察します。各国のメディアが情報や文化をめぐる交流と葛藤にどうかかわっているのか、当該地域の人びとの国際理解の促進あるいは阻害の要因としてどのような働きをしているのか。こうした点をともに考えていきたいと思っています。

テキスト：

特に定めません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書：

適宜紹介します。

授業の計画：

1. ガイダンス：東アジアのメディア概観
2. 韓国のメディア状況と社会・文化
3. 中国のメディア状況と社会・文化
4. 東アジアにおける日本の大衆文化
5. 「韓流」文化の生産と受容
6. 東アジアの国際関係とメディアの役割

それぞれについて2～3回の授業を行います。

上記のほか、国際コミュニケーションに関連する時宜に応じた話題も取り上げたいと思います。そのため授業の進行が多少変更になることがあります。

また必要に応じてビデオ等の視聴覚素材も使用したいと考えています。

履修者へのコメント：

授業は基本的に講義形式で進めますが、授業中に小テストやエッセイなどを課します。これらの課題も成績に反映させます。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
- ・授業内試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

質問・相談：

授業時に受けます。

メディア社会論（春）

情報グローバル化と文化変容

遠藤 薫

授業科目の内容：

メディアとは人間/社会にとって何であるのか、という根本的問いをふまえて、グローバル・メディアの行き渡った社会における文化と個人の意識を考察する。

テキスト：

- ・遠藤薫『グローバル化と文化変容』世界思想社、2007年
- ・遠藤薫『複合メディア社会と コミュニティ（仮）』東京電機大学出版局、2007年

参考書：

- ・遠藤薫『間メディア社会と 世論 形成』東京電機大学出版局、2007年
- ・遠藤薫『インターネットと 世論 形成』東京電機大学出版局、2004年
- ・遠藤薫『電子社会論』実教出版、2000年

授業の計画：

1. 社会とメディア
2. メディアとは何か
3. 現代メディア文化の諸相 (1)
4. 現代メディア文化の諸相 (2)
5. 現代メディア文化の諸相 (3)
6. 現代メディア文化の諸相 (4)
7. 現代メディア文化の諸相 (5)
8. 現代メディア文化の諸相 (6)
9. 現代メディア文化の諸相 (7)
10. 現代メディア文化の諸相 (8)
11. 文化 の時代としての現代
12. メディア複合文化の諸相
13. メディア複合と社会構造の変容

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価

メディア法制 (春)	宿南達志郎
インターネットと情報法	

授業科目の内容:

インターネット時代におけるメディア関連法の枠組みと課題について学ぶ。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

- ・宇賀克也, 長谷部恭男編著『法システム : 情報法』放送大学教育振興会(放送大学教材), 2006年
- ・中山信弘著『著作権法』有斐閣, 2007年
- ・福井健策編/内藤篤・升本喜郎著『映画・ゲームビジネスの著作権』著作権資料協会, 2007年
- ・宿南達志郎「迷惑メール対策の有効性に関する分析」『メディア・コミュニケーション No.57』, 2007年3月

授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) 放送法の枠組みと課題 (1) 放送法総論
- (3) 放送法の枠組みと課題 (2) NHK
- (4) 放送法の枠組みと課題 (3) CATV
- (5) コンテンツ関連法の枠組みと課題 (1) コンテンツ法
- (6) コンテンツ関連法の枠組みと課題 (2) 著作権法
- (7) コンテンツ関連法の枠組みと課題 (3) 独禁法(再販, 特殊指定)
- (8) 通信法(通信の秘密と有害コンテンツ)
- (9) ネットいじめと法規制
- (10) 迷惑メール対策法
- (11) 個人情報保護法
- (12) 情報通信法(仮称)
- (13) まとめ

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

メディア法制 (秋)	大石泰彦
「取材・報道の自由」の現状と課題	

授業科目の内容:

本講義は、「取材・報道の自由」をキーワードに、マス・メディア(新聞社・放送局など)やジャーナリストの取材・報道活動にかかわるさまざまな法制度をとり扱う。受講者が、マス・メディア(ジャーナリスト)にかかわるさまざまな事件について、単に印象批評や感情論ではなく理論的・学問的に分析・批判できるようになること、それがこの講義の目標である。

テキスト:

大石泰彦著『メディアの法と倫理』(嵯峨野書院, 2004年, 2500円)

参考書:

特に指示しない。ただ、堀部政男・長谷部恭男編『メディア判例百選』(別冊ジュリスト, 有斐閣)は、授業において手薄になりがちな判例に関する知識を補うのに役立つと思われる。

授業の計画:

1. 取材・報道の自由とは何か
2. 取材・報道の自由と権力
3. 取材・報道の自由を裏打ちするもの
4. 名誉毀損
5. プライバシー侵害
6. 報道倫理

ひとつのテーマに、約2回の講義をあてる。

履修者へのコメント:

継続的に新聞を読み、テレビ・ニュースを見る意欲・時間のない者や、「メディアの倫理」を考える授業にふさわしい「学生の倫理」を身につけていない者の受講は望まない。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価(受講者数が少ない場合、レポートに代えることがある。)
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム論 (春)	烏谷昌之
--------------	------

授業科目の内容:

この講義では「社会問題とジャーナリズム」について考えます。戦争、テロ、歴史問題、公害問題、原発問題、沖縄問題など多様な社会問題について考えていくうえで、ジャーナリズムの活動に注目することが、どのような思考の可能性に開かれているかを議論したいと思います。

テキスト:

指定しません。適宜レジュメを配布します。

参考書:

- ・大石裕編「ジャーナリズムと権力」世界思想社, 2006年
- ・小林直毅編「水俣の言説と表象」藤原書店, 2007年

授業の計画:

1. ガイダンス
2. 戦争とフォト・ジャーナリズム
3. テロリズムとジャーナリズム
4. 日中報道倫理の衝突
5. 戦争の記憶とジャーナリズム
6. 水俣病事件とジャーナリズム
7. 大規模公共事業とジャーナリズム
8. 人物論とジャーナリズム(1)
9. 人物論とジャーナリズム(2)
10. 原発論争とジャーナリズム(1)
11. 原発論争とジャーナリズム(2)
12. 沖縄イニシアティブ論争とジャーナリズム
13. 補足とまとめ

履修者へのコメント:

授業はきっかけでしかありません。授業を社会問題を考える入口として利用し、独自に名作と出会って欲しいと希望します。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価(持込可の試験を予定しています。)
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価(原則、毎回小ペーパーに講義の感想を書いて提出してもらう予定です。)

ジャーナリズム論 (秋)	伊藤高史
ジャーナリズムと権力: 法社会学・政治社会学の観点から	

授業科目の内容:

法社会学と政治社会学の観点から、ジャーナリズムと権力の関係を考察します。

参考書:

- 伊藤高史著『「表現の自由」の社会学』(八千代出版, 2600円税別)

授業の計画:

1. ガイダンス
2. ジャーナリズムと世論
3. ジャーナリズムと国家権力の関係を考えるための理論
4. ~ 6. 事例研究
7. ~ 8. 外交政策とジャーナリズム
9. ~ 10. 情報操作
10. ~ 13. 情報源の保護

履修者へのコメント:

授業開始と同時に、出席をとります。遅刻は一切考慮しません。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価(持ち込み可)
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席のほか、授業中に課す課題の結果も考慮します。)

世論 (春)

世論形成のメカニズムと今後の課題

小川 恒夫

授業科目の内容:

世論形成のメカニズムや、報道の問題点および今後のあり方などについて考えます。

テキスト:

『政治メディアの「熟慮誘発機能」』八千代出版

参考書:

なし(授業内で紹介します)

授業の計画:

- (1) ガイダンス
- (2) 理念的世論と現実的世論
- (3) 歴史的な事件において世論の果たした役割を概観する
- (4) 世論形成の垂直的影響(マスコミ)と水平的影響(口コミ)
- (5) 受け手は主体的に世論を形成するという見方
- (6) 受け手は常に操作的に世論を形成するという見方
- (7) 受け手は主体的にも操作的にも世論を形成するという見方
- (8) 受け手の置かれた社会状況と世論形成
- (9) 広告論からみた世論形成
- (10) 学習・教育論からみた世論形成
- (11) 情報処理過程モデルからみた世論形成
- (12) マスメディアの社会的責任と世論
- (13) 全体のまとめと残された課題

履修者へのコメント:

テキストに沿って授業を進めていきます。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

授業終了後とその都度

情報行動論 (春)

小 城 英 子

授業科目の内容:

犯罪、災害、不思議現象、ファン心理など、具体的な事例を切り口にマス・コミュニケーションの影響過程について学びます。

授業の計画:

1. ガイダンス
 2. 災害とマス・メディア(計3回)
 3. 劇場型犯罪とマス・コミュニケーション(計3回)
 4. 不思議現象とマス・コミュニケーション(計3回)
 5. ファン心理(計3回)
- 1~5. は、社会情勢などに応じて、順序を入れ替えることがある

履修者へのコメント:

授業は教員と受講生との相互コミュニケーションで成り立っています。

積極的な参加を求めます。

成績評価方法:

レポートによる評価

異文化間コミュニケーション (春)

メディアによるイメージ形成と受け手の解釈

白 水 繁 彦

授業科目の内容:

民族や地域社会など、ひろく集団や地域のイメージの形成にはメディアが深く関わってきた。それが当該集団や地域の理解を助けたり、阻害したりしてきた。この授業では、実際にメディアがイメージ形成に関わっている事例をとりあげ、その制作意図を探り、また受け手がそれをどう解釈するか、といったことごらを検討してみたい。

テキスト:

なし。パワーポイントやビデオによる資料提示。

参考書:

・白水繁彦編『移動する人びと、変容する文化』御茶の水書房

2008年

・山中速人『イメージの「楽園」 観光ハワイの文化史』筑摩書房
1992年

授業の計画:

- 1~2. 異文化間コミュニケーションとは
異文化間コミュニケーションの諸相, 異文化間コミュニケーションの社会心理学
- 3~4. メディアのイメージ形成力
メディアメッセージと人びとの知覚, 認知: メディアの社会心理学
状況の定義づけ, 社会的事実とメディアメッセージ: メディアの社会学
- 4~5. 民族集団のイメージ形成と宣伝 ヒットラー, ゲッペルスの世界
- 6~8. 地域社会のイメージ形成
ハワイの例, 湯布院の例
- 9~10. 「沖縄」イメージ形成の形成
ハワイのウチナーンチュ・ムーブメント
沖縄のウチナーンチュ・ムーブメント
- 11~12. ワークショップ メディアメッセージの分析
広告の分析実践 高級ブランドの広告分析, 観光フライヤー等の分析
13. 全体のまとめ

履修者へのコメント:

好奇心旺盛で、熱心な学生の履修を望みます。授業時間中にしばしばエッセイを書かせます。また、頻りに質問を致します。それに答える必要がありますので、旺盛な参加意欲が必要です。

成績評価方法:

- 1・試験の結果による評価 50%
- 2・レポートによる評価 エッセイの本数と内容の評価 50%
- 3・平常点: 上記の2. と同様

質問・相談:

できれば授業中または授業後に直接質問してください。時間がないときはメールによる質問も受け付けますが返事に時間がかかる場合があります。

異文化間コミュニケーション (秋)

藤 田 結 子

授業科目の内容:

この授業では、「ネイション(=国民・民族)の文化とコミュニケーションに関する問題を考察していきます。言語、行動、組織を中心とした狭義の異文化間コミュニケーションではなく、イメージ形成、表象、マスメディアなどを含む広義の異文化間コミュニケーションを対象とします。

テキスト:

秋学期開始時に指定します

授業の計画:

- 第1回 ガイダンス
- 第2 4回 「日本人」のアイデンティティ
「日本人らしさ」とは何か
日本人の表象, オリエンタリズム
- 第5 8回 マルチエスニック・ジャパン
日本の中のエスニック・マイノリティ
外国人のステレオタイプ
「英語支配」の問題
- 第9 10回 グローバル化の中の日本人
日系人の経験
近年の移住者: 駐在員・女性・留学生
- 第11 12回 越境文化
ハイブリッド化するポピュラーカルチャー
コスモポリタン文化の可能性

履修者へのコメント:

授業では、毎回、テレビ番組などの映像資料を用いて講義をする予定です

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア文化論（春）

映画コンテンツとクロス・メディア研究 小川 葉子

授業科目の内容：

メディアやジャンルを横断するような映画の名作を視聴し、ディスカッションをおこなうことで、クリエイティブなメディア文化の担い手を養うことを目的とする。

教員の指定リストのなかから、履修者の希望をきいて、毎回映画の上映、ディスカッション、レポート（数回）をおこなう。

最後の数回は、履修者自身がぜひ観てもらいたい映画の上映と解説、最終グループ・プレゼンテーションを予定している。

テキスト：

授業中に指示する。

参考書：

授業中に指示する。

授業の計画：

- (1) ガイダンスおよび導入
- (2) エンタテインメントの歴史（2～14は適宜選択）
- (3) ニュース
- (4) 新聞とジャーナリズム
- (5) 人種とエスニシティの表象
- (6) ドキュメンタリー
- (7) フィルム・ノアール
- (8) ミュージカル
- (9) スリラーとサスペンス
- (10) 古典的物語
- (11) ポストモダニズム
- (12) 北欧映画
- (13) アジアその他の地域の映画
- (14) 映画上映と履修者による最終グループ・プレゼンテーション（3回）

履修者へのコメント：

そののちのディスカッションを充実させるため、映画上映中のPC、携帯電話等の使用は控えて下さい。

成績評価方法：

- ・平常点（出席、授業態度、およびプレゼンテーション）
- ・数回の小レポート。

質問・相談：

授業終了後、あるいは履修者に指示するオフィス・アワーか、事前のアポイントメントにより受け付けます。

メディア文化論（秋）

映画コンテンツとクロス・メディア研究：
クリティカルな批評からクリエイティブな企画立案へ
小川 葉子

授業科目の内容：

既存の映画コンテンツの批判から、新たなクリエイティブ・コンテンツの企画・立案につながる創造的な思考のプロセスをシュミレートすることを目的とする。

グローバルイゼーションや文化（財）、行政、企業の社会的責任（CSR）も視野に入れつつ、セミ・ドキュメンタリー、音楽映画等の特定のジャンルのほか、SF、アニメ等の考察を対象とする。

テキスト：

授業中に指示する。ハリウッド映画ジャンルに関するボードウェルの邦訳も含む。

参考書：

授業中に指示する。

授業の計画：

- 1) ガイダンスおよび導入
- 2) グループ分けと作業手順の説明

- 3) セミ・ドキュメンタリーと音楽映画（3回）
- 4) 各班による上映映画の選択とプレゼンテーションと批評、コメント
- 5) 前回の批評・コメントに基づいたオルタナティブな企画案の作成（4、5のペアにより各4回）
- 6) 最終レポートの作成とクリエイティブな思考プロセスの探索
- 7) 履修者個人々人へのフィードバックとまとめ

履修者へのコメント：

当該年度か前年度に「メディア文化論」（春学期）を履修しているか、あるいは映画を30本以前観賞している程度の知識を有していることを履修の前提とします。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（数回の授業内小レポートおよび企画書）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（出席、授業態度、およびプレゼンテーション）

質問・相談：

授業終了後、あるいは履修者に指示するオフィス・アワーか、事前のアポイントメントにより受け付けます。

メディア産業と政策（春）

メディア政策基礎理論と映像産業政策 菅谷 実

授業科目の内容：

前半はメディア産業の市場と組織および政策を理解するために必要な基礎理論、後半は映画を中心とした映像コンテンツ産業の構造と政策を取り上げます。

テキスト：

菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』（丸善、2002年）

授業の計画：

本年は以下の予定で講義を進めます。

オリエンテーション（1）

基礎理論（5）

- 1 メディア政策
 - 2 政府規制
 - 3 メディア市場
- 映像コンテンツ産業（6）
- 4 映像コンテンツと映画
 - 5 映画産業の発展
 - 6 映像振興政策（欧州、米国、日本）
- まとめ（1）
- 7 メディア融合とコンテンツ

履修者へのコメント：

コンテンツ産業、映画産業に興味ある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法：

試験の結果による評価（基礎理論部分の小テストと期末試験で評価する）。

質問・相談：

毎回講義終了時に質問、相談を受け付けます。

メディア産業と政策（秋）

通信・放送融合時代の情報通信政策 豊嶋基暢

授業科目の内容：

通信・放送産業を中心としたメディア産業に関する政策の動向と今後の課題について学習していく。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

授業の中で適宜紹介します

授業の計画：

- (1) オリエンテーション
- (2) 通信政策（5回程度）
非対称規制
N T Tのあり方
モバイルビジネス政策

- 周波数政策
- 消費者行政
- (3) 放送政策 (4 回程度)
 - 放送のデジタル化
 - NHK のあり方
 - CATV の今後
 - 衛星放送の今後

- (4) 通信・放送産業を取り巻く政策 (2 回程度)
 - コンテンツ流通促進
 - 技術開発政策

- (5) まとめ
 - 講義内容により、政策担当者による講義を実施する予定。

履修者へのコメント：

情報通信政策に関心のある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・出席状況、授業態度による平常点

質問・相談：

質問は、メール (m-toyo@mediacom.keio.ac.jp) で随時受けるほか、適宜、研究室に来てくださればお答えします。

情報産業論 (春)

メディア産業概論

宿南達志郎

授業科目の内容：

メディア産業について、産業構造、経営戦略、利便性などの観点から、歴史的経緯や今後の課題などについて概要を学びます。ビデオなどを活用して理解しやすく講義します。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

- ・宿南達志郎など著『メディア産業論』有斐閣、2006年
- ・電通総研編『情報メディア白書2008』ダイヤモンド社、2008年
- ・総務省編『情報通信白書 平成19年版』ぎょうせい、2007年

授業の計画：

- (1) オリエンテーション
- (2) コンピュータ業界
- (3) 通信業界 (1)
- (4) 通信業界 (2)
- (5) 放送業界 (1)
- (6) 放送業界 (2)
- (7) 新聞業界
- (8) 出版業界
- (9) 映画業界
- (10) 音楽業界
- (11) マンガ、アニメ業界
- (12) 広告業界
- (13) まとめ

履修者へのコメント：

毎週ホームページにアクセスできる人に限ります。

URLは、<http://can.55j.jp/>

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価 (毎週ブログ上で授業内容に関連する議論に参加してもらいます。)

情報産業論 (秋)

インターネット・ビジネス論

宿南達志郎

授業科目の内容：

インターネット・ビジネスについて、その特徴や伝統的なビジネスへ影響などを学びます。また、携帯やデジタル放送などを活用した新しいビジネスモデルの可能性についても学びます。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

- ・(財)インターネット協会『インターネット白書2007』インプレス社、2007年
- ・クリスアンダーソン『ロングテール』早川書房、2006年
- ・梅田望夫『ウェブ進化論 本当の大変化はこれから始まる』筑摩新書、2006年
- ・宿南達志郎『eエコノミー入門』PHP研究所、2000年

授業の計画：

- (1) オリエンテーション
- (2) インターネット経済
- (3) インターネット経営
- (4) インターネットと政府・自治体
- (5) SNS, ブログ
- (6) 音楽・映像配信
- (7) 電子マネー
- (8) 電子出版
- (9) 電子商取引
- (10) ネット広告 (1)
- (11) ネット広告 (2) Google
- (12) モバオク, モバゲー (DeNA)
- (13) まとめ

履修者へのコメント：

毎週ネットにアクセスし、ブログでの議論に参加できる人に限ります。URLはこちら：<http://can.55j.jp/>

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム総合講座 (春)

朝日新聞寄附講座

大石裕

和泉純 (朝日新聞社)

報道とメディアに関心がある人のための実践的講座 伊藤高史

授業科目の内容：

ジャーナリズムの存在意義、責任、課題などについて、現場で活躍されているジャーナリストや他の関係者を招いて、講義をしていただく。

授業の計画：

具体的にお呼びする講師については、メディア・コミュニケーション研究所のホームページで、2008年4月までに、発表する予定。

講義テーマとして、「ジャーナリズムの責任と課題」「新聞の取材・編集過程の実際」「報道と人権」「週刊誌から見たジャーナリズムの現在」などを予定。

履修者へのコメント：

- ・外部から講師をお招きするので、くれぐれも失礼のないように。私語・遅刻はもちろん厳禁。
- ・メディアコム生以外の履修も歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価 (2回, レポートを提出)
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価 (毎回, 授業について、感想文を提出する)

ジャーナリズム総合講座 (秋)

朝日新聞寄附講座

大石裕

和泉純 (朝日新聞社)

報道とメディアに関心がある人のための実践的講座 伊藤高史

授業科目の内容：

情報化・グローバル化時代におけるジャーナリズムの現状と課題を報道の現場とビジネスの両側面から、ゲスト講師の方々に語っていただく。

授業の計画：

具体的にお呼びする講師名については、9月末までに、メディア・コミュニケーション研究所のウェブサイトに掲載する予定。

講義テーマとして、「インターネット時代におけるマスメディアのジャーナリズム」「サイバージャーナリズムの実践」「グローバル化時代の国際報道」などを予定。

履修者へのコメント：

- ・外部から講師をお招きするので、くれぐれも失礼のないように。私語・遅刻はもちろん厳禁。
- ・メディアコム生以外の履修も歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（2回、レポートを提出）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（毎回、授業について、感想文を提出する）

コミュニケーション調査法 ・ （春）(秋)

テレビニュースの内容分析 伊藤陽一

授業科目の内容：

2008年1月に録画されたテレビニュース番組をマニュアルにしたがって「内容分析」し、ニュースの国際流通のパターンと規定要因等について研究する。データの集計、図表の作成のため、表計算ソフト「エクセル」を多用する。データはウェブページに直接入力する。そのため、「エクセル」が入っており、しかもインターネットとの接続が可能なラップトップ・コンピュータが必要となる。

テキスト：

菅 民郎『Excelで学ぶ多変量解析入門』オーム社 2001年

参考書：

伊藤陽一『ニュースの国際流通と市民意識』慶應義塾大学出版会 2005年

授業の計画：

第1回：オリエンテーション：今学期に取り組む研究についての解説と達成目標の提示。

この授業では「研究」(実習)と「勉強」(講義)の両方を平行して行う。「勉強」についてはあらかじめスケジュールを作ることができるが、「研究」とは未知の分野の開拓なので予測不能な面が多く、あらかじめスケジュールを作っておくことは難しい。また「勉強」では欠席者のことは気にしなくて済むが、「研究」(実習)では、欠席者（特に数回連続の欠席者）を「おいてきぼり」にすることはできない。そこで2回以降は「研究」(実習)を優先的に進め、時々「研究」(実習)の進行を止めて「勉強」(講義)を行う。「勉強」(講義)がカバーするのは以下の通りである。

- (1) 上記『Excelで学ぶ多変量解析入門』の内容（一部）
- (2) 初等統計学
- (3) 社会調査法入門
- (4) 内容分析法入門

履修者へのコメント：

この授業の「研究部分」(上記)は約25カ国が参加する国際共同研究です。それには私の昔からの大学院生も参加するので、彼らにも適宜授業に参加してもらい、時々「飲み会」をするなどして、全体として「研究会」のような雰囲気になりたい。この研究は1年をかけて完成させる予定ですので、できるだけ春、秋通して、通年で履修してください。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（学期末に1回提出。レポートの構成、書き方については具体的に指導します。）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（実習を中心とした授業なので、出席は非常に大切です。3回連続して欠席した学生は、自動的に履修を断念、単位を放棄したものとみなされる可能性があります。）

質問・相談：

質問内容とそれに対する回答は、履修者全員で共有したいので、質問は原則として授業中にしてください。またメールで質問する場合は、履修者全員のメーリングリスト（こちらで作成します）に載せてください。

フジテレビ寄附講座 テレビメディア論（春）

石丸 省一郎
菅谷 実
豊嶋 基暢

授業科目の内容：

民間テレビ放送の成り立ちを踏まえて、コンテンツ戦略の要になる番組編成や、ドラマ、バラエティ等エンターテインメント番組の制作の実際、映画事業について、実務経験のあるフジテレビの役・職員が、自らの経験をまじえながらオムニバス方式で講義します。

テキスト：

ありません。

参考書：

ありません。

授業の計画：

1. ガイダンス（民間テレビ放送の成り立ちと課題）
 2. 番組編成
 3. バラエティ番組の制作
 4. ドラマ番組の制作
 5. 映画事業
- (注)2,3,4,5については複数回講義します。

履修者へのコメント：

メディア志望者は勿論、他の分野に進む方も歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

フジテレビ寄附講座 テレビメディア論（秋）

石丸 省一郎
菅谷 実
豊嶋 基暢

授業科目の内容：

春学期はエンターテインメント、秋学期は報道・情報、ドキュメンタリー、スポーツ等ノンフィクション系の番組制作の実際について、実務経験を積んだフジテレビの役・職員がオムニバス方式で講義します。

またデジタル化等メディア環境の変化の中で民間テレビ放送がどのように変わっていくかについても考えていきます。

テキスト：

ありません。

参考書：

ありません。

授業の計画：

1. メディア環境の変化
 2. ニュース・報道番組の制作
 3. 情報番組の制作
 4. ドキュメンタリー番組の制作
 5. スポーツ番組の制作
 6. 技術革新とメディアの変化
 7. デジタルコンテンツ事業
 8. 広告媒体としてのテレビ
 9. 民間テレビ放送の将来展望
- (注)2,7については複数回講義します。

履修者へのコメント：

メディア志望者は勿論、他の分野に進む方も歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

毎日コミュニケーションズ寄附講座 メディアの再編(春)
新聞, テレビ, コミュニケーション
企業のコングロマリット化はこう進む 河内 孝

授業科目の内容:

2011年テレビのデジタル化を機に新聞, テレビ, 通信を巻き込んだメディアコンセントレーションが進む。メディアコングロマリットとは何か? 再編成はどう進むかをふかんする。

テキスト:

河内孝著「新聞社」(新潮新書)

参考書:

適時, 授業中に提示する。

授業の計画:

新聞, テレビ, 出版などをタテ割りに学んでもメディア再編成の全体像は見えてこない。

このため河内によるオリエンテーションを受けて, 新聞, TV, 番組制作プロダクション, 出版社, 広告代理店の中堅社員が「メディアの現場」で今起きている状況を「生中継」してもらおう。例えば

日経新聞の社説はどのように作られるのか

ドキュメンタリー番組の企画から放送まで

「100万部」売るとい出版の現場

メディア再編時代の広告代理店の日常

ソフトバンク社長の語る IT 新時代とは

メディア界に就職するという事, するには, をマスコミ担当者が語る

キャラクター戦略を小学館の責任者が語る

ドラマ~こう作る(フジTVプロデューサー)~など

履修者へのコメント:

今年は徹底的にメディア各現場を預かる責任者に「今」を語ってもらい, それを受けてメディアの明日をさぐる。新しい試みに是非, 参加してほしい。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価(適時行います。添削し返却します) 50%
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価 50%

質問・相談:

授業後, 教室, あるいは教員室で受ける。

毎日コミュニケーションズ寄附講座 メディアの再編(秋)
新聞, テレビ, コミュニケーション
企業のコングロマリット化はこう進む 河内 孝

授業科目の内容:

春学期で学んだメディアコンセントレーションによるコングロマリットの誕生, 日本メディア再編成の将来図を更に研究する。

テキスト:

河内孝著「新聞社」(新潮新書)

参考書:

適時, 指示する。

授業の計画:

春季に講演した同一メンバー(一部入れ替えあり)によって新聞, テレビ, 出版, コンテンツ制作, 広告代理店, コミュニケーション業界の現状と, 将来見通しをさらに踏み込んで講義する。

この合間に河内が各メディア機能の融合と, コンセントレーションの進行。日本におけるメディアコングロマリット形成の見通しにつき講義する。

またメディア界への就職を希望する諸君へ, 毎日コミュニケーションズの担当者が具体的アドバイスをおこなう。

履修者へのコメント:

今日, 考えられる最良のメンバーが「メディア」各分野の「いま」を語るユニークな講座, このチャンスを逃さず多くの諸君に受講してもらいたい。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価(適時, 提出を求め。添削し, 返却します)(50%)

- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価(50%)

質問・相談:

授業前後, 教室, 教員室で受ける。

【研究会】

研究会(~)

メディアと社会行動

萩原

滋

授業科目の内容:

本研究会は, 2年ないし3年の在籍期間を通じて, 各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い, その成果を研究会の場で逐次報告し, 最終的には修士論文に結実させることを目的としている。研究テーマは, メディアやコミュニケーションに関連性のあるものであれば, ある程度各自の自由裁量に任されることになるが, 単なる感想や思い付きではなく, それを何らかのデータによって裏づける努力をして欲しい。履修者数に応じて運営方法を多少とも調整する必要があるが, 本年度も, 基本的には従来の個人研究のスタイルを継続するつもりである。

テキスト:

春学期開始時に指定する。

授業の計画:

春学期

ガイダンス(1回)

テキスト講読(6回)

個人研究テーマの設定, 発表(6回)

(夏合宿にて継続して各自の発表を行う)

秋学期

三田祭論文に向けて(2, 3年生の個人研究発表, 6回)

修士論文に向けて(4年生の中間報告, 3回)

次年度に向けての研究計画発表(2, 3年生, 4回)

履修者へのコメント:

自分の発表だけでなく, 他の人たちの発表にも興味をもって, 質問やコメントをしてもらいたい。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

適宜, 研究室に来てくだされば, お答えするつもりです。

研究会(~)

メディア産業論を考える

菅谷

実

授業科目の内容:

放送, 新聞に代表されるマスメディアからインターネット, 映画などのコンテンツ産業を含むメディア産業全体を対象にその産業構造, ビジネス戦略, メディア規制をテーマとして研究をすすめます。

例年, 春学期は, 共同研究に関連するテーマに関わる文献レビューを中心とした個人発表, 秋学期は, 三田祭で発表する共同研究報告書に関わる調査と報告書作成, および4年生の修士論文発表を中心に進めます。(2007年度の共同研究テーマは, 'The Films')

また, 夏合宿, OGOB会, 異業種交流勉強会なども行っています。ゼミ活動の詳細は研究会のホームページ(<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/sugaya/toppage.htm>)を参照してください。

授業の計画:

各学期のはじめに詳細なシラバスを配布するが, 春学期は, 授業でのレポートを中心とし, 秋学期は, 三田祭に向けた共同研究が中心となる。

履修者へのコメント:

履修者は, 授業はもちろんのこと, 合宿, 論文報告会, その他のゼミイベントにはすべて出席すること。

成績評価方法:

- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価(授業出席を含めた研究会活動全体に対する参加・貢献度による評価。)

・なお研究会 は修了研究の発表および論文による評価。

研究会(~) 新規募集なし
身近なメディア・コミュニケーションの現象を研究する
金 山 智 子

授業科目の内容：

本研究会では、メディア・コミュニケーションが社会や文化にどのような影響を及ぼしているのか、どのように関わっているのか、個人レベルでの興味関心をもとに研究テーマを設定し、実際に調査研究することを目的としています。

テキスト：

特に使いません。

授業の計画：

(1) 春学期

4年生は修了論文の研究計画をたて、発表します。

(2) 秋学期

4年生は研究計画に基づいて調査を実施し、三田祭で中間報告します。

最終的な研究結果については、修了論文を作成し、口頭発表および論文提出を行います。

成績評価方法：

平常点と修了論文

研究会(~)
グローバルイゼーションと持続可能なメディアのデザイン
小 川 葉 子

授業科目の内容：

本研究会では、比較映像分析とフィールドワークに基づく空間分析を含めて多様なメディアを対象にメディア・リテラシーを研究することを主目的とする。本年度は、環境と身体をとりまく科学的知識と文化の創発に関するコミュニケーションを考察する。とりわけ、映画、ファッション、広告、ニュース、流通の未来をクリエイティブ産業、クリエイティブ都市論、文化政策との関連で検討し、プロダクトおよびコンテンツのデザインとファッション・ジャーナリズムにおける知識生産の接点を比較したい。それによって、デジタル・シネマやオンライン・ショッピング等の影響も考えつつ、健康とサステナビリティに基づいたライフスタイルにおける未来のメディア・コミュニケーションのありかたを模索したい。

テキスト：

・カナダ、オンタリオ州教育省著『メディア・リテラシー』(りべるた出版、2006年)

・『ファッション中毒』(NHK出版、2004年)

その他ハーバード・ビジネススクールにおけるマーケティングのテキストおよび各種白書等を使用予定。

参考書：

・M. フェザーストン著、川崎賢一・小川葉子編著訳『消費文化とポストモダニズム』(上・下巻、恒星社厚生閣、2002年)

・伊藤陽一・河野武司編『ニュース報道と市民の対外国意識』(慶應義塾大学出版会、2007年)

授業の計画：

春学期

(1) ガイダンスおよび導入(2~3回)

(2) 輪読、フィールドワーク、研究プロジェクトに関する説明(2~3回)

(3) 輪読、フィールドワーク、研究プロジェクトの分担決定とその遂行(6~8回)

(4) 個人(あるいは2~3名)のプロジェクトテーマ(タイトル)設定と発表、春学期のまとめ(1~2回)

秋学期

(1) 秋学期全体のスケジュールと作業プランニング(1~2回)

(2) 個人(あるいは2~3名)のプロジェクトテーマ(タイトル)設定と発表(2回)

(3) フィールドワーク(2回)

(4) 個人あるいはグループプロジェクトによる作品の制作(2回)
(5)(4)のプレゼンテーションおよび専門家によるコメントと相互批評(2回)

(6) 三田祭発表とフィードバック(2回)

(7) まとめ、未来のデザイン・コミュニケーションとは(1~2回)
履修者へのコメント：

フィールドワークは、映画関連イベント、文化施設、経済産業省、環境省のファッションおよび新製品発表イベントへの参加を考えています。日頃から各国の白書、ジャーナリズムや映画批評に親しんでおいて下さい。

成績評価方法：

・平常点：出席状況および授業態度による評価。

・レポートかそれにかわる作品による評価。

質問・相談：

授業終了直後、あるいは履修者に指示するオフィス・アワーに受け付けます。

研究会(~)
ジャーナリズムを考える
大 石 裕

授業科目の内容：

最初の数回は、ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的な文献を読み、それ以降は班分けし、新聞の分析などを行う。研究成果は三田祭などで発表する。

テキスト：

大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

参考書：

田村紀雄ほか編『ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社

授業の計画：

[前期]

1~2回 基本的な文献の講読

3~13回 2,3年生を中心とした研究発表と討議

[後期]

1~10回 2,3年生を中心とした研究発表と討議

11~13回 4年生の修了論文発表

履修者へのコメント：

新聞のみならず、ニュース全般に関して積極的に接するように心がけてください。この研究会から「優れた」ジャーナリストが数多く生まれることを目標にしています。

成績評価方法：

平常点による。

研究会(~)
メディアと認知
李 光 鎬

授業科目の内容：

本研究会では、様々なメディアにおけるコンテンツの内容・形式上の諸属性が、そのコンテンツが伝えている事象に対する注目、記憶、理解、学習、評価などにどのような影響を与えるのかについて実験や調査を行う。

テキスト：

メディアの認知的効果に関する研究書や論文を授業の中で適宜示す。

参考書：

Richard Jackson Harris, *A Cognitive Psychology of Mass Communication*, London: LEA, 2004.

授業の計画：

春学期には、メディアの認知的効果に関する研究書や論文を輪読・発表しながら各自の研究テーマを検討し、先行研究のレビューを行う。

秋学期には、実験の素材や調査票を作成し、各自データの収集・分析を行った後、研究発表を行う。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

研究会 (~)

次世代創造社会におけるメディアコミュニケーション産業に関する研究
金正勲

授業科目の内容:

2008年度の金ゼミでは、次世代創造社会におけるメディアコミュニケーション分野の未来について、社会、文化、技術、産業、政策という学際的視点から研究を行います。

テキスト:

特に指定しません。

参考書:

特に指定しません。

授業の計画:

春学期(13回)の場合

1. ガイダンス(計1回)
2. 春合宿(計1回)
3. 基本書輪読(計2回)
4. Newsclipping, 輪読, レクチャー, ゲスト講義と討論(計7回)
5. 企業省庁訪問(計2回)

履修者へのコメント:

理論と実践のバランスを重視すると共に、全員参加型のゼミを目指しているので各自の「高い」コミットが求められます。春・夏のゼミ合宿、ニュースクリッピング、担当教員やゲストによるレクチャー&討論、輪読、企業省庁訪問、三田祭論文作成・発表等の活動を行います。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

ゼミ活動については、<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/kim/>、質問は kim@dmc.keio.ac.jp まで。

研究会 (~)

情報通信産業の進展と政策展開に関する研究

豊嶋基暢

授業科目の内容:

通信・放送分野は、2011年の「完全デジタル元年」に向けて、ブロードバンド化、ワイヤレス化が急速に進展し、通信と放送の融合(連携)を視野に入れた情報通信政策の転換期となっている。本研究では、情報通信ネットワークの高度化・多様化がメディア産業やライフスタイルにどのような変化をもたらすのかについて研究するとともに、通信・放送融合(連携)に向けた情報通信政策及び法制度のあり方について、考察・議論する。

テキスト:

授業の中で適宜指定します。

参考書:

授業の中で適宜紹介します。

授業の計画:

(1) 春学期

- ガイダンスと導入(第1回)
- NEWS CLIPPING(通年)
- 共通テーマと関連する文献の輪読・発表等
- 個人研究テーマの設定・中間発表

(2) 秋学期

個人研究又は全体研究のテーマを設定して研究・発表

なお、春学期・秋学期とも、適宜、施設見学や政策担当者の話を聞く機会を設ける予定です。

履修者へのコメント:

本研究会は議論中心ですが、他者の研究の議論にも積極的に参加し、自分の興味のある分野の研究を深めていって欲しいと考えています。情報通信について、産業、政策、法制度に関心のある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価。

質問・相談:

質問は、メール (m-toyo@mediacom.keio.ac.jp) で随時受けるほか、適宜、研究室に来てくださればお答えします。

研究会 (~)

メディアと文化

藤田結子

授業科目の内容:

本研究会では、メディア、コミュニケーション、または文化に関わる社会現象について、各自の関心にもとづくテーマを設定し、調査研究を進めます。

授業の計画:

春学期

- ・文献購読
 - ・調査方法(内容分析、インタビュー、アンケート、参与観察、ビデオエスノグラフィー)
 - ・個人研究計画発表
 - ・三田祭共同研究テーマの設定
- そのほかに企業訪問、他大学とのディベートなど

夏合宿

秋学期

- ・三田祭論文の調査・執筆・発表
 - ・次年度にむけての個人研究計画発表
- そのほかに街でのフィールドワークなど

履修者へのコメント:

好奇心を持って、積極的にゼミに参加する学生を歓迎します

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

【特殊研究】

放送特殊講義 (春)

鈴木祐司

授業科目の内容:

映像・音響の総合伝達手段として、最も普及したメディアはテレビである。今そのテレビが変貌しようとしている。音声メディア、活字メディア、そして映画から影響を受け成熟してきたテレビは、どう変化しようとしているのか。

授業では、構成・オープニング・コメント・音響効果・CM など、テレビの特性をなす各部分を分析する。その中で、映像・音響制作の現在・過去・未来を考え、これからのテレビのあり方を検討する。

テキスト:

なし

参考書:

なし

授業の計画:

- ガイダンス
- ～ 構成とは時間の芸術: 視聴者にとってわかりやすくおもしろい構成・ストーリーテリングとは何か。番組に込められた工夫の数々を紹介する。
- ～ オープニングは最強のPR: 視聴者の中には、オープニングだけでチャンネルをかえる人が少なからずいる。ゆえに番組のオープニングにはあっと驚く工夫がなされている。その実態に迫る。
- ～ うまいコメントは寡黙: 番組のコメントは耳で聞いてわかりやすく工夫されている。書き言葉と話し言葉のちがいを体験しよう。
- ～ 音響効果が番組を彩る: テレビは映像が中心と思われがちだが、実は音の力が大きい。番組の中でどう活躍しているのか。見えない音の工夫を見てみよう。
- ～ CM とは真実のメッセージ: テレビ産業の基本はCMビジネス。しかしその歴史は興味深い。どう変化しており、今のCMがどこまでできたのか、どこへ行こうとしているのかを見てみよう。

- ～ デジタルでテレビはどう変わる：デジタル化でテレビは大きく変わろうとしている。しかも通信との融合も迫られ、変化の度合はきわめて大きくなった。どこへ行こうとしているのかを探る。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（授業内で出題・ミニレポートあり）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（出席状況を加味）

放送特殊講義（秋）

「テレビニュース」って何だろう？ 村尾尚子

授業科目の内容：

「テレビニュース」の現場では、いま、いったい何が起きているのか。何を伝えようとしているのか。一線で働くテレビ朝日現職職員、キャスター、コメンテーターが、その“最前線”と課題を生々しく解説します。そして「テレビニュース」の未来を探ります。

テキスト：

特に指定しません

参考書：

特に指定しません

授業の計画：

- 1 「テレビニュース」総論（序）
- 2～12 「テレビニュース」の現場最前線
- 13 「テレビニュース」実習とフリー討論
変更の可能性あり

履修者へのコメント：

テレビ好きですか？好きでも嫌いでも...テレビに興味・関心のある人、テレビ局の仕事って何だろうと思っている人、テレビジャーナリズムについて知りたい・考えてみたいと思っている人...歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（平常点、実習&フリー討論の評価を加味します）

質問・相談：

講義の中で質問を受けつける時間を設定します。

フジテレビ寄附講座 特殊研究（テレビ・ジャーナリズム）（春）

テレビニュースはどう作られる 安倍宏行

授業科目の内容：

ニュース制作の実態と記者レポートの撮り方を学びます。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

授業の計画：

1. ガイダンス・テレビと新聞の違い、テレビニュースの特質
2. ニュースの伝え方（ストレートニュース・記者レポート・中継の違い）
3. ニュース原稿演習
4. ニュース制作の現場（フジテレビ報道局見学）
5. 記者・ディレクター・特派員・キャスターの仕事とは
6. スポーツディレクターの仕事
7. ドキュメンタリー制作の実際
8. 撮影技術、映像企画の作り方
9. 記者レポート制作 テーマ決め・リサーチ
10. 記者レポート スケジュール作成・アポ取り
11. 記者レポート発表 評価
12. 記者レポート発表 評価
13. 予備

履修者へのコメント：

将来、テレビ局で記者・ディレクター・アナウンサーになりたい人向け。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

- ・その他（記者レポート提出・評価による）

フジテレビ寄附講座 特殊研究（テレビ・ジャーナリズム）（秋）

テレビの未来 安倍宏行

授業科目の内容：

テレビニュースの抱える問題点と放送と通信の融合について、理解を深め、長目の映像を制作する。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

授業の計画：

1. 人権侵害と報道倫理 実名報道・匿名報道
2. 模擬記者会見 取材する側、される側
3. 取材源の秘匿
4. BPO 放送倫理検証委員会とは TBS の問題
5. 名誉毀損訴訟
6. 放送と通信の融合 テレビ局のネット戦略
7. 放送と通信の融合 動画投稿サイト
8. テレビ局の未来 地デジ、ワンセグ、非放送分野（事業、映画等）
9. 映像企画制作 テーマ決め・リサーチ
10. 映像企画制作 取材スケジュール決め、アポ取り
11. 映像企画制作発表 評価
12. 映像企画制作発表 評価
13. 予備日

履修者へのコメント：

将来、テレビ局で記者・ディレクター・アナウンサーになりたい人向け。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・その他（映像企画作品の提出・評価による。）

新聞特殊講義（春）（秋）

新聞報道のいま、未来

岡田直敏

授業科目の内容：

ネット革命、メディア再編の中で新聞の役割が改めて問われています。新聞の存在意義はどこにあるのか。新聞報道のこれからを探ります。

テキスト：

特に指定しません

参考書：

随時、指示します

授業の計画：

できるだけ現実のニュースに連動しながら、主に以下のようなテーマを取り上げます。随時、日経の第一線記者や編集委員などを招き、現場の息吹を伝えてもらいます。

1. 新聞はどう作られるか
2. 経済報道の現実と課題
3. ネット革命と新聞
4. 世界のメディア再編の行方
5. 記者、新聞社の未来図

履修者へのコメント：

皆さんが新聞記者を志したくなるような講座を目指します。新聞を読んで参加して下さい。（どの新聞でも結構です）

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

授業科目の内容：

「広告」は、最も身近にあり、また最も頻繁に接触している情報です。その反面、それは「トイレタイム情報」であったり、録画画面から「飛ばされる情報」という認識を持たれている面も、少なからずあるようです。

ところが、広告が無かったらどうなることなのでしょう。「もしもミルクが無かったら」という全米ミルク協会の広告が非常にインパクトをもち、好感を持って迎えられたことがありました。広告の重要性も、これと同じだと思います。

記事やニュースや番組に代表されるマス・コミュニケーション。そのもうひとつの主役が広告です。広告ほど「タフ」で、「受け手の側に立った」情報作りを心がけている「繊細な」コンテンツもありません。なにしろ、年間 300 兆円を越す個人消費を左右する情報内容ですからね。

この実態と、広告の環境変化対応を把握することは、激変している経済社会に直に聴診器を当てることにもなりますし、現代文化を肌で感じ取ることにもなります。

「情報化社会」とは、情報が付加価値ではなく、「主体価値」となる社会。民間小口配達便ではマーケットは切り拓けません。「宅急便」という概念が巨大市場を生み出しました。小型携帯ステレオも同様。「ウォークマン」というコンセプトが市場を創り出しました。「製品」に価値ある情報が載ってこそ「商品 = Goods」となります。

広告発想とはどのようなものか、広告表現はどのような工程を経て作られるのか、情報の品質管理とはどのようなものか。ブロードバンド化、グローバル化は、広告会社の業態 = ビジネス状態に、どのようなインパクトを与えているか。情報化社会へデビューする若人には欠かせないコンテンツです。

意外に知られていないその実態。関係者も、それをあまり口にしたことはないようです。そこで、それらを「面白く、分かりやすく」展開したいと思います。題して「面白くなければ、授業じゃない」。本邦初公開のコンテンツです。

テキスト：

刻一刻と変化し続けるメディア動向とそこに載るコンテンツ = 情報内容（主に広告作品）が教材です。そこから新たなメソッドを発見して受講生に提供してゆきます。毎回、新鮮な講義資料プリントを配布します。情報化社会に聴診器を当てて得たこれらの診断結果が、私のテキストです。

参考書：

- ・ Web 進化論
- ・ TVCM の崩壊
- ・ 月間広告
- ・ 価値場の化け力

授業の計画：

春学期

- (1) ガイダンス “ ようこそ、未来からの留学生 ”
- (2) 広告と言葉
- (3) 広告、その誕生からデビューまで
- (4) 就職で最も大事な産業構造理解 = 意外に知られていない広告の素顔
- (5) 広告表現を見る Advertise とは「注意を向けさせ続けるコンテンツという意味」
- (6) コミュニケーションとは文化理解であり、広告は文化である
- (7) マーケティングとは何か = コンテンツ作りの土台としてのマーケットデザイン
- (8) マーケティングとは何か = コンテンツ作りの土台としてのマーケットデザイン
- (9) メディア・・・タッチポイントという概念の出現
- (10) マーケティングコミュニケーションを激変させる情報革命
- (11) マーケティングコミュニケーションを激変させる情報革命
- (12) 受講者チームからの発表 1
- (13) 受講者チームからの発表 2

秋学期

- (1) 面白くなければ授業じゃないのガイダンス
- (2) 広告情報の作り方 = 発想法に挑戦
- (3) 広告情報の作り方 = 実例から広告情報作りに挑戦
- (4) 広告情報の作り方 = ビッグアイデアはロングラン広告を可能にする
- (5) なぜブランドが重要なのか
- (6) ブランディングとは物語の中に Goods を入れてゆく作業
- (7) 最初からブランディングを念頭に置いた商品開発 = フィットネスクラブの事例から
- (8) 「マーケットの無いところでマーケティングしていないか？」 = 商品作り、ブランド作り、広告発信だけでは、市場戦争には勝利できない
- (9) Web2.0 に必要不可欠な「表現と権利処理 = ライツクリアランス
- (10) 社会的責任広告の必要性
- (11) 受講者チームからの発表 1
- (12) 受講者チームからの発表 2
- (13) マーケティング・キーワードの変化

成績評価方法：

出席 50%，論文提出 50%。

質問・相談：

メールで受け付けますが、ウイルス感染防止のため必ず大学から送信してください。e-mail: tatsuom@mbk.nifty.com

メディア特殊講義 (春)

メディアの将来(アナログからデジタルへ...変わることと不変のもの)

坪田 知己

授業科目の内容：

マスメディア(新聞、放送)がインターネット時代にどのように変わっていくべきかを考え、メディアの本質と技術、社会の関係について学びます。

テキスト：

日経メディアラボ編「マスメディアはどこに行くのか デジタルへの挑戦」

非売品なので、受講生に配布します。

参考書：

- ・ アルビン・トフラー「第三の波」
- ・ ローレンス・レッシング「CODE」
- ・ 佐々木俊尚「フラット革命」
- ・ 桂敬一「現代の新聞」
- ・ 吉野次郎「テレビはなぜインターネットが嫌いなのか」など

授業の計画：

- 1) ガイダンス、何を学ぶか
- 2) メディアと歴史
- 3) メディアと技術
- 4) メディアと社会
- 5) 新聞の未来
- 6) 放送の未来
- 7) ジャーナリズムの本質
- 8) 注目すべきネットメディア
- 9) ネットは何を変えたのか
- 10) まとめ

上記のほか、

- ・ ゲストを招いて討論します。
- ・ 新聞記事のスタイルで原稿を書く練習をします。
- ・ 希望があれば宿舎を実施します。

履修者へのコメント：

・ デジタルメディアを理解するための基本的文献を全部読んでいただきます。

・ しっかりとした考えを持つためにしっかり学んで下さい。

成績評価方法：

- ・ 試験はありません。
- ・ レポートによる評価(最終レポートのほか、3~4 回レポートを提

出させていただきます)
・平常点：出席状況および授業態度による評価（毎回意見を発表させていただきます）
質問・相談：
個別の質問，相談は随時受け入れます。

メディア特殊講義（秋）
ケータイ革命

堀 主知ロバート

授業科目の内容：

みなさんに馴染みの深いケータイ，ネットと雑誌，テレビなど既存媒体を融合させたマーケティング施策について，様々な企業の活用事例を徹底究明し，その成果を分析し，理想と現実のギャップを認識し，本来あるべき21世紀型のマーケティング活動や，ネットの有効な利用施策を模索する授業です。また，究極の価値を持つインタラクティブメディア，プラットフォームについて企画立案～事業化の検討まで行えるところまでを目標とおきます。ケータイ系最古の会社「サイバードグループ」の事業の責任者達が，順段にモバイルコンテンツ，モバイル広告，モバイルコマース等について一般論ではなく，本当はこうなってこうやっているのだ，という会社や社会の裏話を，実例と共に大暴露。本当に社会に出てから役に立つ，究極にリアルな授業です。

テキスト：

こちらで配布します

授業の計画：

- (予定)1: モバイルインターネットの歴史とこれからの展望
2: モバイルインターネットの本当の価値
3: 北米におけるモバイルメディア最前線
4: モバイルコンテンツにおける新しい潮流
5: モバイルプロモーション革命
6: モバイルでビジネスが変わった!!
7: モバイル広告 ~その驚くべき威力とは~
8: メディアとベンチャーキャピタル投資
9: ケータイコンテンツが世界を変える!?
10: 「オンナゴコロとメディア」で世の中を動かす!
11: なぜ他のモバイルメディアに類をみない大成功を成し遂げられたのか?
12: モバイル企業の社長が本音で語る今後の事業展開
13: 総括

履修者へのコメント：

今までの常識が，これからの常識と違う! という感覚。今までのビジネスに必要な力とこれからのビジネスに必要な力が違う! という感覚を半年で体感して，社会に出てからの自分の挑戦について大きな可能性を感じてください! アカデミックな授業は他で受けて下さい。生臭い企業の内部をお見せして，IT，モバイルはどうなって行くのか，新聞記事を笑い飛ばせる力を提供します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

いつでもどうぞ。

特殊研究（日本の近代化とマス・メディア）(春)
戦後日本のジャーナリズムは近代化に貢献したか

小川 浩一

授業科目の内容：

今日の階層間格差の拡大と固定化はジャーナリズムの「近代化」への認識と行動が期待とは異なっていることを語っている。その事実と原因を検討することで，対策をも考察したい。

参考書：

小川浩一 編著『マス・コミュニケーションへの接近』(八千代出版 2005年 2600円)

授業の計画：

- 1; ガイダンス

- 2; ジャーナリズムとマス・メディア(合計3回)
3; 戦後日本社会の近代化(合計3回)
4; 現代日本の社会階層と社会移動(合計3回)
5; 現代日本のジャーナリストの階層性(合計2回)
6; 考察

履修者へのコメント：

授業は基本的に後期に連続します。授業形式はゼミに準じます。日常生活の中で，新聞記事，テレビジョン放送番組を批判的に考察する姿勢を持って接触して下さい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

特殊研究（日本の近代化とマス・メディア）(秋)

戦後日本のジャーナリズムは近代化に貢献したか

小川 浩一

授業科目の内容：

春学期に準じます。但し，秋はテキストを用います。

テキスト：

小川浩一 赤尾光史 監訳『ジャーナリズムの社会学』(リベルタ出版 2006年 2600円)

授業の計画：

- 1; ガイダンス
2; 第1章(2回)
3; 第2章(1回)
4; 第3章(1回)
5; 第4章(1回)
6; 第5章(2回)
7; 第6章(2回)
8; 第7章(1回)
9; 第8章(2回)
10; まとめ

履修者へのコメント：

前期から引き続いた内容です。戦後日本のジャーナリズムの実態とそれが先進国では同様の事態になりつつあることを概観します。そして，ジャーナリズムの在り方を再考します。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

特殊研究

市民とメディア

金山 智子

授業科目の内容：

この10年，市民が社会の様々な問題を解決するために，自ら参加し活動していけるようなボランタリーな社会が築かれつつあります。その中で，市民グループ，NPO，NGOの活動は中心的な役割を担っています。また，一般企業においても，NPO・NGOとのパートナーシップを通じた社会貢献(CSR)活動が活発になっています。このような活動では，メディアの活用がますます重要になっています。市民が，フリーペーパーやコミュニティFM，CATV，ネット新聞，ブログ，ミクシーや地域SNSなど，さまざまなメディアを使ってどんどん情報発信しています。これにより，ソーシャル・コミュニケーションも活発になっています。さらに，貧困撲滅キャンペーン“ほっとけない世界のまずしさ”，グリーンパードの“おそうじプロジェクト”，サステナブルな社会を目指す“トレジャー・トラッシュ・プロジェクト”にみるように，コピーライターやデザイナーといったクリエイターによるコミュニケーション・デザインも一つのソーシャル・ムーブメントとなっています。メディアを使ったイベントやキャンペーンも重要なツールとなっています。こういった市民，NPO，NGO，企業，クリエイターなどの社会活動におけるメディア活用について，最近の事例を交えながら，現状と問題点について考えます。

テキスト：

資料を配布

参考書：

- ・金山智子『NPOのメディア戦略』（学文社）
- ・電通プロジェクト『広報力が地域を変える！』（日本地域社会研究所）

授業の計画：

市民活動とメディアについて、これまでの歴史やパブリック・コミュニケーションといった基本的な考え方について学びます。さらに、さまざまな市民活動におけるメディアの活用の仕方や課題、ソーシャル・ムーブメントとメディア・キャンペーンについて実際に分析をしながら、考察していきます。

受講生が選んだ事例をもとに、ディスカッション形式で進めます。また、NPOやNGO関係者を招き、現場の声を聞き、受講生を交えて考える機会をもちます。関連イベントや市民メディアの現場に参加し、実体験をしてもらいます。

履修者へのコメント：

常に問題意識をもって、積極的にディスカッションに参加することを期待します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

特殊研究（春）

若者文化とメディア

藤田 結子

授業科目の内容：

現代の若者文化におけるメディアの役割について考察します。社会学やメディアスタディーズの先行研究にもとづく講義を中心に、さまざまな事例についてディスカッションを行います。また受講生は関心のあるテーマについて、フィールドワークを行います。

テキスト：

春学期開始時に指定します

授業の計画：

1. 若者のナショナリズムとインターネット
2. ワーキングプアと「ネットカフェ難民」
3. 若者とファッション
4. 女性誌と女性像・結婚観の変化
5. 若者の携帯コミュニケーション
6. 若者のファンカルチャー
7. マスメディアが若者の海外移住に与える影響

以上を中心に、受講生の関心にもとづくテーマを取り上げていく予定です。

履修者へのコメント：

積極的に授業に参加する学生を歓迎します

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア産業実習（春）（秋）

インターンシップ

豊嶋 基暢

菅谷 実

小川 葉子

藤田 結子

授業科目の内容：

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、討論形式による各産業の歴史、構造、動向及びインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加する。

秋学期には、インターンシップ参加の報告及びレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習を登録し、インターンシップに参加できる。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業の中で適宜紹介します。

授業の計画：

(1) 春学期

オリエンテーション

産業別のレポートと討論（映像ビジネス、広告、放送、出版、新聞、通信等）

まとめ（なお、研修先は、7月上旬頃に決定されるが、研修受け入れ企業数は限られているので履修者全員が研修に参加できるわけではない）

(2) 秋学期

夏休み研修期間の実習を10回分の講義と認定し、残りの時間で研修成果の報告と討論を行い、秋学期の平常点評価とする。

履修者へのコメント：

履修希望者（前年度にメディア産業実習を履修し、本年度を履修する者を含む）は、第一回目の授業で実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。履修者は夏休みの研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

成績評価方法：

- ・春学期：クラスにおけるレポート発表及び討論への参加度を含めた平常点による評価。
- ・秋学期：夏休み期間中の企業研修と研修成果の発表及びレポートによる評価。

【基礎演習】

時事英語（春）（秋）

宮川 美樹子

授業科目の内容：

日本で発行されている英字新聞及び海外の英字新聞を主な教材に使い、時事英語を学ぶとともに時事問題、さらには英文ジャーナリズムについても勉強します。読解力だけでなく「書く力」の養成も目指します。

テキスト：

資料を配布。

参考書：

- ・The Daily Yomiuri（読売新聞社発行の日刊英字紙）
- ・最新ニュース英語辞典（東京堂出版）
- ・英和・和英・英英辞典

授業の計画：

(1) 春学期

オリエンテーション

英字新聞の構成

英文記事の基本・読み方

基本的英文記事の作成

まとめ

(2) 秋学期

オリエンテーション

分野別に記事を読む

日本メディア・外電の英文ニュースを読み比べる

より高度な英文記事作成

まとめ

履修者へのコメント：

英字新聞を通して世界を見る視点を育てたいと思います。講義形式の授業だけでなく、読売新聞社での見学、ゲストを招いての授業なども考えています。英字新聞を読んだことがない方も是非チャレンジして下さい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（授業中に簡単な語彙テストを予定）

質問・相談：

授業終了後、またはメールで受け付けます

授業科目の内容：

受講生に作文を月1本のペース、年間8本執筆してもらい、添削する。「自分の考えを正確に伝える」「興味をもって読んでもらえる」文章を基本に、日本語を書く上での特性、注意点を知らせてもらう。入社試験に活用できるものとする。

参考書：

記者ハンドブック(共同通信社)

授業の計画：

1. ガイダンス(1回)
2. 月1本のペースで1本の作文を執筆してもらう。
5月,6月,7月,夏休み,10月,11月,12月,冬休みで計8本。
講義では、添削した内容を説明するとともに、日本語を書く上での注意点、日本語の特性を知らせてもらう。
受講生は自分の作文を披露してもらうとともに、他の人の書いた作文を批評してもらう。
3. ニュースとなっている時事問題について、解説。また学生同士で、議論してもらう。学生は時事用語の解説を書く訓練もする。

履修者へのコメント：

作文を書くことから授業は始まります。自分の考えを文章で相手にうまく伝える訓練の場としてとらえて下さい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価(作文の提出による評価)
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(時事用語の解説の提出による評価)

メディア・コミュニケーション実習 (春)

映像を通して伝える

金山 智子

授業科目の内容：

コミュニケーション技術の発展により、誰でも気軽に映像を撮って表現したり、メッセージを発信したりできるようになってきました。また、メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく、自らがメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要と考えられるようになってきています。本講義では、(1)映像メディアコンテンツの批評と(2)制作実践を通じて、よりよいメディア・シチズンとしての基礎的な発想、表現、そして実技能力を身につけることを目標としています。

テキスト：

特に使いません。

授業の計画：

講義は大きく3つの部分から構成されています。

- (1) 映像撮影や編集機材の使用方法を学ぶ。
主に基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
- (2) 映像作品を読み解く。
普通の市民やアマチュアが制作した“すぐれた映像作品”を分析し、「誰に何をどのように伝えるか」という意味での、メッセージ伝達について考えます。
- (3) 映像コンテンツを制作する。
個人(または少人数グループ)で、企画、構成、取材、撮影、さらに編集加工といった一連の映像制作過程を体験してもらい、映像によるコミュニケーションを身につけてもらいます。

履修者へのコメント：

単なる映像制作の技術習得ではなく、あくまでも映像を通してのコミュニケーションのあり方を体験的に学習することに主眼を置いています。また、映像コンテンツ制作は、クラス授業時間外での作業が必要になります。

成績評価方法：

授業参加(50%)課題作品(50%)

メディア・リテラシー

渡辺 真由子

授業科目の内容：

メディアの読み解き方を理論面と実践面から学びます。マスコミの制作者の「意図」が社会の価値観に与える影響を認識し、さらに自分でも映像作品をつくることによって、メディア・リテラシー能力を身に付けます。

テキスト：

渡辺真由子著「オトナのメディア・リテラシー」(リベルタ出版、2007年、1500円)

参考書：

野沢 尚著「破線のマリス」講談社

授業の計画：

- (1) イントロダクション 「伝える」ということ
- (2) 広告の意図
- (3) 報道の作られ方
- (4) 映像産業と女性
- (5) メディアの暴力・性表現
- (6) コンピューター・リテラシー
- (7) 企画の見つけ方&構成の立て方
- (8) 撮影&インタビュー、原稿書きの手法
- (9)・(10) 編集の裏側
- (11)・(12) 映像作品プレゼンテーション
- (13) 総括

履修者へのコメント：

マスコミ志望者に限らず、テレビや広告、インターネットなどあらゆるメディアが発信する内容に疑問や危機感を持つ学生を歓迎します。映像を上手に撮影・編集することよりも、制作過程の裏側にある「意図」を学ぶことに重点を置きます。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・その他(映像作品プレゼンテーションによる評価)

映像コンテンツ制作 (春)

映像コンテンツ制作実践に向けた基礎ステップ

映像表現の文法・作法を習得する 大久保 成

授業科目の内容：

デジタルカメラやデジタルビデオは普及し、コンピュータはますます高性能になっています。一方、インターネット上で映像コンテンツを扱うことが一般化し、ケータイの高機能化などにより「いつでも、どこでも、だれでも」デジタルメディアが扱える時代がやってこようとしています。にもかかわらず(あるいはそれゆえに)、ただビデオカメラをまわしさえすればそれだけでコンテンツになりうる、といった安易な理解が蔓延しているのではないのでしょうか。映像コンテンツ制作では、映像コンテンツ制作に関わる際の基本的な枠組み作り(プリプロダクション)の力を確実に身につけてもらうことを通して、新時代の映像表現の作法がいかにあるべきかを受講生とともに考えていきたいと思えます。

テキスト：

開講時に紹介します。

参考書：

開講時に紹介します。

授業の計画：

この講義では、映像コンテンツ制作のための基礎能力の獲得を目指します。映像表現をする際の事前準備の重要性について理解してもらい、実際に受講生には企画書・画コンテの作成、撮影実習、編集までを個人単位で実践してもらいます。特に今年度は携帯電話やデジカメなど各自が所有しているデジタルデバイスを利用して映像作品を制作、提出してもらいます。予定されるシラバスは以下のとおりです。

1. デジタル時代における映像表現の基礎知識

2. ユビキタス環境と映像コンテンツ
3. 映像制作のための機材とその機能：ケータイなどとの比較の観点から
4. プリプロダクションの意義：企画書・画コンテ
5. 企画書制作と中間報告
6. 映像コンテンツ制作のための基礎能力：コンティニューティとフレーミング
- 7~13. 映像コンテンツ制作実践：カメラ取材と編集

履修者へのコメント：

映像コンテンツ制作 では受講生の自主性を最大限尊重し、自由な発想や可能性の追求を歓迎します。講義は映像コンテンツ制作とでは独立していますが、両者を連続して受講することにより総合的な力を獲得できるよう配慮しています。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（評価の50%）
- ・映像作品を提出（評価の50%）

質問・相談：

授業時および電子メールにて受け付けます。

映像コンテンツ制作（秋）

映像コンテンツ制作実践に向けた応用
スタジオプロダクションを実践する 大久保 成

授業科目の内容：

映像コンテンツ制作 で得られた映像コンテンツ制作に関わる基本的な枠組み作りの力を再確認するとともに、さらに磨きをかけていきます。さらにメディア環境・映像文化についての理解を深めるために、スタジオを使用した番組制作を実体験していただきます。デジタル環境の発展により映像コンテンツ制作は「個の力」で完結するものとなっています。しかしテレビ番組や映画撮影においては、単独ではなしえない映像表現が主流でもあります。個人が主体性を保ちながら協働したときに得られる感覚を得ることで、受講生それぞれの映像表現がさらに深まることを期待します。

テキスト：

開講時に紹介します。

参考書：

開講時に紹介します。

授業の計画：

この講義では編集加工された取材映像を活用したスタジオでの企画番組制作に取り組みます。映像表現の文法を再確認した後、スタジオでの収録を前提とした編集VTRを制作、その後スタジオでの収録にのぞみます。

1. 映像表現の文法を確認する(1)
2. 映像表現の文法を確認する(2)
3. 番組企画会議
4. 取材 VTR プリプロダクション(1)
5. 取材 VTR プリプロダクション(2)
6. 取材 VTR 制作(1)：撮影・編集
7. 取材 VTR 制作(2)：撮影・編集
8. スタジオ機材について
9. スタジオ収録プリプロダクション(1)
10. スタジオ収録プリプロダクション(2)
11. リハーサル
12. スタジオにて番組収録（本番）
13. 番組収録を振り返る（討論会）

履修者へのコメント：

映像コンテンツ制作 を受講済みもしくは同等レベル（企画・撮影・編集を行い、映像作品に仕上げることができる）の映像表現力を持つことを期待しますが、受講生のニーズには臨機応変に対応します。また映像コンテンツ制作 同様、受講生の自主性を最大限尊重しますが、一方で共同作業も多いため、受講生同士の信頼関係を裏切らないように配慮してもらおうよう期待します。もちろん映像コンテンツ制作 のみの受講も可能です。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（評価の50%）

- ・スタジオ収録への参加（評価の50%）

質問・相談：

授業時および電子メールにて受け付けます。

メディア・ネットワーク実習（春）

音声・動画配信の基礎 田辺浩介

授業科目の内容：

現在のインターネットでは、音声・動画の配信が広く普及しています。この実習では、それらの基礎的な配信方法を学びます。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

特に指定しない。

授業の計画：

- ・コンピュータの構造
- ・ネットワークの基礎（DNS/HTTP）
- ・HTMLの基礎
- ・音声・動画ファイルの形式
- ・ストリーミングとPodcast
- ・ライブ配信

履修者へのコメント：

- ・初回の講義には必ず出席して下さい。
- ・映像制作を扱う講義とあわせて履修することを推奨します（必修ではありません）。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

実習用の Web ページ（<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/~tanabe/mn2008/>）で受け付けます。

メディア・ネットワーク実習（秋）

Web アプリケーション作成の基礎 田辺浩介

授業科目の内容：

みなさんは普段からブログや SNS など、多くの Web 上で動いているアプリケーションを利用していると思います。この実習ではこのようなアプリケーションの動く仕組みを、実際にプログラムを作成することによって学びます。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

高橋征義、後藤裕蔵「たのしい Ruby 第2版」(ソフトバンククリエイティブ)

授業の計画：

- ・Web サーバの導入
- ・データベースの作成と操作
- ・既存の Web アプリケーション（ブログ・SNS など）の設置
- ・自分で作る Web アプリケーションの計画と作成
- ・最終発表

履修者へのコメント：

プログラム作成の経験の有無は問いませんが、比較的早いペースで講義を進めますので、欠席のないようお願いします。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

実習用の Web ページ（<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/~tanabe/mn2008/>）で受け付けます。

体 育 科 目 (三田設置) (体 育 研 究 所)

実施場所・教室変更、休講、授業時間割変更等の連絡事項は、三田設置科目については共通掲示板(西校舎)に、日吉設置科目については、体育科目掲示板(日吉 J11 番教室前)にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目(日吉)の時間割、講義要綱・シラバス等は、学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、学事センターで相談してください。

三田地区の学生は、日吉設置の体育科目を履修することができますが、三田でも、体育実技 A(ウィークリー・スポーツ)が、7科目(テニス、バレーボール、合気道、弓術、剣道、柔道、ダンス)開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが、学部により単位の取り扱いが異なります。各自、学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて、自己の身体が体現する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義」、「体育学演習」、「体育実技 A」、「体育実技 B」の4科目があります。学部、学科によって科目の取扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しくは、本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください(学事センターで閲覧できます)。

(1) 体育学講義 (2単位).....「身体」「健康」「運動」等に関する講義。

(2) 体育学演習 (1単位)..... 講義+実習による演習形式の授業。

(3) 体育実技 A (1単位).....「身体活動」実技 A~Dの4段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

体育実技 Aの成績評価方法は100点満点のうち、出席点が60点。欠席は1回につき5点減点、遅刻は1回につき3点減点します。評価対象者は全授業回数の2/3以上出席した者です。残りの40点を各授業担当者が技術・態度・理解の観点で配分します。

(4) 体育実技 B (1単位).....「身体活動」実技 P(合)・F(否)(Pass/Fail)の2段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

ウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツの概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ.....週1回半年(春学期または秋学期)の授業。

シーズン・スポーツ.....夏季休業中(7月~9月)または春季休業中(2月)の7日間の授業。ただし、合宿科目は原則として3泊4日。

3 2003年度以前に入学した諸君へ

2004年度より、保健体育科目から体育科目へと名称変更になり、個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて、さらに体育科目を履修しようとする場合は、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

4 三田設置科目履修申告までの流れ

4月7日(月)

体育科目ガイダンス(三田)

体育科目の履修を希望する場合は、履修案内と時間割を持参のうえ出席してください。
1限および2限 522番教室(いずれの時限も同内容)

4月9日(水)
~21日(月)

定期健康診断を受診(日吉)

実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)

実施場所: 日吉記念館

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

受付時間	9:00~12:30	14:00~15:30		9:00~12:30	14:00~15:30
4月9日(水)	男子 10時開始	男子	4月16日(水)	女子	男子
10日(木)	男子	男子	17日(木)	男子	女子
11日(金)	女子	女子	18日(金)	男子	男子
12日(土)	男子	男子	19日(土)	女子	女子
13日(日)			20日(日)		
14日(月)	男子	女子	21日(月)	男子 11時終了	
15日(火)	男子	男子			

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口申し出てください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

4月8日(火)
~11日(金)
・14日(月)

体育研究所許可証の取得

体育科目時間割に従い、第1週目の授業で体育研究所許可証を発行します。秋学期科目も同授業で発行します。発行数は定員分までです。

第1週目の授業に出席できない者のために、各日12時30分から14時まで、三田綱町グランド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行する時間を設けていますが、発行するのはその時点で定員に達していない授業だけです。

第1週目の授業に定員以上の履修希望者が集まった場合は、その場で抽選を行い、定員分の体育研究所許可証取得者を決定します。

4月11日(金)
10:00
~16日(水)
14:00

Webによる履修申告期間

学事Webシステムによる履修申告が必要です。

履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。

各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。

秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

履修者数の調整について

体育研究所許可証を取得した学生は、履修申告すれば、必ずその科目を履修できます。体育研究所許可証を未取得であっても、履修申告はして構いません。ただし、許可証取得者が優先され、それでも定員に不足が生じた場合に限り、未取得者の中で抽選が行われます。

4月22日(火)

履修者数調整結果発表

9時 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板

10時30分 三田 西校舎共通掲示板

追加履修を受け付ける、定員に余裕のある科目も同時に発表します。

追加履修は抽選で外れた場合のみ、外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。

追加履修のためには、体育研究所許可証の取得と修正申告の手続きが必要です。

三田設置科目の体育研究所許可証は各授業で発行します。各授業で許可証を取得し、定められた期間に学事センターで修正申告を行なってください。

5 日吉設置科目履修申告までの流れ

**4月4日(金)
・7日(月)**

体育科目ガイダンス(日吉)

体育科目の履修を希望する場合は、履修案内、講義要綱・シラバス、体育科目時間割を持参のうえ出席してください。

4月4日 9:00 613・614・623 番教室
7日 14:45 613・614・623 番教室

**4月9日(水)
~21日(月)**

定期健康診断を受診(日吉)

実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)

実施場所: 日吉記念館

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口申し出てください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

**4月8日(火)
~11日(金)
・14日(月)**

体育科目ガイダンス週間(日吉)

体育科目の時間割どおりに実施します。

ただし、実技科目はこの期間のみ、すべて日吉記念館スタンドで行います(時間割の実施場所ではありません)。

各時限とも同一内容のガイダンスを、前半・後半の2回行います。

シーズン・スポーツの科目は個別のガイダンスはありません。日吉記念館(総合案内)で担当教員の説明を受けてください。

科目ガイダンス	場 所
体育学講義	時間割指定教室
体育学演習	時間割指定教室
ウィークリー・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館スタンド
シーズン・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館(総合案内)

レベルの高低や、自己の都合などによる履修の取消、変更はできません。

**4月11日(金)
10:00
~16日(水)
14:00**

Web による履修申告期間

学事 Web システムによる履修申告が必要です。

履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。

各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。

秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

 4月22日(火) 	<p>履修者数調整結果発表</p> <p>9時 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板</p> <p>10時30分 三田 西校舎共通掲示板</p>
--	---

体育実技 A, 体育実技 B, 体育学演習では, 履修希望者が定員を上回った場合, 抽選による履修者数の調整を行います。履修申告した者は, 履修の可否を必ず確認してください。ただし, 体育学講義は, 抽選による履修者数の調整は行いません。

シーズン・スポーツのアウトドアレクリエーション, 山岳, スキー, スケート, 馬術, ヨット, 水泳(オープンウォータースイミング)の履修者は後述の実技費用納入の手続きを行ってください。

4月22日(火) ~5月9日(金)	<p>追加履修について</p> <p>履修調整の結果, 定員に余裕のある実技科目・演習科目は追加履修することができます。</p> <p>追加履修は抽選で外れた場合のみ, 外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。</p>
5月7日(水) ~9日(金)	<p>追加履修するためには, 体育研究所許可証の取得と, 修正申告期間中の修正申告の2つの手続きが必要です。</p> <p>履修調整結果を再確認し, 誤りのないようにしてください。</p>

体育研究所許可証の取得手続き

定員に余裕のある科目について, 以下のとおり申し込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

受付日時	申込場所
4月22日(火) 9:15~11:30, 12:30~15:00	体育研究所
4月24日(木) 9:15~11:30, 12:30~16:00	
4月25日(金)~5月9日(金)(平日のみ) 受付時間 8:45~16:45 (最終日 16:00終了)	日吉学事センター総合窓口

春学期ウィークリースポーツの追加履修を希望する場合は, 必ず22・24両日中に体育研究所許可証を取得してください。25日以降は取得できません。

修正申告の手続き

で受け取った体育研究所許可証を持参し, 定められた期間に学事センターで履修申告を行ってください。

いずれの手続きが不足しても追加履修はできません。また, 所属する学部が追加履修を認めていない場合は, 行っても修正申告の手続きはできません。

6 シーズン・スポーツ(合宿科目)の実技費用納入について

(1) シーズン・スポーツのうち, 以下の合宿形式7科目については, 指定期間内に実技費用の納入が必要です。

実技費用納入科目 アウトドアレクリエーション・山岳・スキー・スケート・馬術・ヨット・水泳(オープンウォータースイミング)

実技費用納入日時	受付時間	受付場所
4月22日(火)~5月9日(金)	8:45~16:45	日吉学事センター総合窓口(納入用紙交付)

上記科目は, 履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

費用が納入期間に間に合わない場合は, 総合窓口に申し出てください。申し出なく期間内に納入しなかった場合は, 履修放棄として取り扱います。(DまたはF評価)

(2) 実技費用納入締め切り後, なお人員に余裕がある科目については, 追加履修を受付けます。

体育実技 A (ウィークリー・スポーツ)

球技

体育実技 A (テニス) 月曜 1 限
(上級)

堀場 雅彦

〔授業の目的〕

テニスの技術習得と体力の向上。

〔実施場所〕

綱町グランドテニスコート(屋外)

〔服装・携行品・その他〕

硬式テニスラケット, シューズ(ハードまたはオールコート用)

〔参考書〕

「テニスはここから楽しくなる」情報センター出版局 堀場雅彦著

〔授業の計画〕

1 限(90 分)の計画

05 準備体操

10 球出しによるウォーミングアップ, フォア・バックハンドストローク

30 サーブ, シングルス・ダブルスポジションにて

40 ペアーボレーボレー

50 ダブルスゲーム, MIX・男子・女子

85 総括

半期 13 回の計画

毎週, 毎回上記 1 限計画の流れで基本的に授業を進めるが, 参加者数により, ラリー(クロス・ストレート), シングルスゲームをカリキュラムに採用する場合あり。ストローク・サーブ・ボレーの各ショット別練習中に, 以下ポイントに沿ったアドバイスは個別または全体に与える。

1 ~ 3 週: 腕の振り

4 ~ 6 週: 身体のバランス

7 ~ 10 週: 足捌き(フットワーク)

11 ~ 13 週: 総括および戦術

〔履修者へのコメント〕

テニスはサッカーについて, 全世界 120 以上国以上に普及した国際的スポーツです。また, 国内でも全国市町村に必ずと言っていいほど公営コートが完備されています。全日本大会も, 5 歳刻みで 85 歳までのカテゴリーに分けられ, 腕を競い合っています。正にグローバルゼーション・高齢化に最も適したスポーツと言えましょう。社会に出る前に, 是非手習いをしておきたいスポーツです。

〔成績評価方法〕

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席・技術・態度・理解)の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。

体育実技 A (テニス) 火曜 1 限
(初中級)

加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と, ルールの習得

〔実施場所〕

綱町グランド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット, テニスシューズ, 運動ができるウェア

〔授業の計画〕

2 回をセットとして, フォアハンドストローク, バックハンドストローク, サーブ, を技術指導していく。その後は技術の習熟度によ

って内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。3 回の技術力テストを行う。雨天時は当日の朝, 掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席(60%), 技術(10%), 態度(20%), 理解(10%)の項目を点数化し, その合計点で評価する。)

体育実技 A (テニス) 火曜 2 限
(中上級)

加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と, ルールの習得ならびに, テニスにおける戦術の指導。

〔実施場所〕

綱町グランド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット, テニスシューズ, 運動ができるウェア

〔授業の計画〕

戦術的な説明をしつつ, フォアハンドストローク, バックハンドストローク, サーブ, ボレー, スマッシュを技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。実践的な練習が多い予定。雨天時は当日の朝, 掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席(60%), 技術(10%), 態度(20%), 理解(10%)の項目を点数化し, その合計点で評価する。)

体育実技 A (テニス) 金曜 1 限
(初級)

村松 憲

〔授業科目の内容〕

テニスを楽しむために必要な技術・エチケット・ルールを身につけます。実施場所は綱町グランド(屋外コート1面, 三田キャンパス西門から徒歩3分程度)です。準備していただく物は, テニスシューズ, テニスラケット(シューズ, ラケットの貸し出しはありません), 運動に適した服装です。雨天時には綱町グランドの武道館にてテニスを行います。

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

1~2 回目 ボールとラケットに親しむための基礎練習

3~6 回目 ボレー, サーブ, グラウンドストローク, スマッシュの基礎練習

7 回目以降 クロスコートでのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕

テニスが全く初めての方でも大丈夫です。また, 少し経験はあるけれども基礎を確認したい, という方も歓迎します。かなり経験を積んだ方が参加しても構いませんが, あくまで, 初級者にレベルを合わせて授業をすすめますので, あらかじめご理解下さい。授業は定刻(9時)に開始します。綱町武道館で更衣を完了した上でテニスコートに来てください。2 限に授業がある方を考慮し, 多少早めに

終了します。なお4月のガイダンスはテニスコート上でなく、綱町武道館にて行います(ガイダンス当日はラケットや更衣は不要です)。
〔成績評価方法〕

出席点が60点、技術点が10点、態度点が15点、理解点が15点です。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技A(テニス) 金曜2限
(中級)

村松 憲

〔授業科目の内容〕

試合を楽しむために役立つ技術・戦術を身につけます。エチケット、ルールを再確認します。実施場所は綱町グラウンド(屋外コート1面、三田キャンパス西門から徒歩3分程度)です。準備していただく物は、テニスシューズ、テニスラケット(シューズ、ラケットの貸し出しはありません)、運動に適した服装です。雨天時には綱町グラウンドの武道館にてテニスを行います。

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが、履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

- 1~3回目 サービス、ボレー、グラウンドストローク、スマッシュ、リターン等、基礎技術の確認と練習
- 4~6回目 回転をかけるサービス、ジャンピングスマッシュなど、試合を有利にすすめる上で役立つ応用技術の確認と練習
- 7回目以降 クロスコートでのサービスからのポイント形式練習、ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕

このクラス(中級)では、技術レベルも成績評価の対象とします。また、実践形式を多く行います。したがって、「打ち合いで安定して10往復以上続けることができる(相手が打ちやすいボールを出してくれた場合)こと」が難しい方にはおすすめできません。授業開始時刻は、1限に授業がある方を考慮し、10時50分を予定しています。綱町武道館で更衣を完了して、テニスコートにきてください。なお4月のガイダンスはテニスコート上でなく、綱町武道館にて行います(ガイダンス当日はラケットや更衣は不要です)。

〔成績評価方法〕

出席点が60点、技術点が15点、態度点が15点、理解点が10点です。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技A(バレーボール) 木曜1限・2限

野口 和行

〔授業科目の内容〕

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して、個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら、相互のコミュニケーションを促進する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド バレーボールコート

〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装・屋外シューズ

〔授業の計画〕

1. 個人の技術レベルの向上(4回)
パス、スパイク、ブロック、サーブ等の個人技能のレベル向上を図る。ラリーを楽しむことを主眼としたゲームの実施。
2. 集団技能の学習とフォーメーションの理解(4回)
サーブレシーブフォーメーション等のフォーメーションの理解。フォーメーションを利用したゲームの実施。
3. リーグ戦形式のゲームの実践

個々の技術レベルに応じてチーム内での役割分担を決め、ゲームを楽しむ。ゲームで利用できるような個人技能のレベルアップ。

〔履修者へのコメント〕

積極的にチームのメンバーとコミュニケーションをとり、技術レベルを問わずバレーボールのゲームを楽しめるような授業にしたいと思っています。

〔成績評価方法〕

平常点:出席状況および授業態度による評価(出席(60%),態度(20%),理解(20%)の項目を点数化し、その合計点で評価する。)

武道

体育実技A(合気道) 木曜2限

心が身体を動かす

藤平 信一

〔授業の目的〕

合気道の実技を通して、心と^{からだ}身体の正しい使い方(心身統一)を習得する。

心身統一を日常生活で活用できるように習得する。

大切な場面での心の落ち着きを習得する。危険に対する察知と対応を習得する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館

〔服装・携行品・その他〕

道着は貸与。Tシャツ(女子のみ)・タオル(汗をふくため)・道着を持ち運ぶバッグ等。

〔授業の計画〕

半期前半

- ・合気道基本技
- ・心が身体を動かす(心身統一)
- ・正しい姿勢(自然に安定した姿勢)
- ・安全な受身と間合い

半期後半

- ・合気道応用技
- ・正しいリラックス(虚脱状態との違い)
- ・大切な場面での心の落ち着き
- ・危険に対する察知と対応

春学期と秋学期ではテーマは同じですが、内容は異なります。

半期が基本ですが、通年で履修をすると理解がさらに深まります。

〔履修者へのコメント〕

基礎から確実にお伝えしますので、合気道を初めて学ぶ方でも安心して学べます。

半期で一通りのことを学ぶことが出来ませんが、しっかりとした習得には通年で履修をおすすめします。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。)

体育実技A(弓術) 火曜1限・2限

小笠原 清忠

〔授業科目の内容〕

ウィークリースポーツとしての弓術の授業は、経験者と未経験者に分けて行います。経験者には、射法・射術の習得と基本姿勢のあり方を学んでいただきます。未経験者には弓術に親しみ理解を深めると共に基本姿勢を学んでいただきます。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館(正己弓道場)

〔授業の計画〕

弓道に対する理解を深める。

基本の技の習得。

立ち居振る舞いや武道としての礼法を学ぶ。

の前で実際に矢を射て、的中させることを学ぶ。

弓・矢等の道具についての知識を習得する。

〔履修者へのコメント〕

服装は運動の出来る服装（ボタンや胸ポケットのないもの。）

靴下または足袋を必ず持参すること。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価

体育実技 A（剣道） 水曜 2 限・3 限

吉田 泰将

〔授業の目的〕

剣道をはじめて行うものから、有段者まですべてのレベルを対象に、初心者は一級に、有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するために、基本的な技術、知識、日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して、クラス全体の実力アップを図りましょう。そして、生涯を通じて実践できる剣道をしっかりと身につけましょう。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（剣道場）

〔服装・携行品・その他〕

剣道着・袴（運動に相応しい服装も可）・手ぬぐい

剣道具（防具）・竹刀は準備しています。

〔授業の計画〕

- 1 ガイダンス剣道の歴史 礼儀作法 構え方 足さばき 素振りの基礎
- 2 素振りのバリエーション 五行の構え 対人的足さばき
- 3 基本の復習 日本剣道形の導入・1 本目
- 4 日本剣道形1～2 本目 有効打突の理解 打突部位 基本的な技の打ち方
- 5 日本剣道形1～3 本目 基本的な技の打ち方 防具の着け方
- 6 日本剣道形1～4 本目 手の内の刃えについて 正中線の意味 切り返し
- 7 日本剣道形1～5 本目 一本打ちの技
- 8 日本剣道形1～6 本目 連続技(二・三段打ちの技) 払い技 捲き技
- 9 日本剣道形1～7 本目 応じ技(すり上げ技・返し技)
- 10 日本剣道形1～7 本目 応じ技(抜き技・打ち落とし技)
- 11 日本剣道形小太刀1～3 本目 出頭技
- 12 日本剣道形復習試合規則の確認 試合形式の実践
- 13 紅白試合まとめ

〔履修者へのコメント〕

剣道を通して、戦う技術はもちろん、対人的な行動のしかたや自分自身の心のコントロールなどを身につけてください。また、日本の伝統文化としての剣道を肌で感じ、国際感覚の向上や異文化コミュニケーションの題材としても活用してほしいものです。

〔成績評価方法〕

出席60%，技術10%，態度20%，理解10%の割合で点数化して評価する。

体育実技 A（柔道） 月曜 2 限・3 限

（初心者、経験者を問わない～男女共習）

安藤 勝英

〔授業の目的〕

柔道を通して技術、体力の向上を図り、これから生涯スポーツとして取り組むことの出来るよう行う。中でも礼法、受身、正しい技の掛け方等をより深く解説する。また、見る柔道の立場から、国際国内ルールを説明する。更に、昇段希望者には、この授業の中で実地指導する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（柔道場）

〔服装・携行品・その他〕

柔道衣（希望者には貸与する）、タオル、T シャツ（女子のみ）

〔授業の計画〕

- 1 講道館柔道の歴史とその内容。
- 2 柔道の基本的動作（礼法、受身、体捌き）
- 3 投げ技と受身の反復練習（大外刈、大内刈等）
- 4 投げ技と受身の反復練習（大腰、背負投等）
- 5 投げ技と受身の反復練習（送足払、払釣込足等）と約束稽古。
- 6 約束稽古から正しい乱取稽古への導入。
- 7 乱取稽古
- 8 乱取稽古
- 9 技の連絡変化。
- 10 固め技（抑込技、絞技、関節技）の説明。
- 11 固め技の説明とその稽古方法。
- 12 乱取稽古（立技、寝技）
- 13 試合方法、審判法（国内、国際ルール）の説明。

〔履修者へのコメント〕

この授業を通し、現行の試合を中心にした柔道ではなく、本来の組み方、技の掛け方の中から正しい柔道のあり方を理解して欲しい。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。）

個人種目

体育実技 A（ダンス） 金曜 2 限・3 限

ボールルームダンス 入門 初級

篠原 しげ子

〔授業科目の内容〕

男女で組んで踊るために、自分自身の体の細部にわたっての身体感覚を養い、バランスを保って動けるようにする。又、相手のことも考慮して動けるようになることを目指す。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（剣道場）

〔定員〕

男性 10 名 女性 10 名

〔服装・携行品・その他〕

動きやすい服装 綱町道場の剣道場で行うためシューズは着用せず、ソックスを持参

〔授業の計画〕

金曜 2 時限目

春学期 ラテン入門（ジルバ ルンバ チャチャチャの基礎を4～5週間ずつ行う）

秋学期 スタンダード入門（ブルース タンゴ ワルツの基礎を4～5週間ずつ行う）

金曜 3 時限目

春学期 初級・タンゴ

秋学期 初級・ワルツ

それぞれの種目を半期間通して行う。

1～3週 種目の特徴（リズム、姿勢、ホールド）を理解する。

4～8週 数種類のフィギュアをつなげて一曲踊りとおせるようになる。

9～12週 さらにフィギュアの数を増やすとともに正確な踊りを目指す。

13～ 自分で好きな順番でつなげて踊れるように工夫する。

〔履修者へのコメント〕

ガイダンス週間に種目のビデオを見ながら、それぞれの踊りの説明をします。必ず参加して内容を把握して選択してください。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（各時限に簡単なレポート提出により、理解度 20、授業態度 20、出席状況 60 で採点）

網町グランド案内



福澤研究センター設置講座

慶應義塾福澤研究センターは、1983年に義塾創立125年を記念して、三田キャンパスの旧図書館内に設立された研究所です。この研究所の目的は、一つは福澤諭吉および慶應義塾に関する資料の収集・整理・保管ですが、単にそこにとどまるものではありません。同時に、福澤諭吉と慶應義塾を視野においた近代日本の研究も本研究所の重要な役割です。このような研究を目的としているのは、一面では、福澤諭吉や各界で活躍した慶應義塾出身者について研究することが、そのまま日本の近代化について考える大きな鍵となるからです。また他面では近代日本に広く目を配ることなしには、福澤諭吉と慶應義塾の歴史的意義も本当には理解できないからでもあります。

しかも、福澤諭吉に関する研究は、狭く日本の内部にとどまるものではありません。福澤が投げかけた近代化の課題は、19世紀以降の日本を含む世界中の後発国が直面した問題でした。このため、福澤諭吉に取り組むことは、例えばアジアの近代化を考えることに直接的にも間接的にもつながってゆきます。このように、各国にまたがる広い関連性を持った研究に本センターは関わっており、文字通り世界における福澤研究の中心として機能しています。

このような目的をかかげて、これまで福澤研究センターは、学術誌『近代日本研究』、資料集、叢書の刊行や、講演会、セミナー、展覧会などを開催してきました。また、これらの資料整理・研究活動は、25名の所員（専任2名、兼任23名）、10名の顧問、29名の客員所員、6名の事務スタッフ等により支えられています。

本設置講座は、このような活動を続けている福澤研究センターが提供する大学講座です。講座の目的は、第1には、福澤研究センターを中心として、塾内外の研究者により行われてきた研究の学術的な成果を、講義・演習を通して学生諸君に受け止めてもらうことです。また、第2には、福澤諭吉や慶應義塾を視野においた近代日本史への関心を喚起することです。さらに、第3には、将来福澤諭吉研究者や大学・学校史の研究者に育ちうる人材を教育することがあります。そして、第4には、この講座を通して、21世紀の世界にとって、福澤諭吉の思想と慶應義塾の歴史が、いかなる意味を持っているかを考える機会を作ることを目指しています。

近年、慶應義塾で学びながら、義塾がいかなる歴史を持っていたのかを知らず、また福澤諭吉の著作を読むこともなく卒業する塾生が増えています。多くの学ぶべきことが他にもある現在、それはそれで一つの学生時代の過ごし方であることは確かです。しかし、福澤の著作は、その主張に賛成するものにとっても反対するものにとっても、等しく面白くかつ刺激的です。そのような福澤の著作に触れる機会もなく卒業することは、我々福澤研究センターのスタッフは惜しいことだと考えています。しかも、本設置講座は、文系の多くの学部では卒業単位や進級単位として認められています。

本年度は日吉で1コマの講義、三田で6コマの講義・演習を開講しますので、諸君の活発な履修を期待しております。

（慶應義塾福澤研究センターのホーム・ページ <http://www.fmc.keio.ac.jp/>）

近代日本研究 (春学期)(2)
『学問のすゝめ』とその時代

法学部教授 岩谷 十郎
商学部教授 牛島 利明
経済学部教授 小室 正紀
教職課程センター教授 米山 光儀

授業科目の内容:

福澤諭吉の初期の代表作『学問のすゝめ』は、明治5年2月から明治9年11月までの5年間にわたって、17編に分けて逐次刊行された。それは、福澤の生涯の中では、『文明論之概略』に結実する思想の形成期であった。また、この時期は、学制発布、鉄道初開通、徴兵令布告、征韓論、明六社結成、地租改正、民選議院設立建白書、佐賀の乱、征台の役、立志社設立、江華島事件、萩の乱など、制度改革や事件が陸続する時であり、まさに揺籃期の明治社会にとっては、改革と模索の次期であった。

この講義では、『学問のすゝめ』各編を取り上げて、4人の担当者が分担して講義を行うが、単にその文面から福澤の思想を考えるだけでなく、同書の各編を、福澤の人生と初期明治社会の変動の中に位置づけることを目指したい。またその過程を通して、福澤の思想と近代日本社会形成の間にある緊張関係を考えてみたい。

テキスト:

福澤諭吉『学問のすゝめ』(各種の版がある。どの版でもよい。)

参考書:

福澤諭吉『福翁自伝』(各種の版がある。どの版でもよい。)

慶應義塾編『福澤諭吉書簡集』第1巻、岩波書店、平成13年。

慶應義塾編『福澤諭吉の手紙』岩波書店、平成16年

丸山真男『「文明論之概略」を読む』岩波書店、昭和61年

授業の計画:

第1回 はじめに 担当:小室
第2~4回 初編~4編(明治5年2月~7年1月) 担当:米山
第5~7回 5編~8編(明治7年1月~7年4月) 担当:岩谷
第8~10回 9編~12編(明治7年5月~7年12月) 担当:小室
第11~13回 13編~17編(明治7年12月~9年11月) 担当:牛島

担当教員から履修者へのコメント:

講義当日に取り上げる編を事前に読んでくること。

成績評価方法:

1. 試験の結果による評価(試験方法については、第1回の講義で説明する。)
2. 平常点:出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

講義中ないしは講義後に質問・相談に応じる。

近代日本研究 (秋学期)(2)

- 福澤諭吉の近代化構想 -

福澤研究センター専任講師 都倉 武之

授業科目の内容:

福澤諭吉は明治維新前後の世の中の劇的な変化について「一身にして二生を経るが如し」と述べたことがある。彼は68年の生涯を、文字通り34歳で迎えた明治維新によって二分することとなった。しかし福澤は一般に、明治維新前後の著作活動、たとえば『西洋事情』『学問のすゝめ』などを著した啓蒙思想家としての評価が大きく、明治期の活動は、一般にあまり認識されていない。本講義では多様な側面を有した明治期の福澤の活動を最新の研究動向を踏まえながら取り上げ、福澤諭吉という人物のイメージを新たに描き出してもらいたいと考えている。

テキスト:

指定しない。

参考書:

適宜講義中に紹介する。

授業の計画:

1. 福澤諭吉の生い立ちと明治維新
2. 文明開化と福澤

3. 自由民権運動と福澤

4. 『時事新報』と明治政府

5. 朝鮮問題をめぐる言論と運動

6. 慶應義塾と福澤

7. 構内史蹟見学

担当教員から履修者へのコメント:

「福澤諭吉入門」と位置付けて講義を行うので予備知識は求めない。福澤の思想に触れてみたい学生を広く歓迎したい。

成績評価方法:

試験の結果による評価(試験方法については、第1回の講義で説明する。)

質問・相談:

講義後やEメールで適宜応じる。

近代日本研究演習 (春学期)(2)

明治期新聞『時事新報』を読む

福澤研究センター専任講師 都倉 武之

授業科目の内容:

この演習では、明治15年に福澤諭吉が創刊した日刊新聞『時事新報』を読んでいくことを通し、明治期の日本の姿と、それを捉える福澤の視点について考えていく。このことは、単に明治の社会や政治史に理解を深めるだけでなく、ジャーナリスト、教育者、また啓蒙思想家としての福澤の姿を浮かび上がらせる多くの示唆に富む作業となる。取り上げる記事は社説を中心とするが、風刺漫画や広告など、時代を表す紙面の全体像も題材として盛り込んでいきたい。

テキスト:

『時事新報』紙面のコピーを適宜配布する。

参考書:

- ・石河幹明『福澤諭吉伝』全4巻(岩波書店)
- ・富田正文『考証福澤諭吉』上下(岩波書店)
- ・都倉武之『時事新報史』(慶應義塾大学出版会ホームページ連載)

授業の計画:

1. 『時事新報』概説 歴史と研究の現状
2. 国内政治論
3. 国際政治論
4. ジャーナリズム論
5. 風刺漫画、広告
6. 福澤没後の論調

担当教員から履修者へのコメント:

丁寧な解説を心がけるが、古いテキストを根気よく読み解く意欲ある学生を歓迎したい。

成績評価方法:

1. レポートによる評価
2. 平常点:出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

随時。

近代日本研究演習 (秋学期)(2)

地方新聞に見る明治

福澤研究センター准教授 西澤 直子

授業科目の内容:

この演習では、主に福澤諭吉の故郷である中津で発行された『田舎新聞』『田舎新報』(明治9年~18年)を取り上げ、論説だけではなく社会面や広告欄も読むことによって、近代化が進みつつあった明治期日本の実情がいかなるものであったのかを考えたい。『田舎新聞』およびその後継紙である『田舎新報』は、福澤や門下生たちの関与があり、紙面構成は充実している。そこから中央の動静と地方の動静の双方を同時に読みときたい。

参考書:

・野田秋生『豊前中津『田舎新聞』『田舎新報』の研究:明治十年代一地方紙の初志と現実』エヌワイ企画 2006年

授業の計画:

1. 予備的講義

2. 福澤諭吉と中津
3. 『田舎新聞』の創刊
4. 『田舎新報』の創刊
5. 両紙にみられる土族社会論
6. 両紙にみられる女性論
7. 両紙にみられる学問論
8. 両紙にみられる新聞論
9. 『田舎新聞』『田舎新報』の終焉
10. 発表と討論

担当教員から履修者へのコメント：

史料を手と共に考える授業にしたいと思います。

成績評価方法：

1. レポートによる評価
2. 平常点：出席状況および授業態度による評価
3. その他（授業中に意見発表の時間があります。その際簡単なレポートの提出を求めます。）

質問・相談：

随時。

明治期日本女性論と福澤諭吉（春学期）(2)

福澤研究センター准教授 西澤 直子

授業科目の内容：

福澤諭吉の著作を中心に、明治期の日本における女性論・家族論の展開を考える。福澤の女性論・家族論は、同時代のみならず大正期・昭和期に入っても、一方では多くの人々に高い評価を得、他方では多くの批判を受けながら、読み継がれてきた。それは福澤の指摘が今日的であり続けたからであり、つまりは近代化の過程において、福澤が提示した課題が克服され得なかったことを示している。

この授業では、まず福澤の女性論・家族論をテーマとした著作を取り上げ、他の著作や書簡などと読み合わせながら、福澤の構想を考える。更に同時代の他者による女性論を比較講読し、福澤の意図はどこにあったのか、また最終的に社会的規範として受け入れられていった女性論がいかなるものであったのかを考察したい。では明治10年代までを扱い、では明治20年以降を扱う。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第10巻（慶應義塾大学出版会，2003年）
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 福澤諭吉の女性論・家族論
 - 1) 「中津留別の書」『学問のすゝめ』
 - 2) 「日本婦人論」『日本婦人論後編』
 - 3) 『男女交際論』『男女交際余論』
- 3 明六社の女性論
 - 1) 森有礼「妻妾論」・加藤弘之「男女同権の流弊論」・津田真道「男女同権弁」
 - 2) 福澤諭吉「男女同数論」
- 4 自由民権運動の中の女性論
 - 1) 土居光華『文明論女大学』
 - 2) 岸田俊子「同胞姉妹に告ぐ」・福田英子『妾の半生涯』
 - 3) 植木枝盛『東洋の婦女』
- 5 報告と討論

担当教員から履修者へのコメント：

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

1. レポートによる評価
2. 平常点：出席状況および授業態度による評価
3. その他（授業中に意見発表の時間があります。その際簡単なレポートの提出を求めます。）

質問・相談：

随時。

明治期日本女性論と福澤諭吉（秋学期）(2)

福澤研究センター准教授 西澤 直子

授業科目の内容：

福澤諭吉の女性論を中心に、明治期日本における女性論の展開を考える。明治期日本女性論と福澤諭吉を参照のこと。

授業は通常講義形式で行い、履修者各自が興味をもった論説あるいは人物を取り上げて、意見を発表する時間を設ける。では明治20年以降の福澤の論説およびキリスト教主義者、儒教主義者の女性論を扱い、また福澤女性論の系譜について考える。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第10巻（慶應義塾大学出版会，2003年）
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 福澤諭吉の女性論・家族論
 - 1) 『日本男子論』
 - 2) 『女大学評論・新女大学』
 - 3) 民権・国権論、実業論にみられる女性論・家族論
- 3 キリスト教主義の女性論
 - 1) 矢島楯子・潮田千勢子
 - 2) 新島襄・内村鑑三
- 4 儒教主義の女性論

丹靈源『国母論』・大江スミ子『女房説法鉄砲三ぼう主義』・井上哲次郎ほか『女大学の研究』
- 5 福澤女性論・家族論の系譜
 - 1) 深間内基『男女同権論』・鎌田栄吉『鎌田栄吉全集』より
 - 2) 日原昌造 福澤研究センター所蔵『時事新報』社説原稿より
- 6 報告と討論

担当教員から履修者へのコメント：

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

1. レポートによる評価
2. 平常点：出席状況および授業態度による評価
3. その他（授業中に意見発表の時間があります。その際簡単なレポートの提出を求めます。）

質問・相談：

随時。

慶應義塾大学国際センター 在外研修プログラム

全学部・研究科在籍生を対象に、夏季・春季休業期間中に開催されます。単なる語学研修でなく、講義やディスカッションのほか大学内の寮生活をはじめとする多彩な諸活動を通して様々な異文化交流を体験することで国際性豊かな学生を育成することを目的としており、短期間で集中して国外学習を経験できる貴重な機会になっています。

現地への出発前には事前研修を数回実施します。(事後研修を実施する場合もあります。)

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

【問合せ先】 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/index.html> 「海外に関心のある塾生へ」の「短期プログラム」

詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。春季講座の詳細は10月ごろホームページで発表します。

【夏季講座ガイダンス】 4月4日(金) 矢上 11:41 番教室 12:00~13:00 4月5日(土) 三田 528 番教室 10:45~12:15
4月4日(金) SFC 11 番教室 16:30~18:00 4月5日(土) 日吉 33 番教室 16:30~18:00

【夏季講座応募について】(すべて予定)

- (1) オンラインレジストレーション期限 4月13日(日)
- (2) 募集期間 4月14日(月), 15日(火)
- (3) 一次合格発表 4月24日(木)
- (4) 面接審査 4月26日(土)
- (5) 選考結果発表 5月2日(金)

【単位について】

各講座の単位は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは、各学部・研究科によって異なりますので各自確認してください。ただし、春季講座は次年度春学期設置科目として認定のため、参加時に最終学年の場合は対象外となります。

ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

ケンブリッジ大学教員による6つの講義の中から3つを自由に選択する方式のため、自分の専攻分野の学習を深めるだけでなく、知識の幅を広げることができます。

【現地研修期間】2008年8月4日(月)~9月3日(水)(予定)

【研修内容】講義(午前)、ケンブリッジ大生(TA)をまじえてのディスカッション(午後)、エッセイ作成(週末)。

【開講予定科目】

English Literature, British Art, Ancient Greece and Western Civilization, Astronomy: Unveiling the Universe, The Science of Chaos, Evolution and Behavior(予定)

【単位数】4単位

【募集人数】60名

ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

ウィリアム・アンド・メアリー大学は1693年創立の州立大学で、教育・研究で高い評価を得ています。両校の学生が混在する小グループで日米文化をめぐるトピックを研究します。

【現地研修期間】2008年7月29日(火)~8月12日(火)(予定)

【研修内容】ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションなど。

【単位数】4単位

【募集人数】40名

ワシントン大学夏季講座

シアトルの豊かな自然を活かしたフィールドトリップを織り込みながら「環境」を多面的な視点から学びます。この講座にはAPRU(環太平洋大学協会)に加盟している海外大学からも数名の学生が参加する予定です。

【現地研修期間】2008年8月4日(月)~8月26日(火)(予定)

【研修内容】講義/ワークショップ、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーション、体験宿泊旅行

【単位数】4単位

【募集人数】30名

オックスフォード大学リンカーンコレッジ夏季講座

ディベート、演劇のワークショップなどを織り込みながら、イギリスの歴史・政治・文化を学びます、また、800年に亘り英国エリートを輩出してきたオックスフォード教育を体験できます。

【現地研修期間】2008年8月22日(金)～9月6日(土)(予定)

【研修内容】講義、ディベート、ディスカッション、ワークショップ、演劇の見学など

【単位数】4単位(予定)

【募集人数】20名

西安交通大学中国語・中国文化夏季講座

西安交通大学は、工学、医学のみならず文学、法学まで9つの学科を擁する国家教育部直属の総合重点大学で2006年に創立110周年を迎えました。国際交流も幅広く行っており、中国で最も早く留学生を受け入れ始めた大学の1つです。研修を通じて中国語だけでなく、中国文化全般を理解することができます。

【現地研修期間】2008年8月28日(木)～9月14日(日)(予定)

【研修内容】中国語授業、中国文化講義、太極拳などのアクティビティ、中国の大学生との交流活動、西安市の名所旧跡の見学

【単位数】2単位

【募集人数】15名(学部生対象)

パリ政治学院春季講座

拡大するEUの政治・経済・社会・文化の諸問題、EU対諸外国との国際関係等、ヨーロッパをめぐる様々なテーマを学びます。フランス語の研修もあり、2カ国語を同時に磨く機会となります。講義はすべて英語で行われます。

【現地研修 2007年度参考】2008年2月16日～2008年3月16日

【講義内容 2007年度参考】共通ブロック1つと、選択ブロックの中から2つの計3ブロックを履修。

共通ブロック

“Europe: what are we talking about?”

選択ブロック

“Economics of the Euro area”

“Europe and its external relations”

“Migration and identities”

【単位数】4単位

【募集人数】定員：20名

延世大学春季講座

政治・経済・社会・文化についての講義、韓国語の授業や延世大学学生との交流、慶州へのツアー、テコンドー教室などがあり、韓国を全般的に理解することができます。講義はすべて英語で行われます。

【現地研修 2007年度参考】2008年2月9日～2008年2月27日

【講義内容 2007年度参考】

- 1 Modern and Pre-modern Korea: A Historical Overview
- 2 Modernization and Social Transformation in Korea: A Sociological Perspective
- 3 Confucian Korea: Past and Present
- 4 Korean Economy
- 5 Political Economy of Korean Development
- 6 North-South Korean Relations: South Korean Perspective & Policies
- 7 Contemporary Korean Pop Culture and the Cultural Wave of “Hallyu” in Asia and Beyond
- 8 Information Technology in Korea
- 9 Modern Art in Korea
- 10 Korea in a Newly Emerging Regional Security Order

【単位数】2単位(予定)

【募集人数】20名(学部生対象、大学院生は要相談)

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国/地域は、アジア・オセアニア、北米・南米、ヨーロッパからアフリカにおよぶほか、国際社会、異文化理解をうながす講座もあります。一方日本研究講座では、社会、経済、ビジネス、政治をはじめ歴史、文学、芸術、思想・宗教など幅広い側面から日本を探求します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生，大学院生，別科生および特別短期留学生（原則として新入生を除く）
2. 単位 各科目 2 単位
（なお，医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません）

3. 手続方法

履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。

学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用してください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。

4. 受講料 無料

5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板および以下の WEBSITE の掲示板上に掲示されます。

6. WEBSITE

この講義要綱には、各科目の概要（Course Description）しか掲載していません。「教科書」「参考書」「毎週の計画」「コメント」「成績評価方法」等については以下の WEBSITE を参照してください。

<http://www.ic.keio.ac.jp/iccourse/index.html>

7. その他

2008 年 7 月、イタリア・ミラノのボッコニ大学がサマースクールを三田キャンパスで行うことになりました（概要は下記参照）。ボッコニ大学は経営学・経済学・法学で知られており、特にその MBA プログラムは常に世界ランキングの上位に入っています。

このサマースクールの日本での開催は今回が初めてで、ボッコニ大学の教員がすべて英語で講義し、ボッコニ大学学生が参加するものですが、慶應義塾大学の学部学生・大学院生も自分の希望する授業を受講できることになりました。

日程、時間割、講義内容等の詳細は国際センター WEBSITE で公開し、5 月下旬ごろに受講希望者を募集する予定です。単位には該当しませんが、知識の幅を広げ、学問を通じた交流を行う絶好の機会となりますので、興味のある学生は WEBSITE を参照してください。

ボッコニ大学サマースクール（Bocconi University Campus Abroad Program）概要

日 時：2008 年 7 月第 2 週～第 4 週 火曜～土曜の 1・2 限集中（予定）

授業分野：経済，経営，ビジネス等：計 24 コマ，日本事情研究：2 コマ

使用言語：英語

参加者：ボッコニ大学学部 2，3 年生 20～30 名

2008-2009 Keio University International Center: International Studies Courses (2008年度 慶應義塾大学国際センター国際研究講座)

(*) This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (**) のついた科目は学部生(履修不可) Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer	Course Title (Japanese)	Lecturer (Japanese)	Offered by:
Area Study: Asia, Oceania	Spring	Wed	3	CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY	Farrer, Gracia	現代中国社会	ファーラー, グラシア	
	Spring	Wed	2	SPECIAL STUDY OF CONTEMPORARY SOUTH EAST ASIA 2	Yamamoto, Nobuto	現代東南アジア論特殊研究II	山本 信人	F(Law)
	Spring	Thu	3	INTERNATIONAL RELATIONS 2	Yamamoto, Nobuto	国際政治論II	山本 信人	F(Law) Note: HIYOSHI Campus
	Fall	Thu	4	SPECIAL STUDY OF INTERNATIONAL RELATIONS IN THE EAST ASIA 2	Soeya, Yoshihide	東アジアの国際関係特殊研究 II	添谷 秀秀	F(Law)
	Fall	Wed	5	SPECIAL COLLOQUIUM ON INTERNATIONAL RELATIONS (*)	Yamamoto, Nobuto	国際政治論特殊研究 (*)	山本 信人	GS(Law)
	Spring	Wed	4	DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE	Kurasawa, Aiko	開発と社会変容	倉沢 愛子	
	Fall	Mon	4	WORLD OF SOUTHEAST ASIA	Nomura, Toru	東南アジア世界の諸相	野村 亨	
	Spring	Fri	4	CONSTRUCTING INDIA	Williams, Mukesh	インドをソウゾウする	ウィリアムス, ムケッシュ	
	Fall	Thu	5	INDIA TODAY	Nishimura, Yuko	現代インド事情	西村 祐子	
	Spring	Thu	4	LISTENING TO ASIA	Hoffman, T.M.	アジアの音楽	ホッフマン, T・M	
Area Study: North America, South America	Spring	Wed	5	AUSTRALIAN STUDIES	Carter, David	オーストラリア研究	カーター, デイヴィッド	
	Spring	Mon	4	AREA STUDIES (THE UNITED STATES)	Okuda, Akiyo	地域文化論 (アメリカ)	奥田 敬代	
	Fall	Fri	4	AMERICAN STUDIES	Williams, Mukesh	アメリカ研究: アメリカの歴史・文化と外交政策	ウィリアムス, ムケッシュ	
	Fall	Tue	5	CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE	Yellowlees, James	カナダという国とカナダの国際的な役割	イエローリース, ジェームズ	
	Spring	Tue	5	LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS	Antolinez, Mario	世界政治におけるラテンアメリカ	アントリネス, マリオ	
	Spring	Fri	3	UKRAINE AND RUSSIA	Nakorchevski, Andriy	ウクライナとロシア	ナコルチェフスキー, アンドリイ	
	Fall	Thu	5	PROJECT 2: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION (*)	Tanaka, Toshiro	プロジェクト科目II・欧州統合 (*)	田中 俊郎	GS(Law)
	Fall	Thu	5	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	Hayashi, Hideki	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	林 秀毅	F(Economics)
	Spring	Fri	4	AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA	Kondo, Hidetoshi	アフリカン イシューズ: アフリカにおける近代と危機の意味	近藤 英俊	
	Fall	Tue	4	BUILDING THE GLOBAL VILLAGE	Freedman, David	グローバルヴィレッジ構築に向けて	フリードマン, デビッド	
Global Community	Spring	Tue	4	THE ACTUAL WORLD OF INTERNATIONAL COOPERATION	Bambang, Rudyanto	国際協力の実態	バンバン, ルディアント	
	Fall	Thu	3	CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS	Malik, Rabinder	現代の国際問題と国連の役割	マリク, ラビンダー	
	Fall	Wed	4	INTERNATIONAL RELATIONS	Seth, Aftab	国際関係	セット, アフターブ	
	Fall	Fri	4	INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	Goto, Kazumi	国際開発協力論	後藤 一美	
	Fall	Wed	5	LAW AND DEVELOPMENT	Matsuo, Hiroshi	開発法学	松尾 弘	
	Spring	Wed	5	INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW	Hosotani, Akiko	国際人権法	細谷 明子	
	Spring	Mon	3	NGOS, NPDS AND CBOS	Castro-Vazquez, Genaro	ヘルスケア組織論	カストロ ヴァスケス, ヘナロ	
	Spring	Thu	3	INTRODUCTION TO PRINT JOURNALISM	Holley, David	プリントジャーナリズム入門	ホーリー, デイヴィッド	
	Spring	Wed	2	SPECIAL LECTURE OF ETHICS 3B (*)	Erti, Wolfgang	倫理学特殊講義3B (*)	エアトル, ヴォルフガング	GS(Letters)
	Fall	Wed	2	SPECIAL LECTURE OF ETHICS 4B (*)	Erti, Wolfgang	倫理学特殊講義4B (*)	エアトル, ヴォルフガング	GS(Letters)

(*) This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (*) のついた科目は学部生履修不可)
 Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	CourseTitle	Lecturer	CourseTitle (Japanese)	Lecturer (Japanese)	Offered by:
Global Economy, Global Business	Spring	Thu	4	ACCOUNTING (*)	Ito, Makoto	会計学 (*)	伊藤 真	GS(Business&Commerce)
	Fall	Tue	2	ADVANCED STUDY OF FINANCE (*)	Fukao, Mitsuhiro	金融特論 (*)	深尾 光洋	GS(Business&Commerce)
	Fall	Thu	2	INTERNATIONAL ECONOMY (*)	Kashiwagi, Shigeo	国際経済 (*)	柏木 茂雄	GS(Business&Commerce)
Culture, Cross-cultural Understanding	Spring	Mon	5	LITERATURE AS HISTORY	Chandra, Elizabeth	歴史としての文学	チャンドラ, エリザベス	
	Fall	Tue	3	THEORY AND PRACTICE OF NATIONALISM	Chandra, Elizabeth	ナショナリズム研究	チャンドラ, エリザベス	
	Fall	Mon	5	VISIONS OF THE PAST	Ainge, Michael W.	比較映画論	エインジ, マイケル	
	Spring	Fri	5	CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY	Yokokawa, Mariko	文化・文化適応とアイデンティティ	横川 真理子	
	Spring	Wed	3	LEARNING FROM LIFE ABROAD	Shaules, Joseph	海外生活から学ぶ	ショールズ, ジョセフ	
	Fall	Wed	3	CULTURE AND THE UNCONSCIOUS	Shaules, Joseph	異文化と自己理解	ショールズ, ジョセフ	
	Spring	Fri	3	HUMAN ENGINEERING	Wanek, Jacqueline	人間工学	ワニェク, ヤクリーン	

2008-2009 Keio University International Center: Japanese Studies Courses (2008年度 慶應義塾大学国際センター 日本研究講座)

(*) This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (*のついた科目は学部生履修不可)
Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer	Course Title (Japanese)	Lecturer (Japanese)	Offered by:
	Spring	Mon	5	LANGUAGE BEYOND GRAMMAR	Kim, Angela A.-Jeoung	日本語の話しことばと言外の意味	キム, アジョン	
	Fall	Wed	5	LANGUAGE BEYOND GRAMMAR	Kim, Angela A.-Jeoung	日本語の話しことばと言外の意味	キム, アジョン	
Culture	Spring	Wed	4	TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION	Raeside, James M.	20世紀の日本と欧米の小説	レイサイド, ジェイムス	
	Fall	Wed	3	JAPANESE LITERATURE	Armour, Andrew	日本の文学	アーマー, アンドルー	
	Fall	Wed	4	INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN	Murai, Noriko	美術を「よむ」 - 日本美術史入門	村井 則子	
	Fall	Thu	6	ARTS/ART WORKSHOP THROUGH CROSS-CULTURAL EXPERIENCE	Hishiyama, Yuko	アートワークショップ/日本のアートと文化	麓山 祐子	
	Fall	Wed	1	SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE (*)	Inoue, Kyoko	科学技術文化特論 (*)	井上 京子	GS(Science&Tech) Note: YAGAMI Campus
	Spring	Mon	4	JAPANESE BUDDHISM AND SOCIAL SUFFERING	Watts, Jonathan	日本仏教と現代社会	ワッツ, ジョナサン	
Thought, Religion	Fall	Fri	3	RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION	Nakorchevski, Andriy	日本の宗教: 救済の探求	ナコルチエフスキー, アンドリイ	
History	Fall	Tue	3	CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY	Bailhatchet, Helen	日本キリスト教史	ポールハッチェット, ヘレン	
	Fall	Tue	5	JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA	Iikura, Akira	政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交	飯倉 章	
	Spring	Tue	3	JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	Kinmonth, Earl H.	英国と米国のマスコミに描かれた日本	キンモンズ, アール	
	Fall	Mon	4	A SOCIAL HISTORY OF POST-WAR JAPAN	Kinmonth, Earl H.	戦後日本の社会史	キンモンズ, アール	
	Fall	Fri	4	THE ART OF WAR	Dorsey, James	芸術と戦争	ドーシー, ジェームス	
Society	Spring	Thu	5	IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES	Bockmann, David	新市民社会論	ボックマン, デイヴ	
	Fall	Tue	4	MULTIETHNIC JAPAN	Kashwazaki, Chikako	多民族社会としての日本	カシワザキ 千佳子	
	Fall	Mon	5	THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE	Notter, David	家族の近代	ノッター, デビッド	
	Spring	Mon	3	INTERCULTURAL COMMUNICATION 1	Tezuka, Chizuko	異文化コミュニケーション1	手塚 千鶴子	
	Fall	Mon	3	INTERCULTURAL COMMUNICATION 2	Tezuka, Chizuko	異文化コミュニケーション2	手塚 千鶴子	
Politics	Spring	Thu	4	JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1)	Tezuka, Chizuko	日本人の心理学 (1)	手塚 千鶴子	
	Fall	Thu	4	JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)	Tezuka, Chizuko	日本人の心理学 (2)	手塚 千鶴子	
	Spring	Fri	5	INTRODUCTION TO POLITICS IN JAPAN	Aoki, Hiroko	日本政治論	青木 裕子	
	Fall	Mon	3	JAPANESE FOREIGN POLICY	Nobori, Amiko	日本の対外政策	野辺 亜美子	
	Fall	Wed	3	JAPANESE ECONOMY	Kojima, Akira	ジャパニーズ・エコノミー	小島 明	GS(Business&Commerce)
Economy, Business	Fall	Thu	3	ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN	Ichikawa, Hiroya	日本経済の展望	市川 博也	
	Spring	Tue	5	CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN	Inaba, Etsu	日本企業の経営戦略と管理手法	稲葉 エツ	
	Spring	Tue	5	FOREIGN COMPANIES IN JAPAN	Harris, Graham	日本における外資系企業	ハリス, グレアム	F(Business&Commerce)
	Spring	Thu	5	MANAGEMENT IN JAPAN	Haghiran, Parissa	日本のビジネスマネジメント	ハギリアン, パリッサ	
	Fall	Thu	4	INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS	Yoshida, Fumikazu	国際経営比較	吉田 文一	
Law	Fall	Fri	3	JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	Umez, Mitsuhiro	日本の経営	梅津 光弘	
	Fall	Fri	5	INTRODUCTION TO JAPANESE LAW	Kobayashi, Setsu	日本法の制度と実態	小林 節	

CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY

(Spring)

現代中国社会

Farrer, Gracia

Lecturer, International Center

ファラー, グラシア

国際センター講師

Course Description:

This course surveys the post-1978 Chinese society, focusing on social issues under the market reform and conditions of increasingly globalized economy. China's transition to a market-oriented society has effected fundamental changes in the lives of its citizens. Topics include regional economic disparities, changing patterns of employment and unemployment, gender inequality, and both internal and international migration. We will ask: How are women and men faring differently in China's new labor market and workplaces? Are rural peasants and the emerging underclass of urban laid-off workers being left behind by market transition? How are minorities faring in China's transition? How does the emerging digital divide play into the dichotomies of east-west and urban-rural in China? What is the plight of millions of "floaters" migrating into China's cities, with minimal legal rights and protections? How has the one-child policy affected women, children, and society in China? The objectives of the course are 1) to offer exposure to a broad overview of social issues in contemporary China, and 2) to familiarize students with available resources for learning about Chinese society. The class will combine lectures, academic readings, narrative accounts, films, and discussions.

SPECIAL STUDY OF CONTEMPORARY SOUTH EAST ASIA 2

(Spring)

現代東南アジア論特殊研究

Yamamoto, Nobuto

Professor, Faculty of Law

山本 信人

法学部教授

Sub Title:

History of Human Trafficking in Southeast Asia

Course Description:

The phrase "human trafficking" has come up frequently as of late, mostly in mass media, generally described as an excess of globalization. It refers to the recruitment, transportation, transfer, harboring or receipt of people for the purpose of exploitation. Some argue that trafficking is a modern-day slavery. What most people do not realize when talking about trafficking is that patterns and characteristics of it can be found aplenty in the history of Southeast Asia, or anywhere else for that matter.

In this seminar we will dissect the concept of human trafficking and the range of practices it encompasses. As such we will look at practices such as slavery, bondage, domestic service, and prostitution in colonial Southeast Asia. We will subsequently attempt comparisons to contemporary practices of similar nature.

INTERNATIONAL RELATIONS 2

(Spring)

国際政治論

Yamamoto, Nobuto

Professor, Faculty of Law

山本 信人

法学部教授

(Hiyoshi Campus)

日吉開講

Sub Title:

International Relations of Southeast Asia

Course Description:

The aim of this course is to provide an overview of international relations of Southeast Asia. Southeast Asia has a unique history being "crossroad of the world" since pre-modern age. During the colonial period in particular, Southeast Asia was exposed to the world-economy system and formed embryonic modern states. During the Cold War, the region witnessed intense rivalry, conflicts, and negotiations between the superpowers and among its states. In the aftermath of the Cold War, it served as an engine of the global economy while undergoing major shifts in the configuration of power, whose trajectory and outcome remain uncertain.

This course will examine the sources of conflict and cooperation in "modern" period, assessing competing explanations for key events in Southeast Asia's international relations. The lectures will expound the international relations of the region against the backdrop of the global systemic rivalry, the legacy of colonialism, the significance of nationalism, as well as the interlinkages in the global, regional and local level. They will also touch upon the implications of the Asian financial crisis in 1997 and the event of 9/11 for Southeast Asian international relations.

Course Description:

This course gives a general overview to the postwar history of international relations in East Asia, including Japan's role therein and Japan's relations with the countries in the region. Each class will be divided into two parts; an introductory lecture by the instructor and discussions by the participants. There will be one or two articles in English assigned for each week. Detailed course plans with the reading assignments will be distributed in the first week of the course.

Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively "unknown" world, and so doing, to reconsider such questions as what is "development" and what is "prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness ?

Critical analysis and evaluation are most welcome.

Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

Sub Title:

Indian Identities and Japanese Policies

Course Description:

In August 2007, the Japanese prime minister Shinzo Abe, visited India as part of an emerging policy of building a bilateral relationship between India and Japan. He gave a speech outlining his concepts entitled, "Futatsu no umi no majiwari."

(<http://www.mofa.go.jp/region/asia-paci/pmv0708/speech-2.html>) The speech was replete with Indian cultural references as the title of speech came from a 17th century book *Confluence of the Two Seas* by a Mughal prince and a "history" of Japan-India contacts over the centuries. Some commentators saw the speech as a "paradigm shift" in Japan's foreign policy with South Asia. (<http://japanfocus.org/products/details/2514>) As part of this visit and policy, Japan became an official partner in the Delhi-Mumbai Industrial Corridor Project (DMIC) agreeing to finance 30 billion USD of the project. (http://commerce.nic.in/PressRelease/pressrelease_detail.asp?id=2090)

Yet there is a wide gap between public policy and public knowledge, particularly as it relates to the multi-ethnic nature of Indian histories and societies. To bridge this gap, there is a need within Japanese academic context, to focus on the multiplicity of identities that have emerged in India since the last century and their impact on the contemporary political world, especially Japan. This course will use an interdisciplinary approach to

explore the varieties of India's past, the development of Indian identities through literature and language, and how all of this goes to form fragments of a nation and its multiplicities, rather than a "grand" unified narrative. Beginning with an examination of the histories of an Indian past, the course will proceed through lectures by representatives of the India Embassy, Indian multinational companies, Keio University and Sophia University faculties and the Japanese Foreign Service to develop a more comprehensive perspective of India and the historical and cultural connections that inform Japan's policies today.

The class will be conducted in English and reading and writing will be primarily in English.

Grades are also based on attendance classroom participation.

INDIA TODAY

(Fall)

現代インド事情

Nishimura, Yuko

西村 祐子

Lecturer, International Center (Professor, Komazawa University)

国際センター講師 (駒澤大学教授)

Sub Title:

An Introduction to Social and Cultural Studies of Post-Modern India

Course Description:

This course is aimed at describing India through the 'the middle class', studying the post-colonial socio-cultural history and current problems/burning issues of Indian society. In this course, participants will learn where India's new middle class is at, how globalization influences Indian people (including the diasporas). We will study how caste, class, kinship and gender are inter-related. We will also study the cultural difference between the North, the South, and the West and the East. The emergence of Indian civic sector such as NGOs and grassroots organizations will be discussed and we will study the collaborative efforts between the local government and the grassroots civic organizations. We will also discuss how increasing earning power of women is changing the social relationships. Students are encouraged to study issues from cross-cultural perspective. Essay writing and discussion will focus on understanding such issues as the modernity in Asia, the subalterns (marginalized communities), development and untouchability. Handouts are to be distributed as essential reading materials, and some internet websites are to be suggested for reading. Guest speakers will be invited from time to time.

LISTENING TO ASIA

(Spring)

アジアの音楽

Hoffman, T. M.

ホッフマン, T・M

Lecturer, International Center (Director, Indo - Japanese Music Exchange Association)

国際センター講師 (日印音楽交流会会長)

Sub Title:

Sounds Divine and Mundane in Nature, Language and Music

音楽・言葉・自然の音の構成・神性・魅力

Course Description:

We will become familiar with the sound culture of Asia, focusing on the various natural environments, languages and musics in the region with a view to discovering both distinctions and universalities that may also aid us in understanding other disciplines and regions. From their origins in classical India, Greece and China and evolution in other places and times, we will trace influences of sound in health, religion, society, politics, and material worlds of traditional and contemporary culture. Examining principles and examples of instruments, rhythm, melody, improvisation and composition, we will approach music as both art and science, and discuss its interface with mathematics and linguistics. We will try to be aware of cultural and economic development, regional identity and globalization, and gender and other factors facing the makers and consumers of sound culture, and recognize East-West and North-South exchanges that have shaped our respective musical and linguistic identities.

We will begin with a survey of the nature of sound and its use as a means of communication and expression, then travel through the sound cultures of Asia with the aid of audio-visual materials, live music demonstrations, and whatever other resources are available. Students will find opportunities for active participation, and to share their perceptions and experiences in class.

AUSRTRALIAN STUDIES

(Spring)

オーストラリア研究

Carter, David

カーター, デイヴィッド

Lecturer, International Center (Professor, The University of Queensland)

国際センター講師 (クィーンズランド大学教授)

Sub Title:

Environment, Identity and Culture

Course Description:

This course examines Australia as a *society*, a *culture* and a *nation*. It focuses on the main forces shaping contemporary Australia — its environment, its Indigenous population, immigration and multiculturalism, cultural influences, political structures, its regional and global relations — and shows how these have changed over time. What kind of society, culture or nation is Australia? How has Australia been defined or

understood by its own people? Is it a 'European' or 'British' society, a multicultural nation, an Asian-Pacific nation? What are the sources of conflict and change in Australian society? How far is Australia a unique country and how far are the issues and conflicts within Australian society those facing other modern, developed nations?

AREA STUDIES (THE UNITED STATES)

(Spring)

地域文化論 (アメリカ)

Okuda, Akiyo
奥田 暁代

Professor, Faculty of Law
法学部教授

Sub Title:

Multicultural History of the United States

Course Description:

One in three Americans is now a member of a minority group. The heated national debate on how government should respond to illegal immigration reveals the country's anxiety about the changing face of America. Yet the United States has always been multiracial/multicultural and indeed shaped by the presence of diverse groups. The objective of this course is to promote the student's understanding of American history and culture by exploring the diverse experiences of these "minorities" in the United States. The approach is primarily historical and assumes that the culture we describe as American derives its special characteristics from the presence of multiracial/ multicultural Americans. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on historical events. We will examine specifically the continuities and changes in the lives of Native Americans, African Americans, Japanese Americans, and Mexican Americans, and see how their experiences relate to the history of the United States. By means of discussion, lectures, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

AMERICAN STUDIES

(Fall)

アメリカ研究：アメリカの歴史・文化と外交政策

Williams, Mukesh K.
ウィリアムス, ムケーシュ

Lecturer, International Center
国際センター講師

Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

Course Description:

Rationale: After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand its history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies as a part of their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation, democracy and religion to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the integrated disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America. The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
 2. learn new concepts, methods and vocabulary
 3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
 4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
 5. develop skills to write/think purposefully and strategically
 6. acquire the habit to pursue knowledge independently and scientifically
-

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

(Fall)

カナダという国とカナダの国際的な役割

Yellowlees, James
イエローリーズ, ジェームズ

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)
国際センター講師 (カナダ教育連盟日本代表)

Sub Title:

Canada's Vast Potential

Course Description:

We will learn about the various key aspects of Canada as a nation, including the history, economy, society and international role of Canada. It is an interactive class so participants will be expected to contribute each class.

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS**(Spring)**

世界政治におけるラテンアメリカ

Antolinez, Mario

Lecturer, International Center

アントリネス, マリオ

国際センター講師

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

UKRAINE AND RUSSIA**(Spring)**

ウクライナとロシア

Nakorchevski, Andriy

Professor, Faculty of Letters

ナコルチェフスキー, アンドリイ

文学部教授

Sub Title:

Two countries

Course Description:

During this course we will discuss two different approaches to what is usually interpreted as a common history of Ukraine and Russia. We will challenge the so called "standard" interpretation of historical events common to both countries and will discuss how contrasting could be a approaches of different people to one and the same historical episode personality. We will see how contemporary politics influence interpretation of events in the past and to what extent a current situation is determined so called "historical memory". Hopefully, in the end will get better understanding of what is going on in Ukraine and Russia now and what we can expect in the future.

At least some preliminary knowledge of Ukraine and Russia history is required.

EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS**(Fall)**

Hayashi, Hideki

Lecturer, Faculty of Economics (Global Strategist, Mizuho Financial Group/Shinko Securities Co., Ltd.)

林 秀毅

経済学部講師 (みずほフィナンシャルグループ・新光証券グローバルストラテジスト)

Course Description:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, mainly on the economic aspects, as well as on the political and social aspects.

Whole lecture is divided into two parts: in part1, each lecture will be based on different chapters of Gilson(2000) and in part2, the national economy of EU countries and its relations with Japan will be discussed, Related statistics and case studies are also introduce.

In each lecture, Powerpoint will be used for exposition.

As it is expected to be a small class composed of Japanese and non-Japanese students, active questions and comments by students are welcome.

Students are supposed to submit a report on one of the questions based on each lecture and submit it at the beginning of the next lecture.

AFRICAN ISSUES**(Spring)**

アフリカン イシューズ: アフリカにおける近代と危機の意味

Kondo, Hidetoshi

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

近藤 英俊

国際センター講師 (関西外国語大学准教授)

Sub Title:

Social and Cultural Aspects of AIDS Epidemic in Africa

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of HIV and

AIDS in Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of African AIDS epidemic. Thus, the topics we deal with include: (1) history of HIV and AIDS in Africa, (2) popular conceptions and therapy management of AIDS, (3) AIDS epidemic in the context of urbanization and social mobility, (4) AIDS and gender relations, (5) AIDS and children, (6) The role of the state, international organizations and NGO, (7) AIDS and pharmaceutical industry.

BUILDING THE GLOBAL VILLAGE

(Fall)

グローバルヴィレッジ構築に向けて

Freedman, David

フリードマン, デビッド

Professor, Faculty of Environment and Information Studies

環境情報学部教授

Sub Title:

Sub-Saharan Africa

Course Description:

Focus: Japanese Policies in Southern Africa: Trans-National Issues/ Individual Response

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term “culturomics” was coined to define how various intellectual disciplines needed to be combined in order to gain a more complete view of the issues facing a “global” economy. This course will focus on a particular area, Sub-Saharan Africa and the various issues: political, cultural, economic and environmental, that the people of this region face as they look to integrate into the “global village.” Speakers from the various embassies of the region will be invited to speak on the theme of global economy, culture and change and the impact of Japanese policies within the region.

As the countries of sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the New Partnership for Africa’s Development a major part of its international policy. In 2004, Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged \$1 billion for education and health care in Africa making Japan one of the major aid donors for Africa. Next year at the fourth Tokyo International Conference on African Development these efforts will face an renewed evaluation.

(<http://www.jica.go.jp/english/resources/field/2007/aug30.html>) Yet, there is an “information gap” between the policies and intents of the Japanese government and business community and the response and knowledge of the Japanese citizen as to the recent history, the varied cultures and issues in Africa today, and the goals and effects of the Japanese policies themselves.

This is course will be an introduction for students interested in issues affecting global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the S.A.D.C. group, (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa, and the possibilities of active response by the individual Japanese consumer.

Each student will be expected to join a study group that will focus one of the African countries represented by the speakers. The groups will research and present on the ties and programs between their “study” country and Japan on the focus issue of the course. This year, the focus will be on the individual consumer as an active participant in development policies.

THE ACTUAL WORLD OF INTERNATIONAL COOPERATION

(Spring)

国際協力の実態

Bambang, Rudyanto

バンバン, ルディアント

Lecturer, International Center (Associate Professor, Wako University)

国際センター講師 (和光大学准教授)

Sub Title:

Experience-based International Cooperation

Course Description:

The course on International Cooperation is based on the experiences of the lecturer, who worked at the United Nations(UNCRD), the Japanese ODA Institution(JBIC), the International Organization on Disaster Reduction(ADRC), and a private international consultant company. The contents are practical, with specific issues such as community based development, the impact from the Sumatra tidal wave, the use of Information Technology(IT) as development tools, and other trendy topics. The course is a multi-disciplinary field. Some special guests from International Organizations will be invited.

The students are encouraged to have discussion in the class, and there will be some activities outside class. Some audio-visual material will be also presented.

Sub Title:

Multi-disciplinary approach to the study of major global issues that confront the world community in the 21st century, and the role of the United Nations and International Organizations in addressing these issues.

Course Description:

A critical review and assessment will be undertaken of the origin and present condition of the major global issues and problems and how these are being addressed by the national governments and the international community. Special attention will be paid to the role of the United Nations and other International Organizations as a tool of global governance in addressing these issues. We shall also explore ideas and concepts of peace and security, human rights, coexistence among peoples of different cultures and other critical global issues such as poverty eradication, environmental degradation, aging society and gender issues.

The objective of the course, which is suitable for students from all faculties, is to enable the students to gain a better understanding of the world around them and about the role of the United Nations so that they are able to evaluate current and future international trends and formulate their own well thought-out opinions based on facts. It should help enhance the trans-cultural literacy and competence and enable them to interact with confidence with peoples of different cultural backgrounds and orientations in an interdependent and interlinked world.

Group discussions will be an important part of the course, which will be conducted in English.

The course is open to students from all faculties.

Sub Title:

A view from a practitioner

Course Description:

This series will cover a wide range of subject:

Civilisational cross fertilization, The Cold War, South Asia where one sixth of humanity resides, the vital questions arising from attempts being made to bring about integration at Track I and Track II levels, the increasing role being played by NGOs and civil society in harmonising divergences on a range of issues, the vibrant country Vietnam its troubled past and its bright future, and related topics. These lectures will be presented in the context of 35 years spent by the lecturer, in the practice of Diplomacy, 7 of which were as a Consul General, in charge of post which is a sub office of an Embassy and 11 years as an Ambassador to 3 countries, Greece, Vietnam and Japan.

Course Description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

Sub Title:

Institutional Reform through Law to Get the Good Governance

Course Description:

This course aims to provide with the basic knowledge of Law and Development from a practical as well as a theoretical aspect. Development can be regarded as a comprehensive institutional reform of a society, in which a number of informal rules have been binding and restricting the attitudes and behaviors of its members. However, it is sometimes difficult for societies to reform their institutions for themselves when they are heavily burdened by the conventions maintained by the strict regimes. As the international societies have been more and more globalizing, it is becoming duties for each society to assist others to undertake their institutional reform.

Although it would be hard for us to expect the international societies to establish the world government, we should be able to keep our security by getting the global governance, which consists of the good governance of each state in the world. Good governance may be obtained through the institutional reform led by the good government, markets and firms, and civil societies, which are mutually assisted and assisting in their own functions. Law may be a strong measure to facilitate such an institutional reform to get good governance, and the legal assistance activities among nations should promote the global governance, which might be the only path to the international security and peace. In this context, we should explore the indicators of governance and the way by which developed countries can cooperate with developing countries to accomplish their legal reform that actually leads to development.

Sub Title:

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

Course Description:

Students will study five different aspects of international human rights including:

(1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.

(2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization

(3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India

(4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.

(5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

Sub Title:

The provision of health care

Course Description:

Throughout the world the provision of health care is labour intensive. The functioning of national systems for health care and improvement around the globe depends upon financial capital, enlightened political leadership, hospitals, equipment and medicines.

But the single most important factor in determining the success of healthcare delivery is the workforce: the clinical and non-clinical staff

members that are in direct contact with the recipients of health care services. The knowledge and skills, attitudes and motivation of healthcare workers can make or break even the most carefully designed system. Equipment and medicines are necessary to improve the productivity and effectiveness of health professionals; but without the professionals little if any health improvement at all is possible.

Non-governmental Organisation (NGO) to mean any grouping of people who have a common mission to meet a particular need in their society or community, and are not formed or controlled by government. Throughout the world groups of people identify needs in their communities which government institutions are either not designed to meet or which government institutions are unable to meet because of the unavailability of resources, and the government having other priorities. This is particularly the case in poor countries. It does, however, happen that private citizens are compelled to organize themselves to meet certain needs because government is not willing to address these needs, even where resources may be available. This happens in oppressive regimes and dictatorships of various kinds. So, an NGO may address a need which is normally not a concern of government, but NGO's address needs which in a normal society should be addressed by government.

Objectives

- To define the concepts of citizenship and civil society
- To identify the role of the State in the provision of health care
- To understand the origin, function, and classification of NGOs, NPOs and CBOs
- To debate the current circumstances surrounding the provision of health care through NGOs, NPOs and CBOs.

INTRODUCTION TO PRINT JOURNALISM

(Spring)

プリントジャーナリズム入門

Holley, David

Lecturer, International Center

ホーリー , デイヴィッド

国際センター講師

Sub Title:

Reporting on the World Around You

Course Description:

This course will cover the basics of journalistic writing. Students will get practice in writing both in a wire-service style and in the kind of feature approach favored by many newspapers and magazines for longer articles. Students will write articles both as quick in-class exercises and as homework assignments that require interviews. Journalistic ethics will be addressed, as will trends in the media business. The course will help students improve their writing and give them increased confidence in approaching and interviewing strangers.

LITERATURE AS HISTORY

(Spring)

歴史としての文学

Chandra, Elizabeth

Lecturer, International Center

チャンドラ , エリザベス

国際センター講師

Sub Title:

The Colonial Experience

Course Description:

This course will consider issues in historiography, particularly the use of fiction as source. Filling in the gaps in the so-called conventional historiography, literary works provide what institutional libraries, judicial/criminal proceedings, church records, civil registry, and state archives fail to capture. They have the capacity to represent the fine curves of the political landscape, the nuances of cultural connotations, the minute features in social relations, and the complexity of human emotions.

The colonial experience is precisely a context that calls for such "sensitive" historical inquiries due to the cultural gap between our Western intellectual tradition and the colonized people's particular schemes of culture. The fact that most records from the colonial period were produced by and spoke from the point of view of "power" further complicates historical reconstruction of the encounter.

For this course we shall consider novels, short stories and films, and attempt to catch glimpses of the colonial experience as diverse and intimate as the domestic order, racial negotiation, sexual taboos, humor, paranoia, and melancholia.

THEORY AND PRACTICE OF NATIONALISM

(Fall)

ナショナリズム研究

Chandra, Elizabeth

Lecturer, International Center

チャンドラ , エリザベス

国際センター講師

Sub Title:

What makes a nation?

Course Description:

This course focuses on the theoretical problems in the formation of nations. Where do we locate the conceptual origin(s) of the nation? Is it really, as they say, a modern creation? What makes a polity a nation? What constitutes sovereignty? What are the legitimizing principles of the

nation? Where do we place culture, myth, and capitalism in the study of nationalism? Is the nation really, ultimately, masculine?

The course is designed to be an interdisciplinary undertaking as we will deal with writings by historians, political scientists, anthropologists, philosophers, and novelists. In addition to required texts, we will also consider a film by the Taiwanese director Hou Hsiao-hsien.

VISIONS OF THE PAST: REPRESENTING HISTORY ON FILM

(Fall)

比較映画論

Ainge, Michael W.

Associate Professor, Faculty of Economics

エインジ, マイケル W.

経済学部准教授

Course Description:

Films about the past are often dismissed by historians as trifles. In this course, we will consider the conventions of various styles of representing history on film, including American forms such as Hollywood Historical Drama and Documentary, as well as other styles from other countries. Close readings of historical texts and of the filmed versions of those events will provide a window into the strengths and limitations of both media. We will consider whether representing the historical past on film necessitates simplification, distortion and/or falsification of the facts? How about the case of post-colonial societies struggling to retrieve lost or obscured histories? How does film effect memory, both collective and personal? These and other questions will constitute the core of our discussions.

CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY

(Spring)

文化・文化適応とアイデンティティ

Yokokawa, Mariko

Lecturer, International Center

横川真理子

国際センター講師

Sub Title:

How communication and understanding are affected by culture

文化がコミュニケーションと相互理解に与える影響

Course Description:

This course examines the impact of cultural values and beliefs, the process of cultural adjustment, the formation of cultural identity, and the relationship between language and culture. Third Culture Kids (Global Nomads) and returnees will be studied along with other topics related to culture, cultural adjustment, and communication across cultures.

In addition to the readings, students will be given opportunities to discuss critical incidents on instances of cultural misunderstanding, do role plays, as well as do presentations on ethnographic studies of their choice.

LEARNING FROM LIFE ABROAD

(Spring)

海外生活から学ぶ

Shaules, Joseph

Lecturer, International Center (Director, Japan Intercultural Institute)

ショールズ, ジョセフ

国際センター講師 (異文化教育研究所所長)

Sub Title:

Internationalism and the cultural learning process

Course Description:

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

(Fall)

異文化と自己理解

Shaules, Joseph

Lecturer, International Center (Director, Japan Intercultural Institute)

ショールズ, ジョセフ

国際センター講師 (異文化教育研究所所長)

Sub Title:

Looking for the hidden roots of deep cultural difference

Course Description:

Culture has two sides, a visible side – food, clothing, architecture – and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden

cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

HUMAN ENGINEERING

(Spring)

人間工学

Waniek, Jacqueline

Lecturer, International Center

ワニェク, ヤクリーン

国際センター講師

Sub Title:

Human Factors

Course Description:

The ergonomic design of products, working systems and interfaces focuses on designing a comfortable environment, and aims to prevent damages and accidents. Goal of the course is to provide an overview of the interdisciplinary field ergonomics. Furthermore the course intends to help students to understand what impact ergonomic product design has for our environment and in our everyday life. The course introduces various aspects of ergonomic design such as “Universal Design”, “Accessibility” or “Emotional Design”, demonstrates methods for the evaluation of products and systems, and discusses future trends. By means of practical examples students will experience the importance of an ergonomic design of products and systems. Discussions will help participants to clarify the goals of ergonomic design, and to understand its potential and its feasibility.

日本研究講座 (Japanese Studies)

LANGUAGE BEYOND GRAMMAR

(Spring) (Fall)

日本語の話しことばと言外の意味

Kim, Angela A-Jeoung

Assistant Professor, Center for Japanese Studies

キム, アジヨン

日本語・日本文化教育センター専任講師

Sub Title:

Expressing 'something else' beyond information— markers and functions in spoken Japanese

Course Description:

Mastering the grammar of a particular language does not guarantee a successful communication with a native speaker of that language. This is because language not only functions as a medium through which information can be conveyed, but also as a conduit for the speaker's attitude/emotions. The objective of this course is to encourage a more profound understanding of the functions of language that exist beyond referential meaning, with particular attention given to markers and their uses in Japanese. An understanding of this aspect of language, and the function of particular markers, will lead to a deeper understanding of communication in Japanese in general. This course comprises three main parts: (i) general review of the non-referential function of language; (ii) the case of English briefly reviewing markers such as *you know*, *I mean*, *like*; and just and (iii) the case of Japanese which will include markers such as *ne*, *yo*, *-janai*, *datte*, *maa*, *nan(i)*, *no*, and *yappari* etc.

TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION

(Spring)

20世紀の日本と欧米の小説

Raeside, James

Professor, Faculty of Law

レイサイド, ジェイムス

法学部教授

Sub Title:

Comparative Readings

Course Description:

In these classes we will attempt to understand something of the nature of Japanese fiction writing by comparative close reading of Japanese texts with those by Western (European and American) writers. Evidence of influence and assimilation may be observable from West to East, particularly in the early years of the 20th century, but in all cases we will attempt to identify both what is distinctive, and what the different traditions have in common. By close reading and comparative analysis we should be afforded some useful insights into Japanese prose fiction writing—particularly that of the short story.

Each class will focus on a pair of texts: one by a Japanese and one by an American or European writer. The texts chosen will be relatively short—wherever possible, complete short stories. All texts will be discussed on the basis of their English language translations, although students who are able to read the originals are welcome to add this knowledge to the discussion. In any case, it is imperative to the functioning of the class that all participants make time to read the set texts beforehand, and be prepared to talk about them in detail. Only those who have made this effort will be able to participate usefully in the discussion.

The texts will be read in roughly chronological order.

JAPANESE LITERATURE

(Fall)

日本の文学

Armour, Andrew

Professor, Faculty of Letters

アーマー, アンドルー

文学部教授

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods.

Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

(Fall)

美術を「よむ」 日本美術史入門

Murai, Noriko

Lecturer, International Center (Assistant Professor, Temple University)

村井 則子

国際センター講師 (テンプル大学専任講師)

Sub Title:

Introduction to Modern Japanese Art and Visual Culture

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Visual culture has played a central role in providing modern Japan with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider issues related to gender, imperialism, and commodity consumption in the context of visual representation.

ARTS / ART WORKSHOP THROUGH CROSS - CULTURAL EXPERIENCE

(Fall)

アートワークショップ / 日本のアートと文化

Hishiyama, Yuko

Lecturer, International Center

菱山 裕子

国際センター講師

Sub Title:

With a focus on Japanese Art

Course Description:Course Description:

This is a course designed to provide both international and Japanese students who are interested in art from comparative culture or intercultural communication perspectives with student-centered learning experience of Japanese art. Thus students in this course will engage in diverse activities both in and outside of class within this multicultural student body. The activities include workshops, field trips, and research. The goal of this workshop is to give students a firm grounding in cultural, social, historical, and practical aspects of art in contemporary Japan.

Final Project:

After accumulating various experiences in Japan, students make a self-portrait in any media in 2D, 3D or as an installation.

JAPANESE BUDDHISM AND SOCIAL SUFFERING

(Spring)

日本仏教と現代社会

Lecturer, International Center (Research Fellow, International Buddhist Exchange Center, Research Fellow, Jodo Shu Research Institute)

Watts, Jonathan

ワッツ, ジョナサン

国際センター講師 ((財) 国際仏教交流センター研究員・浄土宗総合研究所研究員)

Sub Title:

Priests and Temples Reviving Human Relationship and Civil Society

僧侶と寺による人間関係と市民社会の再生

Course Description:

This course will look at Buddhism in Japan in a very different way – through the actions of Buddhist priests and followers to confront the real life problems and suffering of people in Japan today. We will look at such issues as: 1) human relationships (alienation, depression, suicide, *hikikomori*, and NEET); 2) development (social and economic gaps, aging society, community breakdown and depopulation of the countryside); 3) the environment and consumption; 4) politics and peace; and 5) gender. The creative solutions some individual Buddhists are developing in response to these problems mark an attempt to revive Japanese Buddhism, which is now primarily associated with funerals and tourism. These efforts are trying to remake the temple as a center of community in an increasingly alienated society.

This course will use a variety of teaching methods from homework readings, games and group processes, in-class videos and guest speakers, and occasional field trips. This course will attempt to be as interactive as possible, so students should be ready to reflect on the issues personally as they experience them as residents of Japan, and to express these reflections not only intellectually but emotionally as well.

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

(Fall)

日本の宗教：救済の探求

Nakorchevski, Andriy

Professor, Faculty of Letters

ナコルチェフスキー, アンドリイ

文学部教授

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious existed in Japan from old times and up to our days. First of all we will try to define what religion is, why there are so many different religious traditions and what they have in common. Then we will discuss most of religions either been originated or introduced to Japan using a lot of video materials and visiting different shrines and temples mostly in the vicinity of Mita campus.

This is an introductory courses and no preliminary knowledge of the subject is necessary.

CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY

(Fall)

日本キリスト教史

Ballhatchet, Helen

ボールハチェット, ヘレン

Professor, Faculty of Economics

経済学部教授

Sub Title:

A case study of cross-cultural contact

Course Description:

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, student will gain general understanding of the dynamics of cross-cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA

(Fall)

政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交

Ikura, Akira

飯倉 章

Lecturer, International Center (Professor, Josai International University)

国際センター講師 (城西国際大学教授)

Sub Title:

Decision-making, historical memory and race

Course Description:

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION

(Spring)

英国と米国のマスコミに描かれた日本

Kinmonth, Earl H.

キンモンズ, アール

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

国際センター講師 (大正大学教授)

Course Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan, both contemporary and historical. Materials used and discussed range from Hollywood films to academic works by Ivy League professors. Knowing the common and often highly distorted images of Japan and the Japanese, both positive and negative, presented in foreign mass media and popular culture is important to both Japanese and foreign students. These images have been and continue to be significant in Japan's diplomatic and economic relations with other countries. Moreover, the mechanisms that distort the foreign view of Japan also work to distort the Japanese view of foreign countries. Teaching students how to recognize distorted images of foreign countries and peoples is a major goal of this course.

A SOCIAL HISTORY OF POST-WAR JAPAN

(Fall)

戦後日本の社会史

Kinmonth, Earl H.

キンモンズ, アール

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

国際センター講師 (大正大学教授)

Course Description:

More than a half-century has elapsed since the end of the Pacific War. For most university students, this war is part of a distant past and references to prewar and postwar carry no special significance. In contrast, for those old enough to have experienced the Pacific War or its immediate aftermath, the terms prewar and postwar are very evocative and are part of the historical consciousness of many Japanese. This course attempts to answer three basic questions: 1) why is a distinction made between prewar and postwar Japan; 2) how was Japan changed by the Pacific

War; 3) what has changed in the fifty-plus years the end of the war. To give students additional perspective on the Japanese experience, the course will make explicit comparisons with Germany and the United Kingdom.

THE ART OF WAR

(Fall)

芸術と戦争

Dorsey, James

Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth College)

ドーシー , ジェームズ

国際センター講師 (ダートマス大学准教授)

Sub Title:

Japanese Writers, Poets, Artists, Filmmakers and Cartoonists Under the Wartime State

Course Description:

The course will examine a variety of cultural artefacts (essays, short stories, novels, films, songs, comics, etc) produced in Japan during the 1930s and 1940s and related, either directly or indirectly, to the wars in first China and later in the Pacific. The course will focus on discovering the workings of, and relationship between, propaganda, nationalism, imperialism, colonialism, censorship, interpretive strategies, and the creative imagination.

IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES

(Spring)

新市民社会論

Bockmann, Dave

Lecturer, International Center (Consultant)

ボックマン , デイヴ

国際センター講師 (コンサルタント)

Sub Title:

How NGOs and NPOs are changing society and the environment

Course Description:

“Civic engagement” refers to the participation of individuals and voluntary organizations (NGOs and NPOs) in the political and the public sectors, including governmental decision-making. “Civic Engagement” and “Civil Society” are sometimes used interchangeably and in this sense, civil society is well established in the U.S., less so in Japan. We will find out why.

In this course, we will examine civic engagement from several perspectives, globally and locally. We will examine civic engagement in the U.S. as well as Asia where the focus will be on Japan, India and China. We will see how the struggles by minorities, women and the poor for human rights alter the relationships of power and how environmental organizations are playing a leading role in the efforts to stop global warming.

MULTIETHNIC JAPAN

(Fall)

多民族社会としての日本

Kashiwazaki, Chikako

Associate Professor, Faculty of Economics

柏崎千佳子

経済学部准教授

Course Description:

This course introduces students to ‘multiethnic Japan’. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, zainichi Koreans, and various ‘newcomer’ immigrants. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority ‘Japanese’ population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

(Fall)

家族の近代

Notter, David

Associate Professor, Faculty of Economics

ノッター , デビット

経済学部准教授

Course Description:

Over the past 40 years or so, new work in the field of social history combined with new research on the family conducted by social scientists has produced a ‘new history of the family’. In this course we will draw on this body of research to examine the institution of the family in historical and comparative perspective. The book we will use as our main text is a sociological study of the family system in postwar Japan, and this text will serve as the basis for four formal class discussions spread over the semester. Lectures, by contrast, will focus on the emergence of the ‘modern family’ and modern family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America. Some consideration will also be given to Europe, and traditional family arrangements will also be examined.

Tezuka, Chizuko
手塚千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies
日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Seen from Japanese communication patterns

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

Tezuka, Chizuko
手塚千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies
日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Identity of Japanese Sojourners

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

Tezuka, Chizuko
手塚千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies
日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Conflict Management

Course Description:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners, and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict claims that conflict is inevitable yet not necessarily bad, the Japanese society has been described to believe in its selfimage as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts as any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological background, and the challenges for both Japanese and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some psychological measures related to conflict for self-understanding.

Tezuka, Chizuko
手塚千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies
日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

'Amae' Reconsidered

Course Description:

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of 'Amae' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since

then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology ?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae* needs is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

INTRODUCTION TO POLITICS IN JAPAN

(Spring)

日本政治論

Aoki, Hiroko
青木 裕子

Lecturer, International Center
国際センター講師

Sub Title:

The history of Japanese politics after World War II

Course Description:

The aim of this lecture is to acquire knowledge and thinking ability for problems that beset modern Japanese society by studying history of Japanese politics after WWII and reading newspaper articles on current affairs.

JAPANESE FOREIGN POLICY

(Fall)

日本の対外政策

Nobori, Amiko
昇 亜美子

Lecturer, International Center
国際センター講師

Course Description:

This course is a general introduction to postwar Japanese history with a focus on foreign policy; it also addresses important aspects of Japanese domestic politics as well as cultural issues. It will also deal with international relations of the Asia-Pacific region while offering an overview of Japan's evolving relations with a number of important actors in the region, such as the U.S., China and the ASEAN countries.

Also throughout the course, contemporary issues within the post-Cold War global environment as well as controversial issues within Japan, such as constitutional revision and Yasukuni issue, will be discussed using a historical perspective.

The class will combine lectures, academic readings, films, students' presentations and discussions in order to cover these areas noted above.

JAPANESE ECONOMY

(Fall)

ジャパニーズ・エコノミー

Kojima, Akira
小島 明

Guest Professor, Graduate School of Business and Commerce
商学研究科特別招聘教授

Course Description:

Japan's economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective.

Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, demographic change, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst specialist through video and tapes etc.

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

(Fall)

日本経済の展望

Ichikawa, Hiroya
市川 博也

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)
国際センター講師 (上智大学教授)

Course Description:

This course is prepared for students who are not familiar with Japanese economy. The course will examine the post-war Japan Model in order to understand the contemporary economic issues. Topics include the problems related to an aging population, the social security system, widening income disparity, burden of government debt, competition policy, and deregulation, corporate governance, and other important topics facing the contemporary Japanese economy. The roots of recent instability in the financial system, and the effectiveness of current government economic policies will be discussed. Students are expected to discuss current economic and financial news in each class. Seminar type.

Sub Title:

Understanding Successful Strategy Implementation

Course Description:

This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussions, we will look at the micro-level management strategies and practices.

The course also tries to develop analytical as well as discussion/presentation skills of students.

Under the increasingly globalized economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations include their ability to modify and change, as the environment changes, their management practices.

The course offers the opportunity to understand the linkage between strategies and management systems which are supporting the strategies. In-depth understanding of selected companies in Japan as “good practice” will be pursued through case studies, company visit and students’ own research.

Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

Sub Title:

A Success or a Failure?

Understanding the True situation of foreign companies in Japan

Course Description:

This course will explain the role of foreign companies in Japan since the Meiji Restoration, through the “Bubble era” and up to the present day. Students will learn the reasons why foreign companies choose Japan; to what degree they have been successful; and to what extent foreign investment is good for Japan.

The Course which will be conducted in English will be a combination of lectures, discussions, student group presentations; case studies and research assignments.

Sub Title:

The Kaisha in the 21st Century

Course Description:

The course introduces the characteristics of the Japan as a place of business and the main aspects of Japanese management. The course starts with a theory lecture on culture and its relevance for international management and business communication. After this an overview of the modern Japanese business environment is given. Major points of discussion are the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution as well as human resource and knowledge management within Japanese corporations.

The course aims to:

- provide an overview of the modern Japanese business environment
- explain the most important social concepts in Japanese society and their relevance for Japanese management and Japanese business culture
- discuss the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution and management activities within a Japanese corporation
- present the latest developments in the Japanese management environment

Sub Title:

Pros and Cons of Japanese and American Management Systems

Course Description:

This course aims to clarify the differences between the Japanese management system and the American system. Over the last two decades, the appraisal of Japanese management has fallen sharply from a high level during the 1980s, while the evaluation of American management has risen equally sharply. In particular, in the "post-bubble" period in Japan, there is a strong tendency to criticize the domestic management system, and praise American-style management nationwide. This raises a major question: how can the appraisal of a well-established management system change so uncritically in a stable and peaceful society? We will discuss this issue in order to understand the significance of management systems.

Based on this understanding, we examine the current issues that both systems face today.

Course Description:**Goal:**

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

Course Description:

1. Outline of Japanese Legal System
 - (1) Constitutional Law
 - (2) Civil Law
 - (3) Commercial Law & Corporation Law
 - (4) Security Exchange Law
 - (5) Bank Law
 - (6) Real Estate Law
 - (7) Intellectual Property
 - (8) Civil Procedure
 - (9) Labor Law
 - (10) Criminal Law
 - (11) Criminal Procedure
2. How to associate with Japanese People and Legal Professions on Legal Matters
 - (1) Characteristics of Japanese People
 - (2) Attitude of Japanese Officials and Lawyers
 - Administration
 - Judges and Public Prosecutors
 - Attorneys and Law Firms
 - (3) Clients
 - (4) Taboos
 - (5) Languages

保健管理センター設置講座

1 保健管理センター設置講座開講にあたり

めまぐるしい医学の前進と社会情勢の変化に対応でき、健康で健康志向の強い人になるための独自の講座を設置しています。

2 設置科目履修上の取り扱いについて

「現代社会と医学」(渡航医学)を春学期(月曜日 4 時限)三田キャンパスにおいて、秋学期(月曜日 4 時限)日吉キャンパスにおいて開講します。

「現代社会と医学」(現代社会と common disease)を春学期(水曜日 4 時限)に日吉キャンパス、秋学期(水曜日 4 時限)に三田キャンパスにおいて、開講します。

なお、これらの科目を受講希望する場合は、履修の取り扱いについて、各学部、研究科で確認の上、履修申告をしてください。

現代社会と医学	Medicine in Modern Society	(春学期)	(2 単位)
渡航医学	Travel Medicine		
南里清一郎, 河邊博史, 徳村光昭, 横山裕一, 広瀬 寛, 西村由貴			

授業科目の内容:

渡航医学とは、海外の移動(旅行, 長期滞在)に伴って発生する病気や怪我の予防や治療を扱う医学のことです。

2005 年外務省統計では、1,600 万人以上の人々が海外旅行をし、仕事や留学などの長期滞在者は、約 96 万人です。

途上国は医療事情が悪く、いざという時の緊急医療でさえ不安があります。先進国では医療費が高く医療機関受診方法に不安があります。感染症の予防に関しては、予防接種が重要な意味を持ちますが、途上国においては、個人防衛のために必要であり、先進国、特にアメリカでは集団生活(留学など)を行う際に義務となります。生活習慣病に関しては、環境の変化による持出し病の悪化や、発症を早める可能性もあります。またカルチャーショックによる精神的な問題も生じます。以上のような事に関し、保健管理センターの各専門医がオムニバス形式で講義を行います。

テキスト:

南里清一郎編・著『海外生活における健康管理 - 渡航に当たって心身の健康を守るために -』(ライフマネージメント社, 2005年, 2,500円)

参考書:

慶應義塾大学保健管理センター編『新・保健衛』(慶應義塾大学出版会, 2007年)

授業の計画:

第 1 回	オーバービュー	教授	南里清一郎
第 2 回	海外の医療制度		〃
第 3 回	予防接種・感染症		〃
第 4 回	予防接種・感染症		〃
第 5 回	高血圧	教授	河邊 博史
第 6 回	糖尿病	准教授	広瀬 寛
第 7 回	肥満		〃
第 8 回	性感染症・飲酒	准教授	横山 裕一
第 9 回	肝炎		〃
第10回	精神保健	専任講師	西村 由貴
第11回	高山病・潜水病・時差 エコノミー症候群	准教授	徳村 光昭
第12回	薬物乱用		〃
第13回	試験	教授	南里清一郎

履修者へのコメント:

留学や海外研修をする予定の学生の受講を勧めます。

成績評価方法:

最終講義日の試験の結果による評価

授業科目の内容 :

高血圧, 高脂血症, 糖尿病, 肥満, 動脈硬化など日本人の代表的な病気は, 運動不足, 食べ過ぎ, 喫煙などの生活習慣との関連が強いことから, 現在では生活習慣病と呼ばれています。さらにこれらが同時に存在するメタボリックシンドロームは中高年の 30 ~ 40 % にみられ, 問題になっています。

また, ストレスの多い現代には精神保健もきわめて重要な課題です。さらに, 急速な国際化に伴う感染症も大きな問題です。

大学生に代表される若者が現代社会の医学の重要問題を理解し, 健康的な生活習慣を実行維持するための保健教育の意義はますます大きくなっています。下記の講義内容に関し保健管理センターの各専門医がオムニバス形式で講義を行います。三田では秋学期のみ行います。

授業の計画 :

第 1 回	オーバービュー	教授	齊藤 郁夫
第 2 回	精神保健 1	教授	大野 裕
第 3 回	精神保健 2		"
第 4 回	高血圧	教授	齊藤 郁夫
第 5 回	AIDS	専任講師	森木 隆典
第 6 回	貧血		"
第 7 回	高脂血症	准教授	辻岡三南子
第 8 回	糖尿病		"
第 9 回	結核	准教授	森 正明
第10回	食中毒		"
第11回	心臓病	准教授	和井内由充子
第12回	救急蘇生		"
第13回	試験	教授	齊藤郁夫

成績評価方法 :

試験による

情報処理教育室

情報処理教育室では、情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは、学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立つだけでなく、日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

1 ガイダンス

4月3日(木) 2時限目(10:45~12:15) 516番教室

2 受講申込み手続き

受講する科目が決まったら、証紙券売機で受講料分の証紙を購入し、申込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。その際、学生証を提示してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日 時：4月8日(火) 9:00~16:45 場 所：三田学事センター

4月9日(水) 9:00~16:45

4月10日(木) 9:00~16:45

3 履修上の注意

情報処理教育室に申込みを行った科目については、必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また、受講申込み用紙を提出しないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

4 注意事項

次のとおり、科目名を変更しました。

「情報処理概論」 平成18年度まで

「情報処理概論 (JavaB)」 平成19年度以降

平成18年度までに「情報処理概論」の単位を取得した学生は、新たに「情報処理概論 (JavaB)」を履修することはできません。

5 問合せ先

情報処理教育室(日吉学事センター内) 045-566-1015

6 平成20年度開講科目および受講料

設置講座は受講料が必要です。

平成20年度 情報処理教育室設置講座(三田)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位	
情報処理概論 (JavaB)	Java	12 A	藤村 光	通 年	50	12,000 円	4
情報処理概論 (JavaA)	Java	12 F	神林 靖	秋学期	30	6,000 円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は、学部授業と同様、4月8日(火)から開始されます。

「情報処理概論 (JavaB)」および「情報処理概論 (JavaA)」は、ほぼ同じ内容です。両方の科目を履修した場合、単位として認められるのはどちらか1科目のみです。詳しくは、情報処理教育室窓口にてお問い合わせください。

(参考)平成20年度 情報処理教育室設置講座(日吉)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位	
情報処理概論	C言語による プログラミング入門	11 A	通 年	100	12,000 円	4	
	11 B	恩田 憲一 斎藤 博昭					
情報処理概論 (Java)	Java	12 D	藤村 光	春学期	50	6,000 円	2
情報処理概論 (Java)	Java	12 E	藤村 光	秋学期	50	6,000 円	2
情報処理応用	コンピュータグラフィックス	31 A	大野 義夫	春学期	50	5,000 円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は、学部授業と同様、4月8日(火)から開始されます。

授業科目の内容:

Java言語を用いてコンピュータを動かす方法、およびプログラミングの基礎を紹介します。

問題をコンピュータで処理できるように分析し、処理を組み立て、プログラムを作成し、結果を検証するという手順で、プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。

Java言語の中核とツールキットの一部を用いて、例題の提示、演習を行います。

テキスト:

Webサイト <http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/> で公開しています。適宜更新します。

参考書:

講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

授業の計画:

1. ガイダンス
2. ウィンドウの表示
3. コンパイルと実行
4. ボタン、レイアウト、イベントの処理 (計 3 回)
5. クラス変数
6. 四則演算 (計 2 回)
7. 式、演算子、カウンタ、合計計算、最大値・最小値 (計 2 回)
8. 配列
9. 春学期演習
10. プログラムのスタイル (春学期復習)
11. 整列、検索
12. テキスト・ファイルの読み込みと例外処理 (計 3 回)
13. マルチスレッドと描画 (計 4 回)
14. 再帰構造と再帰プログラミング (計 2 回)
15. 最終演習 (計 2 回)

履修者へのコメント:

自分なりに「こんなことができるようになりたい」という目標を持って参加して下さい。

ワープロや表計算はできるがコンピュータ言語は初めてという人と、他のコンピュータ言語を習得済みの人では、到達目標が異なるのが普通です。春学期の前半に各人の目標を設定しましょう。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

fujimura@hc.cc.keio.ac.jp までどうぞ。

授業科目の内容:

将来プログラムを用いて統計データ解析をする準備として、Java言語によるプログラミングを学ぶ。簡単な計算やデータ処理を行うことによって、Javaプログラムの構成を、そしてコンピュータによるデータ処理を理解できるようにしたい。一般的なコンピュータの知識があれば十分で、プログラミングに関する予備知識は必要としない。

テキスト:

「JAVAではじめるアルゴリズム入門」山地秀美, 技術評論社

参考書:

講義の中で紹介する。

授業の計画:

1. ガイダンス
2. プログラムのコンピュータの関係
3. コンパイルと実行
4. 変数と代入, そして四則演算と型変換
5. 1次元配列と多次元配列

6. クラスとメソッド

7. 制御分と演算子 (1)

8. 制御分と演算子 (2)

9. クラスとコンストラクタ

10. Java クラスライブラリ

11. 入出力

12. 行列を計算するプログラム (1)

13. 行列を計算するプログラム (2)

履修者へのコメント:

C言語等他のプログラミング言語の既習者は申し出られたい。できるだけ、個別に対応したいと考えています。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

yasushi@hc.cc.keio.ac.jp で受け付けます。

アート・センター設置講座

経済のソフト化が言われて久しい。文化消費の高度化と量的拡充が続くなかで、知的財産への関心とコンテンツ産業振興が唱導されているようになったいま、あらためて感性の行方と文化消費との関連をとらえ、創造性と産業とのかかわりを包括的に研究教育する必要が生まれている。芸術文化の消費行動とコンテンツ提供者、媒介者のかかわり、新しいコンテンツ創造のための環境整備、それらのシステムの更新などは、産業振興に欠かせない。

アート・センターは、開設以来アート・マネジメントの研究と教育を推進してきた。その成果をふまえながら、産業とアート・創造性との連関、産業におけるアート・創造性の問題に対する関心を喚起するため、旧来の芸術諸ジャンルにとどまらず、建築、デザイン、ファッションも視野にいれた「クリエイティブ産業」とその構造、現状と将来について、現場の担当者を招聘するとともに、産業政策をふくめ総合的に検討することが本講座の目的である。それとともに、効率や生産性を第一義とした従来の考え方に対して、創造性や芸術資源デザインの重要性を提起することを目指している。

2008年度は、2007年度に引き続き、社団法人日本レコード協会寄附講座「クリエイティブ産業研究 音楽コンテンツを中心に」を開講する。

講座 URL <http://www.art-c.keio.ac.jp/education/creative/>

1. 履修上の取り扱い

慶應義塾大学の各学部の学生が対象。履修の取り扱いについて各学部の履修案内で確認の上、履修申告する必要がある。履修希望者が多い場合は制限をすることがある。

2. ガイダンス

春学期第1回の授業でガイダンスを行うので、履修希望者は必ず出席し、履修希望票に必要事項を記入すること。秋学期にはガイダンスを行わない。春学期・秋学期の内容は連続するので、両方履修（いわゆるセット履修）するのが望ましい。

クリエイティブ産業研究 音楽コンテンツを中心に
(社団法人日本レコード協会寄附講座)(春学期)2単位
コーディネーター 文学部教授 美山 良夫

授業科目の内容：

クリエイティブ産業が重視されるようになった背景と環境、およびコンテンツ・ビジネスの現状とそれをとりまく制度、著作権の動向、日本とアジアの関係、クリエイティブ産業政策について、各界からゲスト講師を招聘して講義をおこなう。

主なタイトル

- クリエイティブ産業とその範囲
- コンテンツ・ビジネスとその歴史
- 日本の音楽産業
- イギリスにおけるクリエイティブ産業戦略
- 日本の知的財産政策と関連産業
- 著作権とクリエイティブ産業 1
- 著作権とクリエイティブ産業 2
- 東アジアにおけるコンテンツ・ビジネスをめぐって
- クリエイティブ産業と公共性
- アーティストの立場から

授業の計画：

上記は計画中的のものであり、詳細内容と日程はガイダンスの際に配付する。

成績評価方法：

試験と平常点により評価する。

質問・相談：

授業終了後に受け付ける。

クリエイティブ産業研究 音楽コンテンツを中心に
(社団法人日本レコード協会寄附講座)(秋学期)2単位
コーディネーター 文学部教授 美山 良夫

授業科目の内容：

春学期の講義をふまえ、音楽ビジネスに焦点をあてた実践論、ならびにクリエイティブ産業の今後の課題について、各界からゲスト講師を招聘して講義をおこなう。

主なタイトル

- 出版とプロダクション
- アーティストの発掘、契約と宣伝
- 日本の音楽の流通と配信
- 今後の課題
- クリエイティブ産業と今後の課題 ~
- 紛争回避
- 商用アーカイブの運営ほか

授業の計画：

上記は計画中的のものであり、詳細内容と日程は春学期ガイダンスの際に配付する。

成績評価方法：

試験と平常点により評価する。

質問・相談：

授業終了後に受け付ける。

知的資産センター設置講座（平成20年度開講）

1．知的資産センター設置講座について

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として1998年11月に設立されました。技術に関するものだけでなく、デジタルメディアを始めとして広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果の特許保護、技術の移転、共同研究や受託研究の支援、ベンチャー起業の支援というように、研究成果の社会への還元をいろんな形で支援してまいります。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化し、多くの新製品やサービスの提供につながっています。さらに、バイオ分野を中心に多くのベンチャー企業がスタートアップしました。

これらの業務に加え、知的資産センターは技術移転の側面を中心に、知的財産に関する教育・研究も任務としています。今や知的創造の時代ですが、時代とともに知的財産の範囲や期待される役割なども変化します。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められます。そこで、知的財産に関する教育の一環として、全学部の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を設けています。

2．設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の1科目を、春学期 三田キャンパスで開講します。

授業時間は水曜日 18:10～19:40、単位は2単位です。その他授業に関する情報は、三田掲示板、<http://www.ipc.keio.ac.jp>でお知らせします。

受講を希望する方は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、履修申告をしてください。

3．講義要綱

知的資産概論 保護と活用をめぐる課題（ナテグリニド特別講座）（春学期）

コーディネーター 知的資産センター所長（教授〔大学所属〕） 羽鳥賢一

授業科目の内容：

種々の知的資産や制度について、その仕組みを概括した上で、その保護のあり方や活用の方策に関し、今日の課題やその課題への対応策を考えます。また、その中で、現在および将来の知的財産のあり方に関する幅広い知識を修得することを目標とします。

知的財産には、技術（特許やノウハウ）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、プログラムやデータベース（著作権）、音楽・映画等のコンテンツ（著作権）といったものがありますが、その権利の内容や活用法は、それぞれ固有の特色があります。また、同じ知的財産が世界共通的に保護・活用される場合でも、国によってその取扱いが異なることもあります。本講義では、こうした種々の知的財産の保護と活用をめぐる現状と課題について、テーマに応じ、その分野の第一線でご活躍の有識者を招いて、講演および質疑応答の中で理解を深めてまいります。

教科書：

講義資料を配布します。

参考書：

「知的創造時代の知的財産」清水啓助他著，慶應義塾大学出版会

「よくわかる特許」羽鳥賢一他著，オーム社

「著作権の考え方」岡本著，岩波新書

授業の計画：

(内容と順序は変更になる場合があります。テーマにより第一線の外部講師を招きます。)

1. 知的財産の新たな時代
2. 特許の仕組みと課題
3. 著作権の仕組みと課題
4. 商標・ブランドの価値と課題
5. コンテンツビジネスの仕組みと課題
6. 音楽に関する著作権と課題
7. 企業の知的財産戦略
8. 知的財産の権利行使と紛争処理
9. ベンチャー起業の仕組みと課題
10. 米国でのバイオベンチャー起業と知財戦略
11. 知的財産の国際動向
12. アジアでの知的財産保護と課題
13. 産学連携の現状と課題

担当教員から履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱いについては、学部により異なりますので注意してください。

成績評価方法：

平常点及びレポートによる評価

質問・相談：

各授業の最後に質問の時間を設けます。

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター（以下、「センター」と略す）では、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、イタリア語、中国語、インドネシア語、アラビア語の9言語について「センター特設科目」を設置しています。これらの科目群は各学部の外国語教育を補完することをコンセプトとしながら、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能がバランスよく身につくよう、工夫を凝らした授業を展開しています。また、特定のスキル強化（リスニング、ライティングなど）のための科目、超上級科目や基礎固めのための科目も用意しています。

これらの「特設科目」のほか、センターが提供する科目に「オープン科目」があります。これは、各学部設置の語学科目のうち、他学部生に開放されているものを、センターに併設することにより、学生が履修しやすくしたものです。（「特設科目」「オープン科目」とも、卒業単位認定の仕方は学部により異なるため、それぞれ自分が所属する学部の履修案内を参照してください。）

センターでは、各種講演会やワークショップ、春休み期間中の海外語学研修、高校生から大学院生までを対象とする「アカデミック・ライティング・コンテスト」等、外国語学習に関連するさまざまなプログラムを実施しています。それぞれの詳細は、センターのウェブサイトや構内掲示板で随時案内していますので、チェックしてください。

以下に本年度開講の「センター特設科目」の一覧を掲載します。各特設科目の詳しい授業内容、ガイダンスや履修手続きに関する情報、ならびに「オープン科目」一覧については、別冊の『外国語教育研究センター履修案内・講義要綱』（センター事務室およびガイダンスでも配布します）、またはセンターウェブサイトを参照してください。

外国語教育研究センター <<http://flang.keio.ac.jp/>>

ガイダンス日程：4月3日（木）12:30～14:00 531番教室

外国語教育研究センター特設科目一覧（三田）

* 履修希望者が定員を超えた場合は抽選あるいは選考となります。

* 科目名に(a)(b)と表記されている科目は春(a)・秋(b)をセットで履修することが義務付けられている科目です。

* 科目名に()と表記されている科目は春()と秋()どちらかひとつの履修あるいは両方の履修が可能です。

* 2008年2月から3月に実施された海外研修科目については、日吉のシラバスを参照してください。

語 種	科 目 名	担当講師名	設置学期	曜日・時限	定員	形態	単位数
英 語	英語最上級 アドバンスト英語(a) (When Cultures Meet: Culture, Adaptation, and Identity Formation)	横川 真理子	春	金・4	25	半期	1
	英語最上級 アドバンスト英語(b) (When Cultures Meet: Culture, Adaptation, and Identity Formation)		秋			半期	1
	英語翻訳 (Lost in Translation)	武藤 浩史	春	月・2	15	半期	1
	英語翻訳 (Lost in Translation)	アーマー, アンドルー	秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEFL() (TOEFL Strategies (Listening & Speaking))	バロウス, リチャード	春	木・5	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEFL() (TOEFL Strategies (Reading & Writing))		秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC()(上級) (Advanced TOEIC Strategies (Listening))	バロウス, リチャード	春	木・4	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC()(上級) (Advanced TOEIC Strategies (Reading))		秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC() (TOEICテストの対策と実践演習)	和田 朋子	春	木・2	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC() (TOEICテストの対策と実践演習)		秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC() (Building Listening Skills)	横川 真理子	春	金・3	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC() (Building Reading, Listening and Test-taking Skills)		秋			半期	1

語種	科目名	担当講師名	設置学期	曜日・時限	定員	形態	単位数
英語	英語経済・金融() (208パターンでおぼえる経済英語の基本用例)	日向 清人	春	月・3	30	半期	1
	英語経済・金融() (208パターンでおぼえる金融と会計の英語)		秋			半期	1
	英語法律・法務() (208パターンでおぼえる会社と法務関係の英語)	日向 清人	春	月・4	30	半期	1
	英語法律・法務() (208パターンでおぼえる英文契約書の英語)		秋			半期	1
	英語アカデミック・ライティング() (Writing an Academic Paper in English)	和田 朋子	春	木・1	25	半期	1
	英語アカデミック・ライティング() (Writing an Academic Paper in English)		秋			半期	1
	英語オーラル・プレゼンテーション()(初級)	ファロン, ルース	春	月・2	20	半期	1
	英語オーラル・プレゼンテーション()(初級)		秋			半期	1
ドイツ語	ドイツ語表現技法 4(a)	三瓶 慎一	春	月・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法 4(b)		秋			半期	1
	ドイツ語表現技法 5(a)	ドゥッベル=タカヤマ, メヒティルド	春	火・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法 5(b)		秋			半期	1
フランス語	フランス語表現技法 3()	ルカルヴェ, クリステル	春	月・3	20	半期	1
	フランス語表現技法 3()		秋			半期	1
	フランス語表現技法 4()	ルカルヴェ, クリステル	春	月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法 4()		秋			半期	1
	フランス語表現技法 5()	ペリセロ, クリスティアン=アンドレ	春	木・2	20	半期	1
	フランス語表現技法 5()		秋			半期	1
ロシア語	ロシア語表現技法 1()	熊野谷 葉子	春	金・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法 1()		秋			半期	1
	ロシア語表現技法 2()	桜井 厚二	春	水・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法 2()		秋			半期	1
中国語	中国語聴解 2()(最上級)	山下 輝彦	春	水・2	25	半期	1
	中国語聴解 2()(最上級)		秋			半期	1
	中国語表現技法 2()(最上級)	蔣 文明	春	月・5	25	半期	1
	中国語表現技法 2()(最上級)		秋			半期	1
スペイン語	スペイン語表現技法 3()(上級)	安藤 万奈	春	金・4	25	半期	1
	スペイン語表現技法 3()(上級)		秋			半期	1
インドネシア語	インドネシア語ベーシック速習 1(a)	野村 亨ノ	春	月・3/	30	半期	2
	インドネシア語ベーシック速習 1(b)	トトク, スハルディアント	秋	金・2		半期	2
	インドネシア語ベーシック速習 2(a)	野村 亨	春	月・2/	30	半期	2
	インドネシア語ベーシック速習 2(b)	トトク, スハルディアント	秋	金・1		半期	2

2008 年度 外国語教育研究センター特設科目（三田）春学期時間割

時限 曜日	第 1 時限 9 : 00 ~ 10 : 30		第 2 時限 10 : 45 ~ 12 : 15		第 3 時限 13 : 00 ~ 14 : 30		第 4 時限 14 : 45 ~ 16 : 15		第 5 時限 16 : 30 ~ 18 : 00	
月			英語翻訳 () 英語オーラル・ プレゼンテーション () (初級) インドネシア語 ベーシック速習 2(a)	武藤 ファロン 野村	英語経済・金融 () フランス語 表現技法 3 () インドネシア語 ベーシック速習 1(a)	日向 ルカルヴェ 野村	英語法律・法務 () ドイツ語表現技法 4(a) フランス語 表現技法 4 ()	日向 三瓶 ルカルヴェ	中国語表現技法 2 () (最上級)	蔣
火							ドイツ語表現技法 5(a)	ドゥッセル =タカヤマ		
水			中国語聴解 2 () (最上級)	山下	ロシア語 表現技法 2 ()	桜井				
木	英語アカデミック・ ライティング ()	和田	英語テスト対策 TOEIC () フランス語 表現技法 5 ()	和田 ベリセロ			英語テスト対策 TOEIC () 上級	ハロウス	英語テスト対策 TOEFL ()	ハロウス
金	インドネシア語 ベーシック速習 2(a)	トトク	インドネシア語 ベーシック速習 1(a)	トトク	英語テスト対策 TOEIC () ロシア語 表現技法 1 ()	横川 熊野谷	英語最上級 アドバンスト英語 (a) スペイン語表現技法 3 (Ⅱ 上級)	横川 安藤		
土										

2008 年度 外国語教育研究センター特設科目（三田）秋学期時間割

時限 曜日	第 1 時限 9 : 00 ~ 10 : 30		第 2 時限 10 : 45 ~ 12 : 15		第 3 時限 13 : 00 ~ 14 : 30		第 4 時限 14 : 45 ~ 16 : 15		第 5 時限 16 : 30 ~ 18 : 00	
月			英語翻訳 () 英語オーラル・ プレゼンテーション () (初級) インドネシア語 ベーシック速習 2(b)	アーマ ファロン 野村	英語経済・金融 () フランス語 表現技法 3 () インドネシア語 ベーシック速習 1(b)	日向 ルカルヴェ 野村	英語法律・法務 () ドイツ語表現技法 4(b) フランス語 表現技法 4 ()	日向 三瓶 ルカルヴェ	中国語表現技法 2 (Ⅱ 最上級)	蔣
火							ドイツ語表現技法 5(b)	ドゥッセル =タカヤマ		
水			中国語聴解 2 () (最上級)	山下	ロシア語 表現技法 2 ()	桜井				
木	英語アカデミック・ ライティング ()	和田	英語テスト対策 TOEIC () フランス語 表現技法 5 ()	和田 ベリセロ			英語テスト対策 TOEIC () 上級	ハロウス	英語テスト対策 TOEFL ()	ハロウス
金	インドネシア語 ベーシック速習 2(b)	トトク	インドネシア語 ベーシック速習 1(b)	トトク	英語テスト対策 TOEIC () ロシア語 表現技法 1 ()	横川 熊野谷	英語最上級 アドバンスト英語 (b) スペイン語表現技法 3 (Ⅱ 上級)	横川 安藤		
土										